

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

ユーザース・マニュアル

PM+ Ver.6.30

プロジェクト・マネージャ

対象デバイス

78K0Rマイクロコントローラ

V850マイクロコントローラ

(メモ)

目次要約

第1章 概 説 ...	22
第2章 インストレーション ...	27
第3章 起動と終了 ...	28
第4章 クイック・ツアー ...	30
第5章 操作方法 ...	36
第6章 ウィンドウ・リファレンス ...	79
第7章 メッセージ ...	352
付録A サンプル・リンク・ディレクティブ・ファイル ...	383
付録B キーボード・マクロ用コマンド一覧 ...	386
付録C ショートカット・キー一覧 ...	397
付録D 数量的限界値一覧 ...	399
総合索引 ...	400

Appliletは、NECエレクトロニクス株式会社の登録商標です。

Windows, WindowsXPおよびMicrosoftは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Pentiumは、米国Intel Corp. の商標です。

- 本資料に記載されている内容は2006年10月現在のもので、今後、予告なく変更することがあります。量産設計の際には最新の個別データ・シート等をご参照ください。
- 文書による当社の事前の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。当社は、本資料の誤りに関し、一切その責を負いません。
- 当社は、本資料に記載された当社製品の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、一切その責を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
- 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責を負いません。
- 当社は、当社製品の品質、信頼性の向上に努めておりますが、当社製品の不具合が完全に発生しないことを保証するものではありません。当社製品の不具合により生じた生命、身体および財産に対する損害の危険を最小限度にするために、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等安全設計を行ってください。
- 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「特別水準」およびお客様に品質保証プログラムを指定していただく「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。

標準水準：コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット

特別水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器

特定水準：航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器、生命維持のための装置またはシステム等

当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。意図されていない用途で当社製品の使用をお客様が希望する場合には、事前に当社販売窓口までお問い合わせください。

(注)

- (1) 本事項において使用されている「当社」とは、NECエレクトロニクス株式会社およびNECエレクトロニクス株式会社がその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいう。
- (2) 本事項において使用されている「当社製品」とは、(1)において定義された当社の開発、製造製品をいう。

[メモ]

はじめに

対象者 PM+は、Windows®上で動作するプログラムを効率よく動かすための制御ソフトウェアです。このマニュアルは、Windows上でPM+を使用して応用システムを開発するユーザを対象とします。

目的 このマニュアルでは、PM+をWindows上で操作する際の方法について説明しています。また、Windowsの操作方法については、Windowsに添付されている機能ガイドなどを参照してください。

構成 このマニュアルは、次の内容で構成されています。

- ・概説
- ・インストレーション
- ・起動と終了
- ・クイック・ツアー
- ・操作方法
- ・ウインドウ・リファレンス
- ・メッセージ

読み方 このマニュアルの読者には、マイクロコンピュータに関する一般知識とWindows98, WindowsMe, Windows2000, またはWindowsXPの操作方法に関する基礎知識を必要とします。

関連資料 このマニュアルを使用する場合は、次の資料もあわせてご覧ください。

関連資料は暫定版の場合がありますが、この資料では「暫定」の表示をしておりません。あらかじめご了承ください。

78K0Rマイクロコントローラ開発ツールに関する資料（ユーザズ・マニュアル）

資料名		資料番号	
		和文	英文
CC78K0R Ver.1.00 Cコンパイラ	操作編	U17838J	U17838E
	言語編	U17837J	U17837E
RA78K0R Ver.1.00 アセンブラ・パッケージ	操作編	U17836J	U17836E
	言語編	U17835J	U17835E
SM+ システム・シミュレータ	操作編	U18010J	U18010E
PM+ Ver.6.30 プロジェクト・マネージャ		このマニュアル	U18416E (作成予定)
ID78K0R-QB Ver.3.20 統合デバッグ	操作編	U17839J	U17839E

V850マイクロコントローラ開発ツールに関する資料 (ユーザーズ・マニュアル)

資料名		資料番号	
		和文	英文
CA850 Ver.3.00 Cコンパイラ・パッケージ	操作編	U17293J	U17293E
	C言語編	U17291J	U17291E
	アセンブリ言語編	U17292J	U17292E
	リンク・ディレクティブ編	U17294J	U17294E
ID850 Ver.3.00 統合デバッグ	操作編	U17358J	U17358E
ID850NW Ver.3.00, 3.10 統合デバッグ	操作編	U17369J	U17369E
ID850NWC Ver.2.51 統合デバッグ	操作編	U16525J	U16525E
ID850QB Ver.3.20 統合デバッグ	操作編	U17964J	U17964E
SM+ システム・シミュレータ	操作編	U17246J	U17246E
	ユーザ・オープン・インタフェース編	U17663J	U17663E
SM850 Ver.2.50 システム・シミュレータ	操作編	U16218J	U16218E
SM850 Ver.2.00以上 システム・シミュレータ	外部部品ユーザ・オープン・インタフェース仕様編	U14873J	U14873E
RX850 Ver.3.20 リアルタイムOS	基礎編	U13430J	U13430E
	インストレーション編	U17419J	U17419E
	テクニカル編	U13431J	U13431E
	タスク・デバッグ編	U17420J	U17420E
RX850 Pro Ver.3.20 リアルタイムOS	基礎編	U13773J	U13773E
	インストレーション編	U17421J	U17421E
	テクニカル編	U13772J	U13772E
	タスク・デバッグ編	U17422J	U17422E
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (TCP/IP)		U15083J	-
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (PPP)		U15303J	-
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (DNS)		U15304J	-
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (DHCP)		U15382J	-
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (SMTP)		U15505J	-
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (POP)		U15539J	-
RX-NET Ver.1.00 ネットワーク・ライブラリ (telnet)		U16085J	-
RD850 Ver.3.01 タスク・デバッグ		U13737J	U13737E
AZ850 Ver.3.30 システム・パフォーマンス・アナライザ		U17423J	U17423E
PG-FP4 フラッシュ・メモリ・プログラマ		U15260J	U15260E
TW850 Ver.2.00 性能解析チューニング・ツール		U17241J	U17241E
PM+ Ver.6.30 プロジェクト・マネージャ		このマニュアル	U18416E (作成予定)

目次

第 1 章 概説 … 22

- 1.1 概要 … 22
- 1.2 用語 … 22
- 1.3 機能と特徴 … 23
- 1.4 PM+ の位置付け … 24
- 1.5 動作環境 … 25
- 1.6 PM+ が作成／管理するファイル … 26

第 2 章 インストール … 27

- 2.1 インストール … 27
- 2.2 アンインストール … 27

第 3 章 起動と終了 … 28

- 3.1 起動方法 … 28
- 3.2 終了方法 … 29

第 4 章 クイック・ツアー … 30

- 4.1 概要 … 30
- 4.2 ワークスペースを作成する … 31
- 4.3 コンパイラ関連のオプションを設定する … 32
- 4.4 アクティブ・プロジェクトを選択する … 33
- 4.5 デバッガを選択する … 34
- 4.6 ビルドを実行する … 35
- 4.7 その他の設定を行う … 35

第 5 章 操作方法 … 36

- 5.1 ファイルに関する操作方法 … 36
 - 5.1.1 新規にファイルを作成する … 36
 - 5.1.2 既存のファイルを開く … 36
 - 5.1.3 ファイルを挿入する … 36
 - 5.1.4 ウィンドウを閉じる … 37
 - 5.1.5 以前のバージョンで作成したプロジェクト・ファイルを開く … 37
 - 5.1.6 ワークスペースの新規作成 … 37
 - 5.1.7 ワークスペースを開く … 38
 - 5.1.8 ワークスペースを保存する … 38
 - 5.1.9 ワークスペースを閉じる … 38
 - 5.1.10 上書き保存する … 38
 - 5.1.11 名前を付けて保存する … 39

- 5. 1. 12 すべて保存する … 39
- 5. 1. 13 すべて保存する（更新ファイルのみ） … 39
- 5. 1. 14 すべて保存して閉じる … 39
- 5. 1. 15 すべて閉じる … 39
- 5. 1. 16 すべて破棄して閉じる … 40
- 5. 1. 17 ソース・ファイル名を変更する … 40
- 5. 1. 18 すべてのソース・ファイルを保存する … 40
- 5. 1. 19 印刷プレビューを見る … 40
- 5. 1. 20 印刷する … 40
- 5. 1. 21 ダイレクトに印刷する … 40
- 5. 1. 22 ファイルの履歴 … 40
- 5. 1. 23 ワークスペースの履歴 … 41
- 5. 1. 24 PM+ の終了 … 41
- 5. 2 編集に関する操作方法 … 42
 - 5. 2. 1 操作を元に戻す … 43
 - 5. 2. 2 操作をやり直す … 43
 - 5. 2. 3 切り取り … 44
 - 5. 2. 4 コピー … 44
 - 5. 2. 5 追加切り取り … 44
 - 5. 2. 6 追加コピー … 44
 - 5. 2. 7 イメージ・コピー … 44
 - 5. 2. 8 貼り付け … 45
 - 5. 2. 9 形式を選択して貼り付け … 45
 - 5. 2. 10 削除する … 45
 - 5. 2. 11 単語を削除する … 45
 - 5. 2. 12 単語のキャレットから右側を削除する … 45
 - 5. 2. 13 行を削除する … 46
 - 5. 2. 14 行頭まで削除する … 46
 - 5. 2. 15 行末まで削除する … 46
 - 5. 2. 16 キャレット位置の単語範囲を指定する … 46
 - 5. 2. 17 キャレットから左側単語範囲を指定する … 46
 - 5. 2. 18 キャレットから右側単語範囲を指定する … 46
 - 5. 2. 19 行頭まで範囲を指定する … 46
 - 5. 2. 20 行末まで範囲を指定する … 47
 - 5. 2. 21 すべて選択する … 47
 - 5. 2. 22 キーワードによるグループ化 … 47
 - 5. 2. 23 グループ化行の色を戻す … 47
 - 5. 2. 24 プロトタイプ宣言を作成する … 47
 - 5. 2. 25 新規オブジェクトを作成する … 47
 - 5. 2. 26 リンクを設定する … 47
 - 5. 2. 27 オブジェクト … 47
- 5. 3 検索に関する操作方法 … 48
 - 5. 3. 1 文字列を検索する … 48

- 5.3.2 上向きに検索する … 48
- 5.3.3 下向きに検索する … 49
- 5.3.4 単語を上方向に検索する … 49
- 5.3.5 単語を下方向に検索する … 49
- 5.3.6 文字列を置換する … 49
- 5.3.7 指定行へ移動する … 49
- 5.3.8 指定ソース・ファイルへジャンプする … 50
- 5.3.9 マーク・ジャンプする … 50
- 5.3.10 行の先頭へ移動する … 50
- 5.3.11 行の最後へ移動する … 50
- 5.3.12 ファイルの先頭行へ移動する … 50
- 5.3.13 ファイルの最終行へ移動する … 50
- 5.3.14 見出し行へ移動する … 50
- 5.3.15 キャレット位置の第1階層へ移動する … 51
- 5.3.16 上同階層へ移動する … 51
- 5.3.17 下同階層へ移動する … 51
- 5.3.18 ジャンプ前のキャレット位置へ移動する … 51
- 5.3.19 関数定義行へ移動する … 52
- 5.3.20 対応括弧を検索する … 52
- 5.3.21 グローバル検索 … 52
- 5.3.22 グローバル置換 … 52
- 5.3.23 プロジェクト内を検索する … 52
- 5.3.24 タグ・ジャンプ … 53
- 5.3.25 バックタグ・ジャンプ … 53
- 5.3.26 NEXT タグ・ジャンプ … 54
- 5.3.27 上方向 NEXT タグ・ジャンプ … 54
- 5.3.28 1単語右へ移動する … 54
- 5.3.29 1単語左へ移動する … 54
- 5.3.30 1行上へ移動する … 55
- 5.3.31 1行下へ移動する … 55
- 5.3.32 1文字右へ移動する … 55
- 5.3.33 1文字左へ移動する … 55
- 5.3.34 検索文字列指定コンボ・ボックスをアクティブにする … 55
- 5.4 階層に関する操作方法 … 56
 - 5.4.1 階層をひとつ上げる … 56
 - 5.4.2 階層をひとつ下げる … 57
 - 5.4.3 下位をひとつ（開く／たたむ） … 57
 - 5.4.4 下位をひとつ開く … 57
 - 5.4.5 下位をひとつたたむ … 58
 - 5.4.6 下位をすべて開く … 58
 - 5.4.7 すべて開く … 58
 - 5.4.8 すべてたたむ … 58
 - 5.4.9 指定階層まで開く … 59

- 5.4.10 指定階層までたたむ … 59
- 5.4.11 第1階層のみ表示する … 59
- 5.4.12 第2階層まで表示する … 59
- 5.4.13 第3階層まで表示する … 59
- 5.4.14 第4階層まで表示する … 59
- 5.4.15 第5階層まで表示する … 59
- 5.4.16 キャレット位置の階層をたたむ … 60
- 5.4.17 文書を階層化する … 60
- 5.5 表示に関する操作方法 … 61
 - 5.5.1 関数一覧を表示する … 61
 - 5.5.2 階層一覧を表示する … 61
 - 5.5.3 スタンダードバーを表示／非表示する … 61
 - 5.5.4 ビルドバーを表示／非表示する … 61
 - 5.5.5 オプションバーを表示／非表示する … 61
 - 5.5.6 外部ツールバーを表示／非表示する … 61
 - 5.5.7 ステータスバーを表示／非表示する … 61
 - 5.5.8 プロジェクト・ウインドウを表示／非表示する … 62
 - 5.5.9 アウトプット・ウインドウを表示／非表示する … 62
 - 5.5.10 オブジェクト表示する／オブジェクトをアイコン化する … 62
 - 5.5.11 すべてのオブジェクトを表示する … 62
 - 5.5.12 すべてのオブジェクトをアイコン化する … 62
- 5.6 プロジェクトに関する操作方法 … 63
 - 5.6.1 プロジェクト・ファイルを作成する … 63
 - 5.6.2 アクティブ・プロジェクトを選択する … 64
 - 5.6.3 ワークスペースに新規プロジェクトを追加する … 64
 - 5.6.4 プロジェクトの挿入 … 64
 - 5.6.5 CVS アップ・デート … 64
 - 5.6.6 CVS コミット … 64
 - 5.6.7 CVS ログ … 65
 - 5.6.8 CVS ステータス … 65
 - 5.6.9 CVS 比較 … 65
 - 5.6.10 メイクファイルのエクスポート … 65
 - 5.6.11 プロジェクト情報の設定 … 65
 - 5.6.12 ソース・ファイルの追加 … 66
 - 5.6.13 プロジェクト関連ファイルの追加 … 66
 - 5.6.14 その他のファイルの追加 … 66
 - 5.6.15 アクティブ・プロジェクト選択コンボ・ボックスをアクティブにする … 66
 - 5.6.16 プロジェクト・グループ名の変更 … 66
 - 5.6.17 プロジェクト・タイトル名の変更 … 66
 - 5.6.18 使用ツールの変更 … 66
 - 5.6.19 プロジェクトの移動 … 66
- 5.7 ビルドに関する操作方法 … 67
 - 5.7.1 ビルド→デバッグ … 67

- 5.7.2 リビルド→デバッグ … 67
- 5.7.3 コンパイルする … 68
- 5.7.4 ビルドする … 68
- 5.7.5 ビルドを中止する … 68
- 5.7.6 リビルドする … 68
- 5.7.7 バッチ・ビルドする … 69
- 5.7.8 バッチ・リビルドする … 69
- 5.7.9 ファイルの依存関係の更新 … 69
- 5.7.10 クリーン … 69
- 5.7.11 エディットする … 69
- 5.7.12 デバッグする … 69
- 5.7.13 複数ロードモジュール・ファイルのダウンロード … 69
- 5.7.14 ビルド・モードを設定する … 70
- 5.7.15 ビルド・オプションを設定する … 70
- 5.7.16 バッチ・ビルドを設定する … 70
- 5.7.17 ビルド・モード選択コンボ・ボックスをアクティブにする … 70
- 5.8 ツールに関する操作方法 … 71
 - 5.8.1 各ツールのオプションを設定する … 71
 - 5.8.2 使用するリアルタイム OS を選択する … 71
 - 5.8.3 ロードモジュールやオブジェクトをダンプをする … 71
 - 5.8.4 使用するデバッガの選択, 設定を行う … 72
 - 5.8.5 外部ツールを登録する … 72
 - 5.8.6 外部ツールを起動する … 72
 - 5.8.7 ファイルを比較する … 72
 - 5.8.8 デバイス・ファイルをインストールする … 72
 - 5.8.9 環境を設定する … 72
 - 5.8.10 フォントを指定する … 73
 - 5.8.11 設定をカスタマイズする … 73
 - 5.8.12 キー操作を記録する … 73
 - 5.8.13 キー操作を再生する … 73
 - 5.8.14 キー操作を保存する … 73
 - 5.8.15 キー操作に対応するコマンド … 74
 - 5.8.16 キー操作を読み込む … 74
 - 5.8.17 マクロを実行する … 74
 - 5.8.18 マクロを登録する … 74
 - 5.8.19 登録マクロを実行する … 74
- 5.9 ウィンドウに関する操作方法 … 75
 - 5.9.1 重ねて表示する … 75
 - 5.9.2 上下に並べて表示する … 75
 - 5.9.3 左右に並べて表示する … 75
 - 5.9.4 分割する … 75
 - 5.9.5 次の分割ウィンドウに移動する … 75
 - 5.9.6 次のウィンドウに移動する … 76

- 5.9.7 前のウインドウに移動する … 76
- 5.9.8 ウインドウ一覧を表示する … 76
- 5.10 ヘルプに関する操作方法 … 77
 - 5.10.1 PM+ のヘルプを起動する … 77
 - 5.10.2 メイン・ウインドウのヘルプを起動する … 77
 - 5.10.3 カレント・ウインドウのヘルプを起動する … 77
 - 5.10.4 ショートカット一覧を表示する … 77
 - 5.10.5 NEC エレクトロニクス マイコン Web … 77
 - 5.10.6 V850 ツール FAQ … 77
 - 5.10.7 78K ツール FAQ … 78
 - 5.10.8 外部ヘルプ 1 … 78
 - 5.10.9 外部ヘルプ 2 … 78
 - 5.10.10 外部ヘルプ 3 … 78
 - 5.10.11 PM+ のバージョン情報 … 78

第 6 章 ウインドウ・リファレンス … 79

- 6.1 ウインドウ構成 … 79
- 6.2 入力規則 … 83
- 6.3 ウインドウ／ウィザード／ダイアログの説明 … 83
 - メイン・ウインドウ … 84
 - プロジェクト・ウインドウ … 98
 - 編集ウインドウ … 109
 - 検索結果ウインドウ … 115
 - アウトプット・ウインドウ … 117
 - [ワークスペースの新規作成]ウィザード … 119
 - [新規プロジェクトを追加]ウィザード … 138
 - [プロジェクトの設定]ウィザード … 157
 - [ファイルを開く]ダイアログ … 163
 - [挿入読み込み]ダイアログ … 166
 - [ワークスペースを開く]ダイアログ … 169
 - [名前を付けて保存]ダイアログ … 171
 - [ソース・ファイル保存オプション]ダイアログ … 174
 - [ソース・ファイル名の変更]ダイアログ … 176
 - [指定ソース・ファイル名の変更]ダイアログ … 178
 - [複数ソース・ファイル名の変更]ダイアログ … 180
 - [コメント記号のユーザ設定]ダイアログ … 182
 - [印刷]ダイアログ … 183
 - [フォント]ダイアログ (印刷) … 186
 - [ヘッダ・フッタの設定]ダイアログ … 188
 - [キーワードによるグループ化]ダイアログ … 191
 - [プロトタイプ宣言生成方法の指定]ダイアログ … 194
 - [文字列の検索]ダイアログ … 197

[文字列の置換] ダイアログ	…	201
[指定行へジャンプ] ダイアログ	…	205
[指定ソース・ファイルへジャンプ] ダイアログ	…	207
[マーク・ジャンプ] ダイアログ	…	209
[グローバル検索] ダイアログ	…	211
[グローバル置換] ダイアログ	…	216
[指定階層まで開く] ダイアログ	…	222
[指定階層までたたむ] ダイアログ	…	224
[階層化ルールの設定] ダイアログ	…	225
[関数一覧] ダイアログ	…	228
[関数一覧の保存] ダイアログ	…	231
[階層一覧] ダイアログ	…	233
[アクティブ・プロジェクトの選択] ダイアログ	…	234
[プロジェクトの挿入] ダイアログ	…	235
[CVS アップデート] ダイアログ	…	237
[CVS コミット] ダイアログ	…	239
[CVS ログ] ダイアログ	…	241
[CVS ステータス] ダイアログ	…	243
[プロジェクトの設定] ダイアログ	…	245
[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログ	…	250
[プロジェクト関連ファイルの追加] ダイアログ	…	252
[その他のファイルの追加] ダイアログ	…	254
[プロジェクト・グループ名の変更] ダイアログ	…	256
[プロジェクト・タイトルの変更] ダイアログ	…	257
[ツールバージョン設定] ダイアログ	…	258
[ツールバージョン詳細設定] ダイアログ	…	261
[プロパティ] ダイアログ	…	263
[新規メモを追加] ダイアログ	…	264
[スタートアップファイルの指定] ダイアログ	…	265
[コピー元のスタートアップファイルの指定] ダイアログ	…	267
[登録するスタートアップファイル名の指定] ダイアログ	…	269
[リンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログ	…	271
[コピー元のリンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログ	…	273
[登録するリンク ディレクティブ ファイル名の指定] ダイアログ	…	275
[プロジェクトの選択] ダイアログ	…	277
[バッチ・ビルドの設定] ダイアログ	…	278
[ビルド・モードの設定] ダイアログ	…	280
[ビルド・モードの追加] ダイアログ	…	282
[ビルド設定] ダイアログ	…	284
[コマンドの追加] ダイアログ	…	288
[コマンドの編集] ダイアログ	…	289
[RTOS の選択] ダイアログ	…	290
[dump850] ダイアログ	…	291

[デバッグの設定] ダイアログ	…	293
[外部ツールの登録] ダイアログ	…	296
[外部ツールの指定] ダイアログ	…	298
[ファイル比較] ダイアログ	…	300
[環境設定] ダイアログ	…	302
[ユーザ設定] ダイアログ	…	320
[フォント] ダイアログ	…	322
[カスタマイズ] ダイアログ	…	324
[ユーザ定義キーワードの編集] ダイアログ	…	331
[C 言語予約語の編集] ダイアログ	…	333
[キー操作の保存] ダイアログ	…	335
[キー操作の読み込み] ダイアログ	…	337
[マクロ実行] ダイアログ	…	339
[マクロ登録] ダイアログ	…	341
[マクロ・ファイルの追加] ダイアログ	…	343
[マクロ・ファイルの変更] ダイアログ	…	345
[ウインドウ一覧] ダイアログ	…	347
[ショートカット・キー一覧] ダイアログ	…	348
[PM+ のバージョン情報] ダイアログ	…	350

第 7 章 メッセージ … 352

7.1 表示形式	…	352
7.2 Fatal Error	…	353
7.3 Operation Error	…	361
7.4 Question	…	374
7.5 Information	…	381

付録 A サンプル・リンク・ディレクティブ・ファイル … 383

付録 B キーボード・マクロ用コマンド一覧 … 386

付録 C ショートカット・キー一覧 … 397

付録 D 数量的限界値一覧 … 399

総合索引 … 400

図の目次

図番号	タイトル, ページ
1-1	PM+ のメイン・ウインドウ … 22
1-2	プログラム開発用ソフトウェアと PM+ … 24
3-1	起動時のメイン・ウインドウ (Window[スタート]メニューより起動した場合の例) … 29
4-1	コンパイラ関連オプションの設定 … 32
4-2	アクティブ・プロジェクトの選択 … 33
4-3	デバッグの選択 … 34
5-1	階層をひとつ上げる … 56
5-2	階層をひとつ下げる … 57
5-3	下位をひとつ開く … 57
5-4	下位をひとつたたむ … 58
5-5	下位をすべて開く … 58
6-1	ウインドウ構成イメージ … 82
6-2	メイン・ウインドウ … 84
6-3	ステータスバー … 96
6-4	プロジェクト・ウインドウ … 98
6-5	プロジェクト・ウインドウ [File] タブ … 99
6-6	プロジェクト・ウインドウ [Memo] タブ … 105
6-7	プロジェクトを登録しているワークスペースへのファイルのドロップ位置 … 107
6-8	編集ウインドウ … 109
6-9	検索結果ウインドウ … 115
6-10	アウトプット・ウインドウ … 117
6-11	[ワークスペースの新規作成] ウィザードのスタート画面 … 119
6-12	[ワークスペースの新規作成] ウィザードのフロー … 120
6-13	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログ … 121
6-14	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログ … 123
6-15	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 3/9 [リアルタイム OS の選択]] ダイアログ … 125
6-16	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ … 127
6-17	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 5/9 [レジスタ・モードの選択]] ダイアログ … 129
6-18	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ … 131
6-19	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログ … 133
6-20	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 8/9 [デバッグの選択]] ダイアログ … 135
6-21	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 9/9 [設定の確認]] ダイアログ … 137
6-22	[新規プロジェクトを追加] ウィザードのスタート画面 … 138
6-23	[新規プロジェクトを追加] ウィザードのフロー … 139
6-24	[新規プロジェクトを追加 - ステップ 1/9 [プロジェクト情報の設定]] ダイアログ … 140
6-25	[新規プロジェクトを追加 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログ … 142
6-26	[新規プロジェクトを追加 - ステップ 3/9 [リアルタイム OS の選択]] ダイアログ … 144
6-27	[新規プロジェクトを追加 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ … 146
6-28	[新規プロジェクトを追加 - ステップ 5/9 [レジスタ・モードの選択]] ダイアログ … 148
6-29	[新規プロジェクトを追加 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ … 150
6-30	[新規プロジェクトを追加 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログ … 152
6-31	[新規プロジェクトを追加 - ステップ 8/9 [デバッグの選択]] ダイアログ … 154
6-32	[新規プロジェクトを追加 - ステップ 9/9 [設定の確認]] ダイアログ … 156
6-33	[プロジェクトの設定] ウィザードのスタート画面 … 157

6-34	[プロジェクトの設定 - ステップ 1/3 [プロジェクト情報の設定]] ダイアログ	158
6-35	[プロジェクトの設定 - ステップ 2/3 [使用ツールの指定]] ダイアログ	160
6-36	[プロジェクトの設定 - ステップ 3/3 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログ	162
6-37	[ファイルを開く] ダイアログ	163
6-38	[挿入読み込み] ダイアログ	166
6-39	[ワークスペースを開く] ダイアログ	169
6-40	[名前を付けて保存] ダイアログ	171
6-41	[ソース・ファイル保存オプション] ダイアログ	174
6-42	[ソース・ファイル名の変更] ダイアログ	176
6-43	[指定ソース・ファイル名の変更] ダイアログ	178
6-44	[複数ソース・ファイル名の変更] ダイアログ	180
6-45	[コメント記号のユーザ設定] ダイアログ	182
6-46	[印刷] ダイアログ	183
6-47	[フォント] ダイアログ (印刷)	186
6-48	[ヘッダ・フッタの設定] ダイアログ	188
6-49	[キーワードによるグループ化] ダイアログ	191
6-50	[プロトタイプ宣言生成方法の指定] ダイアログ	194
6-51	[文字列の検索] ダイアログ	197
6-52	[文字列の検索] ダイアログ (縮小版)	198
6-53	[文字列の置換] ダイアログ	201
6-54	[文字列の置換] ダイアログ (縮小版)	203
6-55	[指定行へジャンプ] ダイアログ	205
6-56	[指定ソース・ファイルへジャンプ] ダイアログ	207
6-57	[マーク・ジャンプ] ダイアログ	209
6-58	[グローバル検索] ダイアログ	211
6-59	[グローバル検索] ダイアログ (詳細版)	211
6-60	[フォルダの選択] ダイアログ	212
6-61	[グローバル置換] ダイアログ	216
6-62	[グローバル置換ファイル履歴] ウィンドウ	219
6-63	[指定階層まで開く] ダイアログ	222
6-64	[指定階層までたたむ] ダイアログ	224
6-65	[階層化ルールの設定] ダイアログ	225
6-66	[関数一覧] ダイアログ	228
6-67	[関数一覧の保存] ダイアログ	231
6-68	[階層一覧] ダイアログ	233
6-69	[アクティブ・プロジェクトの選択] ダイアログ	234
6-70	[プロジェクトの挿入] ダイアログ	235
6-71	[CVS アップデート] ダイアログ	237
6-72	[CVS コミット] ダイアログ	239
6-73	[CVS ログ] ダイアログ	241
6-74	[CVS ステータス] ダイアログ	243
6-75	[プロジェクトの設定] ダイアログ	245
6-76	[プロジェクトの設定] ダイアログ - [プロジェクトの情報] タブ	246
6-77	[プロジェクトの設定] ダイアログ - [ソース・ファイル] タブ	247
6-78	[プロジェクトの設定] ダイアログ - [ツールバージョン設定] タブ	248
6-79	[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログ	250
6-80	[プロジェクト関連ファイルの追加] ダイアログ	252
6-81	[その他のファイルの追加] ダイアログ	254

6-82	[プロジェクト・グループ名の変更]ダイアログ	…	256
6-83	[プロジェクト・タイトルの変更]ダイアログ	…	257
6-84	[ツールバージョン設定]ダイアログ	…	258
6-85	[ツールバージョン詳細設定]ダイアログ	…	261
6-86	[プロパティ]ダイアログ	…	263
6-87	[新規メモを追加]ダイアログ	…	264
6-88	[スタートアップファイルの指定]ダイアログ	…	265
6-89	[コピー元のスタートアップファイルの指定]ダイアログ	…	267
6-90	[登録するスタートアップファイル名の指定]ダイアログ	…	269
6-91	[リンク ディレクティブファイルの指定]ダイアログ	…	271
6-92	[コピー元のリンク ディレクティブファイルの指定]ダイアログ	…	273
6-93	[登録するリンク ディレクティブファイル名の指定]ダイアログ	…	275
6-94	[プロジェクトの選択]ダイアログ	…	277
6-95	[バッチ・ビルドの設定]ダイアログ	…	278
6-96	[ビルド・モードの設定]ダイアログ	…	280
6-97	[ビルド・モードの追加]ダイアログ	…	282
6-98	[ビルド設定]ダイアログ	…	284
6-99	[ビルド設定]ダイアロガー[ビルド]タブ	…	285
6-100	[ビルド設定]ダイアロガー[ビルド前の処理]タブ	…	286
6-101	[ビルド設定]ダイアロガー[ビルド後の処理]タブ	…	287
6-102	[コマンドの追加]ダイアログ	…	288
6-103	[コマンドの編集]ダイアログ	…	289
6-104	[RTOS の選択]ダイアログ	…	290
6-105	[dump850]ダイアログ	…	291
6-106	[デバッガの設定]ダイアログ	…	293
6-107	[外部ツールの登録]ダイアログ	…	296
6-108	[外部ツールの指定]ダイアログ	…	298
6-109	[ファイル比較]ダイアログ	…	300
6-110	[ファイル比較]ダイアログ(縮小版)	…	300
6-111	[環境設定]ダイアログ	…	302
6-112	[環境設定]ダイアロガー[ワークスペース]タブ	…	303
6-113	[環境設定]ダイアロガー[外部エディタ]タブ	…	304
6-114	[環境設定]ダイアロガー[ファイル]タブ	…	305
6-115	[環境設定]ダイアロガー[履歴]タブ	…	307
6-116	[環境設定]ダイアロガー[idl 生成ソース・ファイル]タブ	…	308
6-117	[環境設定]ダイアロガー[ウインドウ]タブ	…	310
6-118	[環境設定]ダイアロガー[パス]タブ	…	311
6-119	[環境設定]ダイアロガー[編集]タブ	…	312
6-120	[環境設定]ダイアロガー[表示]タブ	…	314
6-121	[環境設定]ダイアロガー[階層]タブ	…	316
6-122	[環境設定]ダイアロガー[スクロール]タブ	…	317
6-123	[環境設定]ダイアロガー[検索/置換]タブ	…	318
6-124	[ユーザ設定]ダイアログ	…	320
6-125	[フォント]ダイアログ	…	322
6-126	[カスタマイズ]ダイアログ	…	324
6-127	[カスタマイズ]ダイアロガー[キーボード]タブ	…	325
6-128	[カスタマイズ]ダイアロガー[メニュー]タブ	…	326
6-129	[カスタマイズ]ダイアロガー[ツールバー]タブ	…	327

6-130	[カスタマイズ]ダイアログ-[ユーザ・メニュー]タブ	…	328
6-131	[カスタマイズ]ダイアログ-[キーワード]タブ	…	329
6-132	[ユーザ定義キーワードの編集]集ダイアログ	…	331
6-133	[C 言語予約語の編集]ダイアログ	…	333
6-134	[キー操作の保存]ダイアログ	…	335
6-135	[キー操作読み込み]ダイアログ	…	337
6-136	[マクロ実行]ダイアログ	…	339
6-137	[マクロ登録]ダイアログ	…	341
6-138	[マクロ・ファイルの追加]ダイアログ	…	343
6-139	[マクロ・ファイルの変更]ダイアログ	…	345
6-140	[ウインドウ一覧]ダイアログ	…	347
6-141	[ショートカット・キー一覧]ダイアログ	…	348
6-142	[PM+ のバージョン情報]ダイアログ	…	350
7-1	メッセージ・ダイアログの例	…	352

表の目次

表番号	タイトル, ページ
4-1	PM+ を使用した操作の流れ … 30
6-1	ウインドウ／ウィザード／ダイアログ一覧 … 79
6-2	スタンダードバー … 93
6-3	ビルドバー … 94
6-4	オプションバー (78K マイクロコントローラの場合) … 95
6-5	オプションバー (V850 マイクロコントローラの場合) … 95
7-1	メッセージ種別一覧 … 352
7-2	Fatal Error メッセージ一覧 … 353
7-3	Operation Error メッセージ一覧 … 361
7-4	Question メッセージ一覧 … 374
7-5	Information メッセージ一覧 … 381
B-1	キーボード・マクロ用コマンド (ファイル関連) … 386
B-2	キーボード・マクロ用コマンド (編集関連) … 387
B-3	キーボード・マクロ用コマンド (検索関連) … 388
B-4	キーボード・マクロ用コマンド (階層関連) … 390
B-5	キーボード・マクロ用コマンド (ジャンプ関連) … 390
B-6	キーボード・マクロ用コマンド (ヘルプ関連) … 391
B-7	キーボード・マクロ用コマンド (メニューにない項目関連) … 392
B-8	キーボード・マクロ用コマンド (制御コマンド関連) … 393
C-1	ショートカット・キー一覧 (デフォルト) … 397
D-1	数量的限界値一覧 … 399

第 1 章 概説

1.1 概要

プロジェクト・マネージャ（以下、PM+ と呼びます）は、NEC エレクトロニクス製マイクロコンピュータ（78K0R, 78K0, 78K0S, V850 マイクロコントローラ）の統合開発環境プラットフォームです。

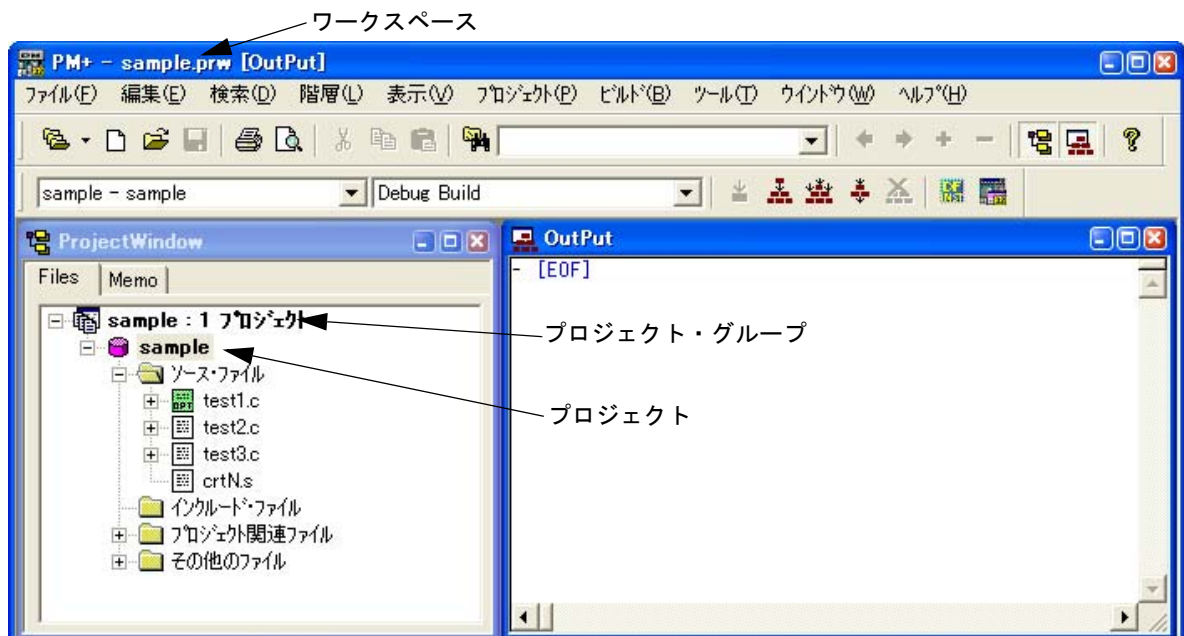
PM+ からエディタ、ビルダ、デバッガを起動するなど、ユーザ・プログラムの開発における一連の作業を行うことができます。

1.2 用語

PM+ で使用する用語について説明します。

図 1-1 に、PM+ のメイン・ウィンドウのイメージを示します。

図 1-1 PM+ のメイン・ウィンドウ



- ワークスペース

複数のプロジェクト・ファイルのファイル名を管理する単位です。

PM+ では、複数のプロジェクト・ファイルのファイル名を、ワークスペース・ファイル (*.prw) に保存し、参照しています。

- プロジェクト

PM+ が管理する単位で、PM+ のもとで開発するアプリケーション・システムと環境を指します。

PM+ では、対象アプリケーション・システムで使用するソース・ファイル、デバイス名、コンパイルのためのツール・オプション、使用するエディタやデバッガなどの情報を“プロジェクト情報”として、各プロジェクト・ファイル (*.prj) に保存し、参照しています。

ビルド/デバッグはプロジェクト単位で行われます。したがって、ビルド/デバッグの対象となるプロジェクトは、アクティブ・プロジェクト（[プロジェクト]メニュー→[アクティブ・プロジェクトの選択]）として設定しておく必要があります。

- プロジェクト・グループ

登録している複数のプロジェクトを関連するプロジェクトごとに、グループとしてまとめることができます。なお、1つのプロジェクト・グループで登録できる各プロジェクトの対象デバイスは統一されていなければなりません（1つのプロジェクト・グループで指定できるデバイス・ファイルは、1つのみです）。

- IDL ファイル

PM+ の階層情報を保存するファイルです（idea-L の情報ファイル）。

1.3 機能と特徴

PM+ の機能と特徴を次に示します。

- 複数プロジェクトの管理

ワークスペース、プロジェクト・グループなどの概念を用いており、複数のプロジェクト・ファイルをまとめて管理することができます。

- ビルダの起動

アプリケーション・システムの生成に必要な各種ツール（コンパイラ、構造化アセンブラ（78K0、78K0S マイクロコントローラのみ）、アセンブラ、リンカ、ROM 化プロセッサ、ヘキサ・コンバータ/オブジェクト・コンバータ）を起動します。

- エディタの起動

PM+ 自身が持つエディタ機能により、ソース・プログラムの編集が可能です。また、ユーザが外部エディタを登録して起動することもできます。

- デバッガの起動

NEC エレクトロニクス製のデバッガや、システム・シミュレータを起動します。また、デバッガからソース・プログラムの修正を指示した場合、指定したファイルの指定した行位置を表示します。

- 外部ツールの登録、実行

ユーザが使用する外部ツールを PM+ のメニューに組み込み、起動することができます。

- ソース管理ツールとの連携

ソース管理ツールと連携することにより、開発時のソース・プログラムの版管理を容易にします。

- ソース解析ツールとの連携

市販のソース解析ツールと連携することにより、開発時のソース・プログラムの品質管理を容易にします。

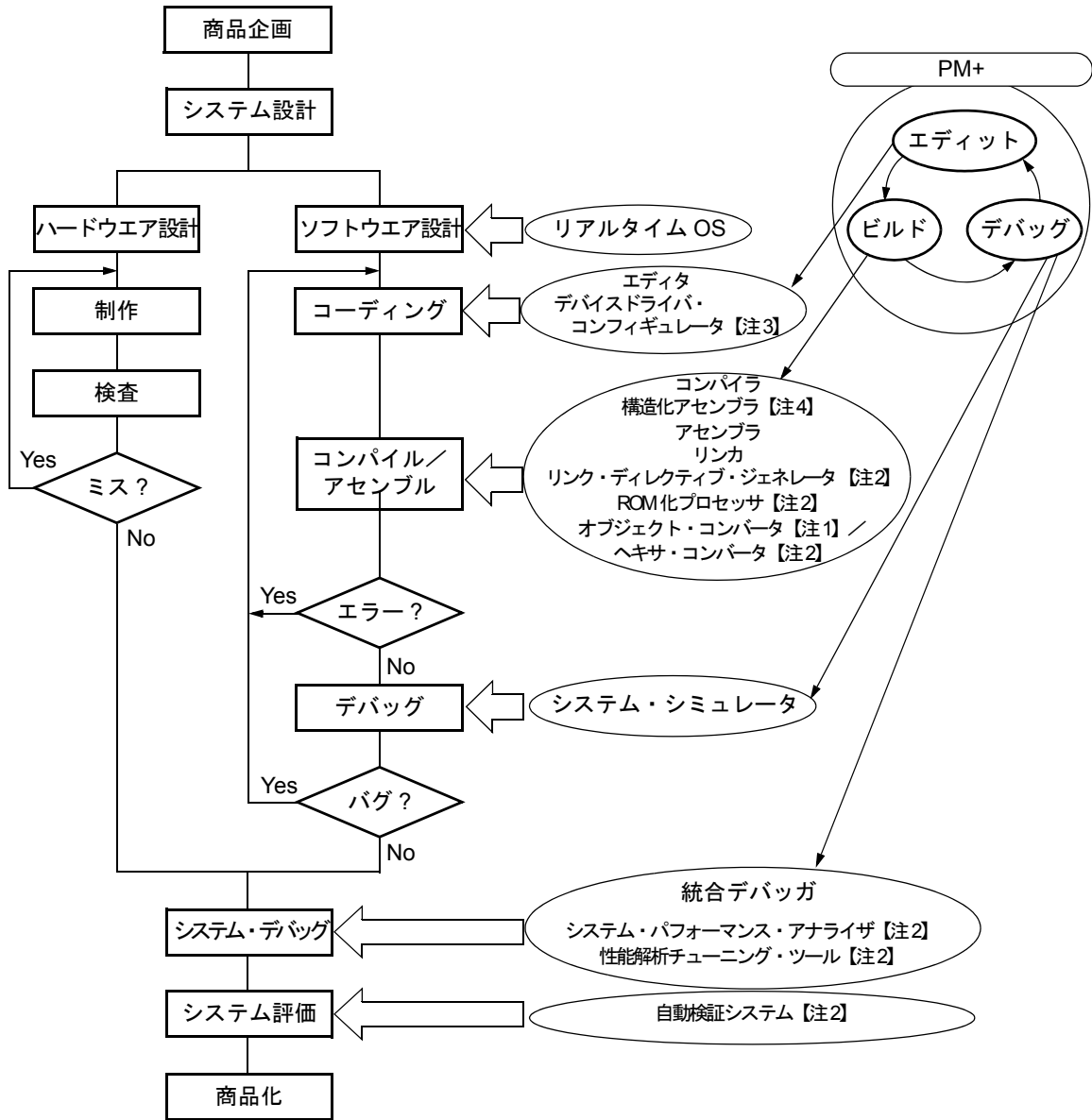
- 仕様とコメントの一致

仕様検討工程において、仕様の整理に有効な機能（アイデア・プロセッサ機能）をサポートしており、整理した内容をソース・プログラムのコメントとして反映することができます。

1.4 PM+ の位置付け

図 1-2 に、プログラム開発用ソフトウェアと、PM+ の関係を示します。

図 1-2 プログラム開発用ソフトウェアと PM+



- 【注 1】 78K マイクロコントローラのみ
- 【注 2】 V850 マイクロコントローラのみ
- 【注 3】 78K0R マイクロコントローラのみ
- 【注 4】 78K0, 78K0S マイクロコントローラのみ

1.5 動作環境

PM+ を使用するには、次の環境が必要となります。

【注意】

PM+ は、ネットワーク環境での動作を保証していません。ネットワーク環境では使用しないでください。

(1) ホスト・マシン

- CPU : Pentium™ II 400MHz 以上
- メイン・メモリ : 128M バイト以上
- OS : Windows® 2000 , Windows XP Professional, Windows XP Home Edition

【注意】

いずれの OS の場合も、最新の Service Pack がインストールされている必要があります。

(2) DLL

マイクロソフト株式会社が提供する次の DLL が必要となります（最新の Service Pack をインストールすることにより自動的に提供されます）。

- mfc42.dll V6.0.8665.0 以上
- msvctr.dll V6.1 以上
- ComCtl32.dll V5.81 以上

(3) 関連開発ツール

NEC エレクトロニクス製の次のツールが必要となります。

【78K マイクロコントローラの場合】

- コンパイラ／アセンブラ
コンパイラ : CC78K0R (Ver.1.00 以降), CC78K0 (Ver.4.00 以降), CC78K0S (Ver.2.00 以降)
アセンブラ : RA78K0R (Ver.1.00 以降), RA78K0 (Ver.4.00 以降), RA78K0S (Ver.2.00 以降)
- 統合デバッガ／システム・シミュレータ
統合デバッガ : ID78K0R-QB (Ver.3.20 以降)
システム・シミュレータ : SM+ for 78K0R (Ver.2.20 以降)
- デバイス・ファイル
使用するターゲット・デバイスのデバイス・ファイル
- デバイスドライバ・コンフィギュレータ (78K0R マイクロコントローラ用 : 必要な場合のみ)
Applilet®2 (開発中)

【V850 マイクロコントローラの場合】

- コンパイラ
CA850 (Ver.3.00 以降)
- 統合デバッガ／システム・シミュレータ
統合デバッガ : ID850 (Ver.3.10 以降), ID850NW (Ver.3.10 以降), または ID850QB (Ver.3.10 以降)
システム・シミュレータ : SM850 (Ver.3.00 以降), または SM + for V850 (Ver.2.00 以降)
- デバイス・ファイル
使用するターゲット・デバイスのデバイス・ファイル
- 性能解析チューニング・ツール (必要な場合のみ)
TW850 (Ver.2.00 以降)
- リンク・ディレクティブ・ジェネレータ (必要な場合のみ)
LDG (Ver.1.01 以降)

- 自動検証システム（必要な場合のみ）
XO850（Ver.3.20 以降）

1.6 PM+ が作成／管理するファイル

PM+ が作成／管理するファイルの一覧の次に示します。

なお、PM+ と連携する他のツールが作成するファイルに関しては、各々のツールのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(1) ワークスペース・ファイル (*.prw)

ワークスペース情報を保存するファイルです。

[ファイル]メニュー→[ワークスペースの新規作成]の選択、または既存のプロジェクト・ファイル (*.prj) を開いた際に生成されます。

ワークスペースに登録されているプロジェクト・ファイル名やバッチビルド情報などを保存します。

(2) プロジェクト・ファイル (*.prj)

プロジェクト情報を保存するファイルです。

プロジェクトの作成時（[5.6.1 プロジェクト・ファイルを作成する](#)参照）に生成され、プロジェクトに設定した各種情報や、PM+ と連携する他のツールのオプション情報などを保存します。

(3) 個人用環境設定ファイル (*.prk)

ウインドウ位置やツールバー表示情報などのユーザ個人に依存する情報を保存するファイルです。

PM+ 終了の際には必ず更新されるため、このファイルをソース管理の対象とする必要はありません。

なお、このファイルを削除すると個人に依存した環境設定はすべてクリアされます。

(4) 依存関係データ・ファイル (*.sdb)

ソース・ファイルとの依存関係を記録しているファイルです。

プロジェクトを開く際の高速化を目的とし、プロジェクトを閉じる際に更新されます（ファイルが存在しない場合は新規に作成されます）。

(5) 関数情報ファイル (*.fni)

ソース・ファイル中の関数情報を記録しているファイルです。

プロジェクトを開く際の高速化を目的とし、プロジェクトを閉じる際に更新されます（ファイルが存在しない場合は新規に作成されます）。

(6) メイクファイル (*.mak)

ビルドの際に自動的に作成されます。

また、オプションなどの設定が変更されたあとのビルド時には、メイクファイルを更新します（[5.6.10 メイクファイルのエクスポート](#)参照）。

(7) ログ・ファイル (*.plg)

アウトプット・ウインドウの内容を記録しているファイルです。

ビルドの際に更新されます（ファイルが存在しない場合は新規に作成されます）。

第 2 章 インストール

2.1 インストール

PM+ は、アセンブラ・パッケージ (RA78Kx)、またはコンパイラ・パッケージ (CA850) に含まれています。そのため、RA78Kx、または CA850 をインストールする際に、PM+ をインストールすることになります。

なお、RA78Kx、CA850 のインストール方法については、各ツールのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

2.2 アンインストール

PM+ のアンインストールは、Windows のコントロール・パネルの“プログラムの追加と削除” (WindowsXP 以外の場合は、“プログラムの追加と削除”) を起動し、次の項目を選択することにより行います。

- NEC EL PM+ V6.30
- NEC EL PM+ V6.30 ドキュメント一式

第3章 起動と終了

3.1 起動方法

PM+ の起動は、次のいずれかの方法で行います。

【パラメータなしの起動の場合】

- Windows[スタート]メニュー→[プログラム]→[NEC Electronics Tools]→[PM+ V6.30]の選択
- 既存のワークスペース・ファイル (*.prw) のダブル・クリック (選択したワークスペース・ファイルが自動的に開きます)

【パラメータありの起動の場合】

- 次に示すコマンド・ラインの入力

[フォーマット]

pmplus.exe Δ filename1 Δ -Ln Δ filename2 Δ -Ln Δ filename3 Δ -Ln Δ : スペース

起動時に開くファイル名

キャレットを置く行番号
(n は行番号)

【注意】

ファイル名にワークスペース・ファイル (*.prw) やプロジェクト・ファイル (*.prj) を指定した場合、行番号の指定は無効となります。

【例】

pmplus.exe Δ F:\SRC\CALLTREEVIEW.CPP Δ -L12

→ “F:\SRC\CALLTREEVIEW.CPP” を編集ウインドウに開き、12行目にキャレットを置く

pmplus.exe Δ F:\PRJ\CALLTREE.PRW Δ -L12 Δ F:\SRC\CALLTREEVIEW.CPP Δ -L12

→ “F:\PRJ\CALLTREE.PRW” を開き、-L12は無視される

“F:\SRC\CALLTREEVIEW.CPP” を編集ウインドウに開き、12行目にキャレットを置く

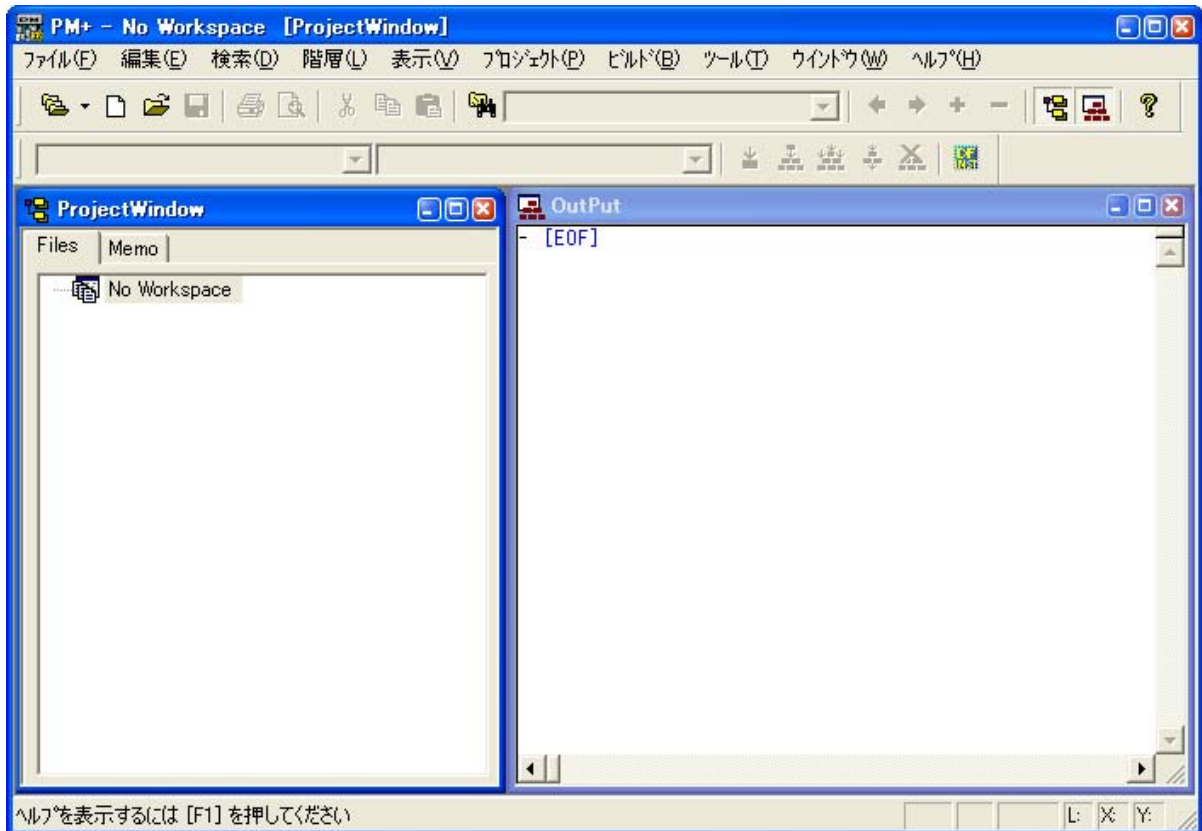
【注意】

複数のPM+ を起動することはできません。

このため、すでにPM+ が起動している状態で、新たなPM+ を起動しようとした場合は、起動中のPM+ を最前面に表示します。

PM+ を起動すると、次のメイン・ウィンドウが表示されます。

図 3-1 起動時のメイン・ウィンドウ（Window[スタート]メニューより起動した場合の例）



3.2 終了方法

PM+ の終了は、メイン・ウィンドウの [ファイル] メニュー→ [PM+ の終了] の選択、または [閉じる] ボタンのクリックにより行います。

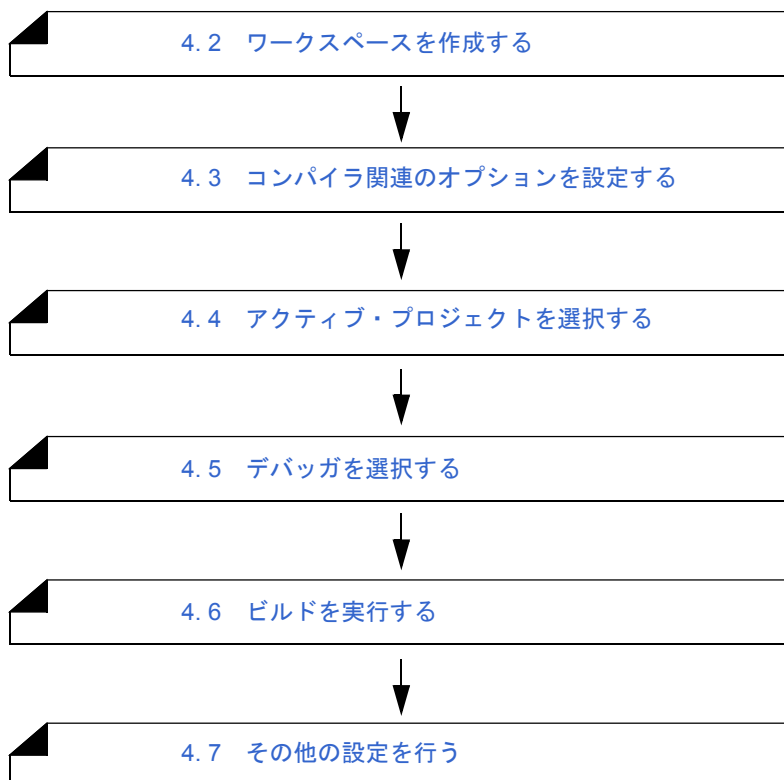
なお、編集時の各ウィンドウについては、保存確認のメッセージを表示しながら順に閉じていき、PM+ を終了します。ただし、ビルド実行中は、PM+ を終了することはできません。

第4章 クイック・ツアー

4.1 概要

PM+ を初めてご使用になる方のために、プロジェクトの登録からデバッグまでの操作の流れを解説します。

表 4-1 PM+ を使用した操作の流れ



4.2 ワークスペースを作成する

PM+ を使用して一連の開発作業を進めるには、プロジェクトを登録することから始めます。
プロジェクトを登録するためには、まず、それを管理する“ワークスペース”を作成する必要があります。
ワークスペースを作成するには、次の3種類の方法があります。
ご使用になる環境に合わせ、それぞれの項を参考してください。

(1) 新規に作成する

ウィザード形式で、必要なプロジェクト情報を順次指定することにより作成することができます。

【参照】:「[5.1.6 ワークスペースの新規作成](#)」

(2) PM (Ver.3.xx) / PM plus (Ver.5.xx) で作成したファイルを利用して作成する

PM+ では、PM (Ver.3.xx)、またはPM plus (Ver.5.xx) で作成したプロジェクト・ファイルやワークスペース・ファイルを読み込んで使用することができます。

【参照】:「[5.1.5 以前のバージョンで作成したプロジェクト・ファイルを開く](#)」

(3) NEC エレクトロニクス製 デバッガ/シミュレータなどで作成したプロジェクト・ファイルを利用して作成する

ウィザード形式で、PM+ 用にプロジェクト情報を更新して使用することができます。

【参照】:「[5.1.7 ワークスペースを開く](#)」

なお、1つのワークスペースには、複数のプロジェクトを登録することができます。

【参照】:「[5.6.3 ワークスペースに新規プロジェクトを追加する](#)」

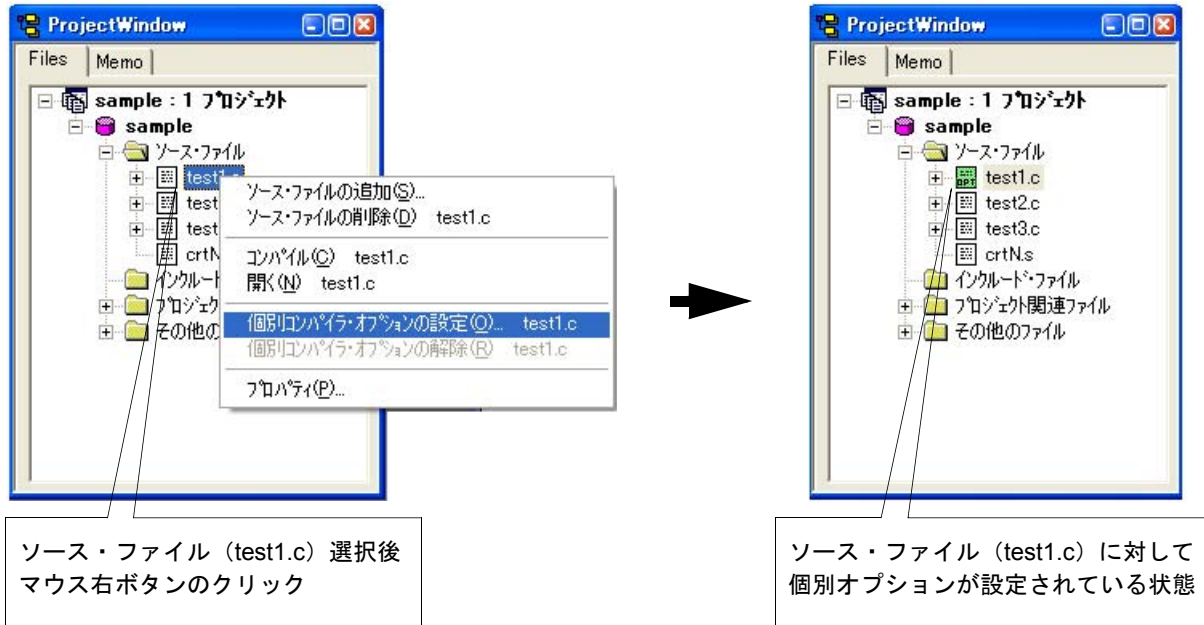
4.3 コンパイラ関連のオプションを設定する

[ツール]メニューにより、各プロジェクトに対してコンパイラ関連のオプションを設定します。

個々のオプションについての詳細は、各コンパイラのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

なお、ソース・ファイル単位で個別にオプションを設定したい場合は、プロジェクト・ウインドウ上で該当するファイルを選択したのち、マウス右ボタンにより行ってください（個別オプションが設定されると、プロジェクト・ウインドウ上では、ファイルのアイコンが緑色に変わります）。

図 4-1 コンパイラ関連オプションの設定



PM+ では、登録したソース・ファイル単位に、コンパイラ関連の個別オプションを設定することができます。

4.4 アクティブ・プロジェクトを選択する

PM+ では、1つのワークスペースに複数のプロジェクトを登録することができます。

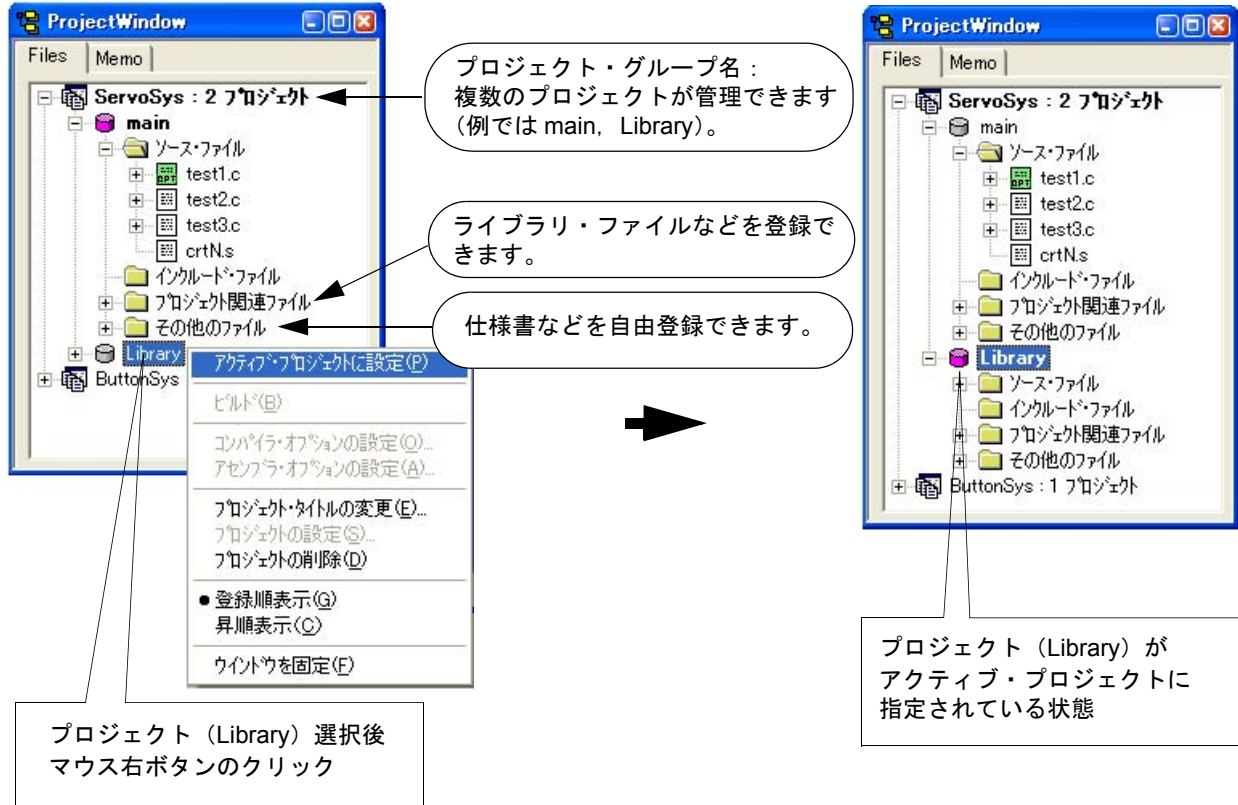
したがって、ビルドを行う際、対象となるプロジェクトをあらかじめ指定しておく必要があります。

このアクティブ・プロジェクトの指定は、プロジェクト・ウィンドウ上で該当するプロジェクトを選択したのち、マウス右ボタンにより行います（アクティブ・プロジェクトに設定されると、プロジェクト・アイコンはグレーからピンク色に変わります）。

PM+ では、アクティブ・プロジェクトのみがビルド／デバッグの対象となります。

【参照】：「5.6.2 アクティブ・プロジェクトを選択する」

図 4-2 アクティブ・プロジェクトの選択



4.5 デバッガを選択する

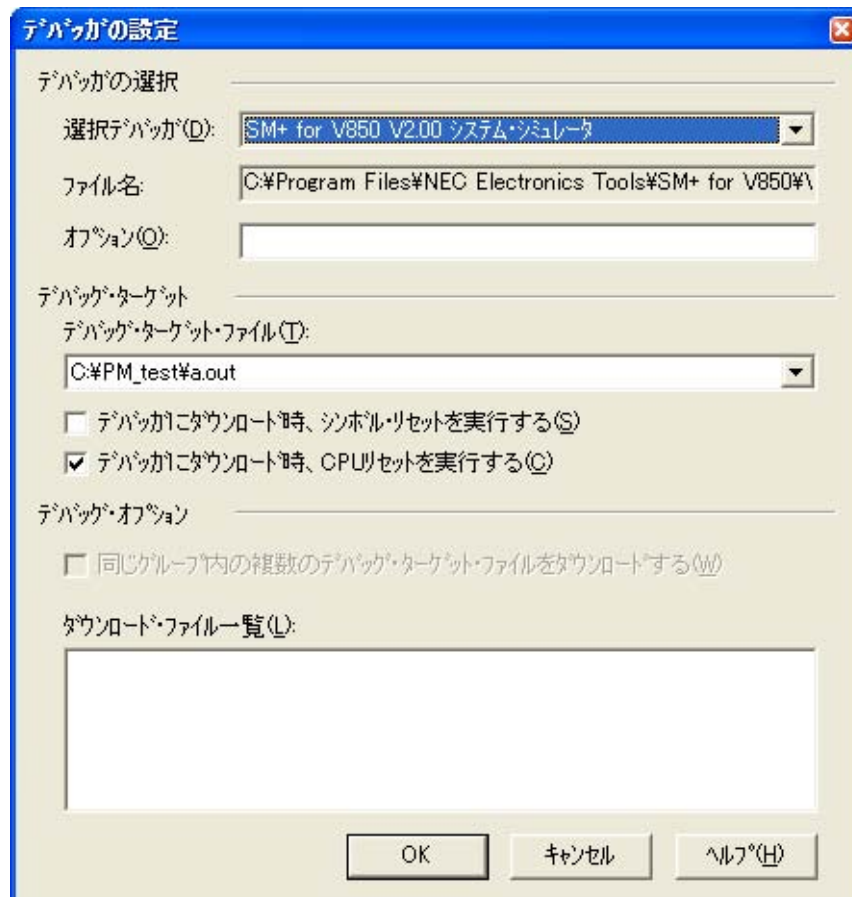
[ツール]メニュー→[デバッガの設定]を選択することで表示されるダイアログにより、使用するデバッガを設定します。

ダイアログでは、使用ツールとして指定されている、すべての NEC エレクトロニクス製デバッガ/シミュレータとそのバージョンが表示され、選択することができます。

[ビルド]メニュー→[ビルド→デバッグ]の選択によるビルド実行後、ここで設定したデバッガが自動的に起動すると同時に、ロードモジュール・ファイルがダウンロードされ、デバッグ作業がよりスムーズになります。

【参照】: [デバッガの設定]ダイアログ, 「5.6.18 使用ツールの変更」

図 4-3 デバッガの選択



4.6 ビルドを実行する

[ビルド]メニュー→[ビルド→デバッグ]により、アクティブ・プロジェクトに対して、ビルドからデバッグまでの一括処理を行います。

ビルドが正常終了すると、設定されているデバッガが自動的に起動し、作成したロードモジュール・ファイルをデバッガにダウンロードします（デバッガを起動させる必要がない場合は、[ビルド]メニュー→[ビルド]により、ビルドを実行してください）。このとき、デフォルトでメイクファイル（*.mak）も自動的に作成されます。

なお、ビルド実行中に言語処理ツールから出力されたメッセージは、[アウトプット・ウインドウ](#)に表示されます。この時、表示されたエラー／ワーニング行にキャレットを置き、マウス左ボタンをダブル・クリックすると、ソース・ファイルをオープンし、該当するエラー／ワーニング行にタグ・ジャンプを行います。

【参照】：[「5.7.1 ビルド→デバッグ」](#)

4.7 その他の設定を行う

PM+ をプラット・ホームとして、一連のデバッグ作業をより効率良く、スムーズに行えるよう、その他の多くの機能を備えています。

- 階層化する際のルールの設定など

【参照】：[「5.4.17 文書を階層化する」](#)

- 外部ツールの登録やメニュー／ツールバーなどのカスタマイズなど

【参照】：[「5.8.5 外部ツールを登録する」](#)、[「5.8.11 設定をカスタマイズする」](#)

- プロジェクト内の全ソース・ファイルに対する単語検索など

【参照】：[「5.3.23 プロジェクト内を検索する」](#)

- 使用するツールの設定など

【参照】：[「5.6.18 使用ツールの変更」](#)

第 5 章 操作方法

5.1 ファイルに関する操作方法

PM+ におけるファイルに関する操作を次に示します。

なお、これらの操作は、[メイン・ウインドウ](#)の [ファイル] メニューにより行います。

- 新規にファイルを作成する
- 既存のファイルを開く
- ファイルを挿入する
- ウインドウを閉じる
- 以前のバージョンで作成したプロジェクト・ファイルを開く
- ワークスペースの新規作成
- ワークスペースを開く
- ワークスペースを保存する
- ワークスペースを閉じる
- 上書き保存する
- 名前を付けて保存する
- すべて保存する
- すべて保存する (更新ファイルのみ)
- すべて保存して閉じる
- すべて閉じる
- すべて破棄して閉じる
- ソース・ファイル名を変更する
- すべてのソース・ファイルを保存する
- 印刷プレビューを見る
- 印刷する
- ダイレクトに印刷する
- ファイルの履歴
- ワークスペースの履歴
- PM+ の終了

5.1.1 新規にファイルを作成する

[ファイル] メニュー → [新規作成] で、新規に[編集ウインドウ](#)を 1 つ表示します。

[編集ウインドウ](#)は、[検索結果ウインドウ](#)、[アウトプット・ウインドウ](#)を含んで、最大 64 個まで表示することができます。

5.1.2 既存のファイルを開く

[ファイル] メニュー → [開く] で、[\[ファイルを開く\] ダイアログ](#)を表示し、選択したファイルを開きます。

5.1.3 ファイルを挿入する

[ファイル] メニュー → [挿入読み込み] で、[\[挿入読み込み\] ダイアログ](#)を表示し、選択したファイルの内容を、アクティブな[編集ウインドウ](#)のキャレット行の上に挿入します。挿入可能なファイルは、次のとおりです。

- IDL ファイル
- テキスト・ファイル

5.1.4 ウィンドウを閉じる

[ファイル]メニュー→[閉じる]で行います。内容に変更があれば、閉じる前に保存を行うかどうかのメッセージを表示します。

なお、編集禁止 (Read Only) で開いた同名のファイルが存在する場合、すべての同名ファイルを閉じます。

5.1.5 以前のバージョンで作成したプロジェクト・ファイルを開く

[ファイル]メニュー→[ワークスペースを開く]で[ワークスペースを開く]ダイアログを表示し、以前のバージョンのPM (Ver.3.xx)、またはPM plus (Ver.5.xx) で作成した“プロジェクト・ファイル (*.prj)”，または“ワークスペース・ファイル (*.prw)”を読み込むことを行います。

この場合、PM+ (Ver.6.xx) のワークスペース・ファイル形式に変換することを確認するメッセージが表示され、[OK] ボタンをクリックすることにより、自動的に次のように変換され読み込まれます。

- ワークスペース・ファイル名 (プロジェクト・ファイルの場合)
プロジェクト・ファイル名 + 拡張子 (.prw)
- プロジェクト・グループ名 (プロジェクト・ファイルの場合)
デバイス・マイクロコントローラ名 (例 V850 Microcontrollers)
- プロジェクト・タイトル名 (プロジェクト・ファイルの場合)
既存のタイトル設定がある場合はそのまま、タイトル設定がない場合はプロジェクト・ファイル名
- 選択デバッグ情報 (PM plus (Ver.5.xx) のみ)
削除
- バージョン情報
PM+ (Ver.6.xx)

ワークスペース名は変更することができませんが、プロジェクト・グループ名、またはプロジェクト・タイトル名は、プロジェクト・ウィンドウ上において選択後、マウス右クリックにより変更することができます。

なお、他の NEC エレクトロニクス製ツール (デバッグなど) で作成したプロジェクト・ファイルを開く場合は、「5.1.7 ワークスペースを開く」の項を参照してください。

5.1.6 ワークスペースの新規作成

[ファイル]メニュー→[ワークスペースの新規作成]で行います。

ワークスペース、およびそれに属するプロジェクトを新規に作成するために、[ワークスペースの新規作成]ウィザードを表示します。

順次表示される各ダイアログ上において、必要項目を入力/選択したのち、[次へ>] ボタンをクリックしてウィザードを終了させてください。

なお、最終ステップのダイアログ ([ワークスペースの新規作成 - ステップ 9/9 [設定の確認]] ダイアログ) において、[完了] ボタンをクリックすると、自動的にメイクファイルを作成します。

メイクファイルの作成については、「5.6.10 メイクファイルのエクスポート」を参照してください。

5.1.7 ワークスペースを開く

[ファイル]メニュー→[ワークスペースを開く]を選択, またはワークスペース・ファイルをドラッグ・アンド・ドロップすることで行います。

[ファイル]メニュー→[ワークスペースを開く]を選択すると, [ワークスペースを開く]ダイアログを表示し, 選択したワークスペース・ファイル (*.prw) をプロジェクト・ウインドウ上に開きます。このとき, 現在開いているワークスペース・ファイル, およびプロジェクト・ファイルは閉じられます。ワークスペース・ファイルでなく, プロジェクト・ファイル (*.prj) を指定した場合は, メッセージを表示後, prj に対応した prw ファイルを開きます。PM (Ver.3.xx) 形式のプロジェクト・ファイル (*.prj) を読み込むこともできます (「5.1.5 以前のバージョンで作成したプロジェクト・ファイルを開く」参照)。

また, メイン・フレーム, 編集ウインドウ, 検索結果ウインドウ, アウトプット・ウインドウ, プロジェクト・ウインドウにワークスペース・ファイルをドラッグ・アンド・ドロップすると, ドロップしたワークスペース・ファイルを開きます。このとき, 現在開いているワークスペース・ファイルは閉じられます。ワークスペース・ファイルでなく, プロジェクト・ファイル (*.prj) をドラッグ・アンド・ドロップした場合は, prj に対応した prw ファイルを開きます。

なお, 他の NEC エレクトロニクス製ツール (デバッガやシミュレータなど) で作成したプロジェクト・ファイルを開こうとした場合は, メッセージ表示後, PM+ 用にプロジェクト情報を更新するために, [プロジェクトの設定]ウィザードを表示します。

順次表示される各ダイアログ上において, 必要項目を入力/選択したのち, [次へ>] ボタンをクリックしてウィザードを終了させてください。

5.1.8 ワークスペースを保存する

[ファイル]メニュー→[ワークスペースの保存]で行います。

開いているワークスペース, およびプロジェクトの情報を同一ファイル名で保存します。

5.1.9 ワークスペースを閉じる

[ファイル]メニュー→[ワークスペースを閉じる]で, すべてのウインドウを閉じます。ただし, 閉じる際には, 各編集ウインドウをすべて閉じるかどうかを選択することができます。閉じた後, プロジェクト・ウインドウの [Files] タグには, "No Workspace" と表示されます。

5.1.10 上書き保存する

[ファイル]メニュー→[上書き保存]で, IDL ファイルと, ソース・ファイルを同一ファイル名で保存します。IDL ファイルには, 現在の階層の開閉状態やキャレット位置などの編集ウインドウを含め, ファイル情報のすべてを保存します。

なお, 出力するソース・ファイルは, [ツール]メニュー→[環境設定...] - [idl 生成ソース・ファイル] タブの階層の字下げグループで設定することにより, 階層の字下げを Tab コードまたは半角スペースに置き換えることができます。

ただし, 次のファイルがアクティブな場合は, [名前を付けて保存]ダイアログを表示し, ファイル名の指定を促します。

- 新規作成の編集ウインドウ

デフォルトのファイル名は, 編集ウインドウの 1 行目の行内容を元に作成します。

- グローバル検索の結果ウインドウ

デフォルトのファイル名は, 編集ウインドウの 1 行目の行内容を元に作成します。

- [開く]メニュー, [ファイルの履歴]メニューでオープンした IDL ファイルのバックアップ・ファイル

デフォルトのファイル名は, "(バックアップ・ファイル名).idl" となります。

- 複数のファイルを 1 つの編集ウィンドウに読み込んだ場合
デフォルトのファイル名は、**編集ウィンドウ**の 1 行目の行内容を元に作成します。
- 自動保存したファイルを開いた場合
デフォルトのファイル名は、**編集ウィンドウ**の 1 行目の行内容を元に作成します。
- 新規に作成されたソース・ファイル
デフォルトのファイル名は、**編集ウィンドウ**のそれぞれの第 1 階層行の行内容を元に作成します。

5. 1. 11 名前を付けて保存する

[ファイル]メニュー→[名前を付けて保存]で、**[名前を付けて保存]ダイアログ**を表示し、任意のファイル名で保存します。保存する際には、階層の下げ方や Tab の設定などを、**[ソース・ファイル保存オプション]ダイアログ**で行うことができます。

5. 1. 12 すべて保存する

[ファイル]メニュー→[すべて保存]で、表示しているすべての**編集ウィンドウ**の内容を、同一ファイル名で保存します。内容に変更がない**編集ウィンドウ**も保存しますが、編集禁止 (Read Only) の**編集ウィンドウ**、**アウトプット・ウィンドウ**、**検索結果ウィンドウ**の内容は、保存しません。

なお、[すべて保存]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→**[メニュー]タブ**で設定してください。

5. 1. 13 すべて保存する (更新ファイルのみ)

[ファイル]メニュー→[すべて保存 (更新ファイルのみ)]で、表示しているすべての**編集ウィンドウ**の内容を、同一ファイル名で保存します。ただし、内容に変更がない**編集ウィンドウ**は保存しません。

なお、[すべて保存]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→**[メニュー]タブ**で設定してください。

5. 1. 14 すべて保存して閉じる

[ファイル]メニュー→[すべて保存して閉じる]で、表示しているすべての**編集ウィンドウ**の内容を、同一ファイル名で保存し、すべての**編集ウィンドウ**を閉じます。**プロジェクト・ウィンドウ**、**アウトプット・ウィンドウ**は、閉じません。

なお、[すべて保存して閉じる]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→**[メニュー]タブ**で設定してください。

5. 1. 15 すべて閉じる

[ファイル]メニュー→[すべて閉じる]で、表示しているすべての**編集ウィンドウ**を閉じます。内容が変更されている場合は、保存確認のメッセージを表示します。**プロジェクト・ウィンドウ**、**アウトプット・ウィンドウ**は、閉じません。

なお、[すべて閉じる]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→**[メニュー]タブ**で設定してください。

5.1.16 すべて破棄して閉じる

[ファイル]メニュー→[すべて破棄して閉じる]で、表示しているすべての編集ウィンドウを、保存せずに閉じます。アウトプット・ウィンドウ、プロジェクト・ウィンドウは閉じません。

5.1.17 ソース・ファイル名を変更する

[ファイル]メニュー→[ソース・ファイル名の変更]で、[ソース・ファイル名の変更]ダイアログを表示し、ソース・ファイル名を変更します。

5.1.18 すべてのソース・ファイルを保存する

[ファイル]メニュー→[すべてのソース・ファイルを保存]で、内容の更新の有無に関わらず、全ソース・ファイルを同一ファイル名で保存します。

5.1.19 印刷プレビューを見る

[ファイル]メニュー→[印刷プレビュー]で、[印刷]ダイアログに設定されている条件で、アクティブな編集ウィンドウの印刷状態を表示します。

印刷プレビューの画面では、次のことができます。

[印刷]	[印刷]ダイアログを表示します。
[次のページ]	次のページ画面を表示します。
[前のページ]	前のページ画面を表示します。
[1ページ/2ページ]	1ページ表示、2ページ表示と画面表示を切り替えます。
[拡大]	表示イメージを拡大表示します。2段階までできます。
[縮小]	表示イメージを縮小表示します。2段階までできます。
[閉じる]	印刷プレビュー画面を閉じます。

5.1.20 印刷する

[ファイル]メニュー→[印刷]で、[印刷]ダイアログを表示して、アクティブな編集ウィンドウを印刷します。

5.1.21 ダイレクトに印刷する

[ファイル]メニュー→[ダイレクト印刷]で、[印刷]ダイアログを表示せずに、アクティブな編集ウィンドウを印刷します。

5.1.22 ファイルの履歴

[ファイル]メニュー→[ファイルの履歴]に、最近、編集・保存したファイルのファイル名を10個まで表示しています。選択されたファイルは、編集ウィンドウ上に開きます。

5. 1. 23 ワークスペースの履歴

[ファイル]メニュー→[ワークスペースの履歴]に、最近、開いたワークスペース・ファイル、またはプロジェクト・ファイル名を 10 個まで表示します。

5. 1. 24 PM+ の終了

[ファイル]メニュー→[PM+ の終了]の選択、または[閉じる]ボタンのクリックにより行います。編集集中の各ウインドウについては、保存確認のメッセージを表示しながら順に閉じていき、PM+ を終了します。

ただし、ビルド実行中は、PM+ を終了することはできません。

5.2 編集に関する操作方法

PM+ における編集に関する操作を次に示します。

なお、これらの操作は、[メイン・ウインドウ](#)の [編集] メニューにより行います。

- 操作を元に戻す
- 操作をやり直す
- 切り取り
- コピー
- 追加切り取り
- 追加コピー
- イメージ・コピー
- 貼り付け
- 形式を選択して貼り付け
- 削除する
- 単語を削除する
- 単語のキャレットから右側を削除する
- 行を削除する
- 行頭まで削除する
- 行末まで削除する
- キャレット位置の単語範囲を指定する
- キャレットから左側単語範囲を指定する
- キャレットから右側単語範囲を指定する
- 行頭まで範囲を指定する
- 行末まで範囲を指定する
- すべて選択する
- キーワードによるグループ化
- グループ化行の色を戻す
- プロトタイプ宣言を作成する
- 新規オブジェクトを作成する
- リンクを設定する
- オブジェクト

5.2.1 操作を元に戻す

[編集]メニュー→[元に戻す]で、編集作業を元の状態に戻します。元に戻すことのできる記憶回数は、1024 回までです。

[元に戻す]が有効となる編集作業は、次のとおりです。

- 編集画面への文字入力（1文字ずつのキー入力に戻します。[Tab], [Delete], [BackSpace], [Enter] キーも対象になります。）
- [ファイル]→[挿入読み込み ...]
- [編集]→[切り取り]
- [編集]→[貼り付け]
- [編集]→[形式を選択して貼り付け]
- [編集]→[削除]
- [編集]→[行削除]
- [編集]→[オブジェクトの挿入]
- [検索]→[文字列の置換]による文字列置換（[全置換]を除く）
- マウス・ドラッグによる行のコピー
- マウス・ドラッグによる行の移動
- 行頭にタブ文字挿入
- 行頭のタブ文字削除
- [階層]→[ひとつ上げる]
- [階層]→[ひとつ下げる]

5.2.2 操作をやり直す

[編集]メニュー→[やり直し]で、[元に戻す]操作により行われた編集作業を取消し、前の状態に戻します。やり直すことのできる記憶回数は、1024 回までです。

[やり直し]が有効となる編集作業は、次のとおりです。

- 編集画面への文字入力（1文字ずつのキー入力に戻します。[Tab], [Delete], [BackSpace], [Enter] キーも対象になります。）
- [ファイル]→[挿入読み込み ...]
- [編集]→[切り取り]
- [編集]→[貼り付け]
- [編集]→[形式を選択して貼り付け]
- [編集]→[削除]
- [編集]→[行削除]
- [編集]→[オブジェクトの挿入]
- [検索]→[文字列の置換]による文字列置換（[全置換]を除く）
- マウス・ドラッグによる行のコピー
- マウス・ドラッグによる行の移動
- 行頭にタブ文字挿入
- 行頭のタブ文字削除
- [階層]→[ひとつ上げる]
- [階層]→[ひとつ下げる]

5.2.3 切り取り

[編集]メニュー→[切り取り]で、範囲指定した文字列、または行の内容をクリップ・ボードに送信し、[編集ウインドウ](#)上から削除します。

また、範囲指定している行が下位階層を持っている場合、階層を開いているかたたんでいるかに関わらず、下位階層行の内容もクリップ・ボードに送信します。

文字列を切り取った場合、 caret 位置は変わりません。行を切り取った場合、切り取った部分の次の行の行頭に caret が置かれます。文書の最終行を切り取った場合、切り取り後の最終行の行末に caret が置かれます。

5.2.4 コピー

[編集]メニュー→[コピー]で、範囲指定した文字列、または行の内容をクリップ・ボードに送信します。

また、範囲指定している行が下位階層を持っている場合、階層を開いているかたたんでいるかに関わらず、下位階層行の内容もクリップ・ボードに送信します。

5.2.5 追加切り取り

[編集]メニュー→[追加切り取り]で、範囲指定した文字列、または行の内容をクリップ・ボードの最後に追加し、[編集ウインドウ](#)上から削除します。以前、クリップ・ボードに格納していた内容は、削除せずに最後に追加されます。

また、範囲指定している行が下位階層を持っている場合、階層を開いているかたたんでいるかに関わらず、下位階層行の内容もクリップ・ボードに送信します。

文字列を切り取った場合、 caret 位置は変わりません。行を切り取った場合、切り取った部分の次の行の行頭に caret が置かれます。文書の最終行を切り取った場合、切り取り後の最終行の行末に caret が置かれます。

なお、[追加切り取り]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...] - [メニュー]タブで設定してください。

5.2.6 追加コピー

[編集]メニュー→[追加コピー]で、範囲指定した文字列、または行の内容をクリップ・ボードの最後に追加します。以前、クリップ・ボードに格納していた内容は、削除せずに最後に追加されます。

また、範囲指定している行が下位階層を持っている場合、階層を開いているかたたんでいるかに関わらず、下位階層行の内容もクリップ・ボードに送信します。

なお、[追加コピー]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...] - [メニュー]タブで設定してください。

5.2.7 イメージ・コピー

[編集]メニュー→[イメージ・コピー]で、範囲指定した文字列、または行の内容を画面に見えている状態（画面イメージ）でクリップ・ボードに送信します。

行の内容をクリップ・ボードに送る場合、階層情報は書き込みません。1階層下がるごとに、スペース・コード、または Tab コードを書き込みます。どちらを書き込むかは、[ツール]メニュー→[環境設定...] - [編集]タブの[イメージ・コピー]で選択します。字下げ文字数は、[ツール]メニュー→[環境設定...] - [階層]で[階層の字下げ文字数]に指定した文字数となります。

範囲指定している行が下位階層を持っている場合、階層をたたんでいる行内容はクリップ・ボードに送信しません。また、オブジェクトはコピーしません。

5.2.8 貼り付け

[編集]メニュー→[貼り付け]で、クリップ・ボードの内容を読み出し、 caret 位置に挿入します。この際、階層情報を挿入します。

文字列を貼り付けた場合、デフォルトでは、caret は挿入後の位置に移動します。ただし、[ツール]メニュー→[環境設定...]の[編集]タブで、[文字列/行を貼り付けるときに caret を移動させない]をチェックした場合、caret は移動しません。

行を貼り付けた場合、読み込んだ内容を caret 位置の上の行に挿入し、caret 位置は変更されずに画面が再表示されます。ただし、caret 位置が画面の最上行の場合、または画面上に見えていない場合、caret 位置が画面中央になるようにスクロールされ、再表示されます。

範囲指定中に [貼り付け]を行った場合、範囲指定行を削除し、範囲指定行の位置に挿入します。caret 位置は、挿入した行の次の行の行頭となります。caret 位置が画面の最上行の場合、または画面上に見えていない場合、caret 位置が画面中央になるようにスクロールされ、再表示されます。

他のファイルから下位階層を持つ第 1 階層行をコピーまたは切り取り、編集中の IDL ファイルの第 1 階層へ貼り付けた場合、コピー元のソース・ファイル名がそのまま設定されます。ただし、編集中の IDL ファイル内に同名のソース・ファイル名が存在する場合、コピー元のソース・ファイル名情報は削除されます。この状態で編集中の IDL ファイルを保存しようとする、ソース・ファイル名のパスを変更するためのメッセージが出力され、[はい]ボタンをクリックすることにより、[ソース・ファイル名の変更]ダイアログが表示されます。編集中の IDL ファイルから生成するソース・ファイルの名前を設定してください。

5.2.9 形式を選択して貼り付け

[編集]メニュー→[形式を選択して貼り付け]で行います。[形式を選択して貼り付け]ダイアログを表示し、クリップ・ボードの内容を貼り付ける形式を選択して、caret 位置に挿入します。なお、[形式を選択して貼り付け]ダイアログは、処理を MFC (Microsoft® Foundation Class) に依存しています。

5.2.10 削除する

[編集]メニュー→[削除]で、範囲指定した文字列、または行を削除します。範囲指定している文字列、または行は、クリップ・ボードに送信しません。

また、文字列を削除した場合、caret 位置は変わりません。行を削除した場合、削除した部分の次の行の行頭に caret が置かれます。文書の最終行を削除した場合、削除後の最終行の行末に caret が置かれます。

5.2.11 単語を削除する

[編集]メニュー→[単語削除]で、caret 位置の単語を削除します。削除した単語は、クリップ・ボードに送信しません。単語の定義については、[編集ウインドウ](#)を参照してください。

なお、[単語削除]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...] - [メニュー]タブで設定してください。

5.2.12 単語の caret から右側を削除する

[編集]メニュー→[単語の caret から右側削除]で行います。削除した単語は、クリップ・ボードに送信しません。単語の定義については、[編集ウインドウ](#)を参照してください。

なお、[単語の caret から右側削除]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...] - [メニュー]タブで設定してください。

5.2.13 行を削除する

[編集]メニュー→[行削除]で、カーレット位置の行を削除します。2行以上範囲指定した場合は、削除できません。削除した行の内容は、クリップ・ボードに送信しません。

5.2.14 行頭まで削除する

[編集]メニュー→[行頭まで削除]で、カーレット位置から行頭までを削除します。削除した行の内容は、クリップ・ボードに送信しません。カーレット位置は、行頭に移動します。

なお、[行頭まで削除]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.2.15 行末まで削除する

[編集]メニュー→[行末まで削除]で、カーレット位置から行末までを削除します。削除した行の内容は、クリップ・ボードに送信しません。カーレット位置は、移動しません。

なお、[行末まで削除]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.2.16 キャレット位置の単語範囲を指定する

[編集]メニュー→[カーレット位置の単語範囲指定]で行います。

単語の定義については、[編集ウインドウ](#)を参照してください。

なお、[カーレット位置の単語範囲指定]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.2.17 キャレットから左側単語範囲を指定する

[編集]メニュー→[カーレットから左側単語範囲指定]で行います。

単語の定義については、[編集ウインドウ](#)を参照してください。

なお、[カーレットから左側単語範囲指定]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.2.18 キャレットから右側単語範囲を指定する

[編集]メニュー→[カーレットから右側単語範囲指定]で行います。

単語の定義については、[編集ウインドウ](#)を参照してください。

なお、[カーレットから右側単語範囲指定]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.2.19 行頭まで範囲を指定する

[編集]メニュー→[行頭まで範囲指定]で、カーレット位置から行頭までを選択します。

なお、[行頭まで範囲指定]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.2.20 行末まで範囲を指定する

[編集]メニュー→[行末まで範囲指定]で、キャレット位置から行末までを選択します。

なお、[行末まで範囲指定]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.2.21 すべてを選択する

[編集]メニュー→[すべて選択]で、編集ウィンドウの内容をすべて選択します。

5.2.22 キーワードによるグループ化

[編集]メニュー→[キーワードによるグループ化]で、[キーワードによるグループ化]ダイアログを表示し、指定した文字列を含む行を収集します。

5.2.23 グループ化行の色を戻す

[編集]メニュー→[グループ化行の色を戻す]で行います。キーワードによるグループ化により収集された行の目印として付けていた色を元の文字色に戻します。

5.2.24 プロトタイプ宣言を作成する

[編集]メニュー→[プロトタイプ宣言の作成]で、[プロトタイプ宣言生成方法の指定]ダイアログを表示し、関数のプロトタイプ宣言を自動作成します。

5.2.25 新規オブジェクトを作成する

[編集]メニュー→[新規オブジェクト]で、[オブジェクトの挿入]ダイアログを表示し、新規に埋め込みオブジェクトを作成します。なお、[オブジェクトの挿入]ダイアログは、処理を MFC (Microsoft Foundation Class) に依存しています。

5.2.26 リンクを設定する

[編集]メニュー→[リンク]で、[リンクの設定]ダイアログを表示し、リンク・オブジェクトの編集、リンク元の変更、リンクの解除を行います。なお、[リンクの設定]ダイアログは、処理を MFC (Microsoft Foundation Class) に依存しています。

5.2.27 オブジェクト

[編集]メニューの最後に表示されます。選択しているオブジェクトに対し、アプリケーションを起動したり、ファイルの種類を変換したりします。

このメニューは、選択しているオブジェクトの種類により、表示される文字列と機能が異なります。

5.3 検索に関する操作方法

PM+ における検索に関する操作を次に示します。

なお、これらの操作は、[メイン・ウィンドウ](#)の[検索]メニューにより行います。

- 文字列を検索する
- 上向きに検索する
- 下向きに検索する
- 単語を上方向に検索する
- 単語を下方向に検索する
- 文字列を置換する
- 指定行へ移動する
- 指定ソース・ファイルへジャンプする
- マーク・ジャンプする
- 行の先頭へ移動する
- 行の最後へ移動する
- ファイルの先頭行へ移動する
- ファイルの最終行へ移動する
- 見出し行へ移動する
- キャレット位置の第 1 階層へ移動する
- 上同階層へ移動する
- 下同階層へ移動する
- ジャンプ前のキャレット位置へ移動する
- 関数定義行へ移動する
- 対応括弧を検索する
- グローバル検索
- グローバル置換
- プロジェクト内を検索する
- タグ・ジャンプ
- バックタグ・ジャンプ
- NEXT タグ・ジャンプ
- 上方向 NEXT タグ・ジャンプ
- 1 単語右へ移動する
- 1 単語左へ移動する
- 1 行上へ移動する
- 1 行下へ移動する
- 1 文字右へ移動する
- 1 文字左へ移動する
- 検索文字列指定コンボ・ボックスをアクティブにする

5.3.1 文字列を検索する

[検索]メニュー→[文字列の検索]で、[\[文字列の検索\]ダイアログ](#)を表示し、文字列の検索を行います。

5.3.2 上向きに検索する

[検索]メニュー→[上向きに検索]で、設定している検索文字列を文頭方向に検索します。

検索文字列が設定されていない場合は、[\[文字列の検索\]ダイアログ](#)を表示します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[検索/置換]タブで、[先頭行または最終行で検索を終了しない]を設定している場合は、文書の先頭まで検索終了した際に、さらに検索を行うかどうかのメッセージを表示し、検索を開始した位

置まで検索を続けます。このチェックを設定していない場合は、文書の先頭まで検索して終了します。

なお、[上向きに検索]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.3.3 下向きに検索する

[検索]メニュー→[下向きに検索]で、設定している検索文字列を文末方向に検索します。

検索文字列が設定されていない場合は、[文字列の検索]ダイアログを表示します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[検索/置換]タブで、[先頭行または最終行で検索を終了しない]を設定している場合は、文書の最後まで検索終了した際に、さらに検索を行うかどうかのメッセージを表示し、検索を開始した位置まで検索を続けます。このチェックを設定していない場合は、文書の最後まで検索して終了します。

なお、[下向きに検索]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.3.4 単語を上方向に検索する

[検索]メニュー→[単語上方向検索]で、 caret 位置の単語を上方向に検索します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[検索/置換]タブで、[単語上検索/下検索の検索文字列を検索対象文字列の候補として登録する]をチェックした場合、caret 位置にある単語が検索文字列として記憶され、[文字列の検索]ダイアログで検索文字列の履歴となります。

[単語上検索/下検索の検索文字列を検索対象文字列の候補として登録する]をチェックしていない場合、検索文字列として記憶されません。

なお、[単語上方向検索]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.3.5 単語を下方向に検索する

[検索]メニュー→[単語下方向検索]で、 caret 位置の単語を下方向に検索します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[検索/置換]タブで、[単語上検索/下検索の検索文字列を検索対象文字列の候補として登録する]をチェックした場合、caret 位置にある単語が検索文字列として記憶され、[文字列の検索]ダイアログで検索文字列の履歴となります。

[単語上検索/下検索の検索文字列を検索対象文字列の候補として登録する]をチェックしていない場合、検索文字列として記憶されません。

なお、[単語下方向検索]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.3.6 文字列を置換する

[検索]メニュー→[文字列の置換]で、[文字列の置換]ダイアログを表示し、“置換前の文字列”から“置換後の文字列”への置き換えを行います。

5.3.7 指定行へ移動する

[検索]メニュー→[指定行へ]で、[指定行へジャンプ]ダイアログを表示します。先頭からの表示行数を指定することにより、目的の行（指定した行）までジャンプします。

5.3.8 指定ソース・ファイルへジャンプする

[検索]メニュー→[指定ソース・ファイルへ]で、[指定ソース・ファイルへジャンプ]ダイアログを表示します。ソース・ファイル名と行番号を指定することにより、目的の行（指定した行）までジャンプします。

なお、[指定ソース・ファイルへ]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.3.9 マーク・ジャンプする

[検索]メニュー→[マーク・ジャンプ]で、[マーク・ジャンプ]ダイアログを表示します。現在のcaretがある行をマークするか、またはマークされた行へcaretを移動します。

5.3.10 行の先頭へ移動する

[検索]メニュー→[行の先頭へ]で、caretの位置をcaretのある行の先頭（行頭）に移動します。

5.3.11 行の最後へ移動する

[検索]メニュー→[行の最後へ]で、caretの位置をcaretのある行の最後（行末）に移動します。

5.3.12 ファイルの先頭行へ移動する

[検索]メニュー→[先頭行へ]で、ファイルの先頭行（第1階層行）の行頭にcaretの位置を移動します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する]をチェックした場合、編集ウィンドウ内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してからcaretを移動します。チェックを外した場合で、編集ウィンドウ内を範囲指定をしている時は、範囲指定を開始した位置から先頭行までを範囲指定します。ただし、範囲指定を開始した位置から先頭行までの間に、範囲指定を開始した行より上位の階層が現れたときは、上位階層の直前までを範囲指定します。

5.3.13 ファイルの最終行へ移動する

[検索]メニュー→[最終行へ]で、画面上の最終行の行末へcaret位置を移動します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する]をチェックした場合、編集ウィンドウ内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してからcaretを移動します。チェックを外した場合で、編集ウィンドウ内を範囲指定をしている時は、範囲指定を開始した位置から最終行の行末までを範囲指定します。ただし、範囲指定を開始した位置から最終行までの間に、範囲指定を開始した行より上位の階層が現れたときは、上位階層の直前までを範囲指定します。

5.3.14 見出し行へ移動する

[検索]メニュー→[見出し行へ]で、caretのある行の見出し行（1つ上の階層行）の行頭にcaret位置を移動します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する]をチェックした場合、編集ウィンドウ内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してからcaretを移動します。チェックを外した場合で、編集ウィンドウ内を範囲指定をしている時は、範囲指定を開始した位置から見出し行の行頭までを範囲指定します。ただし、範囲指定を開始した位置から上位階層の行は範囲指定が行えないので、見出し行の直前までを範囲指定します。

5.3.15 キャレット位置の第 1 階層へ移動する

[検索] メニュー → [キャレット位置の第 1 階層へ] で、カーレット位置の第 1 階層へ移動します。

[ツール] メニュー → [環境設定 ...] - [編集] タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する] をチェックした場合、**編集ウインドウ**内を範囲指定している時は、範囲指定を開始した位置からジャンプ先の行頭までを範囲指定します。ただし、範囲指定を開始した位置からジャンプ先までの間に、範囲指定を開始した行より上位の階層が現れたときは、上位階層行の直前までを範囲指定します。

5.3.16 上同階層へ移動する

[検索] メニュー → [上同階層へ] で、カーレット位置より 1 つ上にある同階層行へ移動します。

[ツール] メニュー → [環境設定 ...] - [編集] タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する] のチェックにかかわらず、**編集ウインドウ**内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してからカーレットを移動します。

なお、[上同階層へ] 項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール] メニュー → [カスタマイズ ...] - [メニュー] タブで設定してください。

5.3.17 下同階層へ移動する

[検索] メニュー → [下同階層へ] で、カーレット位置より 1 つ下にある同階層行へ移動します。

[ツール] メニュー → [環境設定 ...] - [編集] タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する] のチェックにかかわらず、**編集ウインドウ**内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してからカーレットを移動します。

なお、[下同階層へ] 項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール] メニュー → [カスタマイズ ...] - [メニュー] タブで設定してください。

5.3.18 ジャンプ前のカーレット位置へ移動する

[検索] メニュー → [ジャンプ前のカーレット位置へ] で、ジャンプ直前のカーレット位置へカーレットを戻します。このメニューは、次のジャンプを実行した場合に有効です。

- マーク・ジャンプ
- 指定行へ
- 指定ソース・ファイルへ
- 先頭行へ
- 見出し行へ
- キャレット位置の第 1 階層へ
- 最終行へ
- 関数定義行へ
- 対応括弧へ
- 関数一覧からのジャンプ
- 階層一覧からのジャンプ
- 上同階層へ
- 下同階層へ

[ツール] メニュー → [環境設定 ...] - [編集] タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する] のチェックにかかわらず、**編集ウインドウ**内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してからカーレットを移動します。

なお、[ジャンプ前のカーレット位置へ] 項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール] メニュー → [カスタマイズ ...] - [メニュー] タブで設定してください。

5.3.19 関数定義行へ移動する

[検索]メニュー→[関数定義行へ]で、 caret 位置、または範囲指定されている関数名の定義行へ caret を移動します。関数以外の指定はできません。

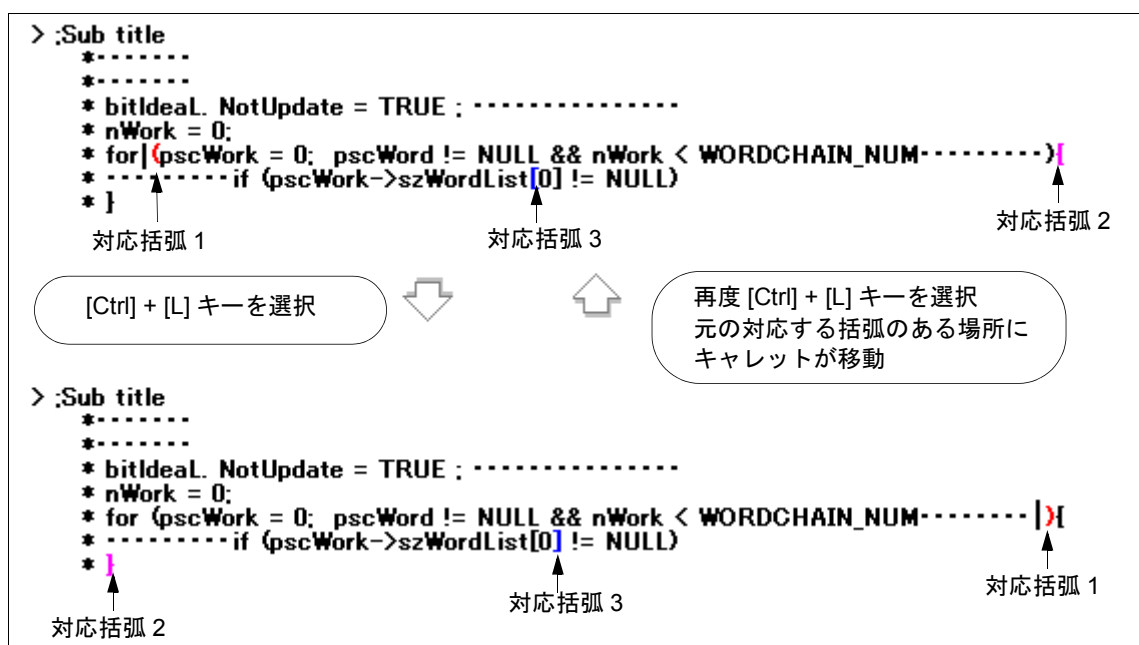
プロジェクトを開いている場合、プロジェクトに登録されているファイルを対象として定義行の検索を行い、 caret を移動します。プロジェクトを開いていない場合は、アクティブな編集ウインドウを対象として定義行を検索し、 caret を移動します。

5.3.20 対応括弧を検索する

[検索]メニュー→[対応括弧へ]で、 caret 位置、または caret 位置にある 1 つ前の位置にある括弧と対になる括弧を編集ウインドウ内から検索し、 caret を移動します。検索対象となる括弧は、(), {}, [] です。対応する括弧が見つからない場合は、 caret を移動しません。また、コメントに含まれている括弧は無視します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブ上の[ジャンプ前に範囲指定を解除する]のチェックにかかわらず、編集ウインドウ内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してから caret を移動します。

【対応括弧のジャンプ例】



5.3.21 グローバル検索

[検索]メニュー→[グローバル検索]で、[グローバル検索]ダイアログを表示し、指定したフォルダ上の複数のファイルを対象に、文字列検索を行います。

5.3.22 グローバル置換

[検索]メニュー→[グローバル置換]で、[グローバル置換]ダイアログを表示し、指定したフォルダ上の複数のファイルを対象に、文字列置換を行います。

5.3.23 プロジェクト内を検索する

[検索]メニュー→[プロジェクト内検索]で、プロジェクトに登録されている全ソース・ファイルを対象として、 caret 位置にある文字列、または範囲指定している文字列を検索します。

検索結果は、新規に開く[検索結果ウインドウ](#)に表示されます。

- このメニューは、プロジェクト・ファイルを開いた状態で、有効となります。
- キャレット位置にある文字列検索の場合、英数字または“_”以外では、メニューを選択できません。範囲指定による文字列検索の場合、行の範囲指定では、メニューを選択できません。
- [Esc] キーの入力により検索を中断できます。
- 検索条件は、[\[グローバル検索\] ダイアログ](#)における設定に従います。グローバル検索で設定可能な条件のうち、プロジェクト内検索で有効となる項目は、次のとおりです。
 - 大文字／小文字を区別する
 - 単語単位で探す
 - 検索ファイル名の階層表示

5.3.24 タグ・ジャンプ

[検索]メニュー→[タグ・ジャンプ]で行います。カーレットのある行にファイル名、および行番号が表示されている場合、そのファイルを開き、目的の行へジャンプします。

これにより、ビルド時に出力されたエラー・メッセージから、ソース・ファイルの該当するエラー行へジャンプすることができます。

- タグ・ジャンプは、“ファイル名 区切り文字 行番号”の形式からのみ行うことができます。区切り文字とみなされるのは、次の 4 種類です。
 - 半角スペース
 - タブ文字
 - 丸括弧“(”および“)”
- ファイル名が半角 260 文字を越えた場合、タグ・ジャンプ形式とはみなされず、ジャンプしません。
- ファイル名に次の記号が含まれる場合、ファイル名とはみなされず、ジャンプしません。
/, ;, *, ?, ", <, >, |
- 行番号が半角数字でない場合、カーレットはジャンプ先ファイルの先頭行になります。
- ジャンプ先の行がたたまれた階層内にある場合、その階層が開かれてジャンプします。
- [ツール]メニュー→[環境設定 ...]の[編集]タブで、[タグ・ジャンプ元の' 'または'"'で囲まれた文字列をタグ・ジャンプ先で範囲指定する]にチェックすると、ジャンプ元の行内に' 'または'"'で囲まれた文字列がある場合、ジャンプ先行内でその文字列が検索され、範囲指定されます。複数個見つかった場合、先に見つかった部分が範囲指定されます。
- ジャンプ先ファイルがすでに[編集ウインドウ](#)で開かれおり、その中で範囲指定を行っていると、ジャンプにより範囲指定は解除されます。
- タグ・ジャンプを行う際、そのソース・ファイルを作成したIDL ファイルが見つからない場合、メッセージが出力されます。この場合、メッセージ・ダイアログでの[OK]ボタンにより、IDL ファイルを選択するダイアログが表示され、開くIDL ファイル、またはソース・ファイルを選択します。

5.3.25 バックタグ・ジャンプ

[検索]メニュー→[バックタグ・ジャンプ]で、タグ・ジャンプを行ったあと、タグ・ジャンプ先からタグ・ジャンプ元のウインドウへ戻ります。タグ・ジャンプ元の該当する行が見つからない場合、タグ・ジャンプ元ウインドウの先頭行へジャンプします。

5.3.26 NEXT タグ・ジャンプ

[検索]メニュー→[NEXT タグ・ジャンプ]で、一度タグ・ジャンプを行ったあと、タグ・ジャンプ元のウインドウで、タグ・ジャンプ形式の行を下方向に続けて検索し、次に見つかったタグ・ジャンプを行います。表示上、タグ・ジャンプ元のウインドウには戻りません。

5.3.27 上方向 NEXT タグ・ジャンプ

[検索]メニュー→[上方向 NEXT タグ・ジャンプ]で、一度タグ・ジャンプを行ったあと、タグ・ジャンプ元のウインドウで、タグ・ジャンプ形式の行を上方向に続けて検索し、次に見つかったタグ・ジャンプを行います。表示上、タグ・ジャンプ元のウインドウには戻りません。

なお、[上方向 NEXT タグ・ジャンプ]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]－[メニュー]タブで設定してください。

5.3.28 1 単語右へ移動する

[検索]メニュー→[1 単語右へ]で、カーレットの位置を、1 単語分右へ移動します。行の右端にカーレットがある場合、カーレットは移動しません。

“単語”の定義は次のとおりです。

- 半角英数字とアンダースコアの連続
- 半角カタカナ文字の連続
- 全角英数字の連続
- 全角カタカナ文字（“一”を含む）の連続
- 全角ひらがな文字の連続
- 全角漢字の連続
- その他の全角文字の連続
- 上記文字以外の文字の連続（スペースおよびタブを除く）

[ツール]メニュー→[環境設定...]－[編集]タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する]をチェックした場合、**編集ウインドウ**内を範囲指定している時は、範囲指定は解除され、1 単語分右にカーレット位置が移動されます。チェックを外した場合で、**編集ウインドウ**内を範囲指定をしている時は、1 単語分右にカーレットが移動され、範囲指定を開始した位置から移動先までが範囲指定し直されます。行範囲指定している場合、何もされません。

なお、[1 単語右へ]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]－[メニュー]タブで設定してください。

5.3.29 1 単語左へ移動する

[検索]メニュー→[1 単語左へ]で、カーレットの位置を、1 単語分左へ移動します。行の左端にカーレットがある場合、カーレットは移動されません。

“単語”の定義は次のとおりです。

- 半角英数字とアンダースコアの連続
- 半角カタカナ文字の連続
- 全角英数字の連続
- 全角カタカナ文字（“一”を含む）の連続
- 全角ひらがな文字の連続
- 全角漢字の連続
- その他の全角文字の連続
- 上記文字以外の文字の連続（スペースおよびタブを除く）

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する]をチェックした場合、**編集ウインドウ**内を範囲指定している時は、範囲指定は解除され、1 単語分左に caret 位置が移動されます。チェックを外した場合で、**編集ウインドウ**内を範囲指定をしている時は、1 単語分左に caret が移動され、範囲指定を開始した位置から移動先までが範囲指定し直されます。行範囲指定している場合、何もされません。

なお、[1 単語左へ]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.3.30 1 行上へ移動する

[検索]メニュー→[1 行上へ]で、caret の位置を、1 行上へ移動します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する]のチェックにかかわらず、**編集ウインドウ**内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してから caret を移動します。

なお、[1 行上へ]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.3.31 1 行下へ移動する

[検索]メニュー→[1 行下へ]で、caret の位置を、1 行下へ移動します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する]のチェックにかかわらず、**編集ウインドウ**内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してから caret を移動します。

なお、[1 行下へ]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.3.32 1 文字右へ移動する

[検索]メニュー→[1 文字右へ]で、caret の位置を、1 文字右へ移動します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する]のチェックにかかわらず、**編集ウインドウ**内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してから caret を移動します。

なお、[1 文字右へ]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.3.33 1 文字左へ移動する

[検索]メニュー→[1 文字左へ]で、caret の位置を、1 文字左へ移動します。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブで、[ジャンプ前に範囲指定を解除する]のチェックにかかわらず、**編集ウインドウ**内を範囲指定している時は、範囲指定を解除してから caret を移動します。

なお、[1 文字左へ]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.3.34 検索文字列指定コンボ・ボックスをアクティブにする

[検索]メニュー→[ダイレクト検索]で、ツールバーの検索文字列指定コンボ・ボックスをアクティブにします。検索したい文字列を直接入力したのち、[Enter] キーを押すことにより、指定文字列を現在アクティブな**編集ウインドウ**内より検索します。

なお、[ダイレクト検索]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.4 階層に関する操作方法

PM+における階層に関する操作を次に示します。

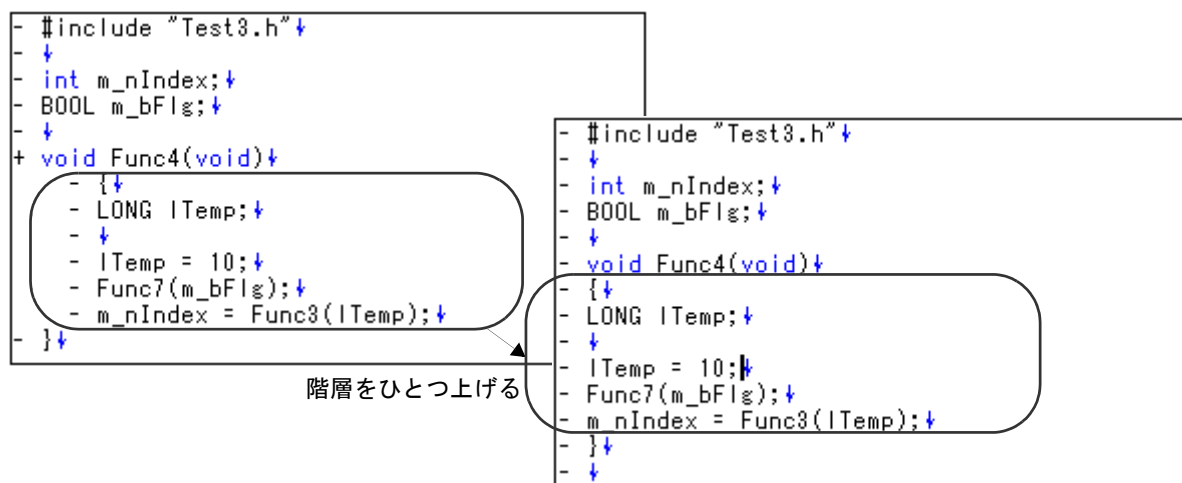
なお、これらの操作は、**メイン・ウィンドウ**の[階層]メニューにより行います。

- 階層をひとつ上げる
- 階層をひとつ下げる
- 下位をひとつ（開く／たたむ）
- 下位をひとつ開く
- 下位をひとつたたむ
- 下位をすべて開く
- すべて開く
- すべてたたむ
- 指定階層まで開く
- 指定階層までたたむ
- 第1階層のみ表示する
- 第2階層まで表示する
- 第3階層まで表示する
- 第4階層まで表示する
- 第5階層まで表示する
- キャレット位置の階層をたたむ
- 文書を階層化する

5.4.1 階層をひとつ上げる

[階層]メニュー→[ひとつ上げる]で、カーレット行、または範囲指定している行とそれらの下位階層行の階層を1つ上げます。

図 5-1 階層をひとつ上げる

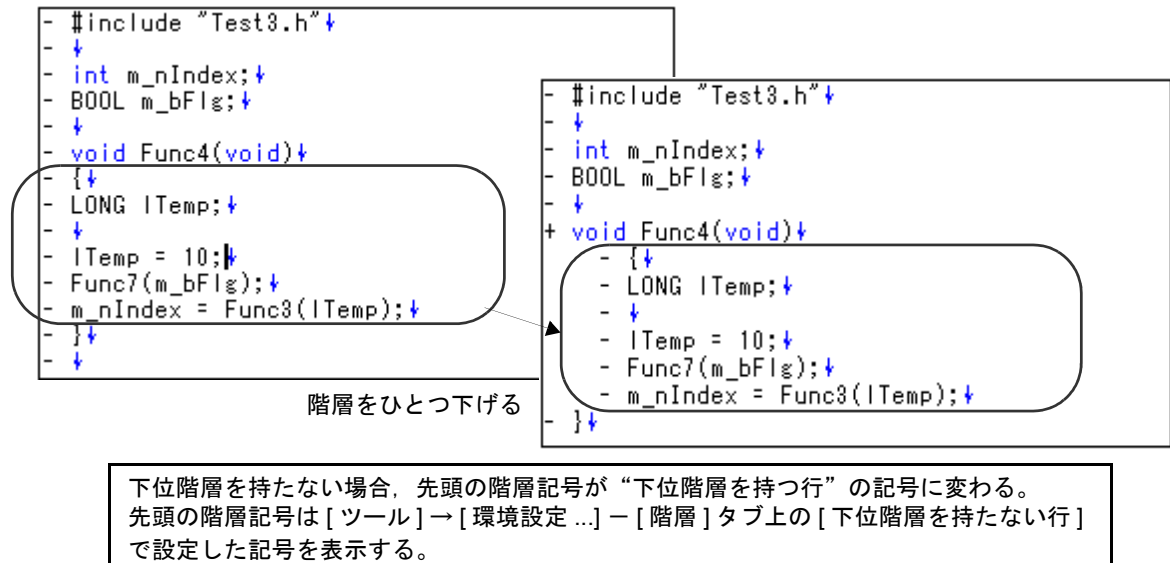


下位階層を持たない場合、先頭の階層記号が“下位階層を持たない行”の記号に変わる。先頭の階層記号は[ツール]→[環境設定...] - [階層]タブ上の[下位階層を持たない行]で設定した記号を表示する。

5.4.2 階層をひとつ下げる

[階層]メニュー→[ひとつ下げる]で、 caret行、または範囲指定している行とそれらの下位階層行の階層を1つ下げます。

図 5-2 階層をひとつ下げる



5.4.3 下位をひとつ（開く／たたむ）

[階層]メニュー→[下位をひとつ（開く／たたむ）]で行います。 caret行、または範囲選択した行の下位階層が開いているときはたたみ、 caret行の下位階層がたたまれているときは開きます。

下位階層を開いたとき、開いた下位階層のすべての行を表示しきれなかった場合は、 caret行が画面の先頭行になるまでスクロールします。

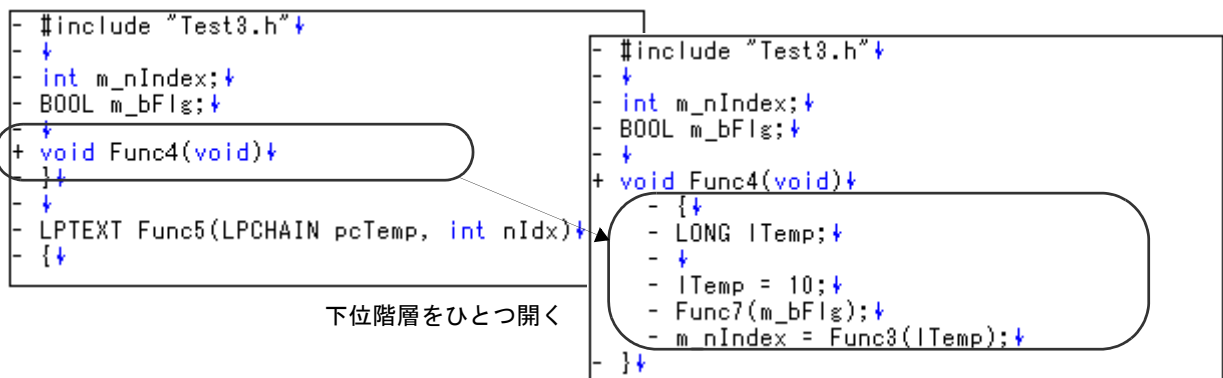
5.4.4 下位をひとつ開く

[階層]メニュー→[下位をひとつ開く]で行います。 caret行、または範囲選択した行の下位階層を1つ開きます。

下位階層を開いたとき、開いた下位階層のすべての行を表示しきれなかった場合は、 caret行が画面の先頭行になるまでスクロールします。

なお、[下位をひとつ開く]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

図 5-3 下位をひとつ開く

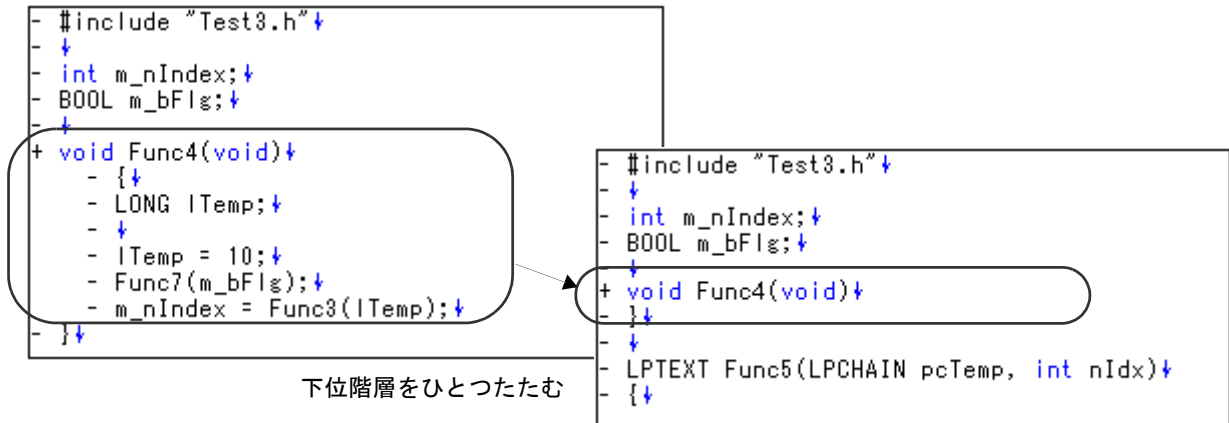


5.4.5 下位をひとつたたむ

[階層]メニュー→[下位をひとつたたむ]で行います。カーレット行，または範囲選択した行の下位階層を1つたたみます。

なお，[下位をひとつたたむ]項目は，デフォルトでは表示されません。表示したい場合は，[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]－[メニュー]タブで設定してください。

図 5-4 下位をひとつたたむ

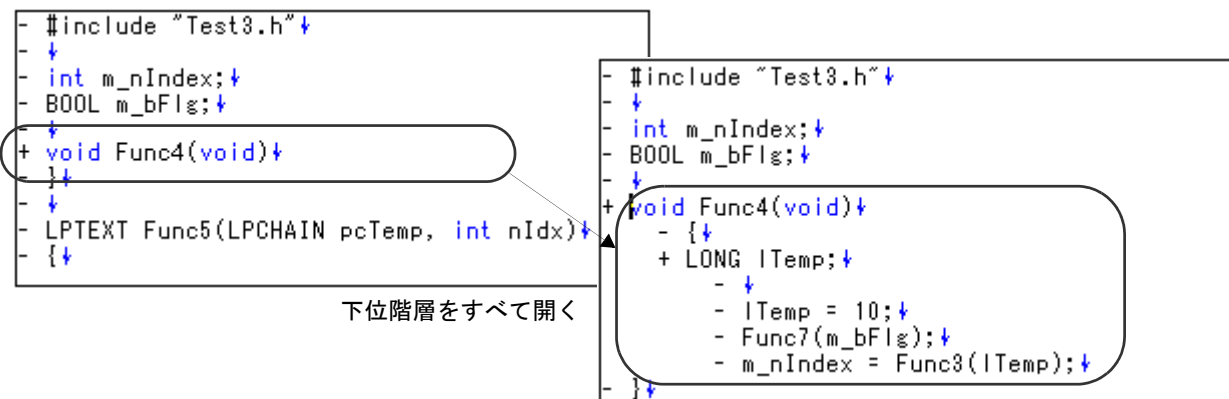


5.4.6 下位をすべて開く

[階層]メニュー→[下位をすべて開く]で行います。カーレット行，または範囲選択した行の下位階層をすべて開きます。

下位階層を開いたとき，開いた下位階層のすべての行を表示しきれなかった場合は，カーレット行が画面の先頭行になるまでスクロールします。

図 5-5 下位をすべて開く



5.4.7 すべて開く

[階層]メニュー→[すべて開く]で，編集ウィンドウの階層をすべて開きます。

5.4.8 すべてたたむ

[階層]メニュー→[すべてたたむ]で，編集ウィンドウの階層をすべてたたみます。閉じた階層にカーレットがある場合は，上位の第1階層にカーレットを移動します。

5.4.9 指定階層まで開く

[階層]メニュー→[指定階層まで開く]で、[指定階層まで開く]ダイアログを表示し、指定した階層数まで階層を開きます。

指定可能な値は、1～127です。デフォルトでは、前回の設定値が表示されます。初めて設定する場合、127となります。

5.4.10 指定階層までたたむ

[階層]メニュー→[指定階層までたたむ]で、[指定階層までたたむ]ダイアログを表示し、指定した階層数まで階層をたたみます。

指定可能な値は、1～127です。デフォルトでは、前回の設定値が表示されます。初めて設定する場合は1となります。

5.4.11 第1階層のみ表示する

[階層]メニュー→[第1階層のみ表示する]で、下位階層をたたみ、第1階層だけを表示します。

キャレット位置が第1階層以外にある場合、キャレット位置を第1階層に移動します。

なお、[第1階層のみ表示する]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.4.12 第2階層まで表示する

[階層]メニュー→[第2階層まで表示する]で、第3階層以降をたたみ、第1階層から第2階層を表示します。

キャレット位置が第2階層以外にある場合、キャレット位置を第2階層に移動します。

なお、[第2階層のみ表示する]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.4.13 第3階層まで表示する

[階層]メニュー→[第3階層まで表示する]で、第3階層以降をたたみ、第1階層から第3階層を表示します。

キャレット位置が第3階層以外にある場合、キャレット位置を第3階層に移動します。

なお、[第3階層のみ表示する]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.4.14 第4階層まで表示する

[階層]メニュー→[第4階層まで表示する]で、第5階層以降をたたみ、第1階層から第4階層を表示します。

キャレット位置が第4階層以外にある場合、キャレット位置を第4階層に移動します。

なお、[第4階層のみ表示する]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.4.15 第5階層まで表示する

[階層]メニュー→[第5階層まで表示する]で、第6階層以降をたたみ、第1階層から第5階層を表示します。

キャレット位置が第5階層以外にある場合、キャレット位置を第5階層に移動します。

なお、[第5階層のみ表示する]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブで設定してください。

5.4.16 キャレット位置の階層をたたむ

[階層]メニュー→[キャレット位置の階層をたたむ]で、キャレット行が含まれる階層の見出しをたたみます。キャレット行が下位階層を持ち、下位階層が開いている場合、下位階層もたたみます。

5.4.17 文書を階層化する

[階層]メニュー→[文書を階層化する]で、[階層化ルールの設定]ダイアログを表示し、設定したルールに従い、編集ウインドウの内容を階層化します。

5.5 表示に関する操作方法

PM+における表示に関する操作を次に示します。

なお、これらの操作は、[メイン・ウィンドウ](#)の[表示]メニューにより行います。

- 関数一覧を表示する
- 階層一覧を表示する
- スタンダードバーを表示／非表示する
- ビルドバーを表示／非表示する
- オプションバーを表示／非表示する
- 外部ツールバーを表示／非表示する
- ステータスバーを表示／非表示する
- プロジェクト・ウィンドウを表示／非表示する
- アウトプット・ウィンドウを表示／非表示する
- オブジェクト表示する／オブジェクトをアイコン化する
- すべてのオブジェクトを表示する
- すべてのオブジェクトをアイコン化する

5.5.1 関数一覧を表示する

[表示]メニュー→[関数一覧]で、[\[関数一覧\]ダイアログ](#)を表示し、[編集ウィンドウ](#)の関数一覧を表示します。関数一覧を保存したい場合は、[\[関数一覧の保存\]ダイアログ](#)で、TEXT形式、またはCSV形式で保存することができます。

5.5.2 階層一覧を表示する

[表示]メニュー→[階層一覧]で、[\[階層一覧\]ダイアログ](#)を表示し、[編集ウィンドウ](#)の階層一覧を表示します。

5.5.3 スタンダードバーを表示／非表示する

[表示]メニュー→[スタンダードバー]で、スタンダードバーの表示／非表示を切り替えます。

5.5.4 ビルドバーを表示／非表示する

[表示]メニュー→[ビルドバー]で、ビルドバーの表示／非表示を切り替えます。

5.5.5 オプションバーを表示／非表示する

[表示]メニュー→[オプションバー]で、オプションバーの表示／非表示を切り替えます。

5.5.6 外部ツールバーを表示／非表示する

[表示]メニュー→[外部ツールバー]で、外部ツールバーの表示／非表示を切り替えます。

5.5.7 ステータスバーを表示／非表示する

[表示]メニュー→[ステータスバー]で、ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。

5.5.8 プロジェクト・ウインドウを表示／非表示する

[表示]メニュー→[プロジェクト・ウインドウ]で、[プロジェクト・ウインドウ](#)の表示／非表示を切り替えます。

5.5.9 アウトプット・ウインドウを表示／非表示する

[表示]メニュー→[アウトプット・ウインドウ]で、[アウトプット・ウインドウ](#)の表示／非表示を切り替えます。

5.5.10 オブジェクト表示する／オブジェクトをアイコン化する

[表示]メニュー→[オブジェクト表示]で、挿入されているオブジェクトの表示形式を、実体とアイコンに切り替えます。

実体表示のオブジェクトを選択している場合、このメニューは、[オブジェクトをアイコン化]になります。メニューを選択すると、オブジェクトをアイコン表示に変更します。

アイコン化表示のオブジェクトを選択している場合、このメニューは、[オブジェクト表示]になります。メニューを選択すると、オブジェクトを実体表示に変更します。

5.5.11 すべてのオブジェクトを表示する

[表示]メニュー→[すべてのオブジェクトを表示]で、現在アクティブな[編集ウインドウ](#)中のオブジェクトを、すべて実体表示にします。

5.5.12 すべてのオブジェクトをアイコン化する

[表示]メニュー→[すべてのオブジェクトをアイコン化]で、現在アクティブな[編集ウインドウ](#)中のオブジェクトを、すべてアイコン表示にします。

5.6 プロジェクトに関する操作方法

PM+におけるプロジェクトに関する操作を次に示します。

なお、これらの操作は、[メイン・ウィンドウ](#)の[ファイル]メニュー、[プロジェクト]メニュー、または[プロジェクト・ウィンドウ](#)のマウスの右ボタン・メニューにより行います。

- プロジェクト・ファイルを作成する
- アクティブ・プロジェクトを選択する
- ワークスペースに新規プロジェクトを追加する
- プロジェクトの挿入
- CVS アップ・デート
- CVS コミット
- CVS ログ
- CVS ステータス
- CVS 比較
- メイクファイルのエクスポート
- プロジェクト情報の設定
- ソース・ファイルの追加
- プロジェクト関連ファイルの追加
- その他のファイルの追加
- アクティブ・プロジェクト選択コンボ・ボックスをアクティブにする
- プロジェクト・グループ名の変更
- プロジェクト・タイトル名の変更
- 使用ツールの変更
- プロジェクトの移動

5.6.1 プロジェクト・ファイルを作成する

1つのワークスペースに登録可能なプロジェクト数は、128個までです。

【新規のワークスペースにプロジェクトを登録する場合】

次の3つの方法があります。それぞれの参照項を参考にワークスペースを作成してください。

- 新規に作成する
 - ウィザード形式で、必要なプロジェクト情報を順次指定することにより作成することができます。
 - 【参照】：[「5.1.6 ワークスペースの新規作成」](#)
- PM (Ver.3.xx) で作成したプロジェクト・ファイルを利用して作成する
 - PM+ では、PM (Ver.3.xx) で作成したプロジェクト・ファイルを読み込んで使用することができます。
 - 【参照】：[「5.1.5 以前のバージョンで作成したプロジェクト・ファイルを開く」](#)
- NEC エレクトロニクス製 デバッガ/シミュレータなどで作成したプロジェクト・ファイルを利用して作成する
 - ウィザード形式で、PM+ 用にプロジェクト情報を更新して使用することができます。
 - 【参照】：[「5.1.7 ワークスペースを開く」](#)

【既存のワークスペースに新規プロジェクトを登録する場合】

- 新規に作成する
 - 【参照】：[「5.6.3 ワークスペースに新規プロジェクトを追加する」](#)

5.6.2 アクティブ・プロジェクトを選択する

[プロジェクト]メニュー→[アクティブ・プロジェクトの選択]で、[アクティブ・プロジェクトの選択]ダイアログを表示し、アクティブなプロジェクトを選択します。

アクティブ・プロジェクトとは、ビルド/デバッグの対象となるプロジェクトのことです。

5.6.3 ワークスペースに新規プロジェクトを追加する

[プロジェクト]メニュー→[新規プロジェクトを追加]で行います。

また、プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト・グループを選択→マウス右ボタンをクリック→[新規プロジェクトを追加...]を選択することによっても行うことができます。

現在開いているワークスペースに、新規にプロジェクトを追加するために、[新規プロジェクトを追加]ウィザードを表示します。順次表示される各ダイアログ上において、必要項目を入力/選択したのち、[次へ>]ボタンをクリックしてウィザードを終了させてください。

なお、最終ステップのダイアログ（[新規プロジェクトを追加 - ステップ 9/9 [設定の確認]]ダイアログ）において、[完了]ボタンをクリックすると、自動的にメイクファイルを作成します。メイクファイルの作成については、「5.6.10 メイクファイルのエクスポート」を参照してください。

5.6.4 プロジェクトの挿入

[プロジェクト]メニュー→[プロジェクトの挿入]で、[プロジェクトの挿入]ダイアログを表示し、プロジェクト・グループに既存プロジェクトを挿入します。

5.6.5 CVS アップ・デート

[プロジェクト]メニュー→[CVS アップデート]で、選択しているファイルに対して CVS のアップ・デート・コマンドを実行し、レポジトリに登録されているファイルを取得します。

なお、このメニュー項目を実行する場合は、事前に次の処理が必要です。

- cvs.exe が存在するフォルダが、Windows の PATH 変数で設定されている。
- CVS のレポジトリが設定されている。
- CVS サーバを使用している場合、ログインされている状態である。

5.6.6 CVS コミット

[プロジェクト]メニュー→[CVS コミット]で、選択しているファイルに対して、CVS コミット・コマンドを実行し、レポジトリに反映します。

なお、このメニュー項目を実行する場合は、事前に次の処理が必要です。

- cvs.exe が存在するフォルダが、Windows の PATH 変数で設定されている。
- CVS のレポジトリが設定されている。
- CVS サーバを使用している場合、ログインされている状態である。

5.6.7 CVS ログ

[プロジェクト]メニュー→[CVS ログ]で、選択しているファイルに対して、CVS ログ・コマンドを実行し、ファイル内のログ内容を[アウトプット・ウインドウ](#)に表示します。

なお、このメニュー項目を実行する場合は、事前に次の処理が必要です。

- cvs.exe が存在するフォルダが、Windows の PATH 変数で設定されている。
- CVS のレポジトリが設定されている。
- CVS サーバを使用している場合、ログインされている状態である。

5.6.8 CVS ステータス

[プロジェクト]メニュー→[CVS ステータス]で、選択しているファイルに対して、CVS ステータス・コマンドを実行し、ファイルのステータスを[アウトプット・ウインドウ](#)に表示します。

なお、このメニュー項目を実行する場合は、事前に次の処理が必要です。

- cvs.exe が存在するフォルダが、Windows の PATH 変数で設定されている。
- CVS のレポジトリが設定されている。
- CVS サーバを使用している場合、ログインされている状態である。

5.6.9 CVS 比較

[プロジェクト]メニュー→[CVS 比較]で、選択しているファイルに対して、CVS の比較コマンドを実行し、以前のバージョンと比較を行います。比較結果は、[アウトプット・ウインドウ](#)に表示します。

なお、このメニュー項目を実行する場合は、事前に次の処理が必要です。

- cvs.exe が存在するフォルダが、Windows の PATH 変数で設定されている。
- CVS のレポジトリが設定されている。
- CVS サーバを使用している場合、ログインされている状態である。

5.6.10 メイクファイルのエクスポート

[プロジェクト]メニュー→[メイクファイルのエクスポート]で、現在、アクティブなプロジェクトに対応したメイクファイルを作成します。

メイクファイル作成時、言語処理プログラムへのパラメータ・ファイルが作成される場合がありますが、これは、言語製品に依存するもので、作成されるファイルは、使用するマイクロコントローラによって異なります。

なお、メイクファイル名は、“プロジェクト・ファイル名+ .mak”となります。すでに、メイクファイルが存在する場合は、上書きします。

5.6.11 プロジェクト情報の設定

[プロジェクト]メニュー→[プロジェクトの設定]で、[\[プロジェクトの設定\]ダイアログ](#)を表示し、プロジェクト情報の設定を行います。

なお、[\[プロジェクトの設定\]ダイアログ](#)では、プロジェクト・グループ名を変更することはできません。変更したい場合は、[プロジェクト・ウインドウ](#)で、プロジェクト・グループ名を選択し、マウスの右ボタンで表示される[プロジェクト・グループ名の変更...]メニューにより行ってください。

5.6.12 ソース・ファイルの追加

[プロジェクト]メニュー→[ソース・ファイルの追加...]で、[ソース・ファイルをプロジェクトに追加]ダイアログを表示し、アクティブなプロジェクトにソース・ファイルを追加します。

5.6.13 プロジェクト関連ファイルの追加

[プロジェクト]メニュー→[プロジェクト関連ファイルの追加...]で、[プロジェクト関連ファイルの追加]ダイアログを表示し、アクティブなプロジェクトにプロジェクト関連ファイルを追加します。

5.6.14 その他のファイルの追加

[プロジェクト]メニュー→[その他のファイルの追加...]で、[その他のファイルの追加]ダイアログを表示し、アクティブなプロジェクトにユーザ任意のファイルをその他のファイルとして追加します。

5.6.15 アクティブ・プロジェクト選択コンボ・ボックスをアクティブにする

[プロジェクト]メニュー→[ダイレクト・アクティブ・プロジェクト選択]で、ツールバーのアクティブ・プロジェクト選択コンボ・ボックスをアクティブにします。プロジェクトを選択することにより、アクティブ・プロジェクトを切り換えることができます。

5.6.16 プロジェクト・グループ名の変更

プロジェクト・グループ名を変更したい場合は、[プロジェクト・ウインドウ](#)上で、プロジェクト・グループ名を選択し、マウスの右ボタンで表示される[プロジェクト・グループ名の変更...]メニューにより行ってください。

5.6.17 プロジェクト・タイトル名の変更

プロジェクト・タイトル名を変更したい場合は、[プロジェクト・ウインドウ](#)上で、プロジェクト・タイトル名を選択し、マウスの右ボタンで表示される[プロジェクト・タイトル名の変更...]メニューにより行ってください。

なお、プロジェクト・タイトル名の変更は、[プロジェクト]メニュー→[プロジェクトの設定]でも行うことができます。

5.6.18 使用ツールの変更

プロジェクト・グループに含まれるプロジェクトで使用するツールを一括して変更したい場合は、[プロジェクト・ウインドウ](#)上で、プロジェクト・グループ名を選択し、マウスの右ボタンで表示される[使用ツールの変更...]メニューにより行ってください。

アクティブなプロジェクトで使用するツールを設定したい場合は、[プロジェクト・ウインドウ](#)上で、プロジェクト・タイトル名を選択し、マウスの右ボタンで表示される[プロジェクトの設定...]メニューにより行ってください。

5.6.19 プロジェクトの移動

プロジェクトを他のプロジェクト・グループに移動したい場合は、[プロジェクト・ウインドウ](#)上で、次の手順を行ってください。

1. 移動したいプロジェクト・タイトル名を選択し、マウスの右ボタンで表示される[プロジェクトの削除]メニューにより、プロジェクトを削除します。
2. 移動させたいプロジェクト・グループ名を選択し、マウスの右ボタンで表示される[プロジェクトの挿入...]メニューにより、削除したプロジェクトを挿入します。

5.7 ビルドに関する操作方法

PM+ におけるビルドに関する操作を次に示します。

なお、これらの操作は、**メイン・ウィンドウ**の[ビルド]メニューにより行います。

- ビルド→デバッグ
- リビルド→デバッグ
- コンパイルする
- ビルドする
- ビルドを中止する
- リビルドする
- バッチ・ビルドする
- バッチ・リビルドする
- ファイルの依存関係の更新
- クリーン
- エディットする
- デバッグする
- 複数ロードモジュール・ファイルのダウンロード
- ビルド・モードを設定する
- ビルド・オプションを設定する
- バッチ・ビルドを設定する
- ビルド・モード選択コンボ・ボックスをアクティブにする

5.7.1 ビルド→デバッグ

[ビルド]メニュー→[ビルド→デバッグ]で、アクティブ・プロジェクトに対して、ビルドからデバッグまでの一括処理を行います。

ビルドが正常に終了すると、自動的にデバッグが起動され、作成したロードモジュール・ファイルをダウンロードします。ただし、デバッグ上でプログラムを実行中の場合は、エラーになります。また、ビルド中にエラーが発生した場合は、処理を中止し、デバッグを起動しません。

ビルド中に言語処理ツールから出力されたメッセージは、ログ・ファイルに出力されます。ログ・ファイルは、プロジェクト・フォルダに作成され、ファイル名は“プロジェクト・ファイル名.plg”になります。

ビルドを中止したい場合、[ビルド]メニュー→[ビルドの中止]を選択してください。

5.7.2 リビルド→デバッグ

[ビルド]メニュー→[リビルド→デバッグ]で、アクティブ・プロジェクトに対して、リビルドからデバッグまでの一括処理を行います。[ビルド]では、ビルド時にソース・ファイル、およびソース・ファイルと依存関係のあるファイルのスキャンを行い、タイムスタンプが更新されていた場合、ソース・ファイルのビルドを行いますが、[リビルド]では、すべてのソース・ファイルを無条件にビルドします。

リビルドが正常に終了すると、自動的にデバッグが起動され、作成したロードモジュール・ファイルをダウンロードします。ただし、デバッグ上でプログラムを実行中の場合は、エラーになります。また、リビルド中にエラーが発生した場合は、処理を中止し、デバッグを起動しません。

ビルド中に言語処理ツールから出力されたメッセージは、ログ・ファイルに出力されます。ログ・ファイルは、プロジェクト・フォルダに作成され、ファイル名は“プロジェクト・ファイル名.plg”になります。

ビルドを中止したい場合、[ビルド]メニュー→[ビルドの中止]を選択してください。

5.7.3 コンパイルする

[ビルド]メニュー→[コンパイル]で、プロジェクト・ウインドウで選択しているファイルに対して言語ツール（アセンブラ、コンパイラ）を実行します。“コンパイル”は“ビルド”の一部ですが、オブジェクト・ファイルのリンクまでは行わないことを、コンパイルと呼んでいます。なお、アセンブラ・ソースに対しても、“コンパイル”の実行でアセンブラを起動します。

コンパイル中に言語処理ツールから出力されたメッセージは、アウトプット・ウインドウに表示されるとともに、ログ・ファイルに出力されます。ログ・ファイルは、プロジェクト・フォルダに作成され、ファイル名は“プロジェクト・ファイル名.plg”になります。

5.7.4 ビルドする

[ビルド]メニュー→[ビルド]で、アクティブ・プロジェクトに対して、一連の言語ツール（アセンブラ、コンパイラ、リンク・コマンドなど）を起動します。[ビルド]では、ビルド時にソース・ファイル、およびソース・ファイルと依存関係のあるファイルのスキャンを行い、タイムスタンプが更新されていた場合、ソース・ファイルのビルドを行います。

ビルド時には、デフォルトでメイクファイルを作成します。メイクファイル名は、“プロジェクト・ファイル名.mak”となります。また、オプションなどの設定が変更されたあとのビルド時には、デフォルトでメイクファイルを更新します。

ビルド中に言語処理ツールから出力されたメッセージは、アウトプット・ウインドウに表示されるとともに、ログ・ファイルに出力されます。ログ・ファイルは、プロジェクト・フォルダに作成され、ファイル名は“プロジェクト・ファイル名.plg”になります。

ビルドを中止したい場合、[ビルド]メニュー→[ビルドの中止]を選択してください。

【注意】

PM (Ver.3.xx) では、デバッグ起動中にビルドを実行すると、自動的にロードモジュール・ファイルをダウンロードしていましたが、PM+ では、ダウンロードは行いません。ビルドからダウンロードまでの一括処理を行いたい場合は、[ビルド→デバッグ]を使用してください。

5.7.5 ビルドを中止する

[ビルド]メニュー→[ビルドの中止]で、ビルド実行中の場合は、ビルド処理を中止し、バッチ・ビルド、またはバッチ・リビルド実行中の場合は、Question メッセージが表示され、ビルド処理を一時停止します。

5.7.6 リビルドする

[ビルド]メニュー→[リビルド]で、アクティブ・プロジェクトに対して、一連の言語ツール（アセンブラ、コンパイラ、リンク・コマンドなど）を起動します。

[ビルド]では、ビルド時にソース・ファイル、およびソース・ファイルと依存関係のあるファイルのスキャンを行い、タイムスタンプが更新されていた場合、ソース・ファイルのビルドを行いますが、[リビルド]では、すべてのソース・ファイルを無条件にビルドします。

ビルド中に言語処理ツールから出力されたメッセージは、アウトプット・ウインドウに表示されるとともに、ログ・ファイルに出力されます。ログ・ファイルは、プロジェクト・フォルダに作成され、ファイル名は“プロジェクト・ファイル名.plg”になります。

ビルドを中止したい場合、[ビルド]メニュー→[ビルドの中止]を選択してください。

【注意】

PM (Ver.3.xx) では、デバッグ起動中にビルドを実行すると、自動的にロードモジュール・ファイルをダウンロードしていましたが、PM+ では、ダウンロードは行いません。リビルドからダウンロードまでの一括処理を行いたい場合は、[リビルド→デバッグ]を使用してください。

5.7.7 バッチ・ビルドする

[ビルド]メニュー→[バッチ・ビルド]で、[バッチ・ビルドの設定]ダイアログを表示し、ワークスペースに登録している複数のプロジェクトのうち、[バッチ・ビルドの設定]ダイアログで指定したプロジェクトのビルドを行います。

5.7.8 バッチ・リビルドする

[ビルド]メニュー→[バッチ・リビルド]で、[バッチ・ビルドの設定]ダイアログを表示し、ワークスペースに登録している複数のプロジェクトのうち、[バッチ・ビルドの設定]ダイアログで指定したプロジェクトのリビルドを行います。

5.7.9 ファイルの依存関係の更新

[ビルド]メニュー→[依存関係の更新]で、ソース・ファイル、およびインクルード・ファイルの依存関係を更新し、プロジェクト・ウインドウに更新内容を反映します。

【注意】

コンパイラ・オプションの設定、アセンブラ・オプションの設定で、依存関係に影響する変更（インクルード・ファイルのパスの変更など）をした場合には、依存関係の更新をする必要があります。

5.7.10 クリーン

[ビルド]メニュー→[クリーン]で、プロジェクトをビルドすることにより生成する中間ファイルと、出力ファイルを、すべて削除します。削除時に、ユーザへの確認は行いません。

5.7.11 エディットする

[ビルド]メニュー→[エディット]で、プロジェクト・ウインドウで選択したファイルを選択したエディタで開きます。編集ウインドウで、編集可能なファイル以外を指定した場合、新規作成で外部エディタを開きます。

5.7.12 デバッグする

[ビルド]メニュー→[デバッグ]で、デバッグを起動し、ロードモジュール・ファイルをダウンロードします。ダウンロードの際、アウトプット・ウインドウにファイル名が表示されます。

ロードモジュールのダウンロードの際、すでに起動されているデバッグ上でプログラムを実行しているとエラーとなります。プログラムを停止後、[デバッグ]を選択してください。

5.7.13 複数ロードモジュール・ファイルのダウンロード

[ビルド]メニュー→[複数ロードモジュール・ファイルのダウンロード]で、複数のロードモジュールをデバッグにロードします。

ロードするロードモジュール・ファイルは、アクティブなプロジェクトのデバッグ・ターゲット・ファイル、および[デバッグの設定]ダイアログで、[ダウンロード・ファイル一覧]リストで指定したファイルです（[同じグループ内の複数のデバッグ・ターゲット・ファイルをダウンロードする]をチェックしておく必要があります）。

デバッグにダウンロードする際は、アウトプット・ウインドウにダウンロードするファイル名を表示します。

【注意】

このメニューは、V850 マイクロコントローラのデバイスを使用するプロジェクトがアクティブになっている場合のみ有効になります。

5.7.14 ビルド・モードを設定する

[ビルド]メニュー→[ビルド・モードの設定]で、[ビルド・モードの設定]ダイアログを表示し、ビルド・モードの選択、追加、削除を行います。

5.7.15 ビルド・オプションを設定する

[ビルド]メニュー→[ビルド設定]で、[ビルド設定]ダイアログを表示し、ビルドに関するオプションの設定を行います。

設定できる項目は、次の通りです。

- ビルド時のオプション設定
- ビルド前に行いたい処理の設定
- ビルド後に行いたい処理の設定

5.7.16 バッチ・ビルドを設定する

[ビルド]メニュー→[バッチ・ビルド設定]で、[バッチ・ビルドの設定]ダイアログを表示し、バッチ・ビルド、またはバッチ・リビルドを行うプロジェクトの選択とビルド順の指定を行います。

5.7.17 ビルド・モード選択コンボ・ボックスをアクティブにする

[ビルド]メニュー→[ダイレクト・ビルド・モード選択]で、ツールバーのビルド・モード選択コンボ・ボックスをアクティブにします。ビルド・モードを選択することができます。

5.8 ツールに関する操作方法

PM+ におけるツールに関する操作を次に示します。

なお、これらの操作は、**メイン・ウィンドウ**の [ツール] メニューにより行います。

- 各ツールのオプションを設定する
- 使用するリアルタイム OS を選択する
- ロードモジュールやオブジェクトをダンプをする
- 使用するデバッガの選択、設定を行う
- 外部ツールを登録する
- 外部ツールを起動する
- ファイルを比較する
- デバイス・ファイルをインストールする
- 環境を設定する
- フォントを指定する
- 設定をカスタマイズする
- キー操作を記録する
- キー操作を再生する
- キー操作を保存する
- キー操作に対応するコマンド
- キー操作を読み込む
- マクロを実行する
- マクロを登録する
- 登録マクロを実行する

5.8.1 各ツールのオプションを設定する

[ツール]メニューには、PM+ 上で動作するツールのオプションを設定するためのメニュー項目を表示します。選択したメニューの動作については、各ツールのマニュアルを参照してください。

5.8.2 使用するリアルタイム OS を選択する

[ツール]メニュー→[RTOS の選択 ...]で、**[RTOS の選択] ダイアログ**を表示し、アクティブ・プロジェクトで使用するリアルタイム OS を選択します。

【注意】

このメニューは、使用するマイクロコントローラのリアルタイム OS が使用するホスト・マシンにインストールされている場合のみ表示されます。

5.8.3 ロードモジュールやオブジェクトをダンプをする

[ツール]メニュー→[dump850...]で、**[dump850] ダイアログ**を表示し、ダンプ・コマンド dump850 を起動します。結果は、**編集ウィンドウ**に表示します。

解析する対象は、**[dump850] ダイアログ**で指定した、アクティブなプロジェクトのロードモジュール・ファイル、またはアクティブな**編集ウィンドウ/プロジェクト・ウィンドウ**で選択しているソース・ファイルから生成したオブジェクト・ファイルとなります。また、アクティブな**編集ウィンドウ**が IDL ファイルだった場合、キャレット位置のソース・ファイルから生成したオブジェクト・ファイルとなります。

解析結果は、“プロジェクト・ファイル名.dmp”の形式で保存されます。すでに、同一ファイル名が存在する場合は、以前のファイルを“プロジェクト・ファイル名.dmp.bak”の形式にリネームします。

dump850 の実行は、[Esc] キーの入力により、中断することができます。この場合は、結果の表示はされません。

なお、dump850 についての詳細は、CA850 コンパイラ・パッケージのマニュアルを参照してください。

【注意】

このメニューは、V850 マイクロコントローラのデバイスを使用するプロジェクトがアクティブ、および使用ツールとして CA850 (Ver.3.10 以前) が指定されている場合のみ表示されます。

5.8.4 使用するデバッガの選択, 設定を行う

[ツール]メニュー→[デバッガの設定...]で、[デバッガの設定]ダイアログを表示し、使用するデバッガの選択、ダウンロード・ファイルの設定などを行います。

5.8.5 外部ツールを登録する

[ツール]メニュー→[外部ツールの登録...]で、[外部ツールの登録]ダイアログを表示し、使用する外部ツールを登録します。外部ツールは、最大 10 個まで登録することができます。

外部ツールとして設定したツールは、外部ツールバーのボタンとして、設定ツールのアイコンを表示します。

5.8.6 外部ツールを起動する

[ツール]メニューの項目として、[ツール]メニュー→[外部ツールの登録...]で登録した外部ツールを起動するメニューが表示されます。

起動する際の引数や、カレント・フォルダは、[外部ツールの登録...]で設定した内容になります。

5.8.7 ファイルを比較する

[ツール]メニュー→[ファイル比較]で、[ファイル比較]ダイアログ表示し、選択した編集ウインドウの内容を比較します。

5.8.8 デバイス・ファイルをインストールする

[ツール]メニュー→[デバイス・ファイルインストーラ]で、デバイス・ファイルのインストーラ (DFINST) を起動します。

該当するデバイス・ファイルがない場合は、次のサイトからダウンロードしてください。

<http://www.necel.com/micro/ods/jpn/index.html>

なお、ダウンロード・サイトへは、[ヘルプ]メニュー→[NEC エレクトロニクス マイコン Web] の選択でもアクセスすることができます。

5.8.9 環境を設定する

[ツール]メニュー→[環境設定...]で、[環境設定]ダイアログを表示し、PM+ の各種環境設定を行います。設定できる環境は、次のとおりです。

- ワークスペース関係のオプション設定
- 外部エディタの設定
- ファイル関係の設定
- IDL ファイルが生成するソース・ファイルの設定
- ウィンドウのサイズや位置などの設定

- パス関係の設定
- 編集関係の設定
- ウィンドウ表示関係の設定
- 階層関係の設定
- 編集ウィンドウのスクロール関係の設定
- 検索、および置換関係の設定

5.8.10 フォントを指定する

[ツール]メニュー→[フォント]で、[フォント]ダイアログを表示し、編集ウィンドウに表示するフォントの種類とサイズを選択します。

5.8.11 設定をカスタマイズする

[ツール]メニュー→[カスタマイズ]で、[カスタマイズ]ダイアログを表示し、各設定をカスタマイズします。カスタマイズできる項目は、次のとおりです。

- 各メニューに割り当てられたショートカット・キーの変更
- 表示するメニュー項目の変更
- 表示するツールバーの変更
- マウスの右ボタン・メニュー、ショートカット・メニューの変更
- 各キーワードの強調表示と色の設定

5.8.12 キー操作を記録する

[ツール]メニュー→[キー操作の記録開始/記録終了]で、キー操作の記録を開始、終了します。

キー操作の記録中でない場合、このメニューは、[キー操作の記録開始]になります。メニューを選択すると、キー操作の記録を開始します。

キー操作の記録中である場合、このメニューは、[キー操作の記録終了]になります。メニューを選択すると、キー操作の記録を終了します。

キー操作の記録中は、ウィンドウのタイトルに、“記録中”と表示されます。

5.8.13 キー操作を再生する

[ツール]メニュー→[キー操作の再生]で、記録したキー操作を再生します。記録中に行った場合は、記録を終了して再生します。

[ツール]メニュー→[キー操作の読み込み]で、以前のキー操作を読み込んだ場合は、そのキー操作を再生します。

5.8.14 キー操作を保存する

[ツール]メニュー→[キー操作の保存]で、[キー操作の保存]ダイアログを表示し、記録したキー操作をファイルに保存します。

保存するファイル（マクロ・ファイル）の拡張子は“.imc”になります。

5. 8. 15 キー操作に対応するコマンド

記録したキー操作を保存する際、保存先のマクロ・ファイル (.imc) には、各キー操作に対応するコマンドが記述されます。

マクロ・ファイルはテキスト形式で、参照や修正を行うことができます。また、規定された書式に従って、マクロ・ファイルに追加することができます（「付録 B キーボード・マクロ用コマンド一覧」参照）。

5. 8. 16 キー操作を読み込む

[ツール]メニュー→[キー操作の読み込み]で、[\[キー操作の読み込み\]ダイアログ](#)を表示し、指定したファイル (.imc) からキー操作を読み込みます。再生したい場合は、[ツール]メニュー→[キー操作の再生]を行ってください。

5. 8. 17 マクロを実行する

[ツール]メニュー→[マクロ実行]で、[\[マクロ実行\]ダイアログ](#)を表示し、指定したファイル (.imc) からキー操作を読み込み、再生します。

5. 8. 18 マクロを登録する

[ツール]メニュー→[マクロ登録]で、[\[マクロ登録\]ダイアログ](#)を表示し、指定したファイル (.imc) をキーに登録します。

5. 8. 19 登録マクロを実行する

[ツール]メニュー→[登録マクロの実行]で、[マクロ登録]で登録したマクロを実行します。

5.9 ウィンドウに関する操作方法

PM+におけるウィンドウに関する操作を次に示します。

なお、これらの操作は、**メイン・ウィンドウ**の[ウィンドウ]メニューにより行います。

- 重ねて表示する
- 上下に並べて表示する
- 左右に並べて表示する
- 分割する
- 次の分割ウィンドウに移動する
- 次のウィンドウに移動する
- 前のウィンドウに移動する
- ウィンドウ一覧を表示する

5.9.1 重ねて表示する

[ウィンドウ]メニュー→[重ねて表示]で、編集中の各ウィンドウをカスケード表示します。

5.9.2 上下に並べて表示する

[ウィンドウ]メニュー→[上下に並べて表示]で、編集中の各**編集ウィンドウ**を縦方向（横長）に並べて表示します。

5.9.3 左右に並べて表示する

[ウィンドウ]メニュー→[左右に並べて表示]で、編集中の各**編集ウィンドウ**を横方向（縦長）に並べて表示します。

5.9.4 分割する

[ウィンドウ]メニュー→[分割]で、アクティブな**編集ウィンドウ**を分割して表示します。分割後、一方の**編集ウィンドウ**を編集した場合、編集内容は、両方のウィンドウに反映されます。

分割するには、次の2つの方法があります。

- [ウィンドウ]メニュー→[分割]選択後、分割位置を指定する
- **編集ウィンドウ**の垂直スクロールバーの最上部にマウスを移動させると、分割可能カーソルを表示するので、それにより分割位置を指定する

分割を解除するには、次の2つの方法があります。

- マウスで分割線を最上位か最下位に移動させる
- 分割線上で、マウス左ボタンをダブル・クリックする

5.9.5 次の分割ウィンドウに移動する

[ウィンドウ]メニュー→[次の分割ウィンドウ]で、分割している一方のウィンドウから、もう一方のウィンドウにフォーカスを移動します。

5.9.6 次のウィンドウに移動する

[ウィンドウ]メニュー→[次のウィンドウ]で、現在アクティブなウィンドウのZオーダー順（ウィンドウの重なり順）で、次のウィンドウをアクティブにします。

なお、[次のウィンドウ]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]－[メニュー]タブで設定してください。

5.9.7 前のウィンドウに移動する

[ウィンドウ]メニュー→[前のウィンドウ]で、現在アクティブなウィンドウのZオーダー順（ウィンドウの重なり順）で、前のウィンドウをアクティブにします。

なお、[前のウィンドウ]項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]－[メニュー]タブで設定してください。

5.9.8 ウィンドウ一覧を表示する

[ウィンドウ]メニュー→[ウィンドウ一覧]で、表示しているウィンドウの一覧を[ウィンドウ一覧]ダイアログに表示します。

5.10 ヘルプに関する操作方法

PM+ におけるヘルプに関する操作を次に示します。

なお、これらの操作は、**メイン・ウインドウ**の [ヘルプ] メニューにより行います。

- PM+ のヘルプを起動する
- メイン・ウインドウのヘルプを起動する
- カレント・ウインドウのヘルプを起動する
- ショートカット一覧を表示する
- NEC エレクトロニクス マイコン Web
- V850 ツール FAQ
- 78K ツール FAQ
- 外部ヘルプ 1
- 外部ヘルプ 2
- 外部ヘルプ 3
- PM+ のバージョン情報

5.10.1 PM+ のヘルプを起動する

[ヘルプ]メニュー→[PM+ のヘルプ]で、PM+ のヘルプを起動します。

5.10.2 メイン・ウインドウのヘルプを起動する

[ヘルプ]メニュー→[メイン・ウインドウ]で、PM+ の**メイン・ウインドウ**のヘルプを起動します。

5.10.3 カレント・ウインドウのヘルプを起動する

[ヘルプ]メニュー→[カレント・ウインドウ]で、PM+ のアクティブなウインドウのヘルプを起動します。

5.10.4 ショートカット一覧を表示する

[ヘルプ]メニュー→[ショートカット一覧]で、**[ショートカット・キー一覧]ダイアログ**を表示し、PM+ で設定しているショートカット・キーの一覧を表示します。

5.10.5 NEC エレクトロニクス マイコン Web

[ヘルプ]メニュー→[NEC エレクトロニクス マイコン Web]で、次に示す NEC エレクトロニクス マイコンホームページを表示します。

<http://www.necel.com/micro/index.html>

5.10.6 V850 ツール FAQ

[ヘルプ]メニュー→[V850 ツール FAQ]で、次に示す V850 ツール FAQ のホームページを表示します。

<http://www.necel.com/ja/faq/micro-1.html?dvc=v850>

5. 10. 7 78K ツール FAQ

[ヘルプ]メニュー→[78K ツール FAQ]で、次に示す 78K ツール FAQ のホームページを表示します。

<http://www.necel.com/ja/faq/micro-1.html?dvc=78k>

5. 10. 8 外部ヘルプ 1

[ヘルプ]メニュー→[外部ヘルプ 1]で、[ツール]→[環境設定 ...]の[パス]タブにおいて、“外部ヘルプファイル (1) [Shift] + [F1]” で設定したヘルプ・ファイルを起動します。

5. 10. 9 外部ヘルプ 2

[ヘルプ]メニュー→[外部ヘルプ 2]で、[ツール]→[環境設定 ...]の[パス]タブにおいて、“外部ヘルプファイル (2) [Ctrl] + [F1]” で設定したヘルプ・ファイルを起動します。

5. 10. 10 外部ヘルプ 3

[ヘルプ]メニュー→[外部ヘルプ 3]で、[ツール]→[環境設定 ...]の[パス]タブにおいて、“外部ヘルプファイル (3) [Shift] + [Ctrl] + [F1]” で設定したヘルプ・ファイルを起動します。

5. 10. 11 PM+ のバージョン情報

[ヘルプ]メニュー→[PM+ のバージョン情報]で、PM+ のバージョン情報を表示します。プロジェクト・ファイルを開いている場合は、プロジェクトに対応した NEC エレクトロニクス製ツールのバージョンと、デバイス・ファイルのバージョンも表示します。

第6章 ウィンドウ・リファレンス

6.1 ウィンドウ構成

PM+ は、[メイン・ウィンドウ](#)を中心に、次のウィンドウ／ウィザード／ダイアログを表示します。

表 6-1 ウィンドウ／ウィザード／ダイアログ一覧

ウィンドウ／ウィザード／ダイアログ名	内容
メイン・ウィンドウ	PM+ を起動すると、最初にオープンするウィンドウです。このウィンドウを中心に、各種ウィンドウの操作を行います。
プロジェクト・ウィンドウ	現在、開いているプロジェクトの各種情報を表示するウィンドウです。
編集ウィンドウ	ソース・プログラムを編集するウィンドウです。
検索結果ウィンドウ	検索を行った際に、その結果を表示するウィンドウです。
アウトプット・ウィンドウ	ビルドを行った際のメイクファイルの実行状況を表示するウィンドウです。
[ワークスペースの新規作成]ウィザード	ワークスペース、およびそれに属するプロジェクトを新規に作成します。
[新規プロジェクトを追加]ウィザード	現在開いているワークスペースに、新規にプロジェクトを追加します。
[プロジェクトの設定]ウィザード	他の NEC エレクトロニクス製ツール (デバッガやシミュレータなど) で作成したプロジェクト・ファイルを PM+ 用のプロジェクト・ファイルに更新します。
[ファイルを開く]ダイアログ	指定したファイルを開きます。
[挿入読み込み]ダイアログ	選択したファイルを、アクティブな 編集ウィンドウ のキャレット行の上に挿入します。
[ワークスペースを開く]ダイアログ	指定したワークスペース・ファイルを開きます。
[名前を付けて保存]ダイアログ	指定したファイルに名前を付けて保存します。
[ソース・ファイル保存オプション]ダイアログ	ソース・ファイルを保存する際の各種オプションを設定します。
[ソース・ファイル名の変更]ダイアログ	編集中の IDL ファイルのソース・ファイル名を指定したファイル名に変更します。
[指定ソース・ファイル名の変更]ダイアログ	[ソース・ファイル名の変更]ダイアログ で指定したファイルのソース・ファイル名を指定したファイル名に変更します。
[複数ソース・ファイル名の変更]ダイアログ	[ソース・ファイル名の変更]ダイアログ で指定した複数のファイルのソース・ファイル名を指定したファイル名に変更します。
[コメント記号のユーザ設定]ダイアログ	ファイルのコメント記号を変更します。
[印刷]ダイアログ	現在アクティブなウィンドウの印刷をします。
[フォント]ダイアログ (印刷)	印刷フォントの設定を行います。
[ヘッダ・フッタの設定]ダイアログ	印刷する際のヘッダ・フッタの内容を変更します。
[キーワードによるグループ化]ダイアログ	指定した文字列を含む行を収集し、収集結果として 編集ウィンドウ の先頭に、第 1 階層に検索文字列、第 2 階層に収集した行を表示します。
[プロトタイプ宣言生成方法の指定]ダイアログ	関数のプロトタイプ宣言を自動生成します。
[文字列の検索]ダイアログ	文字列の検索を行います。
[文字列の置換]ダイアログ	文字列の置換を行います。

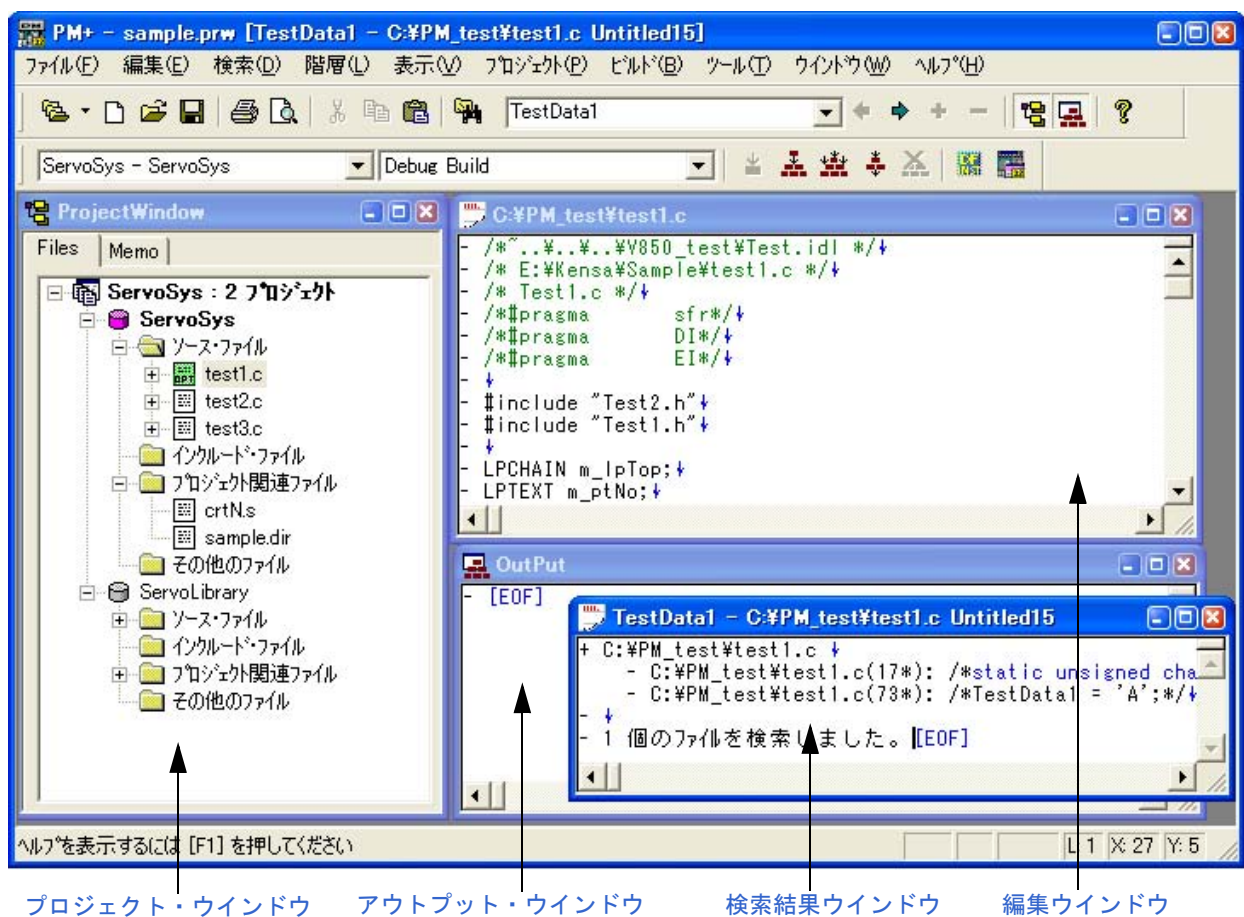
ウィンドウ／ウィザード／ダイアログ名	内容
[指定行へジャンプ]ダイアログ	先頭からの表示行数を指定することにより、目的の行（指定した行）までジャンプします。
[指定ソース・ファイルへジャンプ]ダイアログ	ソース・ファイル名と行番号を指定することにより、目的の行までジャンプします。
[マーク・ジャンプ]ダイアログ	現在のキャレットがある行をマークするか、またはマークされた行へキャレットを移動します。
[グローバル検索]ダイアログ	指定したフォルダ上の複数のファイルを対象に、文字列の検索を行います。
[グローバル置換]ダイアログ	指定したフォルダ上の複数のファイルを対象に、文字列の置換を行います。
[指定階層まで開く]ダイアログ	指定した階層数まで、階層を開きます。
[指定階層までたたむ]ダイアログ	指定した階層数まで、階層をたたみます。
[階層化ルールの設定]ダイアログ	編集ウィンドウの内容を、階層化ルールに従い階層化します。または、ファイル読み込み時の階層化ルールを設定します。
[関数一覧]ダイアログ	アクティブな編集ウィンドウの関数一覧を表示します。
[関数一覧の保存]ダイアログ	[関数一覧]ダイアログで表示している関数一覧を保存します。
[階層一覧]ダイアログ	階層一覧を表示します。
[アクティブ・プロジェクトの選択]ダイアログ	アクティブにするプロジェクトの選択をします。
[プロジェクトの挿入]ダイアログ	プロジェクト・グループに既存のプロジェクトを挿入します。
[CVS アップデート]ダイアログ	選択しているファイルに対して CVS のアップ・デート・コマンドを実行し、レポジトリに登録されているファイルを取得します。
[CVS コミット]ダイアログ	選択しているファイルに対して、CVS コミット・コマンドを実行し、レポジトリに反映します。
[CVS ログ]ダイアログ	選択しているファイルに対して、CVS ログ・コマンドを実行し、ファイル内のログ内容をアウトプット・ウィンドウに表示します。
[CVS ステータス]ダイアログ	選択しているファイルに対して、CVS ステータス・コマンドを実行し、ファイルのステータスをアウトプット・ウィンドウに表示します。
[プロジェクトの設定]ダイアログ	現在のアクティブ・プロジェクトの情報を設定します。
[ソース・ファイルをプロジェクトに追加]ダイアログ	プロジェクトにソース・ファイルを追加します。
[プロジェクト関連ファイルの追加]ダイアログ	プロジェクト関連ファイルをプロジェクトに追加します。
[その他のファイルの追加]ダイアログ	ユーザ任意のファイルをその他のファイルとしてプロジェクトに追加します。
[プロジェクト・グループ名の変更]ダイアログ	プロジェクト・グループ名の変更を行います。
[プロジェクト・タイトルの変更]ダイアログ	プロジェクト・タイトルの変更を行います。
[ツールバージョン設定]ダイアログ	選択したプロジェクト・グループに含まれるプロジェクトに対して、プロジェクトで使用するツールの変更を一括して行います。
[ツールバージョン詳細設定]ダイアログ	使用するツールとそのバージョンの選択を行います。
[プロパティ]ダイアログ	選択したファイルのパス情報や読み取り属性などを表示します。
[新規メモを追加]ダイアログ	新規にメモを追加します。
[スタートアップファイルの指定]ダイアログ	スタート・アップ・ファイルに既存のファイルを使用する場合、スタート・アップ・ファイルを指定します。

ウィンドウ／ウィザード／ダイアログ名	内容
[コピー元のスタート・アップ ファイルの指定] ダイアログ	スタート・アップ・ファイルを指定する際に、既存のファイルをコピーして使用する場合、コピー元のスタート・アップ・ファイルを指定します。
[登録するスタートアップ ファイル名の指定] ダイアログ	登録するスタート・アップ・ファイルを指定します。
[リンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログ	リンク・ディレクティブ・ファイルに既存のファイルを使用する場合、リンク・ディレクティブ・ファイルを指定します。
[コピー元のリンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログ	リンク・ディレクティブ・ファイルを指定する際に、既存のファイルをコピーして使用する場合、コピー元のリンク・ディレクティブ・ファイルを指定します。
[登録するリンク ディレクティブ ファイル名の指定] ダイアログ	登録するリンク・ディレクティブ・ファイルを指定します。
[プロジェクトの選択] ダイアログ	ワークスペース・ファイル、またはプロジェクト・ファイルを開いた状態で、プロジェクト・ウィンドウにソース・ファイルをドラッグ・アンド・ドロップした場合、追加の対象となるプロジェクトを指定します。
[バッチ・ビルドの設定] ダイアログ	ワークスペースに登録している複数のプロジェクト中、選択したプロジェクトのビルドを行います。
[ビルド・モードの設定] ダイアログ	ビルド・モードの選択、追加、削除を行います。
[ビルド・モードの追加] ダイアログ	ビルド・モードの追加を行います。
[ビルド設定] ダイアログ	ビルドに関するオプションの設定を行います。
[コマンドの追加] ダイアログ	ビルド実行時、ビルド処理を行う前、または後に必要な処理（出力したファイルを他のフォルダにコピーするなど）がある場合、そのコマンドを指定します。
[コマンドの編集] ダイアログ	ビルド実行時、ビルド処理を行う前、または後に必要な処理として指定されているコマンドを編集します。
[RTOS の選択] ダイアログ	現在のアクティブ・プロジェクトで使用するリアルタイム OS の選択をします。
[dump850] ダイアログ	ダンプ・コマンド dump850 を起動します。
[デバッグの設定] ダイアログ	使用するデバッグの各種設定をします。
[外部ツールの登録] ダイアログ	使用する外部ツールの登録（追加）、内容の変更、削除を行います（最大 10 個まで登録可能）。また、現在設定している内容を表示します。
[外部ツールの指定] ダイアログ	使用する外部ツールの指定を行います。
[ファイル比較] ダイアログ	2 つの編集ウィンドウの内容を比較します。
[環境設定] ダイアログ	各種環境の設定を行います。
[ユーザ設定] ダイアログ	スマート・ルック・アップ機能のための、任意のキーワードを設定します。
[フォント] ダイアログ	編集ウィンドウに表示するフォントの種類とサイズを選択します。
[カスタマイズ] ダイアログ	キーボード、メニューバー、ツールバー、ユーザ・メニュー、キーワードのオプションの設定を行います。
[ユーザ定義キーワードの編集] ダイアログ	任意の文字列を強調表示するためのユーザ定義キーワードを編集します。
[C 言語予約語の編集] ダイアログ	C 言語の予約語を強調表示するためのキーワードを編集します。
[キー操作の保存] ダイアログ	記録したキー操作をファイルに保存します。
[キー操作の読み込み] ダイアログ	保存したマクロ・ファイルを読み込みます。

ウィンドウ／ウィザード／ダイアログ名	内容
[マクロ実行] ダイアログ	保存したマクロ・ファイルからキー操作を読み込み、マクロを実行します。
[マクロ登録] ダイアログ	マクロ・ファイルをキーに登録します。
[マクロ・ファイルの追加] ダイアログ	マクロ・ファイルをマクロ登録に追加します。
[マクロ・ファイルの変更] ダイアログ	マクロの登録内容を変更します。
[ウィンドウ一覧] ダイアログ	表示しているウィンドウの一覧を表示します。
[ショートカット・キー一覧] ダイアログ	PM+ で設定しているショートカット・キーの一覧を表示します。
[PM+ のバージョン情報] ダイアログ	PM+ のバージョン情報を表示します。

図 6-1 に、各ウィンドウを表示した際のイメージを示します。

図 6-1 ウィンドウ構成イメージ



6.2 入力規則

次に、PM+ のウィンドウ、ダイアログで文字セットを入力する際の規則を示します。

(1) ファイル名

- ファイル名は、a-z, A-Z, 0-9, ., _, +, - のいずれかの文字で構成されます。
- ファイル名の先頭に, ., +, - は使えません。
- ファイル名の最後に, . は使えません。
- 英大文字 (A-Z), 英小文字 (a-z) は区別されません。
- ファイル名は、パスを含めて最大 259 文字です。

【注意】

ワークスペース・ファイル名、プロジェクト・ファイル名の場合、最大 255 文字となります。

(2) パス名

- パス名は、a-z, A-Z, 0-9, ., _, +, -, 半角スペースのいずれかの文字で構成されます。
- パス名の先頭に, ., +, -, 半角スペースは使えません。
- パス名の最後に, ., 半角スペースは使えません。
- 英大文字 (A-Z), 英小文字 (a-z) は区別されません。
- パス名は、最大 259 文字です。

6.3 ウィンドウ／ウィザード／ダイアログの説明

PM+ のウィンドウ／ウィザード／ダイアログについて、主に次の形式で説明します。

ウィンドウ／ウィザード／ダイアログ名

ここでは、ウィンドウ／ウィザード／ダイアログの簡単な機能説明と注意事項を示します。
また、表示されるイメージと、関連項目として、関係する操作の項目を示します。

オープン方法

ここでは、ウィンドウ／ウィザード／ダイアログのオープン方法を記述します。
2つ以上の方法が列記されている場合には、いずれかの方法により、オープンできます。

各エリア説明

ここでは、ウィンドウ／ダイアログ内の各エリアへの設定／表示項目の説明をします。

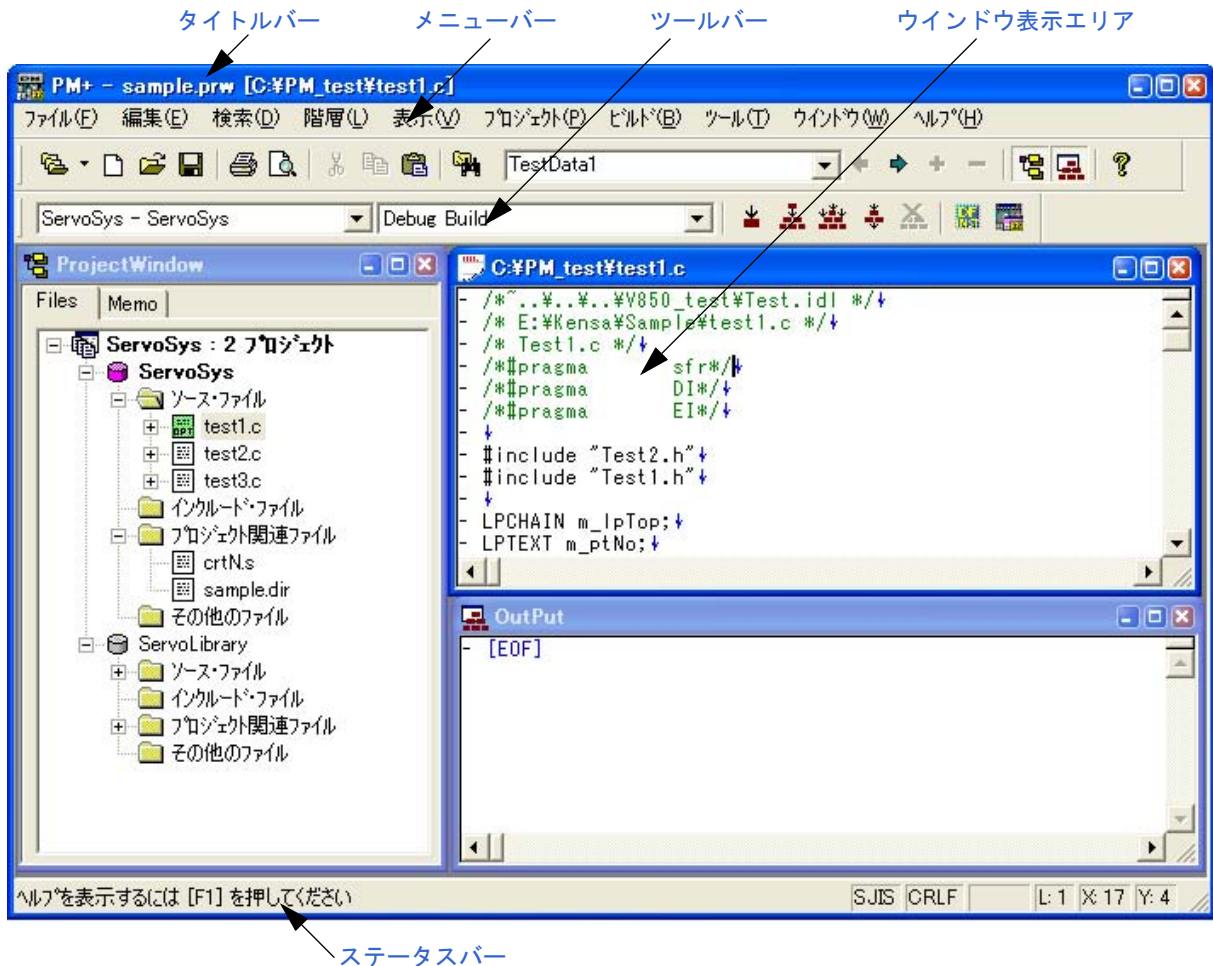
機能ボタン

ここでは、ウィンドウ／ダイアログ内のボタンによる動作の説明をします。

メイン・ウィンドウ

PM+ を起動すると、最初にオープンするウィンドウです。このウィンドウを中心に、各種ウィンドウの操作を行います。

図 6-2 メイン・ウィンドウ



ここでは、次の項目について説明します。

- タイトルバー
- メニューバー
- ツールバー
- ウィンドウ表示エリア
- ステータスバー
- ドラッグ・アンド・ドロップ機能

タイトルバー

タイトルバーには、次の情報を表示します。

“PM+ – ワークスペース名またはプロジェクト・ファイル名 [ファイル名]”



【注意】

[ファイル名]には、アクティブな編集ウィンドウにオープンしているファイル名が表示されます。パス名も表示したい場合は、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[表示]タブで設定してください。

メニューバー

メニューバーには、次のメニューがあります。

- (1) [ファイル (F)] メニュー
- (2) [編集 (E)] メニュー
- (3) [検索 (D)] メニュー
- (4) [階層 (L)] メニュー
- (5) [表示 (V)] メニュー
- (6) [プロジェクト (P)] メニュー
- (7) [ビルド (B)] メニュー
- (8) [ツール (T)] メニュー
- (9) [ウィンドウ (W)] メニュー
- (10) [ヘルプ (H)] メニュー

(1) [ファイル (E)] メニュー

新規作成 (N)	新規に編集ウィンドウを1つ表示します。 編集ウィンドウは、検索結果ウィンドウ、アウトプット・ウィンドウを含んで、最大64個まで表示することができます。
開く (O)...	既存のファイルを読み込み、編集ウィンドウを表示します。読み込んだ際、ウィンドウ・タイトルにファイル名が表示されます。 [ファイルを開く]ダイアログを表示します。
挿入読み込み (I)...	編集ウィンドウのキャレット行の上に、既存のファイルを読み込み、挿入します。 [挿入読み込み]ダイアログを表示します。
閉じる (C)	アクティブな編集ウィンドウ、または検索結果ウィンドウを閉じます。編集禁止 (Read Only) で開いた同名のファイルが存在する場合、すべての同名ファイルを閉じます。
ワークスペースの新規作成 (E)...	ワークスペースを新規に作成するためのウィザードを起動します。
ワークスペースを開く (W)...	ワークスペースを開きます。 [ワークスペースを開く]ダイアログを表示します。 【参照】「5.1.7 ワークスペースを開く」
ワークスペースの保存 (R)	ワークスペースの内容を上書き保存します。
ワークスペースを閉じる (K)	開いているワークスペースを閉じます。
上書き保存 (S)	編集中のファイルを同名で上書き保存します。 【参照】「5.1.10 上書き保存する」

名前を付けて保存 (A)...	編集中のファイルを別の名前で保存します。 [名前を付けて保存] ダイアログを表示します。
すべて保存 (L)...	開いているすべての編集ウィンドウのファイルを同一ファイル名で保存します。内容に変更がない編集ウィンドウも保存しますが、編集禁止 (Read Only) の編集ウィンドウ、アウトプット・ウィンドウ、検索結果ウィンドウの内容は、保存しません。(※)
すべて保存 (更新ファイルのみ) (H)	現在、表示している編集ウィンドウのうち、内容が変更されたウィンドウのファイルを上書き保存します。(※)
すべて保存して閉じる (Q)	表示しているすべての編集ウィンドウの内容を保存してから閉じます。(※)
すべて閉じる (E)	表示しているすべての編集ウィンドウを閉じます。(※)
すべて破棄して閉じる (Y)	表示しているすべての編集ウィンドウの変更内容を破棄して閉じます。ただし、アウトプット・ウィンドウ、プロジェクト・ウィンドウは閉じません。(※)
ソース・ファイル名の変更 (E)...	編集中のソース・ファイルの名前を変更します。 [ソース・ファイル名の変更] ダイアログを表示します。
すべてのソース・ファイルを保存 (U)	編集中のソース・ファイルを変更の有無に関わらず、すべて更新します。
印刷プレビュー (V)	編集中のファイルの印刷プレビューを表示します。
印刷 (P)...	編集中のファイルを印刷します。 [印刷] ダイアログを表示します。
ダイレクト印刷 (P)	編集中のファイルを印刷します。 [印刷] ダイアログを表示しません。(※)
ファイルの履歴	過去に編集、保存したファイルの履歴を表示します (最大 10 個まで)。
ワークスペースの履歴	過去に開いたワークスペースの履歴を表示します (最大 10 個まで)。
PM+ の終了 (X)	PM+ を終了します。

【注意】

表中“※”マークのメニュー項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブ上の[ファイル]メニューをカスタマイズしてください。

(2) [編集 (E)] メニュー

元に戻す (U)	編集内容を一段階前の状態にします。 【参照】「5.2.1 操作を元に戻す」
やり直し (R)	編集操作を繰り返します。 【参照】「5.2.2 操作をやり直す」
切り取り (I)	選択範囲をクリップ・ボードへ移動します。
コピー (C)	選択範囲をクリップ・ボードへ複写します。
追加切り取り (I)	選択範囲を切り取り、クリップ・ボードの内容に追加します。(※)
追加コピー (C)	選択範囲をクリップ・ボードの内容に追加します。(※)
イメージ・コピー (G)	選択範囲をクリップ・ボードへ画面イメージのまま複写します。 【参照】「5.2.7 イメージ・コピー」
貼り付け (P)	クリップ・ボードの内容を caret 位置へ貼り付けます。 【参照】「5.2.8 貼り付け」
形式を選択して貼り付け (S)...	形式を選択してクリップ・ボードの内容を caret 位置へ貼り付けます。
削除 (D)	選択範囲を削除します。
単語削除 (W)	caret 位置の単語を削除します。(※)
単語の caret から右側削除 (E)	caret 位置から単語の末尾までを削除します。(※)

行削除 (L)	キャレット位置の行を削除します。
行頭まで削除 (N)	キャレット位置から行頭までを削除します。(※)
行末まで削除 (I)	キャレット位置から行末までを削除します。(※)
キャレット位置の単語範囲指定 (D)	キャレット位置の単語を範囲指定します。(※)
キャレットから左側単語範囲指定 (Q)	キャレット位置から左側の単語を範囲指定します。(※)
キャレットから右側単語範囲指定 (R)	キャレット位置から右側の単語を範囲指定します。(※)
行頭まで範囲指定 (I)	キャレット位置から行頭までを範囲指定します。(※)
行末まで範囲指定 (E)	キャレット位置から行末までを範囲指定します。(※)
すべて選択 (A)	編集ウィンドウの内容をすべて範囲指定します。
キーワードによるグループ化 (Y)...	指定文字列を含む行を収集します。 [キーワードによるグループ化]ダイアログを表示します。
グループ化行の色を戻す (N)	収集元の文字列の色を元の色に戻します。
プロトタイプ宣言の作成 (M)...	関数のプロトタイプ宣言を自動に作成します。 [プロトタイプ宣言生成方法の指定]ダイアログを表示します。
新規オブジェクト (J)...	新しい埋め込みオブジェクトを作成します。 [オブジェクトの挿入]ダイアログを表示します。
リンク (K)...	リンク・オブジェクトの編集/変更/解除をします。 [リンクの設定]ダイアログを表示します。
オブジェクト (O)	オブジェクトを開いたり、オブジェクトの種類の変換を行います。

【注意】

表中“※”マークのメニュー項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー → [カスタマイズ...] - [メニュー]タブ上の[編集]メニューをカスタマイズしてください。

(3) [検索 (D)] メニュー

文字列の検索 (E)...	指定文字列を検索します。 [文字列の検索]ダイアログを表示します。
上向きに検索 (U)	指定文字列を文頭方向へ検索します。(※)
下向きに検索 (D)	指定文字列を文末方向に検索します。(※)
単語上方向検索 (P)	キャレット位置の単語を文頭方向へ検索します。(※)
単語下方向検索 (Q)	キャレット位置の単語を文末方向へ検索します。(※)
文字列の置換 (E)...	指定文字列を置換文字列に置き換えます。 [文字列の置換]ダイアログを表示します。
指定行へ (L)...	指定行へキャレットを移動します。 [指定行へジャンプ]ダイアログを表示します。
指定ソース・ファイルへ (H)...	指定したソース・ファイルの指定行に対応する行へキャレットを移動します。 [指定ソース・ファイルへジャンプ]ダイアログを表示します。(※)
マーク・ジャンプ (M)...	キャレットのある行を記憶して、記憶した行へキャレットを移動します。 [マーク・ジャンプ]ダイアログを表示します。
行の先頭へ (I)	行の先頭へキャレットを移動します。
行の最後へ (E)	行の最後へキャレットを移動します。
先頭行へ (P)	先頭行へキャレットを移動します。
最終行へ (D)	最終行へキャレットを移動します。
見出し行へ (I)	キャレットのある行の見出し行へキャレットを移動します。
キャレット位置の第1階層へ (Y)	キャレット位置の第1階層へキャレットを移動します。

上同階層へ (U)	上同階層へジャンプします。(※)
下同階層へ (D)	下同階層へジャンプします。(※)
ジャンプ前のキャレット位置へ (J)	ジャンプ前のキャレット位置へキャレットを移動します。(※) 【参照】「5.3.18 ジャンプ前のキャレット位置へ移動する」
関数定義行へ (C)	関数定義行へキャレットを移動します。
対応括弧へ (B)	キャレット位置の括弧と対応する括弧にジャンプします。 【参照】「5.3.20 対応括弧を検索する」
グローバル検索 (I)...	指定文字列を複数のファイルにより検索します。 [グローバル検索] ダイアログを表示します。
グローバル置換 (R)...	指定文字列を複数のファイルにより置き換えます。 [グローバル置換] ダイアログを表示します。
プロジェクト内検索 (J)	指定文字列をプロジェクト内のファイルにより検索します。 【参照】「5.3.23 プロジェクト内を検索する」
タグ・ジャンプ (A)	タグ・ジャンプを行います。 【参照】「5.3.24 タグ・ジャンプ」
バックタグ・ジャンプ (G)	タグ・ジャンプ・ファイルへ戻ります。
NEXT タグ・ジャンプ (N)	次のタグ・ジャンプを行います。
上方向 NEXT タグ・ジャンプ (U)	上方向に次のタグ・ジャンプを行います。(※)
1 単語右へ (R)	キャレット位置の 1 単語右へ移動します。(※)
1 単語左へ (L)	キャレット位置の 1 単語左へ移動します。(※)
1 行上へ (P)	キャレット位置を 1 行上へ移動します。(※)
1 行下へ (I)	キャレット位置を 1 行下へ移動します。(※)
1 文字右へ (G)	キャレット位置を 1 文字右へ移動します。(※)
1 文字左へ (I)	キャレット位置を 1 文字左へ移動します。(※)
ダイレクト検索 (D)	ツールバーの検索文字列指定コンボ・ボックスをアクティブにします。検索したい文字列を直接入力したのち、[Enter] キーを押すことにより、指定文字列を現在アクティブな編集ウィンドウ内より検索します。(※)

【注意】

表中“※”マークのメニュー項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー → [カスタマイズ...] - [メニュー] タブ上の [検索] メニューをカスタマイズしてください。

(4) [階層 (L)] メニュー

ひとつ上げる (P)	階層レベルを 1 つ上げます。 【参照】「5.4.1 階層をひとつ上げる」
ひとつ下げる (D)	階層レベルを 1 つ下げます。 【参照】「5.4.2 階層をひとつ下げる」
下位をひとつ (開く/たたむ)	下位階層を 1 レベルだけ開きます/たたみます。
下位をひとつ開く (E)	下位階層を 1 レベルだけ開きます。(※) 【参照】「5.4.4 下位をひとつ開く」
下位をひとつたたむ (O)	下位階層を 1 レベルだけたたみます。(※) 【参照】「5.4.5 下位をひとつたたむ」
下位をすべて開く (A)	下位階層をすべて開きます。
すべて開く (X)	階層をすべて開きます。
すべてたたむ (C)	階層をすべてたたみます。

指定階層まで開く (S)...	下位階層を指定したレベルまで開きます。 [指定階層まで開く]ダイアログを表示します。
指定階層までたたむ (L)...	下位階層を指定したレベルまでたたみます。 [指定階層までたたむ]ダイアログを表示します。
第1階層のみ表示する (1)	下位階層をたたみ、第1階層だけを表示します。(※)
第2階層まで表示する (2)	第3階層以降をたたみ、第1～2階層を表示します。(※)
第3階層まで表示する (3)	第4階層以降をたたみ、第1～3階層を表示します。(※)
第4階層まで表示する (4)	第5階層以降をたたみ、第1～4階層を表示します。(※)
第5階層まで表示する (5)	第6階層以降をたたみ、第1～5階層を表示します。(※)
キャレット位置の階層をたたむ (I)	キャレット位置の階層をたたみます。
文書を階層化する (Y)...	階層化ルールに従い、文書を階層化します。 [階層化ルールの設定]ダイアログを表示します。

【注意】

表中“※”マークのメニュー項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブ上の[階層]メニューをカスタマイズしてください。

(5) [表示 (V)] メニュー

関数一覧 (E)...	関数一覧を表示します。 [関数一覧]ダイアログを表示します。
階層一覧 (Y)...	階層一覧を表示します。 [階層一覧]ダイアログを表示します。
スタンダードバー (D)	スタンダード・ツールバーの表示/非表示を切り替えます。
ビルドバー (B)	ビルド・ツールバーの表示/非表示を切り替えます。
オプションバー (O)	オプション・ツールバーの表示/非表示を切り替えます。
外部ツールバー (E)	外部ツール・ツールバーの表示/非表示を切り替えます。
ステータスバー (S)	ステータス・ツールバーの表示/非表示を切り替えます。
プロジェクト・ウインドウ (P)	プロジェクト・ウインドウの表示/非表示を切り替えます。
アウトプット・ウインドウ (U)	アウトプット・ウインドウの表示/非表示を切り替えます。
オブジェクト表示 (Q)	オブジェクト/アイコン表示を切り替えます。 なお、オブジェクトをアイコン化している場合、このメニュー項目は、[オブジェクトをアイコン化 (I)]となります。
すべてのオブジェクトを表示 (A)	すべてのオブジェクトを表示します。
すべてのオブジェクトをアイコン化 (J)	すべてのオブジェクトをアイコン表示にします。 なお、すべてのオブジェクトを表示している場合、このメニュー項目は、[オブジェクト表示 (Q)]となります。

(6) [プロジェクト (P)] メニュー

アクティブ・プロジェクトの選択 (A)...	ビルドを行うプロジェクトを選択します。 [アクティブ・プロジェクトの選択]ダイアログを表示します。
新規プロジェクトを追加 (N)...	ワークスペースに新規作成したプロジェクトを追加するためのウィザードを起動します。
プロジェクトの挿入 (J)...	ワークスペースにプロジェクトを挿入します。 [プロジェクトの挿入]ダイアログを表示します。

CVS アップデート (U)...	CVS 利用時、サーバに登録しているソース・ファイルを取得します。 [CVS アップデート] ダイアログを表示します。
CVS コミット (M)...	CVS 利用時、サーバにソース・ファイルの変更内容を反映します。 [CVS コミット] ダイアログを表示します。
CVS ログ (L)...	CVS 利用時、ファイルのログを表示します。 [CVS ログ] ダイアログを表示します。
CVS ステータス (I)...	CVS 利用時、ファイルのステータスを表示します。 [CVS ステータス] ダイアログを表示します。
CVS 比較 (D)	CVS 利用時、ファイルの相違点を表示します。
メイクファイルのエクスポート (E)	メイクファイルを作成します。
プロジェクトの設定 (P)...	プロジェクトの設定を行います。 [プロジェクトの設定] ダイアログを表示します。
ソース・ファイルの追加 (S)...	アクティブなプロジェクトにソース・ファイルを追加します。 [ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログを表示します。
プロジェクト関連ファイルの追加 (R)...	アクティブなプロジェクトにプロジェクト関連ファイルを追加します。 [プロジェクト関連ファイルの追加] ダイアログを表示します。
その他のファイルの追加 (Q)...	アクティブなプロジェクトにユーザ任意のファイルをその他のファイルとして追加します。 [その他のファイルの追加] ダイアログを表示します。
ダイレクト・アクティブ・プロジェクト選択 (A)	ツールバーのアクティブ・プロジェクト選択コンボ・ボックスをアクティブにします。プロジェクトを選択することにより、アクティブ・プロジェクトを切り換えることができます。(※)

【注意】

表中“※”マークのメニュー項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー → [カスタマイズ...] - [メニュー]タブ上の [プロジェクト]メニューをカスタマイズしてください。

(7) [ビルド (B)] メニュー

ビルド->デバッグ (A)	ビルド後、デバッグを起動します。 【参照】「5.7.1 ビルド→デバッグ」
リビルド->デバッグ (U)	リビルド後、デバッグを起動します。 【参照】「5.7.2 リビルド→デバッグ」
コンパイル (C)	選択したファイルをコンパイルします。 【参照】「5.7.3 コンパイルする」
ビルド (B)	アクティブ・プロジェクトのビルドを行います。 【参照】「5.7.4 ビルドする」
ビルドの中止 (S)	ビルド実行中の場合は、ビルド処理を中止し、バッチ・ビルド、またはバッチ・リビルド実行中の場合は、Question メッセージが表示され、ビルド処理を一時停止します。
リビルド (R)	アクティブ・プロジェクトのリビルドを行います。 【参照】「5.7.6 リビルドする」
バッチ・ビルド (I)	ワークスペースに登録されている複数のプロジェクトのうち、[バッチ・ビルドの設定] ダイアログで指定したプロジェクトに対して、バッチのイメージでビルドを行います。
バッチ・リビルド (H)	ワークスペースに登録されている複数のプロジェクトのうち、[バッチ・ビルドの設定] ダイアログで指定したプロジェクトに対して、バッチのイメージでリビルドを行います。
依存関係の更新 (P)	ソース・ファイル、およびインクルード・ファイルの依存関係を更新します。

クリーン (N)	出力した中間ファイルと HEX ファイルを削除します。
エディット (E)	選択したファイルをエディタで開きます。
デバッグ (D)	デバッグを起動します。
複数ロードモジュール・ファイルのダウンロード (W)	同じプロジェクト・グループのロードモジュール・ファイルをデバッグへダウンロードします。 【参照】「5. 7. 13 複数ロードモジュール・ファイルのダウンロード」
ビルドモードの設定 (M)...	ビルド・モードの選択を行います。 [ビルド・モードの設定] ダイアログを表示します。
ビルド設定 (G)...	ビルドの設定を行います。 [ビルド設定] ダイアログを表示します。
バッチ・ビルドの設定 (L)...	バッチ・ビルド、またはバッチ・リビルドを行うプロジェクトの選択とビルド順を指定します。 [バッチ・ビルドの設定] ダイアログを表示します。
ダイレクト・ビルド・モード選択 (D)	ツールバーのビルド・モード選択コンボ・ボックスをアクティブにします。ビルド・モードを選択することができます。(※)

【注意】

- 表中“※”マークのメニュー項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー → [カスタマイズ...] → [メニュー] タブ上の [ビルド] メニューをカスタマイズしてください。
- ソース・ファイルが登録されていないプロジェクト・ファイルを開いている場合、ビルド関係のメニュー項目は無効となるものがあります。

(8) [ツール (I)] メニュー

各ツールオプション	各ツールのオプション・メニューを表示します。メニュー名は、各ツールに依存します。プロジェクトを開くとメニューが追加されます。
RTOS の選択 (Q)...	使用するリアルタイム OS を選択します。 [RTOS の選択] ダイアログを表示します。 【参照】「5. 8. 2 使用するリアルタイム OS を選択する」
dump850 (G)...	ダンプ・コマンド dump850 を起動します。 [dump850] ダイアログを表示します。 【参照】「5. 8. 3 ロードモジュールやオブジェクトをダンプをする」
デバッグの設定 (D)...	使用するデバッグの指定やダウンロード・ファイルの設定を行います。 [デバッグの設定] ダイアログを表示します。
外部ツールの登録 (X)...	外部ツールの登録を行います。 [外部ツールの登録] ダイアログを表示します。
外部ツールの起動 (I)	登録した外部ツールを起動します。メニュー名は、外部ツール外部ツール登録時の名称を表示します。
ファイル比較 (A)...	指定したファイル同士を比較します。 [ファイル比較] ダイアログを表示します。
デバイス・ファイルインストーラ (I)	DFINST を起動します。 【参照】「5. 8. 8 デバイス・ファイルをインストールする」
環境設定 (S)...	PM+ の各種環境設定を行います。 [環境設定] ダイアログを表示します。
フォント (E)...	編集ウィンドウのフォント、およびサイズ指定を行います。 [フォント] ダイアログを表示します。
カスタマイズ (C)...	メニューやツールバーのカスタマイズを行います。 [カスタマイズ] ダイアログを表示します。
キー操作の記録開始 / 終了 (R)	キー操作の記録開始 / 終了を切り替えます。

キー操作の再生 (P)	キー操作を再生します。
キー操作の保存 (V)	キー操作をマクロ・ファイルに保存します。 [キー操作の保存] ダイアログを表示します。 【参照】「5.8.15 キー操作に対応するコマンド」
キー操作の読み込み (L)...	マクロ・ファイルを読み込み、再生可能状態にします。 [キー操作の読み込み] ダイアログを表示します。
マクロ実行 (B)...	マクロ・ファイルを読み込み、キー操作を再生します。 [マクロ実行] ダイアログを表示します。
マクロ登録 (G)...	マクロ・ファイルを登録します。 [マクロ登録] ダイアログを表示します。
登録マクロの実行 (M)	登録したマクロを実行します。

(9) [ウィンドウ (W)] メニュー

重ねて表示 (C)	現在表示している複数のウィンドウを重ねて表示します。
上下に並べて表示 (H)	現在表示している複数のウィンドウを縦に並べて表示します。
左右に並べて表示 (V)	現在表示している複数のウィンドウを横に並べて表示します。
分割 (S)	現在編集集中のウィンドウを分割して表示します。 【参照】「5.9.4 分割する」
次の分割ウィンドウ (N)	現在アクティブな分割ウィンドウから次の分割ウィンドウをアクティブにします。
次のウィンドウ (E)	Zオーダー順 (ウィンドウの重なり順) で次のウィンドウをアクティブにします。(※)
前のウィンドウ (P)	Zオーダー順 (ウィンドウの重なり順) で前のウィンドウをアクティブにします。(※)
ウィンドウ一覧 (W)...	ウィンドウ一覧を表示します。 [ウィンドウ一覧] ダイアログを表示します。
オープンウィンドウ情報	現在編集集中のウィンドウのウィンドウ・タイトルをメニュー表示し、選択したウィンドウを最前面にします。

【注意】

表中“※”マークのメニュー項目は、デフォルトでは表示されません。表示したい場合は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[メニュー]タブ上の[ウィンドウ]メニューをカスタマイズしてください。

(10) [ヘルプ (H)] メニュー

各ツールのヘルプ	各ツールのヘルプ・ファイルを表示します。メニュー名は、各ツールに依存します。プロジェクトを開くとメニューが追加されます。
PM+ のヘルプ (H)	PM+ のヘルプ・ファイルを表示します。
メイン・ウィンドウ (M)	メイン・ウィンドウのヘルプを表示します。
カレント・ウィンドウ (C)	カレント・ウィンドウのヘルプを表示します。
ショートカット一覧 (S)...	設定中のショートカット・キー一覧を表示します。 [ショートカット・キー一覧] ダイアログを表示します。
NEC エレクトロニクス マイコン Web(N)	NEC エレクトロニクス マイクロコンピュータのホームページを表示します。 http://www.necel.com/micro/index.html
V850 ツール FAQ(V)	V850 マイクロコントローラ用開発ツール FAQ ページを表示します。 http://www.necel.com/ja/faq/micro-1.html?dvc=v850

78K ツール FAQ(Z)	78K マイクロコントローラ用開発ツール FAQ ページを表示します。 http://www.necel.com/ja/faq/micro-1.html?dvc=78k
外部ヘルプ 1(1)	外部パス 1 で設定したヘルプ・ファイルを表示します。
外部ヘルプ 2(2)	外部パス 2 で設定したヘルプ・ファイルを表示します。
外部ヘルプ 3(3)	外部パス 3 で設定したヘルプ・ファイルを表示します。
PM+ のバージョン情報 (A)...	バージョン情報を表示します。

ツールバー

ツールバーは、使用頻度の高いコマンドをワンアクションで実行可能にしたボタン群です。ツールバーは、次の 4 種類に分けられます。











- (1) スタンダードバー
- (2) ビルドバー
- (3) オプションバー
- (4) 外部ツールバー

なお、スタンダードバーとビルドバーは、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...] - [ツールバー] タブにより、任意にカスタマイズすることができます。

(1) スタンダードバー

スタンダードバーには、ファイル操作や編集関係のボタンをまとめています。表 6-2 に、デフォルトのスタンダードバーのボタン一覧を示します。

表 6-2 スタンダードバー

ボタン	機能
	ファイルの履歴を表示します。
	新規に編集ウィンドウを 1 つ表示します。 編集ウィンドウは、検索結果ウィンドウ、アウトプット・ウィンドウを含んで、最大 64 個まで表示することができます。
	既存のファイルを読み込み、編集ウィンドウを表示します。読み込んだ際、ウィンドウ・タイトルにファイル名が表示されます。 [ファイルを開く]ダイアログを表示します。
	編集中のファイルを同名で上書き保存します。
	ファイルを印刷します。
	ファイルの印刷プレビューを表示します。
	選択範囲をクリップ・ボードへ移動します。
	選択範囲をクリップ・ボードへ複製します。
	クリップ・ボードの内容をキャラット位置へ貼り付けます。
	指定文字列を複数のファイルにより検索します。

ボタン	機能
	検索文字列指定コンボ・ボックスです。検索したい文字列を直接入力したのち、[Enter]キーを押すことにより、指定文字列を現在アクティブな編集ウィンドウ内より検索します。
	階層レベルを1つ上げます。
	階層レベルを1つ下げます。
	下位階層を1レベルだけ開きます／たたみます。
	下位階層を1レベルだけ開きます。
	プロジェクト・ウィンドウを表示します。すでに表示している場合は、閉じます。
	アウトプット・ウィンドウを表示します。すでに表示している場合は、閉じます。
	PM+ のヘルプを表示します。

(2) ビルドバー

ビルドバーには、ビルド関係のボタンをまとめています。表 6-3 に、デフォルトのビルドバーのボタン一覧を示します。

表 6-3 ビルドバー

ボタン	機能
	アクティブ・プロジェクト選択コンボ・ボックスです。プロジェクトを選択することにより、アクティブ・プロジェクトを切り換えることができます。
	ビルド・モード選択コンボ・ボックスです。デフォルトでは、次のモードを選択することができます。なお、ここでの設定は、[ビルド]メニュー→[ビルドモードの設定]に反映されます。 [Debug Build] デバッグ情報が含まれたオブジェクト・ファイルを作成します。 [Release Build] デバッグ情報を含めずオブジェクト・ファイルを作成します。
	選択したファイルをコンパイルします。
	アクティブ・プロジェクトのビルドを行います。
	アクティブ・プロジェクトのリビルドを行います。
	ビルド後、デバッグを起動します。
	ビルドを中止します。
	デバイス・ファイル・インストーラを起動します。

(3) オプションバー

オプションバーには、オプション設定関係のボタンをまとめています。ボタンの表示順は、読み込んだツールに依存します。

【78K マイクロコントローラの場合の例】

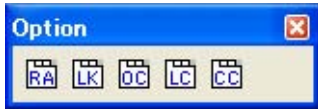
















表 6-4 オプションバー（78K マイクロコントローラの場合）

ボタン	機能
	構造化アセンブラの設定ダイアログを表示します（78K0R マイクロコントローラを除く）。
	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
	リンカ・オプションの設定ダイアログを表示します。
	オブジェクト・コンバータ・オプションの設定ダイアログを表示します。
	リスト・コンバータ・オプションの設定ダイアログを表示します。
	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。

【V850 マイクロコントローラの場合の例】



表 6-5 オプションバー（V850 マイクロコントローラの場合）

ボタン	機能
	コンパイラ共通オプションの設定ダイアログを表示します。
	セクション・ファイル・ジェネレータ・オプションの設定ダイアログを表示します。
	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
	リンカ・オプションの設定ダイアログを表示します。
	ROM 化プロセッサ・オプションの設定ダイアログを表示します。
	ヘキサ・コンバータ・オプションの設定ダイアログを表示します。
	静的性能解析ツールの設定ダイアログを表示します。

(4) 外部ツールバー

外部ツールバーには、[ツール]メニュー→[外部ツールの登録]で登録したツールのアイコンをまとめています。アイコンの表示順は、[外部ツールの登録]で設定した順番です。

ウィンドウ表示エリア

ウィンドウ表示エリアは、各ウィンドウを表示するエリアです。各ウィンドウの詳細については、それぞれの項を参照してください。

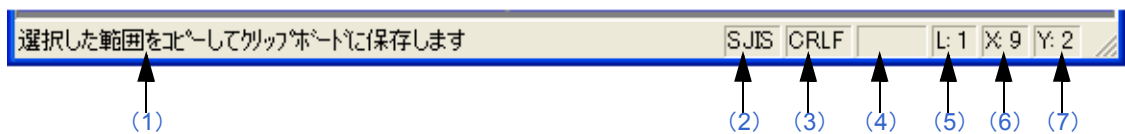
- プロジェクト・ウィンドウ
- 編集ウィンドウ
- 検索結果ウィンドウ
- アウトプット・ウィンドウ

ステータスバー

ステータスバーには、選択中のメニューの簡易説明などを表示します。

図 6-3 に、ステータスバーのイメージを示します。

図 6-3 ステータスバー



(1) 説明欄

次のいずれかの説明を表示します。

- 選択しているメニューの説明
- タグ・ジャンプ行の内容
- IDL ファイルで編集している場合、出力するソース・ファイル名

なお、デフォルトでは、“ヘルプを表示するには [F1] を押してください”が表示されます。

(2) 文字コードの種類

編集中ファイルの文字コードを表示します。

(3) 改行コードの種類

編集中ファイルの改行コードを表示します。

(4) 入力モードの状態

上書きモードの時、“OVER”を表示します。

(5) 階層数

現在のカーレット位置の階層数を表示します。

(6) カーレット位置の桁数

現在のカーレット位置の桁数を表示します。

(7) カーレット位置の行数

現在のカーレット位置の行数を表示します。

ドラッグ・アンド・ドロップ機能

メインフレームにファイルをドロップすることにより、次のように動作します。

- ワークスペース・ファイル (拡張子 .prw) をドロップした場合

ドロップしたワークスペースを開きます。ワークスペースを開いている場合は、開いているワークスペースを閉じたのち、ドロップしたワークスペースを開きます。

なお、複数のワークスペース・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。

- プロジェクト・ファイル (拡張子 .prj) をドロップした場合

ドロップしたプロジェクト・ファイルに対応したワークスペースを開きます。ワークスペースを開いている場合は、開いているワークスペースを閉じたのち、ドロップしたプロジェクト・ファイルに対応したワークスペースを開きます。

なお、複数のプロジェクト・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。

- ワークスペース・ファイル、プロジェクト・ファイル以外のファイルをドロップした場合

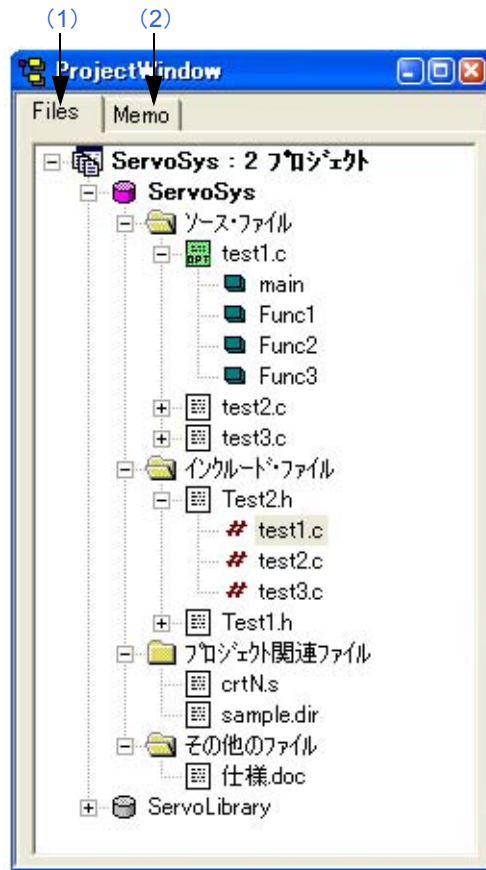
ドロップしたファイルを編集ウィンドウで開きます。アウトプット・ウィンドウを表示していない状態で編集ウィンドウの“Untitled1”が存在する場合は、ドロップしたファイルを開く際に“Untitled1”を閉じます。

複数のファイルをドロップすることができます。

プロジェクト・ウインドウ

現在、開いているプロジェクトの各種情報を表示するウィンドウです。

図 6-4 プロジェクト・ウインドウ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- ドラッグ・アンド・ドロップ機能

オープン方法

- [表示]メニュー→[プロジェクト・ウインドウ]を選択

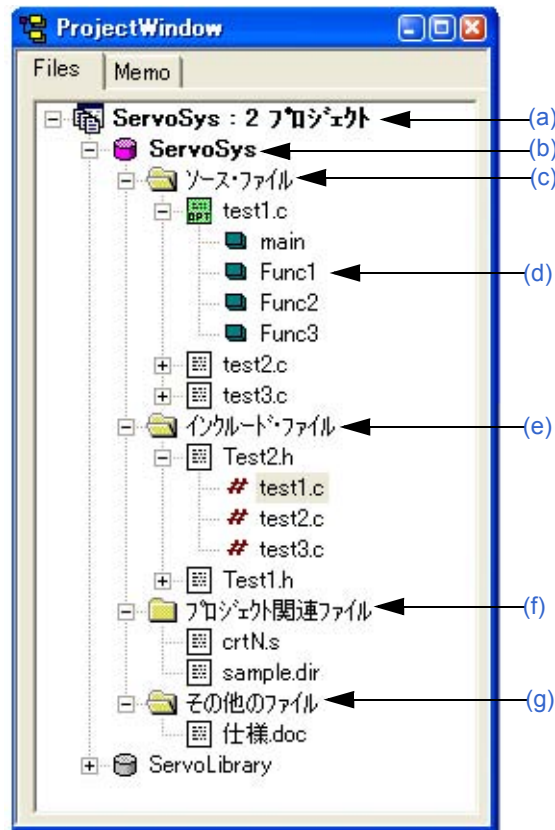
各エリアの説明

(1) [Files] タブ

プロジェクト・ファイルで管理しているファイル情報を表示します。複数のプロジェクトが存在する場合は、それぞれをプロジェクト単位で表示します。

なお、このタブ上にファイルをドラッグ・アンド・ドロップすることにより、プロジェクトに指定ファイルを追加することができます（「[ドラッグ・アンド・ドロップ機能](#)」参照）。

図 6-5 プロジェクト・ウィンドウ [File] タブ



(a) プロジェクト・グループ名

登録している複数のプロジェクトを、関連するプロジェクトごとにグループとしてまとめます。

プロジェクト・グループ名は、最大 127 文字以内でユーザが任意に設定可能です。

プロジェクト・グループ名の初期設定は、ワークスペースを作成する際に行います。1つのプロジェクト・グループには、最大 20 個のプロジェクトが登録できます。

プロジェクト・グループとして管理するため、登録する複数のプロジェクトは、同一のデバイス・ファイルを登録する必要があります。プロジェクト・グループ名にマウス・カーソルを当てた状態にすると、プロジェクト・グループに属するプロジェクトで使用しているデバイス名がポップ・アップ表示されます。

マウスの右ボタンで、次のメニューが表示されます。

プロジェクト・グループ名の変更 (E)...	[プロジェクト・グループ名の変更] ダイアログ を表示します。
新規プロジェクトを追加 (A)...	プロジェクトを新規に追加するためのウィザードを表示します。
プロジェクトの挿入 (I)...	[プロジェクトの挿入] ダイアログ を表示します。
使用ツールの変更 (T)...	[ツールバージョン設定] ダイアログ を表示します。
登録順表示 (G)	ファイル名を登録順に表示します。
昇順表示 (C)	ファイル名を昇順に表示します。
ウィンドウを固定 (E)	プロジェクト・ウィンドウの位置を固定にします。



(b) プロジェクト・タイトル名

プロジェクトのタイトルを表示します。

タイトルを設定していない場合は、パスと拡張子を除いたファイル名を表示します。プロジェクト・タイトル名は、最大 127 文字以内でユーザが任意に設定可能です。

プロジェクト・タイトル名にマウス・カーソルを当てた状態にすると、プロジェクトで使用しているデバイス名がポップ・アップ表示されます。

【アイコンの意味】

	アクティブ・プロジェクトに設定されているプロジェクト ([プロジェクト]→[アクティブ・プロジェクトの選択]), またはマウス右ボタン→[アクティブ・プロジェクトに設定])
	アクティブ・プロジェクトに設定されていないプロジェクト

マウスの右ボタンで、次のメニューが表示されます。

アクティブ・プロジェクトに設定 (P)	選択しているプロジェクトをアクティブにします。
ビルド (B)	ビルドを開始します。
コンパイラ・オプションの設定 (Q)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
アセンブラ・オプションの設定 (A)...	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
プロジェクト・タイトルの変更 (E)...	[プロジェクト・タイトルの変更] ダイアログを表示します。
プロジェクトの設定 (S)...	[プロジェクトの設定] ダイアログを表示します。プロジェクト・タイトル名の変更などを行うことができます。
プロジェクトの削除 (D)	プロジェクトの登録を削除します。
登録順表示 (G)	ファイル名を登録順に表示します。
昇順表示 (C)	ファイル名を昇順に表示します。
ウィンドウを固定 (E)	プロジェクト・ウィンドウの位置を固定にします。





(c) ソース・ファイル・フォルダ



プロジェクトに登録しているソース・ファイル、アセンブラ・ファイルをまとめています。

ソース・ファイル・フォルダの下に、プロジェクトに登録しているソース・ファイル名を表示します。ファイルを選択し、ダブル・クリックするか、[Enter] キーを押すと、設定しているエディタ ([環境設定] ダイアログ参照) で開きます。1つのプロジェクトに登録可能なソース・ファイル数は、2048 個までです。

ソース・ファイル・フォルダにマウス・カーソルを当てた状態にすると、“ソース・ファイル” がポップ・アップ表示されます。また、ソース・ファイル名にマウス・カーソルを当てた状態にすると、マウス・カーソルが指しているソース・ファイル名がフルパスでポップ・アップ表示されます。

【アイコンの意味】

	個別に、コンパイラ・オプション／アセンブラ・オプション (マウス右ボタン→[個別コンパイラ・オプションの設定]／[個別アセンブラ・オプションの設定]) が設定されていないソース・ファイル
	個別に、コンパイラ・オプション／アセンブラ・オプションが設定されているソース・ファイル
	【注】リアルタイム OS を使用するプロジェクトの場合のみ コンフィギュレータが生成したファイルで、個別に、コンパイラ・オプション／アセンブラ・オプションが設定されていないソース・ファイル なお、ファイル名は、リアルタイム OS のツール DLL より受け取った名称となります。
	【注】リアルタイム OS を使用するプロジェクトの場合のみ コンフィギュレータが生成したファイルで、個別に、コンパイラ・オプション／アセンブラ・オプションが設定されているソース・ファイル なお、ファイル名は、リアルタイム OS のツール DLL より受け取った名称となります。

	【注】 Applilet2 を使用するプロジェクトの場合のみ Applilet2 が生成したファイルで、個別に、コンパイラ・オプション／アセンブラ・オプションが設定されていないソース・ファイル
	【注】 Applilet2 を使用するプロジェクトの場合のみ Applilet2 が生成したファイルで、個別に、コンパイラ・オプション／アセンブラ・オプションが設定されているソース・ファイル

マウスの右ボタンで、次のメニューが表示されます。

【ソース・ファイル・フォルダを選択した場合】

ソース・ファイルの追加 (S)...	[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログを表示します。
コンパイラ・オプションの設定 (O)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
アセンブラ・オプションの設定 (A)...	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。

【ソース・ファイル名を選択した場合】

ソース・ファイルの追加 (S)...	[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログを表示します。
ソース・ファイルの削除 (D)	選択したソース・ファイルを削除します。
コンパイル (C)	選択したファイルをコンパイルします。
開く (N)	設定しているエディタでファイルを開きます。
個別コンパイラ・オプションの設定 (O)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。 個別にオプションを設定すると、ファイルのアイコンが緑色に変わります。
個別コンパイラ・オプションの解除 (R)	個別に設定したコンパイラ・オプションの設定を解除します。
プロパティ (P)...	[プロパティ] ダイアログを表示し、そのファイルのプロパティを表示します。

【アセンブラ・ソース・ファイル名を選択した場合】

ソース・ファイルの追加 (S)...	[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログを表示します。
ソース・ファイルの削除 (D)	選択したソース・ファイルを削除します。
コンパイル (C)	選択したファイルをコンパイルします。
開く (N)	設定しているエディタでファイルを開きます。
個別アセンブラ・オプションの設定 (A)...	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。 個別にオプションを設定すると、ファイルのアイコンが緑色に変わります。
個別アセンブラ・オプションの解除 (R)	個別に設定したアセンブラ・オプションの設定を解除します。
プロパティ (P)...	[プロパティ] ダイアログを表示し、そのファイルのプロパティを表示します。

【構造化アセンブラ・ソース・ファイル名を選択した場合】

構造化アセンブラ・ソース・ファイル名は、78K0、78K0S マイクロコントローラを使用するプロジェクトがアクティブになっている場合のみ選択することができます。

ソース・ファイルの追加 (S)...	[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログを表示します。
ソース・ファイルの削除 (D)	選択したソース・ファイルを削除します。
コンパイル (C)	選択したファイルをコンパイルします。
開く (N)	設定しているエディタでファイルを開きます。
個別構造化アセンブラ・オプションの設定 (I)...	[構造化アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。個別にオプションを設定すると、ファイルのアイコンが緑色に変わります。
個別構造化アセンブラ・オプションの解除 (R)	個別に設定した構造化アセンブラ・オプションの設定を解除します。
プロパティ (P)...	[プロパティ] ダイアログを表示し、そのファイルのプロパティを表示します。

【注意】

[ソース・ファイルの追加 ...] 項目により追加されたソース・ファイルは、ソース・ファイル・リストの最後に追加されます ([プロジェクトの設定] ダイアログの [ソース・ファイル] タブにより、ソース・ファイルの順番を変更することができます)。

また、ソース・ファイルの追加は、ソース・ファイルを直接プロジェクト・ウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップすることでも行えます。

(d) 関数名

ソース・ファイル中に存在する C 言語の関数名を表示します。

関数名を選択し、ダブル・クリックするか、[Enter] キーを押すと、設定しているエディタ ([環境設定] ダイアログ参照) で関数の定義行を表示します。

関数名にマウス・カーソルを当てた状態にすると、マウス・カーソルが指している関数名がポップ・アップ表示されます。

マウスの右ボタンで、次のメニューが表示されます。

ソース・ファイルの追加 (S)...	[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログを表示します。
ソース・ファイルの削除 (D)	選択したソース・ファイルを削除します。
コンパイル (C)	選択したファイルをコンパイルします。
開く (N)	設定しているエディタでファイルを開きます。
個別コンパイラ・オプションの設定 (Q)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。個別にオプションを設定すると、ソース・ファイルのアイコンが緑色に変わります。
個別コンパイラ・オプションの解除 (R)	個別に設定したコンパイラ・オプションの設定を解除します。
プロパティ (P)...	[プロパティ] ダイアログを表示し、そのファイルのプロパティを表示します。

【注意】

- [ソース・ファイルの追加 ...] 項目により追加されたソース・ファイルは、ソース・ファイル・リストの最後に追加されます ([プロジェクトの設定] ダイアログの [ソース・ファイル] タブにより、ソース・ファイルの順番を変更することができます)。

また、ソース・ファイルの追加は、ソース・ファイルを直接プロジェクト・ウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップすることでも行えます。

- **編集ウィンドウ**において関数名を変更後、プロジェクト・ウィンドウの関数名を更新した状態で、[元に戻す] [やり直し]メニューにより、**編集ウィンドウ**の変更状態がなくなった場合、プロジェクト・ウィンドウをアクティブにしても関数名は更新されません。ビルド操作、またはファイルを保存をすると更新されます。



(e) インクルード・ファイル・フォルダ

プロジェクトに登録しているインクルード・ファイルをまとめています。

インクルード・ファイルと依存関係のあるソース・ファイルも表示します。ファイルを選択し、ダブル・クリックするか、[Enter] キーを押すと、設定しているエディタ（[\[環境設定\] ダイアログ](#)参照）で開きます。

インクルード・ファイル・フォルダにマウス・カーソルを当てた状態にすると、“インクルード・ファイル”がポップ・アップ表示されます。また、ファイル名にマウス・カーソルを当てた状態にすると、マウス・カーソルが指しているファイル名がフルパスでポップ・アップ表示されます。

【アイコンの意味】

	バイナリ形式以外のファイル
	【注】リアルタイム OS を使用するプロジェクトの場合のみ コンフィギュレータが生成したファイル なお、ファイル名は、リアルタイム OS のツール DLL より受け取った名称となります。

マウスの右ボタンで、次のメニューが表示されます。

【インクルード・フォルダを選択した場合】

依存関係の更新 (I)	ソース・ファイル、およびインクルード・ファイルの依存関係を更新し、プロジェクト・ウィンドウに更新内容を反映します。
コンパイラ・オプションの設定 (O)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
アセンブラ・オプションの設定 (A)...	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。

【インクルード・ファイル名を選択した場合】

依存関係の更新 (I)	ソース・ファイル、およびインクルード・ファイルの依存関係を更新し、プロジェクト・ウィンドウに更新内容を反映します。
開く (N)	設定しているエディタでファイルを開きます。
コンパイラ・オプションの設定 (O)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
アセンブラ・オプションの設定 (A)...	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
プロパティ (P)...	[プロパティ] ダイアログを表示し、そのファイルのプロパティを表示します。

【依存関係ファイル名を選択した場合】

依存関係の更新 (I)	ソース・ファイル、およびインクルード・ファイルの依存関係を更新し、プロジェクト・ウィンドウに更新内容を反映します。
開く (N)	設定しているエディタでファイルを開きます。
コンパイラ・オプションの設定 (O)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
アセンブラ・オプションの設定 (A)...	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
プロパティ (P)...	[プロパティ] ダイアログを表示し、そのファイルのプロパティを表示します。

(f) プロジェクト関連ファイル・フォルダ



プロジェクトをビルドする際に、関連するファイル（リンクディレクティブ・ファイル、ライブラリ・ファイル）をまとめています。

ファイルを選択し、ダブル・クリックするか、[Enter] キーを押すと、設定しているエディタ（[\[環境設定\] ダイアログ](#)参照）で開きます。

プロジェクト関連ファイル・フォルダにマウス・カーソルを当てた状態にすると、“プロジェクト関連ファイル”がポップ・アップ表示されます。また、プロジェクト関連ファイル名にマウス・カーソルを当てた状態にすると、マウス・カーソルが指しているプロジェクト関連ファイル名がフルパスでポップ・アップ表示されます。

なお、リアルタイム OS を使用するプロジェクトの場合では、使用するコンフィギュレーション・ファイル名が自動的に登録されます。

【アイコンの意味】

	バイナリ形式以外のファイル
	オブジェクト・ファイルやライブラリ・ファイルなどのバイナリ形式のファイル（編集不可）

マウスの右ボタンで、次のメニューが表示されます。

【プロジェクト関連ファイル・フォルダを選択した場合】

プロジェクト関連ファイルの追加 (R)...	[プロジェクト関連ファイルの追加] ダイアログ を表示します。
コンパイラ・オプションの設定 (O)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログ を表示します。
アセンブラ・オプションの設定 (A)...	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログ を表示します。

【プロジェクト関連ファイル名を選択した場合】

プロジェクト関連ファイルの追加 (R)...	[プロジェクト関連ファイルの追加] ダイアログ を表示します。
プロジェクト関連ファイルの削除 (D)	選択したファイルを削除します。
開く (N)	設定しているエディタでファイルを開きます。
LDG で開く (L)	選択したファイルを LDG で開きます。 なお、このメニューは、次の条件をすべて満たす場合のみ表示されます。 - リンク・ディレクティブ・ファイルを選択している - LDG をインストールしている - V850 マイクロコントローラのデバイスを使用するプロジェクトがアクティブに選択されている
コンパイラ・オプションの設定 (O)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログ を表示します。
アセンブラ・オプションの設定 (A)...	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログ を表示します。
プロパティ (P)...	[プロパティ] ダイアログ を表示し、そのファイルのプロパティを表示します。

(g) その他のファイル

ユーザが自由に任意のファイルを登録できます。

ファイルを選択し、ダブル・クリックするか、[Enter] キーを押すと、ファイルの関連付けに従い、アプリケーションを起動します。1つのプロジェクトに登録可能なその他のファイル数は、100個までです。

その他のファイル・フォルダにマウス・カーソルを当てた状態にすると、“その他のファイル”がポップ・アップ表示されます。また、その他のファイル名にマウス・カーソルを当てた状態にすると、マウス・カーソルが指しているその他のファイル名がフルパスでポップ・アップ表示されます。

マウスの右ボタンで、次のようなメニューが表示されます。

【その他のファイル・フォルダを選択した場合】

その他のファイルの追加 (E)...	[その他のファイルの追加] ダイアログが表示されます。
コンパイラ・オプションの設定 (Q)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
アセンブラ・オプションの設定 (A)...	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。

【その他ファイル名を選択した場合】

その他のファイルの追加 (E)...	[その他のファイルの追加] ダイアログが表示されます。
その他のファイルの削除 (D)	登録したその他のファイルの登録を解除します。
開く (N)	エクスプローラで設定したファイルの関連付けに従い、アプリケーションを起動します。
エディタで開く (E)	設定しているエディタでファイルを開きます。
コンパイラ・オプションの設定 (Q)...	[コンパイラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
アセンブラ・オプションの設定 (A)...	[アセンブラ・オプションの設定] ダイアログを表示します。
プロパティ (P)...	[プロパティ] ダイアログを表示し、そのファイルのプロパティを表示します。

(2) [Memo] タブ

ユーザが任意のメモを保存することができるタブです。
メモ情報は、各ワークスペース単位で管理されます。

図 6-6 プロジェクト・ウィンドウ [Memo] タブ



メモは、マウスの右ボタンで追加可能です。

新規メモを追加 (A)...	[新規メモを追加] ダイアログを表示します。 コメントを入力すると、入力した日時とともにコメントが入ります。
メモの削除 (D)	選択したコメントを削除します。

ドラッグ・アンド・ドロップ機能

プロジェクト・ウィンドウにファイルをドロップすることにより、次のように動作します。動作は、ワークスペースを開いている状態により異なります。

【ワークスペースを開いていない場合】

- ワークスペース・ファイル (拡張子 .prw) をドロップした場合
ドロップしたワークスペースを開きます。
なお、複数のワークスペース・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。
- プロジェクト・ファイル (拡張子 .prj) をドロップした場合
ドロップしたプロジェクト・ファイルに対応したワークスペースを開きます。
なお、複数のプロジェクト・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。
- ワークスペース・ファイル、プロジェクト・ファイル以外のファイルをドロップした場合
ドロップしたファイルを編集ウィンドウで開きます。アウトプット・ウィンドウを表示していない状態で編集ウィンドウの“Untitled1”が存在する場合は、ドロップしたファイルを開く際に“Untitled1”を閉じます。
複数のファイルをドロップすることができます。

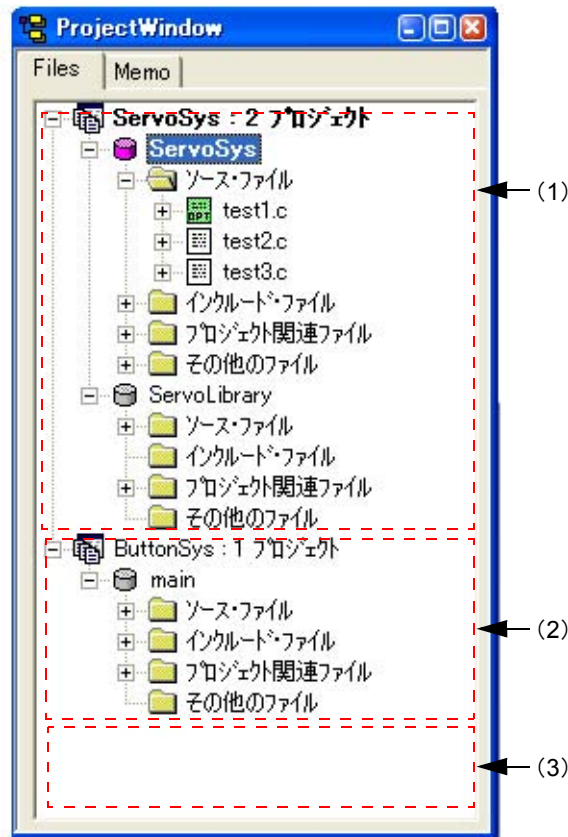
【空のワークスペースを開いている場合】

- ワークスペース・ファイル (拡張子 .prw) をドロップした場合
開いている空のワークスペースを閉じたのち、ドロップしたワークスペース・ファイルを開きます。
なお、複数のワークスペース・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。
- プロジェクト・ファイル (拡張子 .prj) をドロップした場合
新規にプロジェクト・グループを作成し、プロジェクト・ファイルを追加します。新規に作成したプロジェクト・グループ名は、追加したプロジェクト・ファイルで使用しているデバイス・マイクロコントローラ名になります。
なお、複数のプロジェクト・ファイルをドロップした際、ドロップしたプロジェクト・ファイルが同じデバイスを使用している場合は、同じプロジェクト・グループに登録します。マイクロコントローラが同じでデバイス名が異なる場合は、プロジェクト・グループ名はマイクロコントローラ名の後ろに“(番号)”の形式で番号を追加していきます。番号は、“1”から付与されます。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることはできません。
- ワークスペース・ファイル、プロジェクト・ファイル以外のファイルをドロップした場合
ドロップしたファイルを編集ウィンドウで開きます。アウトプット・ウィンドウを表示していない状態で編集ウィンドウの“Untitled1”が存在する場合は、ドロップしたファイルを開く際に“Untitled1”を閉じます。
複数のファイルをドロップすることができます。
- 1つのワークスペース・ファイルとそれ以外のファイルを混在して複数ドロップした場合
開いている空のワークスペースを閉じたのち、ドロップしたワークスペース・ファイルを開きます。ドロップしたそれ以外のファイルは、編集ウィンドウで開きます。アウトプット・ウィンドウを表示していない状態で編集ウィンドウの“Untitled1”が存在する場合は、ドロップしたファイルを開く際に“Untitled1”を閉じます。
- 1つのプロジェクト・ファイルとそれ以外のファイルを混在して複数ドロップした場合
新規にプロジェクト・グループを作成し、プロジェクト・ファイルを追加します。ドロップしたそれ以外のファイルは、追加したプロジェクトに対してソース・ファイルの追加を行い、編集ウィンドウで開きます。

【プロジェクトを登録しているワークスペースを開いている場合】

プロジェクトを登録しているワークスペースを開いている場合は、ファイルをドロップした位置により、処理が異なります。

図 6-7 プロジェクトを登録しているワークスペースへのファイルのドロップ位置



- ワークスペース・ファイル (拡張子 .prw) をドロップした場合

いずれの位置にドロップしても、動作は同じです。開いているワークスペースを閉じたのち、ドロップしたワークスペースを開きます。

なお、複数のワークスペース・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。

- プロジェクト・ファイル (拡張子 .prj) をドロップした場合

ドロップした位置により、動作が異なります。

(1) や (2) にドロップした場合は、ドロップした位置のプロジェクト・グループにプロジェクトを追加します。

(3) にドロップした場合は、新規にプロジェクト・グループを作成し、プロジェクト・ファイルを追加します。新規に作成したプロジェクト・グループ名は、追加したプロジェクト・ファイルで使用しているデバイス・マイクロコントローラ名になります。

複数のファイルをドロップすることができます。なお、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることはできません。

- ワークスペース・ファイル、プロジェクト・ファイル以外のファイルをドロップした場合

ソース・ファイルの追加を行ったとみなして動作します。ドロップした位置により、動作が異なります。

(1) にドロップした場合は、ソース・ファイルを追加するプロジェクトを選択するため、**[プロジェクトの選択] ダイアログ**を表示します。ここで、選択可能なプロジェクトは、ドロップした位置のプロジェクト・グループに属するプロジェクトとなります。

(2) にドロップした場合は、ドロップした位置のプロジェクト・グループに属するプロジェクトが1個なので、そのプロジェクトを追加対象のプロジェクトとして、ソース・ファイルの追加を行います。

(3) にドロップした場合は、ソース・ファイルを追加するプロジェクトを選択するため、[\[プロジェクトの選択\]ダイアログ](#)を表示します。ここで、選択可能なプロジェクトは、ワークスペースに登録しているすべてのプロジェクトとなります。

複数のファイルをドロップすることができます。

【注意】

ソース・ファイルは、ソース・ファイル・リストの最後に追加されます。

なお、[\[プロジェクトの設定\]ダイアログ](#)の[ソース・ファイル]タブにおいて、ソース・ファイルの順番の変更することができます。

- 1つのワークスペース・ファイルとそれ以外のファイルを混在して複数ドロップした場合

開いている空のワークスペースを閉じたのち、ドロップしたワークスペース・ファイルを開きます。ドロップしたそれ以外のファイルは、[編集ウィンドウ](#)で開きます。[アウトプット・ウィンドウ](#)を表示していない状態で[編集ウィンドウ](#)の“Untitled1”が存在する場合は、ドロップしたファイルを開く際に“Untitled1”を閉じます。

- 1つのプロジェクト・ファイルとそれ以外のファイルを混在して複数ドロップした場合

ドロップした位置により、動作が異なります。

(1) や (2) にドロップした場合は、ドロップした位置のプロジェクト・グループにプロジェクトを追加します。

ドロップしたそれ以外のファイルは、ソース・ファイルの追加を行ったとみなし、ソース・ファイルを追加するプロジェクトを選択するため、[\[プロジェクトの選択\]ダイアログ](#)を表示します。

(3) にドロップした場合は、新規にプロジェクト・グループを作成し、プロジェクト・ファイルを追加します。新規に作成したプロジェクト・グループ名は、追加したプロジェクト・ファイルで使用しているデバイス・マイクロコントローラ名になります。ドロップしたそれ以外のファイルは、ソース・ファイルの追加を行ったとみなし、ソース・ファイルを追加するプロジェクトを選択するため、[\[プロジェクトの選択\]ダイアログ](#)を表示します。ここで、選択可能なプロジェクトは、ワークスペースに登録しているすべてのプロジェクトとなります。

【注意】

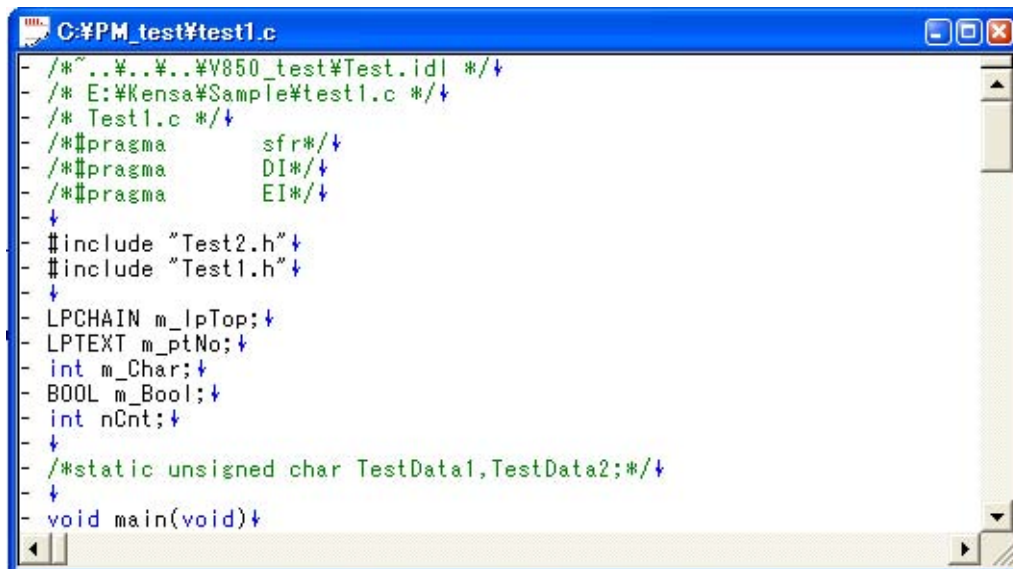
ソース・ファイルは、ソース・ファイル・リストの最後に追加されます。

なお、[\[プロジェクトの設定\]ダイアログ](#)の[ソース・ファイル]タブにおいて、ソース・ファイルの順番の変更することができます。

編集ウィンドウ

ソース・プログラムを編集するウィンドウです。

図 6-8 編集ウィンドウ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 文字入力
- 単語の定義
- 範囲指定
- 行（階層）の移動
- 行（階層）のコピー
- マウスのダブル・クリック動作
- マウス右ボタンでの動作
- スクロール
- スマート・ルック・アップ機能
- ドラッグ・アンド・ドロップ機能
- 編集ウィンドウの制限

オープン方法

- [ファイル]メニュー→[新規作成]を選択
- [ビルド]メニュー→[エディット]を選択
- [ファイル]メニュー→[開く ...]でダイアログをオープンし、指定したファイルをオープン
- プロジェクト・ウィンドウ上で、各ファイルをダブル・クリック

文字入力

編集ウィンドウで、文字を入力する場合、次のように扱います。

- 2 バイト・コードで構成される半角文字 (1 バイト目が 85H である 2 バイト・コード) は、入力できません (ピーブ音で知らせます)。
- [Enter] キーで改行したときは、現在のキャラクタ行の次の行として新しい行を挿入します。ただし、現在のキャラクタ行の下位階層行がない、または下位階層をたたんでいる場合は、同階層の行となり、下位階層を開いている場合は下位階層の行となる。
- マウスのドラッグによる範囲指定、または行の移動中は文字入力を無視します。
- 行範囲指定後、[Tab] キーを入力すると、範囲指定した行の先頭に Tab コードを入力します。この時、たたんでいる階層の行にも Tab を追加します。
- 行範囲指定後、[Shift] + [Tab] キーを入力すると、範囲指定した行の先頭の Tab コードを削除します。この時、たたんでいる階層の行の Tab も削除します。

単語の定義

単語による操作を行う場合の単語の定義とは、次のとおりです。

- 半角英数字 (0-9,A-Z,a-z) とアンダースコア (_) が続く限り、1 単語と見なします。
- 半角カタカナ文字が続く限り、1 単語と見なします。
- 全角英数字 (0-9,A-Z,a-z) が続く限り、1 単語と見なします。
- 全角カタカナ、および “一” が続く限り、1 単語と見なします。
- 全角ひらがな文字が続く限り、1 単語と見なします。
- 全角漢字が続く限り、1 単語と見なします。
- その他の全角文字が続く限り、1 単語と見なします。
- タブ文字、スペースを除く、上記単語定義に含まれない文字が続く限り、1 単語と見なします。



範囲指定

範囲指定による操作を行う場合の範囲指定の定義とは、次のとおりです。

- マウス・ドラッグ、[Shift] + [矢印] キー、または [Shift] + クリックで範囲指定を行います。
- 同一行内は、文字単位に範囲指定します (文字列範囲指定)。
- 複数行は、各行の行頭から行末までを範囲指定します (行範囲指定)。
- 上位階層を行範囲指定しているとき、下位階層は (自動的に) 行範囲指定の状態となります。
- 文頭方向の行範囲指定において、範囲指定開始行より上位階層が現れた場合、それ以上の範囲指定はできません。
- 文頭方向の行範囲指定において、開いている下位階層のある行を範囲指定した場合、その行の下位階層行も範囲指定します。
- 文末方向の行範囲指定において、開いている下位階層のある行を範囲指定した場合、その行の下位階層行も範囲指定します。
- [Shift] + クリックでの範囲指定において、クリックした位置まで範囲指定が行えないときは、範囲指定可能な行までの範囲指定を行い、範囲指定可能行が見えるように画面をスクロールします。
- 範囲指定は、キャラクタが移動する動作を行ったときに解除し、新しいキャラクタ位置にキャラクタを置きます。ただし、[矢印] キーを押して範囲指定を解除したときは、新しいキャラクタ位置を次のようにします。
 - [→], [↓] キー: 文字列範囲指定の右端、行範囲指定の最終行 (文末側) の行末
 - [←], [↑] キー: 文字列範囲指定の左端、行範囲指定の先頭行 (文頭側) の行頭
- 範囲指定中に [Esc] キーを入力すると、範囲指定を解除します。

行（階層）の移動



各行の行頭記号をドラッグすると、次のマークを表示して行の移動を行います。

-  複数行の移動
-  1行のみの移動

下位階層を有する見出し行をドラッグすると、下位階層も含めて移動します。右、および左方向にドラッグすると、階層のレベルを変更します。

行（階層）のコピー

各行の行頭記号を [Ctrl] キーを押しながらドラッグすると、次のマークを表示して行のコピーを行います。

-  複数行の移動
-  1行のみの移動

下位階層を有する見出し行をドラッグすると、下位階層も含めてコピーします。

マウスのダブル・クリック動作

マウスをダブル・クリックした際の動作は、[ツール]メニュー→[環境設定]－[編集]タブで、次のどちらかを選択することができます。

- 閉じている階層を開く／開いている階層を閉じる動作
- 単語の範囲指定

マウス右ボタンでの動作

編集ウィンドウ内でマウスの右ボタンをクリックした場合、次のようなメニューが表示されます。
なお、マウス右ボタンで表示するメニューは、[ツール]→[カスタマイズ]で変更することができます。

切り取り (I)	選択範囲をクリップ・ボードへ移動します。
コピー (C)	選択範囲をクリップ・ボードへ複写します。
貼り付け (P)	クリップ・ボードの内容をキャレット位置へ貼り付けます。
元に戻す (U)	編集内容を一段階前の状態にします。
やり直し (R)	編集操作を繰り返します。
文字列の検索 (E)...	指定文字列を検索します。
文字列の置換 (E)...	指定文字列を置換文字列に置き換えます。
下位をひとつ開く (E)	下位階層を1レベルだけ開きます。
下位をひとつたたむ (Q)	下位階層を1レベルだけたたみます。
ひとつ上げる (P)	階層レベルを1つ上げます。
ひとつ下げる (D)	階層レベルを1つ下げます。

スクロール

スクロール方法の指定は、[ツール]メニュー→[環境設定]→[スクロール]タブで設定することができます。また、スクロールバーの表示/非表示は、[ツール]メニュー→[環境設定]→[表示]タブで切り替えることができます。

スマート・ルック・アップ機能

スマート・ルック・アップ機能は、コーディング中にコードの一部を書いただけで、関数名一覧を表示し、ユーザの入力作業を補助するものです。

この機能を使用するには、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブ上の[スマートルックアップ機能を使用する]をチェックしてください（デフォルトでチェックされています）。

【備考】

リアルタイム OS を使用する場合では、リアルタイム OS が提供するキーワード・ファイルにより、システム・コール名もスマート・ルック・アップ機能の対象となります。

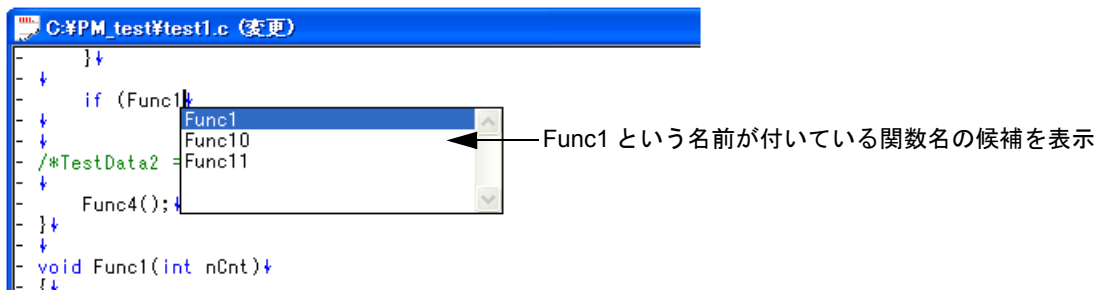
(1) 関数名候補一覧

指定した文字数で一致する関数名一覧を表示します。認識可能な関数名の文字数は、1998文字までです。また、ユーザ登録関数候補の最大数は、64個までです。

この機能を使用するには、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブ上の[関数候補の表示を行う]をチェックしてください。また、文字数は、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブ上の[何文字以上で関数名候補表示を行う]により設定します。

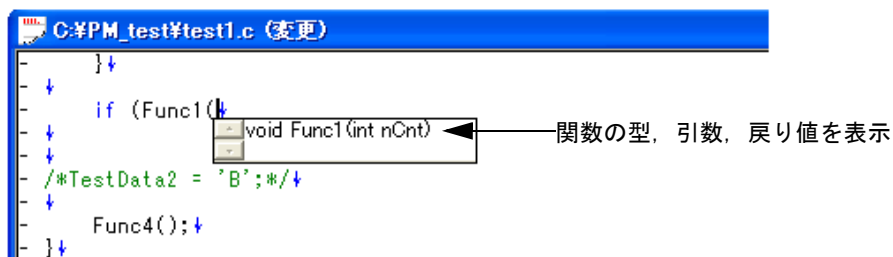
【注意】

関数名候補一覧において、候補が1つしかない場合、キーボードの[↑]キー、[↓]キーを押しても一覧は表示されません。また、表示された一覧を消す場合は、[Esc]キーを押してください。



(2) 関数詳細表示

“(”を入力した時点で、“(”までの文字列がすでに作成されていた関数名と一致した場合、関数名の詳細（型、戻り値、引数）を表示します。



(3) データ構築について

編集ウィンドウでファイルを新規に作成し編集中的場合（ファイル名がついていない状態）、または変更中の編集ウィンドウで変更内容を保存していない場合、編集により追加した関数は、スマート・ルック・アップに反映されません。

スマート・ルック・アップ機能で使用するデータの構築タイミングは、次のとおりです。

- ファイル保存時
- [ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブ上の[スマートルックアップ機能を使用する]をチェックした時
- ビルド前保存時（変更ファイルのみ）
- ワークスペース・ファイルを開いた時

【注意】

- 次のようなコンパイラ制御命令の使用方法によっては、関数名が認識されない場合があります。

- #ifdef の値により関数名が異なる場合

```
void
#ifdef ENGLISH
    FncEng
#else
    FncJapan
#endif
(int Cnt, int Mode)
{ ...
```

- “¥” により関数名が2行に渡っている場合

```
void Function      ¥
Name
(int Cnt, int Mode)
{ ...
```

- 関数名と“{”の間に変数宣言を行った場合

```
#ifdef ENGLISH
int main( argc, argv[])
int argr;
char* argv[];
{
}
```

- 下記のように戻り値のない関数名の場合、1行上の文字を戻り値として判断します。このような場合には、関数の型を宣言してください。

```
a. def
main() {}
```

(4) 表示仕様

スマート・ルック・アップ機能により表示される関数名候補、関数詳細は、ワークスペースを開いている状態、閉じている状態により、情報が異なります。

- ワークスペースを開いた状態で、ワークスペースに属するソース・ファイルを編集している場合
ワークスペースに属しているソース・ファイルの情報を元に関数名候補を表示します。複数個プロジェクトが存在する場合、すべてのプロジェクトの関数情報を元に関数名候補を表示します。
- ワークスペースを開いた状態で、ワークスペースに属していないソース・ファイルを編集している場合
その編集ウインドウ内の関数情報を元に関数名候補を表示します。ワークスペースに属しているソース・ファイルの関数名候補は表示しません。
- ワークスペースを閉じた状態
その編集ウインドウ内の関数情報を元に関数名候補を表示します。

ドラッグ・アンド・ドロップ機能

編集ウインドウにファイルをドロップすることにより、次のように動作します。

- ワークスペース・ファイル (拡張子 .prw) をドロップした場合
ドロップしたワークスペースを開きます。ワークスペースを開いている場合は、開いているワークスペースを閉じたのち、ドロップしたワークスペースを開きます。
なお、複数のワークスペース・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。
- プロジェクト・ファイル (拡張子 .prj) をドロップした場合
ドロップしたプロジェクト・ファイルに対応したワークスペースを開きます。ワークスペースを開いている場合は、開いているワークスペースを閉じたのち、ドロップしたプロジェクト・ファイルに対応したワークスペースを開きます。
なお、複数のプロジェクト・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。
- ワークスペース・ファイル、プロジェクト・ファイル以外のファイルをドロップした場合
ドロップしたファイルを編集ウインドウで開きます。[アウトプット・ウインドウ](#)を表示していない状態で編集ウインドウの“Untitled1”が存在する場合は、ドロップしたファイルを開く際に“Untitled1”を閉じます。
複数のファイルをドロップすることができます。

編集ウインドウの制限

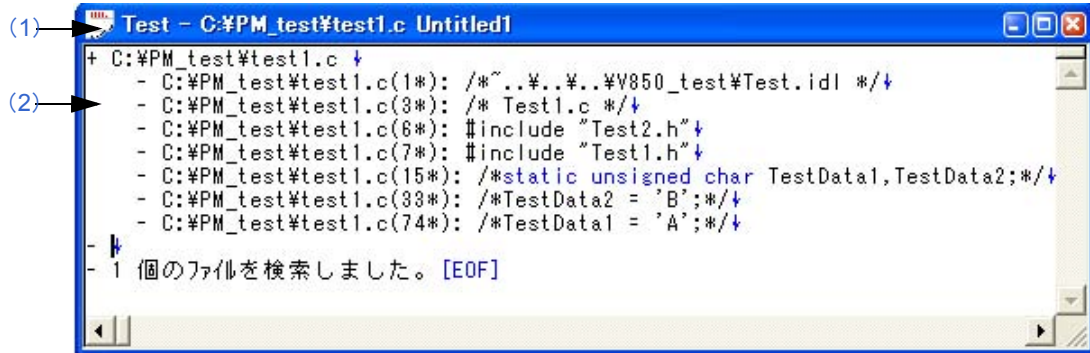
編集ウインドウには、次の制限があります。

- 1行に入力可能な文字数は、5119文字です。
- 警告メッセージなしで、128階層以上の行を127階層行に補正します。
- 最大行数は、2097152行とします。それ以上の入力是不可能的。
- 編集中のファイルを削除した場合は、メッセージを表示します。

検索結果ウィンドウ

[グローバル検索]や[プロジェクト内検索]を行った際に、その結果を表示するウィンドウです。

図 6-9 検索結果ウィンドウ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- マウスのダブル・クリック動作
- ドラッグ・アンド・ドロップ機能

オープン方法

- [検索]メニュー→[グローバル検索...]で検索した場合の検索結果としてオープン
- [検索]メニュー→[プロジェクト内検索...]で検索した場合の検索結果としてオープン

各エリアの説明

(1) タイトルバー

“検索文字列- 検索ファイル名 検索結果ファイル名”を表示します。

“検索結果ファイル名”は、新規に開かれたウィンドウの場合、“Untitledx” (xは番号)を表示します。

(2) 検索結果表示エリア

検索結果として、“ファイル名 (発見した行番号) 発見した行の内容”の形式で、5119文字まで表示します。5120文字目以降の行の内容は表示されません。

マウスのダブル・クリック動作

下位階層を持っていない行の場合、[編集ウィンドウ](#)の該当する箇所に、タグ・ジャンプします。

下位階層を持っている行の場合は、[ツール]メニュー→[環境設定]－[編集]タブで、選択した設定に従います。[編集]タブでは、次のどちらかを選択することができます。

- 閉じている階層を開く / 開いている階層を閉じる動作
- 単語の範囲指定

ドラッグ・アンド・ドロップ機能

検索結果ウィンドウにファイルをドロップすることにより、次のように動作します。

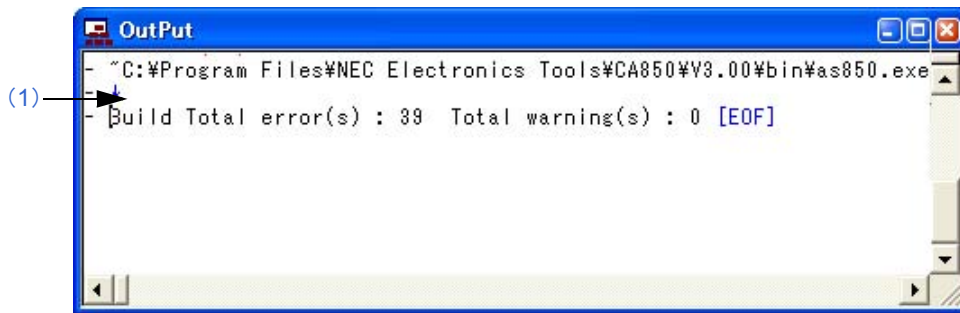
- ワークスペース・ファイル (拡張子 .prw) をドロップした場合
ドロップしたワークスペースを開きます。ワークスペースを開いている場合は、開いているワークスペースを閉じたのち、ドロップしたワークスペースを開きます。
なお、複数のワークスペース・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。
- プロジェクト・ファイル (拡張子 .prj) をドロップした場合
ドロップしたプロジェクト・ファイルに対応したワークスペースを開きます。ワークスペースを開いている場合は、開いているワークスペースを閉じたのち、ドロップしたプロジェクト・ファイルに対応したワークスペースを開きます。
なお、複数のプロジェクト・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。
- ワークスペース・ファイル、プロジェクト・ファイル以外のファイルをドロップした場合
ドロップしたファイルを[編集ウィンドウ](#)で開きます。[アウトプット・ウィンドウ](#)を表示していない状態で[編集ウィンドウ](#)の“Untitled1”が存在する場合は、ドロップしたファイルを開く際に“Untitled1”を閉じます。
複数のファイルをドロップすることができます。

アウトプット・ウインドウ

ビルドを行った際のメイクファイルの実行状況を表示するウインドウです。2回目以降の起動時では、前回、終了した際のウインドウの位置、サイズを再現します。

なお、実行状況により、エラー行は赤色、ワーニング行は青色で表示します（[ツール]メニュー→[環境設定...]→[表示]タブにより、任意の色に変更することができます）。

図 6-10 アウトプット・ウインドウ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- タグ・ジャンプ機能
- マウス右ボタンでの動作
- ドラッグ・アンド・ドロップ機能

オープン方法

- [ビルド]メニューからビルドやコンパイルなどを行った際に、その実行状況を表示するためにオープン
- [表示]メニュー→[アウトプット・ウインドウ]を選択

各エリアの説明

(1) 実行状況表示エリア

ビルドを行った際のメイクファイルの実行状況をを表示します。

タグ・ジャンプ機能

アウトプット・ウインドウのエラー行、またはワーニング行にキャレットを置き、マウスの左ボタンをダブル・クリックすると、キャレットを置いた行から該当エラー／ワーニング行にタグ・ジャンプを行います。

また、エラー／ワーニング番号にキャレットを置き、[F1]キーを押すことにより、該当エラー／ワーニングのヘルプを表示します。

マウス右ボタンでの動作

アウトプット・ウィンドウ内でマウスの右ボタンをクリックした場合、次のようなメニューが表示されます。なお、マウス右ボタンで表示するメニューは、[ツール]→[カスタマイズ]で変更することができます。

コピー (C)	選択範囲をクリップ・ボードへ複写します。
クリア (R)	アウトプット・ウィンドウの内容をクリアします。
文字列の検索 (E)...	指定文字列を検索します。
プロジェクト内検索 (J)	プロジェクトに登録されているソース・ファイル、ヘッダ・ファイルを対象に、指定文字列を検索します。
ウィンドウを固定 (X)	アウトプット・ウィンドウの位置を固定にします。

ドラッグ・アンド・ドロップ機能

アウトプット・ウィンドウにファイルをドロップすることにより、次のように動作します。

- ワークスペース・ファイル (拡張子 .prw) をドロップした場合

ドロップしたワークスペースを開きます。ワークスペースを開いている場合は、開いているワークスペースを閉じたのち、ドロップしたワークスペースを開きます。

なお、複数のワークスペース・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。

- プロジェクト・ファイル (拡張子 .prj) をドロップした場合

ドロップしたプロジェクト・ファイルに対応したワークスペースを開きます。ワークスペースを開いている場合は、開いているワークスペースを閉じたのち、ドロップしたプロジェクト・ファイルに対応したワークスペースを開きます。

なお、複数のプロジェクト・ファイルをドロップすることはできません。また、ワークスペース・ファイルとプロジェクト・ファイルを混在して複数ドロップすることもできません。

- ワークスペース・ファイル、プロジェクト・ファイル以外のファイルをドロップした場合

ドロップしたファイルを編集ウィンドウで開きます。

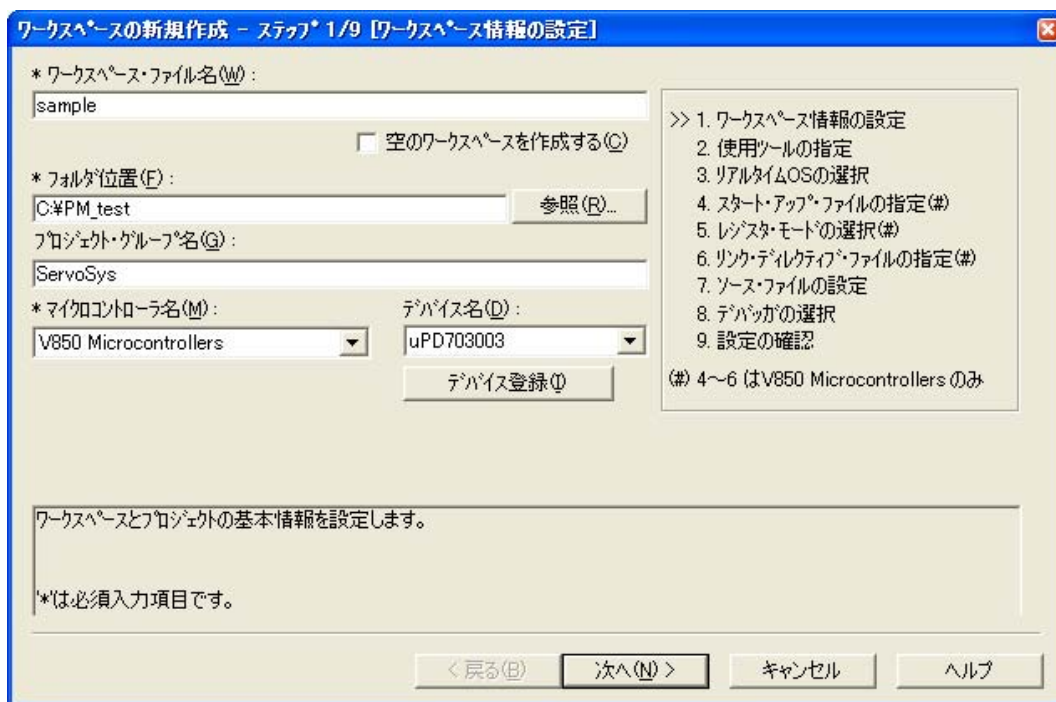
複数のファイルをドロップすることができます。

[ワークスペースの新規作成]ウィザード

ワークスペース、およびそれに属するプロジェクトを新規に作成するためのウィザードです。
このウィザードでは、次のダイアログが表示されます。各ダイアログ上において、必要項目を入力/選択したのち、[次へ>]ボタンをクリックして順次進めてください。

- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログ
- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログ
- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 3/9 [リアルタイム OS の選択]] ダイアログ
- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ
- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 5/9 [レジスタ・モードの選択]] ダイアログ
- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ
- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログ
- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 8/9 [デバッグの選択]] ダイアログ
- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 9/9 [設定の確認]] ダイアログ

図 6-11 [ワークスペースの新規作成]ウィザードのスタート画面



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- ウィザード・フロー
- 各ダイアログの説明

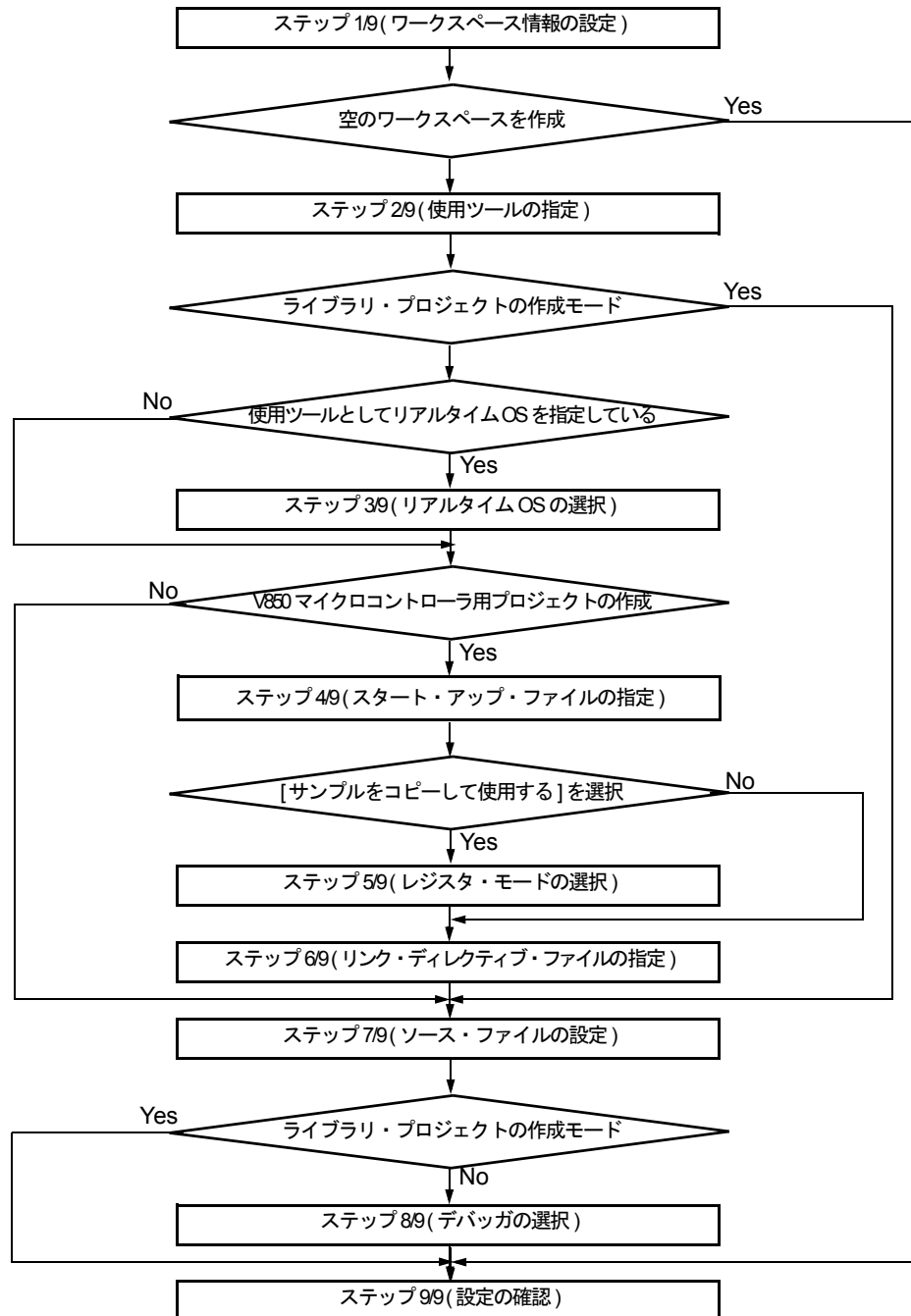
オープン方法

- [ファイル]メニュー→[ワークスペースの新規作成]を選択

ウィザード・フロー

各ダイアログにおける選択内容によって、次に表示されるダイアログは異なります。選択内容によるウィザードのフローを次に示します。

図 6-12 [ワークスペースの新規作成] ウィザードのフロー



各ダイアログの説明

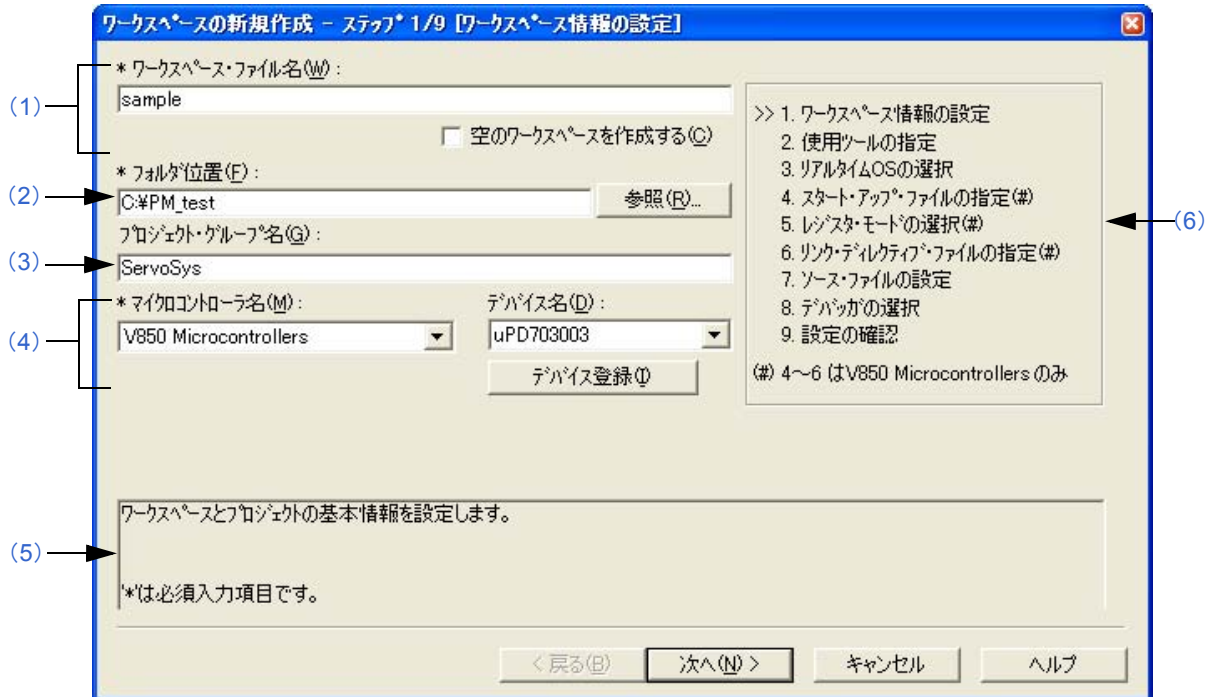
次に、このウィザードで表示される各ダイアログを説明します。

[ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログ

ワークスペース・ファイル名、フォルダ位置、プロジェクト・グループ名、使用デバイスのマイクロコントローラ名とデバイス名を指定します。

なお、ダイアログ内の“*”マークが付与されている項目は、指定を省略することができません（[次へ>]ボタンは無効です）。

図 6-13 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログ



(1) ワークスペース・ファイル名

ワークスペース情報を保存するファイル名を指定します。指定できる文字数は、255文字までです。

ファイル名の拡張子は“prw”で、拡張子の指定が省略された場合は、自動的にこの拡張子“prw”が付与されます。なお、指定されたワークスペース名の拡張子“prw”を“prj”に置き換えたものがプロジェクト・ファイル名となります。

また、既存のワークスペース名を指定した場合は、このダイアログ上の[次へ>]ボタンをクリックした際、確認メッセージを表示したのち、既存のファイルをバックアップ・ファイルとしてリネーム（例：test.prw → test.prw.bak）します。

[空のワークスペースを作成する]をチェックすると、ワークスペースのみ作成し、[プロジェクト・グループ名]、および[マイクロコントローラ名]、[デバイス名]は無効となります。

(2) フォルダ位置

ワークスペース・ファイル、およびプロジェクト・ファイルを保存するフォルダを指定します。

[参照...]ボタンをクリックした場合、フォルダの位置指定用の[フォルダの参照]ダイアログがオープンし、任意のフォルダを指定することができます。デフォルトのフォルダ位置は、PM+が存在するフォルダです。

(3) プロジェクト・グループ名

プロジェクト・ウィンドウで表示するプロジェクト・グループ名を指定します。指定できる文字数は、127文字までです。

省略した場合、プロジェクト・ウィンドウで表示するプロジェクト・グループ名には、ワークスペース・ファイルと同名を表示します。

なお、このウィザードにより新規作成するプロジェクトのプロジェクト・タイトルは、ここで指定するプロジェクト・グループ名となります。プロジェクト・タイトル名を変更する場合は、ウィザードを終了後、プロジェクト・ウィンドウ上で該当するプロジェクト・タイトルを選択したのち、マウス右ボタンにより[プロジェクト・タイトルの変更]を選択してください。

(4) マイクロコントローラ名, デバイス名

作成する対象と使用するデバイス・ファイルをドロップダウン・リストより選択します。

[デバイス登録]ボタンをクリックした場合、新規のデバイス・ファイルを登録するために、デバイス・ファイル・インストーラが起動します。

(5) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(6) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>”マークは、現在のダイアログの位置を示しています。情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

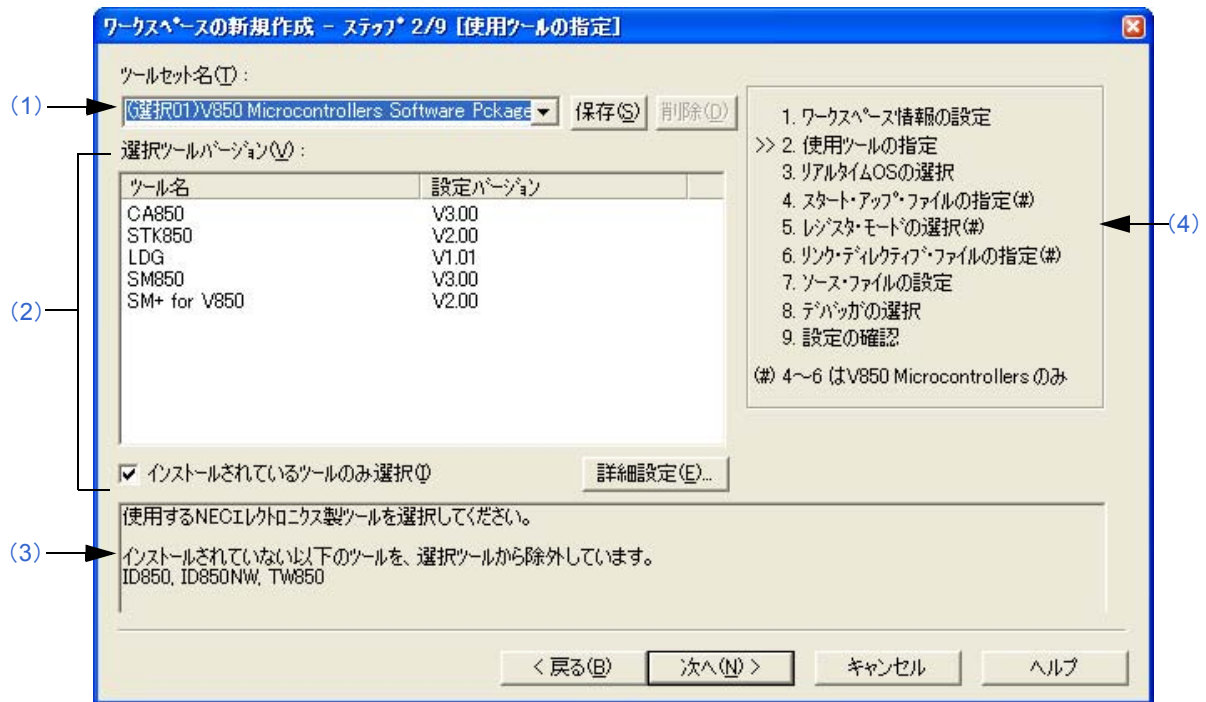
(7) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	常に無効です。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます（設定により、表示されるダイアログは異なります（ 「図 6-12 [ワークスペースの新規作成] ウィザードのフロー」 参照））。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ワークスペースの新規作成 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログ

使用するツールを指定します。

図 6-14 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログ



(1) ツールセット名

使用する各ツールとそのバージョンの組み合わせをひとまとめにしたものをツールセットとし、そのツールセット名を指定します。

ドロップダウン・リストには、ユーザが以前に保存したツールセットと推奨するツールセット（78K マイクロコントローラの場合は“78Kx Microcontrollers Software Package Vx.xx”，V850 マイクロコントローラの場合は“V850 Microcontrollers Software Package Vx.xx”）が表示されます。

[詳細設定...] ボタンのクリックによりオープンする [ツールバージョン詳細設定] ダイアログでツールセットを変更した場合は、ツールセット名の先頭に“(変更)”が付加されます。既にそのツールセット名が存在する場合、先頭に付加される文字は“(変更 01)”～“(変更 99)”となり、それ以降はツールセット名が“ユーザセット”となります。

ボタン	機能
保存	現在、[ツールセット名]で選択しているツールセットをファイルに保存します。 ただし、ツールセット・ファイルが読み込み専用になっている場合、このボタンは無効（グレー表示）となります。
削除	[ツールセット名]で選択しているツールセット名を削除します（対応するツールセット・ファイルを削除します）。 ただし、選択しているツールセットに対応するツールセット・ファイルが存在しない、またはツールセット・ファイルが読み込み専用の場合、このボタンは無効（グレー表示）となります。

【備考】

保存時のファイル名は、“ツールセット名.拡張子”となります。

拡張子は、使用するマイクロコントローラによって次のようになります。

78K0R マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：t0r

78K0 マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：tk0

78K0S マイクロコントローラ（ライブラリを含む）: t0s

V850 マイクロコントローラ（ライブラリを含む）: t85

ファイルの保存場所は、全ユーザがアクセス可能な“Application Data”フォルダ下の“NEC Electronics\PM+”となり、このフォルダが存在しない場合は、起動時にフォルダが作成されます（例：Windows XP の場合，“C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\NEC Electronics\PM+”）。

(2) 選択ツールバージョン

使用する各ツールとそのバージョンの組み合わせを一覧表示します。

[ツールセット名]でツールセット名を選択すると、選択したツールセットの組み合わせが表示されます。

デフォルトでは、[ツールセット名]で指定されているツールセットの各ツールとそのバージョンが表示されず。

また、このエリア内をダブル・クリック、または[詳細設定...]ボタンをクリックすると、[\[ツールバージョン詳細設定\]ダイアログ](#)がオープンし、使用するツールとそのバージョンを選択することができます。

(a) ツール名

インストールされているツール、および選択したツールセットに含まれるツール（インストールされていないツールを含む）のツール名をすべて表示します。

ただし、インストールされていないツールについてはグレー表示されます。

(b) 設定バージョン

選択したツールセットで指定されているバージョンを表示します。

ただし、インストールされていないツールについてはグレー表示、選択したツールセットでバージョンが指定されていないツールについては“未使用”が表示されます。

(c) インストールされているツールのみ選択

選択されているツールセット内で、インストールされていないツールを一覧から削除します（デフォルト）。

チェック・ボックスをチェックしたツールセットには、ツールセット名の先頭に“(選択 01)”が付加されます（既にそのツールセット名が存在する場合、先頭に付加される文字は“(選択 0n)”となります）。

インストールされていないツールが存在しない場合は、このチェック・ボックスは無効となります。

(3) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(4) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>”マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(5) 機能ボタン

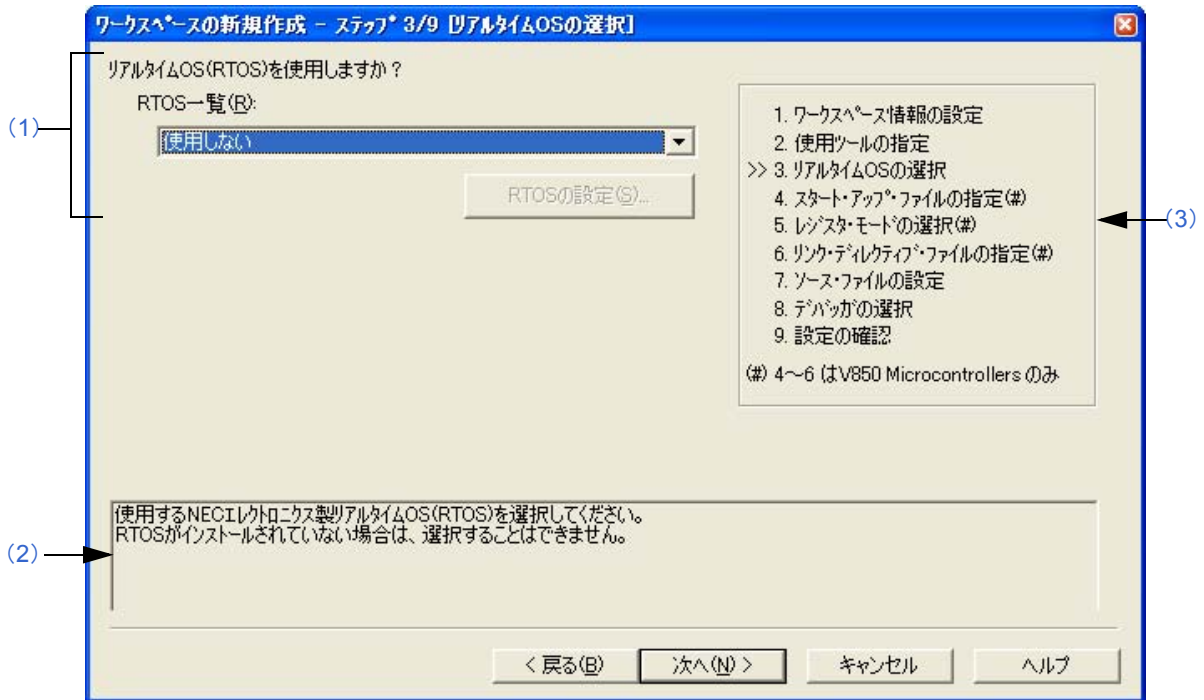
ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます（設定により、表示されるダイアログは異なります（ 「図 6-12 [ワークスペースの新規作成] ウィザードのフロー」 参照））。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ワークスペースの新規作成 - ステップ 3/9 [リアルタイム OS の選択]] ダイアログ

NEC エレクトロニクス製リアルタイム OS を使用するかどうかを指定します。

このダイアログは、[ワークスペースの新規作成 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログにおいて、リアルタイム OS を指定した場合のみ表示します。

図 6-15 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 3/9 [リアルタイム OS の選択]] ダイアログ



(1) RTOS 一覧

NEC エレクトロニクス製リアルタイム OS を使用する場合は“リアルタイム OS 名”を、使用しない場合は“使用しない”をドロップダウン・リストにより選択します。

ドロップダウン・リストには、[ワークスペースの新規作成 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログで指定した NEC エレクトロニクス製 V850 マイクロコントローラ用リアルタイム OS 名が表示されます。

“リアルタイム OS 名”を選択すると [RTOS の設定] ボタンが有効になり、このボタンをクリックすることにより、選択したリアルタイム OS の詳細を設定するダイアログを表示します。設定内容の詳細については、各リアルタイム OS のユーザズ・マニュアルを参照してください。

(2) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(3) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>” マークは、現在のダイアログの位置を示しています。情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(4) 機能ボタン

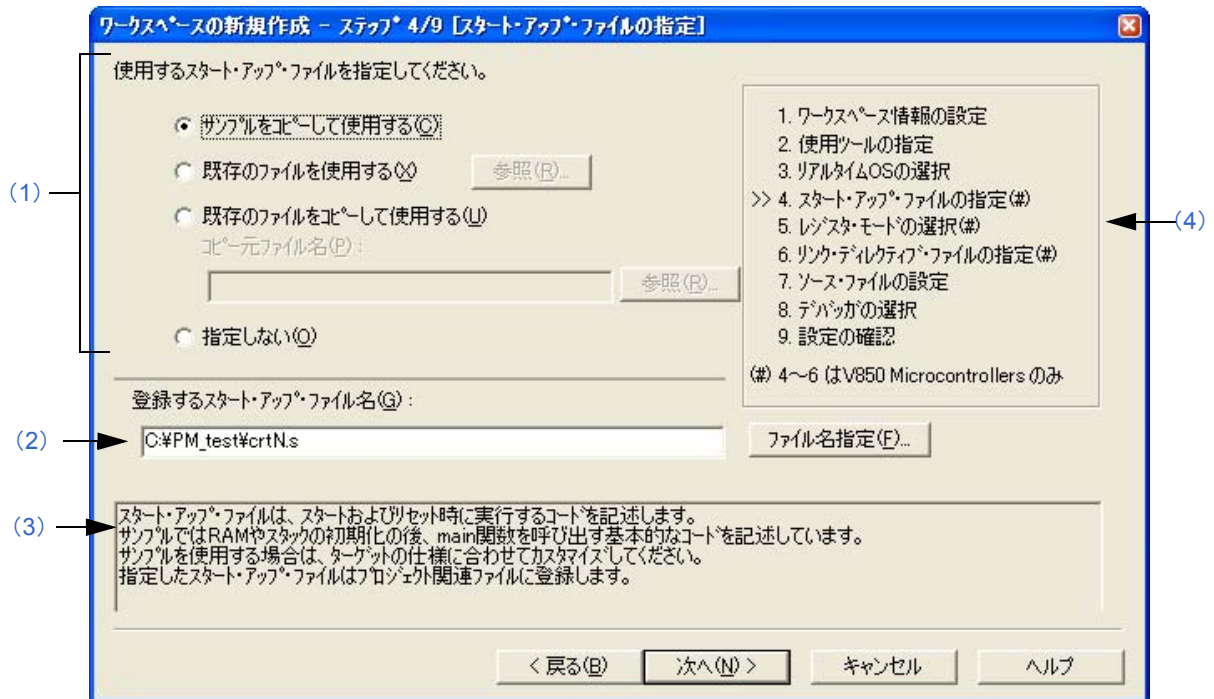
ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます（設定により、表示されるダイアログは異なります（ 「図 6-12 [ワークスペースの新規作成] ウィザードのフロー」 参照））。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ワークスペースの新規作成 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ

使用するスタート・アップ・ファイルを指定します。

このダイアログは、[ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログにおいて、マイクロコントローラ名に“V850 Microcontrollers”を指定した場合のみ表示します。

図 6-16 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ



(1) スタート・アップ・ファイル指定エリア

(a) サンプルをコピーして使用する

サンプルとして提供されているスタート・アップ・ファイルを使用する場合は、この項目を選択します。この項目を選択することにより、次のウィザード・ステップで設定するレジスタ・モードに対応したサンプルのスタート・アップ・ファイルがプロジェクト・フォルダにコピーされ、さらに、プロジェクト関連ファイルに登録されます。

[登録するスタート・アップ・ファイル名]には、使用するスタート・アップ・ファイル名が絶対パスで表示されます（コピー先フォルダやファイル名の変更は、[ファイル名を指定...] ボタン、または[登録するスタート・アップ・ファイル名] エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

ただし、1つ前のウィザード・ステップ（[ワークスペースの新規作成 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログ）において、リアルタイム OS の使用を選択している場合、この項目を選択することはできません。

(b) 既存のファイルを使用する

既存のスタート・アップ・ファイルを使用する場合は、この項目を選択します。

[参照...] ボタンをクリックすると、[スタートアップファイルの指定] ダイアログがオープンし、任意のファイルを選択することができます。

[登録するスタート・アップ・ファイル名]には、使用するスタート・アップ・ファイル名が絶対パスで表示されます（ファイル名の変更は、[ファイル名を指定...] ボタン、または[登録するスタート・アップ・ファイル名] エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

なお、既存のファイルを使用する場合、[ファイル名指定...] ボタンは無効となります。

(c) 既存のファイルをコピーして使用する

既存のスタート・アップ・ファイルをコピーして使用する場合は、この項目を選択します。コピー元のスタート・アップ・ファイル名と、コピー先である登録するスタート・アップ・ファイル名の両方を指定します。[参照...] ボタンをクリックすると、[コピー元のスタート・アップファイルの指定] ダイアログがオープンし、コピー元の任意のファイルを選択することができます。[コピー元ファイル名] には、ここで選択したファイル名が絶対パスで表示されます（ファイルの指定は、絶対パスまたはプロジェクト・フォルダからの相対パス表記でキーボードから直接入力することも可能です）。

コピー元のスタート・アップ・ファイルを指定すると、自動的にコピー先のスタート・アップ・ファイル名が[登録するスタート・アップ・ファイル名]に絶対パスで表示されます（コピー先フォルダやファイル名を変更する場合は、[ファイル名を指定...] ボタン、または[登録するスタート・アップ・ファイル名] エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

(d) 指定しない

スタート・アップ・ファイルとして何も指定しない場合は、この項目を選択します。

スタート・アップ・ファイルの指定は、ウィザード終了後、プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト関連ファイル・フォルダを選択したのち、右マウス・ボタンによる[プロジェクト関連ファイルへの追加]の選択、または[ツール]メニュー→[リンカ・オプションの設定]の選択で設定することができます。

(2) 登録するスタート・アップ・ファイル名

登録するスタート・アップ・ファイル名を指定します。

ファイル名の指定/変更は、[ファイル名指定...] ボタンをクリックすることによりオープンする[登録するスタートアップファイル名の指定] ダイアログで行うか、あるいはエディット・ボックスに、ファイル名を絶対パス、またはプロジェクト・フォルダからの相対パス表記でキーボードから直接入力します。

(3) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(4) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>” マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(5) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます（設定により、表示されるダイアログは異なります（「 図 6-12 [ワークスペースの新規作成] ウィザードのフロー 」参照））。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

【注意】

スタート・アップ・ファイルとして[指定しない]を選択し、[ワークスペースの新規作成 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログでソース・ファイルを登録したのち、本ダイアログに戻り、[ワークスペースの新規作成 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログで登録したソース・ファイルをスタート・アップ・ファイルとして指定してそのままウィザードを終了した場合、次の“リンカ・オプションの設定”に対するメッセージを表示し、ソース・ファイル、プロジェクト関連ファイルの両方に、スタート・アップ・ファイルが登録されてしまいます。

“スタートアップファイルの指定が不正です。”

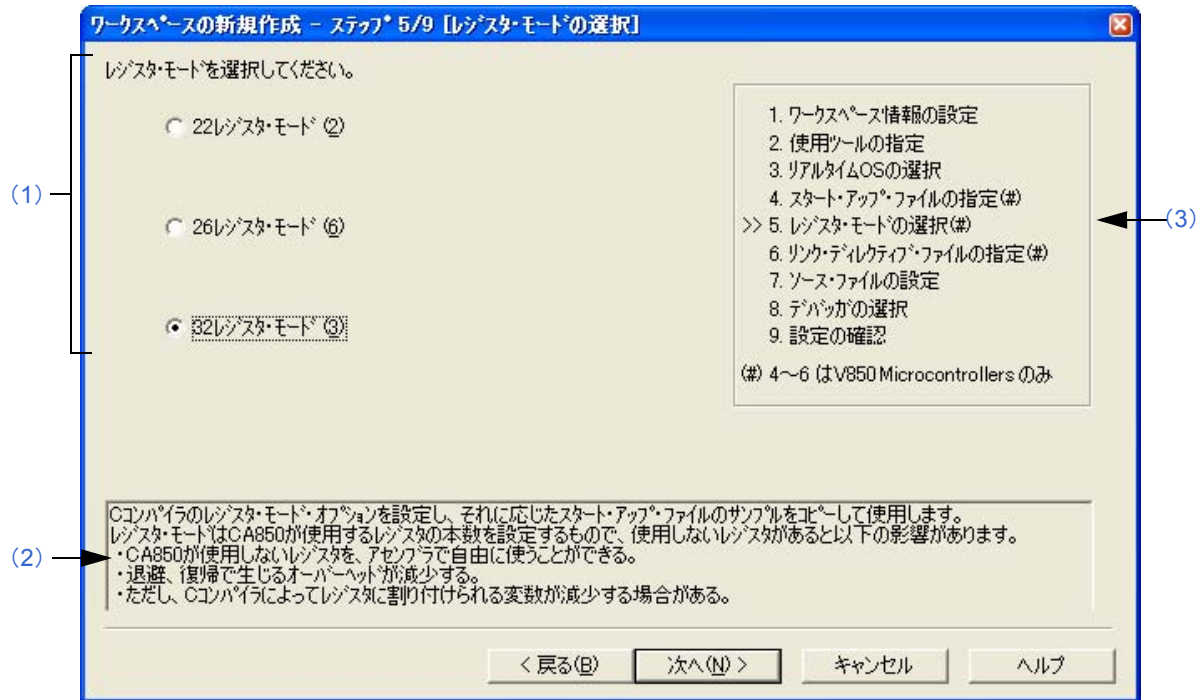
この場合、ソース・ファイルに登録したスタート・アップ・ファイルを削除してください。

[ワークスペースの新規作成 - ステップ 5/9 [レジスタ・モードの選択]] ダイアログ

コンパイラのレジスタ・モード・オプションを選択します。ここで選択したレジスタ・モードに応じたスタート・アップ・ファイルのサンプルをプロジェクト・フォルダにコピーし、プロジェクト関連ファイルに登録します。

このダイアログは、[ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログにおいて、マイクロコントローラ名に“V850 Microcontrollers”を指定し、かつ、1つ前のウィザード・ステップ ([ワークスペースの新規作成 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ) において、“サンプルをコピーして使用する”を指定した場合のみ表示します。

図 6-17 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 5/9 [レジスタ・モードの選択]] ダイアログ

**(1) レジスタ・モード指定エリア****(a) 22 レジスタ・モード**

22 レジスタ・モードとしてスタート・アップ・ファイルを決定します。

(b) 26 レジスタ・モード

26 レジスタ・モードとしてスタート・アップ・ファイルを決定します。

(c) 32 レジスタ・モード

32 レジスタ・モードとしてスタート・アップ・ファイルを決定します。

(2) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(3) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>” マークは、現在のダイアログの位置を示しています。情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(4) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

【注意】

ワークスペース新規作成後、コンパイラ・オプションのレジスタ・モードを変更すると、スタート・アップ・ファイル中に記述されたレジスタ・モードを示す擬似命令と他のソース・ファイルのレジスタ・モードが異なる現象が生じます。したがって、次のいずれかの処理／対応が必要となります。

- スタート・アップ・ファイル中のレジスタ・モードを示す擬似命令を次のように変更します。

【レジスタ・モード 22 の場合】

```
#-----
# register mode
#-----
.option reg_mode 5 5
```

【レジスタ・モード 26 の場合】

```
#-----
# register mode
#-----
.option reg_mode 7 7
```

【レジスタ・モード 32 の場合】

” .option reg_mode ” 行を削除します。

- リンク時に表示される次のワーニングを無視します。

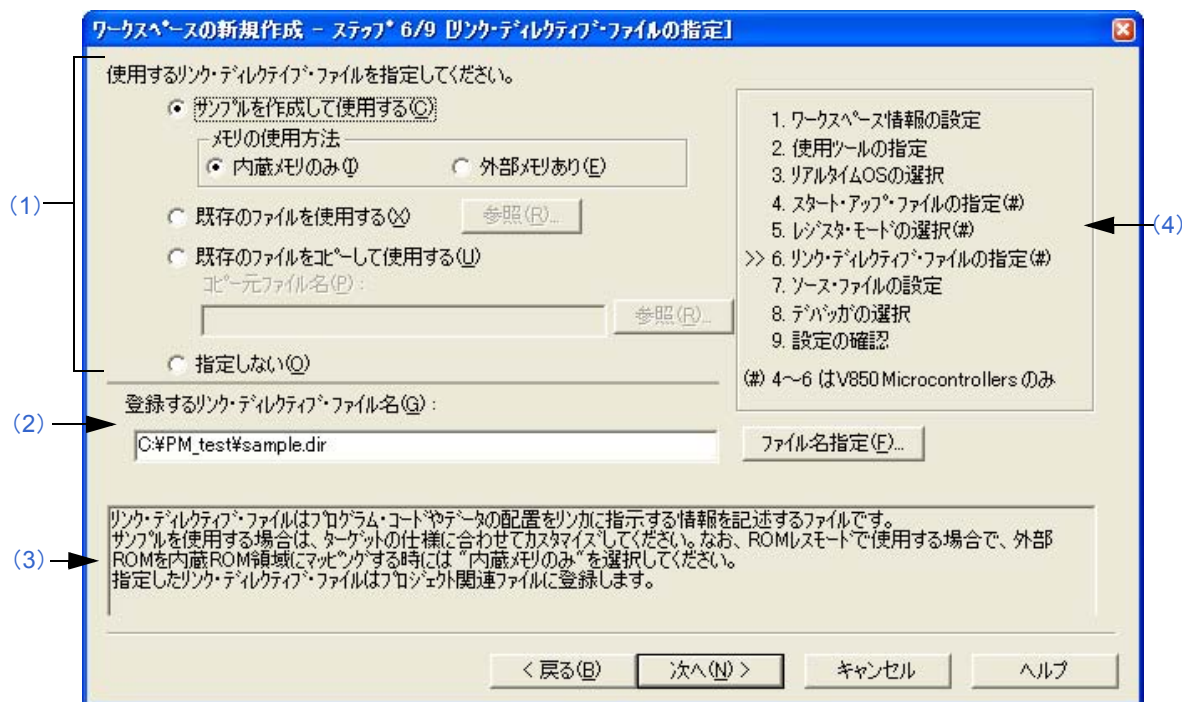
” Id850: W4608: input file have different register modes, use "-rc" option for more information.”

[ワークスペースの新規作成 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ

使用するリンク・ディレクティブ・ファイルを指定します。指定したリンク・ディレクティブ・ファイルは、プロジェクト関連ファイルに登録されます。

このダイアログは、[ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログのマイクロコントローラ名において、“V850 Microcontrollers”を指定した場合のみ表示します。

図 6-18 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ



(1) リンク・ディレクティブ・ファイル指定エリア

(a) サンプルを作成して使用する

この項目を選択すると、[メモリの使用方法]での選択内容、および[ワークスペースの新規作成 - ステップ 3/9 [リアルタイム OS の選択]]ダイアログでのリアルタイム OS の選択内容に応じた、サンプルのリンク・ディレクティブ・ファイルをプロジェクト・フォルダに作成します。作成されるリンク・ディレクティブ・ファイル名は、“プロジェクト・ファイル名.dir”となります。

- メモリの使用方法

内蔵メモリのみ	ROM レス・モードで使用する場合、外部 ROM を内蔵 ROM 領域にマッピングします。
外部メモリあり	TEXT セクションを内部メモリに、DATA セクションを外部メモリにマッピングします。

また、作成されたリンク・ディレクティブ・ファイルは、自動的にプロジェクト関連ファイルに登録されます。[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名]には、作成されたリンク・ディレクティブ・ファイル名を絶対パスで表示します（ファイル名の変更は、[ファイル名を指定...]ボタン、または[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名]エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

なお、作成されるリンク・ディレクティブ・ファイルの詳細については、「付録 A サンプル・リンク・ディレクティブ・ファイル」を参照してください。

【注意】

作成されたリンク・ディレクティブ・ファイルは、ターゲットの仕様やユーザ定義セクションなどに合わせて、カスタマイズする必要があります。

(b) 既存のファイルを使用する

既存のリンク・ディレクティブ・ファイルを使用する場合は、この項目を選択します。

[参照...] ボタンをクリックすると、[リンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログがオープンし、任意のファイルを選択することができます。

[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名]には、使用するリンク・ディレクティブ・ファイル名が絶対パスで表示されます（ファイル名の変更は、[ファイル名を指定...] ボタン、または[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名]エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

なお、既存のリンク・ディレクティブ・ファイルを使用する場合、[ファイル名指定...] ボタンは無効となります。

(c) 既存のファイルをコピーして使用する

既存のリンク・ディレクティブ・ファイルをコピーして使用する場合は、この項目を選択します。コピー元のリンク・ディレクティブ・ファイル名と、コピー先である登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名を指定します。

[参照...] ボタンをクリックすると、[コピー元のリンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログがオープンし、コピー元の任意のファイルを選択することができます。[コピー元ファイル名]には、ここで選択したファイル名が絶対パスで表示されます（ファイルの指定は、絶対パスまたはプロジェクト・フォルダからの相対パス表記でキーボードから直接入力することも可能です）。

コピー元のリンク・ディレクティブ・ファイルを指定すると、自動的にコピー先のリンク・ディレクティブ・ファイル名が[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名]に絶対パスで表示されます（コピー先フォルダやファイル名を変更する場合は、[ファイル名を指定...] ボタン、または[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名]エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

(d) 指定しない

リンク・ディレクティブ・ファイルとして何も指定しない場合は、この項目を選択します。

リンク・ディレクティブ・ファイルは、ウィザード終了後、プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト関連ファイル・フォルダを選択したのち、右マウス・ボタンによる[プロジェクト関連ファイルへの追加]の選択、または[ツール]メニュー→[リンク・オプションの設定]の選択で設定することができます。

(2) 登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名

登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名を指定します。

ファイル名の指定/変更は、[ファイル名指定...] ボタンをクリックすることによりオープンする[登録するリンク ディレクティブ ファイル名の指定] ダイアログで行うか、あるいはエディット・ボックスに、ファイル名を絶対パス、またはプロジェクト・フォルダからの相対パス表記でキーボードから直接入力します。

(3) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(4) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>” マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

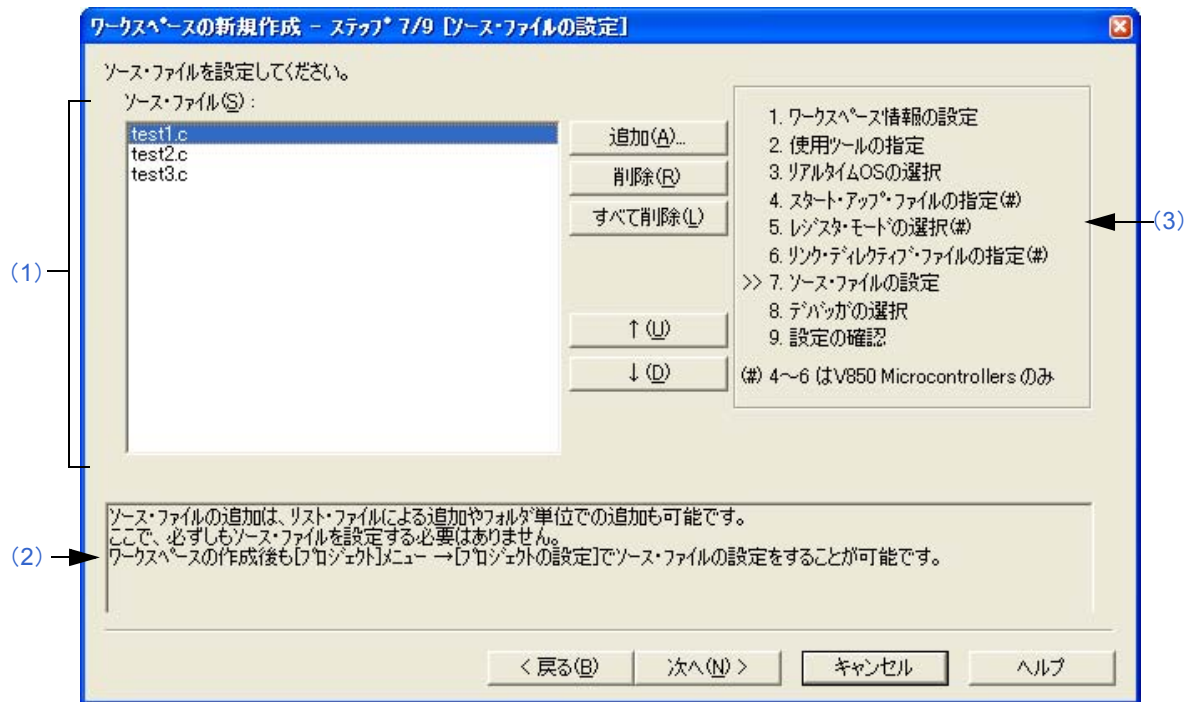
(5) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ワークスペースの新規作成 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログ

プロジェクトに登録するソース・ファイル名を設定します。

図 6-19 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログ



(1) ソース・ファイル

プロジェクトに登録するソース・ファイル名を表示します。

なお、プロジェクト・ファイルには、ここで表示されている順番で登録されます。また、登録された順番でビルド作業も行われます。

ボタン	機能
追加 ...	[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログがオープンし、プロジェクトに登録するソース・ファイルを指定します。なお、1つのプロジェクトに登録可能なソース・ファイル数は、2048個までです。また、ソース・ファイルの拡張子は、プロジェクトに登録されたマイクロコントローラ名によって異なります。
削除	リスト・ボックスで選択中のファイルをリストから削除します。ソース・ファイルの選択は、[Shift] キー、または [Ctrl] キーを用いることにより、同時に複数選択することができます。削除されたソース・ファイル名は、プロジェクトに登録されません。リスト・ボックス内にソース・ファイル名が1つもない場合、このボタンは無効となります。
すべて削除	リスト・ボックスで表示中のすべてのファイルをリストから削除します。削除されたソース・ファイル名は、プロジェクトに登録されません。リスト・ボックス内にソース・ファイル名が1つもない場合、このボタンは無効となります。
↑	リスト・ボックスで選択中のファイルを1行上に移動します。
↓	リスト・ボックスで選択中のファイルを1行下に移動します。

【注意】

- コンパイラ、アセンブラをインストールしていない場合、ソース・ファイルを追加することはできません。
- ソース・ファイルを追加した後、[ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログに戻ってマイクロコントローラ名を変更し、本ダイアログに進んだ場合、先に登録したファイルで、変更後のマイクロコントローラに対応した拡張子以外のファイルもソース・ファイル・リスト・ボックスに表示されます。該当するソース・ファイルを削除してください。

- このウィザード・ステップで、ソース・ファイルを何も設定しない状態でも、[次へ>] ボタンにより、次のステップに進むことができます。その場合は、ウィザード終了後、[プロジェクトの設定] ダイアログによる指定、またはプロジェクト・ウィンドウ上に直接必要なソース・ファイルをドラック・アンド・ドロップすることにより、適宜ソース・ファイルを追加してください。

(2) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(3) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>” マークは、現在のダイアログの位置を示しています。情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(4) 機能ボタン

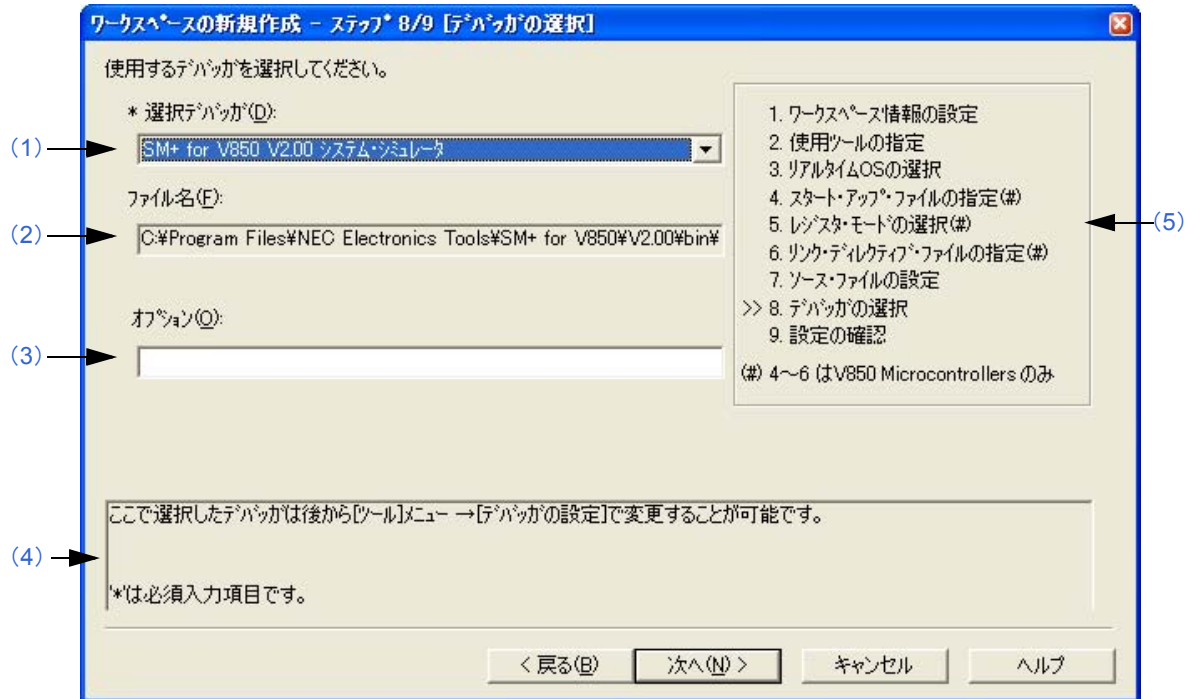
ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます（設定により、表示されるダイアログは異なります（「 図 6-12 [ワークスペースの新規作成] ウィザードのフロー 」参照））。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ワークスペースの新規作成 - ステップ 8/9 [デバッガの選択]] ダイアログ

新規に作成するプロジェクトをデバッグするデバッガを選択します。

なお、ダイアログ内の“*”マークが付与されている項目は、指定を省略することができません（[次へ>]ボタンは無効です）。また、ここで選択したデバッガは、ウィザード終了後、適宜変更することができます。

図 6-20 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 8/9 [デバッガの選択]] ダイアログ



(1) 選択デバッガ

使用するデバッガをドロップダウン・リストから選択します。

ドロップダウン・リストには、マイクロコントローラ名に対応した、インストール済みの NEC エレクトロニクス製のデバッガがすべて表示されます。これにより、[ファイル名]テキスト・ボックスにデバッガのファイル名が表示され、デバッグ時に選択されたデバッガが自動的に起動します。

なお、ウィザード終了後に、デバッガを変更する場合は、[ツール]メニュー→[デバッガの設定]により行ってください。

(2) ファイル名

デバッグする際に使用するデバッガのファイル名を表示します。

[選択デバッガ]でデバッガを選択した場合は、そのファイル名をパス付きで自動的に表示します。

なお、このテキスト・ボックスは、編集できません。

(3) オプション

デバッガを起動する際のオプションを指定します。

省略した場合、デバッガを起動する際のオプションは、何も設定されません。

(4) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(5) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>”マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(6) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	ウィザードの最終ステップへ進みます。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ワークスペースの新規作成 - ステップ 9/9 [設定の確認]] ダイアログ

現在までの設定内容を確認し、ワークスペースの新規作成のウィザードを終了します。

図 6-21 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 9/9 [設定の確認]] ダイアログ



(1) 設定内容表示エリア

ワークスペースの新規作成のためにこのウィザードで設定した各種情報を表示します。

設定内容に誤りがない場合は、[完了]ボタンをクリックすることにより、[ワークスペースの新規作成]ウィザードを終了し、表示されている情報に従ってワークスペース・ファイル、およびそのワークスペースに属するプロジェクト・ファイルを生成します。

また、この時、自動的にメイクファイル（“プロジェクト・ファイル名”.mak）を作成します。

(2) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>”マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(3) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
完了	このウィザードを終了し、表示されている情報に従って、ワークスペース・ファイル、およびそのワークスペースに属するプロジェクト・ファイルを生成します。 また、自動的にメイクファイル（“プロジェクト・ファイル名”.mak）を作成します。
キャンセル	ワークスペースの新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

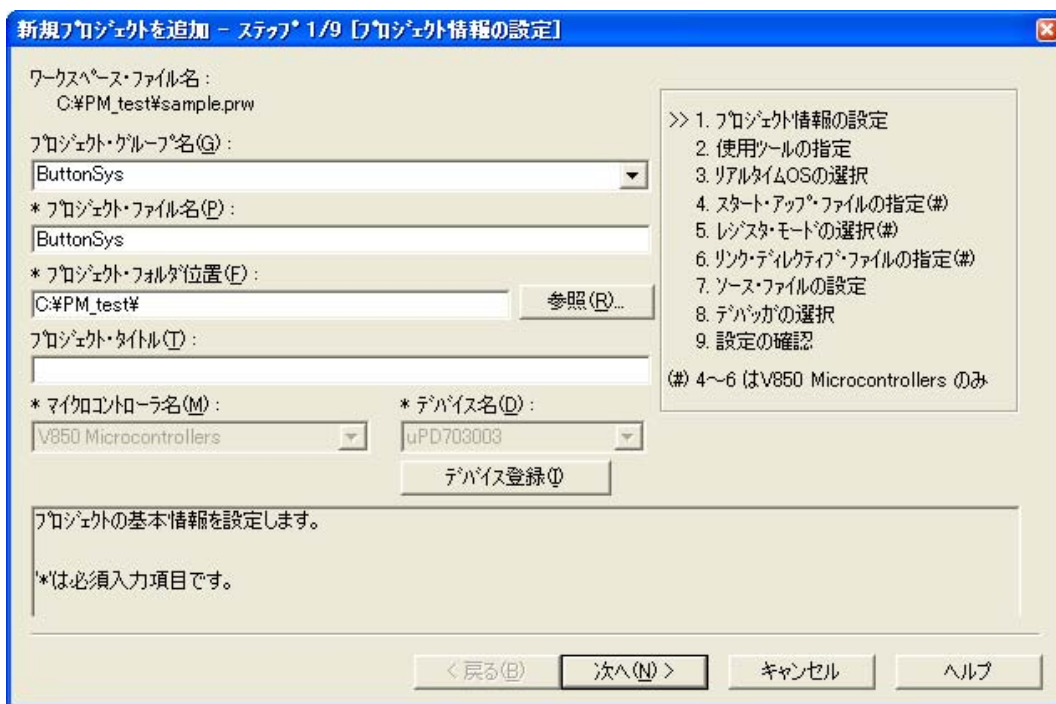
[新規プロジェクトを追加] ウィザード

現在開いているワークスペースに、新規にプロジェクトを追加するためのウィザードです。

このウィザードでは、次のダイアログが表示されます。各ダイアログ上において、必要項目を入力/選択したのち、[次へ >] ボタンをクリックして順次進めてください。

- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 1/9 [プロジェクト情報の設定] ダイアログ
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定] ダイアログ
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 3/9 [リアルタイム OS の選択] ダイアログ
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定] ダイアログ
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 5/9 [レジスタ・モードの選択] ダイアログ
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定] ダイアログ
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定] ダイアログ
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 8/9 [デバッグの選択] ダイアログ
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 9/9 [設定の確認] ダイアログ

図 6-22 [新規プロジェクトを追加] ウィザードのスタート画面



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- ウィザード・フロー
- 各ダイアログの説明

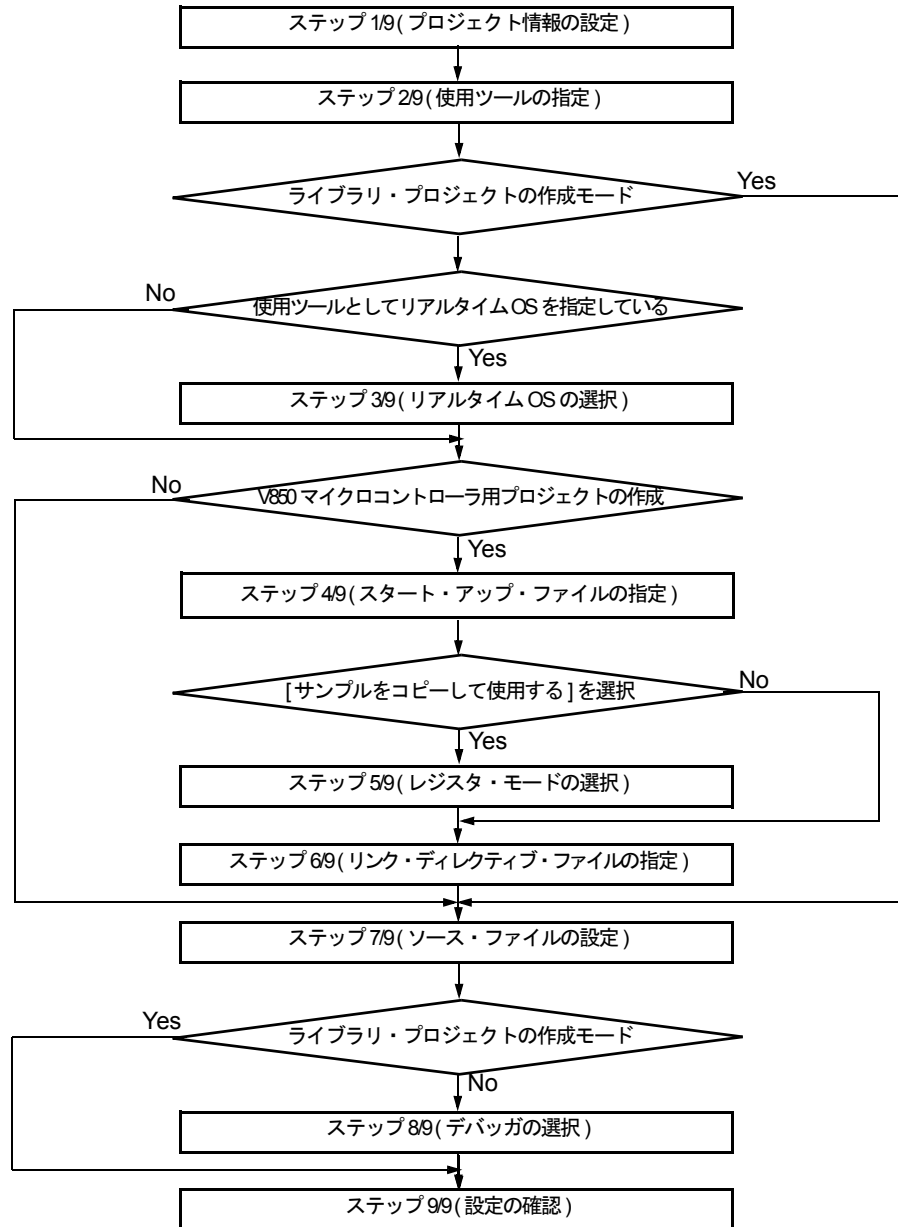
オープン方法

- [プロジェクト] メニュー → [新規プロジェクトを追加] を選択
- プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト・グループ → マウス右ボタン → [新規プロジェクトを追加 ...] を選択

ウィザード・フロー

各ダイアログにおける選択内容によって、次に表示されるダイアログは異なります。選択内容によるウィザードのフローを次に示します。

図 6-23 [新規プロジェクトを追加] ウィザードのフロー



各ダイアログの説明

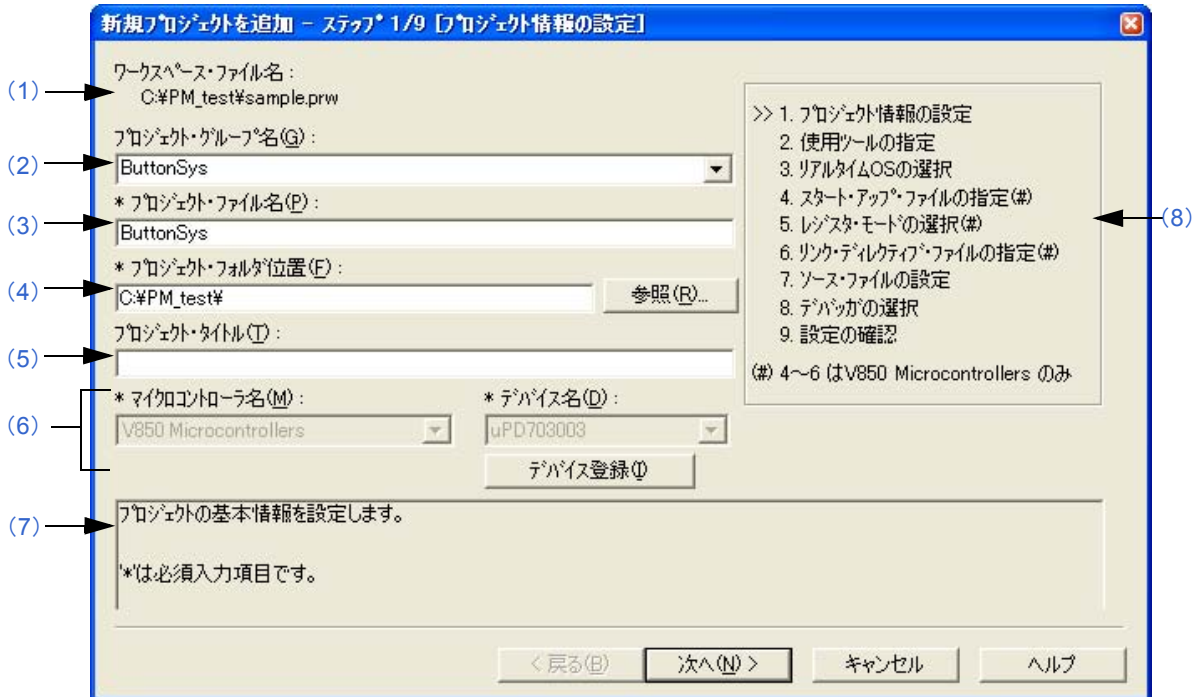
次に、このウィザードで表示される各ダイアログを説明します。

[新規プロジェクトを追加 - ステップ 1/9 [プロジェクト情報の設定] ダイアログ

プロジェクト・グループ名、プロジェクト・ファイル名、プロジェクト・フォルダ位置、プロジェクト・タイトル、使用デバイスのマイクロコントローラ名とデバイス名を指定します。

なお、ダイアログ内の “*” マークが付与されている項目は、指定を省略することができません ([次へ >] ボタンは無効です)。

図 6-24 [新規プロジェクトを追加 - ステップ 1/9 [プロジェクト情報の設定] ダイアログ

**(1) ワークスペース・ファイル名**

現在開いているワークスペース・ファイル名を絶対パスで表示します。

(2) プロジェクト・グループ名

プロジェクト・ウィンドウで表示するプロジェクト・グループ名を指定します。指定できる文字数は、127文字までです。

既存のグループにプロジェクトを挿入したい場合は、既存のグループ名をドロップダウン・リストから選択します。

省略した場合、**プロジェクト・ウィンドウ**で表示するプロジェクト名には、[ワークスペース・ファイル名]からパスと拡張子を除いたファイル名が設定されます。

(3) プロジェクト・ファイル名

新規に追加するプロジェクトのプロジェクト情報を保存するファイル名を指定します。指定できる文字数は、255文字までです。

ファイル名の拡張子は“prj”で、拡張子が省略された場合は、自動的にこの拡張子が付与されます。また、既存のプロジェクト・ファイル名を指定した場合は、このダイアログ上の[次へ >] ボタンをクリックした際、確認メッセージを表示したのち、既存のファイルをバックアップ・ファイルとしてリネーム (例: test.prj → test.prj.bak) します。

(4) プロジェクト・フォルダ位置

新規に追加するプロジェクトのプロジェクト・ファイルを保存するフォルダを指定します。

[参照...] ボタンをクリックした場合、フォルダの位置指定用の[フォルダの参照]ダイアログがオープンし、任意のフォルダを指定することができます。

(5) プロジェクト・タイトル

プロジェクト・ウィンドウで表示するプロジェクト・タイトルを指定します。指定できる文字数は、127文字までです。

省略した場合、プロジェクト・タイトルとして、プロジェクト・ファイル名のパスと拡張子を除いたファイル名が設定されます。

(6) マイクロコントローラ名、デバイス名

作成する対象と使用するデバイス・ファイルをドロップダウン・リストより選択します。

ただし、[プロジェクト・グループ名]に既存のプロジェクト・グループ名が表示されている場合は、そのプロジェクトに設定されているマイクロコントローラ名/デバイス名に固定（グレー表示）となります。

なお、表示しているデバイスがインストールされていない場合、次のメッセージを表示します。

“選択中のデバイス・ファイルは登録されていません。”

この場合、[デバイス登録]ボタンをクリックすることにより、新規のデバイス・ファイルを登録するためのデバイス・インストーラが起動します。

(7) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(8) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>”マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

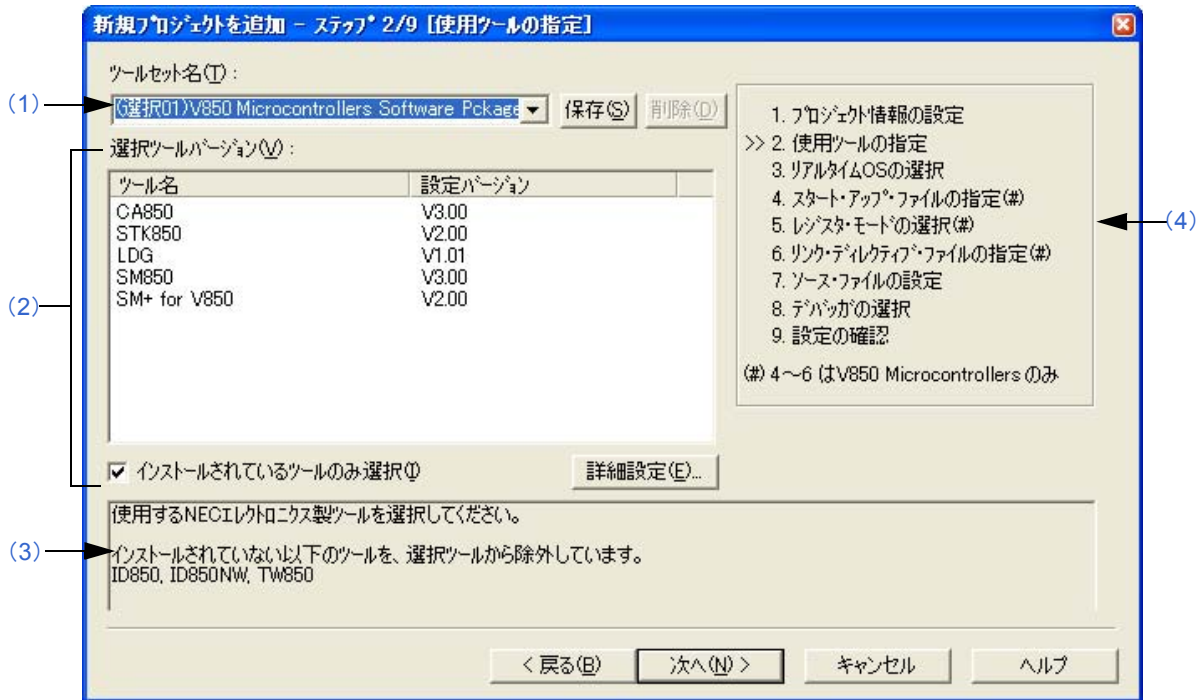
(9) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	常に無効です。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます（設定により、表示されるダイアログは異なります（ 「図 6-23 [新規プロジェクトを追加] ウィザードのフロー」 参照））。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[新規プロジェクトを追加 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定] ダイアログ

使用するツールを指定します。

図 6-25 [新規プロジェクトを追加 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定] ダイアログ



(1) ツールセット名

使用する各ツールとそのバージョンの組み合わせをひとまとめにしたものをツールセットとし、そのツールセット名を指定します。

ドロップダウン・リストには、ユーザが以前に保存したツールセットと推奨するツールセット（78K マイクロコントローラの場合は“78Kx Microcontrollers Software Package Vx.xx”，V850 マイクロコントローラの場合は“V850 Microcontrollers Software Package Vx.xx”）が表示されます。

[詳細設定 ...] ボタンのクリックによりオープンする [ツールバージョン詳細設定] ダイアログでツールセットを変更した場合は、ツールセット名の先頭に“(変更)”が付加されます。既にそのツールセット名が存在する場合、先頭に付加される文字は“(変更 01)”～“(変更 99)”となり、それ以降はツールセット名が“ユーザセット”となります。

ボタン	機能
保存	現在、[ツールセット名] で選択しているツールセットをファイルに保存します。 ただし、ツールセット・ファイルが読み込み専用になっている場合、このボタンは無効（グレー表示）となります。
削除	[ツールセット名] で選択しているツールセット名を削除します（対応するツールセット・ファイルを削除します）。 ただし、選択しているツールセットに対応するツールセット・ファイルが存在しない、またはツールセット・ファイルが読み込み専用の場合、このボタンは無効（グレー表示）となります。

【備考】

保存時のファイル名は、“ツールセット名・拡張子”となります。

拡張子は、使用するマイクロコントローラによって次のようになります。

78K0R マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：t0r

78K0 マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：tk0

78K0S マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：t0s

V850 マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：t85

ファイルの保存場所は、全ユーザがアクセス可能な“Application Data”フォルダ下の“NEC Electronics\PM+”となり、このフォルダが存在しない場合は、インストール時にフォルダが作成されます（例：Windows XP の場合、“C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\NEC Electronics\PM+”）。

(2) 選択ツールバージョン

使用する各ツールとそのバージョンの組み合わせを一覧表示します。

[ツールセット名]でツールセット名を選択すると、選択したツールセットの組み合わせが表示されます。

デフォルトでは、[ツールセット名]で指定されているツールセットの各ツールとそのバージョンが表示されます。

また、[詳細設定...]ボタンをクリックすると、[ツールバージョン詳細設定]ダイアログがオープンし、使用するツールとそのバージョンを選択することができます。

(a) ツール名

インストールされているツール、および選択したツールセットに含まれるツール（インストールされていないツールを含む）のツール名をすべて表示します。

ただし、インストールされていないツールについてはグレー表示されます。

(b) 設定バージョン

選択したツールセットで指定されているバージョンを表示します。

ただし、インストールされていないツールについてはグレー表示、選択したツールセットでバージョンが指定されていないツールについては“未使用”が表示されます。

(c) インストールされているツールのみ選択

選択されているツールセット内で、インストールされていないツールを一覧から削除します（デフォルト）。

チェック・ボックスをチェックしたツールセットには、ツールセット名の先頭に“(選択 01)”が付加されます（既にそのツールセット名が存在する場合、先頭に付加される文字は“(選択 0n)”となります）。

インストールされていないツールが存在しない場合は、このチェック・ボックスは無効となります。

(3) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(4) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>”マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(5) 機能ボタン

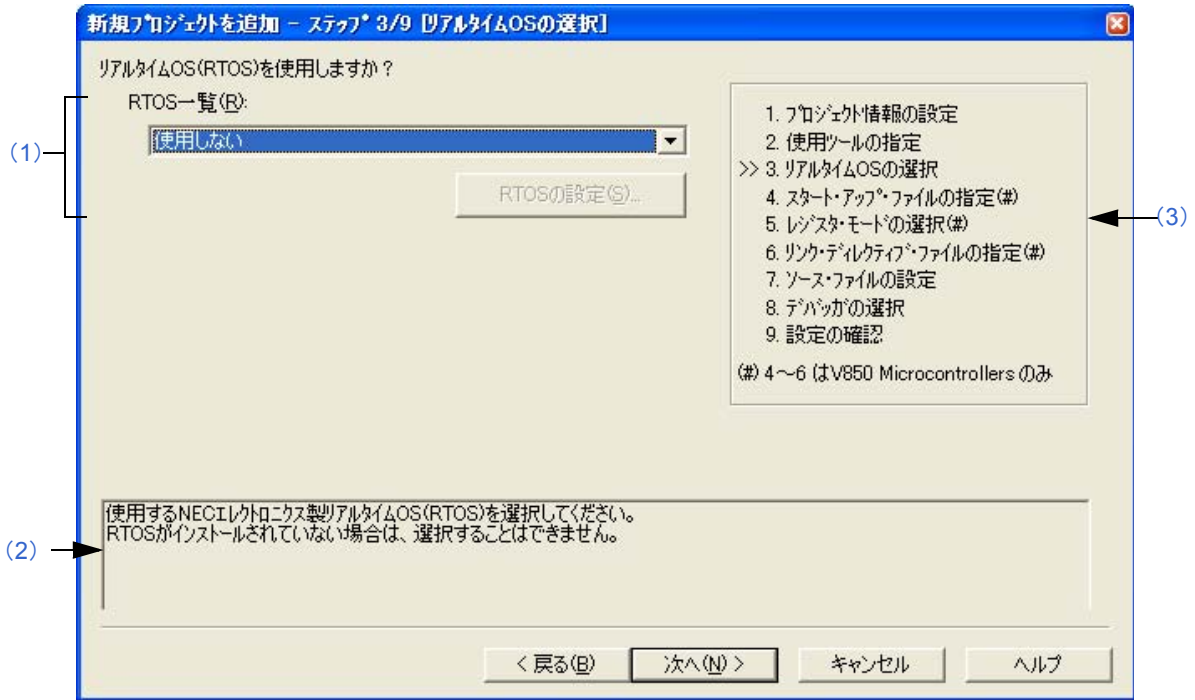
ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます（設定により、表示されるダイアログは異なります（ 「図 6-23 [新規プロジェクトを追加] ウィザードのフロー」 参照））。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[新規プロジェクトを追加 - ステップ 3/9 [リアルタイム OS の選択]] ダイアログ

NEC エレクトロニクス製リアルタイム OS を使用するかどうかを指定します。

このダイアログは、[プロジェクトの設定 - ステップ 2/3 [使用ツールの指定]] ダイアログにおいて、リアルタイム OS を指定した場合のみ表示します。

図 6-26 [新規プロジェクトを追加 - ステップ 3/9 [リアルタイム OS の選択]] ダイアログ



(1) RTOS 一覧

NEC エレクトロニクス製リアルタイム OS を使用する場合は“リアルタイム OS 名”を、使用しない場合は“使用しない”をドロップダウン・リストにより選択します。

なお、ドロップダウン・リストには、“使用しない”，および [新規プロジェクトを追加 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログで指定した NEC エレクトロニクス製 V850 マイクロコントローラ用リアルタイム OS 名が表示されます。

使用する“リアルタイム OS 名”を選択すると、[RTOS の設定] ボタンが有効になり、このボタンをクリックすると、選択したリアルタイム OS の詳細を設定するダイアログを表示します。設定内容の詳細については、各リアルタイム OS のユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(2) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(3) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>” マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(4) 機能ボタン

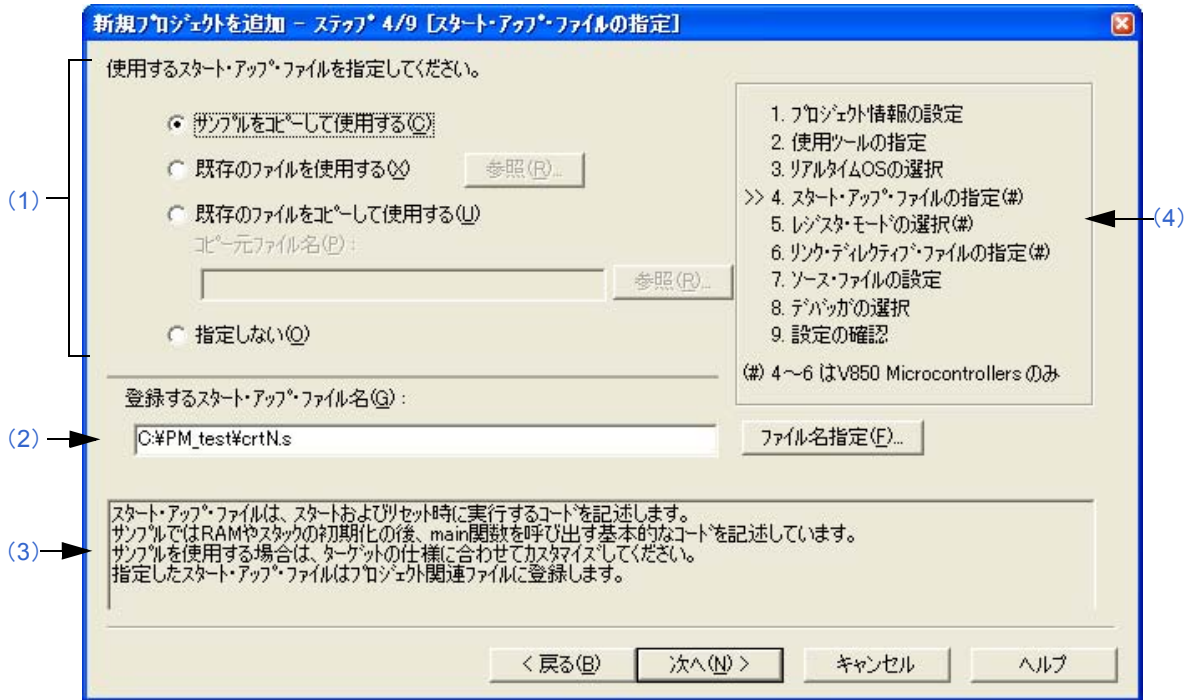
ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます（設定により、表示されるダイアログは異なります（ 「図 6-23 [新規プロジェクトを追加]ウィザードのフロー」 参照））。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[新規プロジェクトを追加 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ

使用するスタート・アップ・ファイルをオプション・ボタンにより指定します。

このダイアログは、[プロジェクトの設定 - ステップ 1/3 [プロジェクト情報の設定]] ダイアログのマイクロコントローラ名において、“V850 Microcontrollers”を指定した場合のみ表示します。

図 6-27 [新規プロジェクトを追加 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ



(1) スタート・アップ・ファイル指定エリア

(a) サンプルをコピーして使用する

サンプルとして提供されているスタート・アップ・ファイルを使用する場合は、この項目を選択します。この項目を選択することにより、次のウィザード・ステップで設定するレジスタ・モードに対応したサンプルのスタート・アップ・ファイルがプロジェクト・フォルダにコピーされ、さらに、プロジェクト関連ファイルに登録されます。

[登録するスタート・アップ・ファイル名]には、使用するスタート・アップ・ファイル名が絶対パスで表示されます（コピー先フォルダやファイル名の変更は、[ファイル名を指定...]ボタン、または[登録するスタート・アップ・ファイル名]エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

ただし、1つ前のウィザード・ステップ（[新規プロジェクトを追加 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログ）において、リアルタイム OS の使用を選択している場合、この項目を選択することはできません。

(b) 既存のファイルを使用する

既存のスタート・アップ・ファイルを使用する場合は、この項目を選択します。

[参照...]ボタンをクリックすると、[スタートアップファイルの指定]ダイアログがオープンし、任意のファイルを選択することができます。

[登録するスタート・アップ・ファイル名]には、使用するスタート・アップ・ファイル名が絶対パスで表示されます（ファイル名の変更は、[ファイル名を指定...]ボタン、または[登録するスタート・アップ・ファイル名]エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

なお、既存のファイルを使用する場合、[ファイル名指定...]ボタンは無効となります。

(c) 既存のファイルをコピーして使用する

既存のスタート・アップ・ファイルをコピーして使用する場合は、この項目を選択します。コピー元のスタート・アップ・ファイル名と、コピー先である登録するスタート・アップ・ファイル名の両方を指定します。[参照...] ボタンをクリックすると、[コピー元のスタート・アップファイルの指定] ダイアログがオープンし、コピー元の任意のファイルを選択することができます。[コピー元ファイル名] には、ここで選択したファイル名が絶対パスで表示されます（ファイルの指定は、絶対パスまたはプロジェクト・フォルダからの相対パス表記でキーボードから直接入力することも可能です）。

コピー元のスタート・アップ・ファイルを指定すると、自動的にコピー先のスタート・アップ・ファイル名が[登録するスタート・アップ・ファイル名]に絶対パスで表示されます（コピー先フォルダやファイル名を変更する場合は、[ファイル名を指定...] ボタン、または[登録するスタート・アップ・ファイル名] エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

(d) 指定しない

スタート・アップ・ファイルとして何も指定しない場合は、この項目を選択します。

スタート・アップ・ファイルの指定は、ウィザード終了後、プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト関連ファイル・フォルダを選択したのち、右マウス・ボタンによる[プロジェクト関連ファイルへの追加]の選択、または[ツール]メニュー→[リンカ・オプションの設定]の選択で設定することができます。

(2) 登録するスタート・アップ・ファイル名

登録するスタート・アップ・ファイル名を指定します。

ファイル名の指定/変更は、[ファイル名指定...] ボタンをクリックすることによりオープンする[登録するスタートアップファイル名の指定] ダイアログで行うか、あるいはエディット・ボックスに、ファイル名を絶対パス、またはプロジェクト・フォルダからの相対パス表記でキーボードから直接入力します。

(3) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(4) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>” マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(5) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます（設定により、表示されるダイアログは異なります（ 「図 6-23 [新規プロジェクトを追加] ウィザードのフロー」 参照））。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

【注意】

スタート・アップ・ファイルとして指定しないを選択し、[新規プロジェクトを追加 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログでソース・ファイルを登録したのち、本ダイアログに戻り、[新規プロジェクトを追加 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログで登録したソース・ファイルをスタート・アップ・ファイルとして指定し、そのままウィザードを終了すると、次のリンカ・オプションの設定のメッセージを表示し、ソース・ファイル、プロジェクト関連ファイルの両方に、スタート・アップ・ファイルが登録されてしまいます。

“スタートアップファイルの指定が不正です。”

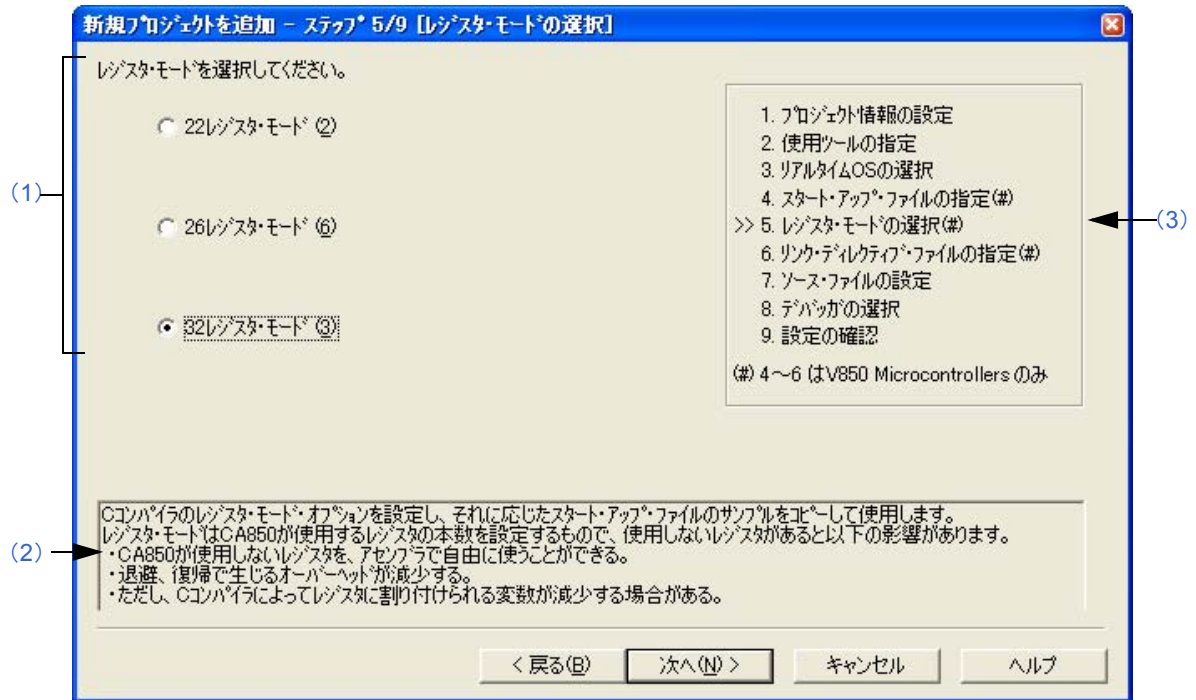
この場合、ソース・ファイルに登録されたスタート・アップ・ファイルを削除してください。

[新規プロジェクトを追加 - ステップ 5/9 [レジスタ・モードの選択]] ダイアログ

コンパイラのレジスタ・モード・オプションを選択します。ここで選択したレジスタ・モードに応じたスタート・アップ・ファイルのサンプルをプロジェクト・フォルダにコピーし、プロジェクト関連ファイルに登録します。

このダイアログは、[プロジェクトの設定 - ステップ 1/3 [プロジェクト情報の設定]] ダイアログのマイクロコントローラ名に“V850 Microcontrollers”指定し、かつ、1つ前のウィザード・ステップ（[新規プロジェクトを追加 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ）において[サンプルをコピーして使用する]を選択した場合のみ表示します。

図 6-28 [新規プロジェクトを追加 - ステップ 5/9 [レジスタ・モードの選択]] ダイアログ



(1) レジスタ・モード指定エリア

(a) 22 レジスタ・モード

22 レジスタ・モードとしてスタート・アップ・ファイルを決定します。

(b) 26 レジスタ・モード

26 レジスタ・モードとしてスタート・アップ・ファイルを決定します。

(c) 32 レジスタ・モード

32 レジスタ・モードとしてスタート・アップ・ファイルを決定します。

(2) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(3) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>” マークは、現在のダイアログの位置を示しています。情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(4) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

【注意】

ワークスペース新規作成後、コンパイラ・オプションのレジスタ・モードを変更すると、スタート・アップ・ファイル中に記述されたレジスタ・モードを示す擬似命令と他のソース・ファイルのレジスタ・モードが異なる現象が生じます。したがって、次のいずれかの処理／対応が必要となります。

- スタート・アップ・ファイル中のレジスタ・モードを示す擬似命令を次のように変更します。

【レジスタ・モード 22 の場合】

```
#-----
# register mode
#-----
.option reg_mode 5 5
```

【レジスタ・モード 26 の場合】

```
#-----
# register mode
#-----
.option reg_mode 7 7
```

【レジスタ・モード 32 の場合】

” .option reg_mode ” 行を削除します。

- リンク時に表示される次のワーニングを無視します。

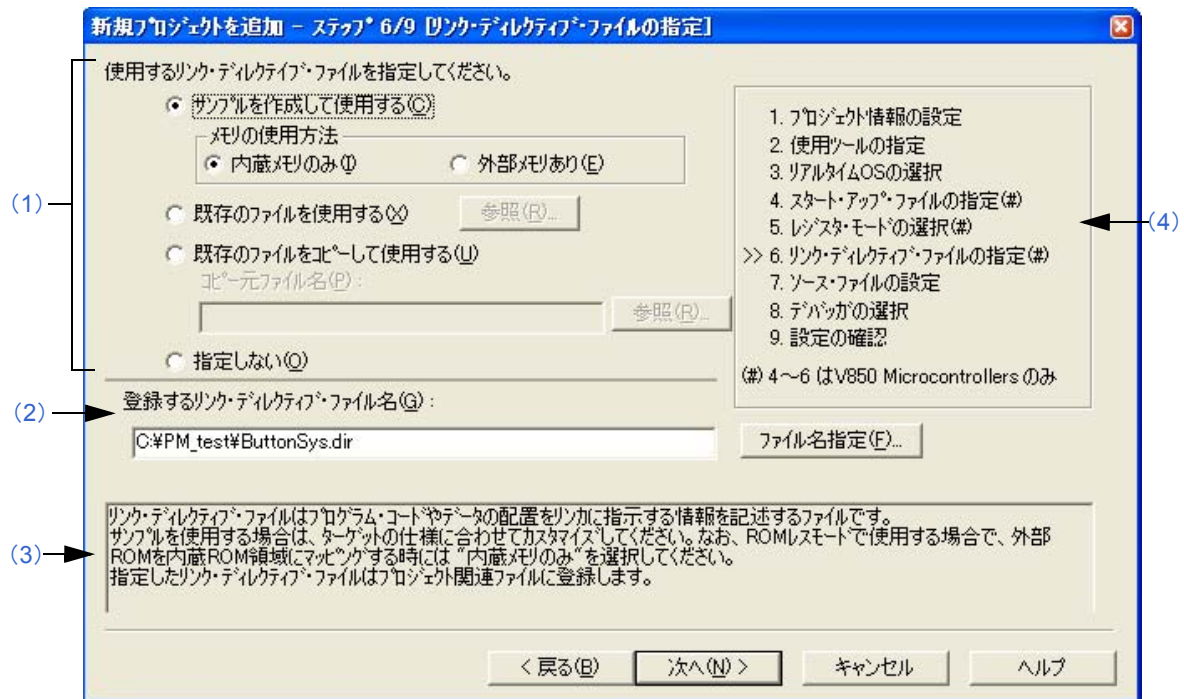
” ld850: W4608: input file have different register modes, use "-rc" option for more information.”

[新規プロジェクトを追加 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定] ダイアログ

使用するリンク・ディレクティブ・ファイルを選択します。指定したリンク・ディレクティブ・ファイルは、プロジェクト関連ファイルに登録されます。

このダイアログは、[プロジェクトの設定 - ステップ 1/3 [プロジェクト情報の設定] ダイアログ] のマイクロコントローラ名において、“V850 Microcontrollers” を指定した場合のみ表示します。

図 6-29 [新規プロジェクトを追加 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定] ダイアログ



(1) リンク・ディレクティブ・ファイル指定エリア

(a) サンプルを作成して使用する

この項目を選択すると、[メモリの使用方法] での選択内容、および [新規プロジェクトを追加 - ステップ 3/9 [リアルタイム OS の選択] ダイアログ] でのリアルタイム OS の選択内容に応じた、サンプルのリンク・ディレクティブ・ファイルをプロジェクト・フォルダに作成します。作成されるリンク・ディレクティブ・ファイル名は、“プロジェクト・ファイル名 .dir” となります。

- メモリの使用方法

内蔵メモリのみ	ROM レス・モードで使用する場合、外部 ROM を内蔵 ROM 領域にマッピングします。
外部メモリあり	TEXT セクションを内部メモリに、DATA セクションを外部メモリにマッピングします。

また、作成されたリンク・ディレクティブ・ファイルは、自動的にプロジェクト関連ファイルに登録されます。[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名] には、作成されたリンク・ディレクティブ・ファイル名を絶対パスで表示します（ファイル名の変更は、[ファイル名を指定 ...] ボタン、または [登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名] エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

なお、作成されるリンク・ディレクティブ・ファイルの詳細については、「付録 A サンプル・リンク・ディレクティブ・ファイル」を参照してください。

【注意】

作成されたリンク・ディレクティブ・ファイルは、ターゲットの仕様やユーザ定義セクションなどに合わせて、カスタマイズする必要があります。

(b) 既存のファイルを使用する

既存のリンク・ディレクティブ・ファイルを使用する場合は、この項目を選択します。

[参照...] ボタンをクリックすると、[リンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログがオープンし、任意のファイルを選択することができます。

[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名]には、使用するリンク・ディレクティブ・ファイル名が絶対パスで表示されます（ファイル名の変更は、[ファイル名を指定...] ボタン、または[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名]エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

なお、既存のリンク・ディレクティブ・ファイルを使用する場合、[ファイル名指定...] ボタンは無効となります。

(c) 既存のファイルをコピーして使用する

既存のリンク・ディレクティブ・ファイルをコピーして使用する場合は、この項目を選択します。コピー元のリンク・ディレクティブ・ファイル名と、コピー先である登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名を指定します。

[参照...] ボタンをクリックすると、[コピー元のリンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログがオープンし、コピー元の任意のファイルを選択することができます。[コピー元ファイル名]には、ここで選択したファイル名が絶対パスで表示されます（ファイルの指定は、絶対パスまたはプロジェクト・フォルダからの相対パス表記でキーボードから直接入力することも可能です）。

コピー元のリンク・ディレクティブ・ファイルを指定すると、自動的にコピー先のリンク・ディレクティブ・ファイル名が[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名]に絶対パスで表示されます（コピー先フォルダやファイル名を変更する場合は、[ファイル名を指定...] ボタン、または[登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名]エディット・ボックスへのキーボード入力により行うことができます）。

(d) 指定しない

リンク・ディレクティブ・ファイルとして何も指定しない場合は、この項目を選択します。

リンク・ディレクティブ・ファイルは、ウィザード終了後、プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト関連ファイル・フォルダを選択したのち、右マウス・ボタンによる[プロジェクト関連ファイルへの追加]の選択、または[ツール]メニュー→[リンク・オプションの設定]の選択で設定することができます。

(2) 登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名

登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名を指定します。

ファイル名の指定/変更は、[ファイル名指定...] ボタンをクリックすることによりオープンする[登録するリンク ディレクティブ ファイル名の指定] ダイアログで行うか、あるいはエディット・ボックスに、ファイル名を絶対パス、またはプロジェクト・フォルダからの相対パス表記でキーボードから直接入力します。

(3) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(4) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>” マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

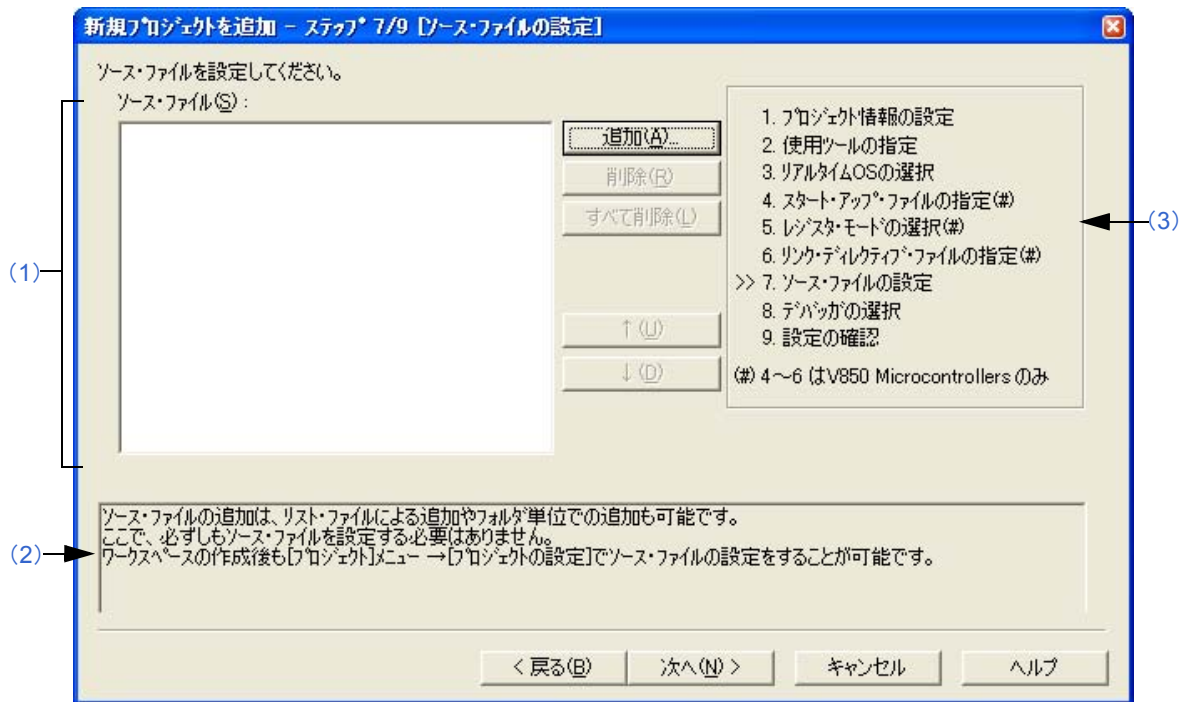
(5) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[新規プロジェクトを追加 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定] ダイアログ

プロジェクトに登録するソース・ファイル名を設定します。

図 6-30 [新規プロジェクトを追加 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定] ダイアログ



(1) ソース・ファイル

プロジェクトに登録するソース・ファイル名をソース・ファイル・リスト・ボックスに表示します。

なお、プロジェクト・ファイルには、ここで表示されている順番で登録されます。また、登録された順番でビルド作業も行われます。

ボタン	機能
追加 ...	[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログがオープンし、プロジェクトに登録するソース・ファイルを指定します。なお、1つのプロジェクトに登録可能なソース・ファイル数は、2048個までです。また、ソース・ファイルの拡張子は、プロジェクトに登録されたマイクロコントローラ名によって異なります。
削除	リスト・ボックスで選択中のファイルをリストから削除します。ソース・ファイルの選択は、[Shift] キー、または [Ctrl] キーを用いることにより、同時に複数選択することができます。削除されたソース・ファイル名は、プロジェクトに登録されません。リスト・ボックス内にソース・ファイル名が1つもない場合、このボタンは無効となります。
すべて削除	リスト・ボックスで表示中のすべてのファイルをリストから削除します。削除されたソース・ファイル名は、プロジェクトに登録されません。リスト・ボックス内にソース・ファイル名が1つもない場合、このボタンは無効となります。
↑	リスト・ボックスで選択中のファイルを1行上に移動します。
↓	リスト・ボックスで選択中のファイルを1行下に移動します。

【注意】

- コンパイラ、アセンブラをインストールしていない場合、ソース・ファイルを追加することはできません。
- ソース・ファイルを追加した後、[[プロジェクトの設定 - ステップ 1/3 \[プロジェクト情報の設定 \]](#)] ダイアログに戻ってマイクロコントローラ名を変更し、本ダイアログに進んだ場合、先に登録したファイルで、変更後のマイクロコントローラに対応した拡張子以外のファイルもソース・ファイル・リスト・ボックスに表示されます。該当するソース・ファイルを削除してください。

- このウィザード・ステップで、ソース・ファイルを何も設定しない状態でも、[次へ>] ボタンにより、次のステップに進むことができます。その場合は、ウィザード終了後、[プロジェクトの設定] ダイアログによる指定、またはプロジェクト・ウィンドウ上に直接必要なソース・ファイルをドラック・アンド・ドロップすることにより、適宜ソース・ファイルを追加してください。

(2) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(3) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>” マークは、現在のダイアログの位置を示しています。情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(4) 機能ボタン

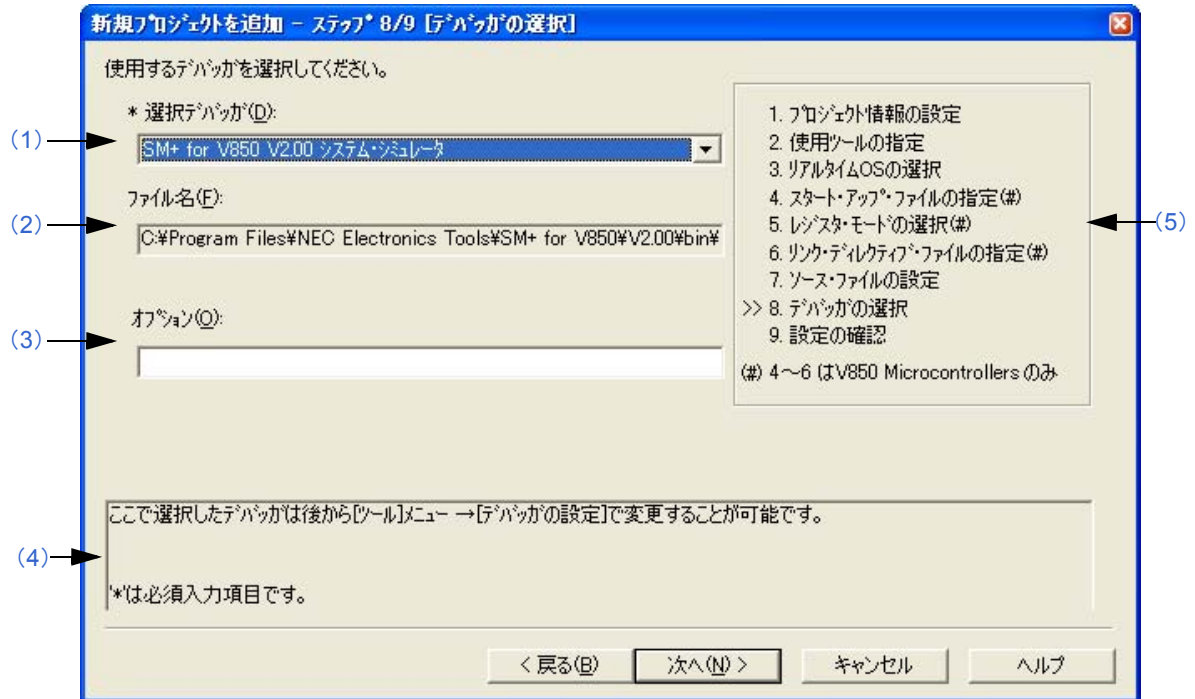
ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[新規プロジェクトを追加 - ステップ 8/9 [デバッガの選択] ダイアログ

新規に作成するプロジェクトをデバッグするデバッガを選択します。

なお、ダイアログ内の“*”マークが付与されている項目は、指定を省略することができません（[次へ>]ボタンは無効です）。また、ここで選択したデバッガは、ウィザード終了後、適宜変更することができます。

図 6-31 [新規プロジェクトを追加 - ステップ 8/9 [デバッガの選択] ダイアログ



(1) 選択デバッガ

使用するデバッガをドロップダウン・リストから選択します。ドロップダウン・リストには、マイクロコントローラ名に対応した、インストール済みの NEC エレクトロニクス製のデバッガがすべて表示されます。これにより、[ファイル名]テキスト・ボックスにデバッガのファイル名が表示され、デバッグ時に選択されたデバッガが自動的に起動します。

なお、ウィザード終了後に、デバッガを変更する場合は、[ツール]メニュー→[デバッガの設定]により行ってください。

(2) ファイル名

デバッグする際に使用するデバッガのファイル名を表示します。[選択デバッガ]でデバッガを選択した場合は、そのファイル名をパス付きで自動的に表示します。

なお、このテキスト・ボックスは、編集できません。

(3) オプション

デバッガを起動する際のオプションを指定します。

省略した場合、デバッガを起動する際のオプションは、何も設定されません。

(4) メッセージ・エリア

このダイアログの簡単な機能説明と注意事項を表示します。

(5) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>”マークは、現在のダイアログの位置を示しています。情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(6) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
次へ>	ウィザードの最終ステップへ進みます。
キャンセル	新規作成作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[新規プロジェクトを追加 - ステップ 9/9 [設定の確認] ダイアログ

現在までの設定内容を確認し、新規プロジェクトを追加のウィザードを終了します。

図 6-32 [新規プロジェクトを追加 - ステップ 9/9 [設定の確認] ダイアログ



(1) 設定内容表示エリア

新規プロジェクトを追加するためにこのウィザードで設定した各種情報を表示します。

設定内容に誤りがない場合は、[完了]ボタンをクリックすることにより、[新規プロジェクトを追加]ウィザードを終了し、表示されている情報に従ってワークスペース・ファイル、およびそのワークスペースに属するプロジェクト・ファイルを生成します。

また、この時、自動的にメイクファイル（“プロジェクト・ファイル名”.mak）を作成します。

(2) 現在位置表示エリア

ウィザード全体のフローを表示します。“>>”マークは、現在のダイアログの位置を示しています。

情報の選択内容によってフローが変化する場合、スキップされるステップは、グレー表示されます。

(3) 機能ボタン

ボタン	機能
< 戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
完了	このウィザードを終了し、表示されている情報に従って、ワークスペース・ファイル、およびそのワークスペースに属するプロジェクト・ファイルを生成します。 また、この時、自動的にメイクファイル（“プロジェクト・ファイル名”.mak）を作成します。
キャンセル	新規プロジェクトの追加作業を中止し、以前の状態（以前開いていたワークスペース・ファイルが使用可能な状態）に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

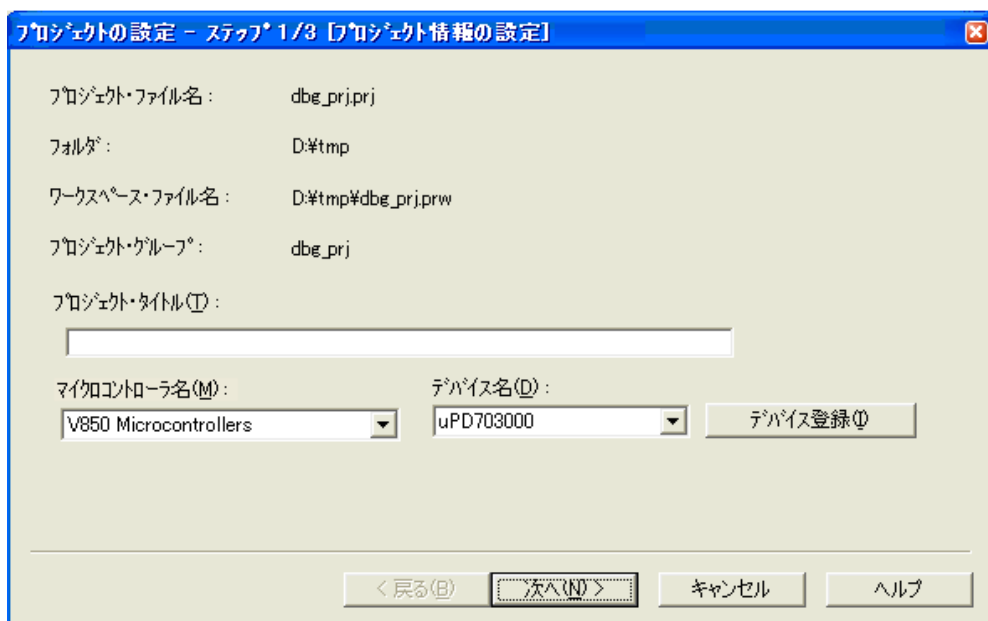
[プロジェクトの設定]ウィザード

他の NEC エレクトロニクス製ツール (デバッガやシミュレータなど) で作成したプロジェクト・ファイルを開こうとした際に、メッセージ表示後、PM+ 用にプロジェクト情報を更新するためのウィザードです。

このウィザードでは、次のダイアログが表示されます。各ダイアログ上において、必要項目を入力/選択したのち、[次へ>] ボタンをクリックして順次進めてください。

- [プロジェクトの設定 - ステップ 1/3 [プロジェクト情報の設定]] ダイアログ
- [プロジェクトの設定 - ステップ 2/3 [使用ツールの指定]] ダイアログ
- [プロジェクトの設定 - ステップ 3/3 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログ

図 6-33 [プロジェクトの設定]ウィザードのスタート画面



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各ダイアログの説明

オープン方法

- [ファイル]メニュー→[ワークスペースを開く]を選択

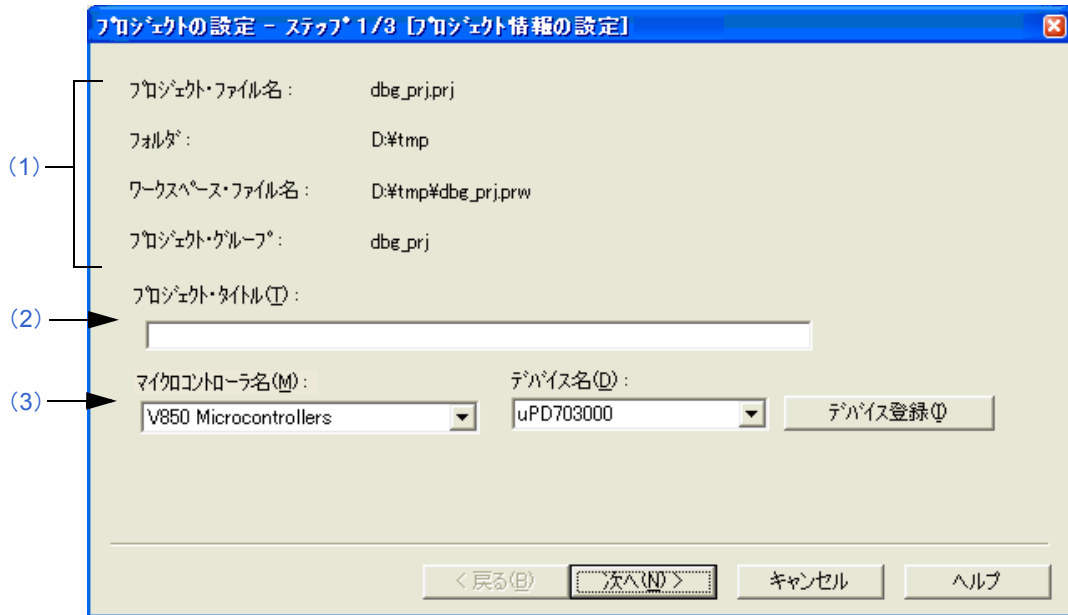
各ダイアログの説明

次に、このウィザードで表示される各ダイアログを説明します。

[プロジェクトの設定 - ステップ 1/3 [プロジェクト情報の設定]] ダイアログ

プロジェクトの各情報の確認, およびプロジェクト・タイトル, 使用デバイスのマイクロコントローラ名とデバイス名の変更を行います。

図 6-34 [プロジェクトの設定 - ステップ 1/3 [プロジェクト情報の設定]] ダイアログ



(1) 情報確認エリア

(a) プロジェクト・ファイル名

プロジェクトのプロジェクト・ファイル名を表示します。

(b) フォルダ

プロジェクト・ファイルで設定しているプロジェクト・フォルダを表示します。

(c) ワークスペース・ファイル名

プロジェクトが属するワークスペース・ファイル名を絶対パスで表示します。

ファイル名は, 自動的に“プロジェクト・ファイル名 + 拡張子 (.prw)”と決定されます。

(d) プロジェクト・グループ

プロジェクトが属するプロジェクト・グループ名を表示します。

なお, プロジェクト・グループ名を変更する場合は, ウィザード終了後, **プロジェクト・ウィンドウ**上において, プロジェクト・グループを選択したのち, マウス右ボタンによる [プロジェクト・グループ名の変更 ...] の選択により行ってください。

(2) プロジェクト・タイトル

プロジェクト・ウィンドウで表示するプロジェクト・タイトルを表示します。

ここでタイトル内容を修正した場合, 修正内容が**プロジェクト・ウィンドウ**に反映されます。

なお, プロジェクト・タイトルには 127 文字まで入力できます。

(3) マイクロコントローラ名, デバイス名

使用するデバイスのマイクロコントローラ名, およびデバイス名を表示します。

変更する場合は, ドロップダウン・リストより選択します。

使用するデバイスがインストールされていない場合は, 表示されるデバイス名の下に次のメッセージを表示します。

“選択中のデバイス・ファイルは登録されていません。”

この場合, [デバイス登録] ボタンをクリックすることにより, 新規のデバイス・ファイルを登録するためのデバイス・インストーラが起動します。

ただし, 所属するプロジェクト・グループに複数個のプロジェクトが登録されている場合, またはデバッガ/シミュレータが起動中の場合は, このドロップダウン・リストは無効となります。

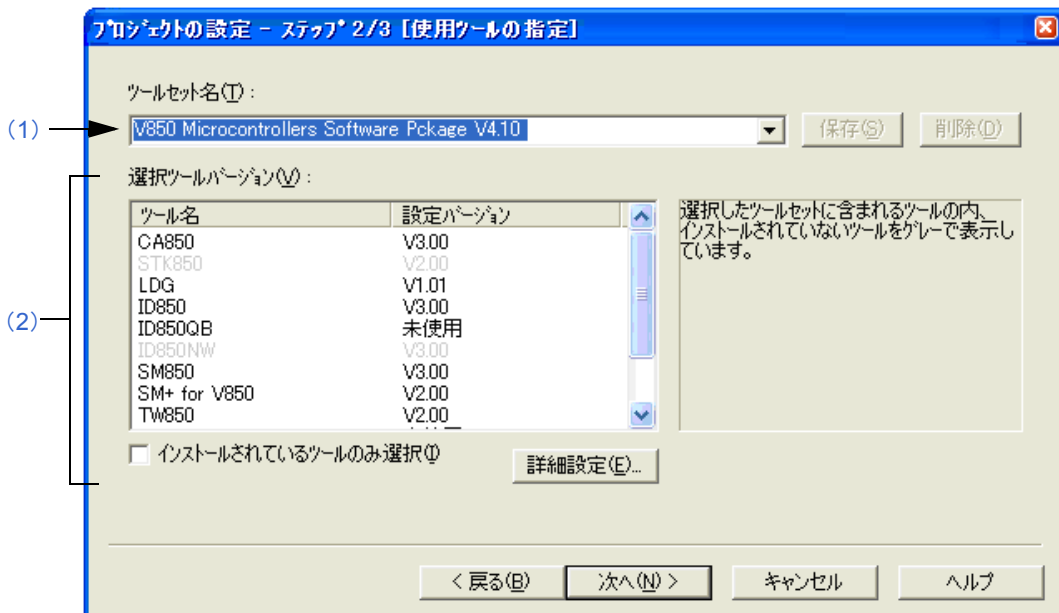
(4) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	常に無効です。
次へ>	次のウィザード・ステップへ進みます。
キャンセル	ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[プロジェクトの設定 - ステップ 2/3 [使用ツールの指定] ダイアログ

使用するツールを指定します。

図 6-35 [プロジェクトの設定 - ステップ 2/3 [使用ツールの指定] ダイアログ



(1) ツールセット名

使用する各ツールとそのバージョンの組み合わせをひとまとめにしたものをツールセットとし、そのツールセット名を指定します。

ドロップダウン・リストには、ユーザが以前に保存したツールセットと推奨するツールセット（78K マイクロコントローラの場合は“78Kx Microcontrollers Software Package Vx.xx”，V850 マイクロコントローラの場合は“V850 Microcontrollers Software Package Vx.xx”）が表示されます。

[詳細設定 ...] ボタンのクリックによりオープンする、[ツールバージョン詳細設定] ダイアログでツールセットを変更した場合は、ツールセット名の先頭に“(変更)”が付加されます。既にそのツールセット名が存在する場合、付加される文字は“(変更 01)”～“(変更 99)”となり、それ以降はツールセット名が“ユーザセット”となります。

ボタン	機能
保存	現在、[ツールセット名] で選択しているツールセットをファイルに保存します。 ただし、ツールセット・ファイルが読み込み専用になっている場合、このボタンは無効（グレー表示）となります。
削除	[ツールセット名] で選択しているツールセット名を削除します（対応するツールセット・ファイルを削除します）。 ただし、選択しているツールセットに対応するツールセット・ファイルが存在しない、またはツールセット・ファイルが読み込み専用の場合、このボタンは無効（グレー表示）となります。

【備考】

保存時のファイル名は、“ツールセット名・拡張子”となります。

拡張子は、使用するマイクロコントローラによって次のようになります。

78K0R マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：t0r

78K0 マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：tk0

78K0S マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：t0s

V850 マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：t85

ファイルの保存場所は、全ユーザがアクセス可能な“Application Data”フォルダ下の“NEC Electronics\PM+”となり、このフォルダが存在しない場合は、インストール時にフォルダが作成されます（例：Windows XP の場合、“C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\NEC Electronics\PM+”）。

(2) 選択ツールバージョン

使用する各ツールとそのバージョンの組み合わせを一覧表示します。

[ツールセット名]でツールセット名を選択すると、選択したツールセットの組み合わせが表示されます。

デフォルトでは、[ツールセット名]で指定されているツールセットの各ツールとそのバージョンが表示されます。

また、このエリア内をダブル・クリック、または[詳細設定...]ボタンをクリックすると、[ツールバージョン詳細設定]ダイアログがオープンし、使用するツールとそのバージョンを選択することができます。

(a) ツール名

インストールされているツール、および選択したツールセットに含まれるツール（インストールされていないツールを含む）のツール名をすべて表示します。

ただし、インストールされていないツールについてはグレー表示されます。

(b) 設定バージョン

選択したツールセットで指定されているバージョンを表示します。

ただし、インストールされていないツールについてはグレー表示、選択したツールセットでバージョンが指定されていないツールについては“未使用”が表示されます。

(c) インストールされているツールのみ選択

選択されているツールセット内で、インストールされていないツールを一覧から削除します。

チェック・ボックスをチェックしたツールセットには、ツールセット名の先頭に“(選択 01)”が付加されます（既にそのツールセット名が存在する場合、先頭に付加される文字は“(選択 nn)”となります）。

インストールされていないツールが存在しない場合は、このチェック・ボックスは無効となります。

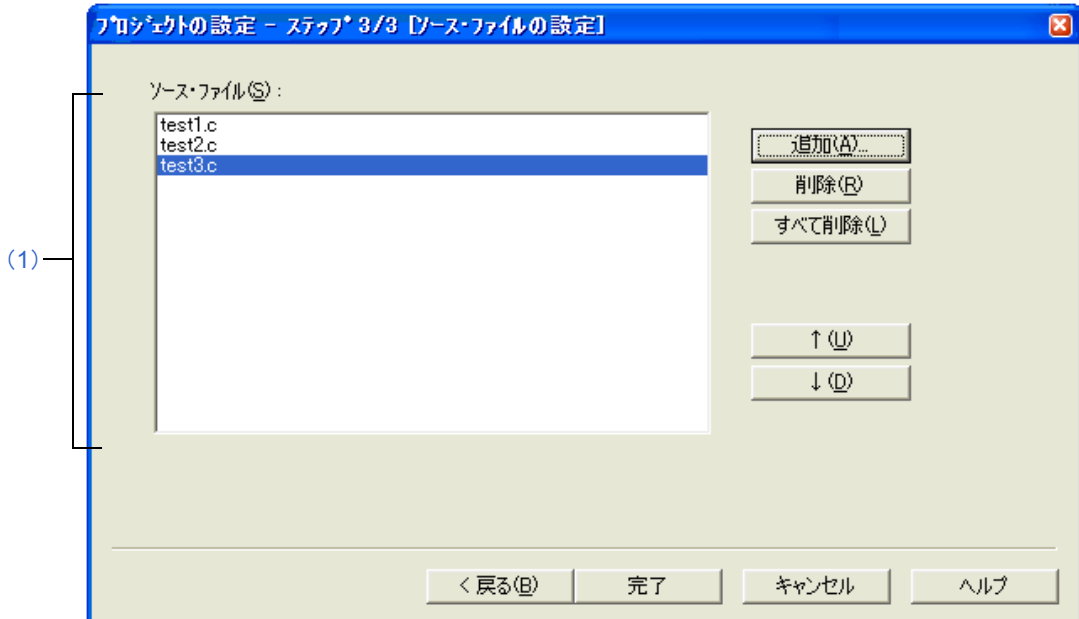
(3) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザードに戻ります。
次へ>	ウィザードの最終ステップへ進みます。
キャンセル	ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[プロジェクトの設定 - ステップ 3/3 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログ

プロジェクトのソース・ファイル情報の設定を行います。

図 6-36 [プロジェクトの設定 - ステップ 3/3 [ソース・ファイルの設定]] ダイアログ



(1) ソース・ファイル

プロジェクトで設定しているソース・ファイル名をビルドする順番に、プロジェクト・フォルダを起点とする相対パスを含めて表示します。

登録可能なソース・ファイル数は、2048 個までです。

ボタン	機能
追加 ...	[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログを表示して、ソース・ファイルを追加します。
削除	選択しているソース・ファイルを削除します。
すべて削除	ソース・ファイル一覧に表示されているソース・ファイルをすべて削除します。
↑	選択しているソース・ファイルを 1 つ上に移動します。
↓	選択しているソース・ファイルを 1 つ下に移動します。

【注意】

- コンパイラ、アセンブラをインストールしていない場合、ソース・ファイルを追加することはできません。
- メイクは“ソース・ファイル一覧”で表示されている順番でプログラム・タイプに従い、アセンブル／コンパイルなどが行われます。メイク実行時におけるソース・ファイルのパス名は、プロジェクト・フォルダのパスを使用します。また、リンクの順番は、使用するマイクロコントローラのリンクに依存します。

(2) 機能ボタン

ボタン	機能
<戻る	直前のウィザード・ステップに戻ります。
完了	このウィザードを終了し、現在の設定でプロジェクト情報を設定します。
キャンセル	ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

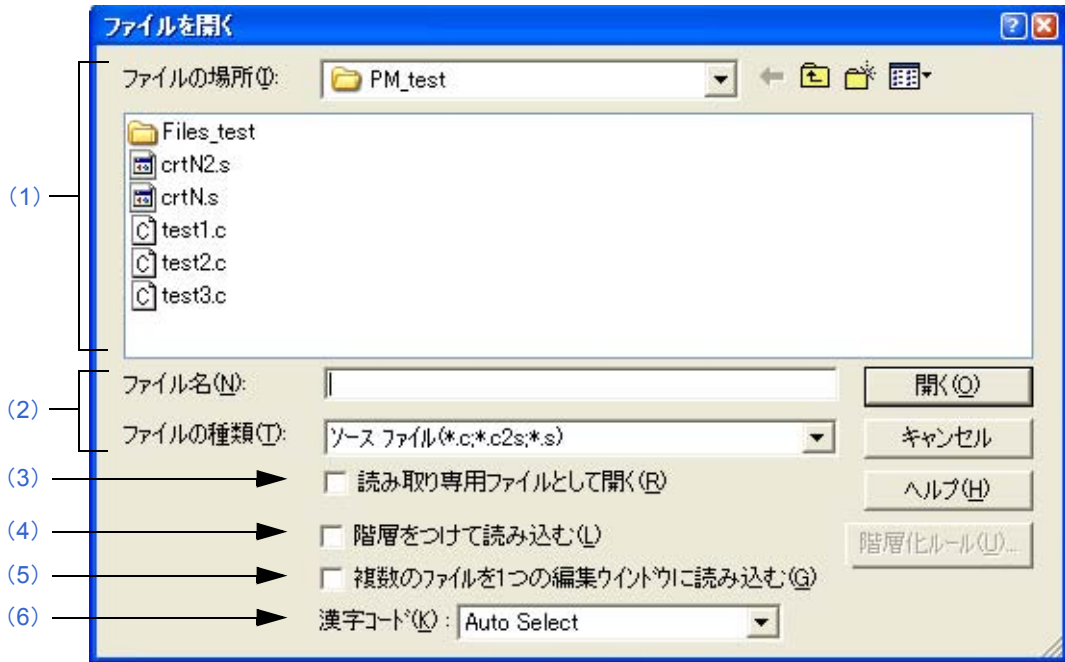
[ファイルを開く] ダイアログ

指定したファイルを開きます。

編集中のファイルは、編集禁止（Read Only）で、複数開くことができます。

なお、ファイルを開じる際に、こうした編集禁止（Read Only）で開いた同名のファイルが存在する場合、すべての同名ファイルを開じます。

図 6-37 [ファイルを開く] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ファイル] メニュー → [開く] を選択

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

指定ファイルの存在するドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。
エリアの下欄には、指定場所にあるファイルが表示されます。

(2) ファイル名、ファイルの種類**(a) ファイル名**

指定するファイル名をキーボードから入力します。
上欄から選択した場合は、その選択したファイル名が表示されます。

(b) ファイルの種類

指定するファイルの種類をドロップダウン・リストから選択します。デフォルトの状態では、次の種類が表示されます。

【ワークスペース・ファイルを開いている場合】

- ソース・ファイル
- 【注】 ソース・ファイルの拡張子は、現在アクティブなプロジェクトに対応した拡張子が表示されます。
- インクルード・ファイル (*.h,*.inc)
- idl ファイル (*.idl)
- テキスト・ファイル (*.txt)
- すべて表示 (*.*)

【ワークスペース・ファイルを開いていない場合】

- ソース・ファイル (*.c,*.cpp,*.asm,*.s)
- インクルード・ファイル (*.h,*.inc)
- idl ファイル (*.idl)
- テキスト・ファイル (*.txt)
- すべて表示 (*.*)

拡張子が "*.bak" のファイルを選択すると、バックアップ・ファイルと見なします。なお、ファイルの種類（ユーザ指定拡張子など）は、[ツール]メニュー→[環境設定...]で追加することができます。

(3) 読み取り専用ファイルとして開く

指定されたファイルを読み取り専用（Read Only）ファイルとして開きます。
デフォルトではチェックされません。

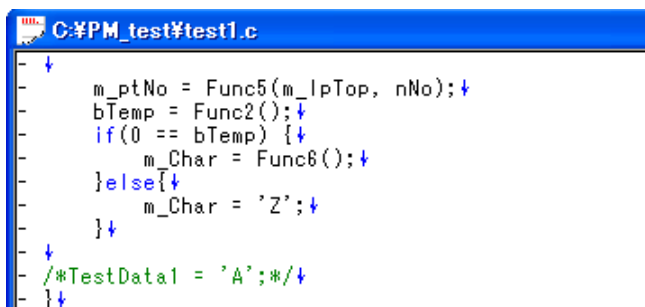
(4) 階層をつけて読み込む

指定したファイルを階層化ルールに基づいた階層付けを行って読み込みます。
デフォルトではチェックされません。ただし、[環境設定]ダイアログの[ファイル]タブで、[ファイルを開くときは、常に階層化して読み込む]をチェックにしている場合は、このチェック・ボックスがチェックされ、グレー表示となります。

[階層化ルール...]ボタンは、このチェック・ボックスをチェックした場合のみ選択できます。階層化ルールについての詳細は、[階層化ルールの設定]ダイアログを参照してください。

【例】

- チェックしないで読み込んだ場合



```

C:\PM_test\test1.c
- 1  m_ptNo = Func5(m_lpTop, nNo);†
- 2  bTemp = Func2();†
- 3  if(0 == bTemp) {†
- 4      m_Char = Func6();†
- 5  }else{†
- 6      m_Char = 'Z';†
- 7  }†
- 8  †
- 9  /*TestData1 = 'A';*/†
- 10 }†

```

- チェックして読み込んだ場合

```

C:\PM_test\test1.c (変更)
- |   m_ptNo = Func5(m_lpTop, nNo);↓
-   bTemp = Func2();↓
+   if(0 == bTemp) {↓
-     m_Char = Func8();↓
+   }else{↓
-     m_Char = 'Z';↓
-     }↓
- ↓
- /*TestData1 = 'A';*/↓
- }↓

```

(5) 複数のファイルを1つの編集ウィンドウに読み込む

指定した複数ファイルを1つの編集ウィンドウに読み込みます。

このチェック・ボックスをチェックした場合、[読み取り専用ファイルとして開く]チェック・ボックスは無効となります。

(6) 漢字コード

指定した漢字コードでファイルを読み込みます。次のコードが選択できます。

漢字コード	内容
Auto Select	漢字コードを自動認識
Shift-JIS	Shift JIS コード
EUC	EUC コード
JIS	JIS コード
UNICODE	Unicode 形式

機能ボタン

ボタン	機能
開く	指定したファイルを開きます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。
階層化ルール ...	[階層化ルールの設定]ダイアログを表示し、ファイル読み込み時の階層化ルールを設定します。 なお、このボタンは、[階層をつけて読み込む]をチェックした場合のみ有効となります。ただし、[環境設定]ダイアログの[ファイル]タブで、[階層化ルールのオプションはすべて有効にする]をチェックしている場合は、常に無効となります。

[挿入読み込み] ダイアログ

選択したファイルを、アクティブな編集ウィンドウに挿入します。

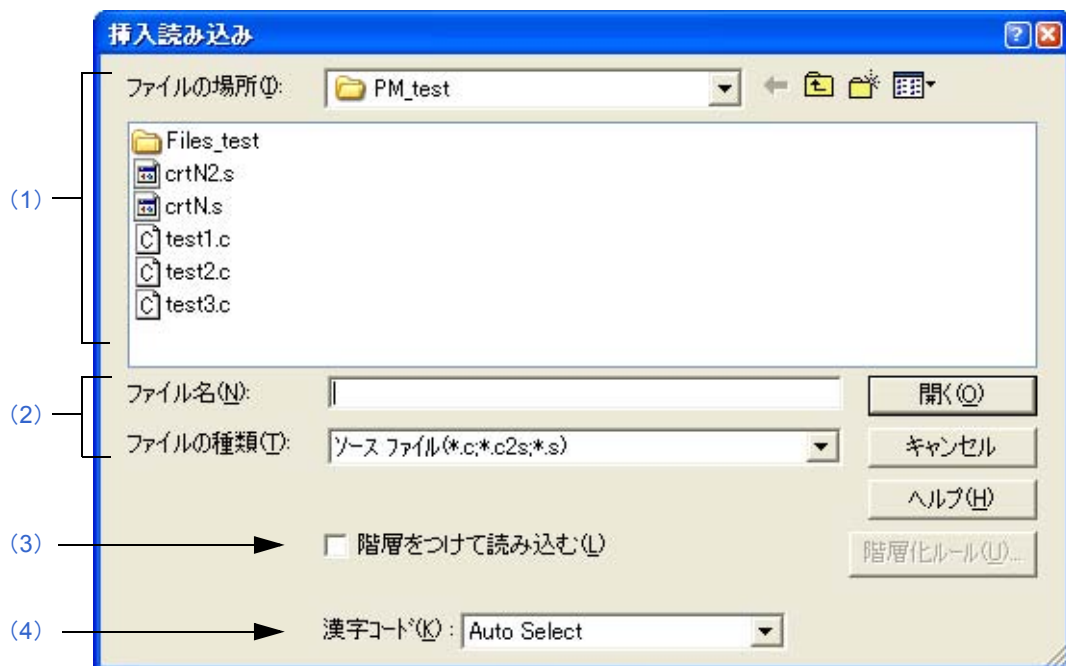
ファイルの読み込み位置は、現在カーレットがある直前の行となります。

なお、ファイルの挿入後、カーレット位置は移動しません（ただし、カーレットが行の途中にある場合は、その行の先頭に移動します）。

挿入可能なファイルは、次のとおりです。

- IDL ファイル
- テキスト・ファイル

図 6-38 [挿入読み込み] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ファイル]メニュー→[挿入読み込み...]を選択

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

指定ファイルの存在するドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。
エリアの下欄には、指定場所にあるファイルが表示されます。

(2) ファイル名, ファイルの種類**(a) ファイル名**

指定するファイル名をキーボードから入力します。
上欄から選択した場合は、その選択したファイル名が表示されます。

(b) ファイルの種類

指定するファイルの種類をドロップダウン・リストから選択します。デフォルトの状態では、次の種類が表示されます。

【ワークスペース・ファイルを開いている場合】

- ソース・ファイル

【注】ソース・ファイルの拡張子は、現在アクティブなプロジェクトに対応した拡張子が表示されます。

- インクルード・ファイル (*.h,*.inc)

- idl ファイル (*.idl)

- テキスト・ファイル (*.txt)

- すべて表示 (*.*)

【ワークスペース・ファイルを開いていない場合】

- ソース・ファイル (*.c,*.cpp,*.asm,*.s)

- インクルード・ファイル (*.h,*.inc)

- idl ファイル (*.idl)

- テキスト・ファイル (*.txt)

- すべて表示 (*.*)

なお、ファイルの種類（ユーザ指定拡張子など）は、[ツール]メニュー→[環境設定...]で追加することができます。

(3) 階層をつけて読み込む

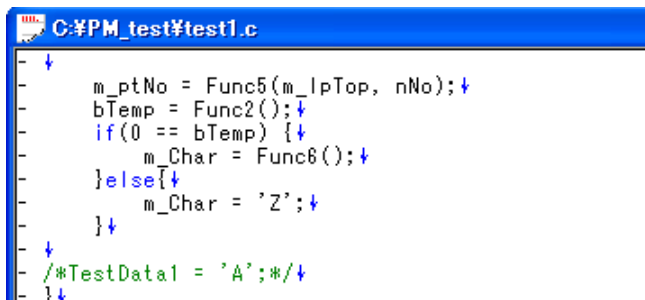
指定したファイルを階層化ルールに基づいた階層を構築し、指定箇所に挿入します。

デフォルトではチェックされません。ただし、[環境設定]ダイアログの[ファイル]タブで、[ファイルを開くときは、常に階層化して読み込む]をチェックしている場合は、このチェック・ボックスがチェックされ、グレー表示となります。

[階層化ルール...]ボタンは、このチェック・ボックスをチェックした場合のみ選択できます。

【例】

- チェックしないで読み込んだ場合



```

C:\PM_test\test1.c
- ↓
-   m_ptNo = Func5(m_lpTop, nNo); ↓
-   bTemp = Func2(); ↓
-   if(0 == bTemp) { ↓
-       m_Char = Func6(); ↓
-   } else { ↓
-       m_Char = 'Z'; ↓
-   } ↓
- ↓
- /*TestData1 = 'A';*/ ↓
- } ↓

```

- チェックして読み込んだ場合

```

C:\PM_test\test1.c (変更)
- | m_ptNo = Func5(m_lpTop, nNo);↑
- | bTemp = Func2();↑
+ | if(0 == bTemp) {↑
- |     m_Char = Func8();↑
+ | }else{↑
- |     m_Char = 'Z';↑
- |     }↑
- | ↓
- | /*TestData1 = 'A';*/↑
- | }↑

```

(4) 漢字コード

指定した漢字コードでファイルを読み込みます。次のコードが選択できます。

漢字コード	内容
Auto Select	漢字コードを自動認識
Shift-JIS	Shift JIS コード
EUC	EUC コード
JIS	JIS コード
UNICODE	Unicode 形式

機能ボタン

ボタン	機能
開く	指定したファイルを開きます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。
階層化ルール ...	<p>[階層化ルールの設定]ダイアログを表示し、ファイル読み込み時の階層化ルールを設定します。</p> <p>なお、このボタンは、[階層をつけて読み込む]をチェックした場合のみ有効となります。ただし、[環境設定]ダイアログの[ファイル]タブで、[階層化ルールのオプションはすべて有効にする]をチェックしている場合では、常に無効となります。</p>

[ワークスペースを開く] ダイアログ

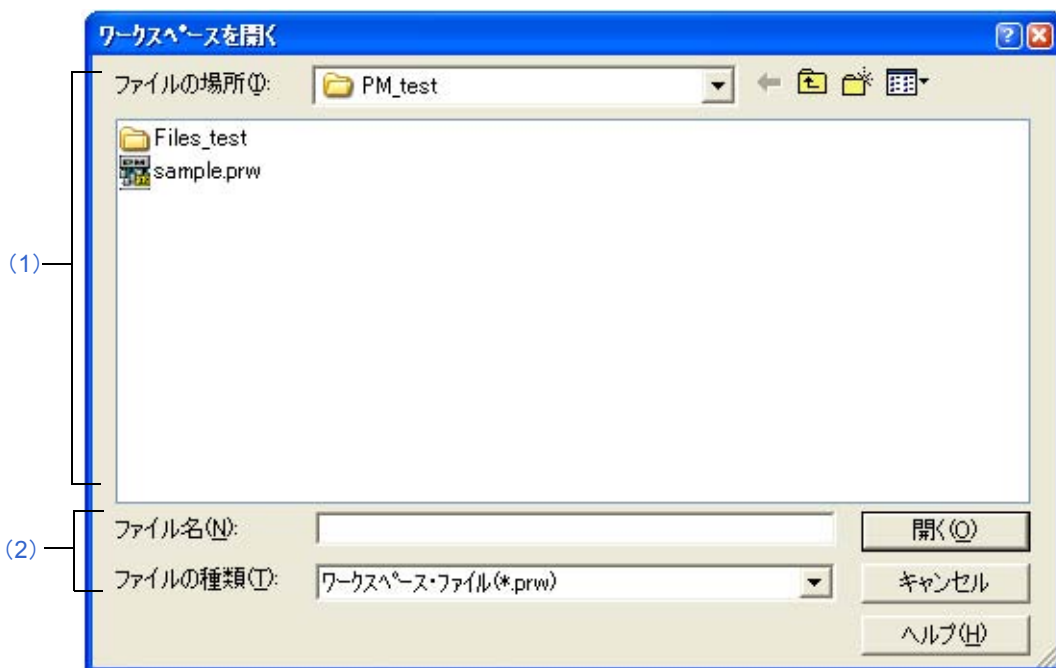
指定したワークスペース・ファイルを開きます。

ワークスペースを新たに開く場合、それまで開いていたワークスペース・ファイル、およびプロジェクト・ファイルを閉じたのち、このダイアログを表示します。

以前のバージョンの PM (Ver.3.xx)、または PM plus (Ver.5.xx) で作成したプロジェクト・ファイルを指定した場合は、メッセージを表示したのち、ワークスペース・ファイルに変換して開きます（「5.1.5 以前のバージョンで作成したプロジェクト・ファイルを開く」参照）。

なお、他の NEC エレクトロニクス製ツール（デバッガやシミュレータなど）で作成したプロジェクト・ファイルを開こうとした場合は、PM+ 用にプロジェクト情報を更新するための [プロジェクトの設定] ウィザードを表示します。

図 6-39 [ワークスペースを開く] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ファイル]メニュー→[ワークスペースを開く ...] を選択

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

指定ファイルの存在するドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。エリアの下欄には、指定場所にあるファイルが表示されます。

(2) ファイル名、ファイルの種類

(a) ファイル名

指定するファイル名をキーボードから入力します。255文字まで入力できます。

上欄から選択した場合は、その選択したファイル名が表示されます。

(b) ファイルの種類

指定するファイルの種類をドロップダウン・リストから選択します。デフォルトの状態では、次の種類が表示されます。

- ワークスペース・ファイル (*.prw)
- プロジェクト・ファイル (*.prj)
- すべて表示 (*.*)

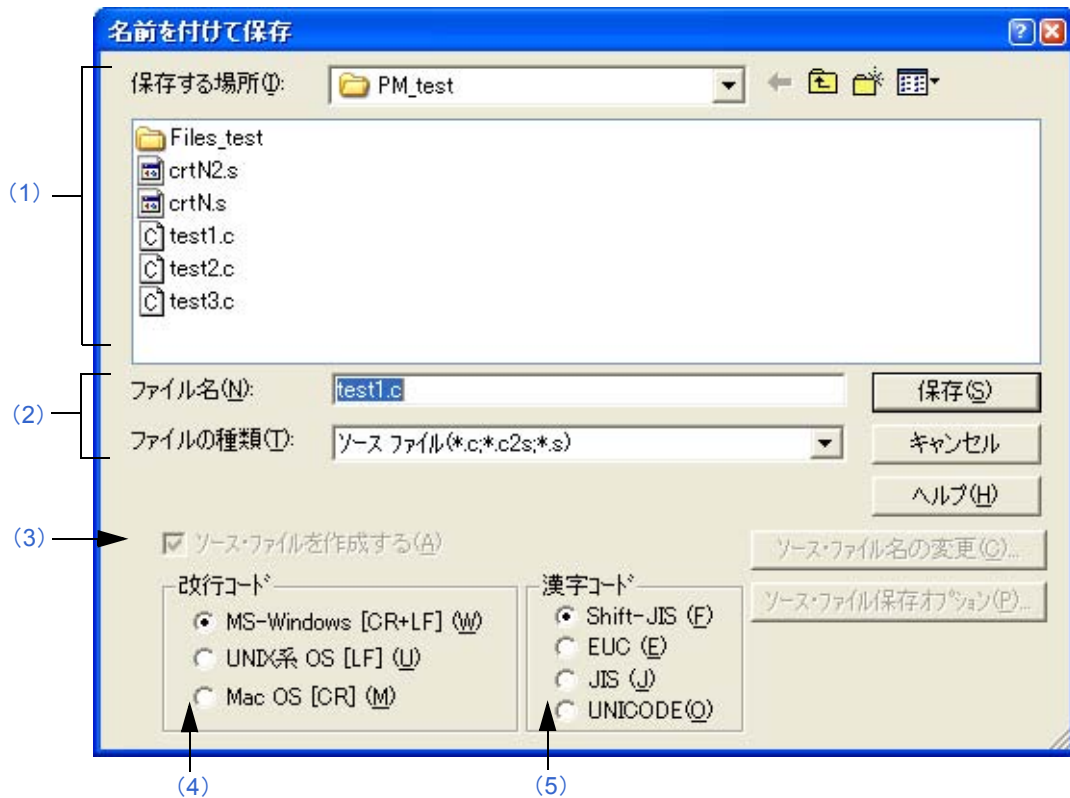
機能ボタン

ボタン	機能
開く	指定したファイルを開きます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[名前を付けて保存] ダイアログ

指定したファイルに名前を付けて保存します。

図 6-40 [名前を付けて保存] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ファイル]メニュー→[名前を付けて保存 ...]を選択

各エリアの説明

(1) 保存する場所

ファイルを保存するドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。エリアの下欄には、保存場所にあるファイルが表示されます。

(2) ファイル名、ファイルの種類**(a) ファイル名**

指定するファイル名をキーボードから入力します。

Untitled である場合は、先頭行の行内容を元に生成して表示します。先頭行に文字がない場合は、Untitled をファイル名として表示します。

上欄から選択した場合は、その選択したファイル名が表示されます。

(b) ファイルの種類

指定するファイルの種類をドロップダウン・リストから選択します。デフォルトの状態では、次の種類が表示されます。

- ソース・ファイル (*.c,*.h,*.asm,*.s)
- インクルード・ファイル (*.h,*.inc)
- idl ファイル (*.idl)
- テキスト・ファイル (*.txt)
- すべて表示 (*.*)

(3) ソース・ファイルを作成する

保存するファイルが IDL ファイルの場合に有効となります。

チェックすると、ソース・ファイルも作成します。また、[ソース・ファイル名の変更...] ボタン、[ソース・ファイル保存オプション...] ボタンが有効になります。

なお、[検索結果ウィンドウ](#)がアクティブな場合は、このチェック・ボックスは常に無効です。

(4) 改行コード

ここでの設定は、テキスト・ファイル形式で保存する場合に有効です。すでに、読み込み済みのテキスト・ファイルを指定した場合は、読み込み時の改行コードを表示します。

保存できる改行コードは、次のとおりです。

改行コード	内容
MS-Windows[CR+LF]	改行コードは、CR コードと LF コードの 2 バイト (デフォルト)
UNIX 系 OS[LF]	改行コードは、LF コードのみ
Mac OS[CR]	改行コードは、CR コードのみ

(5) 漢字コード

ここでの設定は、テキスト・ファイル形式で保存する場合に有効です。すでに、読み込み済みのテキスト・ファイルを指定した場合は、読み込み時の漢字コードを表示します。

保存できる漢字コードは、次のとおりです。

漢字コード	内容
Shift-JIS	Shift JIS コード (デフォルト)
EUC	EUC コード
JIS	JIS コード
UNICODE	Unicode

機能ボタン

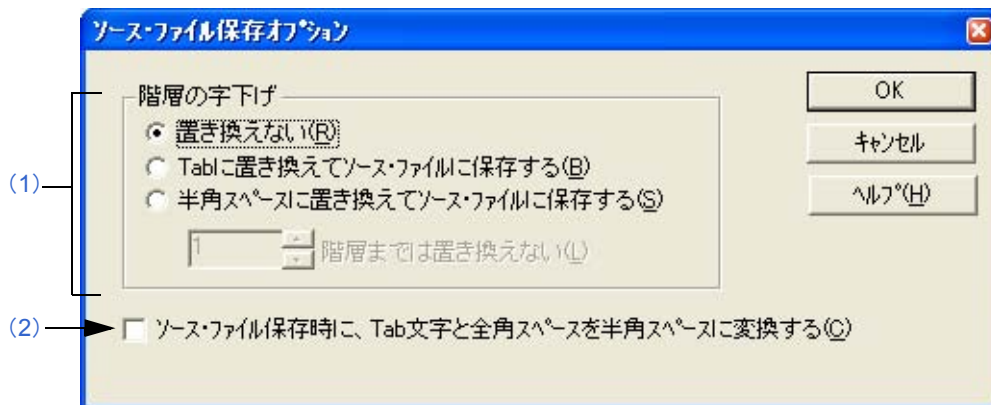
ボタン	機能
保存	指定したファイル名で保存します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。
ソース・ファイル名の変更 ...	[ソース・ファイル名の変更]ダイアログを表示し、ソース・ファイル名やコメント記号の変更を行います。 [ソース・ファイルを作成する]チェック・ボックスが有効な状態で、チェックされている場合のみ、このボタンは有効になります。
ソース・ファイル保存オプション ...	[ソース・ファイル保存オプション]ダイアログを表示し、生成するソース・ファイルに関するオプションを設定します。 [ソース・ファイルを作成する]チェック・ボックスが有効な状態で、チェックされている場合のみ、このボタンは有効になります。

[ソース・ファイル保存オプション] ダイアログ

ソース・ファイルを保存する際の各種オプションを設定します。

この設定は、[環境設定] ダイアログの [idl 生成ソース・ファイル] タブでも行うことができ、デフォルトの設定は、[環境設定] ダイアログの設定になっています。ここでの設定は、[環境設定] ダイアログにも反映されます。

図 6-41 [ソース・ファイル保存オプション] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ファイル]メニュー→[名前を付けて保存]
[名前を付けて保存] ダイアログで、[ソース・ファイル保存オプション...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 階層の字下げ

ソース・ファイルを保存する際に、階層によるインデントを、空白文字に置き換えるかどうかを指定します。

(a) 置き換えない

インデントを空白文字に置き換えません（デフォルト）。

(b) Tabに置き換えてソース・ファイルに保存する

1階層分のインデントを1つのTabコードに置き換えます。

(c) 半角スペースに置き換えてソース・ファイルに保存する

1階層分のインデントを [環境設定] ダイアログの [表示] タブ上の [Tabの字下げ文字数] で指定した数のスペース・コードに置き換えます。

(d) x階層までは置き換えない

指定した階層までのインデントは、Tab、またはスペース・コードへの置き換えを行いません。

"2"を指定した場合は、第1、第2階層の行には、Tabコード置き換えを行わず、第3階層以降の行にTabコード置き換えを行います。

[置き換えない]を選択した場合は、無効となります。

(2) ソース・ファイル保存時に、Tab文字と全角スペースを半角スペースに変換する

チェック・ボックスをチェックした場合、Tabコードを、[環境設定]ダイアログの[表示]タブで指定した[Tabの字下げ文字数]分のスペース・コードで、全角スペースを2つの半角スペース・コードで置き換えます。

デフォルトではチェックされません。

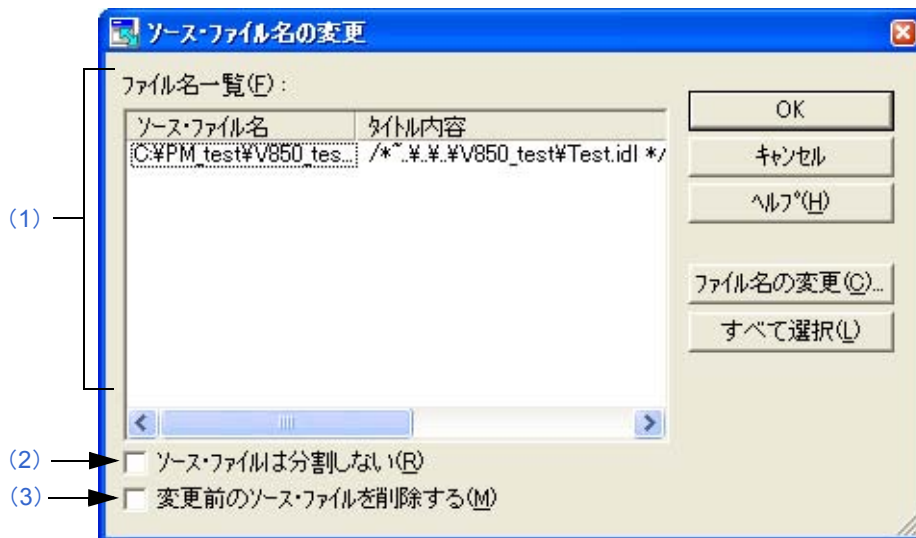
機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したオプションでソース・ファイルを保存します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ソース・ファイル名の変更] ダイアログ

編集中の IDL ファイルのソース・ファイル名を指定したファイル名に変更します。

図 6-42 [ソース・ファイル名の変更] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ファイル]メニュー→[ソース・ファイル名の変更...]を選択
- [ファイル]メニュー→[名前を付けて保存...]
- [名前を付けて保存]ダイアログで、[ソース・ファイル名の変更...]ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイル名一覧

(a) ソース・ファイル名

ソース・ファイル名を選択後、マウス左ボタンで、インライン編集ができます。指定できる文字数は、259文字までです。また、ソース・ファイル名を選択後、ダブル・クリックするか[ファイル名の変更...]ボタンをクリックすることで、[指定ソース・ファイル名の変更]ダイアログを表示します。

ソース・ファイル名を複数選択後、[ファイル名の変更...]ボタンをクリックすると、[複数ソース・ファイル名の変更]ダイアログを表示します。

なお、ソース・ファイル名が未設定の場合、ソース・ファイルの1行目にあたる第1階層行の内容をソース・ファイル名とします。同名のソース・ファイル名が存在する場合は、4桁の番号を付加した名前をソース・ファイル名として表示します。

また、第1階層行に文字入力がない場合、4桁の番号+拡張子をファイル名とします。拡張子は、先頭行から300行までにC言語のコメント（/*、//）が存在する場合は、"c"、存在しない場合は"asm"とします。ソース・ファイル名に、¥, /, :, *, ?, ", <, >, |を使用することはできません。

(b) タイトル内容

ソース・ファイルの1行目にあたる第1階層行の内容を抜き出して表示します。

(2) ソース・ファイルは分割しない

チェック・ボックスをチェックした場合、ソース・ファイルの分割は行わず、全ファイルを1つのソース・ファイルとして保存します。

デフォルトではチェックされません。

チェックをオンからオフに変更した場合、分割しない時のソース・ファイル名設定を記憶するため、次に“分割する”に変更した場合は、以前の設定を表示します。ただし、ソース・ファイル名の記憶は、編集ウィンドウを閉じた際に廃棄されます。

(3) 変更前のソース・ファイルを削除する

チェック・ボックスをチェックした場合、ソース・ファイル名変更の際に、旧ファイル名の元ファイルを削除します。デフォルトではチェックされません。

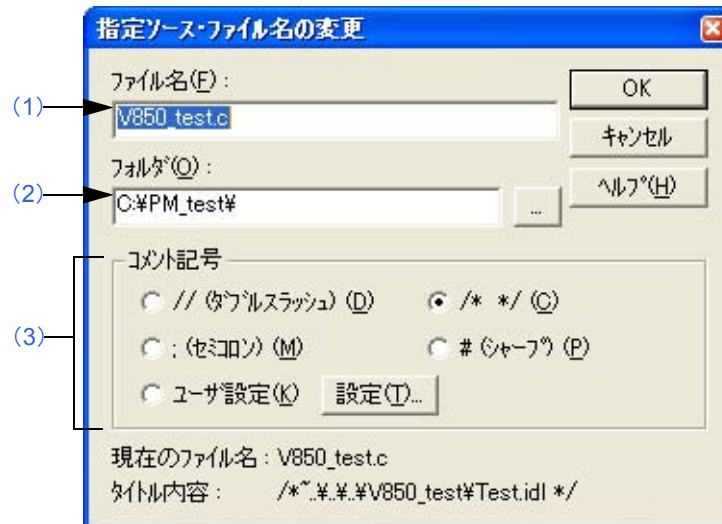
機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したファイル名に変更します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。
ファイル名の変更 ...	ソース・ファイル名を1つ選択している場合は、[指定ソース・ファイル名の変更]ダイアログを表示します。 複数選択している場合は、[複数ソース・ファイル名の変更]ダイアログを表示します。
すべて選択	ファイル名一覧をすべて選択します。

[指定ソース・ファイル名の変更] ダイアログ

[ソース・ファイル名の変更] ダイアログで指定したファイルのソース・ファイル名を指定したファイル名に変更します。

図 6-43 [指定ソース・ファイル名の変更] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ソース・ファイル名の変更] ダイアログでソース・ファイルを選択→ [ファイル名の変更 ...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイル名

新しく設定するファイル名を指定します。指定できる文字数は、259文字までです。
デフォルトでは、[ソース・ファイル名の変更] ダイアログで選択したファイル名を表示します。

(2) フォルダ

現在設定されているフォルダを表示します。
[...] ボタンをクリックすると、フォルダ選択用のダイアログを表示します。

(3) コメント記号

コメント記号をオプション・ボタンにより選択します。
デフォルトでは、編集ウィンドウの内容がCソースなら“/* */”，それ以外は“;”になっています。
[ユーザ設定]，または [設定 ...] ボタンをクリックすると、[コメント記号のユーザ設定] ダイアログが表示され、指定ファイルのコメント記号を任意に変更することができます。

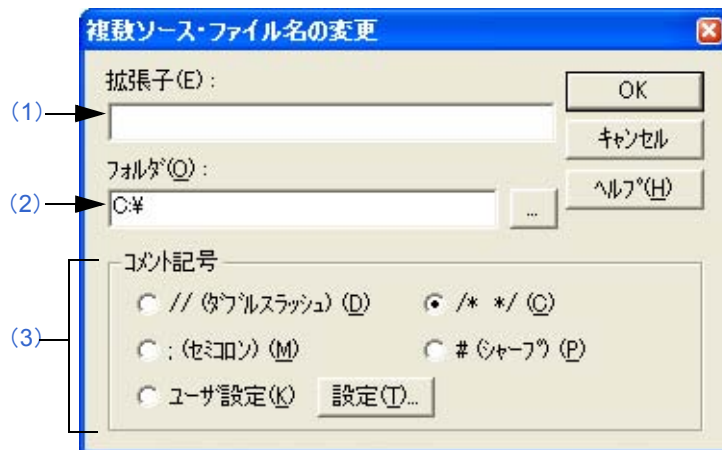
機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したファイル名に変更します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[複数ソース・ファイル名の変更]ダイアログ

[ソース・ファイル名の変更]ダイアログで指定した複数のファイルのソース・ファイル名を指定したファイル名に変更します。

図 6-44 [複数ソース・ファイル名の変更]ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ソース・ファイル名の変更]ダイアログで複数ソース・ファイルを選択→[ファイル名の変更...]ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 拡張子

選択したファイルの拡張子が同じ場合はその拡張子を、異なる場合は空白を表示します。

(2) フォルダ

選択したファイルのフォルダが同じ場合はそのフォルダ名を、異なる場合は空白を表示します。

[...]ボタンをクリックすると、フォルダ選択用のダイアログを表示します。

(3) コメント記号

選択したファイルのコメント記号が同じ場合はそのコメントを、異なる場合は何も選択なしの状態を表示します。

[ユーザ設定]、または[設定...]ボタンをクリックすると、[コメント記号のユーザ設定]ダイアログが表示され、選択したファイルのコメント記号を任意に変更することができます。

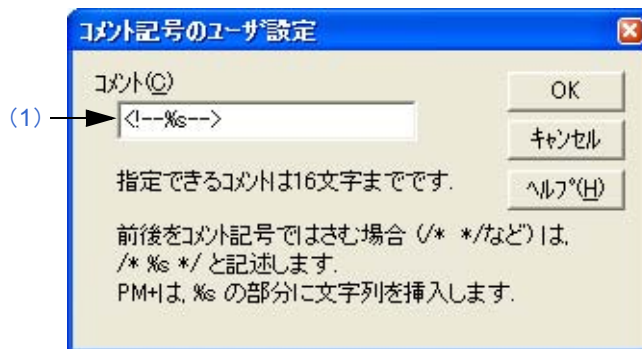
機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したファイル名に変更します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[コメント記号のユーザ設定] ダイアログ

ファイルのコメント記号を変更します。

図 6-45 [コメント記号のユーザ設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [指定ソース・ファイル名の変更] ダイアログ→ユーザ設定、または[設定]ボタンをクリック
- [複数ソース・ファイル名の変更] ダイアログ→ユーザ設定、または[設定]ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) コメント

任意のコメント記号を入力します。コメントには、必ず %s を入れてください。

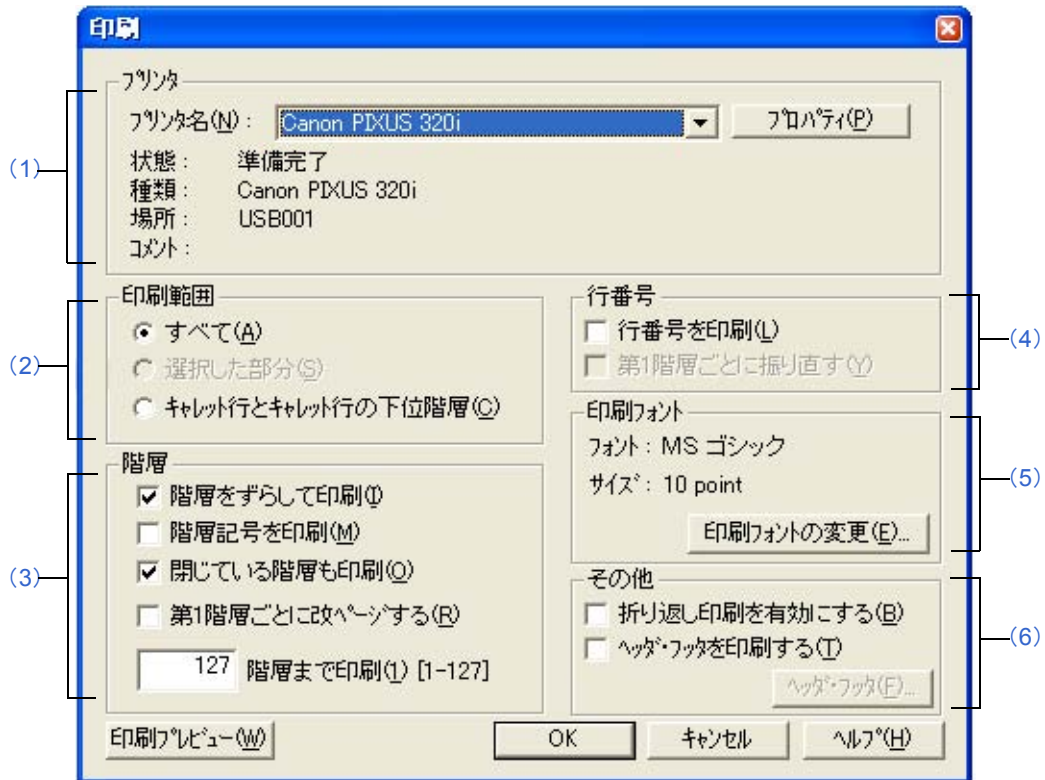
機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したコメントを設定します。コメントを記述するまでは、グレー表示です。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[印刷] ダイアログ

現在アクティブなウィンドウの印刷をします。

図 6-46 [印刷] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ファイル]メニュー→[印刷]を選択
- 印刷プレビュー画面→[印刷]ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) プリンタ

(a) プリンタ名

印刷するプリンタ名を指定します。

デフォルトで、通常使用するプリンタが表示されます。

[プロパティ] ボタンをクリックすると、プリンタの設定を変更することができます。

(2) 印刷範囲

(a) すべて

すべて印刷します。

範囲選択をしていない場合、デフォルトでチェックされています。

(b) 選択した部分

選択された部分を印刷します。

範囲選択をしている場合、デフォルトでチェックされています。

(c) キャレット行とキャレット行の下位階層

キャレット行とキャレット行の下位階層を印刷します。

(3) 階層

(a) 階層をずらして印刷

選択範囲の先頭行を左端に、下位階層をずらして(インデントして)印刷します(デフォルト)。

インデントするスペースは、[ツール]→[環境設定...]－[階層]タブの[階層の字下げ文字数]で指定した文字数です。

(b) 階層記号を印刷

設定している階層記号を印刷します。

(c) 閉じている階層も印刷

閉じている階層も印刷します(デフォルト)。

(d) 第1階層ごとに改ページする

第1階層ごとに改ページを行います。

(e) x階層まで印刷 [1-127]

指定した階層まで印刷します。

(4) 行番号

(a) 行番号を印刷

左側に行番号を付けて印刷します。

(b) 第1階層ごとに振り直す

第1階層ごとに行番号を1から開始します。

(5) 印刷フォント

現在設定中のフォント名とフォント・サイズを表示します。

[印刷フォントの変更...] ボタンをクリックすると、[フォント]ダイアログ(印刷)を表示して、印刷フォントの設定を変更します。

(6) その他

(a) 折り返し印刷を有効にする

折り返し印刷を有効にします。

(b) ヘッダ・フッタを印刷する

ヘッダ・フッタも印刷します。

[ヘッダ・フッタ...] ボタンをクリックすると、[ヘッダ・フッタの設定] ダイアログを表示し、ヘッダ・フッタの内容を変更することができます ([ヘッダ・フッタを印刷する] をチェックしていない場合、このボタンはグレー表示となります)。

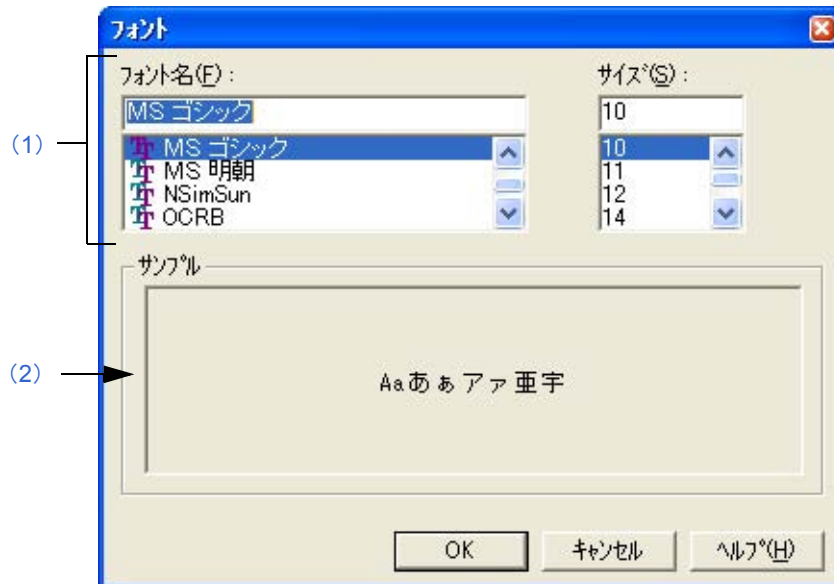
機能ボタン

ボタン	機能
印刷プレビュー	印刷プレビュー画面を表示します。
OK	印刷を開始します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[フォント] ダイアログ (印刷)

印刷フォントの設定を行います。

図 6-47 [フォント] ダイアログ (印刷)



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [印刷] ダイアログ → [印刷フォントの変更...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) フォント設定エリア

(a) フォント名

現在設定中のフォント名を表示します。スクロールバーにより、変更するフォントを指定します。

(b) サイズ

現在設定中のフォント・サイズを表示します。スクロールバーにより、変更するフォント・サイズを指定します。

(2) サンプル

現在設定中のフォント名／フォント・サイズでサンプル文字を表示します。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したフォントを設定します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ヘッダ・フッタの設定] ダイアログ

印刷する際のヘッダ・フッタの内容を変更します。

図 6-48 [ヘッダ・フッタの設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法






- [印刷] ダイアログ → [ヘッダ・フッタ ...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ヘッダ

(a) ヘッダ内容

直接入力した文字列をヘッダ部に印刷します。また、ボタンをクリックすることにより、次の情報を自動的にヘッダ部に含めます。

ボタン	機能
	ページ番号 (%p) を挿入します。
	日付 (%d) を挿入します。
	時間 (%t) を挿入します。
	ファイル名 (%f) を挿入します。
	ソース・ファイル名 (%s) を挿入します。

(b) 印刷位置

プルダウン・メニューにより、印刷位置を指定します。

(c) ヘッダの下に線を描画する

ヘッダ部との境に線を引きます。

(d) ファイル名はフルパスで印刷する

ファイル名の挿入を指定した場合、フルパスで記述します。

(e) ソース・ファイル名はフルパスで印刷する

ソース・ファイル名の挿入を指定した場合、フルパスで記述します。

(f) ヘッダの印刷フォント






ヘッダ部の現在設定中のフォント名とフォント・サイズを表示します。

[ヘッダの印刷フォントの変更...] ボタンをクリックすると、[\[フォント\]ダイアログ \(印刷\)](#) を表示し、ヘッダ部のフォント名/フォント・サイズを変更することができます。

(2) フッタ

(a) フッタ内容

直接入力した文字列をフッタ部に印刷します。また、ボタンをクリックすることにより、次の情報を自動的にフッタ部に含めます。

ボタン	機能
	ページ番号 (%p) を挿入します。
	日付 (%d) を挿入します。
	時間 (%t) を挿入します。
	ファイル名 (%f) を挿入します。
	ソース・ファイル名 (%s) を挿入します。

- (b) 印刷位置
プルダウン・メニューにより、印刷位置を指定します。
- (c) フッタの上に線を描画する
フッタ部との境に線を引きます。
- (d) ファイル名はフルパスで印刷する
ファイル名の挿入を指定した場合、フルパスで記述します。
- (e) ソース・ファイル名はフルパスで印刷する
ソース・ファイル名の挿入を指定した場合、フルパスで記述します。
- (f) フッタの印刷フォント
フッタ部の現在設定中のフォント名とフォント・サイズを表示します。
[フッタの印刷フォントの変更...] ボタンをクリックすると、[\[フォント\]ダイアログ \(印刷\)](#) を表示し、フッタ部のフォント名／フォント・サイズを変更することができます。

機能ボタン

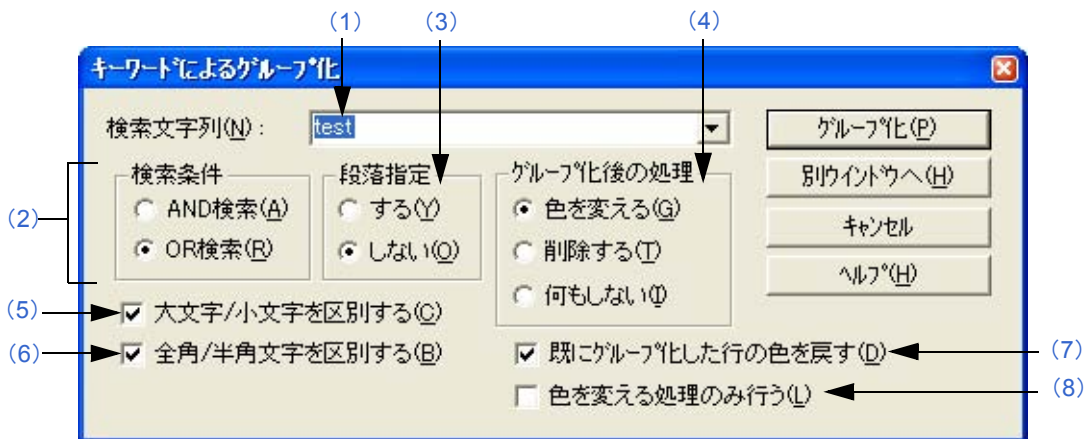
ボタン	機能
OK	指定したヘッダ・フッタの内容を設定します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[キーワードによるグループ化] ダイアログ

指定した文字列を含む行を収集し、収集結果として編集ウィンドウの先頭に、第1階層に検索文字列、第2階層に収集した行を表示します。

なお、収集された内容は、[グループ化後の処理]で[削除する]を選択しない限り、元の位置にもそのまま存在します。

図 6-49 [キーワードによるグループ化] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [編集]メニュー→[キーワードによるグループ化...]を選択

各エリアの説明

(1) 検索文字列

グループ化のキーワードとする文字列を指定します。セミコロン“;”で区切ることで、複数の文字列を設定することができます。

デフォルトでは、キャレット位置にある単語が表示されます。単語がない場合、直前にグループ化した文字列が表示されます。前にグループ化していない場合、空白になります。

なお、検索文字列は、最近設定した10個までコンボ・ボックスに記憶されます。

(2) 検索条件

(a) AND 検索

[検索文字列]に複数の文字列を指定した場合、すべてが検出された行が収集されます。

(b) OR 検索

いずれか1つが検出された行が収集されます（デフォルト）。

(3) 段落指定

(a) する

段落ごとに行が収集されます。このとき、収集した行が下位階層を持つ場合、下位階層の並びはそのまま、下位階層を含んだ形で収集されます。

(b) しない

段落に関係なく、指定した検索文字列を含む行のみが収集されます（デフォルト）。
なお、段落の定義は、次のとおりです。

段落の開始 1つ上の行が空行、または上位階層のとき

段落の終了 1つ下の行が空行、または上位階層のとき

(4) グループ化後の処理

(a) 色を変える

収集した行の色は青色に変更されます（デフォルト）。

(b) 削除する

収集した行は元の位置から削除されます。
[段落指定]で[する]を選択した場合、削除はできません。

(c) 何もしない

収集した行に対して何もしません。

(5) 大文字／小文字を区別する

[検索文字列]の大文字、小文字がすべて一致する行のみ収集されます（デフォルト）。

(6) 全角／半角文字を区別する

[検索文字列]の全角、半角がすべて一致する行のみ収集されます（デフォルト）。

(7) 既にグループ化した行の色を戻す

以前のグループ化で色が変わっている行の色を元に戻した状態で収集されます（デフォルト）。

(8) 色を変える処理のみ行う

収集はせず、[検索文字列]が存在する行の色のみ変更されます。チェックした場合、[グループ化後の処理]の指定は無効になります。

デフォルトでは、チェックされません。

機能ボタン

ボタン	機能
グループ化	検索文字列を含む行を、検索対象の編集ウィンドウの先頭に検索した順に収集します。
別ウィンドウへ	検索文字列を含む行を、新たな編集ウィンドウの先頭に検索した順に収集します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

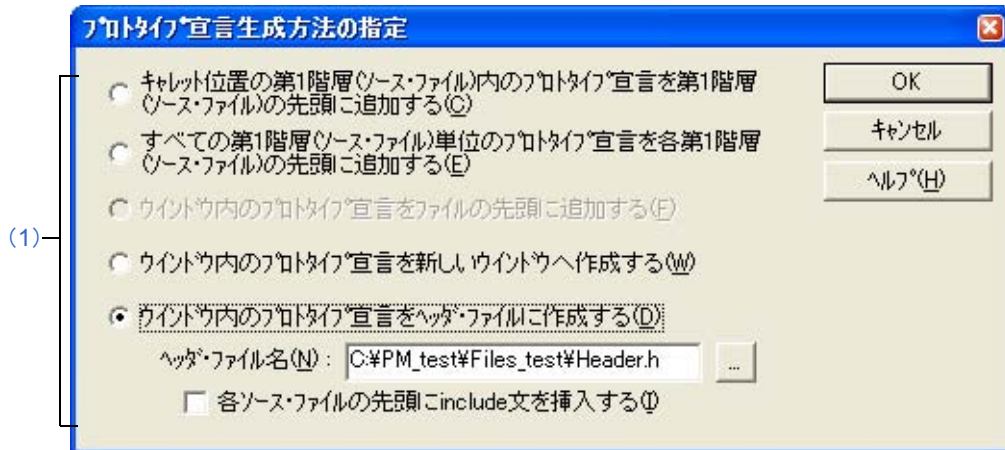
注意事項

- [別ウィンドウへ] を選択した場合、新たなウィンドウのタイトルは、“グループ化—検索文字列 UntitledX (変更)” となります。
- チェック・ボックスとオプション・ボタンの設定は記憶され、次のグループ化時に反映されます。
- Read Only のファイルに対しては、収集行の削除はできません。また、[色を変える処理のみ行う] をチェックすると、[グループ化] ボタンが選択可能になります。
- Read Only のファイルから [別ウィンドウへ] で行を収集した場合、収集結果の別ウィンドウで [削除する] を選択できません。

[プロトタイプ宣言生成方法の指定] ダイアログ

関数のプロトタイプ宣言を自動生成します。

図 6-50 [プロトタイプ宣言生成方法の指定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [編集] メニュー → [プロトタイプ宣言の作成 ...] を選択

各エリアの説明

(1) 生成方法指定エリア

次のオプション・ボタンにより、生成方法を1つ選択します。

なお、ファイルの種類により、選択できる項目は異なります。

- (a) キャレット位置の第1階層（ソース・ファイル）内のプロトタイプ宣言を第1階層（ソース・ファイル）の先頭に追加する
編集ウィンドウのキャレット位置の第1階層（ソース・ファイル）内に定義されている関数が、プロトタイプ宣言としてその階層の先頭に追加されます。
- (b) すべての第1階層（ソース・ファイル）単位のプロトタイプ宣言を各第1階層（ソース・ファイル）の先頭に追加する
編集ウィンドウにある全第1階層（ソース・ファイル）ごとで、各第1階層（ソース・ファイル）内に定義されている関数が、プロトタイプ宣言として各第1階層の先頭に追加されます。ただし、Read Only のソース・ファイルに対しては、追加されません。
- (c) ウィンドウ内のプロトタイプ宣言をファイルの先頭に追加する
編集ウィンドウにある定義されている関数をプロトタイプ宣言として先頭行に追加されます。

(d) ウィンドウ内のプロトタイプ宣言を新しいウィンドウへ作成する

編集ウィンドウにある定義されている関数をプロトタイプ宣言として新しくウィンドウを作成し、そのウィンドウへ追加されます。

(e) ウィンドウ内のプロトタイプ宣言をヘッダ・ファイルに作成する

編集中の IDL ファイルの先頭に新しく第 1 階層（ヘッダ・ファイル）が作成され、編集中の IDL ファイル内に定義されている関数が、プロトタイプ宣言として作成されます。ただし、ソース・ファイルがあり、第 1 階層ごとにソース・ファイルを分割している IDL ファイルに限られます。作成するヘッダ・ファイル名は、[ヘッダ・ファイル名]に直接入力するか、[...] ボタンをクリックして表示される[インクルード・ファイルの選択]ダイアログで指定します。インクルード・ファイルのデフォルトの拡張子は“h”です。

- 各ソースファイルの先頭に include 文を挿入する

[ウィンドウ内のプロトタイプ宣言をヘッダ・ファイルに追加する]を選択した場合に有効になります。

ヘッダ・ファイルを新しく作成した際に、各第 1 階層（各ソース・ファイル）の先頭に、include 文+設定したヘッダ・ファイル名を追加します。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定した方法で、関数のプロトタイプ宣言を作成します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

- 次の場合、プロトタイプ宣言が正常に作成されないことがあります。
 - 作成したプロトタイプ宣言をコピーして貼り付けると、貼り付けたプロトタイプ宣言は更新されません。
 - 第 1 階層に作成されたプロトタイプ宣言の階層を下げた場合、初期に作成されたプロトタイプ宣言とは異なる宣言となります。
- プロトタイプ宣言の作成では、アンドウ・バッファがクリアされます。したがって、元に戻せません。
- 次のような制御命令では、関数名が認識されません。
 - #ifdef の値により関数名が異なる場合

```
void
#ifdef ENGLISH
  FncEng
#else
  FncJapan
#endif
(int Cnt, int Mode)
{ ...
```

- “¥” により関数名が2行に渡っている場合

```
void Function      ¥
Name
(int Cnt. int Mode)
{ ...
```

- 関数名と “{” の間に変数宣言を行った場合

```
#ifdef ENGLISH
int main( argc, argv[])
int agr;
char* argv[];
{
}
```

- 下記のように戻り値のない関数名の場合、1行上の文字を戻り値として判断します。このような場合には、関数の型を宣言してください。

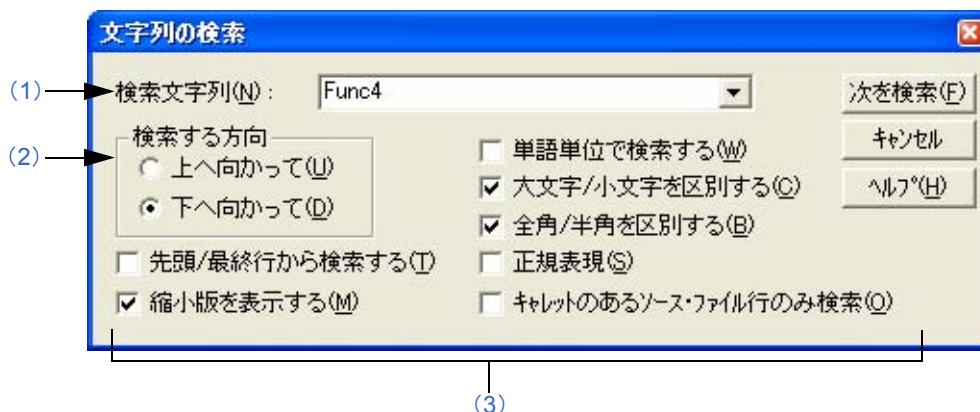
```
a. def
main() {}
```

[文字列の検索] ダイアログ

文字列の検索を行います。

文字列検索は、開いていない下位階層の行に対しても行い、その行で文字列が検索された場合は、その階層を開いて表示します。

図 6-51 [文字列の検索] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [検索] メニュー → [文字列の検索 ...] を選択
- ツールバーの [文字列の検索] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 検索文字列

検索する文字列を指定します。

検索文字列としてキャレット位置が含まれる単語を表示します。また、単語がない場合は、直前に検索した文字列を表示します。ただし、直前に検索した文字列がない場合、空白とします。

検索文字列は最大 10 個まで記憶されます。10 個以上になった場合は、古い文字列から削除されます。

なお、検索文字列は、[ツール] メニュー → [環境設定 ...] - [検索 / 置換] タブにおいて、[検索文字列を IDL ファイルに記憶する] をチェックすることにより、IDL ファイルに保存することができます。また、同じタブ上の [範囲指定文字列 / キャレット位置の単語を検索対象文字列とする] チェック・ボックスにより検索文字列の設定を変更することもできます。

(2) 検索する方向

検索する方向を選択します。

(a) 上へ向かって

現在のキャレット位置、文字列範囲の右端の後ろ 2 文字目または行範囲指定終了位置から文頭方向に検索を開始します。

(b) 下へ向かって

現在のキャレット位置、文字列範囲指定の左端から 2 文字目または行範囲指定開始位置から文末方向に検索を開始します（デフォルト）。

(3) 検索方法指定エリア**(a) 先頭 / 最終行から検索する**

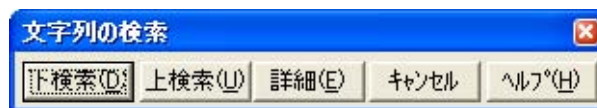
チェックすると、キャレット位置からではなく、[上に向かって]では最終行、[下に向かって]では先頭行から検索します。

(b) 縮小版を表示する

[次を検索] ボタンをクリックした場合、縮小版ダイアログを表示します（デフォルト）。

図 6-52 に、[文字列の検索] ダイアログ (縮小版) のイメージを示します。

図 6-52 [文字列の検索] ダイアログ (縮小版)



ボタン	機能
下検索	先に設定した検索文字列で引き続き下方向に検索を行います。
上検索	先に設定した検索文字列で引き続き上方向に検索を行います。
詳細	通常の [文字列の検索] ダイアログを表示するので、検索条件などの変更が可能となります。
キャンセル	ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

(c) 単語単位で検索する

チェックすると、単語単位で検索します。

(d) 大文字 / 小文字を区別する

チェックすると、[検索する文字列] で指定された文字列の大文字 / 小文字がすべて一致する場合のみ検索します（デフォルト）。

(e) 全角 / 半角を区別する

チェックすると、[検索する文字列] で指定された文字列の全角 / 半角を区別して検索します（デフォルト）。

(f) 正規表現

チェックすると、検索において正規表現をサポートします。

正規表現は、次のルールで行います (X, Y は正規表現)。

【正規表現の記法】

記法	意味
文字	文字自身を表す
XY	X,Yがこの順序に連続して出現する
X Y	XまたはYが出現する
X*	Xが0回以上繰り返して出現する
(X)	Xと同じ意味
(X)+	Xが1回以上繰り返して出現する

- メタキャラクタである “*”， “|”， “(”， “)”， “+” の文字は特別な意味を持っているためこの文字を検索したい場合は文字の前に “¥” を付ける。また，“¥” も特別な意味を持っているため “¥” を検索するには “¥¥” を指定する。

なお、他の特殊文字を検索する場合は次のとおり指定する。

Tab 文字： ¥t

行頭： ^ (文字列の先頭に指定した場合のみ有効。先頭以外では^そのものを検索)

行末： \$ (文字列の末尾に指定した場合のみ有効。末尾以外では\$そのものを検索)

- 正規表現の優先度は高いものから挙げると、繰り返し “*”， 連結、選択 “|” となる。また、丸括弧 “(”， “)” で囲むことによって優先順位を変えることができる。

【正規表現の使い方】

- 文字はその文字自身を表す正規表現 (メタキャラクタは除く)

例：a は文字 a が出現することを表す正規表現

- 連結

正規表現 X, Y を順に並べた XY は X と Y がこの順に出現することを表す正規表現

例：abc は文字 a, 文字 b, 文字 c, が順に出現することを表す正規表現

- 選択

正規表現 X, Y の間に “|” をはさんで並べた X|Y は、X か Y のいずれかが出現すること表す正規表現

例：a|b|c は、文字 a, 文字 b, 文字 c のどれか 1 つが出現することを表す正規表現

- 繰り返し

正規表現 X の直後に “*” を置いた X* は X が 0 回以上繰り返して出現することを表す正規表現

例：a* は a が 0 回以上連続して出現することを表す正規表現

a, aa, aaa, aaaa, と空文字列を表す

正規表現 X の直後に “+” を置いた X+ は X が 1 回以上繰り返して出現することを表す正規表現

例：a+ は a が 1 回以上連続して出現することを表す正規表現

a, aa, aaa, aaaa, を表す。空文字列は含まない

a* は a が 0 回以上連続して出現することを表すが、aa* と記述すると a が 1 回以上連続して出現することを表すことができ、空文字列は許されず、a+ と記述したのと同じ動作になる。

- ab が連続して出現すること ab, abab, ababab..... を表すには ab* ではなく (ab)* と指定しなければならない (連結よりも、繰り返しの方が優先度が高いので括弧で優先度を変える)。

- 1文字目が a または b, 2文字目が c, 3文字目が x, または y の並びを表す正規表現は, (a|b)c(x|y) となる (選択よりも連結の方が優先するので括弧で優先度を変える)。括弧を省略すると a, bcx, y のいずれかを探す。
- “[” と “]” で囲まれた文字のうち, いずれか 1文字が出現することを表す正規表現 (文字クラス) はサポートしていない。次のように “選択” を使って記述することができる。
例 : [abc] → (a|b|c) a, b, c のいずれか 1文字が出現することを表す。

(g) キャレットのあるソース・ファイル行のみ検索

チェックすると, キャレットのあるソース・ファイルのみ検索します。

機能ボタン

ボタン	機能
次を検索	検索文字列を検索します。 [縮小版を表示する]をチェックした場合, 縮小版のダイアログに変わります。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

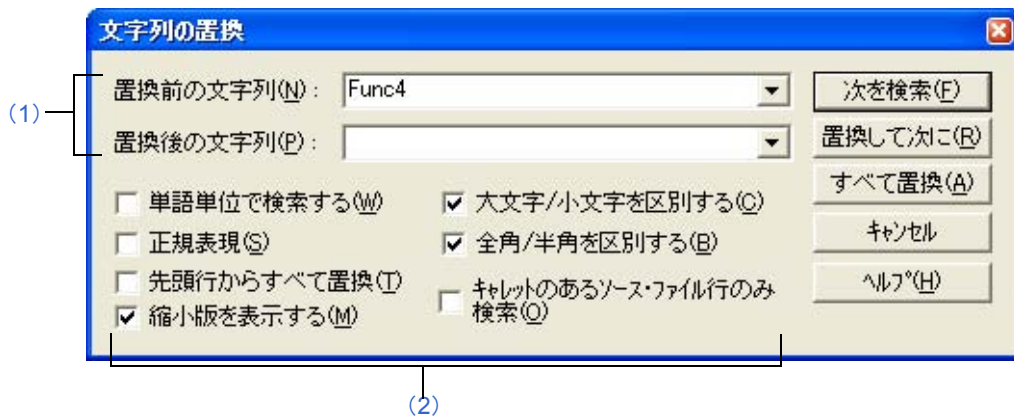
注意事項

- 文字列検索は, [Esc] キーによって中断することができます。
- チェック・ボックス, およびオプション・ボタンの設定は記憶され, 次にこのダイアログが表示された際にその設定を表示します。
- 文字列が検索されなかった場合は, ビープ音を鳴らし, メッセージを表示します。この際におけるビープ音の設定は, [ツール]メニュー→[環境設定...] - [検索/置換]タブにおける, “検索文字が見つからないとき” エリアによって行うことができます。

[文字列の置換] ダイアログ

文字列の置換を行います。

図 6-53 [文字列の置換] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [検索] メニュー → [文字列の置換 ...] を選択
- ツールバーの [文字列の置換] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 文字列指定エリア

(a) 置換前の文字列

置換対象の文字列を指定します。

置換前の文字列として、キャレット位置が含まれる単語を表示します。また単語がない場合は、直前に検索した文字列を表示します。ただし直前に検索した文字列がない場合、空白とします。

置換前文字列は最大 10 個まで記憶されます。10 個以上になった場合は、古い文字列から削除されます。

なお、置換前文字列は、[ツール] メニュー → [環境設定 ...] → [検索 / 置換] タブにおいて、[検索文字列を IDL ファイルに記憶する] をチェックすることにより、IDL ファイルに保存することができます。また、同じタブ上の [範囲指定文字列 / キャレット位置の単語を検索対象文字列とする] チェック・ボックスにより置換前文字列の設定を変更することもできます。

(b) 置換後の文字列

置換後の文字列を指定します。

置換後の文字列として、直前に置換した文字列を表示します。ただし直前に置換した文字列がない場合、空白とします。

なお、置換後文字列は、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[検索/置換]タブにおいて、[検索文字列をIDLファイルに記憶する]をチェックすることにより、IDLファイルに保存することができます。また、同じタブ上の[範囲指定文字列/キャレット位置の単語を検索対象文字列とする]チェック・ボックスにより置換後文字列の設定を変更することもできます。

(2) 置換方法指定エリア

(a) 単語単位で検索する

チェックすると、単語単位で検索します。

(b) 正規表現

チェックすると、置換において正規表現をサポートします。

正規表現は、次のルールで行います (X, Y は正規表現)。

【正規表現の記法】

記法	意味
文字	文字自身を表す
XY	X, Y がこの順序に連続して出現する
X Y	X または Y が出現する
X*	X が 0 回以上繰り返して出現する
(X)	X と同じ意味
(X)+	X が 1 回以上繰り返して出現する

- メタキャラクタである “*”, “|”, “(”, “)”, “+” の文字は特別な意味を持っているためこの文字を検索したい場合は文字の前に “¥” を付ける。また, “¥” も特別な意味を持っているため “¥” を検索するには “¥¥” を指定する。

なお、他の特殊文字を検索する場合は次のとおり指定する。

Tab 文字: ¥t

行頭: ^ (文字列の先頭に指定した場合のみ有効。先頭以外では ^ そのものを検索)

行末: \$ (文字列の末尾に指定した場合のみ有効。末尾以外では \$ そのものを検索)

- 正規表現の優先度は高いものから挙げると、繰り返し “*”, 連結, 選択 “|” となる。また、丸括弧 “(”, “)” で囲むことによって優先順位を変えることができる。

【正規表現の使い方】

- 文字はその文字自身を表す正規表現 (メタキャラクタは除く)

例: a は文字 a が出現することを表す正規表現

- 連結

正規表現 X, Y を順に並べた XY は X と Y がこの順に出現することを表す正規表現

例: abc は文字 a, 文字 b, 文字 c, が順に出現することを表す正規表現

- 選択

正規表現 X, Y の間に “|” をはさんで並べた X|Y は, X か Y のいずれかが出現すること表す正規表現

例: a|b|c は, 文字 a, 文字 b, 文字 c のどれか 1 つが出現することを表す正規表現

- 繰り返し

正規表現 X の直後に “*” を置いた X* は X が 0 回以上繰り返して出現することを表す正規表現

例：a* は a が 0 回以上連続して出現することを表す正規表現

a, aa, aaa, aaaa, と空文字列を表す

正規表現 X の直後に “+” を置いた X+ は X が 1 回以上繰り返して出現することを表す正規表現

例：a+ は a が 1 回以上連続して出現することを表す正規表現

a, aa, aaa, aaaa, を表す。空文字列は含まない

a* は a が 0 回以上連続して出現することを表すが、aa* と記述すると a が 1 回以上連続して出現することを表すことができ、空文字列は許されず、a+ と記述したのと同じ動作になる。

- ab が連続して出現すること ab, abab, ababab..... を表すには ab* ではなく (ab)* と指定しなければならない (連結よりも、繰り返しの方が優先度が高いので括弧で優先度を変える)。

- 1 文字目が a または b, 2 文字目が c, 3 文字目が x, または y の並びを表す正規表現は, (a|b)c(x|y) となる (選択よりも連結の方が優先するので括弧で優先度を変える)。括弧を省略すると a, bcx, y のいずれかを探す。

- “[” と “]” で囲まれた文字のうち、いずれか 1 文字が出現することを表す正規表現 (文字クラス) はサポートしていない。次のように “選択” を使って記述することができる。

例：[abc] → (a|b|c) a, b, c のいずれか 1 文字が出現することを表す。

(c) 先頭行からすべて置換

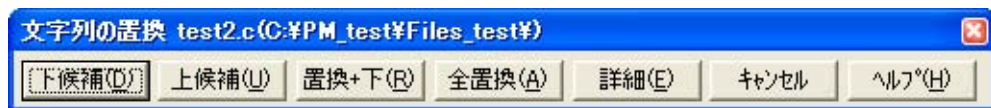
チェックすると、先頭行から置換を行います。

(d) 縮小版を表示する

[次を検索] ボタンをクリックした場合、縮小版ダイアログを表示します (デフォルト)。

図 6-54 に、文字列の検索ダイアログ (縮小版) のイメージを示します。

図 6-54 [文字列の置換] ダイアログ (縮小版)



ボタン	機能
下候補	先に設定した置換前の文字列で引き続き下方向に検索を行います。
上候補	先に設定した置換前の文字列で引き続き上方向に検索を行います。
置換 + 下	検索された文字列を置換後、引き続き下方向に検索を行います。
全置換	現在の caret 位置から行末方向にメッセージによる確認を行わずに置換を行います。
詳細	通常の文字列の置換ダイアログを表示するので、検索条件などの変更が可能となります。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

(e) 大文字 / 小文字を区別する

チェックすると、[置換前の文字列] で指定された文字列の大文字 / 小文字がすべて一致する場合のみ検索します (デフォルト)。

(f) 全角 / 半角を区別する

チェックすると、[置換前の文字列] で指定された文字列の全角 / 半角を区別して検索します (デフォルト)。

(g) キャレットのあるソース・ファイル行のみ検索エリア

チェックすると、キャレットのあるソース・ファイルのみ検索します。

機能ボタン

ボタン	機能
次を検索	次の文字列を検索します。
置換して次に	検索された文字列を置換後、次の検索を行います。 ただし、書き込み禁止の編集ウィンドウでは、グレー表示になります。
すべて置換	現在のキャレット位置からメッセージの確認を行わずに置換を行います。 ただし、書き込み禁止の編集ウィンドウでは、グレー表示になります。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

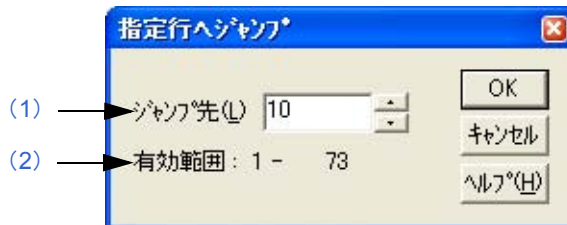
注意事項

- 文字列検索は、[Esc] キーによって中断することができます。
- チェック・ボックス、およびオプション・ボタンの設定は記憶され、次にこのダイアログが表示された際にその設定を表示します。
- 文字列が見つからないまま置換を終了した場合は、ビープ音を鳴らし、メッセージを表示します。この際におけるビープ音の設定は、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[検索/置換]タブにおける、“検索文字が見つからないとき”エリアによって行うことができます。

[指定行へジャンプ] ダイアログ

先頭からの表示行数を指定することにより、目的の行（指定した行）までジャンプします。

図 6-55 [指定行へジャンプ] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [検索]メニュー→[指定行へ...]を選択
- ツールバーの[指定行へ]ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ジャンプ先

ジャンプする行数を指定します。[OK] ボタンをクリックすると指定した行へジャンプします。

(2) 有効範囲

有効範囲は1行目から表示行の最終行までとします。

【注意】

編集ウィンドウ内を範囲指定している場合、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[編集]タブの[ジャンプ前に範囲指定を解除する]チェック・ボックスの状態、ジャンプは次のように異なります。

【チェックした場合】

範囲指定を解除してからcaretを指定された行の先頭へ移動します。

【チェックしない場合】

範囲指定を開始した位置から指定された行までを範囲指定します。ただし、範囲指定を開始した位置から指定された行までの間に、範囲指定を開始した行より上位の階層が現れたときは、上位階層行の直前までを範囲指定します。

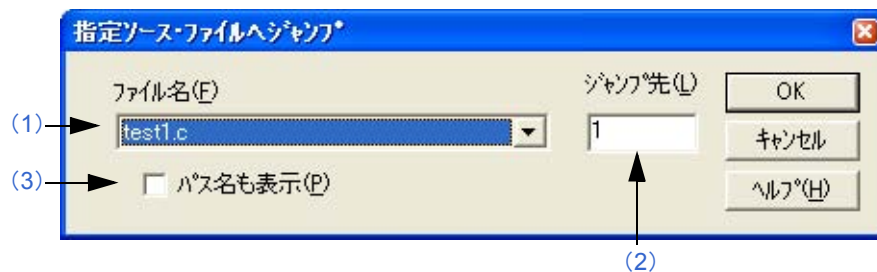
機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定した行へジャンプします。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[指定ソース・ファイルへジャンプ] ダイアログ

ソース・ファイル名と行番号を指定することにより、目的の行までジャンプします。

図 6-56 [指定ソース・ファイルへジャンプ] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [検索]メニュー→[指定ソースファイルへ...]を選択

各エリアの説明

(1) ファイル名

ジャンプ先のファイル名を指定します。

コンボ・ボックスは、アクティブなウィンドウがソース・ファイルを持っている場合は、ソース・ファイル名を列挙し、アクティブなウィンドウがソース・ファイルを持っていない場合（テキスト・ファイルなど）は、そのウィンドウのファイル名が入ります。

(2) ジャンプ先

ジャンプ先の行番号を入力します。

ファイルの文書末の行数より大きな数値を入力したときは、ファイルの最後の行へジャンプします。

(3) パス名も表示

チェック・ボックスをチェックした場合、[ファイル名]の内容を、パス名も付けて表示します。

デフォルトではチェックされません。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定した行へジャンプします。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[マーク・ジャンプ] ダイアログ

現在のキャレットがある行をマークするか、またはマークされた行へキャレットを移動します。

図 6-57 [マーク・ジャンプ] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [検索]メニュー→[マーク・ジャンプ...]を選択

各エリアの説明

(1) マーク名

マーク名を設定します。デフォルトでは、キャレット位置の行内容が表示されます。

マーク名は、ユーザが任意に設定可能で、5119文字まで設定できます。また、マーク名は、大文字、小文字が区別されます。

[マーク追加]ボタンをクリックすると、マークを登録します。マークの登録は、最大20個までです。なお、同じ名前は、複数個設定できません。

(2) マーク一覧

マークを選択します。

マークが登録されている場合、登録されているマーク名が表示されます。マーク名を選択すると、選択したマーク名がマーク名エディット・ボックスに表示されます。

【マークの選択とジャンプ】

マークを選択したのち、[ジャンプ]ボタンをクリック、またはダブル・クリックをすると、編集中ウィンドウのマーク位置にジャンプします。

【マークの選択と削除】

マークを選択したのち、[削除]ボタン、または[Delete]キーを選択すると、選択したマークを削除します。マークは複数選択できます。

(3) ファイル名、行内容

マーク名エディット・ボックスに表示されているマークで登録したファイル名とその行内容を表示します。

機能ボタン

ボタン	機能
ジャンプ	マークを選択したのち、[ジャンプ]ボタンをクリックすると、編集中ウィンドウのマーク位置にジャンプします。
マーク追加	マーク名エディット・ボックスにマーク名を設定したのち、[マーク追加]ボタンをクリックすると、マークを登録します。
削除	選択したマークを削除します。マークの削除は[Delete]キーでも行えます。
閉じる	ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

- 次の場合、ダイアログのマーク一覧から設定したマークが削除されます。
 - 設定したマーク行がなくなった場合（切り取り／削除コマンドなど）。
 - Untitled の編集ウィンドウで追加したマークがある状態で、Untitled の編集ウィンドウを保存せずに閉じた場合。
 - アウトプット・ウィンドウにマークを設定後、ビルドやコンパイルを行い、アウトプット・ウィンドウの内容が更新された場合。または、アウトプット・ウィンドウを閉じた場合。
- [環境設定] ダイアログにおける[編集]タブ上の[ジャンプ前に範囲指定を解除する]チェック・ボックスにより、ジャンプを行う際の範囲指定の解除が異なります。

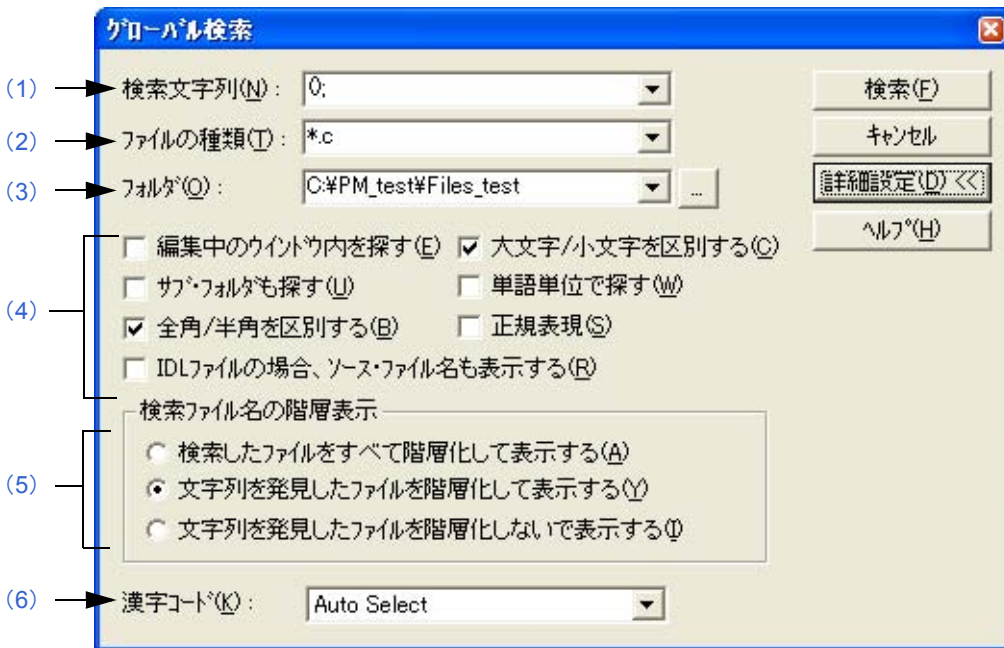
[グローバル検索] ダイアログ

指定したフォルダ上の複数のファイルを対象に、文字列の検索を行います。

図 6-58 [グローバル検索] ダイアログ



図 6-59 [グローバル検索] ダイアログ (詳細版)



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [検索]メニュー→[グローバル検索...]を選択
- ツールバーの[グローバル検索]ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 検索文字列

検索する文字列を指定します。

検索した文字列としてキャレット位置が含まれる単語を表示します。また単語がない場合は、直前に検索した文字列を表示します。ただし直前に検索した文字列がない場合、空白とします。

検索文字列は最大 10 個まで記憶されます。10 個以上になった場合は、古い文字列から削除されます。

なお、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[検索/置換]タブにおいて、[範囲指定文字列/キャレット位置の単語を検索対象文字列とする]チェック・ボックスにより検索文字列の設定を変更することができます。

(2) ファイルの種類

検索対象となるファイル名を指定します。

ファイル名には、ワイルド・カードの使用も可能です。また、検索対象ファイルは複数指定でき、各ファイル名の区切りはセミコロン“;”とします。

ファイル名は最大 10 個まで記憶されます。

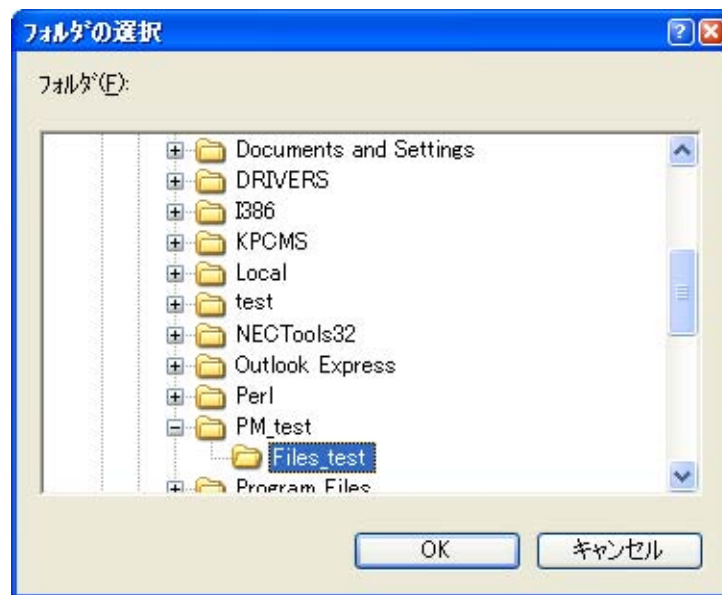
(3) フォルダ

検索するフォルダを指定します。

直接入力するか、[...] ボタンの選択により [フォルダの選択] ダイアログを表示し、フォルダの変更が可能となります。

図 6-60 に、[フォルダの選択] ダイアログのイメージを示します。

図 6-60 [フォルダの選択] ダイアログ



フォルダの選択後、[OK] ボタンをクリックするとフォルダを変更します。[キャンセル] ボタンをクリックした場合、フォルダの選択は行いません。

(4) 検索方法指定エリア

(a) 編集中のウィンドウを探す

チェックすると、編集中のファイルだけを検索対象とします（デフォルト）。

したがって、[ファイルの種類]と[フォルダ]の指定が無効となります。

(b) サブ・フォルダも探す

チェックすると、指定したフォルダのサブ・フォルダも検索対象とします。

(c) 全角／半角を区別する (詳細版のみ)

チェックすると、[検索文字列]で指定した文字列の全角／半角を区別して検索します。

(d) IDL ファイルの場合、ソースファイル名も表示する (詳細版のみ)

チェックすると、IDL の場合、ソースファイル名も表示します (デフォルト)。

(e) 大文字／小文字を区別する

チェックすると、[検索文字列]で指定した文字列の大文字／小文字がすべて一致する場合のみ検索します (デフォルト)。

(f) 単語単位で探す

チェックすると、単語単位で検索します。

(g) 正規表現 (詳細版のみ)

チェックすると、グローバル検索において正規表現をサポートします。

【正規表現の記法】

記法	意味
文字	文字自身を表す
XY	X,Y がこの順序に連続して出現する
X Y	X または Y が出現する
X*	X が 0 回以上繰り返して出現する
(X)	X と同じ意味
(X)+	X が 1 回以上繰り返して出現する

- メタキャラクタである “*”，“|”，“(”，“)”，“+” の文字は特別な意味を持っているためこの文字を検索したい場合は文字の前に “¥” を付ける。また，“¥” も特別な意味を持っているため “¥” を検索するには “¥¥” を指定する。

なお、他の特殊文字を検索する場合は次のとおり指定する。

Tab 文字： ¥t

行頭： ^ (文字列の先頭に指定した場合のみ有効。先頭以外では ^ そのものを検索)

行末： \$ (文字列の末尾に指定した場合のみ有効。末尾以外では \$ そのものを検索)

- 正規表現の優先度は高いものから挙げると、繰り返し “*”，連結、選択 “|” となる。また、丸括弧 “(”，“)” で囲むことによって優先順位を変えることができる。

【正規表現の使い方】

- 文字はその文字自身を表す正規表現 (メタキャラクタは除く)

例：a は文字 a が出現することを表す正規表現

- 連結

正規表現 X, Y を順に並べた XY は X と Y がこの順に出現することを表す正規表現

例：abc は文字 a, 文字 b, 文字 c, が順に出現することを表す正規表現

- 選択

正規表現 X, Y の間に “|” をはさんで並べた X|Y は, X か Y のいずれかが出現することを表す正規表現

例：a|b|c は, 文字 a, 文字 b, 文字 c のどれか 1 つが出現することを表す正規表現

- 繰り返し

正規表現 X の直後に “*” を置いた X* は X が 0 回以上繰り返して出現することを表す正規表現

例：a* は a が 0 回以上連続して出現することを表す正規表現
a, aa, aaa, aaaa, と空文字列を表す

正規表現 X の直後に “+” を置いた X+ は X が 1 回以上繰り返して出現することを表す正規表現

例：a+ は a が 1 回以上連続して出現することを表す正規表現
a, aa, aaa, aaaa, を表す。空文字列は含まない

a* は a が 0 回以上連続して出現することを表すが、aa* と記述すると a が 1 回以上連続して出現することを表すことができ、空文字列は許されず、a+ と記述したのと同じ動作になる。

- ab が連続して出現すること ab, abab, ababab..... を表すには ab* ではなく (ab)* と指定しなければならない (連結よりも、繰り返しのほうが優先度が高いので括弧で優先度を変える)。
- 1 文字目が a または b, 2 文字目が c, 3 文字目が x, または y の並びを表す正規表現は, (a|b)c(x|y) となる (選択よりも連結の方が優先するので括弧で優先度を変える)。括弧を省略すると a, bcx, y のいずれかを探す。
- “[” と “]” で囲まれた文字のうち、いずれか 1 文字が出現することを表す正規表現 (文字クラス) はサポートしていない。次のように “選択” を使って記述することができる。
例：[abc] → (a|b|c) a, b, c のいずれか 1 文字が出現することを表す。

(5) 検索ファイル名の階層表示エリア (詳細版のみ)

- (a) 検索したファイルをすべて階層化して表示する
グローバル検索結果ウィンドウに、検索したファイル名をすべて表示します。
- (b) 文字列を発見したファイルを階層化して表示する
グローバル検索結果ウィンドウに、検索文字列を発見したファイル名をファイル名で階層化して表示します (デフォルト)。
- (c) 文字列を発見したファイルを階層化しないで表示する
グローバル検索結果ウィンドウに、検索文字列を発見したファイル名をファイル名で階層化しないで表示します。

(6) 漢字コード (詳細版のみ)

漢字コードを設定すると、指定したファイルを開いて検索する際に、指定したコードで検索を行います。次の設定が可能です。

漢字コード	内容
Auto Select	自動設定 (デフォルト)
shift JIS	Shift JIS コード
EUC	EUC コード
JIS	JIS コード
UNICODE	Unicode

機能ボタン

ボタン	機能
検索	検索文字列を検索します。 新規のソース編集ウィンドウを表示し、検索結果を順次表示します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
詳細設定 >> 詳細設定 <<	[グローバル検索]ダイアログを更新し、[グローバル検索]ダイアログ（詳細版）になります。 [グローバル検索]ダイアログ（詳細版）の時に選択した場合は、元の[グローバル検索]ダイアログになります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

- 検索結果は、“ファイル名（発見した行番号）：発見した行の内容”の形式で5119文字まで表示できます（5120文字以降の行の内容は表示されません）。

[グローバル置換] ダイアログ

指定したフォルダ上の複数のファイルを対象に、文字列の置換を行います。

グローバル置換を行うと、[グローバル置換ファイル履歴] ウィンドウがオープンし、検索データとして、検索文字列／置換文字列／ファイルの種類／検索フォルダを表示します。また、履歴内容には、検索したファイル名／置換を行った行とその置換前の行の情報も含まれます。

ファイルの検索／置換処理中は、現在検索しているファイル名をダイアログの下部に表示します。

図 6-61 [グローバル置換] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 検索／置換結果の表示
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [検索]メニュー→[グローバル置換...]を選択

各エリアの説明

(1) 文字列指定エリア

(a) 置換前の文字列

置換対象の文字列を指定します。

置換前の文字列としてキャレット位置が含まれる単語を表示します。また、単語がない場合は、直前に検索した文字列を表示します。ただし直前に検索した文字列がない場合、空白とします。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[検索／置換]タブの[範囲指定文字列/キャレット位置の単語を検索対象文字列とする]チェック・ボックスにより検索文字列の設定を変更できます。

(b) 置換後の文字列

置換後の文字列を指定します。

デフォルトでは、置換後の文字列として、直前に置換した文字列を表示します。ただし直前に置換した文字列がない場合、空白とします。

[ツール]メニュー→[環境設定...]→[検索/置換]タブの[範囲指定文字列/キャレット位置の単語を置換後の文字列とする]チェック・ボックスにより検索文字列の設定を変更できます。

(2) ファイル指定エリア

(a) ファイルの種類

検索対象となるファイル名を指定します。

ファイル名には、ワイルド・カードの使用も可能ですが、拡張子に、ワイルド・カードを使用することはできません。また、検索対象ファイルは、各ファイル名をセミコロン“;”で区切ることで複数指定できますが、拡張子がidlのファイルを複数指定することはできません。

ただし、次の拡張子のファイルを指定することはできません。

exe, com, dll, ocx, hlp, fnc, lib, ilb, bkl, bkm, idm, bak, dat, cab, sys, ini, vxd, inf, lzh, zip, sdb, plg, xrf, prn, \$~\$

(b) フォルダ

検索するフォルダを指定します。

直接入力するか、[...]ボタンの選択により[フォルダの選択]ダイアログを表示し、フォルダの変更が可能となります。

フォルダの選択後、[OK]ボタンをクリックするとフォルダを変更します。[キャンセル]ボタンをクリックした場合、フォルダの選択は行いません。

(3) 置換方法指定エリア

(a) サブ・フォルダも探す

チェックすると、指定したフォルダのサブ・フォルダも検索対象とします。このチェック・ボックスは[グローバル検索]ダイアログで設定した状態と連動します。

(b) 単語単位で検索する

チェックすると、単語単位で検索します。このチェック・ボックスは[グローバル検索]ダイアログで設定した状態と連動します。

(c) 正規表現

チェックすると、グローバル検索において正規表現をサポートします。

【正規表現の記法】

記法	意味
文字	文字自身を表す
XY	X,Yがこの順序に連続して出現する
X Y	XまたはYが出現する
X*	Xが0回以上繰り返して出現する
(X)	Xと同じ意味
(X)+	Xが1回以上繰り返して出現する

-メタキャラクタである“*”，“|”，“(”，“)”，“+”の文字は特別な意味を持っているためこの文字を検索したい場合は文字の前に“¥”を付ける。また，“¥”も特別な意味を持っているため“¥”を検索するには“¥¥”を指定する。

なお、他の特殊文字を検索する場合は次のとおり指定する。

Tab 文字 : `\t`

行頭 : `^` (文字列の先頭に指定した場合のみ有効。先頭以外では`^`そのものを検索)

行末 : `$` (文字列の末尾に指定した場合のみ有効。末尾以外では`$`そのものを検索)

- 正規表現の優先度は高いものから挙げると、繰り返し“*”，連結，選択“|”となる。また、丸括弧“(”，“)”で囲むことによって優先順位を変えることができる。

【正規表現の使い方】

- 文字はその文字自身を表す正規表現 (メタキャラクタは除く)

例 : a は文字 a が出現することを表す正規表現

- 連結

正規表現 X, Y を順に並べた XY は X と Y がこの順に出現することを表す正規表現

例 : abc は文字 a, 文字 b, 文字 c, が順に出現することを表す正規表現

- 選択

正規表現 X, Y の間に “|” をはさんで並べた X|Y は, X か Y のいずれかが出現すること表す正規表現

例 : a|b|c は, 文字 a, 文字 b, 文字 c のどれか 1 つが出現することを表す正規表現

- 繰り返し

正規表現 X の直後に “*” を置いた X* は X が 0 回以上繰り返して出現することを表す正規表現

例 : a* は a が 0 回以上連続して出現することを表す正規表現

a, aa, aaa, aaaa, と空文字列を表す

正規表現 X の直後に “+” を置いた X+ は X が 1 回以上繰り返して出現することを表す正規表現

例 : a+ は a が 1 回以上連続して出現することを表す正規表現

a, aa, aaa, aaaa, を表す。空文字列は含まない

a* は a が 0 回以上連続して出現することを表すが, aa* と記述すると a が 1 回以上連続して出現することを表すことができ, 空文字列は許されず, a+ と記述したのと同じ動作になる。

- ab が連続して出現すること ab, abab, ababab..... を表すには ab* ではなく (ab)* と指定しなければならない (連結よりも, 繰り返しの方が優先度が高いので括弧で優先度を変える)。
- 1 文字目が a または b, 2 文字目が c, 3 文字目が x, または y の並びを表す正規表現は, (a|b)c(x|y) となる (選択よりも連結の方が優先するので括弧で優先度を変える)。括弧を省略すると a, bcx, y のいずれかを探す。
- “[” と “]” で囲まれた文字のうち, いずれか 1 文字が出現することを表す正規表現 (文字クラス) はサポートしていない。次のように “選択” を使って記述することができる。
例 : [abc] → (a|b|c) a, b, c のいずれか 1 文字が出現することを表す。

- (d) IDL ファイルの場合, ソース・ファイルごとに確認メッセージを表示する

チェックすると, ソース・ファイルを作成する IDL ファイルを置換する場合, 文字列の発見したソース・ファイル名を Q2205 メッセージで表示します。

[はい] ボタンをクリックした場合, 表示しているソース・ファイルに対して検索 / 置換を行います。

[いいえ] ボタンをクリックした場合, 表示しているソース・ファイルの検索 / 置換をスキップし, 次のソース・ファイルの検索 / 置換を行います。なお, 書き込み禁止のソース・ファイルについては, 検索文字列があった場合もメッセージ・ボックスを表示せずに, 次のソース・ファイルの検索を行います。

- (e) 大文字 / 小文字を区別する

チェックすると, [置換前の文字列] で指定された文字列の大文字 / 小文字がすべて一致する場合のみ検索します。このチェック・ボックスは [グローバル検索] ダイアログで設定した状態と連動します。

(f) 全角／半角を区別する

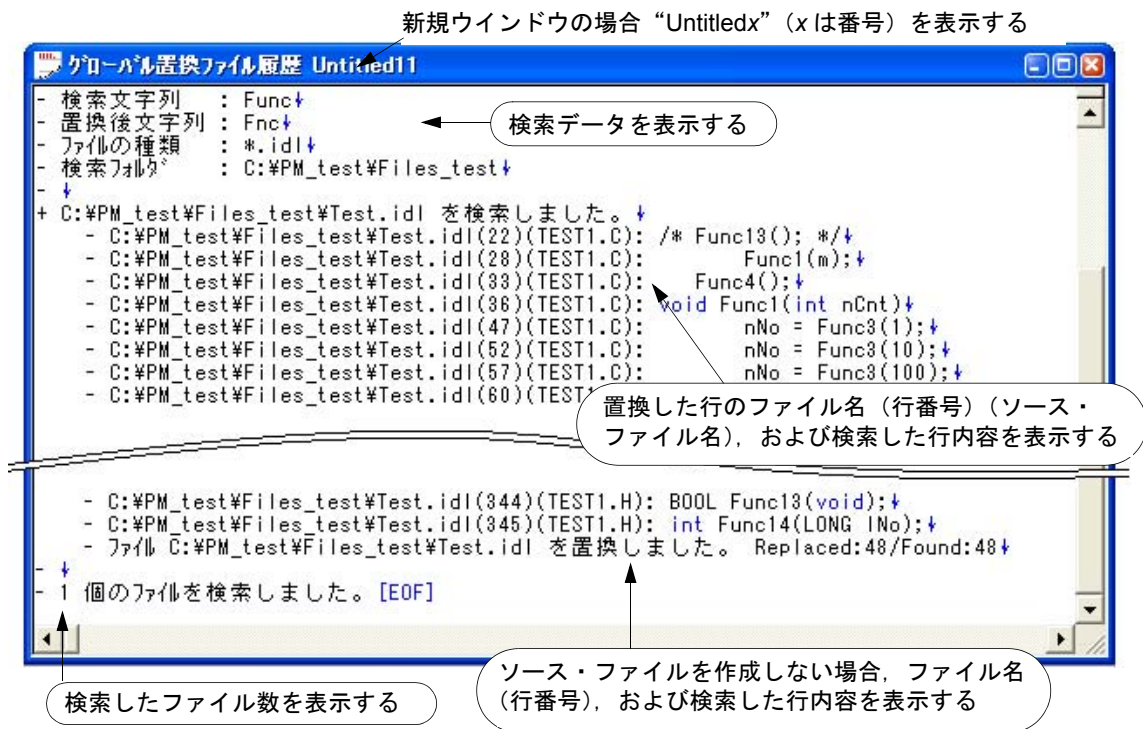
チェックすると、[置換後の文字列]で指定した文字列の全角／半角を区別して検索します。

検索／置換結果の表示

ファイルの検索／置換処理が終了すると、次の[グローバル置換ファイル履歴]ウィンドウを表示します。

履歴の先頭には、検索文字列、置換文字列、ファイルの種類、検索フォルダを表示し、履歴内容としては、検索したファイル名、置換を行った行番号、ソース・ファイル名（ソース・ファイルの場合）、および置換前の行内容が表示されます。

図 6-62 [グローバル置換ファイル履歴]ウィンドウ



検索結果として表示されるメッセージとその意味は次のとおりです。

- ファイル xxxxx のフォルダは無効です。
指定したファイルのフォルダは、無効なフォルダです。
- ファイル xxxxx の拡張子は無効です。
指定したファイルの拡張子は、無効な拡張子です。
- ファイル xxxxx はシステム・ファイルのため無効です。
システム・ファイルを置換しようとしてしました。
- ファイル xxxxx は隠しファイルのため無効です。
隠しファイルを置換しようとしてしました。
- ファイル xxxxx は読み取り専用のため無効です。
指定したファイルは、読み取り専用ファイルのため置換できません。
- ファイル xxxxx はバイナリ・ファイルのため無効です。
指定したファイルは、バイナリ・ファイルのため置換できません。
- ファイル xxxxx を置換しました。 Replaced:xx/Found: yy
指定したファイルで置換を行い保存を行いました。xxは置換した個数を示し、yyは発見した個数を示します。

- ファイル xxxxx を閉じました。 Found: xx
指定したファイルを閉じました。xx は、見つかった検索文字列数を示します。
- 編集ファイル xxxxx の置換をスキップしました。
指定したファイルは、編集であり、検索をスキップしました。編集中のファイルに対して、検索を行うかを聞かれた際に [いいえ] ボタンをクリックすると、このメッセージを履歴ウィンドウに表示します。
- 編集ファイル xxxxx に文字列が見つかりません。
指定した編集中のファイルに検索文字列が見つかりませんでした。
- 編集ファイル xxxxx の処理を中断しました。 Found:xx
指定した編集中のファイルの検索を中断しました。xx は、発見した文字列の個数を示します。
- 編集ファイル xxxxx を置換しました。 Replaced:xx/Found:yy
指定した編集中のファイルを置換しました。xx は置換した文字列の個数を示し、yy は発見した文字列の個数を示します。
- 編集ファイル xxxxx を検索しました。 Found:xx
指定した編集中のファイルで文字列を検索しました。xx は、発見した文字列の個数を示します。[次を検索] ボタンをクリックし、編集中のファイルの終わりまで検索した場合、このメッセージを表示します。

機能ボタン

ボタン	機能
次を検索	文字列を発見するまで検索を行います。文字列を発見するまでは [次を検索] ボタンはグレー表示となります。
置換して次に	発見した文字列を置換後の文字列に置き換え、次の文字列を発見するまで検索します。文字列を発見するまでは [次を検索] ボタンはグレー表示となります。
現在ファイル全置換	検索中ウィンドウの範囲選択している検索文字列以降を確認なしにすべて置きかえます。検索中ファイルの検索が終了すれば別のファイルの検索を行います。
全ファイル置換	グローバル置換の危険性を知らせるための Q2204 メッセージを表示します。 [はい] ボタンをクリックした場合、指定したフォルダの指定したファイルの種類に対してユーザに確認を行うことなく、グローバル置換を行います。
閉じる	[グローバル置換] ダイアログを閉じます。[次を検索]、[置換して次に] ボタンをクリックし、文字列を検索中の場合、[閉じる] ボタンのキャプションは [中止] になります。
中止	検索を中止します。検索を中止した場合、[中止] ボタンのキャプションは、[閉じる] になります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

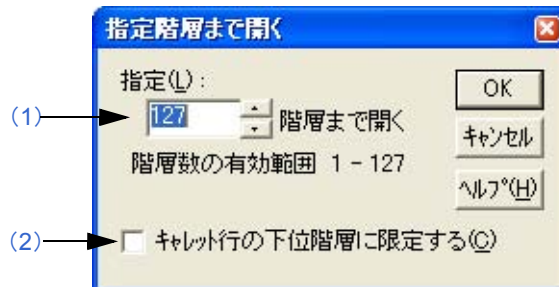
- “次を検索” および “置換して次に” を行うと、文字列が見つかったファイルが **編集ウィンドウ** に表示され、見つかった文字列は範囲指定されています。この状態で、ボタンをクリックすることにより、置換のスキップ、実行、中止を行います。
- 文字列の置換を行ったファイルは、同じフォルダにバックアップ・ファイルが作成されます。バックアップ・ファイルの拡張子は、[ツール]メニュー→[環境設定...] - [ファイル] タブで、[バックアップ・ファイルの拡張子] に設定した種類となります。[バックアップ・ファイルを作成する] のチェックに関わらず、必ずバックアップ・ファイルが作成されます。

- 編集中のファイルを検索した場合、置換を確認するメッセージが表示されます。[はい] ボタンをクリックすると、編集中のファイルに対して置換を行います。この際、ファイルの保存は行いません。
- IDL ファイルを置換して保存すると、関連するソース・ファイルの内容も同じ内容で保存されます。
- 読み込み専用のソース・ファイル行は置換されません。読み込み専用のソース・ファイルは、検索がスキップされ、次のソース・ファイルが検索されます。
- 次のファイルは検索されません。
 - Read Only, System, Hidden 属性のファイル
 - バイナリ・ファイル（内容に NULL が含まれる）
 - 禁止拡張子（「[\(a\) ファイルの種類](#)」参照）のファイル
 - 書き込みモードで開けないファイル
- 次のフォルダは検索されません。
 - Windows のフォルダとそのサブ・フォルダ

[指定階層まで開く] ダイアログ

指定した階層数まで、階層を開きます。

図 6-63 [指定階層まで開く] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [階層] メニュー → [指定階層まで開く ...] を選択

各エリアの説明

(1) 指定

開く階層数を指定します。指定可能な値は、1～127です。

デフォルトでは、前回の設定値が表示されます。初めて設定する場合、127となります。

(2) キャレット行の下位階層に限定する

チェックした場合、キャレット行の下位階層のみに限定して開きます。

チェックしない場合、すべての指定した下位階層まで開きます（デフォルト）。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定した階層数まで開きます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

- 指定した階層数以上の階層が、すでに開いている場合は何も変化しません。ただし、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[階層]タブで、[指定階層で階層を展開するとき、指定階層以上で開いている階層はたたむ]をチェックした場合、指定階層より下位の階層はたたまれます。
- 現在のキャレット位置が指定した階層より下位である場合、次の2つの設定により、キャレット位置の更新内容が変わります。

A : このダイアログ上の [キャレット行の下位階層に限定する] チェック・ボックスの設定

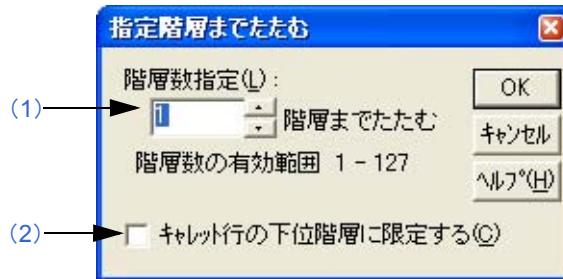
B : [ツール]メニュー→[環境設定...]→[階層]タブで、[指定階層で階層を展開するとき、指定階層以上で開いている階層はたたむ] チェック・ボックスの設定

A の設定	B の設定	キャレット位置の移動
オフ	オフ	現在のキャレットが含まれる指定階層の見出し行に、キャレット位置が移動します。
オフ	オン	現在のキャレットが含まれる指定階層の見出し行に、キャレット位置が移動します。さらに、指定階層より下位の階層はたたまれます。
オン	オフ	現在のキャレットが含まれる指定階層の見出し行に、キャレット位置が移動します。
オン	オン	キャレット位置は移動されず、キャレット位置以下の階層はたたまれます。

[指定階層までたたむ] ダイアログ

指定した階層数まで、階層をたたみます。

図 6-64 [指定階層までたたむ] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [階層]メニュー→[指定階層までたたむ...]を選択

各エリアの説明

(1) 階層数指定

たたむ階層数を指定します。指定可能な値は、1～127です。デフォルトでは、前回の設定値が表示されます。初めて設定する場合、1となります。

(2) キャレット行の下位階層に限定する

チェックした場合、キャレットが位置する行の指定する下位階層のみをたたみます。チェックしない場合、すべての指定した下位階層をたたみます。

機能ボタン

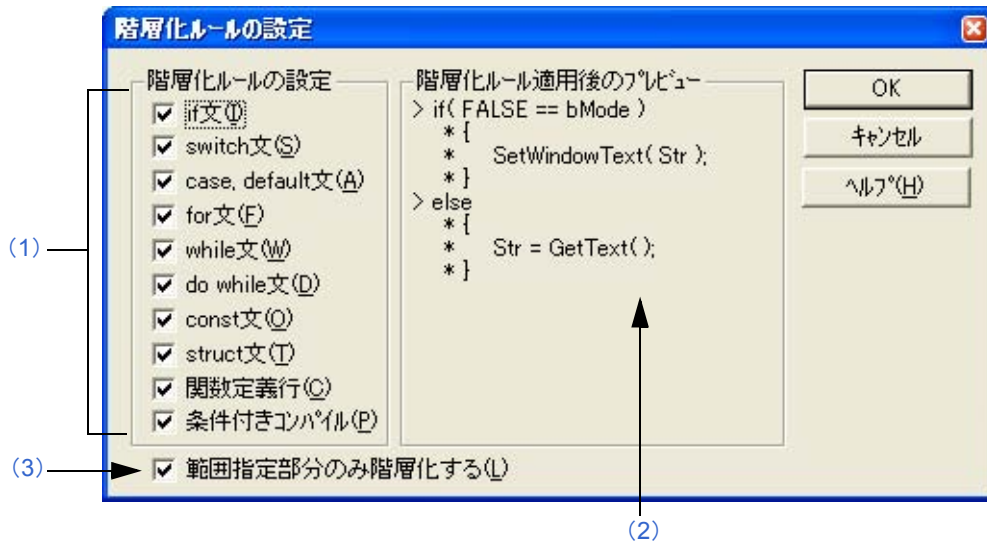
ボタン	機能
OK	指定した階層数までたたみます。 ただし、すでに、指定階層以上の階層を閉じている場合は、何も変化しません。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[階層化ルールの設定] ダイアログ

編集ウィンドウの内容を階層化ルールに従い階層化します。

または、ファイル読み込み時の階層化ルールを設定します。デフォルトでは、すべての項目がチェックされています。

図 6-65 [階層化ルールの設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [階層]メニュー→[文書を階層化する...]を選択
- [ファイルを開く]ダイアログ→[階層化ルール...]ボタンをクリック
- [挿入読み込み]ダイアログ→[階層化ルール...]ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 階層化ルールの設定

階層化する項目を選択します。デフォルトではすべての項目がチェックされています。各項目の階層化ルールは次のとおりです。

(a) if文

if文、else if文の場合、ifの“)”の次行から“)”までを下位階層として設定します。ただし、“)”の後ろに引き続きソースが記述されている場合、“)”の前の行までを下位階層とします。

- (b) switch 文
switch 文の内容を下位階層にします。
- (c) case, default 文
case 文の次行から次の case 文, default 文までを下位階層にします。default 文の場合, “}” の前の行までを下位階層とします。
- (d) for 文
for 文の “)” の次行から “}” までを下位階層にします。
- (e) while 文
while 文の “)” の次行から “}” までを下位階層にします。
- (f) do while 文
do 文の次の行から while 文の行末までを下位階層とします。
- (g) const 文
const 文の次の行から下位階層とします。
- (h) struct 文
struct 文の次の行から下位階層とします。
- (i) 関数定義行
関数宣言の次の行から関数の最後までを下位階層とします。
- (j) 条件付コンパイル
条件付きコンパイル命令の次の行から, 次の条件付きコンパイル命令の前の行まで, または #endif の 1 つ前の行までを下位階層とします。
ただし, #elseif は階層化されません。#elif を使用してください。

(2) 階層化ルール適用後のプレビュー

[階層化ルールの設定] で現在選択している項目について, 階層化時にどのように階層化するかサンプルを表示します。

(3) 範囲指定部分のみ階層化する

このチェック・ボックスは, [階層] メニュー → [文書を階層化する ...] を選択してオープンした場合のみ, 表示されます。

[編集ウィンドウ](#)において範囲指定後, [文書を階層化する ...] を実行した場合, このチェック・ボックスが有効になります。チェックしない場合は, 選択範囲のみ階層化します。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	設定した階層化ルールに従い, 編集ウィンドウ の内容を階層化します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

- 階層化すると、アンドウ・バッファがクリアされます。したがって、階層化前の状態に戻せません。
- [範囲指定部分のみ階層化する] をチェックした場合、次の注意が必要です。
 - 命令の次にある “{” から “}” までを範囲指定していない場合、階層化されません。

```

1: void SetStatus( int State)
2: {
3:     if( State > 0x50 ){
4:         m_nState = State;
5:     }
6:     else if(
7:         State != OFF )
8:     {
9:         m_nState = OFF;
10:    }else{
11:        m_nState = NULL;
12:    }
13:}

```

この場合、5行目の “}” までを範囲指定をしなければ、“if” 文は階層化されません。

- case, default 文に対応する switch 文を範囲指定していない場合、階層化されません。

```

1: void SetStatus( int State)
2: {
3:     switch(State) {
4:         case 0x50 :
5:             m_nState = State;
6:             break;
7:         case OFF :
8:             m_nState = OFF;
9:
10:        default:
11:            m_nState = NULL;
12:    }
13: }

```

この場合、3行目の “switch” 文から範囲指定をしなければ、“case” 文は階層化されません。

- case, default 文の区切りまでを範囲指定していない場合、階層化されません。

```

1: void SetStatus( int State)
2: {
3:     switch(State) {
4:         case 0x50 :
5:             m_nState = State;
6:             break;
7:         case OFF :
8:             m_nState = OFF;
9:
10:        default:
11:            m_nState = NULL;
12:    }
13: }

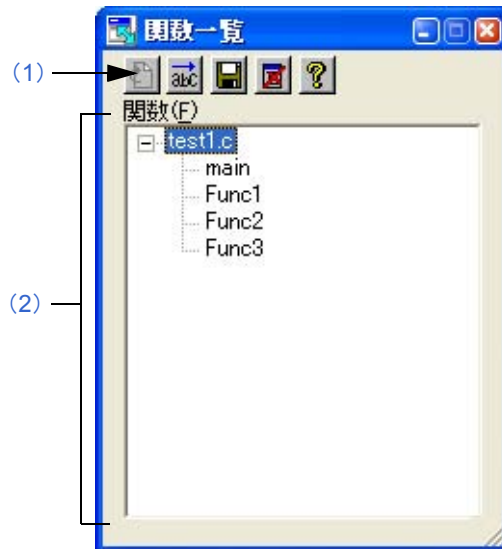
```

この場合、4行目の “case” 文は階層化されますが、7行目の “case” 文は階層化されません。

[関数一覧] ダイアログ

アクティブな編集ウィンドウの関数一覧を表示します。複数個の編集ウィンドウを表示している場合、アクティブなウィンドウを変更後、[関数一覧] ダイアログ内のどこかをクリックすると、関数一覧が更新されます。

図 6-66 [関数一覧] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。






- オープン方法
- 各エリアの説明
- 注意事項

オープン方法

- [表示]メニュー→[関数一覧...]を選択

各エリアの説明

(1) ボタン

ボタン	機能
	関数一覧エリアで選択している関数に対し、 編集ウィンドウ 内の関数定義行へジャンプします。関数名のダブル・クリックと同じ動作です。関数一覧エリアで関数名を選択していない場合、このボタンは無効です。
	ソース・ファイルごとに、 編集ウィンドウ の先頭から検索順に表示されている関数を、名前の昇順に表示し直します。名前の昇順に表示されている場合、検索順に表示し直します。デフォルトでは、検索順に表示されています。
	[関数一覧の保存]ダイアログが表示され、関数一覧をファイルに保存できます。
	このダイアログを閉じます。
	ヘルプを表示します。

(2) 関数一覧エリア

現在アクティブな**編集ウィンドウ**の関数一覧を表示します。

編集ウィンドウ上の関数名を文字列範囲指定したのち、このダイアログをオープンした場合、またはアクティブにした場合は、該当する関数名が選択状態で表示されます。

また、関数一覧内の関数を選択したのち、マウス左ボタンでダブル・クリックするか、またはジャンプボタンをクリックすることにより、関数を宣言している行を**編集ウィンドウ**に表示します。

なお、このエリアには、アクティブな**編集ウィンドウ**内にある関数の一覧を表示するため、複数の**編集ウィンドウ**がオープンしている場合、フォーカスが移動するたびに関数一覧の内容は更新されます。

注意事項

- #ifdef の値により関数名が異なる場合、関数名が認識されません。

```
void
#ifdef ENGLISH
    FncEng
#else
    FncJapan
#endif
(int Cnt, int Mode)
{ ... }
```

- “¥” により関数名が2行に渡っている場合、関数名が認識されません。

```
void Function      ¥
Name
(int Cnt, int Mode)
{ ... }
```

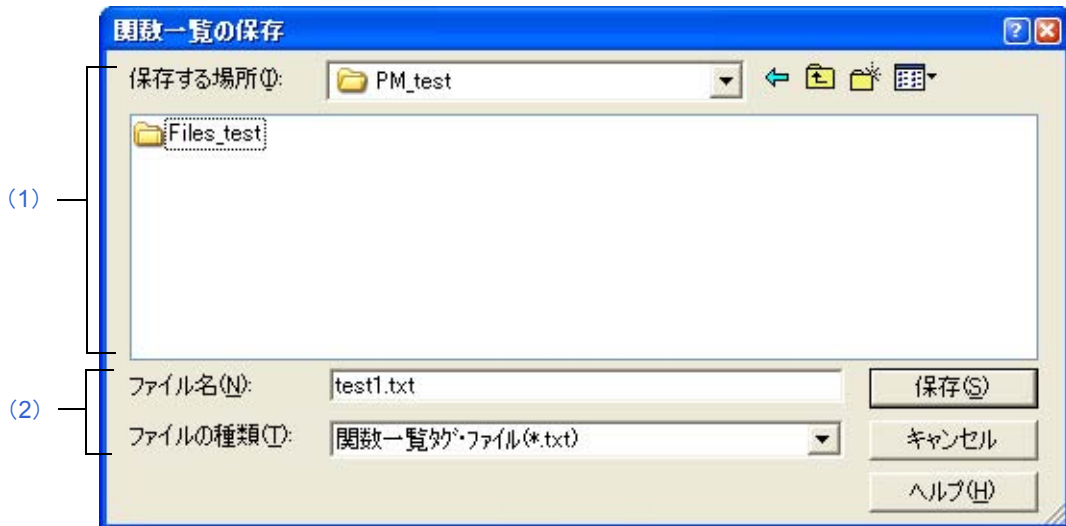
- 関数名と “{” の間に変数宣言を行った場合、関数名が認識されません。

```
#ifdef ENGLISH
int main( argc, argv[])
int argr;
char* argv[];
{
}
```


[関数一覧の保存] ダイアログ

[関数一覧] ダイアログで表示している関数一覧を保存します。

図 6-67 [関数一覧の保存] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [関数一覧] ダイアログで、[保存] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 保存する場所

ファイルを保存するフォルダを指定します。デフォルトでは、カレント・フォルダが表示されます。

(2) ファイル名, ファイルの種類

(a) ファイル名

保存するファイル名を指定します。テキスト・ボックスに直接入力するか、下部のリストから選択します。ただし、[ファイル名]に、“txt” および “csv” 以外の拡張子のファイル名を指定することはできません。

(b) ファイルの種類

保存するファイルの種類（拡張子）を指定します。

ファイルの種類は、ドロップダウン・リストから選択します。ドロップダウン・リストでは、[関数一覧タグ・ファイル (*.txt)]、または[関数一覧 CSV ファイル (*.csv)] が選択できます。

[関数一覧タグ・ファイル] を選択した場合、関数一覧を、タグ・ジャンプ形式のファイルに保存します。

[関数一覧 CSV ファイル] を選択した場合、関数一覧を CSV 形式のファイルに保存します。CSV 形式のファイルは、表計算ソフトなどで読み込み可能です。

デフォルトでは、[関数一覧タグ・ファイル] が選択されています。

(タグ・ファイル)

```
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C(80): Soushin_Kakunin
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C(152): Pantilt
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C(316): Test_Yamanashi
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C(328): Send_Test
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C(360): Pan_Test
* F:¥sample¥SRC¥RECEVE.C(16): Jyushin
```

↑
関数定義されているファイル名（定義行数）：関数名

(CSV ファイル)

```
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C, 24, Soushin
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C, 80, Soushin_Kakunin
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C, 152, Pantilt
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C, 316, Test_Yamanashi
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C, 328, Send_Test
* F:¥sample¥SRC¥SEND.C, 360, Pan_Test
* F:¥sample¥SRC¥RECEVE.C, 16, Jyushin
```

↑
関数定義されているファイル名，定義行数，関数名

機能ボタン

ボタン	機能
保存	関数一覧を保存します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します

[階層一覧] ダイアログ

階層一覧を表示します。

図 6-68 [階層一覧] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [表示]メニュー→[階層一覧...]を選択

各エリアの説明

(1) 階層

下位をもつ行のテキスト内容と行番号を表示します。また、第1階層でファイル名をもつ場合は、ファイル名、テキスト内容、行番号を表示します。

"+"をクリックすると、その行の下位階層行の一覧が表示されます。"- "をクリックすると、下位階層行の一覧が非表示になります。

また、階層をダブル・クリック、または階層を選択して[ジャンプ]ボタンをクリックすると、編集ウインドウ内の選択した階層にジャンプします。

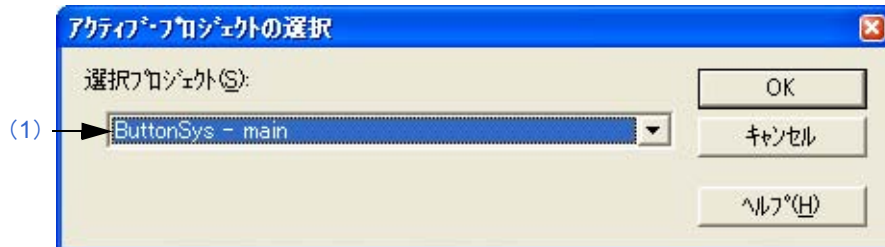
機能ボタン

ボタン	機能
ジャンプ	指定した階層へ移動します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します

[アクティブ・プロジェクトの選択] ダイアログ

アクティブにするプロジェクトの選択をします。

図 6-69 [アクティブ・プロジェクトの選択] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [プロジェクト]メニュー→[アクティブ・プロジェクトの選択 ...]を選択

各エリアの説明

(1) 選択プロジェクト

現在選択中のプロジェクト名が表示されます。

アクティブにしたいプロジェクトを変更する場合は、ドロップダウン・リストより選択します。ドロップダウン・リストには、現在登録されているプロジェクト名のすべてが表示されます。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	選択したプロジェクトをアクティブにします。
キャンセル	設定内容が無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[プロジェクトの挿入] ダイアログ

プロジェクト・グループに既存のプロジェクトを挿入します。
ここで追加されたプロジェクトが、アクティブ・プロジェクトとなります。

図 6-70 [プロジェクトの挿入] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [プロジェクト]メニュー→[プロジェクトの挿入...]を選択
- プロジェクト・ウィンドウ上のソース・ファイルを選択→マウス右ボタンをクリック→[プロジェクトの挿入]メニューを選択

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

挿入するプロジェクト・ファイルがあるドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。

(2) ファイル名, ファイルの種類

挿入するプロジェクト・ファイル名を指定します。プロジェクト・ファイルの拡張子は、“prj”です。“prj”以外の拡張子のファイルは指定できません。

(3) プロジェクト・グループ名

ドロップダウン・リストにより、プロジェクト・グループ名を選択して、既存のプロジェクト・グループへの追加を行います。1つのプロジェクト・グループに登録可能なプロジェクト数は、20個までです。

また、新規にプロジェクト・グループを追加する場合は、コンボ・ボックスに直接追加したいグループ名を入力してください。

機能ボタン

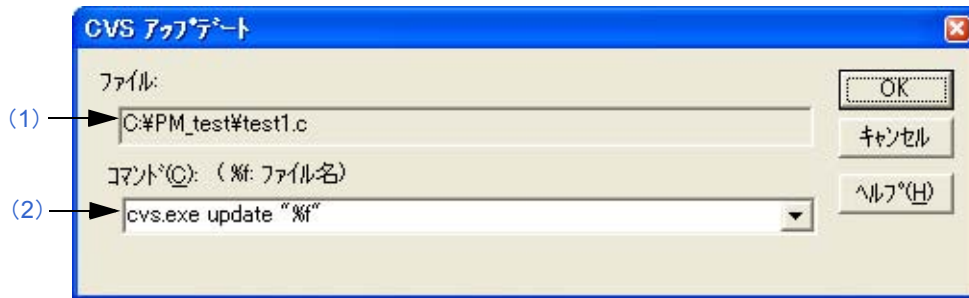
ボタン	機能
開く	選択したプロジェクトを開いているワークスペースに挿入します。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[CVS アップデート] ダイアログ

選択しているファイルに対して CVS のアップ・デート・コマンドを実行し、レポジトリに登録されているファイルを取得します。

実行結果は、[アウトプット・ウィンドウ](#)に表示されます。

図 6-71 [CVS アップデート] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [プロジェクト]メニュー→[CVS アップデート]を選択

各エリアの説明

(1) ファイル

コマンドを実行するファイル名を表示します。
実行するファイルは、次のように決定されます。

【プロジェクト・ウィンドウがアクティブな場合】

選択しているソース・ファイル名/関数名/インクルード・ファイル名/プロジェクト関連ファイル名/その他のファイル名

【編集ウィンドウがアクティブな場合】

[編集ウィンドウ](#)のファイル名/IDL ファイルの場合、キャレット位置の生成ファイル名

(2) コマンド

実行するコマンドを表示します。%f は、コマンドを実行する選択中のファイル名を意味します。
CVS 関係の詳細なオプションを設定したい場合は、ここでコマンド・オプションを追加します。追加したコマンド・オプションは、CVS コマンド実行時にそのまま実行されます。
なお、実行されたコマンドは、最大 10 個まで記憶され、リストから選択することができます。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したコマンドを実行します。 実行結果は、 アウトプット・ウィンドウ に表示されます。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

[プロジェクト]メニュー→[CVS アップデート]を実行するには、事前に次の処理が必要となります。

- cvs.exe が存在するフォルダが、Windows の PATH 変数で設定されている。
- CVS のレポジトリが設定されている。
- CVS サーバを使用している場合、ログインされている状態である。

[CVS コミット] ダイアログ

選択しているファイルに対して、CVS コミット・コマンドを実行し、レポジトリに反映します。実行結果は、[アウトプット・ウィンドウ](#)に表示されます。

図 6-72 [CVS コミット] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [プロジェクト]メニュー→[CVS コミット]を選択

各エリアの説明

(1) コミット・ファイル

コマンドを実行するファイル名を表示します。
実行するファイルは、次のように決定されます。

【プロジェクト・ウィンドウがアクティブな場合】

選択しているソース・ファイル名／関数名／インクルード・ファイル名／プロジェクト関連ファイル名／その他のファイル名

【編集ウィンドウがアクティブな場合】

編集ウィンドウのファイル名／IDL ファイルの場合、キャレット位置の生成ファイル名

(2) ログ・メッセージ

コミットする際に、付加するログ・メッセージを入力します。

(3) コマンド

実行するコマンドを表示します。%f は、コマンドを実行する選択中のファイル名を意味します。

CVS 関係の詳細なオプションを設定したい場合は、ここでコマンド・オプションを追加します。追加したコマンド・オプションは、CVS コマンド実行時にそのまま実行されます。

なお、実行されたコマンドは、最大 10 個まで記憶され、リストから選択することができます。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したコマンドを実行します。 実行結果は、 アウトプット・ウィンドウ に表示されます。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

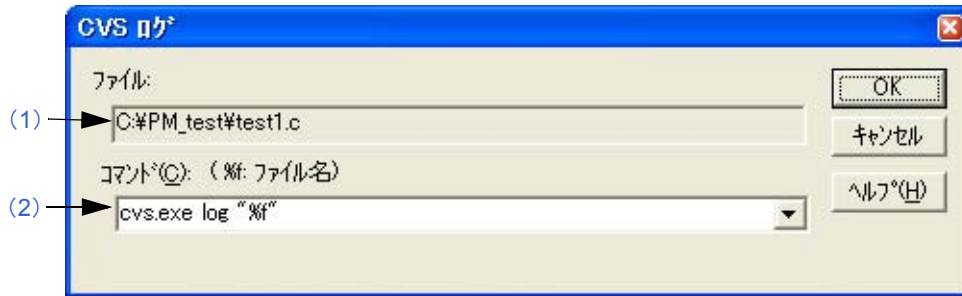
[プロジェクト]メニュー→[CVS コミット]を実行するには、事前に次の処理が必要となります。

- cvs.exe が存在するフォルダが、Windows の PATH 変数で設定されている。
- CVS のレポジトリが設定されている。
- CVS サーバを使用している場合、ログインされている状態である。

[CVS ログ] ダイアログ

選択しているファイルに対して、CVS ログ・コマンドを実行し、ファイル内のログ内容をアウトプット・ウィンドウに表示します。

図 6-73 [CVS ログ] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [プロジェクト]メニュー→[CVS ログ]を選択

各エリアの説明

(1) ファイル

コマンドを実行するファイル名を表示します。
実行するファイルは、次のように決定されます。

【プロジェクト・ウィンドウがアクティブな場合】

選択しているソース・ファイル名／関数名／インクルード・ファイル名／プロジェクト関連ファイル名／その他のファイル名

【編集ウィンドウがアクティブな場合】

編集ウィンドウのファイル名／IDL ファイルの場合、キャレット位置の生成ファイル名

(2) コマンド

実行するコマンドを表示します。%f は、コマンドを実行する選択中のファイル名を意味します。
CVS 関係の詳細なオプションを設定したい場合は、ここでコマンド・オプションを追加します。追加したコマンド・オプションは、CVS コマンド実行時にそのまま実行されます。
なお、実行されたコマンドは、最大 10 個まで記憶され、リストから選択することができます。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したコマンドを実行します。 実行結果は、 アウトプット・ウィンドウ に表示されます。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

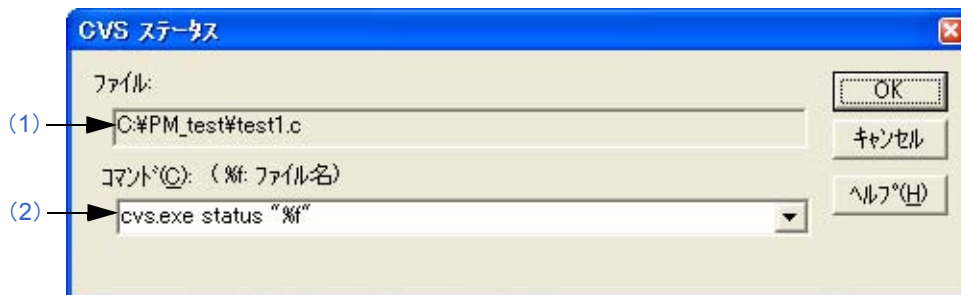
[プロジェクト]メニュー→[CVS ログ]を実行するには、事前に次の処理が必要となります。

- cvs.exe が存在するフォルダが、Windows の PATH 変数で設定されている。
- CVS のレポジトリが設定されている。
- CVS サーバを使用している場合、ログインされている状態である。

[CVS ステータス] ダイアログ

選択しているファイルに対して、CVS ステータス・コマンドを実行し、ファイルのステータスを[アウトプット・ウィンドウ](#)に表示します。

図 6-74 [CVS ステータス] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [プロジェクト]メニュー→[CVS ステータス]を選択

各エリアの説明

(1) ファイル

コマンドを実行するファイル名を表示します。
実行するファイルは、次のように決定されます。

【プロジェクト・ウィンドウがアクティブな場合】

選択しているソース・ファイル名→関数名→インクルード・ファイル名→プロジェクト関連ファイル名→その他のファイル名

【編集ウィンドウがアクティブな場合】

編集ウィンドウのファイル名 / IDL ファイルの場合、キャレット位置の生成ファイル名

(2) コマンド

実行するコマンドを表示します。%f は、コマンドを実行する選択中のファイル名を意味します。
CVS 関係の詳細なオプションを設定したい場合は、ここでコマンド・オプションを追加します。追加したコマンド・オプションは、CVS コマンド実行時にそのまま実行されます。
なお、実行されたコマンドは、最大 10 個まで記憶され、リストから選択することができます。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したコマンドを実行します。 実行結果は、 アウトプット・ウィンドウ に表示されます。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

[プロジェクト]メニュー→[CVS ステータス]を実行するには、事前に次の処理が必要となります。

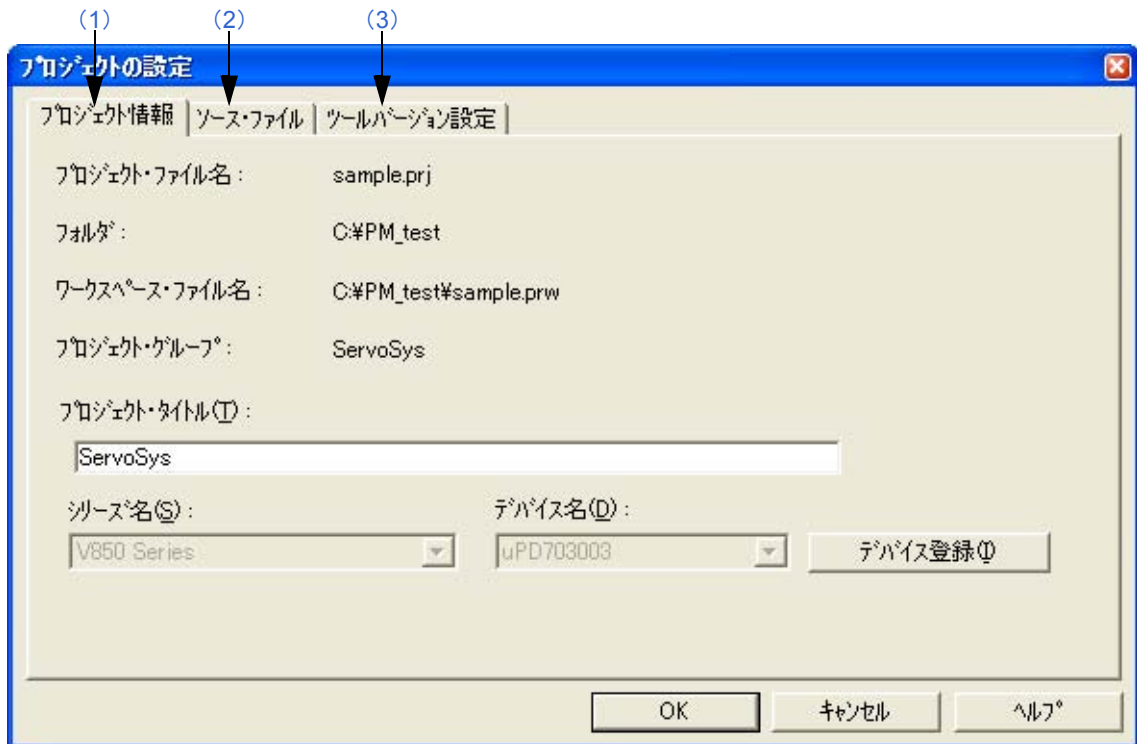
- cvs.exe が存在するフォルダが、Windows の PATH 変数で設定されている。
- CVS のレポジトリが設定されている。
- CVS サーバを使用している場合、ログインされている状態である。

[プロジェクトの設定] ダイアログ

現在のアクティブ・プロジェクトの情報を設定します。各情報の設定は次のタブ上で行います。

- (1) [プロジェクト情報] タブ
- (2) [ソース・ファイル] タブ
- (3) [ツールバージョン設定] タブ

図 6-75 [プロジェクトの設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各タブの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [プロジェクト]メニュー→[プロジェクトの設定 ...]を選択
- プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト名を選択→マウス右ボタンをクリック→[プロジェクトの設定]メニューを選択

各タブの説明

(1) [プロジェクト情報] タブ

現在のアクティブ・プロジェクトの各情報の確認、およびプロジェクト・タイトル/デバイス名の変更を行います。

図 6-76 [プロジェクトの設定] ダイアログ [プロジェクトの情報] タブ



(a) 情報確認エリア

- プロジェクト・ファイル名
アクティブ・プロジェクトのプロジェクト・ファイル名を表示します。
- フォルダ
プロジェクト・ファイルで設定しているプロジェクト・フォルダを表示します。
- ワークスペース・ファイル名
アクティブ・プロジェクトが属するワークスペース・ファイル名を絶対パスで表示します。
- プロジェクト・グループ
アクティブ・プロジェクトが属するプロジェクト・グループ名を表示します。
なお、プロジェクト・グループ名を変更する場合は、[プロジェクト・ウィンドウ](#)上において、プロジェクト・グループを選択したのち、マウス右ボタンによる[プロジェクト・グループ名の変更...]の選択により行ってください。

(b) プロジェクト・タイトル

[プロジェクト・ウィンドウ](#)で表示するプロジェクト・タイトルを表示します。
ここでタイトル内容を修正した場合、修正内容が[プロジェクト・ウィンドウ](#)に反映されます。
なお、プロジェクト・タイトルには 127 文字まで入力できます。

(c) マイクロコントローラ名、デバイス名

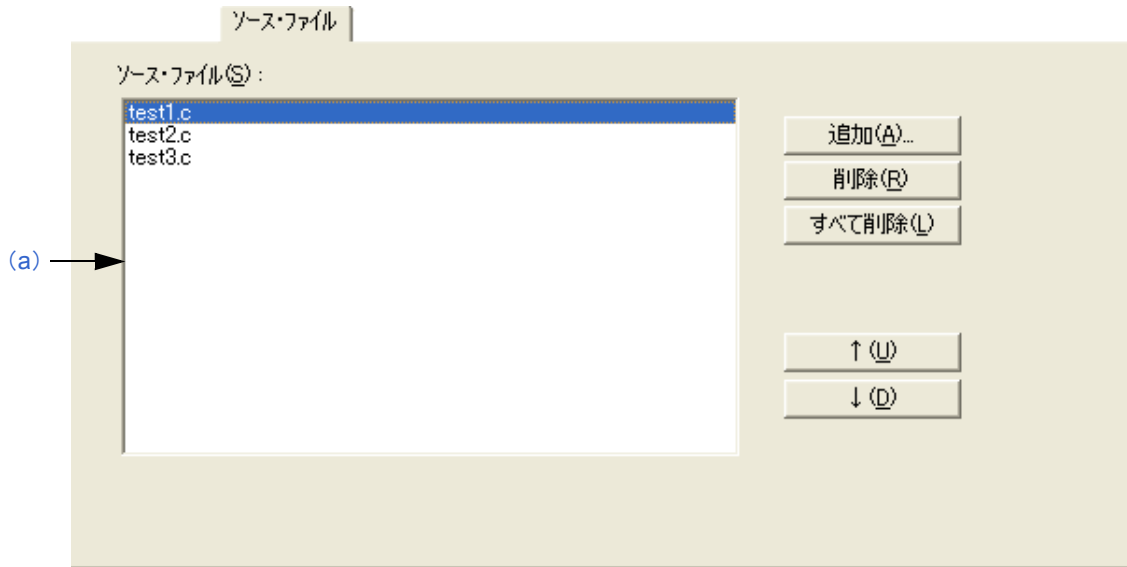
使用するデバイスのマイクロコントローラ名、およびデバイス名を表示します。
変更する場合は、ドロップダウン・リストより選択します。
使用するデバイスがインストールされていない場合は、表示されるデバイス名の下に次のメッセージを表示します。
“選択中のデバイス・ファイルは登録されていません。”

この場合、[デバイス登録] ボタンをクリックすることにより、新規のデバイス・ファイルを登録するためのデバイス・インストーラが起動します。
ただし、所属するプロジェクト・グループに複数個のプロジェクトが登録されている場合、またはデバッガ/シミュレータが起動中の場合は、このドロップダウン・リストは無効となります。

(2) [ソース・ファイル] タブ

現在のアクティブ・プロジェクトのソース・ファイル情報の設定を行います。

図 6-77 [プロジェクトの設定] ダイアログ [ソース・ファイル] タブ



(a) ソース・ファイル

アクティブ・プロジェクトで設定しているソース・ファイル名をビルドする順番に、プロジェクト・フォルダを起点とする相対パスを含めて表示します。

登録可能なソース・ファイル数は、2048 個までです。

ボタン	機能
追加 ...	[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログを表示して、ソース・ファイルを追加します。
削除	選択しているソース・ファイルを削除します。
すべて削除	ソース・ファイル一覧に表示されているソース・ファイルをすべて削除します。
↑	選択しているソース・ファイルを1つ上に移動します。
↓	選択しているソース・ファイルを1つ下に移動します。

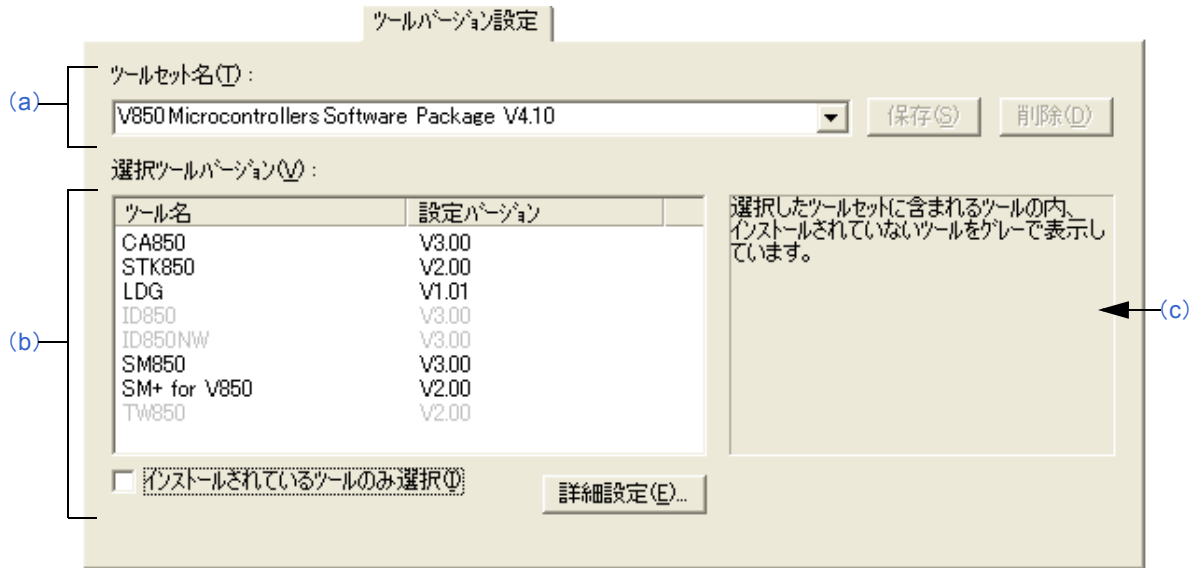
【注意】

- コンパイラ、アセンブラをインストールしていない場合、ソース・ファイルを追加することはできません。
- メイクは“ソース・ファイル一覧”で表示されている順番で、プログラム・タイプに従いアセンブル/コンパイルなどが行われます。メイク実行時におけるソース・ファイルのパス名は、プロジェクト・フォルダのパスを使用します。また、リンクの順番は、使用するマイクロコントローラのリンクに依存します。

(3) [ツールバージョン設定] タブ

現在のアクティブ・プロジェクトにおいて、使用するツールの設定を行います。

図 6-78 [プロジェクトの設定] ダイアログ [ツールバージョン設定] タブ



(a) ツールセット名

使用する各ツールとそのバージョンの組み合わせをひとまとめにしたものをツールセットとし、そのツールセット名を指定します。

ドロップダウン・リストには、ユーザが以前に保存したツールセットと推奨するツールセット（78K マイクロコントローラの場合は“78Kx Microcontrollers Software Package Vx.xx”，V850 マイクロコントローラの場合は“V850 Microcontrollers Software Package Vx.xx”）が表示されます。

デフォルトでは、アクティブ・プロジェクトのツールセット名が表示されます。

なお、[詳細設定] ボタンのクリックにより、[ツールバージョン詳細設定] ダイアログでツールセットを変更した場合は、ツールセット名の先頭に“(変更)”が付加されます。既にそのツールセット名が存在する場合、先頭に付加される文字は“(変更 01)”～“(変更 99)”となり、それ以降はツールセット名が“ユーザセット”となります。

ボタン	機能
保存	現在、[ツールセット名] で選択しているツールセットをファイルに保存します。 ただし、ツールセット・ファイルが読み込み専用になっている場合、このボタンは無効（グレー表示）となります。
削除	[ツールセット名] で選択しているツールセット名を削除します（対応するツールセット・ファイルを削除します）。 ただし、選択しているツールセットに対応するツールセット・ファイルが存在しない、またはツールセット・ファイルが読み込み専用の場合、このボタンは無効（グレー表示）となります。

【備考】

保存時のファイル名は、“ツールセット名.拡張子”となります。

拡張子は、使用するマイクロコントローラによって次のようになります。

- 78K0R マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：t0r
- 78K0 マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：tk0
- 78K0S マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：t0s
- V850 マイクロコントローラ（ライブラリを含む）：t85

ファイルの保存場所は、全ユーザがアクセス可能な“Application Data”フォルダ下の“NEC Electronics\PM+”となり、このフォルダが存在しない場合は、インストール時にフォルダが作成されます（例：Windows XP の場合、“C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\NEC Electronics\PM+”）。

(b) 選択ツールバージョン

使用する各ツールとそのバージョンの組み合わせを一覧表示します。

組み合わせを変更する場合は、[詳細設定...] ボタンをクリックすることによりオープンする [[ツールバージョン詳細設定](#)] ダイアログにより、使用するツールとそのバージョンの選択を行います。

[ツール名セット] でツールセット名を選択すると、選択したツールセットの組み合わせが表示されます。

デフォルトでは、アクティブ・プロジェクトで使用している各ツールとそのバージョンが表示されます。

- ツール名

インストールされているツール、および選択したツールセットに含まれるツール（インストールされていないツールを含む）のツール名をすべて表示します。

ただし、インストールされていないツールについてはグレー表示されます。

- 設定バージョン

選択したツールセットで指定されているバージョンを表示します。

ただし、インストールされていないツールについてはグレー表示、選択したツールセットでバージョンが指定されていないツールについては“未使用”が表示されます。

- インストールされているツールのみ選択

選択されているツールセット内で、インストールされていないツールをリストから削除します。

[選択ツールバージョン] にグレー表示がある場合、このチェック・ボックスをチェックすることでリストから削除されます。

リストから削除されたツールセットは、セット名の先頭に“(選択 01)”の文字が付与されます。

インストールされていないツールがない場合、このチェック・ボックスは無効となります。

デフォルトでは、チェックされません。

(c) 簡易説明エリア

[選択ツールバージョン] にグレー表示の項目がある場合、メッセージを表示します。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	現在アクティブなプロジェクトのプロジェクト情報を設定します。
キャンセル	ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

- プロジェクト・グループを移動したい場合、[プロジェクト・ウィンドウ](#)上でプロジェクト・タイトルを選択したのち、マウス右ボタンの [プロジェクトの削除] メニューを実行し、プロジェクトの登録を削除してから、[プロジェクト] メニュー→[プロジェクトの挿入] を実行してください。

[ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログ

プロジェクトにソース・ファイルを追加します。

図 6-79 [ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [プロジェクト]メニュー→[ソース・ファイルの追加]メニューを選択
- [プロジェクト]メニュー→[プロジェクトの設定...]→[ソース・ファイル]タブ上の[追加]ボタンをクリック
- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 7/9 [ソース・ファイルの設定]]ダイアログ上の[追加...]ボタンをクリック
- プロジェクト・ウィンドウ上でマウス右ボタンをクリック→[ソース・ファイルの追加]メニューを選択

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

追加するソース・ファイルがあるドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。

(2) ファイル名, ファイルの種類

追加するソース・ファイル名を指定します。指定できる文字数は、259文字までです。

ソース・ファイルの拡張子はプロジェクトに登録されたマイクロコントローラ名により異なります。

また、ファイル名に、ソース・ファイル名を記述したリスト・ファイル (*.lst, *.csv) を指定すると、リスト・ファイル中に記載されたソース・ファイルをプロジェクトに追加します。なお、リスト・ファイルとは、1行に1ファイル名が記述されたテキスト・ファイル (*.lst)、またはCSVファイル (*.csv) です。

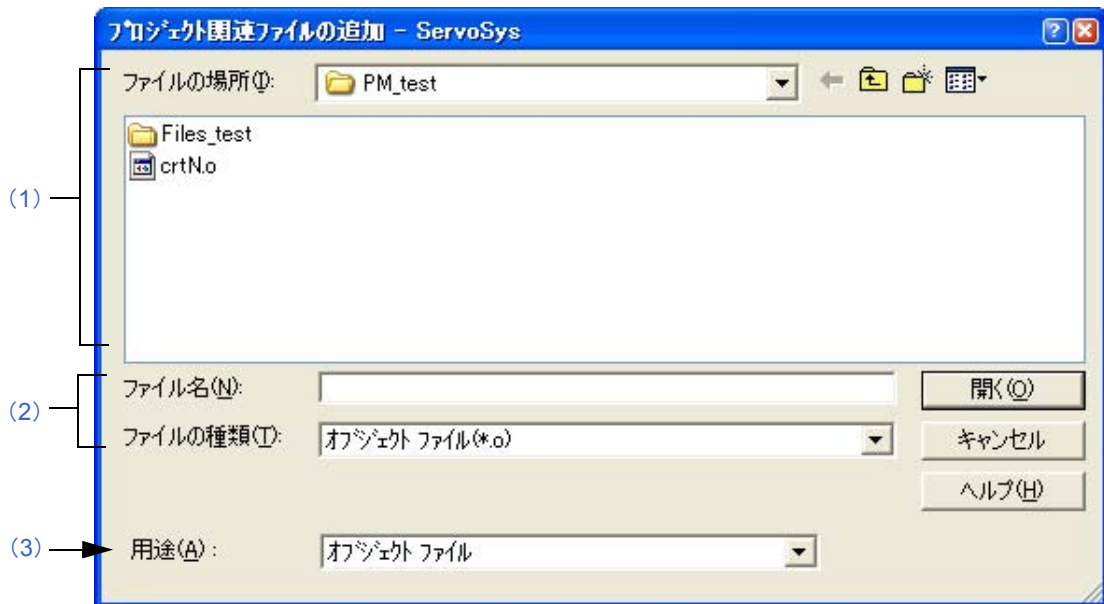
機能ボタン

ボタン	機能
開く	指定したソース・ファイルをプロジェクトに追加します。ソース・ファイルは複数選択することができます。
キャンセル	設定内容を見捨て、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。
フォルダ単位で追加 ...	フォルダの参照ダイアログを表示し、追加するソース・ファイルをフォルダ単位で指定します。選択したフォルダ内に存在するすべてのソース・ファイルをプロジェクトに追加します。

[プロジェクト関連ファイルの追加] ダイアログ

プロジェクト関連ファイルをプロジェクトに追加します。

図 6-80 [プロジェクト関連ファイルの追加] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [プロジェクト]メニュー→[プロジェクト関連ファイルの追加]メニューを選択
- プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト関連フォルダ/プロジェクト関連ファイル名を選択→マウス右ボタンをクリック→[プロジェクト関連ファイルの追加]メニューを選択

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

追加するプロジェクト関連ファイルがあるドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。

(2) ファイル名、ファイルの種類

追加するプロジェクト関連ファイル名を指定します。指定できる文字数は、259文字までです。

[ファイルの種類]には、追加可能なファイルの種類をリストで表示します。選択内容に伴い、[用途]の内容も変更されます。

(3) 用途

ドロップダウン・リストにより、追加するファイルの用途を選択します。
選択内容に伴い、[ファイルの種類]の内容も変更されます。

機能ボタン

ボタン	機能
開く	選択したファイルをプロジェクト関連ファイルとして追加します。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[その他のファイルの追加] ダイアログ

ユーザ任意のファイルをその他のファイルとしてプロジェクトに追加します。

図 6-81 [その他のファイルの追加] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [プロジェクト]メニュー→[その他のファイルの追加]メニューを選択
- プロジェクト・ウィンドウ上のその他のファイルの追加/任意のファイル名を選択→マウス右ボタンをクリック→[その他のファイルの追加]メニューを選択

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

追加する任意のファイルがあるドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。ファイルは、複数選択することができます。

(2) ファイル名、ファイルの種類

追加する任意のファイル名を指定します。指定できる文字数は、259文字までです。

ファイルの拡張子は、*.doc、*.xls、または*.*です。

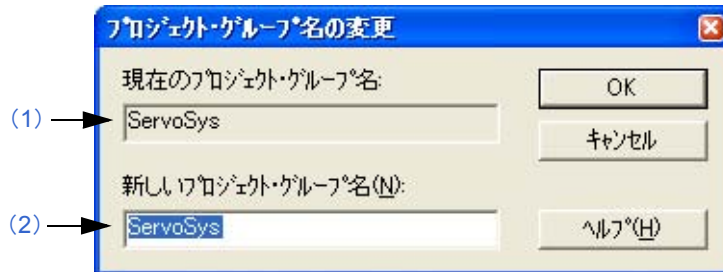
機能ボタン

ボタン	機能
開く	選択したファイルをその他のファイルとして追加します。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。

[プロジェクト・グループ名の変更] ダイアログ

プロジェクト・グループ名の変更を行います。

図 6-82 [プロジェクト・グループ名の変更] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト・グループ名を選択→マウス右ボタンをクリック→[プロジェクト・グループ名の変更]メニューを選択

各エリアの説明

(1) 現在のプロジェクト・グループ名

現在プロジェクト・ウィンドウで選択しているプロジェクトのプロジェクト・グループ名を表示します。

(2) 新しいプロジェクト・グループ名

新しく設定するプロジェクト・グループ名を直接入力します。入力できる文字数は、127文字までです。

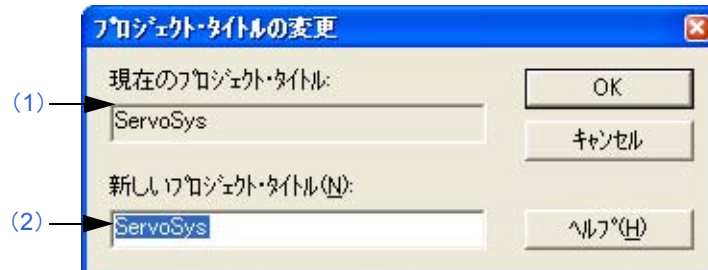
機能ボタン

ボタン	機能
OK	新しく設定したプロジェクト・グループ名に変更します。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[プロジェクト・タイトルの変更]ダイアログ

プロジェクト・タイトルの変更を行います。

図 6-83 [プロジェクト・タイトルの変更]ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト・グループ名を選択→マウス右ボタンをクリック→[プロジェクト・タイトルの変更]メニューを選択

各エリアの説明

(1) 現在のプロジェクト・タイトル

現在プロジェクト・ウィンドウで選択しているプロジェクトのプロジェクト・タイトルを表示します。

(2) 新しいプロジェクト・タイトル

新しく設定するプロジェクト・タイトルを直接入力します。入力できる文字数は、127文字までです。

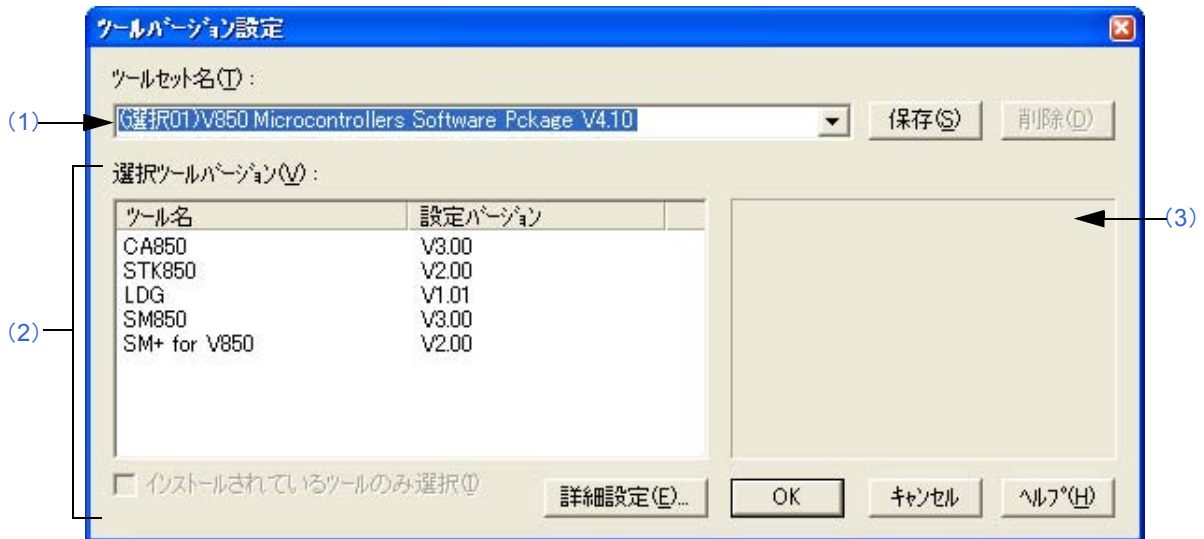
機能ボタン

ボタン	機能
OK	新しく設定したプロジェクト・タイトルに変更します。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ツールバージョン設定] ダイアログ

選択したプロジェクト・グループに含まれるプロジェクトに対して、プロジェクトで使用するツールの変更を一括して行います。

図 6-84 [ツールバージョン設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- プロジェクト・ウィンドウ上のプロジェクト・グループ名を選択→マウス右ボタンをクリック→[使用ツールの変更 ...]メニューを選択

各エリアの説明

(1) ツールセット名

使用する各ツールとそのバージョンの組み合わせをひとまとめにしたものをツールセットとし、そのツールセット名を指定します。

ドロップダウン・リストには、ユーザが以前に保存したツールセットと推奨するツールセット（78K マイクロコントローラの場合は“78Kx Microcontrollers Software Package Vx.xx”，V850 マイクロコントローラの場合は“V850 Microcontrollers Software Package Vx.xx”）が表示されます（デフォルトでは、選択したプロジェクト・グループの先頭に登録されているプロジェクトのツールセット名が表示されます）。

[詳細設定 ...] ボタンのクリックによりオープンする、[ツールバージョン詳細設定] ダイアログでツールセットを変更した場合は、ツールセット名の先頭に“(変更)”が付加されます。既にそのツールセット名が存在する場合、先頭に付加される文字は“(変更 01)”～“(変更 99)”となり、それ以降はツールセット名が“ユーザセット”となります。

ボタン	機能
保存	現在, [ツールセット名]で選択しているツールセットをファイルに保存します。 ただし, ツールセット・ファイルが読み込み専用になっている場合, このボタンは無効 (グレー表示) となります。
削除	[ツールセット名]で選択しているツールセット名を削除します (対応するツールセット・ファイルを削除します)。 ただし, 選択しているツールセットに対応するツールセット・ファイルが存在しない, またはツールセット・ファイルが読み込み専用の場合, このボタンは無効 (グレー表示) となります。

【備考】

保存時のファイル名は, “ツールセット名. 拡張子” となります。

拡張子は, 使用するマイクロコントローラによって次のようになります。

78K0R マイクロコントローラ (ライブラリを含む) : t0r

78K0 マイクロコントローラ (ライブラリを含む) : tk0

78K0S マイクロコントローラ (ライブラリを含む) : t0s

V850 マイクロコントローラ (ライブラリを含む) : t85

ファイルの保存場所は, 全ユーザがアクセス可能な “Application Data” フォルダ下の “NEC Electronics\PM+” となり, このフォルダが存在しない場合は, 起動時にフォルダが作成されます (例: Windows XP の場合, “C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\NEC Electronics\PM+”)。

(2) 選択ツールバージョン

[ツールセット名]で指定されているツールセットの各ツールとそのバージョンの組み合わせを一覧表示します。

[ツール名セット]でツールセット名を選択すると, 選択したツールセットの組み合わせが表示されます。

デフォルトでは, [ツールセット名]で指定されているツールセットの各ツールとそのバージョンが表示されません。

また, このエリア内をダブル・クリック, または [詳細設定 ...] ボタンをクリックすると, [ツールバージョン詳細設定] ダイアログがオープンし, 使用するツールとそのバージョンを選択することができます。

(a) ツール名

インストールされているツール, および選択したツールセットに含まれるツール (インストールされていないツールを含む) のツール名をすべて表示します。

ただし, インストールされていないツールについてはグレー表示されます。

(b) 設定バージョン

選択したツールセットで指定されているバージョンを表示します。

ただし, インストールされていないツールについてはグレー表示, 選択したツールセットでバージョンが指定されていないツールについては “未使用” が表示されます。

(c) インストールされているツールのみ選択

選択されているツールセット内で, インストールされていないツールをリストから削除します (デフォルトでは, チェックされません)。

[選択ツールバージョン]にグレー表示がある場合, このチェック・ボックスをチェックすることでリストから削除されます。

リストから削除されたツールセットは, セット名の先頭に “(選択 01)” の文字が付与されます。

なお, インストールされていないツールがない場合, このチェック・ボックスは無効となります。

(3) 簡易説明

[選択ツールバージョン]にグレー表示の項目がある場合, メッセージを表示します。

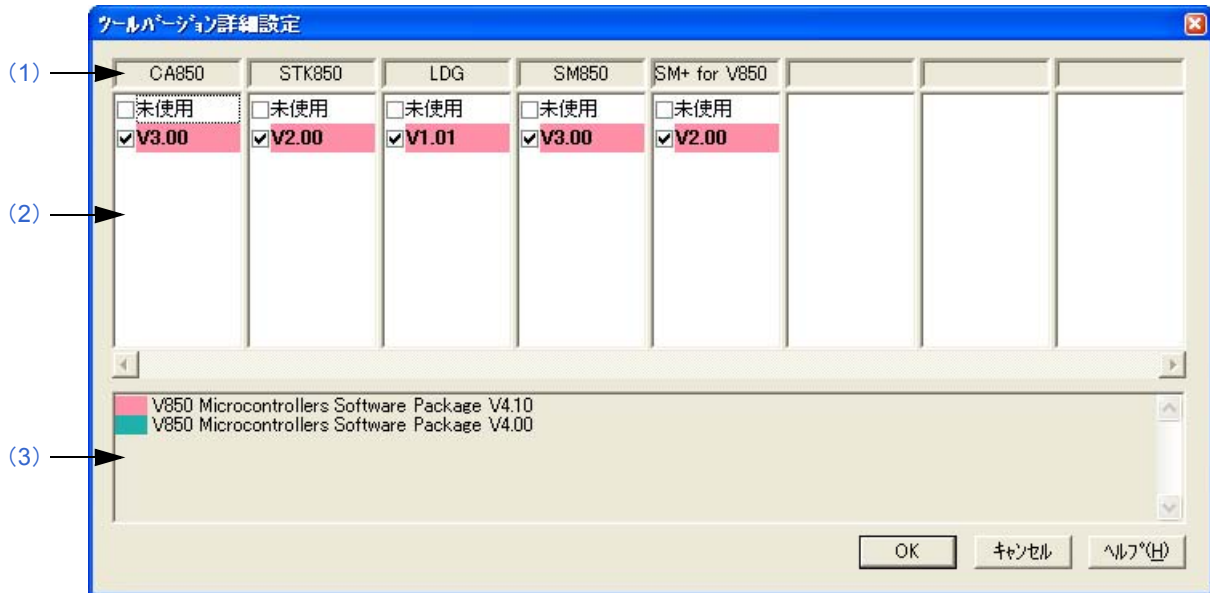
機能ボタン

ボタン	機能
OK	選択したプロジェクト・グループに含まれるプロジェクトに対して、使用ツールの変更を一括して行います。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ツールバージョン詳細設定] ダイアログ

使用するツールとそのバージョンの選択を行います。

図 6-85 [ツールバージョン詳細設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [プロジェクトの設定] ダイアログ → [ツールバージョン設定] タブ → [詳細設定 ...] ボタンをクリック
- [ツールバージョン設定] ダイアログ → [詳細設定 ...] ボタンをクリック、または [選択ツールバージョン] をダブル・クリック
- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログ → [詳細設定 ...] ボタンをクリック
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 2/9 [使用ツールの指定]] ダイアログ → [詳細設定 ...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ツール名表示エリア

インストールされているツール名を表示します。

ツールの名称が長い場合は左詰めで表示され、マウス・カーソルをその文字列の上に持つることにより、ツール名全体の文字列をポップアップ表示します。

(2) バージョン選択エリア

使用するツールのバージョンを選択します。

デフォルトでは、[\[ツールバージョン設定\]ダイアログ](#)で指定しているバージョンが選択されます。

[\[ツールバージョン設定\]ダイアログ](#)で指定しているバージョンは強調表示され、そのバージョンがインストールされていない場合は、“未使用”が強調表示されます。

また、推奨するツールセットに含まれるバージョンには、背景色が表示されます。

なお、バージョンを複数選択、および未選択にすることはできません。

(3) 簡易説明エリア

バージョン選択エリアで表示しているバージョンの背景色がどのツールセットを示しているのかを表示します。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	使用するツールやバージョンの設定を変更した場合は、設定した内容を [デバッグの設定]ダイアログ 、および [ツールバージョン設定]ダイアログ に反映します。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[プロパティ] ダイアログ

選択したファイルのパス情報や読み取り属性などを表示します。

図 6-86 [プロパティ] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- プロジェクト・ウィンドウ上のファイル名／関数名を選択→マウス右ボタンをクリック→[プロパティ]メニューを選択

各エリアの説明

(1) 情報エリア

(a) ファイル名、パス名

選択したファイルの名称、およびそのファイルが存在する場所をフル・パスで表示します。

(b) 最終更新日時

最終更新日時を表示します。

(c) 属性

選択したファイルが“読み取り専用”属性の場合表示されます。

(d) IDL ファイル

選択したファイルが IDL ファイルから生成されたソース・ファイルの場合、IDL ファイル名を表示します。ソース・ファイルからの相対パス付きで表示します。

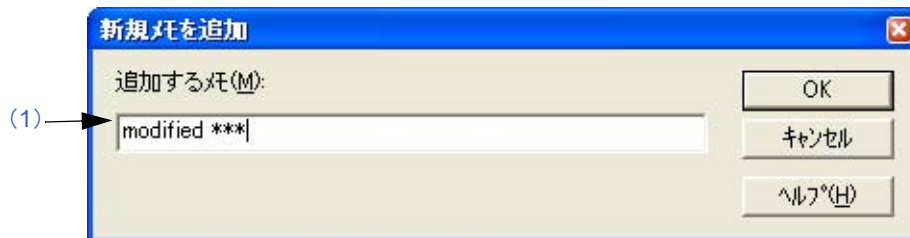
機能ボタン

ボタン	機能
閉じる	ダイアログを閉じます。

[新規メモを追加] ダイアログ

新規にメモを追加します。

図 6-87 [新規メモを追加] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- プロジェクト・ウィンドウ上の [メモ] タブにおいて、マウス右ボタンをクリック→[新規メモを追加 ...] メニューを選択

各エリアの説明

(1) 追加するメモ

新規に追加するメモのタイトルを入力します。プロジェクト・ウィンドウ上には、追加された日時も表示されません。

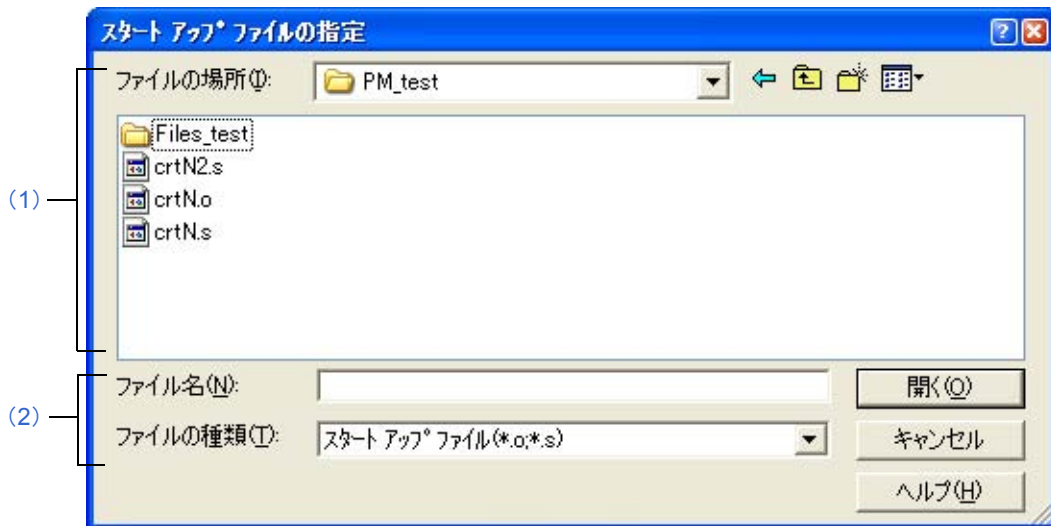
機能ボタン

ボタン	機能
OK	新規にメモを追加します。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[スタートアップファイルの指定] ダイアログ

スタート・アップ・ファイルに既存のファイルを使用する場合、スタート・アップ・ファイルを指定します。

図 6-88 [スタートアップファイルの指定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ→既存のファイルを使用するを選択したのち、[参照...] ボタンをクリック
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ→既存のファイルを使用するを選択したのち、[参照...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

スタート・アップ・ファイルがあるドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。

(2) ファイル名、ファイルの種類

スタート・アップ・ファイル名を指定します。スタート・アップ・ファイルのデフォルトの拡張子は、“o” または “s” です。

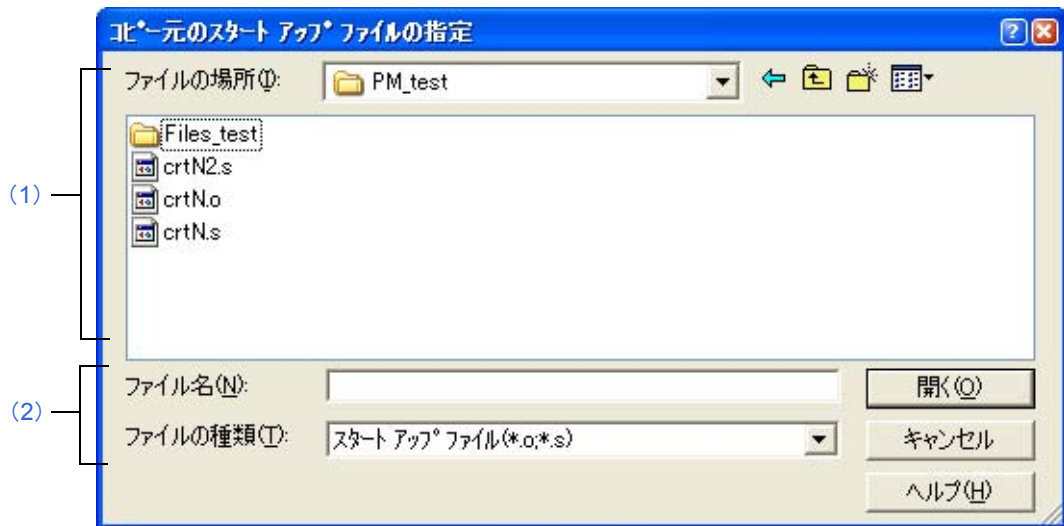
機能ボタン

ボタン	機能
開く	選択したファイルをスタート・アップ・ファイルとして指定します。 指定されたスタート・アップ・ファイルはプロジェクト関連ファイルに登録されます。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[コピー元のスタート・アップファイルの指定] ダイアログ

スタート・アップ・ファイルを指定する際に、既存のファイルをコピーして使用する場合、コピー元のスタート・アップ・ファイルを指定します。

図 6-89 [コピー元のスタート アップ ファイルの指定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ→既存のファイルのコピーして使用するを選択したのち、[参照...] ボタンをクリック
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ→既存のファイルのコピーして使用するを選択したのち、[参照...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

コピー元のスタート・アップ・ファイルがあるドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。

(2) ファイル名、ファイルの種類

コピー元のスタート・アップ・ファイル名を指定します。スタート・アップ・ファイルのデフォルトの拡張子は、“o” または “s” です。

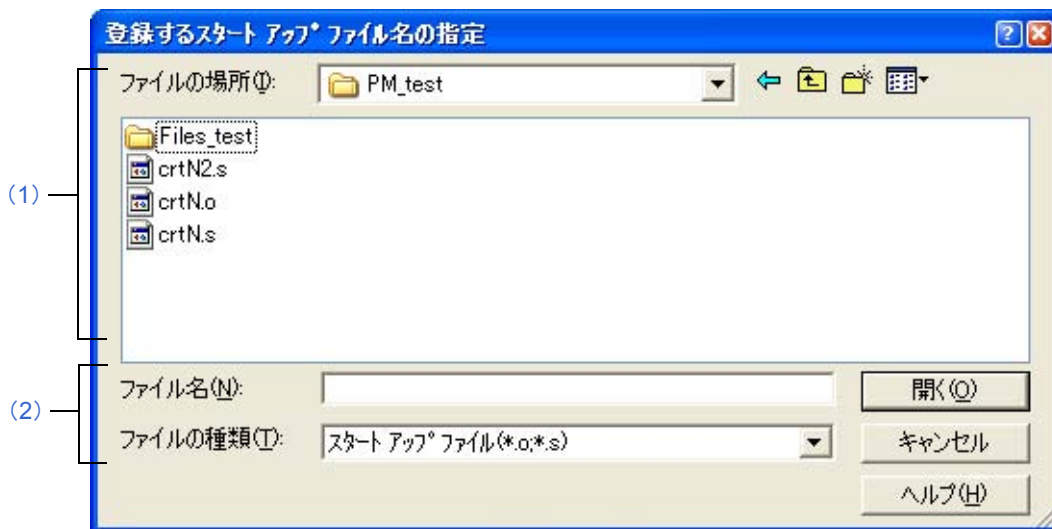
機能ボタン

ボタン	機能
開く	選択したファイルをコピー元のスタート・アップ・ファイルとして指定します。
キャンセル	設定内容を無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[登録するスタートアップファイル名の指定] ダイアログ

登録するスタート・アップ・ファイルを指定します。サンプルのスタート・アップ・ファイルをコピーして使用する場合、既存のスタート・アップ・ファイルをコピーして使用する場合のコピー先のファイルとなります。

図 6-90 [登録するスタートアップファイル名の指定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ→ [ファイル名指定 ...] ボタンをクリック
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 4/9 [スタート・アップ・ファイルの指定]] ダイアログ→ [ファイル名指定 ...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

登録するスタート・アップ・ファイルのドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。

(2) ファイル名、ファイルの種類

登録するスタート・アップ・ファイル名を指定します。スタート・アップ・ファイルのデフォルトの拡張子は、“o” または “s” です。

機能ボタン

ボタン	機能
開く	選択したファイルを登録するスタート・アップ・ファイルとして指定します。 指定されたスタート・アップ・ファイルはプロジェクト関連ファイルに登録されます。
キャンセル	設定内容が無視し、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[リンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログ

リンク・ディレクティブ・ファイルに既存のファイルを使用する場合、リンク・ディレクティブ・ファイルを指定します。

図 6-91 [リンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ→既存のファイルを使用するを選択したのち、[参照...] ボタンをクリック
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ→既存のファイルを使用するを選択したのち、[参照...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

リンク・ディレクティブ・ファイルがあるドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。

(2) ファイル名、ファイルの種類

リンク・ディレクティブ・ファイル名を指定します。

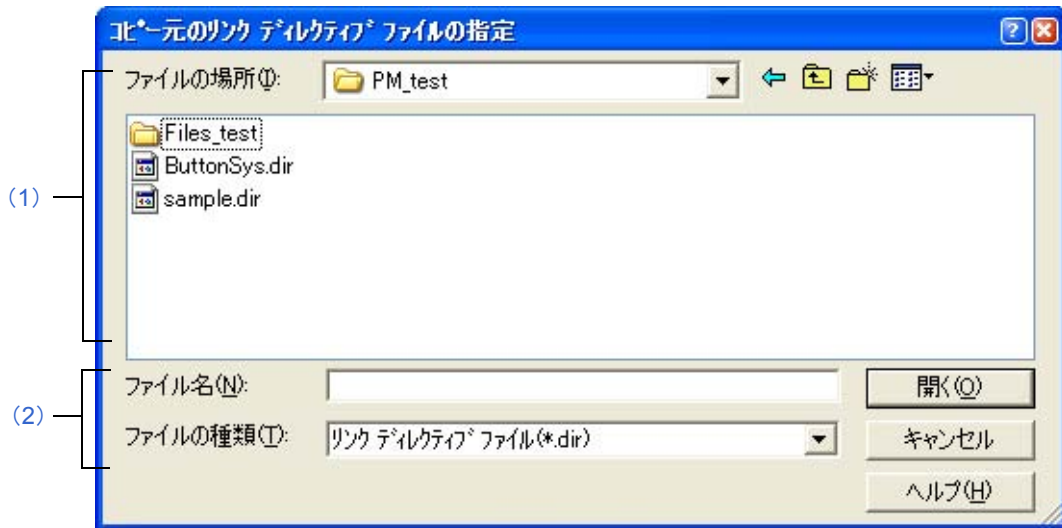
機能ボタン

ボタン	機能
開く	選択したファイルをリンク・ディレクティブ・ファイルとして指定します。 指定されたリンク・ディレクティブ・ファイルはプロジェクト関連ファイルに登録されます。
キャンセル	設定内容を見捨て、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[コピー元のリンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログ

リンク・ディレクティブ・ファイルを指定する際に、既存のファイルをコピーして使用する場合、コピー元のリンク・ディレクティブ・ファイルを指定します。

図 6-92 [コピー元のリンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ→既存のファイルをコピーして使用するを選択したのち、[参照...] ボタンをクリック
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ→既存のファイルをコピーして使用するを選択したのち、[参照...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

コピー元のリンク・ディレクティブ・ファイルがあるドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。

(2) ファイル名、ファイルの種類

コピー元のリンク・ディレクティブ・ファイル名を指定します。

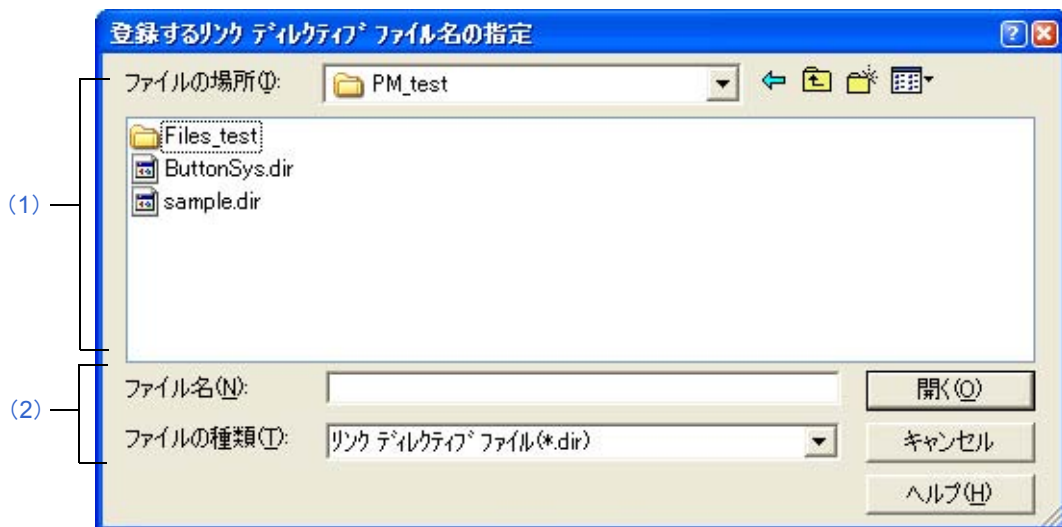
機能ボタン

ボタン	機能
開く	選択したファイルをコピー元のリンク・ディレクティブ・ファイルとして指定します。
キャンセル	設定内容を見捨て、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[登録するリンク ディレクティブ ファイル名の指定] ダイアログ

登録するリンク・ディレクティブ・ファイルを指定します。サンプルのリンク・ディレクティブ・ファイルをコピーして使用する場合、既存のリンク・ディレクティブ・ファイルをコピーして使用する場合のコピー先のファイルとなります。

図 6-93 [登録するリンク ディレクティブ ファイル名の指定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ワークスペースの新規作成 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ→ [ファイル名指定 ...] ボタンをクリック
- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ→ [ファイル名指定 ...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

登録するリンク・ディレクティブ・ファイルがあるドライブ、またはフォルダをドロップダウン・リストから選択します。

(2) ファイル名、ファイルの種類

登録するリンク・ディレクティブ・ファイル名を指定します。

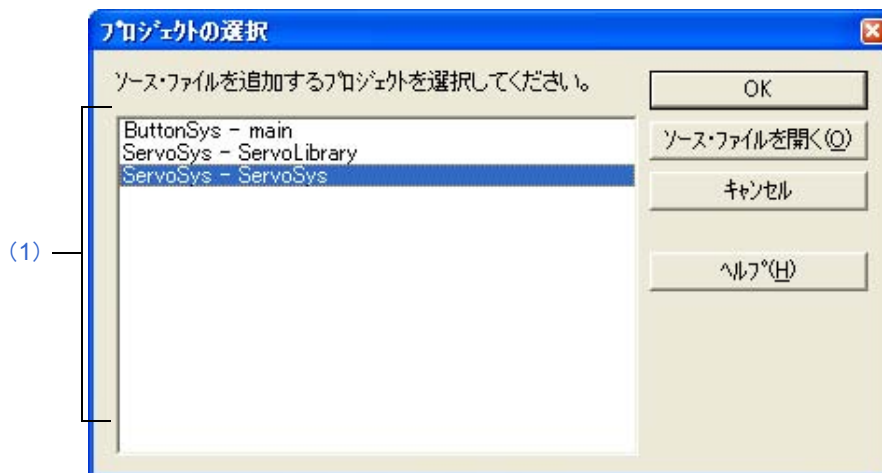
機能ボタン

ボタン	機能
開く	選択したファイルを登録するリンク・ディレクティブ・ファイルとして指定します。指定されたリンク・ディレクティブ・ファイルはプロジェクト関連ファイルに登録されます。
キャンセル	設定内容を見捨て、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[プロジェクトの選択] ダイアログ

ワークスペース・ファイル、またはプロジェクト・ファイルを開いた状態で、プロジェクト・ウィンドウにソース・ファイルをドラッグ・アンド・ドロップした場合、追加の対象となるプロジェクトを指定します。

図 6-94 [プロジェクトの選択] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- プロジェクト・ウィンドウ上に新規追加ソース・ファイルをドラッグ・アンド・ドロップ

各エリアの説明

(1) プロジェクト選択エリア

新規にソース・ファイルを登録するプロジェクトを選択します。

デフォルトでは、現在開いているプロジェクトのプロジェクト・グループ名とファイル名が表示されます。

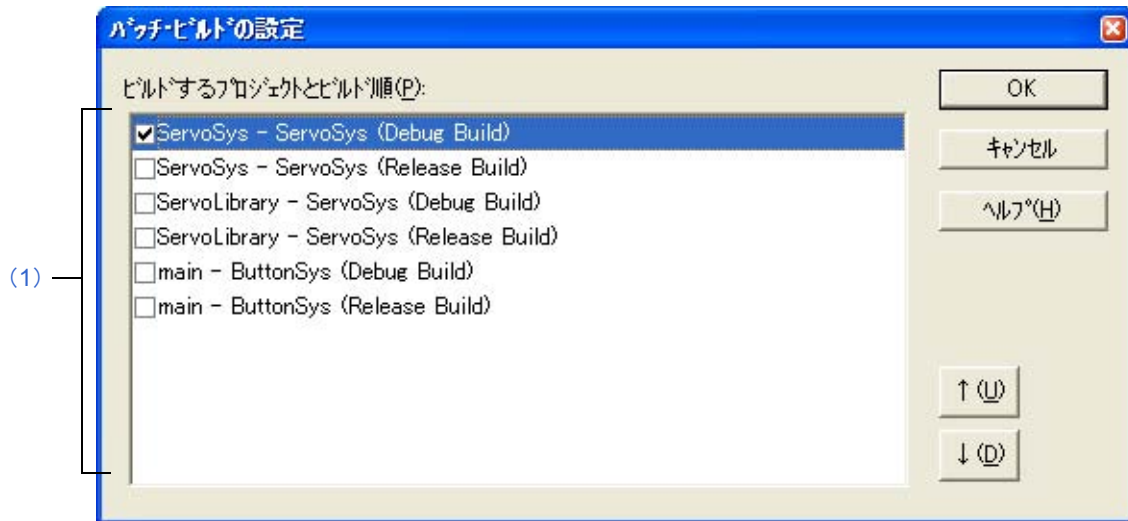
機能ボタン

ボタン	機能
OK	選択したプロジェクト内に、ドラッグ・アンド・ドロップしたソース・ファイルを新規に追加登録します。
ソース・ファイルを開く	プロジェクトに登録せず、編集ウィンドウ内にソース・ファイルを開きます。
キャンセル	設定内容を見捨て、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[バッチ・ビルドの設定] ダイアログ

バッチ・ビルド、またはバッチ・リビルドを行うプロジェクトの選択とビルド順を指定します。
 なお、このダイアログでの設定内容は、ワークスペースの保存時に、ワークスペース・ファイルに保存されます。

図 6-95 [バッチ・ビルドの設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [ビルド]メニュー→[バッチ・ビルドの設定...]を選択

各エリアの説明

(1) ビルドするプロジェクトとビルド順

開いているワークスペースに登録されているプロジェクト名とビルド・モードを表示します。
 ビルドを行うプロジェクトのビルド・モードをチェックします。デフォルトでは、現在アクティブなプロジェクトのビルド・モードがチェックされています。
 ビルドは、リストの上から順番に実行されるため、ビルドの実行順を変更したい場合は、プロジェクトを選択後、[↑]ボタン、[↓]ボタンで入れ替えてください。
 なお、プロジェクトは複数選択することができます。また、プロジェクトを複数選択し、選択したプロジェクトのうち、どれか一つのチェックボックスを操作すると、他の選択しているプロジェクトのチェックボックスも同様に操作されます。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	ダイアログを閉じます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。
↑	選択したプロジェクトを1つ上に移動します。 リストの一番上のプロジェクトを選択し、本ボタンをクリックすると、選択したプロジェクトを一番下に移動します。 なお、このボタンは、プロジェクトを複数選択した場合、無効となります。
↓	選択したプロジェクトを1つ下に移動します。 リストの一番下のプロジェクトを選択し、本ボタンをクリックすると、選択したプロジェクトを一番上に移動します。 なお、このボタンは、プロジェクトを複数選択した場合、無効となります。

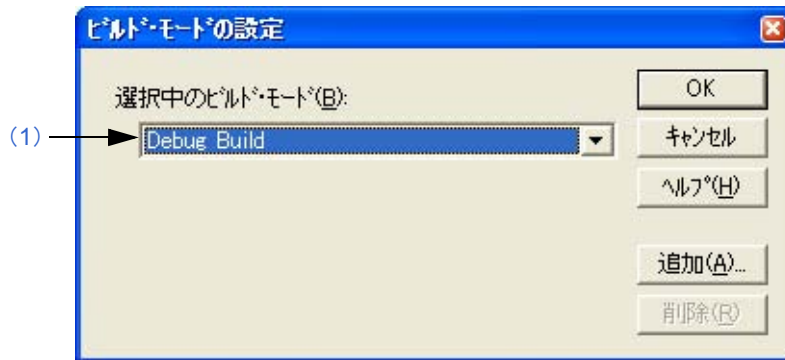
注意事項

- [バッチ・ビルドの設定] ダイアログを閉じた後で、プロジェクト／ビルド・モードを追加した場合、次回 [バッチ・ビルドの設定] ダイアログのオープン時、追加したプロジェクト／ビルド・モードの項目がビルドするプロジェクト表示エリアに追加されます。
- [バッチ・ビルドの設定] ダイアログを閉じた後で、プロジェクト／ビルド・モードを削除した場合、次回 [バッチ・ビルドの設定] ダイアログのオープン時、該当するプロジェクト／ビルド・モードの項目がビルドするプロジェクト表示エリアから削除されます。

[ビルド・モードの設定] ダイアログ

ビルド・モードの選択、追加、削除を行います。

図 6-96 [ビルド・モードの設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ビルド]メニュー→[ビルド・モードの設定 ...]の選択

各エリアの説明

(1) 選択中のビルド・モード

現在、選択しているビルド・モードを表示します。必要に応じて、コンボ・ボックスにより、ビルド・モードを選択してください。

ビルド・モードには、デフォルトで次の2つがあります。

ビルド・モード	内容
Debug Build	このモードでビルドを実行した場合は、シンボル情報を出力します（デフォルト）。
Release Build	このモードでビルドを実行した場合は、シンボル情報を出力しません。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したモードにビルド・モードを設定します。なお、設定したビルド・モード、追加したビルド・モード、削除したビルド・モードは、プロジェクト・ファイルに保存されます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。
追加 ...	[ビルド・モードの追加]ダイアログを表示します。 ビルド・モードに対応していない言語製品を使用する場合、グレー表示となります。
削除	選択中のビルド・モードを削除し、登録している先頭のビルド・モードを選択状態にします。 ただし、“Debug Build”と“Release Build”は削除することはできません。 ビルド・モードに対応していない言語製品を使用する場合、グレー表示となります。

[ビルド・モードの追加] ダイアログ

ビルド・モードの追加を行います。ビルド・モードには、デフォルトで次の2つがあります。

ビルド・モード	内容
Debug Build	このモードでビルドを実行した場合は、シンボル情報を出力します（デフォルト）。
Release Build	このモードでビルドを実行した場合は、シンボル情報を出力しません。

このダイアログでは、これらのビルド・モードを元に、ビルド時のオプションの追加や削除を行い、任意にビルド・モードを定義することができます。

図 6-97 [ビルド・モードの追加] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ビルド・モードの設定] ダイアログ上の [追加...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ビルド・モード

新たに設定したいビルド・モードの名称を入力します。128文字まで入力することができます。

(2) コピー元

デフォルトで、現在設定されているビルド・モードを表示します。必要に応じて、コンボ・ボックスにより選択することができます。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	追加したビルド・モードが選択状態となり、 [ビルド・モードの設定]ダイアログ に戻ります。 なお、 [ビルド・モード] が入力されていない場合は、このボタンは無効となります。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じ、 [ビルド・モードの設定]ダイアログ に戻ります。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

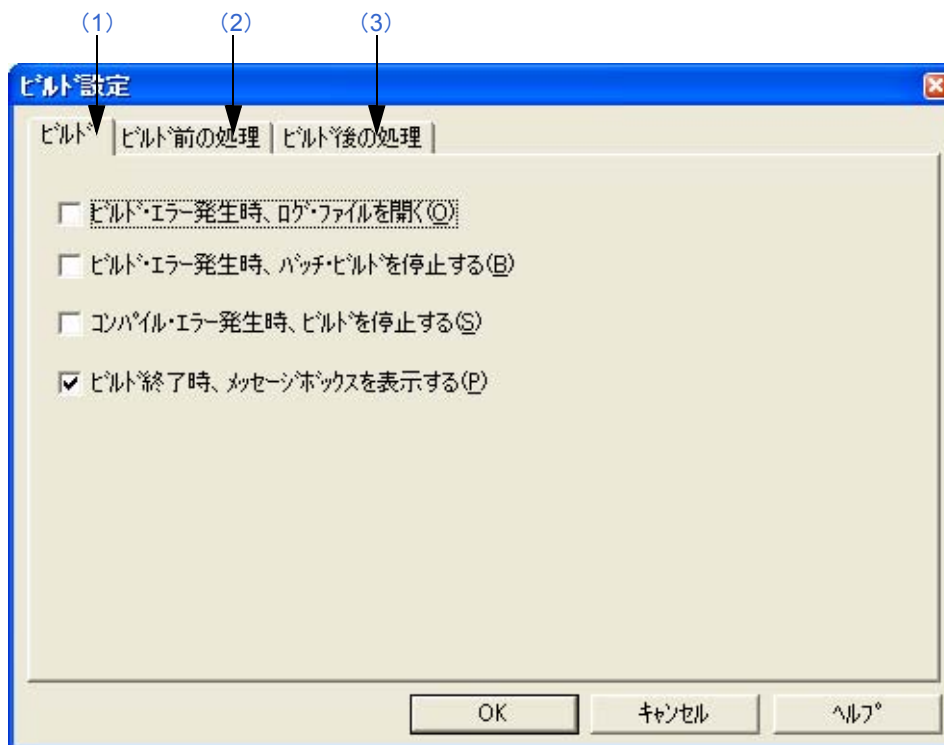
[ビルド設定] ダイアログ

ビルドに関するオプションの設定を行います。
設定できる項目は、次のとおりです。

- ビルド時のオプション設定 ([ビルド]タブ)
- ビルド前に行いたい処理の設定 ([ビルド前の処理]タブ)
- ビルド後に行いたい処理の設定 ([ビルド後の処理]タブ)

なお、[ビルド]タブでの設定内容は、レジストリに保存されるため、使用している環境における設定となります ([ビルド前の処理] / [ビルド後の処理]タブでの設定内容は、それぞれプロジェクト・ファイルに保存されます)。

図 6-98 [ビルド設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各タブの説明
- 機能ボタン

オープン方法

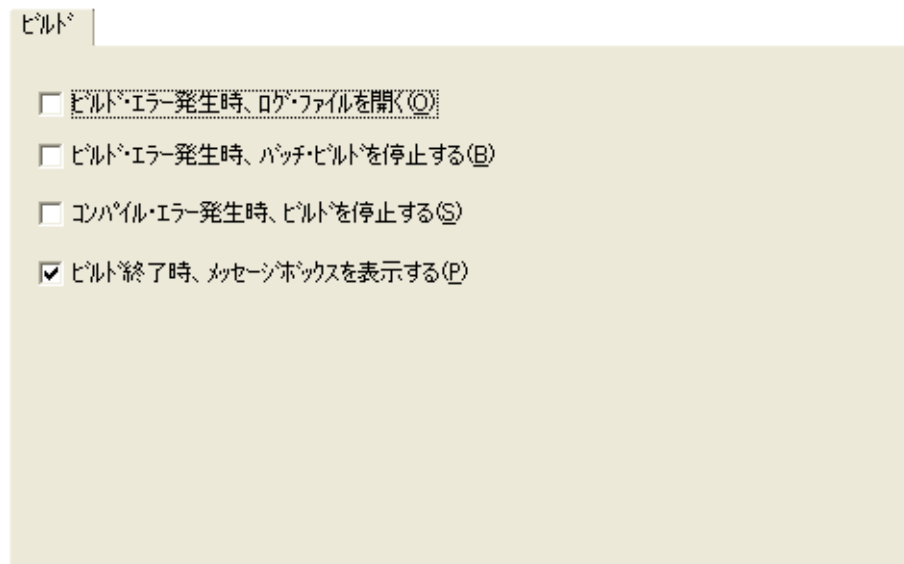
- [ビルド]メニュー→[ビルド設定...]を選択

各タブの説明

(1) [ビルド]タブ

ビルド実行時のオプション設定を行います。

図 6-99 [ビルド設定]ダイアログー [ビルド]タブ



- (a) ビルド・エラー発生時、ログ・ファイルを開く
ビルド時にビルド・エラーが発生した際に、ログ・ファイルを開きます。外部エディタを設定している場合は、外部エディタ上に表示します。
- (b) ビルド・エラー発生時、バッチ・ビルドを停止する
バッチ・ビルド／バッチ・リビルドにおいて、ビルド終了時にビルド・エラーが発生した際に、その時点でバッチ・ビルド／バッチ・リビルドを停止します。
- (c) コンパイル・エラー発生時、ビルドを停止する
ビルド中に1つでもエラーが発生した場合、そのソース・ファイルに対するコンパイルが終了した時点でビルドを停止します。
チェックしない場合は、エラーが発生してもビルドで対象となっているすべてのソース・ファイルのコンパイルが終了するまで、ビルドを停止しません。
- (d) ビルド終了時、メッセージボックスを表示する
ビルド終了時にメッセージ・ボックスを表示します（デフォルト）。
チェックしない場合は、音だけで知らせます。

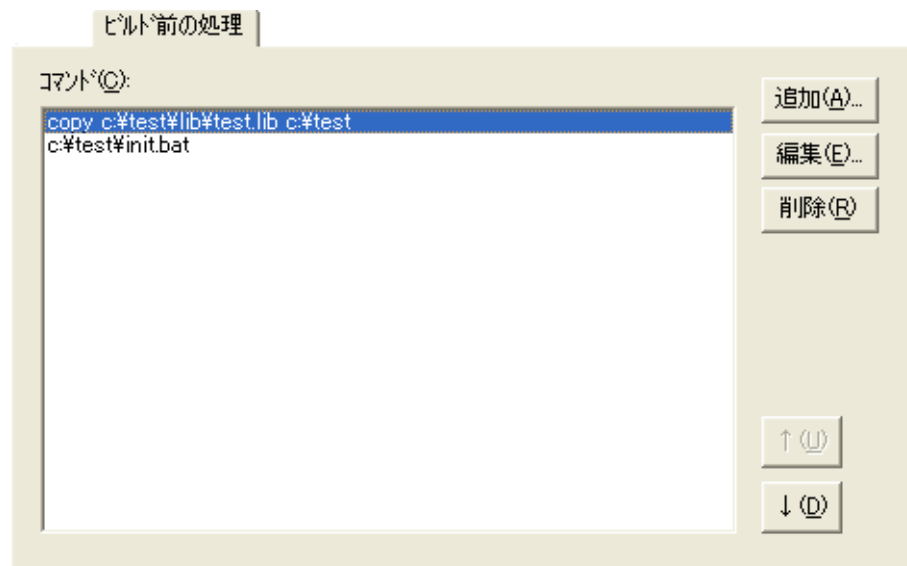
(2) [ビルド前の処理] タブ

ビルド実行時、ビルド処理を行う前に必要な処理（変換処理やソース・ファイルのバックアップなど）がある場合、ここに設定します。

設定した項目は、ビルド実行時に必ず実行されます。実行順序は、リストの上からです。

コマンドの指定は、[追加] ボタンをクリックし、[コマンドの追加] ダイアログ上で行います。

図 6-100 [ビルド設定] ダイアログ [ビルド前の処理] タブ



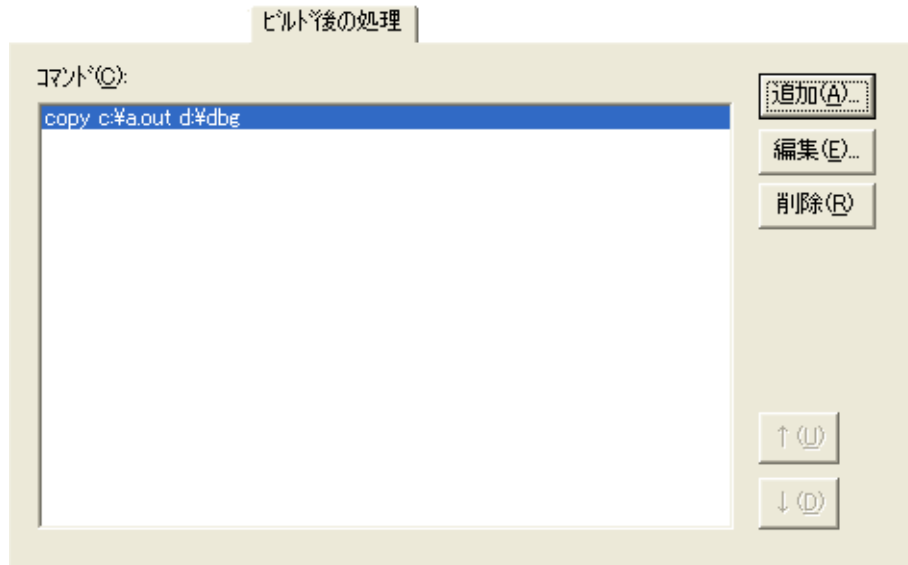
ボタン	機能
追加 ...	[コマンドの追加] ダイアログを表示します。 指定されたコマンドは、コマンド・リスト・ボックスの選択中の位置に挿入します。
編集 ...	[コマンドの編集] ダイアログを表示します。 コマンド・リスト・ボックスの選択中のコマンド内容を編集した内容に変更します。
削除	コマンド・リスト・ボックスで選択したコマンドを削除します。
↑	コマンド・リスト・ボックスで選択したコマンドを 1 行上に上げます。
↓	コマンド・リスト・ボックスで選択したコマンドを 1 行下に下げます。

(3) [ビルド後の処理] タブ

ビルド実行時、ビルド処理を行った後に必要な処理（出力したファイルを他のフォルダにコピーするなど）がある場合、ここに設定します。設定した項目は、ビルド処理後に、必ず実行されます。実行順序は、リストの上からです。

コマンドの指定は、[追加...] ボタンをクリックし、[コマンドの追加] ダイアログ上で行います。

図 6-101 [ビルド設定] ダイアログ [ビルド後の処理] タブ



ボタン	機能
追加 ...	[コマンドの追加] ダイアログを表示します。 指定されたコマンドは、コマンド・リスト・ボックスの選択中の位置に挿入します。
編集 ...	[コマンドの編集] ダイアログを表示します。 コマンド・リスト・ボックスの選択中のコマンド内容を編集した内容に変更します。
削除	コマンド・リスト・ボックスで選択したコマンドを削除します。
↑	コマンド・リスト・ボックスで選択したコマンドを 1 行上に上げます。
↓	コマンド・リスト・ボックスで選択したコマンドを 1 行下に下げます。

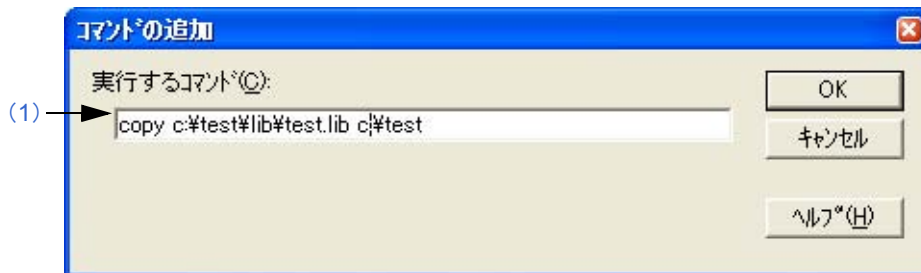
機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定した設定を有効とし、設定内容をプロジェクト・ファイルに保存します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[コマンドの追加] ダイアログ

ビルド実行時、ビルド処理を行う前、または後に必要な処理（出力したファイルを他のフォルダにコピーするなど）がある場合、そのコマンドを指定します。

図 6-102 [コマンドの追加] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ビルド]メニュー→[ビルド設定...]→[ビルド前処理]タブの[追加]ボタンをクリック
- [ビルド]メニュー→[ビルド設定...]→[ビルド後処理]タブの[追加]ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 実行するコマンド

ビルド処理前、またはビルド処理後に実行する DOS コマンドを記述してください。指定できるコマンドの最大文字数は、127 文字です。

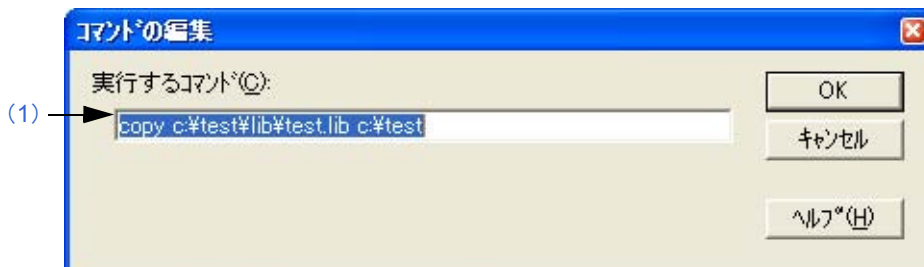
機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定したコマンドを追加します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[コマンドの編集] ダイアログ

ビルド実行時、ビルド処理を行う前、または後に必要な処理として指定されているコマンドを編集します。

図 6-103 [コマンドの編集] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ビルド]メニュー→[ビルド設定...]→[ビルド前処理]タブ上の各コマンドを選択したのち、[編集]ボタンをクリック
- [ビルド]メニュー→[ビルド設定...]→[ビルド前処理]タブ上の各コマンドをダブル・クリック
- [ビルド]メニュー→[ビルド設定...]→[ビルド後処理]タブ上の各コマンドを選択したのち、[編集]ボタンをクリック
- [ビルド]メニュー→[ビルド設定...]→[ビルド後処理]タブ上の各コマンドをダブル・クリック

各エリアの説明

(1) 実行するコマンド

ビルド処理前、またはビルド処理後に実行する DOS コマンドを記述してください。指定できるコマンドの最大文字数は、127 文字です。

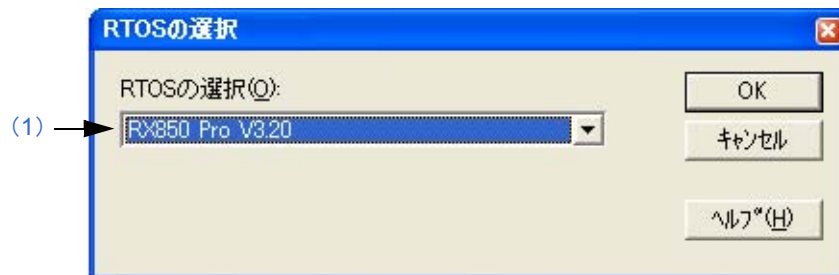
機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定した内容で、コマンドを編集します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[RTOS の選択] ダイアログ

現在のアクティブ・プロジェクトで使用するリアルタイム OS の選択をします。

図 6-104 [RTOS の選択] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール]メニュー→[RTOS の選択 ...] を選択

各エリアの説明

(1) RTOS の選択

現在のアクティブ・プロジェクトで使用するリアルタイム OS を選択します。

ドロップダウン・リストには、[\[プロジェクトの設定\] ダイアログ](#)の[ツールバージョン設定]タブで設定したリアルタイム OS 名が表示されます。デフォルトでは、現在のアクティブ・プロジェクトで設定しているリアルタイム OS 名が選択されます。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	選択したリアルタイム OS に対応した [RTOS の詳細設定] ダイアログを表示します。設定内容の詳細については、リアルタイム OS のユーザーズ・マニュアルを参照してください。
キャンセル	設定内容を見捨て、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[dump850] ダイアログ

ダンプ・コマンド dump850 を起動します。

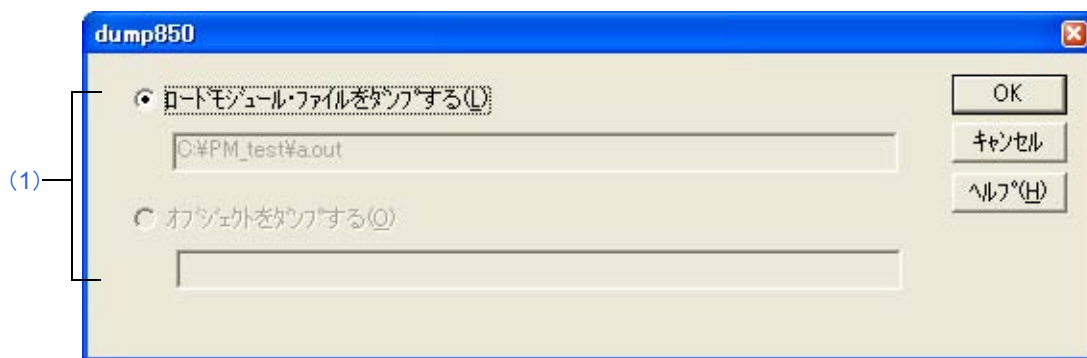
解析結果は、“プロジェクト・ファイル名.dmp”の形式で保存され、[編集ウィンドウ](#)に表示されます。

dump850 の実行は、[Esc] キーにより中断することができます。

なお、このダイアログは、V850 マイクロコントローラのデバイスを使用するプロジェクトがアクティブ、および使用ツールとして CA850 (Ver.3.10 以前) が指定されている場合のみ表示されます (CA850 (Ver.3.20 以降) では、CA850 の機能として提供されています)。

dump850 についての詳細は、CA850 コンパイラ・パッケージのマニュアルを参照してください。

図 6-105 [dump850] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール] メニュー → [dump850...] を選択

各エリアの説明

(1) ファイル選択エリア

- (a) ロードモジュール・ファイルをダンプする

ロードモジュール・ファイルをダンプする場合にチェックします (デフォルト)。

解析対象となるファイルは、現在アクティブなプロジェクトのロードモジュール・ファイルとなります。エディット・ボックスには、解析対象となるリンクの出力する .out ファイル名が表示されます。

(b) オブジェクトをダンプする

オブジェクト・ファイルをダンプする場合にチェックします。

解析対象となるファイルは、現在アクティブな**編集ウィンドウ**、または**プロジェクト・ウィンドウ**で選択しているソース・ファイルから生成されたオブジェクト・ファイルとなります。ただし、アクティブな**編集ウィンドウ**がIDLファイルだった場合、キャレット位置のソース・ファイルから生成したオブジェクト・ファイルが解析対象となります。

エディット・ボックスには、オブジェクト・ファイル名が表示されます。ただし、ソース・ファイルの指定がない場合、何も表示されません。

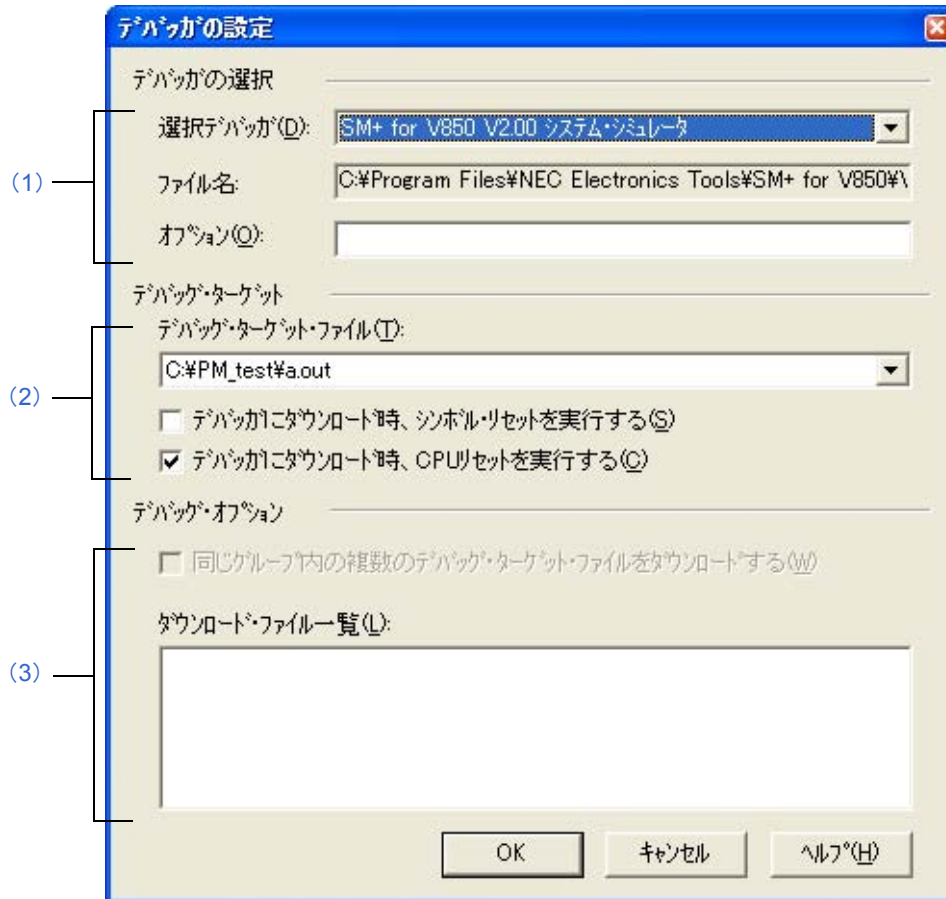
機能ボタン

ボタン	機能
OK	ダンプ・コマンド dump850 を起動します。 解析結果は、“プロジェクト・ファイル名 .dmp” の形式で保存され、 編集ウィンドウ に表示されます。なお、すでに dmp ファイルが存在する場合は、“プロジェクト・ファイル名 .dmp.bak” の形式で bak ファイルにリネームされます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[デバッガの設定] ダイアログ

使用するデバッガの各種設定をします。

図 6-106 [デバッガの設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール] メニュー → [デバッガの設定 ...] を選択

各エリアの説明

(1) デバッグの選択

(a) 選択デバッグ

使用するデバッグを選択します。

ドロップダウン・リストには、使用ツールとして指定されているデバッグ名とそのバージョンを表示します。デフォルトでは、新規にデバッグを選択する場合、直前に開いていたプロジェクト上で設定していたデバッグ種別を表示します。

なお、デバッグが、[ツールバージョン設定]ダイアログ上ですべて未使用に設定されている場合、またはインストールされていない場合は、“デバッグが選択、またはインストールされていません”と表示します。

(b) ファイル名

選択したデバッグのパスを表示します。

(c) オプション

デバッグを起動する際のオプションを指定します。

デフォルトでは、何も表示されません。

(2) デバッグ・ターゲット

(a) デバッグ・ターゲット・ファイル

デバッグへダウンロードするファイルを選択します。

ドロップダウン・リストには、言語製品が出力するロードモジュール・ファイル名、およびHEXファイル名を表示します。

(b) デバッグにダウンロード時、シンボル・リセットを実行する

チェックすることにより、ダウンロード時に、シンボル・リセットを実行します。

【注意】

このチェック・ボックスは、V850 マイクロコントローラのデバイスを使用するプロジェクトがアクティブになっている場合のみ有効です。

(c) デバッグにダウンロード時、CPUリセットを実行する

チェックすることにより、ダウンロード時に、デバッグでCPUリセットを実行します。

(3) デバッグ・オプション

(a) 同じグループ内の複数のデバッグ・ターゲット・ファイルをダウンロードする

チェックすることにより、現在アクティブなプロジェクトと同じプロジェクト・グループに属するプロジェクトのデバッグ・ターゲット・ファイルを、[デバッグ・ターゲット・ファイル]で指定したファイルに続いてダウンロードします。これは、デバッグの複数ロードモジュール・ファイルのダウンロードに対応した機能です。

【注意】

このチェック・ボックスは、V850 マイクロコントローラのデバイスを使用するプロジェクトがアクティブになっている場合のみ有効です。

(b) ダウンロード・ファイル一覧

ダウンロードする同じグループのデバッグ・ターゲット・ファイルを選択します。

[同じグループ内の複数のデバッグ・ターゲット・ファイルをダウンロードする]をチェックした場合、ここでチェックされているファイルが、デバッグ起動時、[デバッグ・ターゲット・ファイル]で指定したファイルに続いてダウンロードされます。

なお、ここで指定したファイルのダウンロードの際は、シンボル・リセット、およびCPUリセットを行いません。また、一覧では、各プロジェクトにおいて、設定中のデバッグ・ターゲット・ファイルが表示されます。したがって、各プロジェクトのデバッグ・ターゲット・ファイルを変更する場合は、変更したいデバッグ・ターゲット・ファイルを生成するプロジェクトをアクティブにしたのち、このダイアログをオープンしてください。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定した内容をデバッガの設定とします。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[外部ツールの登録] ダイアログ

使用する外部ツールの登録（追加）、内容の変更、削除を行います（最大 10 個まで登録可能）。また、現在設定している内容を表示します。

図 6-107 [外部ツールの登録] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [ツール] メニュー → [外部ツールの登録 ...] を選択

各エリアの説明

(1) メニュー・リスト

現在登録している外部ツールのメニュー名が表示されます。メニュー名は、[追加...] ボタンで表示される [外部ツールの指定] ダイアログで指定した [メニュー文字列] です。

メニュー名は、[外部ツールの起動] のポップアップ・メニューとして表示します。この際のメニュー表示の順番は [メニュー・リスト] に表示している順番になります。

また、ここで設定した外部ツールは、外部ツールバーのボタンとして、設定ツールのアイコンを表示します。

ボタン	機能
追加 ...	外部ツールを登録するための [外部ツールの指定] ダイアログを表示します。追加したツールは、[メニュー・リスト] の最後に表示されます。なお、外部ツールの登録は 10 個まで可能です。したがって、10 個設定されている場合、このボタンはグレー表示となります。
編集 ...	[メニュー・リスト] で選択した項目について、[外部ツールの指定] ダイアログを表示します。
削除	[メニュー・リスト] で選択した項目を削除します。
すべて削除	[メニュー・リスト] 中の項目をすべて削除します。
↑	[メニュー・リスト] で選択した項目を、1 つ上に上げます。
↓	[メニュー・リスト] で選択した項目を、1 つ下に下げます。

(2) ツールの詳細

[メニュー・リスト] で選択している外部ツールの詳細情報 ([外部ツールの指定] ダイアログで設定した内容) を表示します。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	外部ツールの登録を行って、ダイアログを閉じます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

注意事項

- 外部ツールは、PM+ として共通の設定項目となります。プロジェクト単位では設定できません。

[外部ツールの指定] ダイアログ

使用する外部ツールの指定を行います。

図 6-108 [外部ツールの指定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [外部ツールの登録] ダイアログ → [追加 ...] ボタンをクリック
- [外部ツールの登録] ダイアログ → [編集 ...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイル名

登録する外部ツールの実行ファイル名をフルパスで指定します。入力できる文字数は、260文字までです。
[参照 ...] ボタンをクリックすると、[ファイルを開く] ダイアログからファイルを参照することができます。

(2) 実行時の引数

必要であれば、外部ツール実行時の引数を指定します。入力できる文字数は、260文字までです。

(3) 実行時のフォルダ

外部ツールを起動する際のカレント・フォルダを指定します。入力できる文字数は、260文字までです。

(4) メニューに表示する文字列

[外部ツールの起動]メニューを選択した時に、表示するメニュー名を指定します。入力できる文字数は、32文字までです。文字列を指定しない場合、ツールの実行ファイル名のパスと拡張子を除いたものになります。なお、同じ名前を複数個設定することはできません。

(5) ツールチップに表示する文字列

ツールバーのツールチップで表示する文字列を指定します。入力できる文字数は、32文字までです。

(6) ステータスバーに表示する文字列

メニューを選択した時に、ステータスバーに表示する文字列を指定します。入力できる文字数は、32文字までです。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	外部ツールの設定を行ってダイアログを閉じます。 設定したツールは、[外部ツールの登録]ダイアログの[メニュー・リスト]に表示されます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

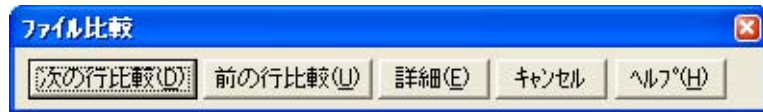
[ファイル比較] ダイアログ

2つの編集ウィンドウの内容を比較します。

図 6-109 [ファイル比較] ダイアログ



図 6-110 [ファイル比較] ダイアログ (縮小版)



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール]メニュー→[ファイル比較...]を選択

各エリアの説明

(1) 参照元ファイル

比較する参照元のファイルを設定します。

アクティブな編集ウィンドウが存在する場合は、そのファイル名が設定されます。アクティブな編集ウィンドウが存在しない場合は空白になります。

ドロップダウン・リストには、現在編集中の全ファイル・リストが表示されます。

[...] ボタンをクリックした場合、[ファイルを開く]ダイアログからファイルを選択することができます。[ファイルを開く]ダイアログでは、[階層をつけて読み込む]、[複数のファイルを1つの編集ウィンドウに読み込む]チェック・ボックス、および[階層化ルール...]ボタンは、無効になります。

(2) 参照先ファイル

比較する参照先のファイルを設定します。

参照元ファイルが1番目に開いたファイルの場合、2番目に開いたファイル名が表示されます。

参照元ファイルが1番目に開いたファイル以外の場合、1番目に開いたファイル名が表示されます。

ドロップダウン・リストには、現在編集集中の全ファイル・リストが表示されます。ただし、選択したファイルが参照元ファイルとして指定したファイルと同じである場合は、ファイル名は表示しません。

[...] ボタンをクリックした場合、[ファイルを開く]ダイアログからファイルを選択することができます。[ファイルを開く]ダイアログでは、[階層をつけて読み込む]、[複数のファイルを1つの編集ウィンドウに読み込む] チェック・ボックス、および[階層化ルール...] ボタンは、無効になります。

(3) 比較方法指定エリア**(a) たたんでいる階層も比較する**

チェックした場合は、たたんでいる階層も比較します（デフォルト）。

チェックをしていない場合は、たたんでいる階層を比較しません。

(b) 階層数の比較も含める

チェックした場合は、階層位置の差異も比較します（デフォルト）。

チェックをしていない場合は、階層位置の差異を比較しません。

(c) 比較ファイル同士並べて表示

チェックした場合は、参照元ファイルと参照先ファイルを左右に並べて表示します（デフォルト）。

チェックをしていない場合は、比較時の状態で表示します。

(4) 比較開始位置**(a) 先頭行からファイル同士の比較を始める**

チェックした場合は、ファイルの先頭行から比較を開始します（デフォルト）。

(b) キャレット位置からファイル同士の比較を始める

チェックした場合は、caret位置から比較を行います。

機能ボタン

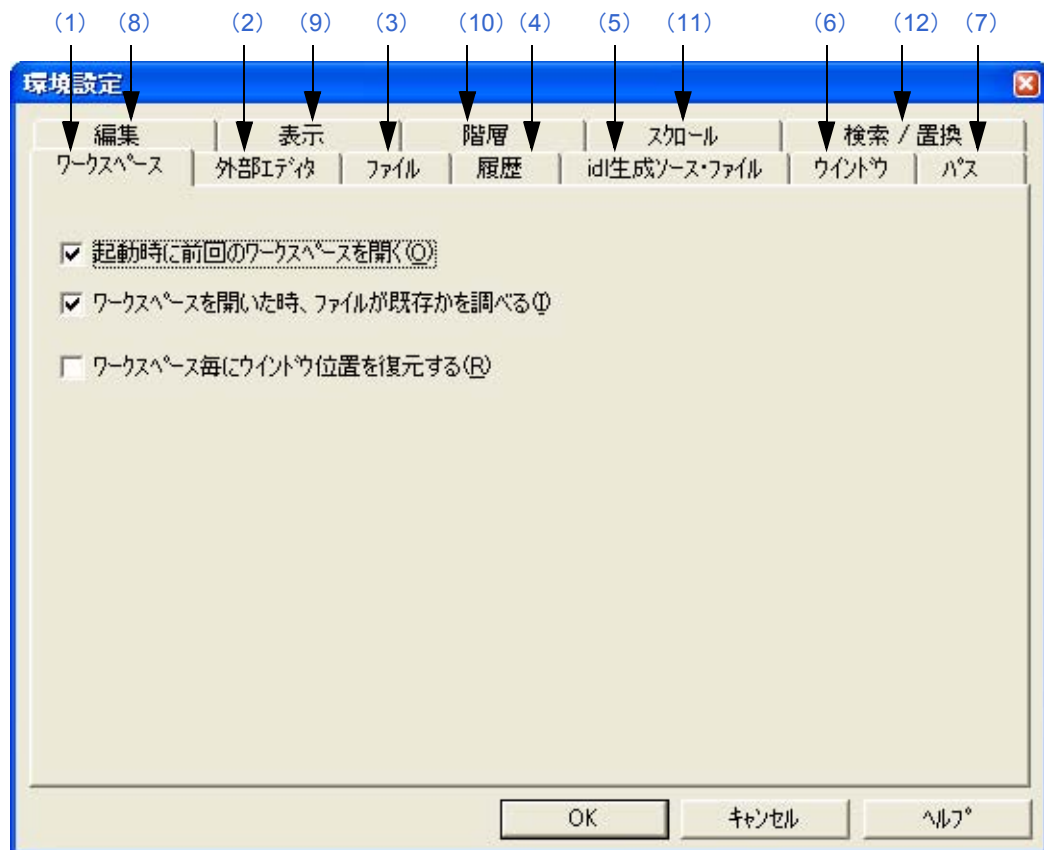
ボタン	機能
前の行比較	上方向にファイルの比較を行います。比較後、このダイアログは縮小版となります。ファイル内容に差異がある場合は、差異行へcaretが移動します。なお、このボタンは、[先頭行からファイル同士の比較を始める]をチェックしている場合は、グレー表示となります。
次の行比較	下方向にファイルの比較を行います。比較後、このダイアログは縮小版となります。ファイル内容に差異がある場合は、差異行へcaretが移動します。
詳細 (縮小版のみ)	[ファイル比較]ダイアログを元のダイアログに戻します。
キャンセル	ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[環境設定] ダイアログ

各種環境の設定を行います。各環境の設定は次のタブ上で行います。

- (1) [ワークスペース]タブ
- (2) [外部エディタ]タブ
- (3) [ファイル]タブ
- (4) [履歴]タブ
- (5) [idl生成ソース・ファイル]タブ
- (6) [ウインドウ]タブ
- (7) [パス]タブ
- (8) [編集]タブ
- (9) [表示]タブ
- (10) [階層]タブ
- (11) [スクロール]タブ
- (12) [検索/置換]タブ

図 6-111 [環境設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各タブの説明
- 機能ボタン

オープン方法

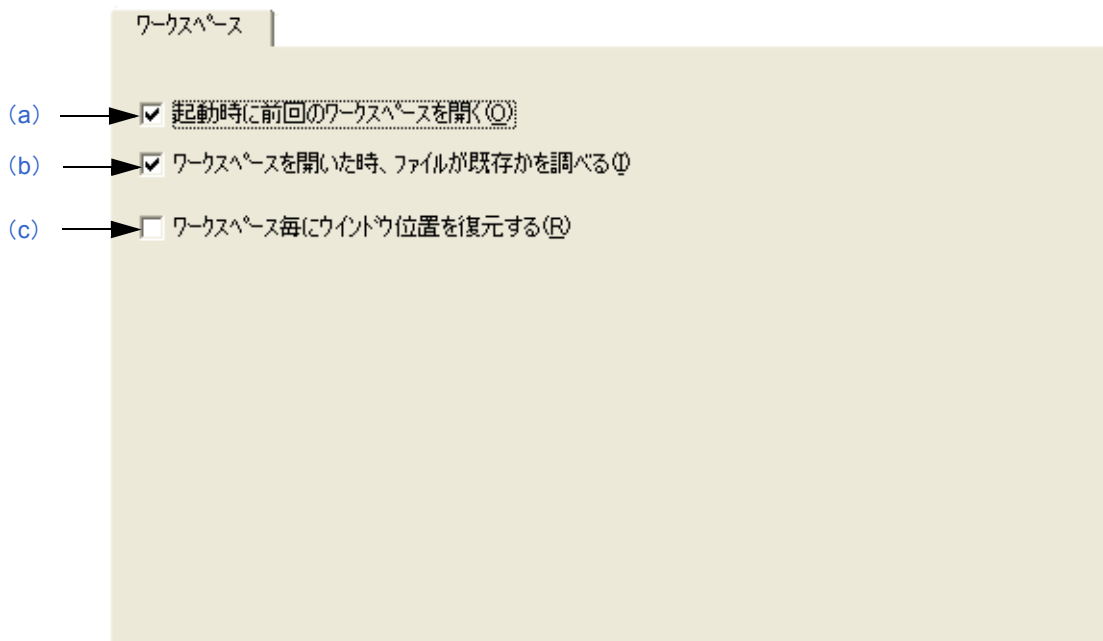
- [ツール]メニュー→[環境設定...]を選択
- **メイン・ウィンドウ**→ツールバー→[環境設定...]右クリック・メニューを選択

各タブの説明

(1) [ワークスペース]タブ

ワークスペース関係の設定を行います。

図 6-112 [環境設定]ダイアログー[ワークスペース]タブ



(a) 起動時に前回のワークスペースを開く

チェックをした場合は、PM+ 起動時、前回 PM+ 終了時のワークスペース（プロジェクト）・ファイルを開きません（デフォルト）。

(b) ワークスペースを開いた時、ファイルが既存かを調べる

チェックをした場合は、ワークスペース（プロジェクト）を開いたとき、プロジェクトに登録しているファイルが既存かを調べます（デフォルト）。

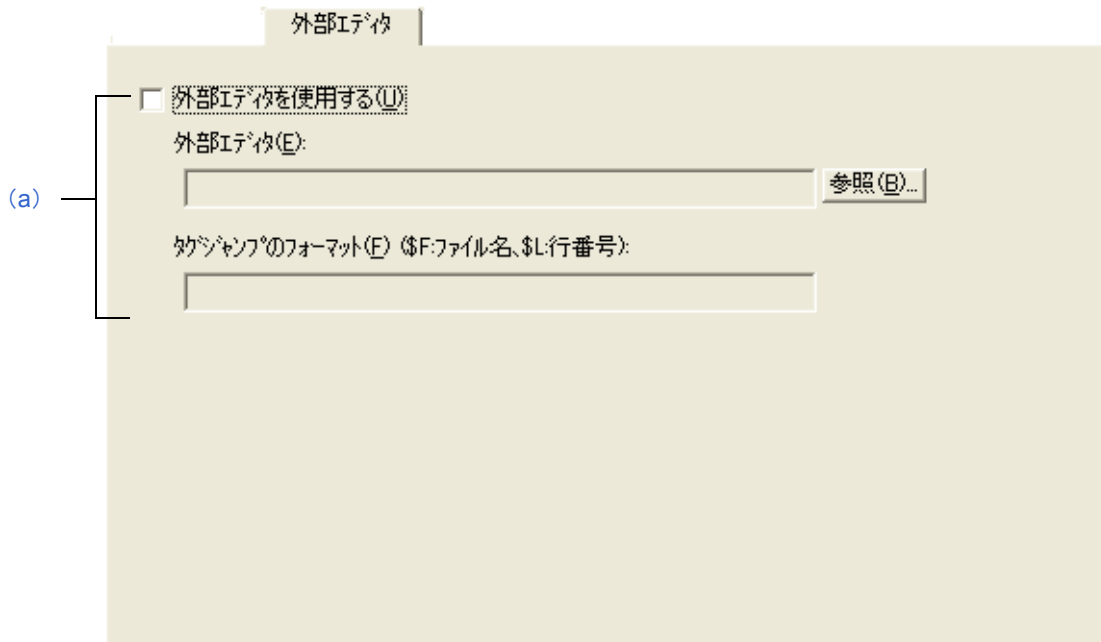
(c) ワークスペース毎にウインドウ位置を復元する

チェックをした場合は、ワークスペース毎に、前回と同じウインドウ位置でワークスペース（プロジェクト）を開きます。

(2) [外部エディタ] タブ

外部エディタの設定を行います。

図 6-113 [環境設定] ダイアログ [外部エディタ] タブ



(a) 外部エディタを使用する

チェックをした場合は、外部エディタのパス設定とタグ・ジャンプのフォーマットが入力可能になります。この設定を行うことで、秀丸などの外部エディタを PM+ から起動することができます。

- 外部エディタ

外部エディタを指定します。

[参照...] ボタンをクリックすると、参照ダイアログを表示し、エディタの選択が可能になります。

- タグジャンプのフォーマット

外部エディタ使用時、タグ・ジャンプのフォーマットを指定します。ここでは、ファイル名指定マクロ“\$F”と行番号指定マクロ“\$L”を用いて、外部エディタ固有のタグ・ジャンプ・フォーマットを指定します。フォーマットが空白である場合は、“\$F”とみなします。

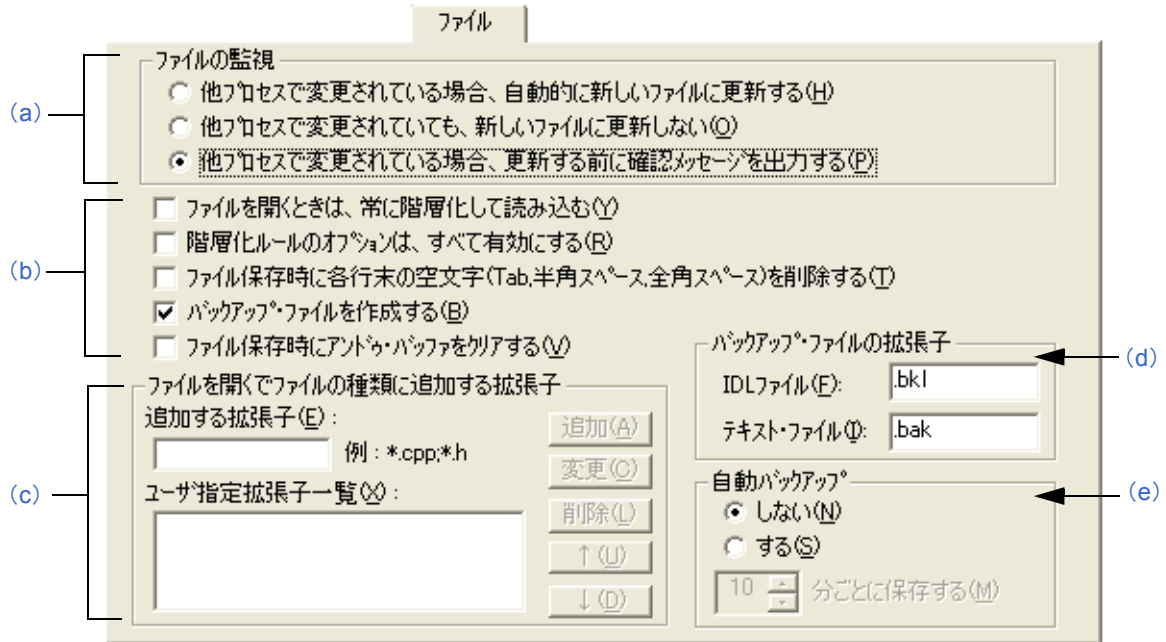
代表的なエディタの例を次に示します（詳細は、各エディタのマニュアルを参照してください）。

- ・ MIFES の場合： \$F+\$L
- ・ 秀丸の場合： /\$L \$F

(3) [ファイル] タブ

ファイル関係の設定を行います。

図 6-114 [環境設定] ダイアログ [ファイル] タブ



(a) ファイルの監視

編集中のファイルを別のアプリケーションで更新した場合の動作を指定します。

- 他プロセスで変更されている場合、自動的に新しいファイルに更新する
PM+ で開いているファイルが他のプロセス（エディタなど）で変更された場合、そのファイルを自動的に再読み込みします。
- 他プロセスで変更されていても、新しいファイルに更新しない
PM+ で開いているファイルが他のプロセス（エディタなど）で変更された場合でも、そのファイルの再読み込みは行いません。
- 他プロセスで変更されている場合、更新する前に確認メッセージを出力する
PM+ で開いているファイルが他のプロセス（エディタなど）で変更された場合、ファイルを再読み込みするかの確認メッセージを表示します（デフォルト）。

(b) ファイル設定エリア

- ファイルを開くときは、常に階層化して読み込む
チェックをすると、ファイルを開く際（ドラッグ・アンド・ドロップ、ファイルの履歴などすべて含む）、必ず階層化して読み込みます。
- 階層化ルールのオプションは、すべて有効にする
チェックをすると、ファイルを開く際に使用する階層化ルールのオプションをすべて有効にします。チェックしない場合は、[階層化ルールの設定] ダイアログの状態に従います。
- ファイル保存時に各末行の空文字（Tab、半角スペース、全角スペース）を削除する
チェックをすると、ファイルの保存時に、行末にある空文字を削除します。チェックをしない場合は、行末の空白文字を残して保存します。
- バックアップ・ファイルを作成する
チェックをすると、ファイル保存時にバックアップ・ファイルを作成します（デフォルト）。バックアップ・ファイルの拡張子は、[バックアップ・ファイルの拡張子] エリアで任意に指定できます。

- ファイル保存時にアンドウ・バッファをクリアする
チェックをすると、ファイル保存時に、アンドウ・バッファをクリアします。
また、[ファイル保存時に各末行の空文字 (Tab, 半角スペース, 全角スペース) を削除する] をチェックした場合は、この項目がチェックされ、グレー表示 (無効) になります。

(c) ファイルを開くでファイルの種類に追加する拡張子

指定した拡張子を、[ファイルを開く]ダイアログ、[名前を付けて保存]ダイアログ、[挿入読み込み]ダイアログの[ファイルの種類]のドロップダウン・リストに追加して表示します。ドロップダウン・リストに表示される順番は、ユーザ拡張子一覧で表示されるとおりの順番となります。
拡張子は、最大4個まで追加できます。

- 追加する拡張子

追加したい拡張子を入力します。複数のファイル拡張子を一つにまとめる場合は、“;”で区切り、続けて入力します。

次に例を示します。

CPP ファイルを表示させたい場合 → *.cpp

CPP ファイルと H ファイルを表示させたい場合 → *.cpp;*.h

- ユーザ指定拡張子一覧

追加された拡張子を表示します。

ボタン	機能
追加	“ユーザ指定拡張子一覧”に拡張子を追加します。
変更	“ユーザ指定拡張子一覧”で選択した拡張子を変更します。
削除	“ユーザ指定拡張子一覧”で選択した拡張子を削除します。
↑	“ユーザ指定拡張子一覧”で選択した拡張子の表示順序を1行上に上げます。
↓	“ユーザ指定拡張子一覧”で選択した拡張子の表示順序を1行下に下げます。

(d) バックアップ・ファイルの拡張子

バックアップ・ファイルを作成するときの拡張子を指定します。IDL ファイル、およびテキスト・ファイルに対して拡張子の指定が可能です。設定できる拡張子の文字数は、3文字までです。

- IDL ファイル

IDL ファイルのバックアップ・ファイルを作成する際の拡張子を指定します。デフォルトは、“bkl”です。

- テキスト・ファイル

テキスト・ファイルのバックアップ・ファイルを作成する際の拡張子を指定します。デフォルトは、“bak”です。

(e) 自動バックアップ

ファイルを編集時に“環境変数 Temp”で指定されたフォルダに自動的に保存するかを選択します。

- しない

自動バックアップは行いません (デフォルト)。

- する

設定した時間ごとにテンポラリ・ファイルを保存します。時間は1分ごとに、1分から120分まで設定可能です。

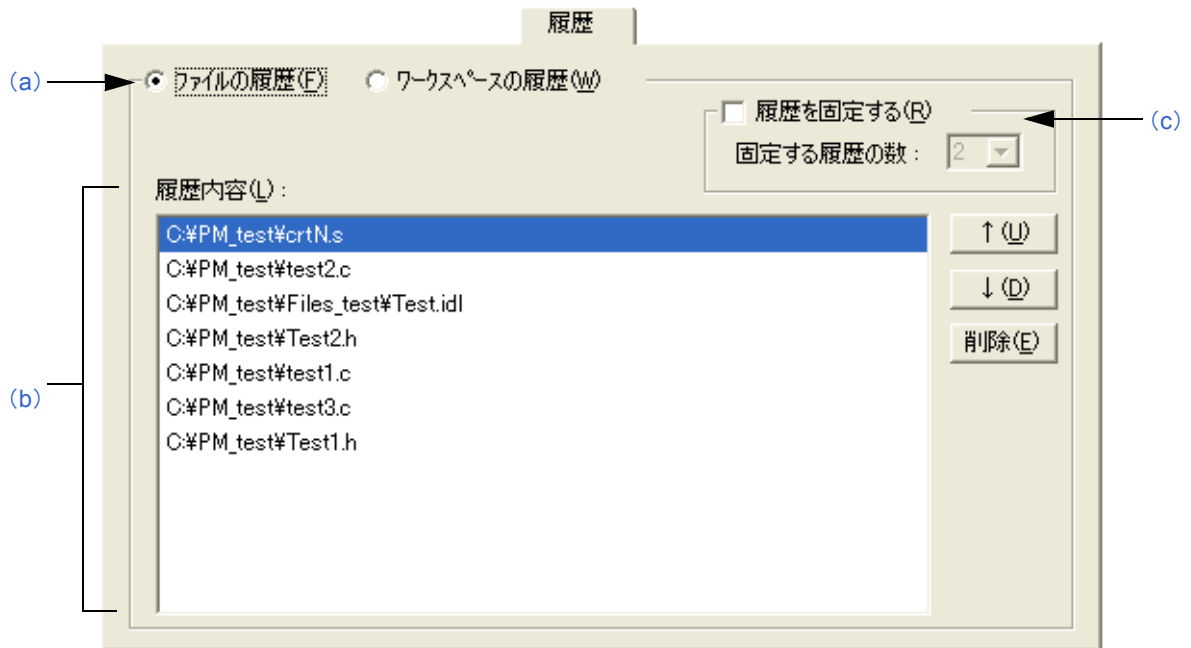
PM+ 起動中に不意のアクシデントなどにより、PM+ が不正に終了した場合、次回の PM+ 起動時に、このテンポラリ・ファイルをオープンします。

なお、テンポラリ・ファイルは、PM+ が正常終了した場合は、自動的に削除されます。

(4) [履歴] タブ

[ファイル]メニュー→[ファイルの履歴] / [ワークスペースの履歴] で表示される内容の編集を行います。

図 6-115 [環境設定] ダイアログ [履歴] タブ



(a) 履歴の種類を選択エリア

編集する履歴の種類を指定します。

- ファイルの履歴
[履歴内容]に、ファイルの履歴を一覧表示します（デフォルト）。
- ワークスペースの履歴
[履歴内容]に、ワークスペースの履歴を一覧表示します。

(b) 履歴内容

編集する履歴を指定します。

なお、履歴は複数選択することができます。

ボタン	機能
↑	選択した履歴を1つ上に移動します。 リストの一番上の履歴を選択しボタンをクリックすると、選択した履歴を一番下に移動します。 このボタンは、履歴を選択していない場合、および履歴を複数選択した場合、無効となります。
↓	選択した履歴を1つ下に移動します。 リストの一番下の履歴を選択しボタンをクリックすると、選択した履歴を一番上に移動します。 このボタンは、履歴を選択していない場合、および履歴を複数選択した場合、無効となります。
削除	選択した履歴を削除します。 このボタンは、履歴を選択していない場合、無効となります。

(c) 履歴を固定する

チェックした場合、ファイル/ワークスペースの履歴の更新時（ファイル/ワークスペースを開いたとき、または保存したとき）に、[履歴内容]の一番上の履歴から、[固定する履歴の数]で指定した個数分まで、履歴を変更しません。デフォルトでは、チェックされません。

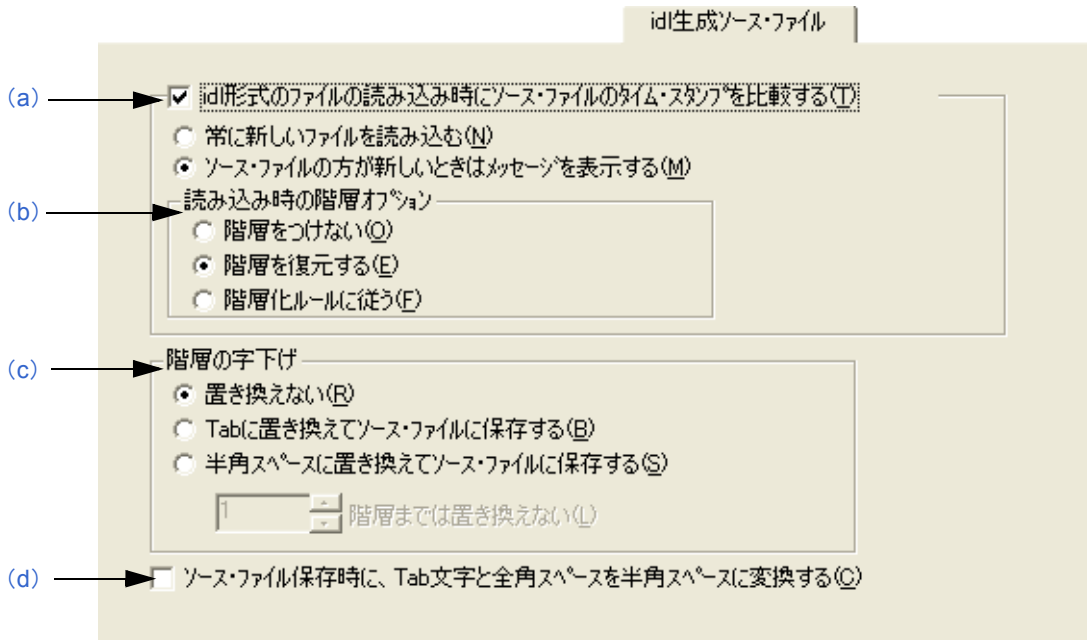
なお、[履歴内容]において、変更しない履歴の背景色は水色となります。

- 固定する履歴の数
固定する履歴の個数を指定します。1～5まで設定可能です（デフォルト：2）。

(5) [idl 生成ソース・ファイル] タブ

IDL ファイルが生成するソース・ファイル関係の設定を行います。

図 6-116 [環境設定] ダイアログ [idl 生成ソース・ファイル] タブ



(a) idl 形式のファイルの読み込み時にソース・ファイルのタイム・スタンプを比較する

チェックをすると、IDL ファイルを開くときに、IDL ファイルとソース・ファイルのタイム・スタンプを比較し、次項で選択した動作を行います（デフォルト）。

チェックしない場合は、タイム・スタンプを比較せずに IDL ファイルを読み込みます。

- 常に新しいファイルを読み込む

必ずタイム・スタンプの新しいものを読み込みます。

- ソース・ファイルの方が新しいときはメッセージを表示する（デフォルト）

IDL ファイルよりソース・ファイルの方が新しいときはメッセージを表示します。

このメッセージ・ダイアログ内において、“はい”を選択すると、そのソース・ファイルを、そのファイルと対応している第 1 階層の代わりに読み込みます。読み込む際、読み込み時の階層オプションの設定状態に従い階層づけを行います。

“いいえ”を選択すると、IDL ファイルを読み込みます（ソース・ファイルは更新されません）。

また、[すべての更新されたファイルに適用]にチェックをすると、以降に発見したソース・ファイルをすべてメッセージ表示なしに更新します。

(b) 読み込み時の階層オプション

ソース・ファイルを読み込むときの階層づけについて設定します。

- 階層をつけない

新しいソース・ファイルを読み込む際、階層をつけずに再読み込みを行います。

- 階層を復元する

新しいソース・ファイルを読み込む際、以前のソース・ファイルで設定していた階層の復元作業を行います（デフォルト）。

- 階層化ルールに従う

新しいソース・ファイルを読み込む際、階層化ルールに従い、階層化を行います。

(c) 階層の字下げ

- 置き換えない

ソース・ファイルを保存する際、階層の字下げの置き換えは行いません（デフォルト）。

- Tab に置き換えてソース・ファイルに保存する

階層の字下げを Tab に置き換えてソース・ファイルを保存します。

- 半角スペースに置き換えてソース・ファイルに保存する

階層の字下げを半角スペースに置き換えてソース・ファイルを保存します。

- x 階層までは置き換えない

指定した階層より上位階層に対しては、階層の字下げを適用しません。

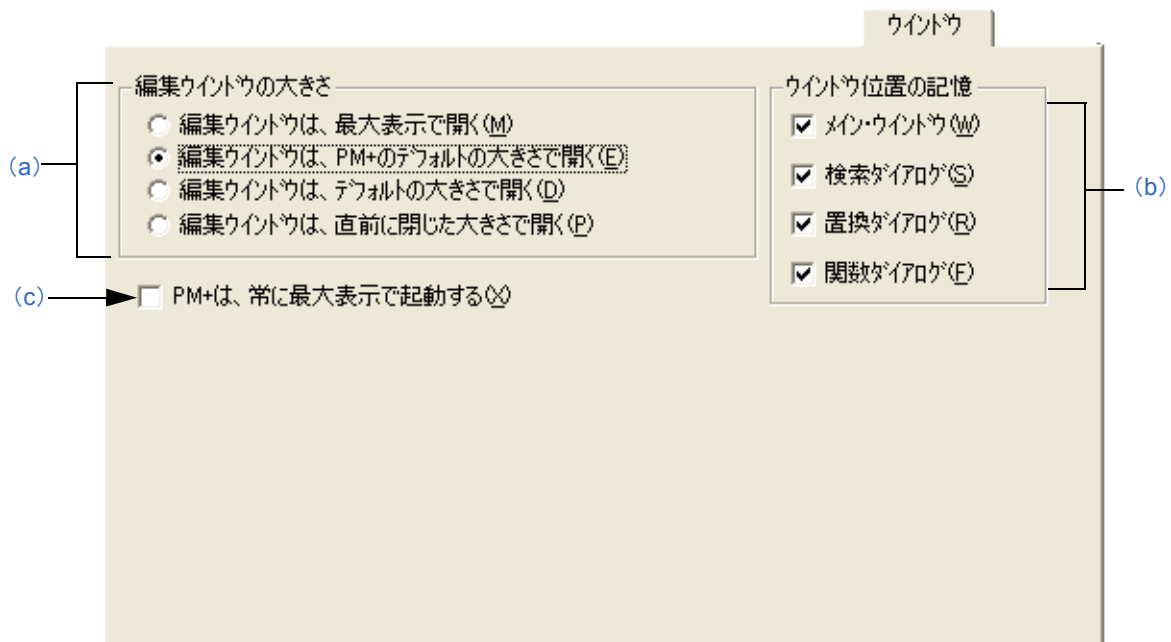
(d) ソース・ファイル保存時に、Tab 文字と全角スペースを半角スペースに変換する

チェックをすると、ソース・ファイルを保存するときに Tab 文字と全角スペースを半角スペースに置き換えて保存します。

(6) [ウィンドウ] タブ

ウィンドウ関係の設定を行います。

図 6-117 [環境設定] ダイアログ [ウィンドウ] タブ



(a) 編集ウィンドウの大きさ

編集ウィンドウを表示したときの大きさを選択します。

- 編集ウィンドウは、最大表示で開く
編集ウィンドウを最大にした状態で表示します。
- 編集ウィンドウは、PM+ のデフォルトの大きさと開く
編集ウィンドウは、PM+ の枠いっぱい（最大表示ではありません）の大きさで表示します（デフォルト）。ただし、プロジェクト・ウィンドウ、またはアウトプット・ウィンドウを表示している状態では、デフォルトの大きさで表示します。
- 編集ウィンドウは、デフォルトの大きさと開く
編集ウィンドウは、それぞれのキャプションが見えるように重ねて表示します。
- 編集ウィンドウは、直前に閉じた大きさと開く
ファイルの履歴情報に記憶されているファイルのみ直前に閉じた大きさで表示します。ファイルの履歴情報に記憶されていないファイルは、PM+ のデフォルトの大きさで表示します。

(b) ウィンドウ位置の記憶

編集中にウィンドウの位置を記憶するかを選択します。チェックをすると、ウィンドウを閉じた際に、ウィンドウ位置を記憶します。チェックを外すと、ウィンドウ位置を記憶しません。デフォルトではすべての項目がチェックされています。

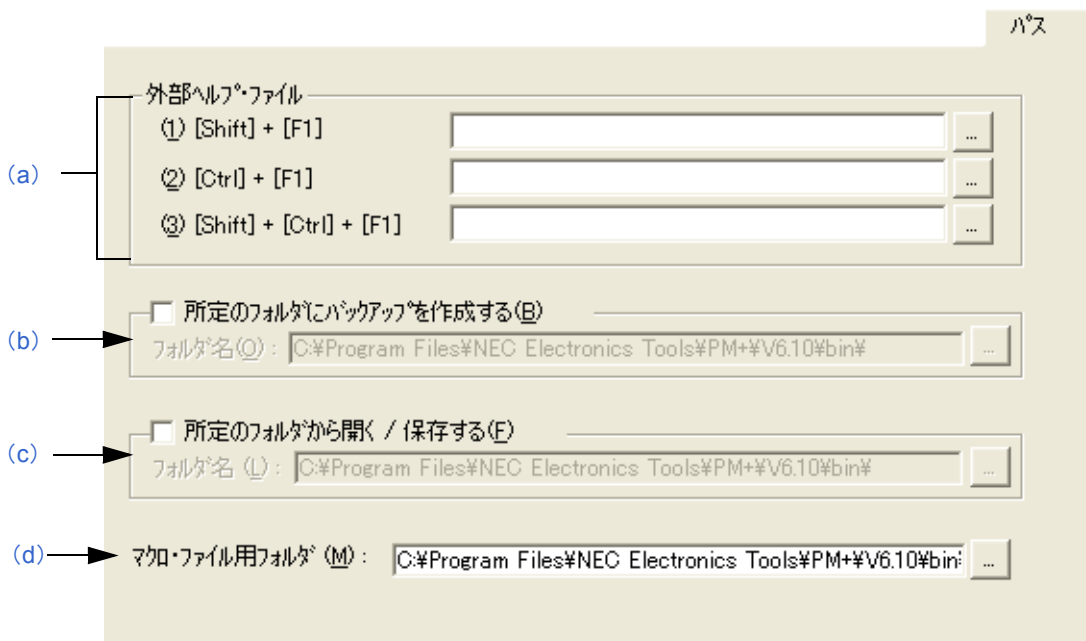
(c) PM+ は、常に最大表示で起動する

チェックをすると、直前の情報を無視し、最大表示で PM+ を起動します。

(7) [パス] タブ

パス関係の設定を行います。

図 6-118 [環境設定] ダイアログ [パス] タブ



(a) 外部ヘルプ・ファイル

編集中に参照する外部ヘルプ・ファイルのパスを指定します。

- (1) [Shift] + [F1]

[Shift] + [F1] キーで開くための外部ヘルプ・ファイルを指定します。テキスト・ボックスに直接入力する方法と、[...] ボタンによるファイルの選択が可能です。

- (2) [Ctrl] + [F1]

[Ctrl] + [F1] キーで開くための外部ヘルプ・ファイルを指定します。テキスト・ボックスに直接入力する方法と、[...] ボタンによるファイルの選択が可能です。

- (3) [Shift] + [Ctrl] + [F1]

[Shift] + [Ctrl] + [F1] キーで開くための外部ヘルプ・ファイルを指定します。テキスト・ボックスに直接入力する方法と、[...] ボタンによるファイルの選択が可能です。

(b) 所定のフォルダにバックアップを作成する

編集でファイルのバックアップ・ファイルを作成するフォルダを指定します。指定されていない場合は、編集中のファイルと同じフォルダに作成します。

指定方法は、チェック・ボックスをチェックしたのちフォルダを指定します。フォルダの指定は、テキスト・ボックスに直接入力するか、[...] ボタンによってフォルダを選択することで行います。

(c) 所定のフォルダから開く / 保存する

ファイル操作を行う際に最初に表示するフォルダを指定します。指定されていない場合、カレント・フォルダを表示します。

指定方法は、チェック・ボックスをチェックしたのちフォルダを指定します。フォルダの指定は、テキスト・ボックスに直接入力するか、[...] ボタンによってフォルダを選択することで行います。

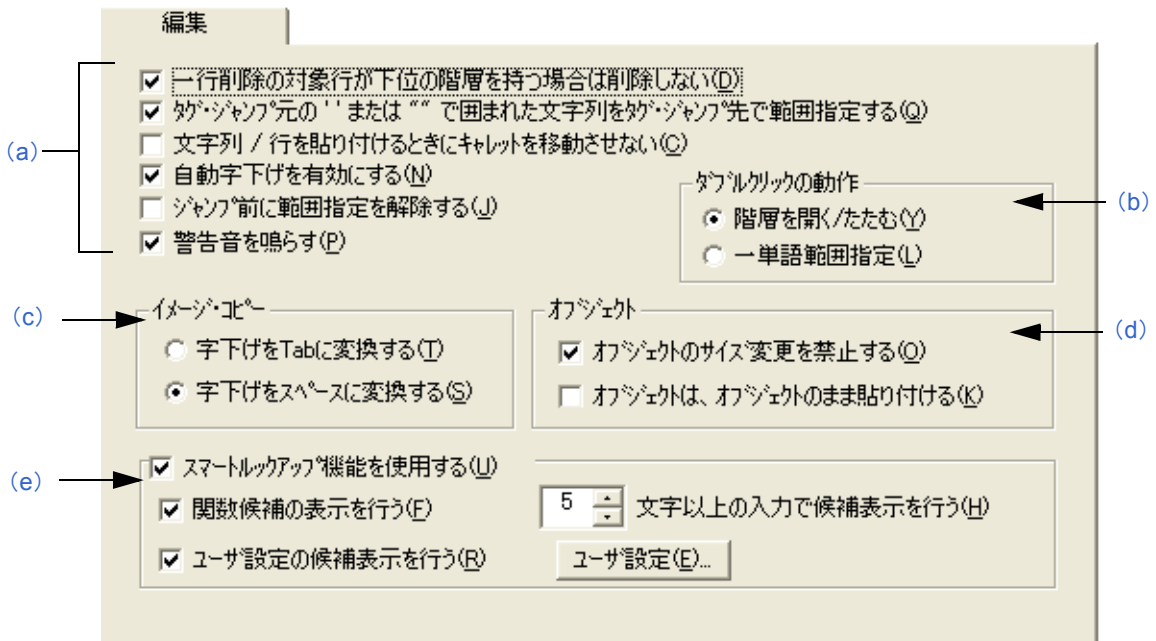
(d) マクロ・ファイル用フォルダ

マクロ・ファイルを保存するフォルダを指定します。指定されていない場合、PM+ と同じフォルダに保存します。指定方法は、テキスト・ボックスに直接入力するか、[...] ボタンによってフォルダを選択することで行います。

(8) [編集] タブ

編集関係の設定を行います。

図 6-119 [環境設定] ダイアログ [編集] タブ



(a) 編集時の設定エリア

- 一行削除の対象行が下位の階層を持つ場合は削除しない
チェックをすると、行削除コマンド実行時、削除行が下位階層を持つ場合は削除しません（デフォルト）。チェックをしていない場合、下位階層の有無に関わらず削除します。
- タグ・ジャンプ元の '' または "" で囲まれた文字列をタグ・ジャンプ先で範囲指定する
チェックをすると、タグ・ジャンプ時に、ジャンプ元の '' または "" で囲まれた文字列がジャンプ先にあれば、その文字列を範囲指定します（デフォルト）。チェックをしていない場合、範囲指定は行われません。
- 文字列 / 行を貼り付けるときに caret を移動させない
チェックをすると、文字列または行を貼り付けた前後で caret 位置が移動しません。チェックをしていない場合、貼り付けた位置に caret が移動します。
- 自動字下げを有効にする
チェックをすると、改行時、直前のインデント列に caret が移動します（デフォルト）。チェックをしていない場合、改行時には、先頭行に caret を表示します。
- ジャンプ前に範囲指定を解除する
チェックをすると、ジャンプ関連メニューを実行したときに、範囲指定を解除してから caret を移動します。チェックをしていない場合、範囲指定開始位置から caret の移動先、または最も、それに近い範囲指定可能な位置まで範囲指定しながら caret を移動させます。
- 警告音を鳴らす
チェックをすると、警告メッセージを表示する際に警告音が鳴ります。

(b) ダブルクリックの動作

ダブル・クリックの動作を選択します。

- 階層を開く / たたむ
下位階層の開閉を行います。
- 一単語範囲指定
編集ウィンドウでダブル・クリックしたとき、caret 位置を含む 1 単語を範囲指定します。

(c) イメージ・コピー

イメージ・コピーを行う際に、階層をスペースで置き換えるか、Tab で置き換えるかを選択します。

- 字下げを Tab に変換する
階層を Tab で置き換えます。
- 字下げをスペースに変換する
階層をスペースで置き換えます（デフォルト）。

(d) オブジェクト

- オブジェクトのサイズ変更を禁止する
チェックをすると、文書に貼り付けたオブジェクトのサイズ変更を行うことができません（デフォルト）。
- オブジェクトは、オブジェクトのまま貼り付ける
チェックをすると、テキスト形式での貼り付けが可能なオブジェクトでも、オブジェクトとして貼り付けます。このとき、テキスト形式で貼り付けるには、[形式を選択して貼り付け]コマンドを使用します。

(e) スマート・ルック・アップ機能を使用する

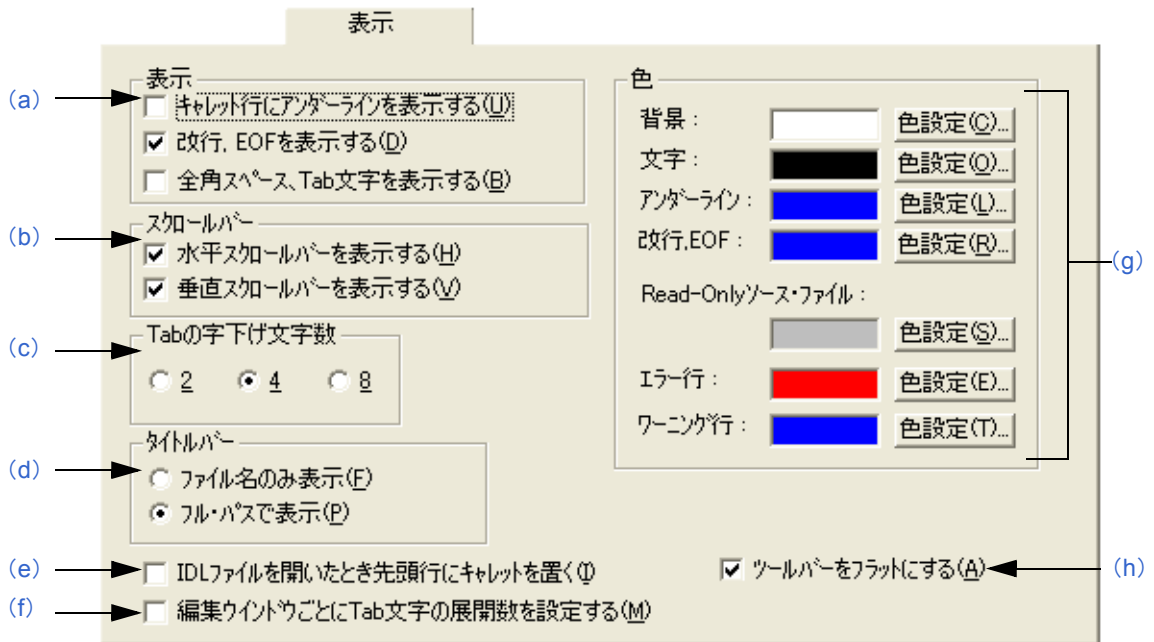
チェックをすると、スマート・ルック・アップ機能が使用できます。

- 関数候補の表示を行う
チェックをすると、設定した文字数で一致する関数名候補を表示します。
- x 文字以上の入力で候補表示を行う
関数候補の表示を行う文字数を設定します。1 ~ 30 文字まで選択可能です。デフォルトは5文字です。
- ユーザ設定の候補表示を行う
チェックをすると、任意のキーワード設定により、関数名以外の文字列を候補表示に追加することができます。キーワードの設定は、[ユーザ設定...] ボタンをクリックすることによりオープンする [\[ユーザ設定\] ダイアログ](#) により行います。

(9) [表示] タブ

ウィンドウの表示関係の設定を行います。

図 6-120 [環境設定] ダイアログ [表示] タブ



(a) 表示

- キャレット行にアンダーラインを表示する
チェックをすると、編集中の編集ウィンドウのキャレット行にアンダーラインを表示します。
- 改行, EOF を表示する
チェックをすると、改行コード (CR) を青色の “↓”, 終了コード (EOF) を “[EOF]” で表示します (デフォルト)。
- 全角スペース, Tab 文字を表示する
チェックをすると、全角スペース・コードをグレーの “□” 文字で、Tab コードをグレーの “.” で表示します。

(b) スクロールバー

- 水平スクロールバーを表示する
チェックをすると、各編集ウィンドウの下端に水平スクロールバーを表示します (デフォルト)。
- 垂直スクロールバーを表示する
チェックをすると、各編集ウィンドウの右端に垂直スクロールバーを表示します (デフォルト)。

(c) Tab の字下げ文字数

Tab の字下げ文字数を設定します。文字数は、2、4 または 8 文字から指定できます。

(d) タイトルバー

編集ウィンドウのタイトルバーを表示するときの、表示方法を選択します。

- ファイル名のみ表示
編集ウィンドウのタイトルバーをファイル名のみを表示します。
- フル・パスで表示
編集ウィンドウのタイトルバーをフル・パスで表示します (デフォルト)。

(e) IDL ファイルを開いたとき先頭行にキャレットを置く

チェックをすると、IDL ファイルを開いたときに、先頭行にキャレットを表示します。

チェックをしない場合、前回保存したときの位置にキャレットを表示します。

(f) 編集ウィンドウごとに Tab 文字の展開数を設定する

チェックをすると、各編集ウィンドウごとに Tab 文字の展開数を設定します。

チェックをしない場合、PM+ 全体の設定をします。

(g) 色

- 背景

編集ウィンドウの背景色を設定します。現在設定色は、“背景”横のテキスト・ボックスに表示します。色の変更は、[色設定...] ボタンをクリックすることにより行います。

- 文字

編集ウィンドウの文字色を設定します。現在設定色は、“文字”横のテキスト・ボックスに表示します。色の変更は、[色設定...] ボタンをクリックすることにより行います。

- アンダーライン

編集ウィンドウのアンダーライン色を設定します。現在設定色は、“アンダーライン”横のテキスト・ボックスに表示します。色の変更は、[色設定...] ボタンをクリックすることにより行います。

- 改行, EOF

編集ウィンドウの改行コードおよび EOF の色を設定します。現在設定色は、“改行, EOF”横のテキスト・ボックスに表示します。色の変更は、[色設定...] ボタンをクリックすることにより行います。

- Read-Only ソース・ファイル

IDL ファイル中のソース・ファイル中リード・オンリー・ファイル属性が設定されているファイルの文字色を設定します。現在設定色は、“Read-Only ソース・ファイル”横のテキスト・ボックスに表示します。色の変更は、[色設定...] ボタンをクリックすることにより行います。

- エラー行

アウトプット・ウィンドウのエラー行の色を設定します。
現在設定色は、“エラー行”横のテキスト・ボックスに表示します。
色の変更は、“[色設定...] ボタンをクリックすることにより行います。

- ワーニング行

アウトプット・ウィンドウのワーニング行の色を設定します。
現在設定色は、“ワーニング行”横のテキスト・ボックスに表示します。
色の変更は、“[色設定...] ボタンをクリックすることにより行います。

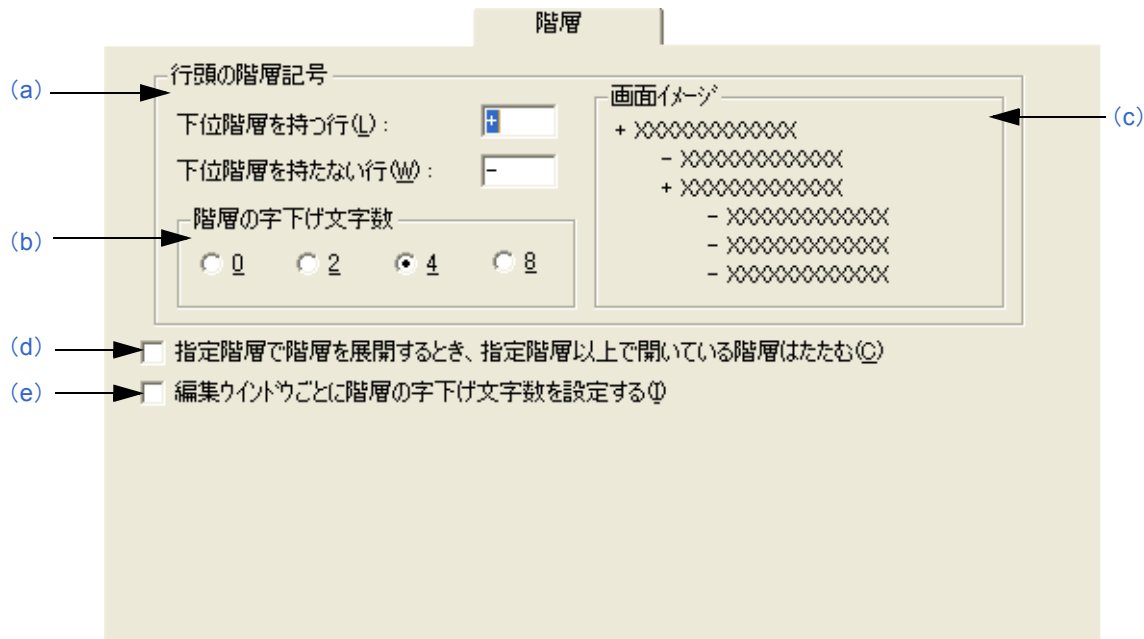
(h) ツールバーをフラットにする

チェックをすると、ツールバーをフラット表示にします（デフォルト）。

(10) [階層] タブ

階層関係の設定を行います。

図 6-121 [環境設定] ダイアログ [階層] タブ



(a) 行頭の階層記号

行頭の階層記号を設定します。

- 下位階層を持つ行

下位階層を持つ行の、行頭に表示する階層記号を設定します。デフォルトでは、'+'です。

- 下位階層を持たない行

下位階層を持たない行の、行頭に表示する階層記号を設定します。デフォルトでは、'-'です。

(b) 階層の字下げ文字数

階層を表示する場合の、1階層あたりの字下げ文字数を指定します。字下げ文字数は、0、2、4または8文字から指定できます。

(c) 画面イメージ

設定された階層記号でのイメージを表示します。

(d) 指定階層で階層を展開するとき、指定階層以上で開いている階層はたたむ

チェックをすると、[階層]メニュー→[指定階層まで開く]を選択したとき、指定階層数以上の階層はすべてたたみます。

チェックをしない場合、指定階層以上ですでに開いている階層はそのままにしておきます。

(e) 編集ウィンドウごとに階層の字下げ文字数を設定する

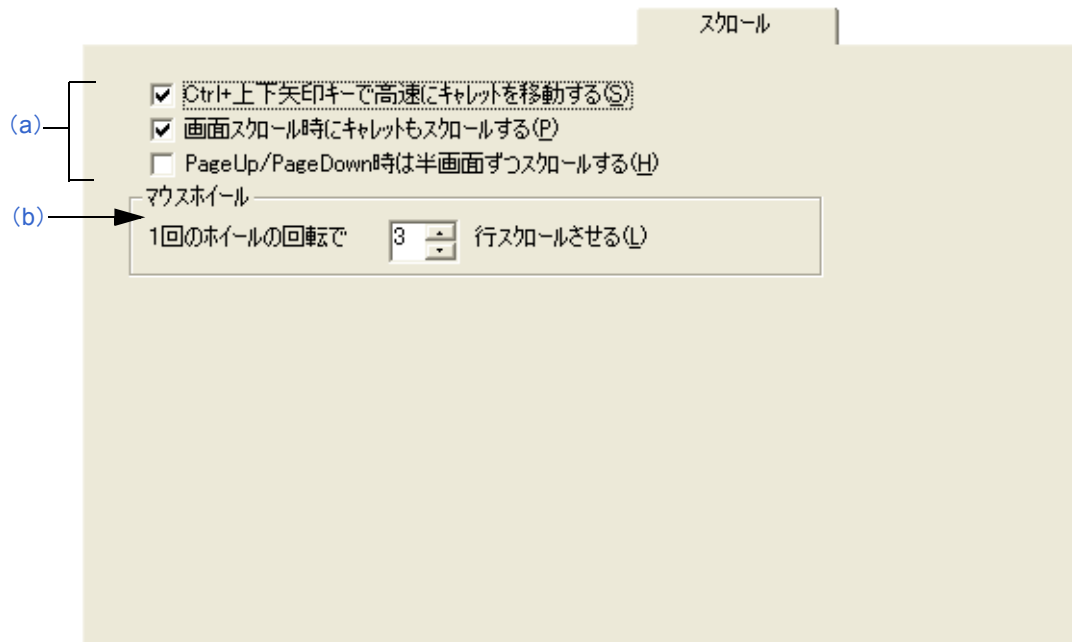
チェックをすると、**編集ウィンドウ**ごとに階層の字下げ文字数を設定します。

チェックをしない場合、PM+ 全体の設定をします。

(11) [スクロール] タブ

編集ウィンドウのスクロール関係の設定を行います。

図 6-122 [環境設定] ダイアログー [スクロール] タブ



(a) スクロール方法指定エリア

- Ctrl+ 上下矢印キーで高速にキャレットを移動する

チェックをすると、[Ctrl] + [↑] キーでキャレットを高速移動（5 行ごとに移動）します（デフォルト）。
 チェックをしない場合、高速移動は行いません。

- 画面スクロール時にキャレットもスクロールする

チェックをすると、画面スクロール時にキャレットも一緒にスクロールします（デフォルト）。
 チェックをしない場合、画面スクロール時にキャレットは移動しません。

- PageUp / PageDown 時は半画面ずつスクロールする

チェックをすると、[PageUp] / [PageDown] キーによるスクロール時に半画面ずつスクロールします。
 チェックをしない場合、通常の [PageUp] / [PageDown] キーの動作を行います（デフォルト）。

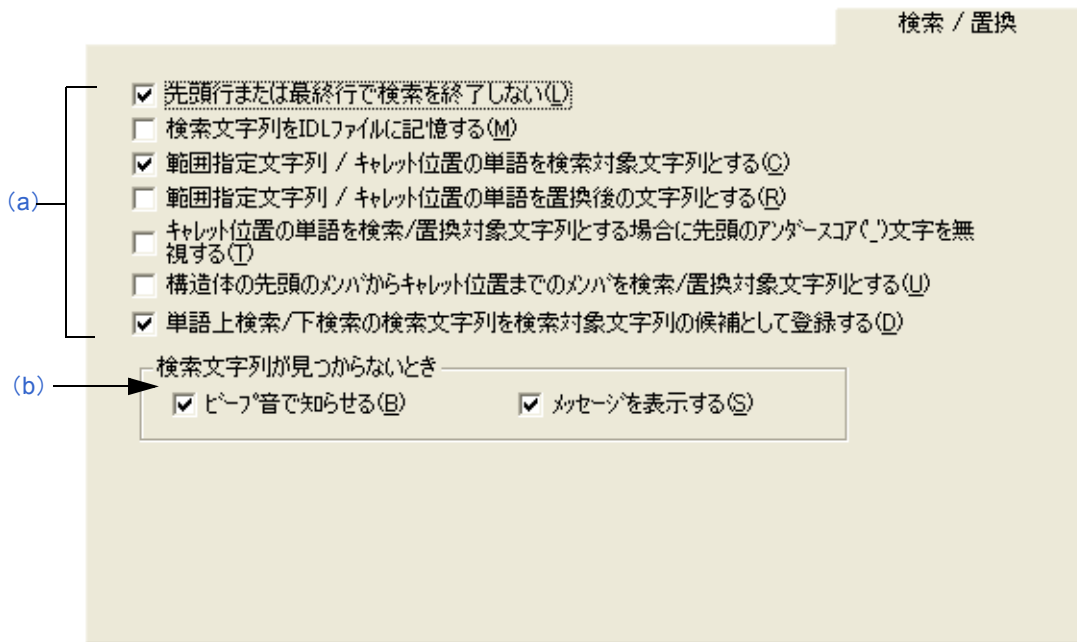
(b) マウスホイール

マイクロソフト製インテリマウスのマウス・ホイール使用時、1 回のホイールの回転でスクロールする行数を設定します。

(12) [検索／置換] タブ

検索、および置換関係の設定を行います。

図 6-123 [環境設定] ダイアログ [検索／置換] タブ



(a) 検索／置換方法指定エリア

- 先頭行または最終行で検索を終了しない

チェックをすると、検索開始位置から下向きあるいは上向きで検索を行って、最終行あるいは先頭行まで検索が終了したときに、メッセージを表示します（デフォルト）。ここで、[Enter] キー、またはメッセージに表示されているボタンをクリックすると検索を続けます。チェックをしない場合、最終行または先頭行で検索を終了します。

- 検索文字列を IDL ファイルに記憶する

チェックをすると、[\[文字列の検索\] ダイアログ](#)、[\[文字列の置換\] ダイアログ](#)、[\[グローバル検索\] ダイアログ](#) で使用した検索文字列（過去 10 回分）および検索ファイル名（過去 10 回分）を IDL ファイルに保存し、次に IDL ファイルを開いたときに保存した検索文字列、および検索ファイル名を有効にします。チェックをしない場合、レジストリに情報を保存します。

- 範囲指定文字列／キャレット位置の単語を検索対象文字列とする

チェックをすると、[\[文字列の検索\] ダイアログ](#) を表示したときに、検索文字列として文字列範囲指定している文字列を表示します（デフォルト）。チェックをしない場合、前回検索した文字列を表示します。

- 範囲指定文字列／キャレット位置の単語を置換後の文字列とする

チェックをすると、[\[文字列の置換\] ダイアログ](#) を表示したときに、置換後の文字列として文字列範囲指定している文字列を表示します。チェックをしない場合、前回置換した文字列を表示します。

- キャレット位置の単語を検索／置換対象文字列とする場合に先頭のアンダースコア('_')文字を無視する

チェックをすると、単語の先頭にあるアンダースコア “_” 文字を無視して検索対象文字列として表示します。

- 構造体の先頭のメンバからキャレット位置までのメンバを検索／置換対象文字列とする

チェックをすると、キャレット位置の単語を検索／置換対象文字列として表示する際に C 言語の構造体とみなし、構造体の先頭から対象文字列とします。構造体の認識は、“->”、または “.” で行います。次に例を示します。

pcWork->dwInfo=OLE_BIT

↑

ここにキャレットがある場合、検索対象文字列は、“pcWork->dwInfo”になります。

pcWork.dwInfo=OLE_BIT

↑

ここにキャレットがある場合、検索対象文字列は、“pcWork.dwInfo”になります。

- 単語上検索／下検索の検索文字列を検索対象文字列の候補として登録する
 チェックをすると、ダイレクト検索した文字列を、[文字列の検索]ダイアログの検索文字列の候補に加えます（デフォルト）。
 チェックをしない場合、ダイレクト検索した文字列は、検索文字列の候補に加えません。
- (b) 検索文字列が見つからないとき
 検索文字列が見つからなかったときの動作モードを指定します。
 - ビープ音で知らせる
 チェックをすると、検索終了時にビープ音を鳴らします。
 この項目は、[編集]タブ上の[警告音を鳴らす]をチェックした場合に有効となります。
 - メッセージを表示する
 チェックをすると、検索終了時にメッセージを表示します。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定した設定を有効とします。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ユーザ設定] ダイアログ

スマート・ルック・アップ機能のための、任意のキーワードを設定します。
 ダイアログは2ページ構成になっており、キーワードは最大64個まで設定することができます。
 また、このダイアログで設定したキーワードは、キーワード・ファイルとして保存することができます。キーワード・ファイルはテキスト・ファイルで、任意のエディタでも簡単に編集することができます。

図 6-124 [ユーザ設定] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [環境設定] ダイアログ - [編集] タブ → [ユーザ設定 ...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 表示するキーワード

キーワードを直接入力して設定します。キーワードは最大 64 個まで設定可能で、[<<] ボタンにより前ページを、[>>] ボタンにより次ページを表示します。

なお、設定したキーワードは、[保存] ボタンのクリックにより、“キーワード・ファイル (*.kwd)” として保存することができます。

また、[読み込み] ボタンのクリックにより、以前に保存した“キーワード・ファイル (*.kwd)”を読み込むことができ、この際に、読み込んだキーワード・ファイル名が表示されます。

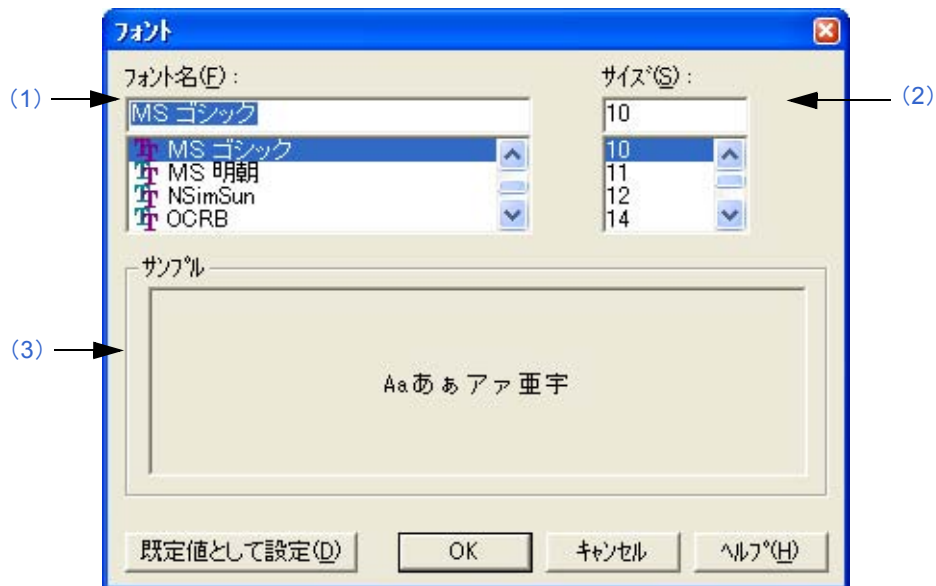
機能ボタン

ボタン	機能
初期化	設定しているキーワードをすべて消去します。読み込んでいた設定ファイルがあった場合、ファイル名をクリアします。
読み込み	[キーワード・ファイルを開く] ダイアログを表示し、指定された設定ファイルを読み込みます。このとき、以前のキーワードは削除されます。また、設定ファイルに 65 個以上のキーワードが存在した場合、65 個目以降を無視します。
保存	[キーワード・ファイルの保存] ダイアログを表示し、キーワードを設定ファイルに保存します。
OK	キーワードを設定します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[フォント] ダイアログ

編集ウィンドウに表示するフォントの種類とサイズを選択します。

図 6-125 [フォント] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール] メニュー → [フォント ...] を選択

各エリアの説明

- (1) **フォント名**
フォントの種類を指定します。
- (2) **サイズ**
フォントのサイズを指定します。
- (3) **サンプル**
現在選択しているフォントの種類とサイズでサンプルを表示します。

機能ボタン

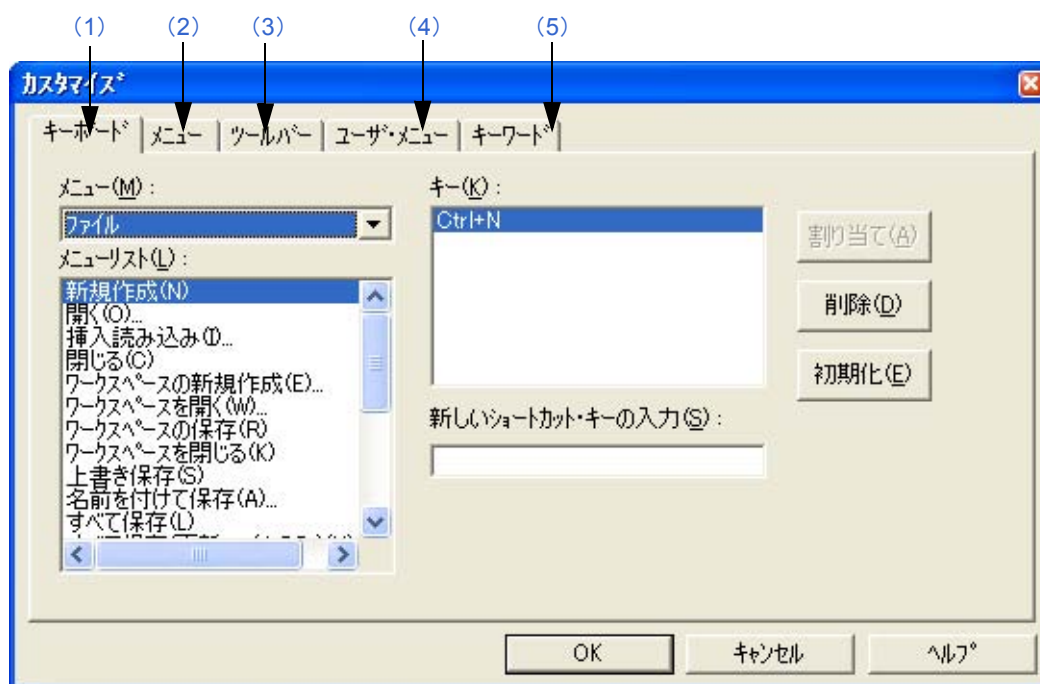
ボタン	機能
既定値として設定	編集ウィンドウを新規作成する際、ファイルを読み込む際のデフォルトのフォントとして、選択した種類とサイズのフォントを登録します。
OK	選択した種類とサイズのフォントで編集ウィンドウを表示し、ダイアログを閉じます。
キャンセル	このダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[カスタマイズ] ダイアログ

次のオプションの設定を行います。各オプションの設定は次のタブ上で行います。

- (1) [キーボード] タブ
- (2) [メニュー] タブ
- (3) [ツールバー] タブ
- (4) [ユーザ・メニュー] タブ
- (5) [キーワード] タブ

図 6-126 [カスタマイズ] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各タブの説明
- 機能ボタン

オープン方法

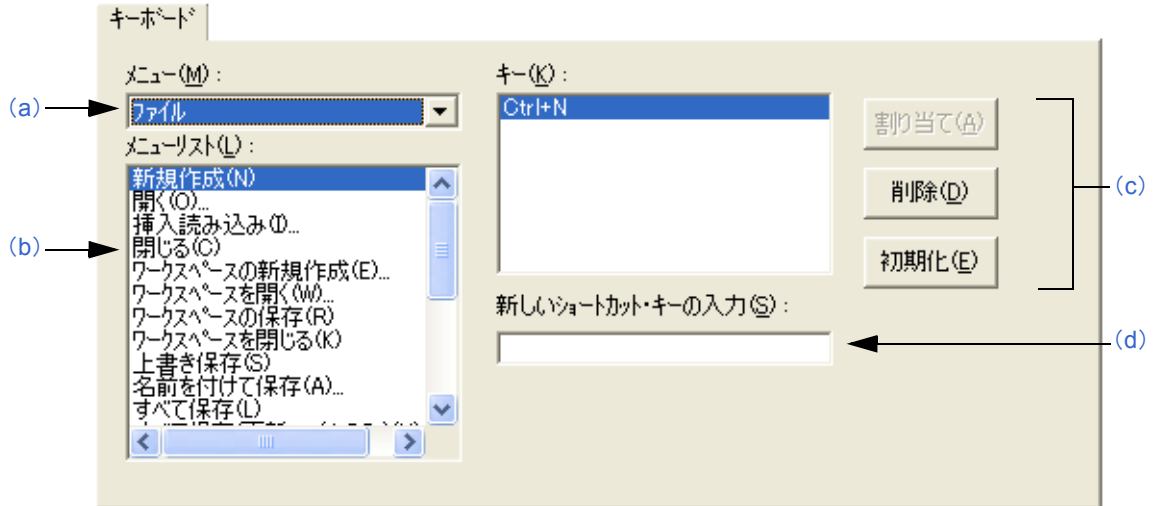
- [ツール]メニュー→[カスタマイズ...]を選択
- メイン・ウィンドウ→ツールバー→[カスタマイズ...]右クリック・メニューを選択

各タブの説明

(1) [キーボード]タブ

キーボードのオプション設定を行います。

図 6-127 [カスタマイズ]ダイアログ [キーボード]タブ



(a) メニュー

ドロップダウン・リストより、キーを割り当てるメニュー項目が含まれるメニューを選択します。

(b) メニューリスト

選択した [メニュー] に含まれる、メニュー項目の一覧を表示します。

(c) キー

[メニューリスト] で選択されているメニュー項目に対して、現在割り当てられているキーを表示します。

ボタン	機能
割り当て	選択したメニュー項目と入力したキーを関連付けます。 設定したキーが他のメニュー項目と関連付けられていた場合は、古い関連は削除されます。
削除	選択したメニュー項目に関連付けられたキーを削除します。
初期化	キー割り当てをすべてデフォルトの状態（「付録 C ショートカット・キー一覧」参照）に戻します。

(d) 新しいショートカット・キーの入力

設定したいキーをキーボードより入力すると、そのキーがエディット・ボックスに表示されます。2 ストロークのキー入力でのコマンドを実行させる場合、1 回目のキー入力後、続けて 2 回目のキーを入力をします（ただし、ショートカット・キーとして使用できない場合は、表示されません）。この際、入力したキーが、すでに他のコマンドに割り当てられている場合は、“現在の割り当て” を表示します。また、入力したキーが、2 ストロークのキーの 1 回目のキーに割り当てられている場合は、“プリフィックス・キー” と表示されます。1 つのコマンドに複数のキーを割り当てることができます。

【注意】

- 次のキー割り当てはできません。他のキーを割り当ててください。

[Alt] + [A], [Alt] + [D], [Alt] + [E], [Alt] + [Shift] + [A], [Alt] + [Shift] + [D], [Alt] + [Shift] + [E]

- [ヘルプ] メニュー → [外部ヘルプ] はショートカット・キーを変更することはできません。

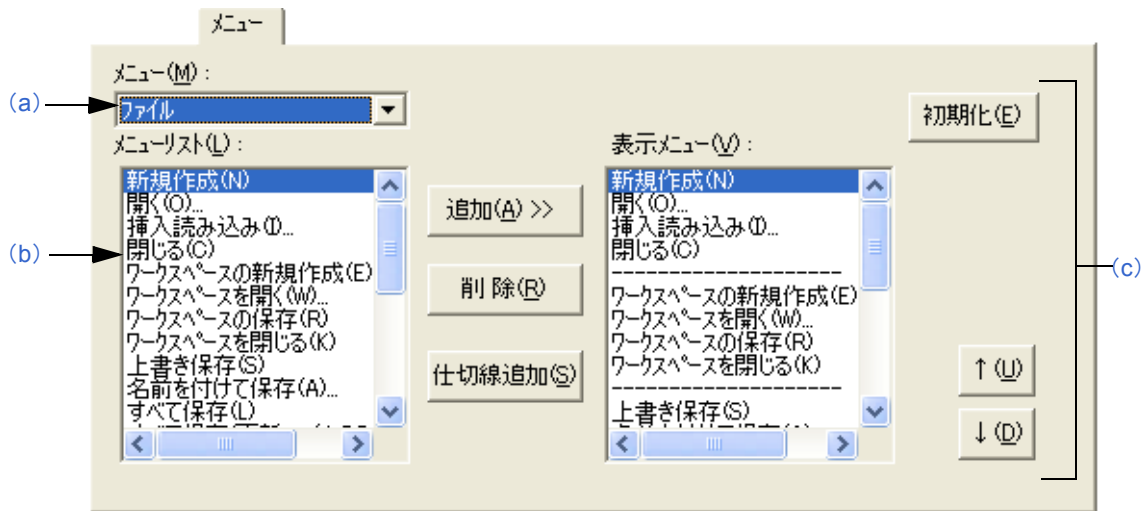
- [編集] メニュー → [削除] のショートカット・キーは [Delete] キーが割り当てられていますが、[Delete] キーの変更はできません。ただし、[Delete] キー以外のキー割り当ては可能です。

- [編集] メニュー → [オブジェクト] をショートカット・キーに割り当てた場合、[オブジェクト] メニューに割り当てたショートカット・キーは表示されません。

(2) [メニュー] タブ

メニュー項目のカスタマイズを行います。

図 6-128 [カスタマイズ] ダイアログ [メニュー] タブ



(a) メニュー

ドロップダウン・リストより、カスタマイズしたいメニューを選択します。

(b) メニューリスト

選択した [メニュー] より引き出すことが可能なメニュー項目の一覧を表示します。

(c) 表示メニュー

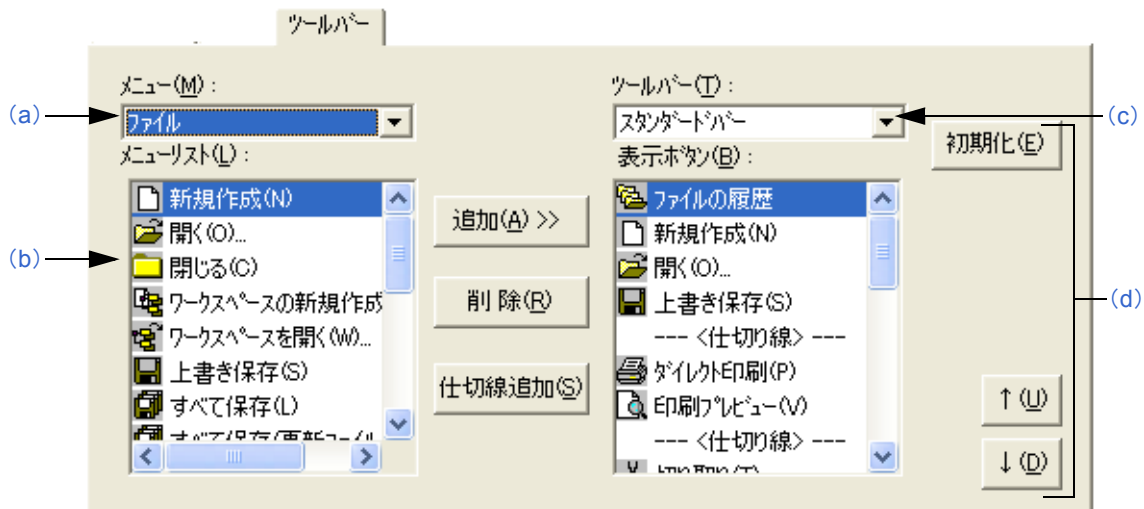
現在表示設定しているメニュー項目を表示します。

ボタン	機能
追加 >>	[表示メニュー] で選択している位置に、[メニューリスト] で選択されている項目を挿入します。
削除	[表示メニュー] で選択されている項目を削除します。
仕切線追加	[表示メニュー] で選択されている項目の位置に仕切線を挿入します。
初期化	変更を無効にし、デフォルトの状態に戻します。
↑	[表示メニュー] で選択されている項目を上に移動します。
↓	[表示メニュー] で選択されている項目を下に移動します

(3) [ツールバー] タブ

ツールバーのカスタマイズを行います。

図 6-129 [カスタマイズ] ダイアログ [ツールバー] タブ



(a) メニュー

ドロップダウン・リストより、設定するメニュー項目が含まれるメニューを選択します。

(b) メニューリスト

選択した [メニュー] に含まれる、ボタンとメニュー項目の一覧を表示します。

(c) ツールバー

カスタマイズしたいツールバーを選択します。

[スタンダードバー] と [ビルドバー] のカスタマイズが行えます。

(d) 表示ボタン

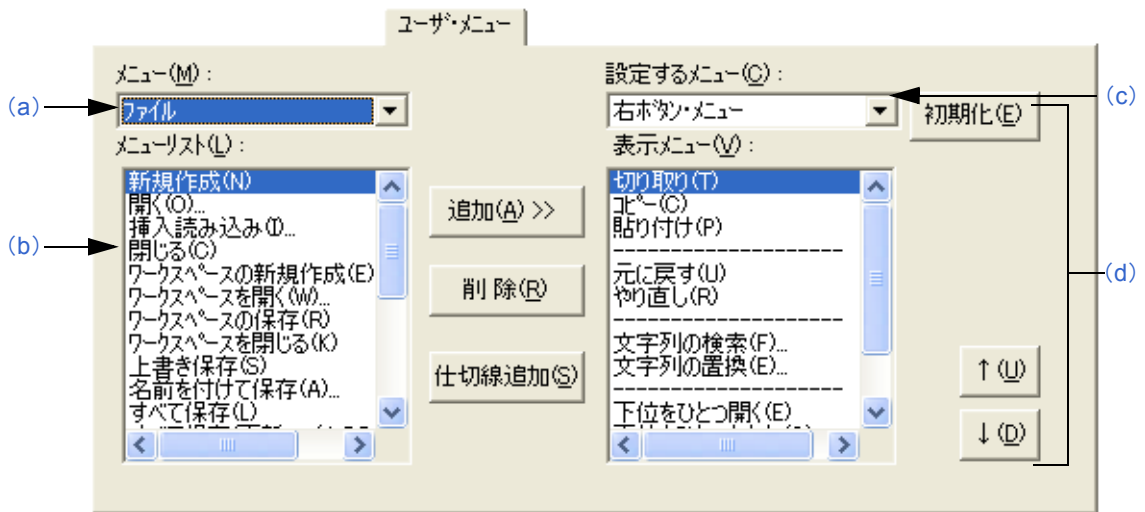
現在表示設定しているボタンとメニュー項目を表示します。

ボタン	機能
追加 >>	[表示ボタン] で選択している位置に、[メニューリスト] で選択されている項目を挿入します。
削除	[表示ボタン] で選択されている項目を削除します。
仕切線追加	[表示ボタン] で選択されている項目の位置に仕切線を挿入します。
初期化	[ツールバー] の内容に対して、変更を無効にし、デフォルトの状態に戻します。
↑	[表示ボタン] で選択されている項目を上に移動します。
↓	[表示ボタン] で選択されている項目を下に移動します。

(4) [ユーザ・メニュー] タブ

マウスの右ボタンで表示するメニュー、またはショートカット・キーに割り当てて表示するメニューのカスタマイズを行います。

図 6-130 [カスタマイズ] ダイアログ [ユーザ・メニュー] タブ



(a) メニュー

ドロップダウン・リストより、カスタマイズしたいメニューを選択します。

(b) メニューリスト

選択した [メニュー] より引き出すことが可能なメニュー項目の一覧を表示します。

(c) 設定するメニュー

カスタマイズしたい項目を選択します。

(d) 表示メニュー

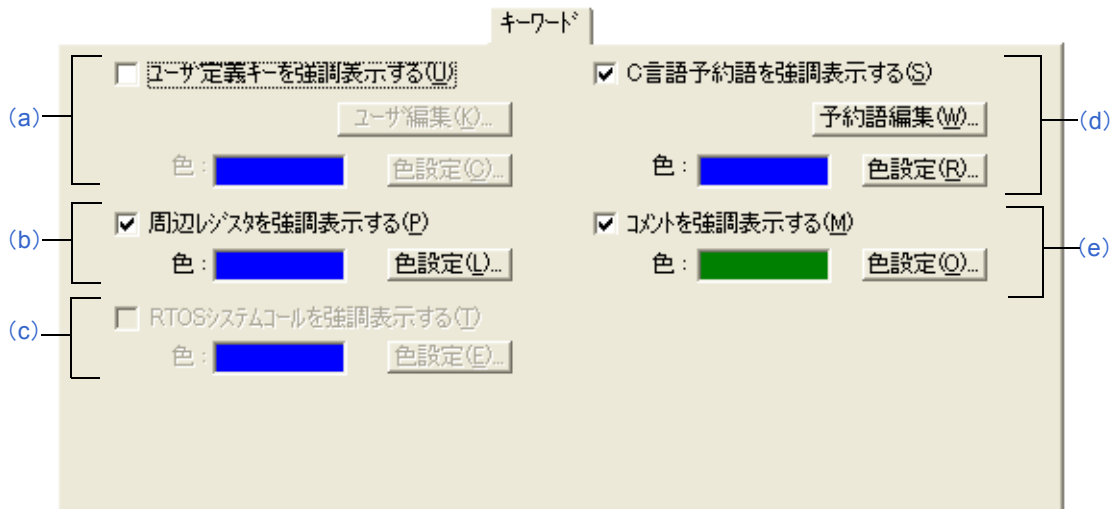
現在表示設定しているメニュー項目を表示します。

ボタン	機能
追加 >>	[表示メニュー] で選択している位置に、[メニューリスト] で選択されている項目を挿入します。
削除	[表示メニュー] で選択されている項目を削除します。
仕切線追加	[表示メニュー] で選択されている項目の位置に仕切線を挿入します。
初期化	[設定するメニュー] の内容に対して、変更を無効にし、デフォルトの状態に戻します。
↑	[表示ボタン] で選択されている項目を上に移動します。
↓	[表示ボタン] で選択されている項目を下に移動します。

(5) [キーワード] タブ

色を付けて強調表示するキーワードの設定を行います。

図 6-131 [カスタマイズ] ダイアログ [キーワード] タブ



(a) ユーザ定義キーを強調表示する

チェックをすると、ユーザが定義したキーワードを設定した色で表示します。

キーワードの設定は、[ユーザ編集...] ボタンをクリックするとオープンする [\[ユーザ定義キーワードの編集\] ダイアログ](#) により行います。

色の設定は、[色設定...] ボタンをクリックするとオープンする [\[色の設定\]](#) ダイアログにより行います。

(b) 周辺レジスタを強調表示する

チェックをすると、プロジェクトで使用するデバイスの周辺レジスタ名称を、設定した色で表示します（デフォルト）。

色の設定は、[色設定...] ボタンをクリックするとオープンする [\[色の設定\]](#) ダイアログにより行います。

(c) RTOS システムコールを強調表示する

チェックをすると、リアルタイム OS のキーワード（システム・コール）を設定した色で表示します。

なお、このチェック・ボックスは、対応しているバージョンのリアルタイム OS がインストールされている場合のみ有効です。

色の設定は、[色設定...] ボタンをクリックするとオープンする [\[色の設定\]](#) ダイアログにより行います。

(d) C 言語予約語を強調表示する

チェックをすると、C 言語のキーワードを設定した色で表示します。

C 言語のキーワードはデフォルトで設定されていますが、[予約語編集...] ボタンをクリックするとオープンする [\[C 言語予約語の編集\] ダイアログ](#) により、ユーザがカスタマイズすることが可能です。

色の設定は、[色設定...] ボタンをクリックするとオープンする [\[色の設定\]](#) ダイアログにより行います。

(e) コメントを強調表示する

チェックをすると、コメント部分を設定した色で表示します。

IDL ファイルの場合、[ファイル] メニュー → [ソースファイル名の変更] で設定しているコメント記号によりコメントの強調表示を行います。

色の設定は、[色設定...] ボタンをクリックするとオープンする [\[色の設定\]](#) ダイアログにより行います。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	設定を終了し、ダイアログを閉じます。
キャンセル	変更した設定を無効にし、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ユーザ定義キーワードの編集] ダイアログ

任意の文字列を強調表示するためのユーザ定義キーワードを編集します。
ダイアログは2ページ構成になっており、キーワードは最大64個まで設定することができます。
また、このダイアログで設定したキーワードは、キーワード・ファイルとして保存することができます。キーワード・ファイルはテキスト・ファイルで、任意のエディタでも簡単に編集することができます。

図 6-132 [ユーザ定義キーワードの編集] 集ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール] メニュー → [カスタマイズ ...] - [キーワード] タブ → [ユーザ編集 ...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 強調するキーワード

キーワードを直接入力して設定します。半角 32 文字以内のキーワードを最大 64 個まで設定することができます。

ボタン	機能
<<	キーワード・リストの前頁を表示します。
>>	キーワード・リストの次頁を表示します。

機能ボタン

ボタン	機能
初期化	設定しているキーワードをすべて消去します。読み込んでいた設定ファイルがあった場合、ファイル名をクリアします。
読み込み	[キーワード・ファイルを開く] ダイアログを表示し、以前に保存した“キーワード・ファイル (*.kwd)”を読み込み、読み込んだキーワード・ファイル名が表示されます。このとき、以前のキーワードは削除されます。また、“キーワード・ファイル (*.kwd)”に 65 個以上のキーワードが存在した場合、65 個目以降を無視します。
保存	[キーワード・ファイルの保存] ダイアログを表示し、キーワードを“キーワード・ファイル (*.kwd)”に保存します。
OK	ユーザ定義キーワードを設定します。
キャンセル	変更した設定を無効にし、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[C 言語予約語の編集] ダイアログ

C 言語の予約語を強調表示するためのキーワードを編集します。

ダイアログは 2 ページ構成になっており、キーワードは最大 64 個まで設定することができます。

図 6-133 [C 言語予約語の編集] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール]メニュー→[カスタマイズ...] - [キーワード]タブ→[予約語編集...] ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) 強調するキーワード

キーワードを直接入力して設定します。半角 32 文字以内のキーワードを最大 64 個まで設定することができます。

ボタン	機能
<<	強調するキーワード・リストの前頁を表示します。
>>	強調するキーワード・リストの次頁を表示します。

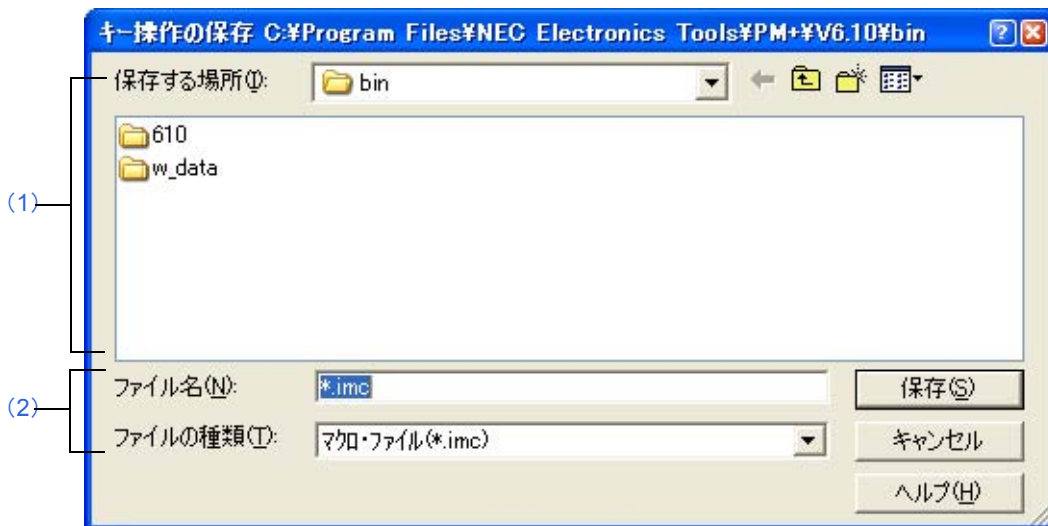
機能ボタン

ボタン	機能
初期化	設定するキーワードをすべて消去し、デフォルトの予約語のみ表示します。 【デフォルトの予約語】 __asm, auto, break, case, char, const, continue, default, do, double, else, enum, extern, float, for, goto, if, int, long, register, return, short, signed, sizeof, static, struct, switch, typedef, union, unsigned, void, volatile, while
OK	設定を終了し、ダイアログを閉じます。
キャンセル	変更した設定を無効にし、ダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[キー操作の保存] ダイアログ

記録したキー操作をファイルに保存します。

図 6-134 [キー操作の保存] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン
- 注意事項

オープン方法

- [ツール] メニュー → [キー操作の保存 ...] を選択

各エリアの説明

(1) 保存する場所

ファイルを保存するフォルダが表示されます。[ツール] メニュー → [環境設定 ...] - [パス] タブで設定している“マクロファイル用フォルダ”が表示されます。指定がない場合、起動した PM+ と同じフォルダになります。なお、ここでは、保存するフォルダの変更はできません。フォルダを変更する場合、[ツール] メニュー → [環境設定 ...] - [パス] タブで、“マクロ・ファイル用フォルダ”の指定を変更してください。

(2) ファイル名、ファイルの種類

保存するファイル名を指定します。“imc”以外のファイルの拡張子は指定できません。したがって、ファイルの種類は“マクロ・ファイル(*.imc)”固定です。

機能ボタン

ボタン	機能
保存	指定した名前でファイルを保存します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

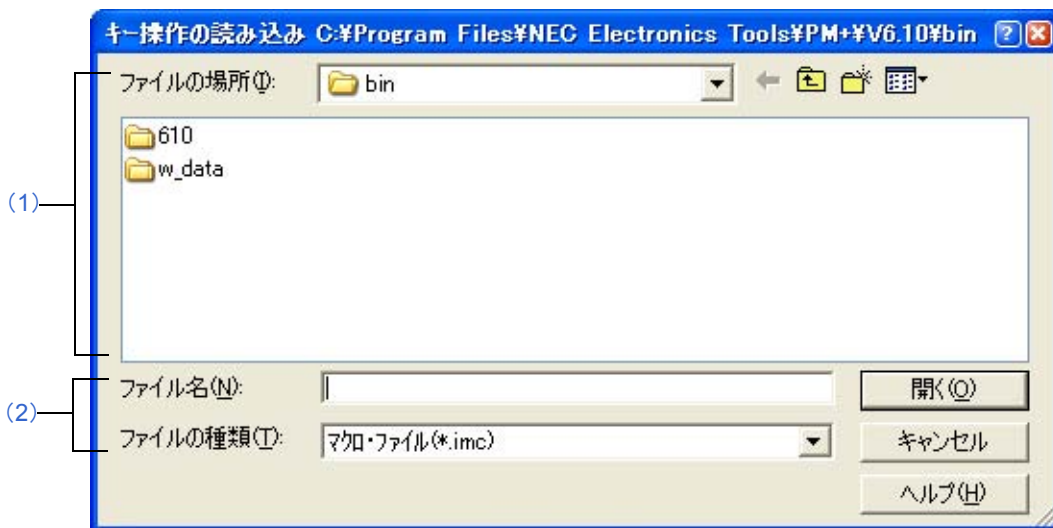
注意事項

- 保存先のマクロ・ファイル (*.imc) には、各キー操作に対応するコマンドが記述されます。マクロ・ファイルはテキスト形式で、参照や修正を行うことができます。また、規定された書式に従って、マクロ・ファイルに追加することも可能です（「[付録 B キーボード・マクロ用コマンド一覧](#)」参照）。

[キー操作の読み込み] ダイアログ

保存したマクロ・ファイルを読み込みます。

図 6-135 [キー操作読み込み] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール] メニュー → [キー操作の読み込み ...] を選択

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

読み込むマクロ・ファイルがあるフォルダが表示されます。[ツール] メニュー → [環境設定 ...] - [パス] タブで設定している“マクロファイル用フォルダ”が表示されます。指定がない場合、起動した PM+ と同じフォルダになります。

なお、ここでは、フォルダの変更はできません。フォルダを変更する場合、[ツール] メニュー → [環境設定 ...] - [パス] タブで、“マクロ・ファイル用フォルダ”の指定を変更してください。

(2) ファイル名、ファイルの種類

読み込むマクロ・ファイル名を指定します。“imc”以外のファイルの拡張子は指定できません。

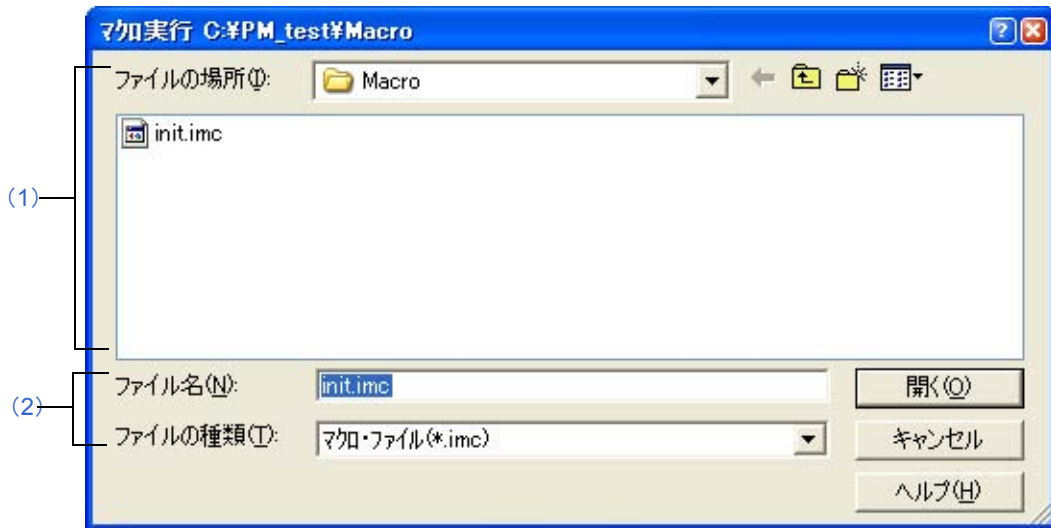
機能ボタン

ボタン	機能
開く	指定した名前でファイルを開きます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[マクロ実行] ダイアログ

保存したマクロ・ファイルからキー操作を読み込み、マクロを実行します

図 6-136 [マクロ実行] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール]メニュー→[マクロ実行...]を選択

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

実行するマクロ・ファイルがあるフォルダが表示されます。[ツール]メニュー→[環境設定...]→[パス]タブで設定している“マクロファイル用フォルダ”が表示されます。指定がない場合、起動したPM+と同じフォルダになります。

なお、ここでは、フォルダの変更はできません。フォルダを変更する場合、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[パス]タブで、“マクロ・ファイル用フォルダ”の指定を変更してください。

(2) ファイル名、ファイルの種類

実行するマクロ・ファイル名を指定します。“imc”以外のファイルの拡張子は指定できません。

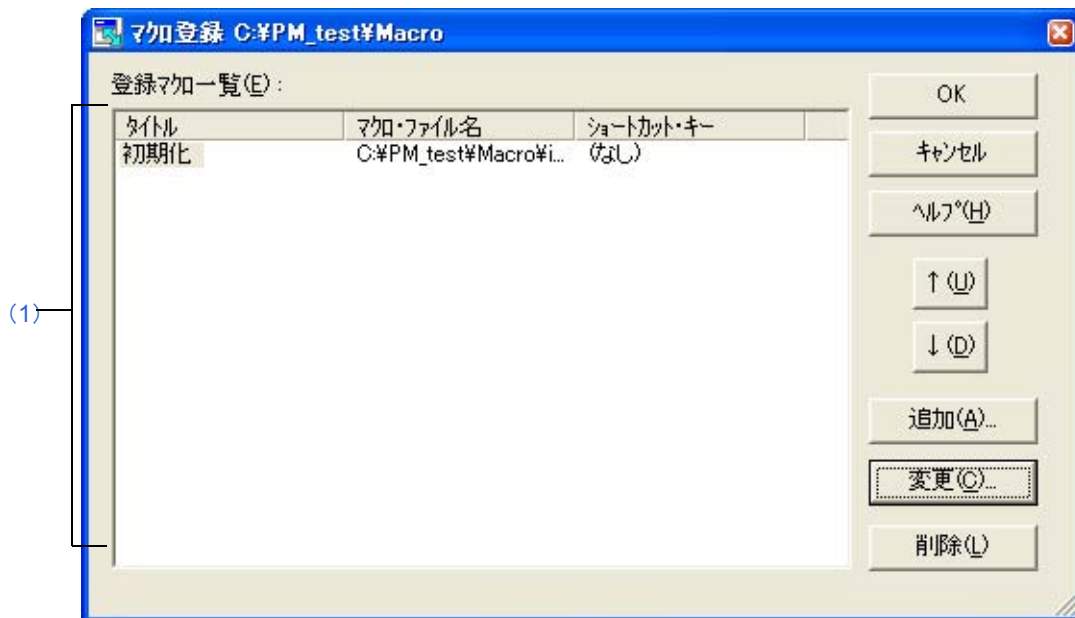
機能ボタン

ボタン	機能
開く	指定した名前でファイルを開き、保存されているマクロを実行します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[マクロ登録] ダイアログ

マクロ・ファイルをキーに登録します。

図 6-137 [マクロ登録] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール]メニュー→[マクロ登録...]を選択

各エリアの説明

(1) 登録マクロ一覧

登録済みのマクロ・ファイルの一覧が表示されます。上から表示されている順に、[登録マクロ実行]メニューに追加されます。

登録マクロの選択は、タイトルを選択することにより行います。

(a) タイトル

登録済みのマクロのタイトルが表示されます。タイトルは、[追加...]または[変更...]ボタンにより設定します。また、タイトルに表示されている文字列をクリックで選択し、再度マウス・ボタンでクリックすることにより、変更することができます。設定したタイトルは、[登録マクロの実行]に追加される際のメニュー文字列となります。

(b) マクロ・ファイル名

登録済みのマクロ・ファイル名が表示されます。

(c) ショートカット・キー

マクロ・ファイルに設定したショートカット・キーが表示されます。ショートカット・キーの設定は、[ツール]メニュー→[カスタマイズ...]→[キーボード]タブにより行います。

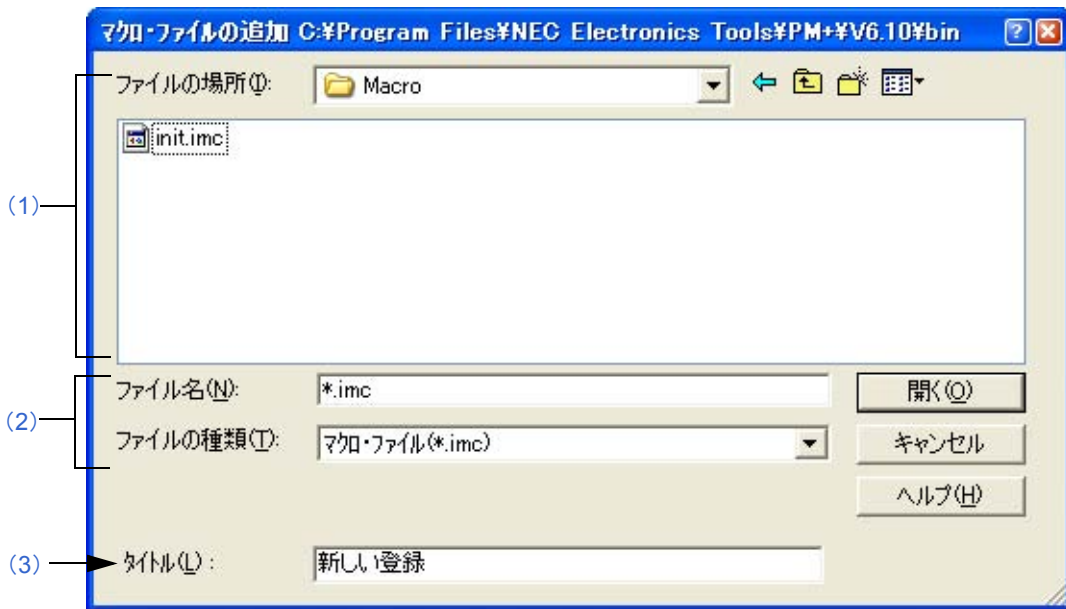
機能ボタン

ボタン	機能
OK	指定した項目を有効にして、ダイアログを閉じます。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。
↑	選択しているマクロが上に一つ上がります。
↓	選択しているマクロが下に一つ下がります。
追加 ...	[マクロ・ファイルの追加]ダイアログが表示され、新たにマクロを登録します。登録できるマクロの数は、32個までです。
変更	[マクロ・ファイルの変更]ダイアログが表示され、登録マクロ一覧で選択しているマクロの登録内容を変更します。
削除	選択しているマクロの登録を削除します。

[マクロ・ファイルの追加] ダイアログ

マクロ・ファイルをマクロ登録に追加します。

図 6-138 [マクロ・ファイルの追加] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール]メニュー→[マクロ登録...]→[追加]ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

登録するマクロ・ファイルがあるフォルダが表示されます。[ツール]メニュー→[環境設定...]→[パス]タブで設定している“マクロファイル用フォルダ”が表示されます。指定がない場合、起動したPM+と同じフォルダになります。

なお、ここでは、フォルダの変更はできません。フォルダを変更する場合、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[パス]タブで、“マクロ・ファイル用フォルダ”の指定を変更してください。

(2) ファイル名、ファイルの種類

登録するマクロ・ファイル名を指定します。“imc”以外のファイルの拡張子は指定できません。

(3) タイトル

登録マクロのタイトルを指定します。設定可能な文字数は、32文字までです。ここで指定した文字列は、[登録マクロの実行]に追加される際のメニュー文字列となります。

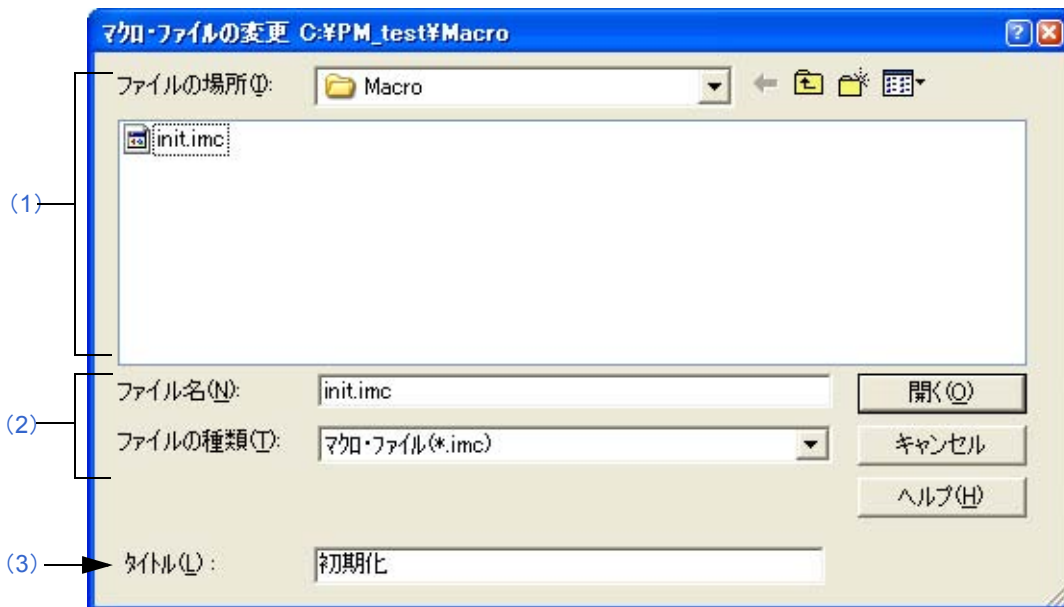
機能ボタン

ボタン	機能
開く	指定したマクロ・ファイルを登録します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[マクロ・ファイルの変更]ダイアログ

マクロの登録内容を変更します。

図 6-139 [マクロ・ファイルの変更]ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ツール]メニュー→[マクロ登録...]→[変更]ボタンをクリック

各エリアの説明

(1) ファイルの場所

選択しているマクロ・ファイルがあるフォルダが表示されます。[ツール]メニュー→[環境設定...]→[パス]タブで設定している“マクロファイル用フォルダ”が表示されます。指定がない場合、起動したPM+と同じフォルダになります。

なお、ここでは、フォルダの変更はできません。フォルダを変更する場合、[ツール]メニュー→[環境設定...]→[パス]タブで、“マクロ・ファイル用フォルダ”の指定を変更してください。

(2) ファイル名、ファイルの種類

登録内容を変更するマクロ・ファイル名を指定します。保存するファイルの拡張子は、imcとします。

(3) タイトル

登録マクロのタイトルを指定します。設定可能な文字数は、32文字までです。ここで指定した文字列は、[登録マクロの実行]に追加される際のメニュー文字列となります。

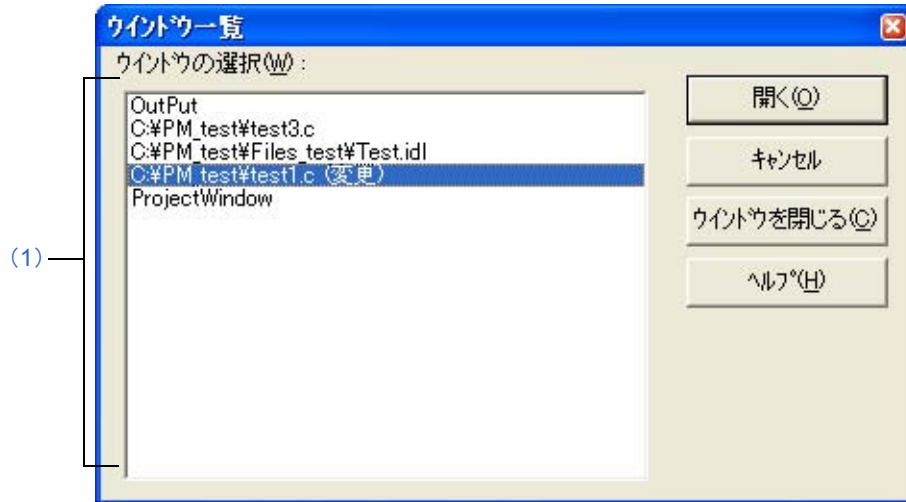
機能ボタン

ボタン	機能
開く	指定したマクロ・ファイルの登録内容を変更します。
キャンセル	設定を無視してダイアログを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ウィンドウ一覧] ダイアログ

表示しているウィンドウの一覧を表示します。一覧からウィンドウを選択し、ダブル・クリックすることにより、指定したウィンドウをアクティブにします。

図 6-140 [ウィンドウ一覧] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ウィンドウ]メニュー→[ウィンドウ一覧...]を選択

各エリアの説明

(1) ウィンドウの選択

表示しているウィンドウの一覧を表示します。一覧からウィンドウを選択し、ダブル・クリックすることにより指定したウィンドウをアクティブにします。

機能ボタン

ボタン	機能
開く	選択したウィンドウをアクティブにします。
キャンセル	ダイアログを閉じます。
ウィンドウを閉じる	選択したウィンドウを閉じます。複数選択することが可能です。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[ショートカット・キー一覧] ダイアログ

PM+ で設定しているショートカット・キーの一覧を表示します。

図 6-141 [ショートカット・キー一覧] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ヘルプ]メニュー→[ショートカット一覧...]を選択

各エリアの説明

(1) ショートカット

PM+ で現在設定されているショートカット・キーの一覧を表示します。

ショートカット・キーをカスタマイズ ([ツール]メニュー→[カスタマイズ] - [キーボード]タブ) している場合もこの一覧に反映されます。

なお、デフォルトで設定されているショートカット・キーの一覧については、「付録C ショートカット・キー一覧」を参照してください。

機能ボタン

ボタン	機能
閉じる	ウィンドウを閉じます。
ヘルプ	ヘルプを表示します。

[PM+ のバージョン情報] ダイアログ

PM+ のバージョン情報を表示します。プロジェクト・ファイルが開いている場合、プロジェクトに対応した NEC エレクトロニクス製ツールのバージョンとデバイス・ファイルのバージョンも表示します。

図 6-142 [PM+ のバージョン情報] ダイアログ



ここでは、次の項目について説明します。

- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法

- [ヘルプ]メニュー→[PM+ のバージョン情報 ...] を選択

各エリアの説明

(1) ツール情報

現在開いているプロジェクト・ファイルのデバイス種別と関係するツールのうち、使用ツールのバージョンを“製品名 バージョン[日付]”の形式で表示します。

ツリーを開くと、ファイル名をフルパスで表示します。

(2) デバイス・ファイル

現在開いているプロジェクト・ファイルで使用しているデバイス・ファイルの品種名とデバイス・ファイル名、およびバージョンを“品種名（デバイス・ファイル名）バージョン”の形式で表示します。
ツリーを開くと、デバイス・ファイル名をフルパスで表示します。

機能ボタン

ボタン	機能
OK	ウィンドウを閉じます。

第7章 メッセージ

7.1 表示形式

PM+ が出力するメッセージは、[図 7-1](#) に示すメッセージ・ダイアログ内に表示されます。

なお、メッセージは種別ごとに4種類あり、メッセージを表示する際、先頭にその種別を示す英字を付与しています。各メッセージ種別の意味は、[表 7-1](#) に示すとおりです。

図 7-1 メッセージ・ダイアログの例



表 7-1 メッセージ種別一覧

記号	種別	詳細
F	Fatal Error	致命的なエラーであることを示します。
E	Operation Error	操作に対してミスがあり、実行が不可能な場合に表示されます。
Q	Question	操作に対して何らかの選択が必要な場合に表示されます。
I	Information	何らかの情報を通知する際に表示されます。

7.2 Fatal Error

次に、PM+ が出力する Fatal Error（致命的エラー）メッセージを、その原因と対処法とともにメッセージ番号順に示します。なお、この種別のメッセージには、すべてメッセージ番号の先頭に“F”が付与されます。

表 7-2 Fatal Error メッセージ一覧

番号	内容	
F0001	メッセージ	メモリが足りません。他のアプリケーションを終了してください。
	原因	メモリの確保に失敗しました。
	ユーザ対処	他のアプリケーションを終了し、空きメモリを作成してください。
F0002	メッセージ	OLE の初期化に失敗したため、プログラムを起動できませんでした。
	原因	起動時にオブジェクトのライブラリ DLL が読み込めませんでした。
	ユーザ対処	RTOS が不安定になっている可能性が高いので、再起動してください。
F0003	メッセージ	コマンドの実行に失敗しました。
	原因	DOS コマンドの実行に失敗しました。
	ユーザ対処	実行したコマンドが DOS プロンプトにおいて、正常に実行できるかどうかを確認し、動作できるように設定してください。ビルド実行時に、このメッセージを表示した場合、[プロジェクト]メニュー→[メイクファイルのエクスポート]により、メイクファイルを再度作成したのち、ビルドを実行してください。
F0004	メッセージ	メイクファイルが壊れています。メイクファイルを作り直してください。
	原因	ビルドを実行しようとした際、メイクファイルが壊れているために、ビルドの実行ができませんでした。
	ユーザ対処	[プロジェクト]メニュー→[メイクファイルのエクスポート]により、メイクファイルを再度作成したのち、ビルドを実行してください。
F0100	メッセージ	ファイルが読み込めません。ファイルが壊れている可能性があります。
	原因	ファイル読み込み時にエラーが発生しました。
	ユーザ対処	ファイルが壊れているかを確認し、再度実行してください。
F0101	メッセージ	ディスクに書き込みできません。このファイルは他のプロセスが使用しているか、ディスクがいっぱいか、不正なファイル名を指定した可能性があります。
	原因	保存、ソース・ファイルの保存などで、すでに他のプロセスが指定したファイルを使用しています。または、書き込むファイル容量よりディスク容量が小さかったことが原因です。
	ユーザ対処	指定したファイルを他のアプリケーションで使用している場合、他のアプリケーションを終了してください。ディスクがいっぱいの場合は、空き容量を増やしてください。また、ファイル名が不正の場合は、利用できる文字でファイル名を指定してください。
F0102	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイル名の変更（作成）に失敗しました。IDL 生成ソース・ファイル名を記憶している IDL ファイルが読めません。壊れている可能性があります。
	原因	IDL ファイルが生成するソース・ファイルの保存において、ソース・ファイルの変更、または作成に失敗しました。
	ユーザ対処	IDL ファイルが壊れている可能性が高いので、ファイルが壊れていないかを確認してください。
F0103	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイル名の変更（作成）に失敗しました。変更先のパス、もしくはディスク名が不正か、ディスクがいっぱいの可能性があります。
	原因	指定したパスが無効か、ファイル名が不正か、または指定したディスクがいっぱいです。
	ユーザ対処	パスが正しいかを確認し、正しいパスを指定してください。ファイル名に不正な文字を使用している場合は、正しい文字を使用してください。ディスクがいっぱいの場合は、空き容量を増やしてください。

番号	内容	
F0104	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイル名の変更 (作成) に失敗しました。元ファイルを開くことができません。
	原因	IDL 生成ソース・ファイル名を変更する際に、変更前のソース・ファイルのオープンに失敗しました。
	ユーザ対処	IDL 生成ソース・ファイルのパスが正しいかを確認し、[ファイル]メニュー→[ソース・ファイル名の変更...]で正しいパスを指定してください。
F0105	メッセージ	プロジェクト・ファイルのオープンに失敗しました。周辺レジスタの強調表示を行いません。
	原因	プロジェクト・ファイルが見つからない。または、プロジェクト・ファイルが壊れているためプロジェクト・ファイルのオープンに失敗しました。
	ユーザ対処	プロジェクト・ファイルのパスが正しいか、またはプロジェクト・ファイルが壊れていないかを確認してください。
F0106	メッセージ	デバイス・ファイルのオープンに失敗しました。周辺レジスタの強調表示を行いません。
	原因	デバイス・ファイルが見つからないか、またはデバイス・ファイルが壊れているため、デバイス・ファイルのオープンに失敗しました。
	ユーザ対処	デバイス・ファイルのパスが正しいか、またはデバイス・ファイルが壊れていないかを確認してください。
F0107	メッセージ	デバイス・ファイルが読み込めません。デバイス・ファイルが壊れている可能性があります。
	原因	デバイス・ファイル読み込み時に読み込みエラーが発生しました。
	ユーザ対処	デバイス・ファイルが壊れていないかを確認してください。
F0108	メッセージ	オブジェクトが読み込めません。IDL ファイルが壊れている可能性があります。
	原因	ファイルの読み込みの際、オブジェクトの読み込みに失敗しました。
	ユーザ対処	IDL ファイルが壊れていないかを確認してください。
F0109	メッセージ	オブジェクトの保存に失敗しました。ディスクがいっぱいの可能性があります。
	原因	ファイル保存時、オブジェクトの保存に失敗しました。
	ユーザ対処	保存先ディスクがいっぱいなので、ディスク・スペースを空けてください。
F0110	メッセージ	マクロ・ファイル %s が読み込めません。正しいファイル名を指定したかを調べてください。
	原因	マクロ・ファイルの読み込みに失敗しました。%s には、ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	指定したファイルが存在しているかを調べてください。
F0111	メッセージ	マクロ・ファイル %s が作成できません。ファイル名が不正か、ディスクがいっぱいの可能性があります。
	原因	マクロファイルの保存に失敗しました。%s にはファイル名を表示します。
	ユーザ対処	指定したファイル名の文字が正しいかを調べ、正しい文字を指定してください。ディスクがいっぱいの場合、空き容量を増やしてください。
F0112	メッセージ	Ver.3.xx 形式の IDL ファイルが読み込めません。IDL ファイルが壊れている可能性があります。
	原因	idea-L の旧バージョン (Ver3.xx) 形式の IDL ファイルのフォーマットが不正であるか、IDL ファイルが壊れています。
	ユーザ対処	指定したファイルが壊れているかを確認してください。

番号	内容	
F0113	メッセージ	%s プロジェクト・ファイルの書き込みに失敗しました。ディスク容量がいっぱいか、ファイルが壊れているか、他のアプリケーションでこのファイルを使用中の可能性があります。
	原因	ディスク容量がいっぱいであるか、ファイルが壊れているか、または他のアプリケーションで指定したファイルを使用しています。%s にはファイル名を表示します。
	ユーザ対処	ディスク容量またはファイルが壊れていないかを確認し、再度実行してください。他のアプリケーションがファイルを使用している場合は、アプリケーションを終了し、再度実行してください。
F0114	メッセージ	%s ファイルが見つかりません。このファイルに対応した NEC エレクトロニクスツール製品が正常にインストールされているか確認してください。
	原因	メッセージで示したツール DLL を含むツールが見つかりませんでした。%s にはファイル名を表示します。
	ユーザ対処	ツールがインストールされているかを確認し、なければそのツールを再インストールしてください。
F0115	メッセージ	一時作業用ファイルが作成できません。ディスク容量が少なすぎるか、作業用フォルダが存在しない可能性があります。
	原因	テンポラリ・ファイルを作成する際、書き込むファイル容量よりディスク容量が少なかったか、または [環境設定] ダイアログで指定した作業用フォルダが存在しません。
	ユーザ対処	ディスク容量、または作業用フォルダを確認し、再度実行してください。
F0116	メッセージ	一時作業用ファイルのオープンに失敗しました。
	原因	テンポラリ・ファイルが見つからないか、ファイルが壊れています。
	ユーザ対処	ファイルが存在するか、または壊れていないかを確認し、再度実行してください。
F0117	メッセージ	%s ワークスペースファイルの読み込みに失敗しました。ファイルが壊れている可能性があります。
	原因	ワークスペース・ファイルの読み込みに失敗しました。%s には、ワークスペース・ファイル名が入ります。
	ユーザ対処	ワークスペース・ファイルが壊れていないかを確認してください。
F0118	メッセージ	プロジェクト・ファイルが読み込めません。ファイルが壊れていないか確認してください。
	原因	プロジェクト・ファイルの読み込みに失敗しました。
	ユーザ対処	ファイルが壊れていないかを確認し、再度実行してください。
F0119	メッセージ	いくつかのプロジェクトが読み込めません。
	原因	ワークスペース読み込み時に登録しているプロジェクト・ファイルの中で、読み込みに失敗したファイルがあります。
	ユーザ対処	読み込みに失敗した原因を確認し、再度実行してください。
F0120	メッセージ	登録しているプロジェクトを読み込めません。
	原因	ワークスペースに登録しているすべてのプロジェクト・ファイルの読み込みに失敗しました。
	ユーザ対処	読み込みに失敗した原因を確認し、再度実行してください。
F0121	メッセージ	%s ワークスペース・ファイルの書き込みに失敗しました。ディスク容量がいっぱいか、ファイルが壊れているか、他のアプリケーションでこのファイルを使用中の可能性があります。
	原因	ディスク容量がいっぱいか、ファイルが壊れています。または、他のアプリケーションで指定したファイルを使用しています。%s にはファイル名を表示します。
	ユーザ対処	ディスク容量、またはファイルが壊れていないかを確認し、再度実行してください。他のアプリケーションがファイルを使用している場合は、アプリケーションを終了し、再度実行してください。

番号	内容	
F0122	メッセージ	バックアップ・ファイルが作成できません。このファイルは他のプロセスが使用しているか、ディスクがいっぱいの可能性があります。
	原因	バックアップ・ファイルを作成時、すでに他のプロセスがバックアップ・ファイルを使用しています。または、書き込むファイル容量よりディスク容量が少ないです。
	ユーザ対処	バックアップ・ファイルを他のアプリケーションで使用している場合、他のアプリケーションを終了してください。または、ディスク容量を確認し、再度実行してください。
F0123	メッセージ	%s 一時作業用ファイルの削除に失敗しました。ワークスペースの新規作成を中止します。
	原因	[ファイル]メニュー→[ワークスペースの新規作成]を実行した際、表示しているテンポラリ・ファイルの削除に失敗しました。%sには、削除に失敗したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログ上のワークスペース・ファイル名を指定する際、ワークスペース・ファイルの上書きを許可して進めた場合は、元のファイルが拡張子 .bak を付与した状態で残っているので、これを復帰してください。
F0124	メッセージ	一時作業用ファイル %s1 を元のファイル %s2 に戻すことができませんでした。ワークスペースの新規作成を中止します。
	原因	[ファイル]メニュー→[ワークスペースの新規作成]を実行した際、表示しているテンポラリ・ファイルを元のファイルにリネームするのに失敗しました。%s1には、テンポラリ・ファイル名を、%s2には、元のファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログ上のワークスペース・ファイル名を指定する際、ワークスペースファイルの上書きを許可して進めた場合は、テンポラリ・ファイルが元のファイルなので、これを復帰してください。
F0125	メッセージ	%s サンプルファイルの作成に失敗しました。ディスク容量が少なすぎるか、読み取り専用、あるいは他のプロセスが使用している同名ファイルが存在しないかを確認してください。
	原因	サンプル・ファイルの作成に失敗しました。%sには、サンプル・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	ディスクの空き容量を増やしてください。また、同名のファイル名が読み取り専用属性ではないか、または他のアプリケーションで使用するかを確認してください。読み取り専用属性の場合、それを解除後、再度実行してください。他のアプリケーションが使用中の場合は、そのアプリケーションを閉じたのち、再度実行してください。
F0126	メッセージ	リンク・ディレクティブ・ファイルのサンプルを作成するためのデータファイルが見つかりませんでした。
	原因	PM+ が正常にインストールされていない可能性があります。リンク・ディレクティブ・ファイルのサンプルを作成する際、使用するデータ・ファイルが見つかりませんでした。
	ユーザ対処	ウィザードの最終ダイアログにおいて、[キャンセル]ボタンをクリックし、PM+を終了後、再度PM+をインストールしてください。または、ステップ6/9（リンク・ディレクティブ・ファイルの指定）に戻り、[サンプルを作成して使用する]以外を選択してください。
F0127	メッセージ	リンク・ディレクティブ・ファイルのサンプルを作成するためのデータファイルが壊れています。PM+ が正常にインストールされていない可能性があります。
	原因	リンク・ディレクティブ・ファイルのサンプルを作成する際に使用するデータファイルが壊れています。
	ユーザ対処	ウィザードの最終ダイアログにおいて、[キャンセル]ボタンをクリックし、PM+を終了後、再度PM+をインストールしてください。または、ステップ6/9（リンク・ディレクティブ・ファイルの指定）に戻り、[サンプルを作成して使用する]以外を選択してください。

番号	内容	
F0128	メッセージ	%s 内蔵 RAM 領域の取得に失敗しました。サンプルのリンク・ディレクティブ・ファイルを作成できません。
	原因	内蔵 RAM が存在しないデバイス名を指定しました。%s には、指定したデバイス名が表示されます。
	ユーザ対処	ステップ 6/9 (リンク・ディレクティブ・ファイルの指定) に戻り、[サンプルを作成して使用する] 以外を選択してください。または、ステップ 1/9 (ワークスペース情報の設定)、[プロジェクトの設定 - ステップ 1/3 [プロジェクト情報の設定] ダイアログで、内蔵 RAM があるデバイスを選択してください。
F0129	メッセージ	%s ツールの起動に失敗しました。NEC エレクトロニクスツール製品が正常にインストールされているか確認してください。
	原因	NEC エレクトロニクス製ツールの DLL のロードに失敗しました。%s には、ロードに失敗したファイル名が表示されます。
	ユーザ対処	NEC エレクトロニクス製ツールが正常にインストールされているかを確認してください。
F0130	メッセージ	ファイルのコピーに失敗しました。コピー元のファイルを開くことができないか、またはコピー先のディスク容量が少なすぎるか、他のプロセスが使用している可能性があります。 コピー元 : %s1 コピー先 : %s2
	原因	ファイルのコピーに失敗しました。%s1 にはコピー元ファイル名、%s2 にはコピー先ファイル名が表示されます。
	ユーザ対処	コピー元ファイルに Read 属性があるかを確認してください。Read 属性がなければ、Read 属性を付与した後、再度実行してください。また、コピー先のディスクの空き容量を増やしてください。または、他のアプリケーションで使用しているかを確認してください。他のアプリケーションが使用中の場合は、そのアプリケーションを閉じたのち、再度実行してください。
F0131	メッセージ	ファイルの削除に失敗しました。ファイルが読取専用か、他のプロセスが使用していないかを確認してください。
	原因	[ビルド] メニュー → [クリーン] 実行時、ファイルの削除に失敗しました。アウトプット・ウィンドウに、削除に失敗したファイル名が表示されます。
	ユーザ対処	アウトプット・ウィンドウに表示されているファイルが読取専用属性か、他のプロセスが使用しているかを確認し、必要であれば、読取専用属性の解除、または、そのファイルを使用している他のアプリケーションを閉じてください。
F0200	メッセージ	編集ウィンドウが作成できません。メモリが足りない可能性があります。他のアプリケーションを終了してください。
	原因	メモリが不足しているか、リアルタイム OS が不安定になっているため、編集ウィンドウの作成ができませんでした。
	ユーザ対処	他のアプリケーションを終了し、メモリを空けるか、またはリアルタイム OS を再起動してください。
F0201	メッセージ	これ以上ウィンドウを開くことはできません。他のウィンドウを閉じてください。
	原因	編集ウィンドウ、プロジェクト・ウィンドウ、アウトプット・ウィンドウ、検索結果ウィンドウを合計 64 個以上表示しようとしてしました。
	ユーザ対処	他のウィンドウを閉じてから、再度実行してください。
F0202	メッセージ	編集ファイルが大きすぎます。編集ファイルを分割してください。
	原因	編集ウィンドウの最大行数 (2097152) を越えて編集しようとしてしました。
	ユーザ対処	編集中のファイルをコピー、ペーストを用いて分割してください。
F0203	メッセージ	1 行の文字数が、多すぎます。
	原因	1 行の入力文字数が 5119 文字を越えました。
	ユーザ対処	1 行文字数を減らしてから再度入力してください。

番号	内容	
F0210	メッセージ	このファイルは現在他のアプリケーションで編集中です。使用中のアプリケーションを終了してください。
	原因	他のアプリケーションが編集中のファイルを PM+ で編集しました。ただし、このメッセージは、同じファイルを使用しているアプリケーションがファイルの排他制御を行っているアプリケーション (Word など) であれば機能します。
	ユーザ対処	このファイルを使用しているアプリケーションを閉じてください。
F0211	メッセージ	オブジェクトが作成できません。システム・レジストリにオブジェクトが登録されているか確認してください。
	原因	オブジェクトの新規作成に作成に失敗しました。
	ユーザ対処	指定したオブジェクトが正常にインストールされているかを確認してください。
F0212	メッセージ	クリップボードへのコピーに失敗しました。メモリが足りない可能性があります。他のアプリケーションを終了してください。
	原因	メモリが不足しているか、OS が不安定になっているため、オブジェクトをクリップボードにコピーするのを失敗しました。
	ユーザ対処	他のアプリケーションを終了し、メモリを空けてください。または、OS を再起動してください。
F0213	メッセージ	クリップボードからの貼り付けに失敗しました。メモリが足りない可能性があります。他のアプリケーションを終了してください。
	原因	メモリが不足しているか、OS が不安定になっているため、オブジェクトをクリップボードから貼り付けるのに失敗しました。
	ユーザ対処	他のアプリケーションを終了し、メモリを空けてください。または、OS を再起動してください。
F0214	メッセージ	元に戻す処理でエラーが発生しました。これ以上元に戻すことができません。メモリが足りない可能性があります。他のアプリケーションを終了してください。
	原因	メモリが不足しているか、OS が不安定になっているため、元に戻す操作が失敗しました。
	ユーザ対処	他のアプリケーションを終了し、メモリを空けてください。または、OS を再起動してください。
F0215	メッセージ	やり直しの処理でエラーが発生しました。これ以上やり直しすることができません。メモリが足りない可能性があります。他のアプリケーションを終了してください。
	原因	メモリが不足しているか、OS が不安定になっているため、やり直しの操作が失敗しました。
	ユーザ対処	他のアプリケーションを終了し、メモリを空けてください。または、OS を再起動してください。
F0216	メッセージ	コピーする文字が多すぎます。範囲指定領域を減らしてから実行して下さい。
	原因	クリップボードにコピーする文字数が 16M バイトを越えました。
	ユーザ対処	選択している文字数を減らして実行してください。
F0217	メッセージ	最大命令数 64 を越えました。記録を終了します。
	原因	キー操作記録中に記録可能な最大命令数である 64 を越えました。
	ユーザ対処	64 命令以上キー操作を記録しないようにしてください。
F0218	メッセージ	最大命令数 64 を越えました。読み込みを終了します。(%d):%s
	原因	マクロ・ファイル読み込み中に記録可能な最大命令数である 64 を越えました。%d には、エラー行を、%s にはエラー文字列を表示します。
	ユーザ対処	マクロ・ファイルの命令数を減らして実行してください。

番号	内容	
F0219	メッセージ	印刷フォントが大きいため、これ以上印刷できません。
	原因	[印刷]ダイアログで、折り返し、行番号、階層記号の印刷を指定し、大きい印刷フォントで印刷を行った場合、行番号、階層記号を印字したのち、文字印刷する前に改行となってしまうため印刷を中断しました。
	ユーザ対処	印刷フォントの設定を小さくして、再度実行してください。
F0300	メッセージ	%s 一時作業用ファイルの作成に失敗しました。新規プロジェクトを追加を中止します。
	原因	[新規プロジェクトを追加]コマンドを実行時、表示しているテンポラリ・ファイルの削除に失敗しました。%sには、削除に失敗したファイル名が表示されます。
	ユーザ対処	[新規プロジェクトを追加]のプロジェクト・ファイル名を指定する際、プロジェクト・ファイルの上書きを許可して進めた場合は、元ファイルが拡張子 .bak を付与した状態で残っているので、これを復帰してください。
F0301	メッセージ	一時作業用ファイル %s1 を元のファイル %s2 に戻すことができませんでした。新規プロジェクトを追加を中止します。
	原因	[新規プロジェクトを追加]コマンドを実行時、表示しているテンポラリ・ファイルを元のファイルにリネームするのに失敗しました。%s1にはテンポラリ・ファイル名を、%s2には元のファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[新規プロジェクトを追加]のプロジェクト・ファイル名を指定する際、プロジェクト・ファイルの上書きを許可して進めた場合は、テンポラリ・ファイルが元のファイルなので、これを復帰してください。
F0400	メッセージ	メイクファイルの構文が間違っています。正しく設定してください。
	原因	メイクファイルの構文に誤りがありました。
	ユーザ対処	メイクファイルの構文を確認し、修正してください。
F0401	メッセージ	メイクファイルの1行の文字数が多すぎます。
	原因	メイクファイル内の、マクロ展開後の1行の文字数が5120文字を越えていました。
	ユーザ対処	1行の記述を5120文字以下に設定してください。
F0601	メッセージ	%s ファイルが見つかりません。dump850の実行には、オブジェクト・ファイルが必要です。ビルドを実行し、オブジェクト・ファイルを生成してください。
	原因	[ツール]メニュー→[dump850...]コマンド実行時、オブジェクト・ファイルが見つかりませんでした。%sには、見つからなかったオブジェクト・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	ビルドを行い、オブジェクト・ファイルを生成後、再度実行してください。
F0602	メッセージ	%s ファイルの削除に失敗しました。ファイルが読み取り専用か、他のプロセスが使用していないかを確認してください。
	原因	[ツール]メニュー→[dump850...]コマンド実行時、表示しているファイルの削除に失敗しました。%sには、削除に失敗したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	表示しているファイル名が読み取り専用属性でないか、または他のアプリケーションで使用中かを確認してください。読み取り専用属性の場合、それを解除後、再度実行してください。他のアプリケーションが使用中の場合、そのアプリケーションを閉じた後、再度実行してください。
F0603	メッセージ	%s ファイルのリネームに失敗しました。他のプロセスがファイルを使用していないかを確認してください。
	原因	[ツール]メニュー→[stack850]、または[dump850...]コマンド実行時、表示しているファイルのリネームに失敗しました。%sには、リネームに失敗したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	表示しているファイルを他のアプリケーションで使用中かを確認してください。使用中の場合、そのアプリケーションを閉じた後、再度実行してください。

番号	内容	
F0604	メッセージ	%s dump850 の実行には、ロードモジュール・ファイルが必要です。ビルドを実行し、ロードモジュール・ファイルを生成してください。
	原因	[ツール]メニュー→[dump850...]コマンド実行時、ロードモジュール・ファイルが見つかりませんでした。%sには、見つからなかったロードモジュール・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	ビルドを実行し、ロードモジュール・ファイルを生成後、再度実行してください。
F0700	メッセージ	Tool Link Manager が起動していません。
	原因	サーバとの連携中に ToolLink の通信路 (TIS/TLM) が自身の致命的エラーを返しました。
	ユーザ対処	使用するツールを再起動してください。
F0701	メッセージ	%s が応答しませんでした。
	原因	サーバとの連携中にサーバがログ・アウトしてしまい、ToolLink の通信路 (TIS/TLM) がエラーを返しました。%sには、ログ・アウトしたツール名を表示します。
	ユーザ対処	表示しているツールを再起動してください。

7.3 Operation Error

次に、PM+ が出力する Operarion Error（実行エラー）メッセージを、その原因と対処法とともにメッセージ番号順に示します。なお、この種別のメッセージには、すべてメッセージ番号の先頭に“E”が付与されます。

表 7-3 Operation Error メッセージ一覧

番号	内容	
E1000	メッセージ	%s 指定したパスが見つかりません。正しいパスを指定しているか調べてください。
	原因	パスを指定した際に指定したパスが存在しませんでした。%sには、指定したパスを表示します。
	ユーザ対処	正しいパスを確認して、再度実行してください。
E1001	メッセージ	%s 指定したファイル名が見つかりません。正しいファイル名を指定しているか調べてください。
	原因	ファイルを開く際に指定したファイルが存在しませんでした。%sには、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	正しいファイル名を確認して、再度実行してください。
E1002	メッセージ	編集中のファイル名に変更できません。別のファイル名を指定してください。
	原因	現在、編集中のファイル名で別のファイルを保存しようとしてしました。
	ユーザ対処	編集中でないファイル名で、再度実行してください。
E1003	メッセージ	%s は読み取り専用属性のファイルです。別のファイル名で保存して下さい。
	原因	既存の読み取り専用属性のファイルを指定しました。%sには、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	読み取り専用属性でないファイル名で、再度実行してください。
E1004	メッセージ	テキスト・ファイルに、階層が見つかりました。IDL ファイル形式で保存してください。
	原因	開いているテキスト・ファイルを上書き保存した際に階層化されていました。
	ユーザ対処	階層情報を保存するため、IDL ファイル形式で保存してください。
E1005	メッセージ	ファイルを開いたときと階層の状態が異なります。階層情報を保存する場合、IDL ファイル形式で保存してください。
	原因	階層をつけて読み込んだ後にユーザが階層をつけ、テキスト・ファイルを保存しようとしてしました。
	ユーザ対処	階層情報を保存するため、IDL ファイル形式で保存してください。
E1006	メッセージ	ファイル名が長すぎます。
	原因	名前を付けて保存する際、タグ・ジャンプを行う際に設定したファイル名が長すぎます。
	ユーザ対処	ファイル名を短くして、再度実行してください。
E1007	メッセージ	下位の階層を持たない第1階層行があるので、ソース・ファイルを分割することができません。
	原因	ソース・ファイル保存時、またはソース・ファイル名変更時、[ソース・ファイルを分割する]を指定をしましたが、下位階層をもたない第1階層があるので分割できませんでした。
	ユーザ対処	下位階層を持たない第1階層行に下位階層をつけてください。
E1008	メッセージ	ファイル名には次の文字は使えません。 \:*\? "<>
	原因	使用禁止文字を含んだファイル名でファイルの作成をしようとしてしました。
	ユーザ対処	表示している禁止文字以外を使用してファイル名を設定してください。

番号	内容	
E1009	メッセージ	同じソース・ファイル名に変更しようとしてしました。別のファイル名を指定してください。
	原因	ソース・ファイル名の変更においてすでに設定しているソース・ファイル名と同じファイル名に変更しようとしてしました。
	ユーザ対処	違うファイル名を設定して、再度実行してください。
E1010	メッセージ	ファイル名が設定されていません。
	原因	[ソース・ファイル名の変更]ダイアログでソース・ファイル名を設定していません。
	ユーザ対処	ファイル名を設定して、再度実行してください。
E1011	メッセージ	PM+ がパスを挿入するための文字列 %s の記述が見つかりません。
	原因	ソース・ファイル名のユーザ・コメント記号設定時、文字列を指定する %s が入力されていません。
	ユーザ対処	設定しているユーザ・コメント中に %s を入力して、再度実行してください。
E1012	メッセージ	%s は複数個含めることはできません。
	原因	コメント記号を設定する際に、%s が複数個存在していました。
	ユーザ対処	設定しているユーザコメント中の %s を1つにして、再度実行してください。
E1013	メッセージ	IDL コントロール記号によるエラーです。[ソース・ファイル名の変更]メニューでコントロール記号をソースと同じコメント記号に設定して下さい。
	原因	アウトプット・ウィンドウからソース・ファイル1行目のエラー行にタグ・ジャンプを行った際、ソース・ファイル1行目の行内容にIDL ファイルと関連付けるコメント記号が設定されていません。
	ユーザ対処	[ソース・ファイル名の変更]で、ビルド・エラーがあったソース・ファイルのコメント設定を、ソース・ファイルで使用しているコメント行と同じ記号に設定してください。
E1014	メッセージ	指定したIDL ファイルのIDL 生成ソース・ファイルではありません。
	原因	タグ・ジャンプにおいて指定したソース・ファイルを持つIDL ファイルが見つからなかった際の、IDL ファイルを選択するダイアログにおいて、ソース・ファイルと関連付けられていないIDL ファイルを指定しました。
	ユーザ対処	ソース・ファイルと関連付けられているIDL ファイルを指定してください。
E1015	メッセージ	選択したIDL ファイルが見つかりません。
	原因	タグ・ジャンプにおいて指定したソース・ファイルを生成したIDL ファイルが見つからなかった際の、IDL ファイルを選択するダイアログにおいて、IDL ファイルが見つかりませんでした。
	ユーザ対処	既存のIDL ファイルを選択してください。
E1016	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイル作成元のIDL ファイルが見つかりません。ジャンプ先のIDL ファイルを指定(選択)するか、このファイル(ソース・ファイル)を開きます。
	原因	タグ・ジャンプ時に指定したソース・ファイルに登録されているIDL ファイルが見つかりませんでした。
	ユーザ対処	生成元のIDL ファイルを選択するか、ソース・ファイルを開いてください。
E1017	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイルの作成先に、不正なドライブ名が指定されています。IDL ファイルと同じ場所に保存しますか？
	原因	IDL ファイル保存時に指定したソース・ファイルのドライブが見つかりませんでした。
	ユーザ対処	[ソース・ファイルの変更]でソース・ファイルの出力先を変更するか、そのまま、IDL ファイルと同じフォルダにソース・ファイルを生成してください。

番号	内容	
E1018	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイル名のパスが見つかりません。パスを変更しますか？ [いいえ] を選択すると、IDL ファイルと同じ場所に保存します。
	原因	IDL ファイル保存時にソース・ファイルで指定されているパスが見つかりませんでした。
	ユーザ対処	[ソース・ファイルの変更]でソース・ファイルの出力先を変更するか、そのまま、IDL ファイルと同じフォルダにソース・ファイルを生成してください。
E1019	メッセージ	保存先のパスが無効の IDL 生成ソース・ファイルがあります。該当する IDL 生成ソース・ファイルは、IDL ファイルの保存先と同じパスになります。
	原因	IDL ファイル保存またはソース・ファイル名の変更においてソース・ファイルで指定されているパスが見つかりませんでした。
	ユーザ対処	[ソース・ファイルの変更]でソース・ファイルの出力先を変更するか、そのまま、IDL ファイルと同じフォルダにソース・ファイルを生成してください。
E1020	メッセージ	パスの復元に失敗しました。パスを確認してください。
	原因	別のフォルダからコピーしたプロジェクト・ファイルを開く際、パスの変換に失敗しました。
	ユーザ対処	プロジェクト・ファイルをエディタで開き、パスを確認してください。
E1021	メッセージ	不適切な拡張子を指定しました。拡張子を変更してください。
	原因	対応していない拡張子を指定しました。
	ユーザ対処	拡張子を変更して、再実行してください。
E1022	メッセージ	%s このファイルは読み取り専用属性のため設定を保存できません。読み取り専用属性を解除してください。
	原因	読み取り専用のファイルに対して書き込みを行おうとしました。%sには、ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	読み取り専用属性をエクスプローラなどを用いて、解除後、再度設定を行ってください。
E1023	メッセージ	いくつかのファイルが見つかりません。ファイルが存在するか確認してください。
	原因	開こうとしているワークスペース・ファイル(プロジェクト・ファイル)に登録しているソース・ファイル、インクルード・ファイルが見つかりません。このメッセージが表示された場合、同じ内容が アウトプット・ウインドウ にも表示されます。
	ユーザ対処	ワークスペース(プロジェクト)に登録しているソース・ファイル、インクルード・ファイルがすべて存在しているか確認してください。
E1024	メッセージ	%s プロジェクト・ファイルが見つかりません。プロジェクト・ファイルが存在するか確認してください。
	原因	指定したプロジェクト・ファイルが見つかりませんでした。%sには、指定したプロジェクト・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	指定したプロジェクト・ファイルが存在するかを確認してください。
E1025	メッセージ	%s 指定したフォルダを作成できません。
	原因	フォルダ名が不正である、またはアクセス権限のないフォルダを指定しました。%sには、指定したフォルダ名を表示します。
	ユーザ対処	正しいフォルダ名を指定する、またはアクセス権限のあるフォルダを指定してください。
E1026	メッセージ	フォルダ名は絶対パスで指定してください。
	原因	指定したフォルダ名が相対パスです。
	ユーザ対処	絶対パスでフォルダ名を指定してください。
E1027	メッセージ	%s ファイル名に半角スペース文字は、使用できません。ファイル名を変更後、再度追加してください。
	原因	ソース・ファイルを追加する際に、半角スペースが含まれるファイル名を指定しました。%sには、指定したフォルダ名を表示します。
	ユーザ対処	半角スペースを含むファイル名を半角スペースを含まない形にリネーム後、再度登録してください。

番号	内容	
E1028	メッセージ	コピー元ファイルの拡張子と登録するファイルの拡張子を同じにしてください。
	原因	指定したコピー元ファイル名と登録するファイル名の拡張子が異なります。
	ユーザ対処	コピー元ファイル名と登録するファイル名の拡張子は同じものを指定してください。
E1029	メッセージ	コピー元ファイル名と登録するファイル名が同じです。異なるファイル名を指定してください。
	原因	指定したコピー元ファイル名と登録するファイル名が同じであるため、コピーができません。
	ユーザ対処	コピー元ファイル名と登録するファイル名は異なるものを指定してください。
E1030	メッセージ	%s フォルダ名およびファイル名に半角スペース文字は、使用できません。ファイル名を変更後、再度追加してください。引き続きソース・ファイルの追加を続けますか？
	原因	ソース・ファイルを追加する際に半角スペースが含まれるファイル名を指定しました。%sには、ファイル名が入ります。このメッセージは、複数のソース・ファイルを選択して、プロジェクトに追加した際に表示します。
	ユーザ対処	半角スペースを含むファイル名を半角スペースを含まない形にリネーム後、再度登録してください。
E1031	メッセージ	ファイル名には次の文字は使えません。 \:*\?"<> 引き続きソース・ファイルの追加を続けますか？
	原因	使用禁止文字を含んだファイル名でファイルの作成をしようとしてしました。このメッセージは、複数のソース・ファイルを選択して、プロジェクトに追加した際に表示されます。
	ユーザ対処	表示している禁止文字以外を使用してファイル名を設定してください。
E1032	メッセージ	%s ネットワーク・パスは使用できません。
	原因	指定したフォルダがネットワーク・パスでした。%sには、指定したフォルダ名を表示します。
	ユーザ対処	ネットワーク・パス以外のフォルダを指定してください。
E1033	メッセージ	%s ネットワーク・パスは使用できません。引き続きソース・ファイルの追加を続けますか？
	原因	指定したフォルダがネットワーク・パスでした。%sには、指定したフォルダ名を表示します。このメッセージは、複数のソース・ファイルを選択して、プロジェクトに追加した際に表示します。
	ユーザ対処	ネットワーク・パス以外のフォルダを指定してください。
E1035	メッセージ	複数ワークスペースまたはプロジェクトをドロップできません。
	原因	複数のワークスペース・ファイルおよびプロジェクト・ファイルをメインフレーム、または編集ウィンドウにドロップしました。
	ユーザ対処	ワークスペースおよびプロジェクトをメインフレーム、または編集ウィンドウにドロップする場合は、1個のみ指定してください。
E1036	メッセージ	ユーザ・プログラム実行中は、ワークスペースを開けません。プログラム停止後、ワークスペースを開いてください。
	原因	デバッガでユーザ・プログラム実行中に、ワークスペースをドロップして、開こうとしました。
	ユーザ対処	デバッガでユーザ・プログラムを停止後、再度ワークスペースを開いてください。
E1037	メッセージ	ユーザ・プログラム実行中は、プロジェクトの追加はできません。
	原因	デバッガでユーザ・プログラム実行中に、プロジェクト・ファイルをドロップして、追加しようとしてしました。
	ユーザ対処	デバッガでユーザ・プログラムを停止後、再度追加を行ってください。

番号	内容	
E1100	メッセージ	このオブジェクトは、編集できません。
	原因	編集不可能なオブジェクトを編集しようとしてしました。
	ユーザ対処	編集可能なオブジェクトを指定して実行してください。
E1200	メッセージ	IDL と他の拡張子を同時に指定できません。
	原因	グローバル置換において、[ファイルの種類]の設定で、拡張子 IDL と他の拡張子を同時に指定しました。
	ユーザ対処	IDL ファイルを置換する場合は、IDL ファイルのみを指定してください。
E1201	メッセージ	%s 不適切な拡張子を指定しました。拡張子を変更してください。
	原因	グローバル置換において、[ファイルの種類]の設定で、グローバル置換対象外の拡張子を指定した。%s には、指定した拡張子を表示します。
	ユーザ対処	対象拡張子のみを指定して、実行してください。
E1202	メッセージ	%s 拡張子の無いファイル名はワイルドカードを指定できません。
	原因	グローバル置換において、[ファイルの種類]の設定で、拡張子指定をせずにワイルドカード (*,?) を指定しました。%s には、指定した拡張子を表示します。
	ユーザ対処	ワイルドカードを指定せずに実行してください。"
E1400	メッセージ	ファイルの拡張子が PRW/PRJ では、ありません。
	原因	指定したワークスペース・ファイルの拡張子が prw 以外です。
	ユーザ対処	拡張子が prw, または prj のファイルを指定して、実行してください。
E1401	メッセージ	ワークスペース・ファイル名が指定されていません。ワークスペース・ファイル名を指定してください。
	原因	ワークスペース・ファイル名が指定されていません。
	ユーザ対処	ワークスペース・ファイル名を指定して、実行してください。
E1402	メッセージ	プロジェクト・ファイル名が指定されていません。プロジェクト・ファイル名を指定してください。
	原因	プロジェクト・ファイル名が指定されていません。
	ユーザ対処	プロジェクト・ファイル名を指定して、実行してください。
E1403	メッセージ	%s は、既に存在しています。別のファイル名を指定してください。
	原因	既存のファイル名を指定しました。%s には指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	別のファイル名を指定して、再実行してください。
E1404	メッセージ	%s このプロジェクト・ファイルは、デバイスが指定されていません。デバイスを指定しますか? 指定しない場合、[プロジェクトの設定]コマンドで後から指定が可能です。
	原因	開いたプロジェクト・ファイルにデバイスが指定されていません。%s には、指定したプロジェクト・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	この状態では、ビルドは行えません。ここで、デバイスを指定するか、後で[プロジェクトの設定]コマンドを用いて、デバイスを指定してください。
E1405	メッセージ	%s1 このプロジェクト・ファイルで使用するデバイス・ファイル (デバイス:%s2) が見つかりません。デバイス・ファイル・インストーラでデバイス・ファイルをインストールしてください。
	原因	指定したプロジェクト・ファイルに設定しているデバイス・ファイルが見つかりませんでした。%s1 には、プロジェクト・ファイル名を、%s2 には、デバイス名を表示します。
	ユーザ対処	デバイス・ファイルがインストールされているかを確認してください。インストールされていない場合は、デバイス・ファイル・インストーラを用いてインストールしてください。

番号	内容	
E1406	メッセージ	%s このファイルは、すでに登録されています。
	原因	指定したファイルは、すでにプロジェクトに登録されています。%sには、ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	別のファイル名にリネーム後、再度登録を行ってください。
E1407	メッセージ	指定したプロジェクト・ファイルは、PM+(Project Manager)が作成したプロジェクト・ファイルでは、ありません。プロジェクト情報を更新してください。
	原因	指定したプロジェクト・ファイルは、PM+, またはPMが作成したプロジェクト・ファイルではなく、他の NEC エレクトロニクス製ツール (デバッグなど) が作成したプロジェクト・ファイルです。
	ユーザ対処	[OK] ボタンをクリックするとオープンするプロジェクトの更新ウィザードにより、プロジェクト情報を PM+ 用に更新してください。
E1408	メッセージ	指定した用途のファイルは、複数指定できません。ファイルをひとつ指定してください。
	原因	プロジェクト関連ファイルの追加において、プロジェクト中に1つしか指定できない種類のファイルを複数個選択しました。
	ユーザ対処	1つだけ選択して、実行してください。
E1409	メッセージ	プロジェクト・グループ名が入力されていません。プロジェクト・グループ名を入力してください。
	原因	[プロジェクト・グループ名の変更]ダイアログで、プロジェクト・グループ名に何も設定せずに [OK] ボタンをクリックしてダイアログを閉じようとしてしました。
	ユーザ対処	[プロジェクト・グループ名の変更]ダイアログで、プロジェクト・グループ名を設定してください。
E1410	メッセージ	このプロジェクト・グループ名はすでに使用しています。他のプロジェクト・グループ名を入力してください。
	原因	[プロジェクト・グループ名の変更]ダイアログで、そのワークスペース内ですでに使用しているプロジェクト・グループ名を設定して [OK] ボタンをクリックしました。
	ユーザ対処	現在プロジェクト・グループ名として使用していない文字列を設定してください。
E1411	メッセージ	%s このファイルは、編集できません。
	原因	プロジェクト関連ファイルにおいて、編集不可のファイルに対して [開く] コマンドを選択しました。%sには、ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	編集可能なファイルを [開く] で選択してください。
E1412	メッセージ	プロジェクト・ファイル中にデバイス・ファイル情報が見つかりませんでした。デバイス・ファイルのバージョンは、表示しません。
	原因	プロジェクト・ファイル中にデバイス・ファイル情報が見つかりませんでした。
	ユーザ対処	対象となるデバイス・ファイルをインストールしてください。
E1413	メッセージ	%s ソース・ファイルの拡張子が不正なため追加は行われません。
	原因	拡張子がソース・ファイルとして不適切なファイル名を指定しました。%sには、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	拡張子を変更して、再実行してください。
E1414	メッセージ	%s ソース・ファイルの拡張子が不正なため追加は行われません。引き続きソース・ファイルの追加を続けますか？
	原因	拡張子がソース・ファイルとして不適切なファイル名を指定しました。%sには、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	拡張子を変更して、再実行してください。

番号	内容	
E1415	メッセージ	%s 同名のファイルがすでに設定されています。
	原因	指定したファイルは、すでにソース・ファイルに設定されています。%sには、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	別のファイル名にリネーム後、再度ソース・ファイルの追加を行ってください。
E1416	メッセージ	%s 同名のファイルがすでに設定されています。引き続きソース・ファイルの追加を続けますか？
	原因	指定したファイルは、すでにソース・ファイルに設定されています。%sには、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	別のファイル名にリネーム後、再度ソース・ファイルの追加を行ってください。
E1417	メッセージ	%s リスト・ファイルの構文が間違っています。正しく設定してください。
	原因	リスト・ファイルの構文に誤りがありました。%sには、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	リスト・ファイルの構文を確認したのち、修正してください。
E1418	メッセージ	%s このプロジェクト・グループには、すでに他のデバイスをサポートするプロジェクトが登録されています。プロジェクトのデバイスを変更するか、登録するプロジェクト・グループを変更してください。
	原因	プロジェクト・グループ内に、すでに登録されているプロジェクトと異なるデバイスをサポートしているプロジェクトを追加しようとしてしました。%sには、プロジェクト・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	プロジェクトを別に関き、デバイスの種類を同じものにそろえてください。または、プロジェクトを別のプロジェクト・グループに登録しなおしてください。
E1419	メッセージ	%s このプロジェクト・グループには、これ以上プロジェクトを登録することはできません。他のプロジェクト・グループに登録してください。
	原因	プロジェクト・グループに、上限（20個）以上のプロジェクトを登録しようとしてしました。%sには、プロジェクト・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	プロジェクト・グループ内のプロジェクトを削除してから登録しなおすか、別のプロジェクト・グループに登録してください。
E1420	メッセージ	%s このファイルはスタート・アップ・ファイルとしてすでに指定しています。
	原因	リンカ・オプションとしてスタート・アップに指定されているファイルを追加しようとしてしました。%sには、追加しようとしたファイル名を表示します。
	ユーザ対処	リンカ・オプションを確認してください。
E1421	メッセージ	これ以上ファイルを登録することは、できません。
	原因	ソース・ファイル、またはその他のファイルの追加において、上限（ソース・ファイル：2048個、その他のファイル：100個）以上登録しようとしてしました。
	ユーザ対処	不要なファイルを削除後、追加してください。
E1422	メッセージ	%s 拡張子を除いたファイル名で、同じファイル名がすでに設定されています。
	原因	指定したファイル名（拡張子を除いたファイル名）は、すでにソース・ファイルとして設定されています。%sには、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	別のファイル名にリネーム後、再度ソース・ファイルの追加を行ってください。
E1423	メッセージ	%s 拡張子を除いたファイル名で、同じファイル名がすでに設定されています。引き続きソース・ファイルの追加を続けますか？
	原因	指定したファイル名（拡張子を除いたファイル名）は、すでにソース・ファイルとして設定されています。%sには、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	別のファイル名にリネーム後、再度ソース・ファイルの追加を行ってください。

番号	内容	
E1424	メッセージ	%s このプロジェクトは、すでに登録されています。
	原因	新規プロジェクトを追加、またはプロジェクトの挿入において、すでに登録しているプロジェクト・ファイル名を指定しました。%sには、プロジェクト・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	別のファイル名を設定して登録してください。
E1425	メッセージ	このワークスペースには、これ以上プロジェクト・グループを登録できません。プロジェクトを既存のプロジェクト・グループに登録してください。
	原因	新規プロジェクトを追加、またはプロジェクトの挿入において、新規プロジェクト・グループを指定した場合、上限値（128個）以上のプロジェクト・グループを追加しようとしました。
	ユーザ対処	プロジェクトを既存のプロジェクト・グループに登録してください。
E1426	メッセージ	%s このファイルはスタート・アップ・ファイルとしてすでに指定しています。引き続きソース・ファイルの追加を続けますか？
	原因	リンカ・オプションとしてスタート・アップに指定されて、ファイルを追加しようとしてしました。%sには、追加しようとしたファイル名を表示します。
	ユーザ対処	このメッセージは、複数個のソース・ファイルを選択して、プロジェクトに追加した際に表示します。
E1427	メッセージ	このワークスペースには、これ以上プロジェクトを登録できません。不要なプロジェクトを削除するか、プロジェクトを他のワークスペースに登録してください。
	原因	ワークスペースに登録可能なプロジェクトの最大数(128)を越えて、プロジェクトを登録しようとしてしました。
	ユーザ対処	不要なプロジェクトを削除後、追加してください。または、別のワークスペースに追加してください。
E1428	メッセージ	%s このプロジェクト・ファイル指定されているいくつかのツールがインストールされていません。ツールを選択し直してください。
	原因	プロジェクト・ファイル内で指定されているツールが、実行中のPCにインストールされていません。
	ユーザ対処	インストールされているツールの中から使用ツールを選択してください。
E1429	メッセージ	ツールセット名が指定されていません。ツールセット名を指定してください。
	原因	[プロジェクトの設定]ダイアログの[ツールバージョン設定]タブで、ツールセット名を空にして他のページに移動しようとしてしました。
	ユーザ対処	ツールセット名を設定してください。
E1430	メッセージ	ツールセット名に次の文字は使用できません。\\/:*?"<>
	原因	ツールセット名として使用できない文字（ファイル名として使用できない文字）を使用しました。
	ユーザ対処	使用可能な文字でツールセット名を指定してください。
E1500	メッセージ	ビルド中は、終了できません。終了する前にビルドを中止してください。
	原因	ビルド中にPM+を終了しようとしてしました。
	ユーザ対処	ビルドを中止した後、終了してください。
E1501	メッセージ	メイクファイル作成中は、終了できません。
	原因	メイクファイル作成中にPM+を終了しようとしてしました。
	ユーザ対処	メイクファイルの作成を中止して、終了してください。
E1502	メッセージ	ビルドの実行に失敗しました。コンパイラ、アセンブラが正しくインストールされているか確認してください。
	原因	ビルドの起動に失敗しました。コンパイラ、またはアセンブラが正しくインストールされていないことが考えられます。
	ユーザ対処	コンパイラ、またはアセンブラが正しくインストールされているかを確認してください。

番号	内容	
E1503	メッセージ	%s 外部エディタの起動に失敗しました。パスおよびファイル名を確認してください。
	原因	外部エディタの起動に失敗しました。%sには、起動に失敗したエディタのパスを表示します。
	ユーザ対処	設定している外部エディタが存在するかを確認してください。存在しない場合、別のエディタ、またはPM+の編集機能を利用してください。
E1504	メッセージ	%s デバッガの起動に失敗しました。パスおよびファイル名を確認してください。
	原因	デバッガの起動に失敗しました。%sには、起動に失敗したデバッガのパスを表示します。
	ユーザ対処	設定しているデバッガが存在するかを確認してください。存在しない場合、インストールするか、または別のデバッガを指定してください。
E1505	メッセージ	ユーザプログラムが実行中です。プログラムを停止後、コマンドを実行してください。
	原因	ユーザプログラム実行中に、[ワークスペースの新規作成]、[新規プロジェクトを追加]、[プロジェクトの挿入]、[ワークスペースを開く]、[ビルド→デバッグ]、または[デバッグ]コマンドを実行しました。
	ユーザ対処	デバッガで、ユーザプログラムを停止後、再度実行してください。
E1506	メッセージ	このコマンドは、デバッガ起動中、実行できません。デバッガ終了後、コマンドを実行してください。
	原因	デバッガ起動中に実行できないコマンドを選択しました。
	ユーザ対処	デバッガを終了後、再度実行してください。
E1507	メッセージ	%s 指定したソース・ファイルが見つかりません。コンパイルを中止します。
	原因	コンパイル実行時に指定したソース・ファイルが見つかりませんでした。%sにはコンパイルを実行したソース・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	指定したソース・ファイルが既存かを確認してください。既存でない場合、作成してください。
E1508	メッセージ	ビルド・モードの追加に失敗しました。最新バージョンのコンパイラ/アセンブラをお使いか、ご確認ください。
	原因	ビルド・モードに対応しない言語製品において、ビルド・モードの追加を行いました。
	ユーザ対処	使用しているコンパイラ/アセンブラが最新のものを確認してください。
E1509	メッセージ	ビルド・モードの削除に失敗しました。最新バージョンのコンパイラ/アセンブラをお使いか、ご確認ください。
	原因	ビルド・モードに対応しない言語製品において、ビルド・モードの追加を行いました。
	ユーザ対処	使用しているコンパイラ/アセンブラが最新のものを確認してください。
E1510	メッセージ	このコマンドは、デバッガでダウンロード中は、実行できません。ダウンロード終了後、コマンドを実行してください。
	原因	デバッガのダウンロード中に再度、ダウンロードを実行しようとしてしました。
	ユーザ対処	ダウンロード終了後、再度実行してください。
E1511	メッセージ	このコマンドは、デバッガが起動していない状態では、使用できません。デバッガを起動してください。
	原因	デバッガを起動していない状態で、複数ロードモジュール・ファイルのダウンロードを実行しました。
	ユーザ対処	デバッガを起動後、再度実行してください。

番号	内容	
E1512	メッセージ	バッチ・ビルドの設定がされていません。[バッチ・ビルドの設定]メニューでバッチ・ビルドの設定を行ってください。
	原因	ワークスペースの作成後、一度もバッチ・ビルドの設定を行っていない状態で、[バッチ・ビルド]、または[バッチ・リビルド]メニューを実行しました。
	ユーザ対処	[バッチ・ビルドの設定]メニューから[バッチ・ビルドの設定]ダイアログをオープンし、バッチ・ビルドの設定を行った後、再度[バッチ・ビルド]、または[バッチ・リビルド]メニューを実行してください。
E1513	メッセージ	実行するプロジェクトが指定されていません。[バッチ・ビルドの設定]メニューでバッチ・ビルドの設定を行ってください。
	原因	バッチ・ビルドの設定で、ビルドするプロジェクトを1つも指定していない状態で、[バッチ・ビルド]、または[バッチ・リビルド]メニューを実行しました。
	ユーザ対処	[バッチ・ビルドの設定]メニューから[バッチ・ビルドの設定]ダイアログをオープンし、実行するプロジェクトを指定した後、再度[バッチ・ビルド]、または[バッチ・リビルド]メニューを実行してください。
E1600	メッセージ	マクロ・ファイル用フォルダ以外は選択できません。
	原因	マクロ・ファイルの読み込み/保存時に指定しているマクロ・フォルダ以外を設定しました。
	ユーザ対処	設定しているマクロ・ファイル用フォルダを指定してください。
E1601	メッセージ	文字数が 32 文字を越えています。
	原因	マクロ登録においてマクロのタイトルに 32 文字以上を設定しようとしてしました。
	ユーザ対処	32 文字以下の文字列で設定してください。
E1610	メッセージ	オプションの指定が不足しています。(%d): %s
	原因	マクロ命令で設定するオプションが不足しています (指定行ジャンプで行番号指定がないなど)。 %d にエラー行を, %s には行内容を表示します。
	ユーザ対処	正しいオプション設定にマクロを修正してください。
E1611	メッセージ	数値指定に誤りがあります。(%d): %s
	原因	マクロ命令の数値指定において 10 進数以外を指定しました。 %d にエラー行を, %s には行内容を表示します。
	ユーザ対処	10 進数の数値を指定してください。
E1612	メッセージ	同時指定できないオプションを指定しました。(%d): %s
	原因	マクロ命令において同時指定できないオプションを設定しました。 %d にエラー行を, %s には行内容を表示します。
	ユーザ対処	一方のオプションを削除後、再度実行してください。
E1613	メッセージ	文字列指定に誤りがあります。(%d): %s
	原因	マクロ命令において、文字列を " " で囲んでいません。 %d にエラー行を, %s には行内容を表示します。
	ユーザ対処	文字列を " " で正しく囲んでください。
E1614	メッセージ	0 で除算しました。(%d): %s
	原因	マクロ実行中に 0 で割り算をしようとした。 %d には, エラー行を, %s にはエラー文字列を表示します。
	ユーザ対処	割り算式を見直し, 0 で除算しないようにしてください。

番号	内容	
E1615	メッセージ	1 行の文字数が 255 文字を越えています。(%)d) マクロ命令行が 255 文字を越えています。%)d) にエラー行を表示します。マクロ命令は、255 文字以内に収めてください。
	原因	マクロ命令行が 255 文字を越えています。%)d) にエラー行を表示します。
	ユーザ対処	マクロ命令は、255 文字以内に収めてください。
E1616	メッセージ	Syntax Error (%)d) : %s
	原因	マクロ命令の中で文法エラーがありました。%)d) には行数を、%s には文法エラーの文字列を表示します。
	ユーザ対処	正しい書式に修正し、再度実行してください。
E1617	メッセージ	無効なオプションです。(%)d) : %s
	原因	マクロ命令において無効なオプションを設定しています。%)d) にエラー行を、%s には行内容を表示します。
	ユーザ対処	有効なオプションを指定して、再度実行してください。
E1618	メッセージ	無効な命令です。(%)d) : %s
	原因	有効なオプションを指定して、再度実行してください。
	ユーザ対処	正しいマクロ命令を設定し、再度実行してください。
E1700	メッセージ	%s 外部ツールの起動に失敗しました。パスおよびファイル名を確認してください。
	原因	外部ツールの起動に失敗しました。%s には、外部ツールのフルパス名を表示します。
	ユーザ対処	設定したパスを確認し、外部ツールが存在するかを確認してください。
E1701	メッセージ	外部エディタが設定されていません。
	原因	外部エディタを設定していません。
	ユーザ対処	外部エディタを設定してください。
E1702	メッセージ	%s DFINST の起動に失敗しました。パスおよびファイル名を確認してください。
	原因	DFINST の起動に失敗しました。%s には、実行したフルパス名を表示します。
	ユーザ対処	設定したパスを確認し、DFINST が存在するかを確認してください。
E1703	メッセージ	Box または仕切り線のみ登録は、できません。コマンドボタンを一つ以上登録してください。
	原因	スタンダードバーまたはビルドバーのカスタマイズにおいて、コンボ・ボックスと仕切り線のみを登録しようとした。
	ユーザ対処	コマンド・ボタンを一つ以上登録したのち、[OK] ボタンをクリックしてください。
E1704	メッセージ	%s 指定したファイルを開くことは、できませんでした。ファイルを開くアプリケーションを指定してください。
	原因	指定したファイルを開くのを失敗しました。%s には、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	エクスプローラを用いて、起動するアプリケーションを関連付けてください。
E1705	メッセージ	%s 指定した URL を開くことは、できませんでした。URL を開くアプリケーションを指定してください。
	原因	指定した URL を開くのに失敗しました。%s には、指定した URL を表示します。
	ユーザ対処	通常使用するブラウザが設定されているかを確認してください。
E1706	メッセージ	%s アプリケーションの起動に失敗しました。正しいパスを指定したか調べてください。
	原因	指定したアプリケーションの起動に失敗しました。%s には、アプリケーションのフルパス名を表示します。
	ユーザ対処	アプリケーションのパスが正しいかを確認し、再度実行してください。

番号	内容	
E1707	メッセージ	予約語キーワードには次の文字は、使えません。()+-/:;={}<?*?:%^\ &[]<!>.@¥"¥'\$¥¥ ¥"
	原因	予約語のキーワードとして、禁止文字を指定しました。
	ユーザ対処	禁止文字以外をキーワードとして指定してください。
E1708	メッセージ	同名のメニュー文字列がすでに設定されています。
	原因	すでに設定されているメニュー文字列を設定しようとしてしました。
	ユーザ対処	設定されていない名前に変更して、再度設定してください。
E1709	メッセージ	タグ・ジャンプのフォーマットに誤りがあります。'\$F' と '\$L' を必ず指定してください。
	原因	外部エディタの設定において、タグ・ジャンプの書式に誤りがあります。
	ユーザ対処	タグ・ジャンプの書式には、\$F と \$L の指定が必要です。
E1710	メッセージ	TW 解析中は、終了できません。
	原因	TW850 が解析中に PM+ を終了しようとしてしました。
	ユーザ対処	TW850 を終了したのち、終了してください。
E1711	メッセージ	%s パスまたはファイル名が不正です。正しいパスおよびファイル名を指定してください。
	原因	不正なパス、またはファイル名を指定しようとしてしました。%s には、ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	正しいパス、またはファイル名を指定してください。
E1712	メッセージ	%s ファイル名が不正です。正しいファイル名を指定してください。
	原因	不正なファイル名を指定しました。con や com1 などの予約デバイスを指定した場合も含まれます。%s には、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	正しいファイル名を指定してください。
E1714	メッセージ	%s このファイルは、最新のオブジェクト・ファイルではありません。ビルドを実行し、オブジェクト・ファイルを更新してください。
	原因	dump850 を実行した際、解析対象の .v ファイルがソース・ファイルより古いものでした。
	ユーザ対処	ビルドを実行しオブジェクトを更新後、コマンドを再実行してください。
E1715	メッセージ	LDG を起動できません。LDG が正しくインストールされているか確認してください。
	原因	プロジェクト・ウィンドウのマウス右ボタンで [LDG で開く] メニューを選択しましたが、LDG を起動できませんでした。これは、LDG 用のツール DLL がインストールされていない場合に表示されます。
	ユーザ対処	LDG をインストール後、コマンドを再実行してください。
E1716	メッセージ	RTOS 設定を行えません。RTOS 製品が正しくインストールされているか確認してください。
	原因	ワークスペースの新規作成、またはプロジェクトの新規追加において、[RTOS の設定 ...] ボタンをクリックしましたが、[RTOS の詳細設定] ダイアログの表示に失敗しました。
	ユーザ対処	リアルタイム OS 製品が正しくインストールされているかを確認し、インストールされていない場合、インストールを行ってください。
E1717	メッセージ	レジストリにバージョン情報が登録されていません。この機能に対応した NEC エレクトロニクスツール製品が正常にインストールされているか確認してください。
	原因	バージョン情報を表示する際に、レジストリ情報の取得に失敗しました。
	ユーザ対処	バージョン表示機能に対応した NEC エレクトロニクス製ツールが正しくインストールされているかを確認し、インストールされていない場合、インストールを行ってください。

番号	内容	
E1718	メッセージ	%s このファイルは、最新のロードモジュール・ファイルではありません。ビルドを実行し、ロードモジュール・ファイルを更新してください。
	原因	dump850 を実行した際、解析対象の .out ファイルがソース・ファイルより古いものでした。%s には、解析対象の .out ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	ビルドを実行し、ロードモジュール・ファイルを更新したのち、コマンドを再度実行してください。
E1719	メッセージ	%s フォルダ名が不正です。正しいフォルダ名を指定してください。
	原因	不正なフォルダ名を指定しました。%s には、指定したフォルダ名を表示します。
	ユーザ対処	正しいフォルダ名を指定してください。
E1720	メッセージ	%s TW を使用するためには、使用するデバグの選択が必要です。[デバグの設定] で使用するデバグを選択してください。
	原因	TW850 実行時に、使用するデバグを設定していませんでした。
	ユーザ対処	[ツール]メニュー→[デバグの設定]により、使用するデバグを設定したのち、再度実行してください。

7.4 Question

次に、PM+ が出力する Question メッセージを、その原因と対処法とともにメッセージ番号順に示します。なお、この種類のメッセージには、すべてメッセージ番号の先頭に“Q”が付与されます。

また、これらのメッセージが表示された場合、ユーザは必ずメッセージ・ダイアログ内の選択ボタンをクリックしなければなりません。

表 7-4 Question メッセージ一覧

番号	内容	
Q2000	メッセージ	%s への変更を保存しますか？
	原因	PM+ 終了時、または編集ウインドウを閉じる際に保存せずにウインドウを閉じようとした。%s には、ウインドウのキャプションに表示している文字列を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 保存を行う。 [いいえ] : 保存せずにウインドウを閉じる。 [キャンセル] : 何もせずに編集ウインドウに戻る。
Q2001	メッセージ	%s は、更新されています。新しいファイルを読み込みますか？
	原因	開いているファイルが他のアプリケーションにより内容が変更されました。%s には、更新されたファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 新しいファイルを読み込む。 [いいえ] : ファイルを読み込まずに編集ウインドウを表示。
Q2002	メッセージ	%s は編集集中です。読み取り専用で開きます。
	原因	すでに読み込んでいるファイルを再度読み込もうとしました。%s には、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[OK] : ファイルを読み取り専用で開く。 [キャンセル] : 何もしない。
Q2003	メッセージ	%s は編集集中です。読み取り専用で開きますか？
	原因	[いいえ] を選択すると、編集内容を破棄して元のファイルに戻します。すでに読み込んでいて編集集中のファイルを再度読み込もうとしました。%s には、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : ファイルを読み取り専用で開く。 [いいえ] : 編集集中の内容を破棄し、指定したファイルを開く。 [キャンセル] : 何もしない。
Q2004	メッセージ	%s は、元のファイルが存在しません。編集ウインドウを閉じますか？
	原因	表示しているウインドウのファイルがディスク上から削除されています。%s には、削除されたファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 編集ウインドウを閉じる。 [いいえ] : 編集ウインドウを閉じない。
Q2005	メッセージ	%s は、元のファイルが存在しません。保存しますか？
	原因	編集集中のウインドウを閉じようとしたときにそのファイルがディスク上から削除されています。%s には、ウインドウのキャプションを表示します。
	ユーザ対処	[はい] : [名前を付けて保存]ダイアログを表示。 [いいえ] : 保存操作をせずにウインドウを閉じる。 [キャンセル] : 何も行わずにそのウインドウに戻る。

番号	内容	
Q2006	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイル %s と同名のファイルが存在します。
	原因	この名前に変更しますか？ファイルが、すでに存在していました。%s には、ソース・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : ソース・ファイルのファイル名変更 (ReName) を行う。既存のファイルは、削除される。 [いいえ] : ファイル名変更は行わない。
Q2007	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイル %s と同名の読み取り専用属性のファイルが存在します。この名前に変更しますか？
	原因	[ソース・ファイル名の変更] ダイアログで変更しようとしたソース・ファイル名と同名のファイルが、すでに存在しており、かつそのファイルが書きこみ禁止属性を持っていました。%s には、ソース・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : ソース・ファイルのファイル名変更 (ReName) を行う。既存のファイルは、削除される。 [いいえ] : ファイル名変更は行わない。
Q2008	メッセージ	%s が更新されています。更新された IDL 生成ソース・ファイルを読み込みますか？
	原因	ソース・ファイルが IDL ファイル保存時以降に他のエディタなどにより更新されています。%s には、ファイル名が表示されます。
	ユーザ対処	[はい] : 更新されたソース・ファイルを読み込む。 [いいえ] : ソース・ファイルは読み込まずに IDL ファイルの内容を読み込む。 [すべての更新されたファイルに適用] : チェックすると更新されているファイルすべてを更新メッセージなしで読み込む。
Q2009	メッセージ	現在開いているファイルを全て閉じますか？
	原因	ワークスペース、またはプロジェクト・ファイルを閉じる際にウインドウをすべて閉じるかを確認しています。
	ユーザ対処	[はい] : すべてのウインドウを閉じる。 [いいえ] : ウインドウをそのままにしておく。
Q2010	メッセージ	%s ワークスペース・ファイルはすでに存在します。既存のファイルを %s.bak で保存し、上書きしますか？
	原因	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログで指定したワークスペース・ファイル名と同名のファイルが、すでに存在しています。%s には、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : ワークスペース・ファイルの上書きをし、既存のファイルを拡張子 .bak を付加して保存する。 [いいえ] : 何も行わずにそのウインドウに戻る。
Q2011	メッセージ	%s 指定したフォルダが存在しません。作成しますか？
	原因	存在しないフォルダを指定しました。%s には、指定したフォルダ名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : フォルダを作成する。 [いいえ] : フォルダを作成しない
Q2100	メッセージ	グループ化後の処理で削除するを指定しました。[はい] を選択すると削除してアンドウ・バッファをクリアします。[いいえ] を選択すると削除しません。
	原因	キーワードによるグループ化において、グループ化後の処理で削除するを指定しました。
	ユーザ対処	[はい] : グループ化した行を検索元の編集ウインドウから削除する。 [いいえ] : 削除をせずにグループ化を行う。
Q2101	メッセージ	削除行に読み取り専用属性のソース・ファイルが存在します。削除しますか？
	原因	削除しようとした範囲内に読み取り専用属性のソース・ファイルが含まれています。
	ユーザ対処	[はい] : 読み取り専用属性のソース・ファイルを含む行も削除する。 [いいえ] : 削除を行わない。

番号	内容	
Q2102	メッセージ	自動生成したプロトタイプ宣言を更新しますか？
	原因	更新時、以前に生成したプロトタイプ宣言行を削除します。2回以上プロトタイプ宣言の作成を実行しようとしたため。
	ユーザ対処	[はい] : 新たにプロトタイプ宣言を作成する。 [いいえ] : 何もせずにアクティブな編集ウィンドウへ戻る。 [次回起動時までこのメッセージを表示しない] : チェックすることにより、PM+ 起動中は同じ操作を行ってもこのメッセージを表示しない。
Q2103	メッセージ	プロトタイプ宣言自動生成を行うとアンドゥ・バッファをクリアします。よろしいですか？
	原因	プロトタイプ宣言の作成を実行した際にアンドゥバッファをクリアすることを確認しています。
	ユーザ対処	[はい] : アンドゥバッファをクリアし、プロトタイプ宣言を作成する。 [いいえ] : 何もせずにアクティブな編集ウィンドウへ戻る。 [次回起動時までこのメッセージを表示しない] : チェックすることにより、PM+ 起動中は、同じ操作を行ってもこのメッセージを表示しない。
Q2104	メッセージ	読み取り専用属性のソース・ファイルがあります。読み取り専用属性のソース・ファイル以外のソース・ファイルにプロトタイプ宣言を生成しますか？
	原因	プロトタイプ宣言を作成しようとした際に、読み取り専用属性のソース・ファイルを発見しました。
	ユーザ対処	[はい] : 読み取り専用属性以外のソース・ファイルに対してプロトタイプ宣言を作成する。 [いいえ] : 何も行わずに、アクティブなウィンドウに戻る。
Q2200	メッセージ	最終行まで検索しました。先頭から検索を続けますか？
	原因	%s キーを押すと先頭から検索を続けます。最終行まで検索が終了しました。%s には、[下向きに検索]で割り当てられているキーを表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 先頭行から検索を行う。 [いいえ] : 検索を終了する。
Q2201	メッセージ	先頭行まで検索しました。文末から検索を続けますか？ %s キーを押すと文末から検索を続けます。
	原因	先頭行まで検索が終了しました。%s には、[上向きに検索]に割り当てられているキーを表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 最終行から検索を行う。 [いいえ] : 検索を終了する。
Q2202	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイルの最終行まで検索しました。IDL 生成ソース・ファイルの先頭から検索を続けますか？
	原因	%s キーを押すと IDL 生成ソース・ファイルの先頭から検索を続けます。ソース・ファイルの文字列検索において文字列が発見されませんでした。%s には、[下向きに検索]のキー割り当てを表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 引き続きソース・ファイルの先頭から検索を行う。 [いいえ] : 検索を中止する。
Q2203	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイルの先頭行まで検索しました。IDL 生成ソース・ファイルの最終行から検索を続けますか？
	原因	%s キーを押すと IDL 生成ソース・ファイルの最終行から検索を続けます。ソース・ファイルの文字列検索において文字列が発見されませんでした。%s には、[上向きに検索]のキー割り当てを表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 引き続きソース・ファイルの先頭から検索を行う。 [いいえ] : 検索を中止する。

番号	内容	
Q2204	メッセージ	全ファイル置換を行いますか？
	原因	グローバル置換において全ファイル置換を選択しました。
	ユーザ対処	[はい] : 全ファイル置換を行う。 [いいえ] : 何も行わずにアクティブな編集ウィンドウに戻る。
Q2205	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイル %s に文字列が見つかりました。この IDL 生成ソース・ファイルに対して置換を行いますか？
	原因	グローバル置換において、IDL ファイル中のソース・ファイルに検索文字列を発見しました。このメッセージは、[IDL ファイルの場合、ソース・ファイルごとに確認メッセージを表示します] をチェックした場合表示されます。%s には、ソース・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 表示したソース・ファイルに対して置換を行う。 [いいえ] : 表示したソース・ファイルに対しての置換をスキップし、引き続き検索を行う。 [次回の新規検索時までこのメッセージを表示しない] : チェックしたのち、[はい] を選択すると、次回グローバル置換実行時までメッセージを表示せずにグローバル置換を続けて実行する。
Q2206	メッセージ	編集中のファイル %s に対して置換を行いますか？
	原因	編集中のファイルに対してグローバル置換を行おうとしている。%s には、編集中のファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 編集中のファイルに対して置換を行う。 [いいえ] : 編集中のファイルに対しての置換をスキップし、引き続き検索を行う。
Q2207	メッセージ	最終行まで %s 個置換しました。先頭から置換を続けますか？
	原因	文字列置換において、最終行まで置換が終了しました。%s には、置換した個数を示します。
	ユーザ対処	[はい] : 先頭行から置換を続けて行う。 [いいえ] : 置換を終了する。
Q2208	メッセージ	文字列置換を中断しますか？
	原因	文字列置換中に [Esc] キーを入力し、置換を中断しようとした。
	ユーザ対処	[はい] : 置換を終了する。 [いいえ] : 引き続き置換を行う。
Q2300	メッセージ	階層化ルールにもとづき、階層化します。
	原因	ファイルを開く際に階層化を行おうとしています。これは、[ツール]メニュー→[環境設定...] - [ファイル]タブで、[ファイルを開く時は、常に階層化して読み込む] をチェックした場合に、このメッセージを表示します。また、[次回起動時までこのメッセージを表示しない] チェック・ボックスは、[はい] を選択した場合のみ有効となります。
	ユーザ対処	[はい] : 階層化して読み込む。 [いいえ] : 階層化しない。
Q2301	メッセージ	階層化を行うとアンドウ・バッファをクリアします。よろしいですか？
	原因	[いいえ] を選択すると何も処理を行いません。文書の階層化を実行した際に、アンドウ・バッファをクリアすることを確認しています。
	ユーザ対処	[はい] : アンドウバッファをクリアする。 [いいえ] : 何もせずに編集ウィンドウへ戻る。 [次回起動時までこのメッセージを表示しない] : チェックすると PM+ 起動中は、同じ操作を行ってもこのメッセージを表示しない。

番号	内容	
Q2400	メッセージ	%s1 は、既に設定しています。設定を変更しますか？ 現在の設定 :%s2 変更後の設定 :%s3
	原因	プロジェクト関連ファイルの追加において、すでに設定済みの種類を追加しようとした。%s1 には、設定を行おうとしているファイルの種類 (スタート・アップ・ファイルなど) を、%s2 には、現在設定しているファイル名を、%s3 には、新しく設定しようとしているファイル名を表示します。 設定を変更する場合、[はい] ボタンをクリックします。変更しない場合、[いいえ] ボタンをクリックします。
	ユーザ対処	[はい] : 設定を変更し、プロジェクトウィンドウに戻る。 [いいえ] : 設定を変更せずに、プロジェクトウィンドウに戻る。
Q2401	メッセージ	%s このプロジェクト・ファイルは、以前のバージョンのプロジェクト・マネージャーで作成されました。新形式に変換します。
	原因	Ver.3.xx の PM で作成したプロジェクト・ファイルを開こうとした、または Ver.5.xx の PM plus で作成したプロジェクトを追加しようとした。%s には、指定したプロジェクト・ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[OK] : 新形式に変換する。 [キャンセル] : プロジェクト・ファイルを開く操作を中止する。
Q2402	メッセージ	%s プロジェクト・ファイルはすでに存在します。既存のファイルを %s.bak で保存し、上書きしますか？
	原因	[ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9 [ワークスペース情報の設定]] ダイアログで指定したプロジェクト・ファイル名と同名のファイルが、すでに存在しています。%s には、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : プロジェクト・ファイルの上書きをし、既存のファイルを拡張子 .bak を付加して保存する。 [いいえ] : 何も行わずにそのウィンドウに戻る。
Q2403	メッセージ	%s ファイルが見つかりません。新しく作成しますか？
	原因	指定したファイルが存在しません。%s には、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 指定したファイル名の空のファイルを作成し、引き続きソース・ファイルの追加処理を行う。 [いいえ] : 指定したファイル名を無効として、引き続きソース・ファイルの追加処理を行う。 [次回のソース・ファイル追加時までこのメッセージを表示しない] : チェックすると次のソース・ファイル追加を行うまで、メッセージを表示しません
Q2404	メッセージ	%s このファイルはコンフィグレータが自動的に生成したファイルです。このファイルをプロジェクトに追加しますか？
	原因	コンフィグレータが自動生成するソース・ファイルを、プロジェクトに登録しようとした。%s には、指定したファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 指定したファイルをプロジェクトに登録する。 [いいえ] : 指定したファイルを無効とし、プロジェクトには登録しない。
Q2405	メッセージ	使用する NEC エレクトロニクスツール製品を変更しました。言語ツールを変更した場合、次回のビルド時に全ソース・ファイルをコンパイルする必要があります。次回のビルド時に全ソース・ファイルをコンパイルするため、オブジェクトを削除しますか？
	原因	[ツールバージョン設定] ダイアログで、使用するツールの構成を変更しました。
	ユーザ対処	[はい] : 変更のあったプロジェクトの全オブジェクト・ファイルを削除する。 [いいえ] : 何もせずにメッセージを閉じる。

番号	内容	
Q2406	メッセージ	%s このワークスペースは以前のバージョンのプロジェクト・マネージャーで作成されました。登録されている全てのプロジェクトを新形式に変換しますか？
	原因	変換した場合、以前のバージョンのプロジェクト・マネージャーで読み込むことはできません。PM plus Ver.5.xx で作成したワークスペースを開こうとしました。
	ユーザ対処	[はい] : プロジェクトを新形式に変換し読み込む。 [いいえ] : 何もせずにメッセージを閉じる。
Q2407	メッセージ	%s インストールされている %s よりも古いバージョンがこのプロジェクトで選択されています。コンパイラ (またはアセンブラ) を選択しなおしますか？
	原因	[はい] を押すと [ツールバージョン設定] ダイアログが開きます。使用コンパイラよりも新しいコンパイラを発見しました。
	ユーザ対処	[はい] : [ツールバージョン設定] ダイアログを開く。 [いいえ] : 何もせずにメッセージを閉じる。
Q2500	メッセージ	すべてのビルドを中止しますか？
	原因	[いいえ] を選択すると、現在実行中のビルドのみ中止します。バッチ・ビルド実行中に [ビルドの中止] コマンドを選択しました。
	ユーザ対処	[はい] : すべてのビルドを中止し、アクティブなウインドウに戻る。 [いいえ] : 現在実行中のビルドのみ中止し、次のプロジェクト以降のビルドを行う。 [キャンセル] : ビルドの中止をキャンセルし、ビルドを続ける。
Q2501	メッセージ	%s ファイルが見つかりません。ビルドしますか？
	原因	デバッグにダウンロードするロードモジュール・ファイルが見つかりませんでした。%s には、ロード・モード・モジュール・ファイル名を表示します。ビルド実行後、ダウンロードしてください。
	ユーザ対処	[はい] : ビルドを行い、ビルド後ダウンロードを実行する。 [いいえ] : ビルドを行わず、デバッグを起動する。 [キャンセル] : 何も行わず、アクティブなウインドウに戻る。
Q2600	メッセージ	このファイルはすでに存在します。上書きしますか？
	原因	マクロでファイルの上書き保存を実行した際、ファイルがすでに存在していました。
	ユーザ対処	[はい] : ファイルを上書きする。 [いいえ] : ファイルの上書きを行わない。
Q2700	メッセージ	ファイル %s の最終行まで比較しました。先頭行から比較しますか？
	原因	ファイル比較において、最終行までファイル比較が終了しました。%s には、ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 先頭から比較を行う。 [いいえ] : 何も行わない。
Q2701	メッセージ	ファイル %s の先頭行まで比較しました。最終行から比較しますか？
	原因	ファイル比較において、先頭行までファイル比較を終了しました。%s には、ファイル名を表示します。
	ユーザ対処	[はい] : 最終行から比較を行う。 [いいえ] : 何も行わない。
Q2702	メッセージ	フォントの既定値を変更します。
	原因	この変更は、新規作成、テキスト・ファイルの読み込みに影響します。[フォント] ダイアログにおいて、[既定値として設定] ボタンをクリックし、新規作成、テキストファイル読み込み時のフォントの既定値を変更しようとしてしました。
	ユーザ対処	[OK] : フォントの既定値を変更する。 [キャンセル] : 何も行わずに [フォント] ダイアログに戻る。

番号	内容	
Q2703	メッセージ	デバッグを選択していません。選択しますか？
	原因	[デバッグ]メニューを選択しましたが、デバッグが選択されていません。
	ユーザ対処	[OK] : [デバッグの設定]ダイアログを表示する。 [キャンセル] : アクティブなウィンドウに戻る。
Q2704	メッセージ	タグ・ジャンプフォーマットが指定されていません。この指定がないと、外部エディタを使用する場合、エラー行にジャンプできません。よろしいですか？
	原因	外部エディタを使用するを選択した状態で、タグ・ジャンプのフォーマットを指定していません。
	ユーザ対処	[はい] : 他の環境設定ページを選択した場合、そのページに移動する。[OK] ボタンをクリックした場合、アクティブなウィンドウに戻る。 [いいえ] : 外部エディタ・ページに戻る。
Q2705	メッセージ	Project Manager 標準エディタ (idea-L) のキー設定が見つかりました。この設定を PM+ でも使用しますか？
	原因	idea-L のキー設定が見つかりました。
	ユーザ対処	[はい] : idea-L のキー設定をコピーして、PM+ でも使用できるようにする。 [いいえ] : idea-L のキー設定は使用せずに、PM+ のデフォルトのキー設定を使用する。

7.5 Information

次に、PM+ が出力する Information メッセージを、その原因とともにメッセージ番号順に示します。なお、この種類のメッセージには、すべてメッセージ番号の先頭に “I” が付与されます。

また、これらのメッセージが表示された場合、ユーザは必ず確認の [OK] ボタンをクリックしなければなりません。

表 7-5 Information メッセージ一覧

番号	内容	
I3000	メッセージ	他のプロセスにより %s が更新されています。更新したい場合は、IDL ファイルの読み取り専用属性を解除してください。
	原因	ソース・ファイルが更新されていますが、IDL ファイルが読み取り専用属性なため、再読み込みできません。%s には、IDL ファイルがもつソース・ファイル名を表示します。
I3001	メッセージ	バックアップ・ファイルを開きます。
	原因	ファイル読み込み時に IDL ファイルのバックアップ・ファイルを指定しました。
I3002	メッセージ	%s このファイルは、他のプロセスが使用しています。読み取り専用で開きます。
	原因	他のアプリケーションが開いているファイルを指定して開こうとしました。%s には、ファイル名を表示します。
I3003	メッセージ	%s このファイルは、バイナリ・ファイルです。読み取り専用で開きます。
	原因	読み込もうとしているファイルを、PM+ はバイナリ・ファイルであると判定しました。%s には、ファイル名を表示します。
I3004	メッセージ	%s は、読み取り専用属性のファイルです。読み取り専用で開きます。
	原因	ファイルを開く際に指定したファイルが読み取り専用属性のファイルでした。%s には、開くファイル名を表示します。
I3005	メッセージ	ワークスペース %s1 を、指定したプロジェクト %s2 の代わりに開きます。
	原因	*.prj ファイルを指定しましたが、対応するワークスペースがあるので、それを開こうとしています。%s1 には、プロジェクトに対応した開くワークスペース・ファイル名を、%s2 には、ユーザが指定したプロジェクト・ファイル名が入ります。
I3200	メッセージ	文字列が見つかりません。
	原因	文字列検索において、指定した文字列が発見されませんでした。
I3201	メッセージ	ファイル %s に、文字列 %s はありませんでした。
	原因	グローバル検索で、[編集中のウィンドウ内を探す] をチェックして検索した際、指定した文字列が見つかりませんでした。日本語版メッセージの場合、最初の %s にはファイル名を、2 個目の %s には指定した検索文字列を表示します。英語版メッセージの場合、最初の %s には指定した検索文字列を、2 個目の %s には、ファイル名を表示します。
I3202	メッセージ	%d 個のファイル中に、文字列 %s はありませんでした。
	原因	グローバル検索で、指定した文字列が見つかりませんでした。%d には検索したファイルの数を、%s には、検索文字列を表示します。
I3203	メッセージ	全部で %s 個置換しました。
	原因	すべて置換が終了し、置換した数を表示しています。%s には、置換した個数が表示されます。
I3204	メッセージ	検索を中断しました。
	原因	検索中に [Esc] キーを入力し、検索を中断しました。
I3205	メッセージ	グローバル置換を終了しました。
	原因	グローバル置換を終了しました。
I3206	メッセージ	関数 %s の定義行が見つかりません。
	原因	関数定義行が見つかりませんでした。%s には、指定した関数名を表示します。

番号	内容	
I3207	メッセージ	現在 %s を検索中です。
	原因	現在, グローバル検索中です。%s には, 検索中のファイル名を表示します。
I3400	メッセージ	IDL 生成ソース・ファイルが追加または削除されています。[プロジェクト][プロジェクトの設定]コマンドでソース・ファイルを追加, または削除する必要があります。
	原因	IDL ファイルを閉じる際に, IDL ファイルのソース・ファイルが追加, または削除されています。
I3401	メッセージ	プロジェクト・ファイルで指定しているデバイス・ファイルとインストールしているデバイス・ファイルのバージョンが異なります。インストールしているデバイス・ファイルのバージョンを確認してください。 プロジェクト・ファイルで指定しているデバイス・ファイル:%s1 インストールしているデバイス・ファイル:%s2
	原因	プロジェクト・ファイルに記憶しているデバイスのバージョンと, インストールされているデバイスのバージョンが異なっていました。 %s1 には, プロジェクト・ファイルに記憶しているデバイスのバージョンを表示します。 %s2 には, インストールしているデバイスのバージョンを表示します。
I3500	メッセージ	ビルドが正常に終了しました。
	原因	ビルド処理がエラー件数 0 で終了しました。
I3501	メッセージ	ビルド・エラーが見つかりました。
	原因	ビルドをした結果, ビルド・エラーがありました。
I3502	メッセージ	ビルドを中止します。
	原因	[ビルド]メニュー→[ビルドの中止]により, ビルドを中止しました。
I3600	メッセージ	キー操作の再生を中断しました。
	原因	キー操作を再生中に, [Esc] キーを入力しました。
I3700	メッセージ	違いは見つかりませんでした。
	原因	ファイル比較を行ったファイルが同じファイルでした。
I3701	メッセージ	この設定は, 次回デバッグ起動時, 有効になります。
	原因	使用デバッグデバッグを変更しましたが, 変更したデバッグは, 次回デバッグ起動時から有効になります。

付録 A サンプル・リンク・ディレクティブ・ファイル

ここでは、“[ワークスペースの新規作成 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ”，および “[新規プロジェクトを追加 - ステップ 6/9 [リンク・ディレクティブ・ファイルの指定]] ダイアログ”において、[サンプルを作成して使用する]を選択した場合に作成される、サンプル・リンク・ディレクティブ・ファイルについて示します。

作成されるサンプル・リンク・ディレクティブ・ファイルは、各ウィザード上で指定した、次に示す項目の組み合わせにより異なります。

- [リアルタイム OS を使用しない] / [内蔵メモリのみ] の指定の場合

- [リアルタイム OS を使用しない] / [外部メモリあり] の指定の場合

なお、作成されたサンプル・リンク・ディレクティブ・ファイルはプロジェクト・フォルダに保存されると同時に、プロジェクト関連ファイルに登録されます。

また、サンプル・リンク・ディレクティブ・ファイルの名前は、“プロジェクト・ファイル名.dir” となります。

【注意】

次に示すサンプル・ファイルのすべては、内蔵 RAM の開始アドレスが 0xffe000 の場合です。

実際は、指定されたデバイス名の内蔵メモリの開始アドレスに対応したサンプルのリンク・ディレクティブ・ファイルが作成されます。

また、“著作権表示等 表示欄”には、著作権表示に加え、PM+ のバージョン、デバイス名、デバイス・ファイル名、および内蔵 RAM 領域の開始/終了アドレスなどが記述されます。

なお、作成されたリンク・ディレクティブ・ファイルは、ターゲットの仕様やユーザ定義セクションなどに合わせて、ユーザがカスタマイズする必要があります。

[リアルタイム OS を使用しない] / [内蔵メモリのみの] の指定の場合

```

# Sample link directive file (not use RTOS/use internal memory only)
# (著作権表示等 表示欄)

SCONST : !LOAD ?R {
    .sconst      = $PROGBITS      ?A .sconst;
};

CONST  : !LOAD ?R {
    .const       = $PROGBITS      ?A .const;
};

TEXT   : !LOAD ?RX {
    .pro_epi_runtime = $PROGBITS  ?AX .pro_epi_runtime;
    .text          = $PROGBITS    ?AX .text;
};

SIDATA : !LOAD ?RW V0xffe000 {
    .tidata.byte   = $PROGBITS    ?AW .tidata.byte;
    .tibss.byte    = $NOBITS      ?AW .tibss.byte;
    .tidata.word   = $PROGBITS    ?AW .tidata.word;
    .tibss.word    = $NOBITS      ?AW .tibss.word;
    .tidata        = $PROGBITS    ?AW .tidata;
    .tibss         = $NOBITS      ?AW .tibss;
    .sidata        = $PROGBITS    ?AW .sidata;
    .sibss         = $NOBITS      ?AW .sibss;
};

DATA   : !LOAD ?RW V0xffe100 {
    .data          = $PROGBITS    ?AW .data;
    .sdata         = $PROGBITS    ?AWG .sdata;
    .sbss          = $NOBITS      ?AWG .sbss;
    .bss           = $NOBITS      ?AW .bss;
};

__tp_TEXT @ %TP_SYMBOL;
__gp_DATA @ %GP_SYMBOL &__tp_TEXT{DATA};
__ep_DATA @ %EP_SYMBOL;

```

【注意】

上記の例は、内蔵 RAM の開始アドレスが 0xffe000 の場合です。

[リアルタイム OS を使用しない] / [外部メモリあり] の指定の場合

```

# Sample link directive file (not use RTOS/use external memory)
# (著作権表示等 表示欄)

SCONST : !LOAD ?R {
    .sconst      = $PROGBITS    ?A .sconst;
};

TEXT   : !LOAD ?RX {
    .pro_epi_runtime = $PROGBITS    ?AX .pro_epi_runtime;
    .text           = $PROGBITS    ?AX .text;
};

DATA   : !LOAD ?RW V0x100000 {
    .data          = $PROGBITS    ?AW .data;
    .sdata         = $PROGBITS    ?AWG .sdata;
    .sbss          = $NOBITS      ?AWG .sbss;
    .bss           = $NOBITS      ?AW .bss;
};

CONST  : !LOAD ?R {
    .const        = $PROGBITS    ?A .const;
};

SEDATA : !LOAD ?RW V0xff6000 {
    .sedata       = $PROGBITS    ?AW .sedata;
    .sebss       = $NOBITS      ?AW .sebss;
};

SIDATA : !LOAD ?RW V0xffe000 {
    .tidata.byte  = $PROGBITS    ?AW .tidata.byte;
    .tibss.byte   = $NOBITS      ?AW .tibss.byte;
    .tidata.word  = $PROGBITS    ?AW .tidata.word;
    .tibss.word   = $NOBITS      ?AW .tibss.word;
    .tidata       = $PROGBITS    ?AW .tidata;
    .tibss        = $NOBITS      ?AW .tibss;
    .sidata       = $PROGBITS    ?AW .sidata;
    .sibss        = $NOBITS      ?AW .sibss;
};

__tp_TEXT @ %TP_SYMBOL;
__gp_DATA @ %GP_SYMBOL &__tp_TEXT{DATA};
__ep_DATA @ %EP_SYMBOL;

```

【注意】

上記の例は、内蔵 RAM の開始アドレスが 0xffe000 の場合です。

付録 B キーボード・マクロ用コマンド一覧

ここでは、キー操作として保存したマクロ・ファイル (*.imc) に修正を加える場合、記述可能なコマンドの書式を示します。

【コマンド書式の見方】

- “<>” は省略できない引数を示し，“[]” は省略可能な引数を示します。
- “|” はいずれか 1 つを選択することを示します。

ファイル関連

表 B-1 キーボード・マクロ用コマンド（ファイル関連）

内容	コマンド書式
新規作成	newfile [idl] idl : IDL ファイルを新規に作成する
ファイルを開く	openfile <"filename"> [readonly] [layer] [autoselect sjis euc jis unicode] filename : ファイル名をフルパスで指定する readonly : 上書き禁止で開く layer : 階層を付けて読み込む autoselect : 自動判別 sjis : Shift JIS コードのファイルを読み込む euc : EUC コードのファイルを読み込む jis : JIS コードのファイルを読み込む unicode : Unicode のファイルを読み込む
挿入読み込み	insertfile <"filename"> filename : ファイル名をフルパスで指定する
ワークスペースを開く	openworkspace <"filename"> filename : ファイル名をフルパスで指定する
ワークスペースを閉じる	closeworkspace
ファイルを閉じる	closefile [nosave] noseve : 編集で変更したファイルを保存せずに閉じる
上書き保存	save
名前を付けて保存	saveas <"filename"> [makesource [notdivide]] [replace] [crf lf cr] [sjis euc jis unicode] filename : ファイル名をフルパスで指定する makesource : ソース・ファイルを作成する notdivide : ソース・ファイルは分割しない replace : 上書き確認メッセージを表示せずに上書きを行う crf : 改行コードは CR+LF で保存する lf : 改行コードは LF で保存する cr : 改行コードは CR で保存する sjis : Shift JIS コードで保存する euc : EUC コードで保存する jis : JIS コードで保存する unicode : Unicode で保存する
印刷	print

編集関連

表 B-2 キーボード・マクロ用コマンド（編集関連）

内容	コマンド書式
元に戻す	undo
やり直し	redo
切り取り	copy コマンドと delete コマンドの組み合わせ
コピー	copy
イメージコピー	imagecopy
貼り付け	paste
削除	delete
単語削除	deleteword <all> all : “単語のキャレットから右側削除”との区別のために必要
単語のキャレットから右側削除	deleteword
行削除	deleteline
行頭まで削除	deletebefore
行末まで削除	deleteafter
行頭まで範囲指定	selectbefore
行末まで範囲指定	selectafter
キャレット位置の単語範囲指定	selectword
囲指定ット位置から左側単語範	selectleftword
囲指定ット位置から右側単語範	selectrightword
すべて選択	selectall
キーワードによるグループ化	grouping <検索文字列> [and or] [color delete none coloronly] [undocolor] [window] < 検索文字列 > : 検索文字列を " " で囲んで指定する [and] : AND 検索 [or] : OR 検索 [matchcase] : 大文字 / 小文字を区別する [zen] : 全角 / 半角文字を区別する [paragraph] : 段落指定する (省略時は段落指定しない) [color] : グループ化後の処理 (色を変える) [delete] : グループ化後の処理 (削除する) [none] : グループ化後の処理 (何もしない) [coloronly] : 色を変える処理のみ行う (グループ化後の処理と同 時指定できない) [undocolor] : すでにグループ化した行の色を戻す [window] : 別ウインドウへグループ化を行う
グループ化行の色を戻す	undogroupcolor

検索関連

表 B-3 キーボード・マクロ用コマンド（検索関連）

内容	コマンド書式
上向きに検索	<pre>findup < 検索文字列 > [word] [matchcase] [zen] [special] [[[loop] [askloop]] [frombottom]] [source]</pre> <p> < 検索文字列 > : 検索文字列を " " で囲んで指定する word : 単語検索 matchcase : 大文字／小文字を区別する zen : 全角／半角文字を区別する special : 正規表現 loop : 先頭行または最終行で検索を終了しない askloop : 先頭行または最終行で検索を終了しない場合に確認メッセージを表示する frombottom : 先頭 / 最終行から検索する source : キャレットのあるソース・ファイル行のみ検索 </p>
下向きに検索	<pre>finddown < 検索文字列 > [word] [matchcase] [zen] [special] [[[loop] [askloop]] [frombottom]] [source]</pre> <p> < 検索文字列 > : 検索文字列を " " で囲んで指定する word : 単語検索 matchcase : 大文字／小文字を区別する zen : 全角／半角文字を区別する special : 正規表現 loop : 先頭行または最終行で検索を終了しない askloop : 先頭行または最終行で検索を終了しない場合に確認メッセージを表示する frombottom : 先頭 / 最終行から検索する source : キャレットのあるソース・ファイル行のみ検索 </p>
文字列の置換	<pre>replace < 置換前の文字列 > < 置換後の文字列 > [word] [matchcase] [zen] [special] [[[loop] [askloop]] [frombottom]] [source] [all]</pre> <p> < 置換前の文字列 > : 置換前の文字列を " " で囲んで指定する < 置換後の文字列 > : 置換後の文字列を " " で囲んで指定する word : 単語検索 matchcase : 大文字／小文字を区別する zen : 全角／半角文字を区別する special : 正規表現 loop : 先頭行または最終行で検索を終了しない askloop : 先頭行または最終行で検索を終了しない場合に確認メッセージを表示する frombottom : 先頭からすべて置換 source : キャレットのあるソース・ファイル行のみ検索 all : すべて置換（省略時は [置換して次に] の動作となる） </p>

内容	コマンド書式
グローバル検索 (ファイル内を探す場合)	<pre>grepfile < 検索文字列 > < ファイルの種類 > < フォルダ > [subfolder] [word] [matchcase] [zen] [special] [source] [findalllayer foundlayer foundnotlayer] [autoselect sjis euc jis unicode]</pre> <p> < 検索文字列 > : 検索文字列を " " で囲んで指定する < ファイルの種類 > : ファイルの種類文字列を " " で囲んで指定する < フォルダ > : フォルダ文字列を " " で囲んで指定する subfolder : サブ・フォルダも探す word : 単語検索 matchcase : 大文字／小文字を区別する zen : 全角／半角文字を区別する special : 正規表現 source : ソース・ファイル名も表示する findalllayer : 検索したファイルをすべて階層化して表示する foundlayer : 文字列を発見したファイルを階層化して表示する foundnotlayer : 文字列を発見したファイルを階層化しないで表示する autoselect : 自動判別 sjis : Shift JIS コードのファイルを読み込む euc : EUC コードのファイルを読み込む jis : JIS コードのファイルを読み込む unicode : Unicode のファイルを読み込む </p>
グローバル検索 (編集中のウインドウ内を探す場合)	<pre>gredit < 検索文字列 > [word] [matchcase] [zen] [special] [source] [findalllayer foundlayer foundnotlayer] [autoselect sjis euc jis unicode]</pre> <p> < 検索文字列 > : 検索文字列を " " で囲んで指定する word : 単語検索 matchcase : 大文字／小文字を区別する zen : 全角／半角文字を区別する special : 正規表現 source : ソース・ファイル名も表示する findalllayer : 検索したファイルをすべて階層化して表示する foundlayer : 文字列を発見したファイルを階層化して表示する foundnotlayer : 文字列を発見したファイルを階層化しないで表示する autoselect : 自動判別 sjis : Shift JIS コードのファイルを読み込む euc : EUC コードのファイルを読み込む jis : JIS コードのファイルを読み込む unicode : Unicode のファイルを読み込む </p>
追加コピー	copyforappend
追加切り取り	cutforappend
プロジェクト内検索	findinproject

階層関連

表 B-4 キーボード・マクロ用コマンド（階層関連）

内容	コマンド書式
ひとつ上げる	onelevelup
ひとつ下げる	oneleveldown
下位をひとつ開く	expand
下位をひとつたたむ	collapse
下位をすべて開く	expandalllower
すべて開く	expandall
すべてたたむ	collapseall
指定階層まで開く	expandspecified [caret] caret : キャレット位置の下位階層に限定する
指定階層までたたむ	collapsespecified [caret] caret : キャレット位置の下位階層に限定する
第 1 階層のみ表示する	displaylayer1
第 2 階層まで表示する	displaylayer2
第 3 階層まで表示する	displaylayer3
第 4 階層まで表示する	displaylayer4
第 5 階層まで表示する	displaylayer5
キャレット位置の階層をたたむ	collapsethislayer

ジャンプ関連

表 B-5 キーボード・マクロ用コマンド（ジャンプ関連）

内容	コマンド書式
行の先頭へジャンプ	topoffline
行の最後へジャンプ	endoffline
マーク・ジャンプ 現在のキャレット位置をマーク 行として追加する	addmark
マーク・ジャンプ (指定した番号のマーク行にジャンプする)	markjump < マークのインデックス番号 > < マークのインデックス番号 > : 1 から始まるマークの番号を指定する ([マーク・ジャンプ] ダイアログの表示順)
指定行へジャンプ	jump < 行番号 > < 行番号 > : ファイル先頭行を 1 行目として見かけ上の行数 (閉じた階層 を含まない) を指定する
先頭行へジャンプ	topline
見出し行へジャンプ	indexline
最終行へジャンプ	bottomline
タグ・ジャンプ	tagjump
NEXT タグ・ジャンプ	nexttagjump
上方向 NEXT タグ・ジャンプ	upwardnexttag
1 単語右へジャンプ	rightword

内容	コマンド書式
1 単語左へジャンプ	leftword
対応括弧へジャンプ	jumpparent
バック・タグ・ジャンプ	backtagjump
関数定義行へ	fuctiondefinition
キャラクタ位置の第 1 階層へ	toplayer
キャラクタ上移動	up [回数] 回数：移動する回数を指定する（省略時は 1 回となる）
キャラクタ下移動	down [回数] 回数：移動する回数を指定する（省略時は 1 回となる）
キャラクタ左移動	left [回数] 回数：移動する回数を指定する（省略時は 1 回となる）
キャラクタ右移動	right [回数] 回数：移動する回数を指定する（省略時は 1 回となる）
上同階層へ	upsamelayer
下同階層へ	downsamelayer
ジャンプ前のキャラクタ位置へ	backjump

ヘルプ関連

表 B-6 キーボード・マクロ用コマンド（ヘルプ関連）

内容	コマンド書式
外部ヘルプ 1	externalhelp1
外部ヘルプ 2	externalhelp2
外部ヘルプ 3	externalhelp3

メニューにない項目関連

表 B-7 キーボード・マクロ用コマンド（メニューにない項目関連）

内容	コマンド書式
文字の挿入	insert < 文字列 > < 文字列 > : 入力する文字列を " " で囲んで指定する 【注意】 挿入モード / 上書きモードに依存せず文字の挿入を行う
文字の上書き	overwrite < 文字列 > < 文字列 > : 入力する文字列を " " で囲んで指定する 【注意】 挿入モード / 上書きモードに依存せず文字の上書きを行う
文字の入力	input < 文字列 > < 文字列 > : 入力する文字列を " " で囲んで指定する 【注意】 挿入モード / 上書きモードに依存した動作を行う 入力モードは, insertmode, overwritemode, overwriteswitch 等でモードを切り替え可能
改行の入力	insertreturn [回数] 回数 : 入力する回数を指定する (省略時は 1 回となる)
次ページへ	nextpage
前ページへ	prevpage
範囲指定開始	beginisel 【注意】 beginisel を実行後にキャレット移動等を行うと範囲指定が可能となる
範囲指定終了	endisel 【注意】 beginisel による範囲指定モードを解除する
バックスペース	backspace [回数] 回数 : 移動する回数を指定する (省略時は 1 回となる)
高速キャレット上移動	upfast [回数] 回数 : 移動する回数を指定する (省略時は 1 回となる)
高速キャレット下移動	downfast [回数] 回数 : 移動する回数を指定する (省略時は 1 回となる)
挿入モードに切り替え	insertmode
上書きモードに切り替え	overwritemode
編集ウィンドウ選択	window < ウィンドウ名 > [readonly [= ReadOnly No]] < ウィンドウ名 > : 編集ウィンドウ のファイル名をフルパスで指定する。ファイル名が未定であればキャプションのタイトル文字列を指定する。文字列指定のため " " で囲んで指定する readonly = ReadOnly No : ReadOnly の 編集ウィンドウ を選択する場合は [readonly] の指定を行う。キャプションに ReadOnly 番号が表示されている場合は, [readonly=1] 等の様に番号を指定する

制御コマンド関連

表 B-8 キーボード・マクロ用コマンド（制御コマンド関連）

内容	コマンド書式
PM+ の終了	exit
上書き / 挿入モードの切替え	overwriteswitch
外部実行モジュールの起動	<p>exec <パラメータ> <パラメータ> : 実行モジュール名及び実行モジュール等の引数全体を " " で囲んで指定する</p> <p>【例】</p> <pre>exec "dir" exec "dir /od *.txt" exec "z:\hide\hidemaru.exe" //z:\hide\hidemaru.exe を起動する</pre>
数値変数の定義	<p># 変数名 # 変数名 = " 初期値 " " 初期値 " : 変数の初期値を指定できる</p> <p>【注意】 変数名にはユーザ任意の変数名を設定できる 初期値を指定しないときは、初期値は 0 になる</p> <p>【例】</p> <pre>#cnt // 内容は 0 に初期化される #cnt2 = 5 // 内容は 5 に初期化される</pre>
文字列変数の定義	<p>\$ 文字列変数名 \$ 文字列変数名 = " 初期値 " " 初期値 " : 変数の初期値を指定できる</p> <p>【注意】 文字列変数名にはユーザ任意の変数名を設定できる 初期値を指定しないときは、初期値は "" になる</p> <p>【例】</p> <pre>\$str // 内容は "" に初期化される \$str2 = "ABC" // 内容は "ABC" に初期化される</pre>
演算子	<p>++, --, +=, -=, *=, /=, =, +, -</p> <p>【例】</p> <pre>#cnt++ #value-- #value += 5 #cnt=12 #idx *= #cnt #idx /= #cnt #idx=#idx+2-#cnt</pre>
条件式	<p><, >, ==, <=, >=, !=</p> <p>【例】</p> <pre>#a < #b #a が #b より小さい #a > 10 #a が 10 より大きい #a == #b #a と #b が等しい #a <= 5 #a が 5 より小さいか等しい #a >= 8 #a が 8 より大きい等しい #a != #b #a と #b が等しくない</pre>

内容	コマンド書式
ループ	<pre>while (条件式) { 処理 } 【例】 // 10 回 1 を挿入するルーチン #cnt = 0 while (#cnt < 10) { insert "1" // 1 を挿入 insertreturn // リターン #cnt++ // #cnt を加算 }</pre>
ループ処理の中断	<pre>break 【例】 #cnt = 0 while (1) { // 無限ループ insert "1" // 1 を挿入 insertreturn // リターン if (#cnt == 5) { break; // 5 回ループで終了 } #cnt++ // #cnt を加算 }</pre>
while の先頭に戻る	<pre>continue 【例】 #cnt = 0 while (#cnt < 10) { // 10 回ループ if (#cnt == 0) { insert "1" // 1 を挿入 insertreturn // リターン } else { continue // while の先頭に戻る } #cnt++ // #cnt を加算 }</pre>
比較	<pre>if (条件式) { 処理 } elseif { 処理 } else { 処理 } 【例】 #cnt = 0 while (#cnt < 10) { // 10 回ループ if (#cnt == 0) { insert "0" // 0 を挿入 insertreturn // リターン } elseif (#cnt == 1) { insert "1" insertreturn // リターン } else { continue // while の先頭に戻る } #cnt++ // #cnt を加算 }</pre>
メッセージ・ボックスの表示	<pre>msgbox < 文字列 > < 文字列 > : 表示する文字列を " " で囲んで指定する 【注意】 [OK] ボタンをクリックするとメッセージ・ボックスを閉じる</pre>

内容	コマンド書式
キャレット位置の文字取得	\$x = getchar \$x : 文字列型の変数 【戻り値】 キャレット位置の 1 文字 (文字列) を返す
キャレット位置のタイトル行調査	#x = istitle #x : 整数型の変数 【戻り値】 1 : タイトル行である 0 : タイトル行ではない
キャレット行のタイトル行 (開く/たたむ) 調査	#x = istitleopen #x : 整数型の変数 【戻り値】 1 : タイトル行の階層は開いている 0 : タイトル行の階層はたたんでいる
キャレット行の先頭行調査	#x = istop #x : 整数型の変数 【戻り値】 1 : 先頭行である 0 : 先頭行ではない
キャレット行の最終行調査	#x = isbottom #x : 整数型の変数 【戻り値】 1 : 最終行である 0 : 最終行ではない 【注意】 最終行がたたんだ階層行でも戻り値は 1 となる
行末調査	#x = isendofline #x : 整数型の変数 【戻り値】 1 : キャレットは行末にある 0 : キャレットは行末にない
ファイル末 (EOF) 調査	#x = iseof #x : 整数型の変数 【戻り値】 1 : キャレットは EOF にある 0 : キャレットは EOF にない 【注意】 最終行がたたんだ階層行でも戻り値は 1 となる
Tab を 1 文字とみなした, キャレット桁 (X) 位置取得関数	#x = getcol #x : 整数型の変数 【戻り値】 キャレット桁 (X) 位置を返す。左端 =1 とする
Tab を設定されたスペース数の文字数分とみなした, キャレット桁 (X) 位置取得関数	#x = getdispcol #x : 整数型の変数 【戻り値】 キャレット桁 (X) 位置を返す。左端 =1 とする
たたんだ行を数えない, キャレット桁 (Y) 位置取得関数	#x = getdispline #x : 整数型の変数 【戻り値】 行数を返す。先頭行 =1 とする
たたんだ行も含んだ, キャレット桁 (Y) 位置取得関数	#x = getabsline #x : 整数型の変数 【戻り値】 行数を返す。先頭行 =1 とする

内容	コマンド書式
キャレット位置の全角文字調査	#x = isdbcs #x : 整数型の変数 【戻り値】 1 : 全角文字 0 : 半角文字
現在時間をキャレット位置に挿入する	time
現在日時をキャレット位置に挿入する	date

付録 C ショートカット・キー一覧

表 C-1 に、デフォルトの状態におけるショートカット・キー一覧を示します。

表 C-1 ショートカット・キー一覧 (デフォルト)

メニュー名		ショートカット・キー	備考
ファイル	新規作成	[Ctrl]+ [N]	
	開く	[Ctrl]+ [O]	
	上書き保存	[Ctrl]+ [S]	
	印刷	[Ctrl]+ [P]	
編集	元に戻す	[Ctrl]+ [Z]	
	やり直し	[Ctrl]+ [Y]	
	切り取り	[Ctrl]+ [X]	
	コピー	[Ctrl]+ [C]	
	貼り付け	[Ctrl]+ [V]	
	単語削除	[Ctrl]+ [T]	
	削除	[Delete]	
	行削除	[Ctrl]+ [G]	
	行頭まで削除	[Ctrl]+ [U]	【注 1】 参照
	行末まで削除	[Ctrl]+ [K]	
	行頭まで前範囲指定	[Shift] + [Home]	
行末まで前範囲指定	[Shift] + [End]		
検索	文字列の検索	[Ctrl]+ [F]	
	上向きに検索	[Shift] + [F3]	【注 1】 参照
	下向きに検索	[F3]	
	単語上方向検索	[Ctrl]+ [W]	
	単語下方向検索	[Ctrl]+ [Q]	
	文字列の置換	[Ctrl]+ [H]	
	マークジャンプ	[Ctrl]+ [J]	
	行の先頭へ	[Home]	
	行の最後へ	[End]	
	先頭行へ	[Ctrl]+ [Home]	
	最終行へ	[Ctrl]+ [End]	
	見出し行へ	[Ctrl]+ [Shift] + [↑]	
	対応括弧へ	[Ctrl]+ [L]	
	タグ・ジャンプ	[F10]	
	バックタグ・ジャンプ	[Shift] + [F10]	
	Next タグ・ジャンプ	[F9]	
	上方向 Next タグ・ジャンプ	[Shift] + [F9]	
	1 単語右へ	[Ctrl]+ [D]	【注 1】 参照
	1 単語左へ	[Ctrl]+ [A]	
	ダイレクト検索	[Ctrl]+ [Shift] + [F]	

メニュー名		ショートカット・キー	備考
階層	ひとつ上げる	[Ctrl]+ [Shift] + [←]	
	ひとつ下げる	[Ctrl]+ [Shift] + [→]	
	下位をひとつ開く	[Ctrl]+ [+]	“+” はテンキーによる入力
	下位をひとつたたむ	[Ctrl]+ [-]	“-” はテンキーによる入力
	下位をすべて開く	[Ctrl]+ [*]	“*” はテンキーによる入力
	第 1 階層のみ表示する	[Ctrl]+ [1]	【注 1】 参照
	第 2 階層のみ表示する	[Ctrl]+ [2]	
	第 3 階層のみ表示する	[Ctrl]+ [3]	
	第 4 階層のみ表示する	[Ctrl]+ [4]	
	第 5 階層のみ表示する	[Ctrl]+ [5]	
ビルド	ビルド -> デバッグ	[F5]	
	ビルド	[F7]	
	コンパイル	[Ctrl]+ [F7]	
ヘルプ	カレント・ウインドウ	[F1]	
	外部ヘルプ 1	[Shift] + [F1]	
	外部ヘルプ 2	[Ctrl]+ [F1]	
	外部ヘルプ 3	[Ctrl]+ [Shift] + [F1]	

【注 1】

これらのメニュー項目は、デフォルトでは表示されません。

これらのメニュー項目をツールバー上より表示したい場合は、[ツール] メニュー → [カスタマイズ ...] - [[メニュー](#)] タブ で設定してください。

【備考】

上記のショートカット・キーは、一部を除き、[ツール] メニュー → [カスタマイズ ...] - [[キーボード](#)] タブ により設定を変更することができます（[[カスタマイズ](#)] ダイアログ参照）。

また、ショートカット・キーは、[[ショートカット・キー一覧](#)] ダイアログでも確認することができます。このダイアログでは、変更を加えたショートカット・キーや、新たに設定したショートカット・キーを一覧で確認することができます。

付録 D 数量的限界値一覧

表 D-1 に、PM+ の数量的限界値一覧を示します。

表 D-1 数量的限界値一覧

項目		限界値
ワークスペース関係	ワークスペース・ファイル名の長さ	255 文字
	プロジェクト・グループ名の長さ	127 文字
	1つのワークスペースあたり登録可能なプロジェクトの数	128 個
	1つのプロジェクト・グループあたり登録可能なプロジェクトの数	20 個
プロジェクト関係	プロジェクト・ファイル名の長さ	255 文字
	プロジェクト・タイトルの長さ	127 文字
	ソース・ファイル名の長さ	259 文字
	プロジェクト関連ファイル名の長さ	259 文字
	その他のファイル名の長さ	259 文字
	1つのプロジェクトあたり登録可能なソース・ファイルの数	2048 個
	1つのプロジェクトあたり登録可能なその他のファイルの数	100 個
ビルド関係	ビルド前、およびビルド後の処理で設定可能なコマンド文字列の長さ	127 文字
編集ウィンドウ関係	1行あたりの文字数	5119 文字
	最大行数	2097152 行
	最大階層数	127 階層
	分割できる第 1 階層数	128 個
	IDL ファイルで生成するソース・ファイルの数	128 個
マーク・ジャンプ関係	登録可能なマークの数	20 個
スマート・ルック・アップ関係	認識可能な関数名の長さ	1998 文字
	ユーザ登録関数候補の最大数	64 個
外部ツール関係	登録可能な外部ツールの数	10 個
	外部ツールで設定可能なメニューの長さ	32 文字
	外部ツールで設定可能なツールチップの長さ	32 文字
	外部ツールで設定可能なステータスバーの長さ	32 文字
マクロ関係	記憶可能な最大マクロ命令数	64 個
	マクロ登録の最大数	32 個
	マクロ登録で設定可能なタイトルの長さ	32 文字
キーワード関係	ユーザ登録キーワードの最大数	64 個
	C 言語キーワードの最大数	64 個

総合索引

【A】

Applilet2 ... 25

【C】

CVS アップデート ... 64, 90
[CVS アップデート] ダイアログ ... 237
CVS コミット ... 64, 90
[CVS コミット] ダイアログ ... 239
CVS ステータス ... 65, 90
[CVS ステータス] ダイアログ ... 243
CVS 比較 ... 65, 90
CVS ログ ... 65, 90
[CVS ログ] ダイアログ ... 241
[C 言語予約語の編集] ダイアログ ... 333

【D】

Debug Build ... 280, 282
DLL ... 25, 26
dump850 ... 71, 91
[dump850] ダイアログ ... 291

【F】

FAQ ... 77, 78

【I】

IDL ファイル ... 23

【L】

LDG ... 25

【N】

NEC エレクトロニクス マイコン Web ... 77, 92
NEXT タグ・ジャンプ ... 54, 88

【P】

PM+ ... 22
PM+ の終了 ... 41, 86
PM+ のバージョン情報 ... 78, 93
[PM+ のバージョン情報] ダイアログ ... 350
PM+ のヘルプ ... 77, 92

【R】

Release Build ... 280, 282
[RTOS の選択] ダイアログ ... 290

【T】

TW850 ... 25

【X】

XO850 ... 26

【あ行】

アウトプット・ウインドウ ... 62, 89, 117
 オープン方法 ... 117
 タグ・ジャンプ機能 ... 117
 ドラッグ・アンド・ドロップ機能 ... 118
 マウス右ボタンでの動作 ... 118
アクティブ・プロジェクトの選択 ... 33, 64, 89
[アクティブ・プロジェクトの選択] ダイアログ ... 234
アンインストール ... 27
依存関係データ・ファイル ... 26
依存関係の更新 ... 69, 90
 1 行上へ ... 55, 88
 1 行下へ ... 55, 88
 1 単語左へ ... 54, 88
 1 単語右へ ... 54, 88
 1 文字左へ ... 55, 88
 1 文字右へ ... 55, 88
イメージ・コピー ... 44, 86
[印刷] ダイアログ ... 183
印刷 ... 40, 86
印刷プレビュー ... 40, 86
インストール ... 27
ウインドウ ... 75, 92
 ウインドウ一覧 ... 76, 92
 オープンウインドウ情報 ... 92
 重ねて表示 ... 75, 92
 左右に並べて表示 ... 75, 92
 上下に並べて表示 ... 75, 92
 次のウインドウ ... 76, 92
 次の分割ウインドウ ... 75, 92
 分割 ... 75, 92
 前のウインドウ ... 76, 92
[ウインドウ一覧] ダイアログ ... 347

- ウインドウ一覧 ... 76, 92
 - ウインドウ構成 ... 79
 - ウインドウ／ダイアログの説明 ... 83
 - ウインドウに関する操作方法 ... 75
 - ウインドウ表示エリア ... 96
 - ウインドウ (W) メニュー ... 92
 - ウインドウ・リファレンス ... 79
 - 上同階層へ ... 51, 88
 - 上方向 NEXT タグ・ジャンプ ... 54, 88
 - 上向きに検索 ... 48, 87
 - 上書き保存 ... 38, 85
 - エディット ... 69, 91
 - オープンウインドウ情報 ... 92
 - オブジェクト表示 ... 62, 89
 - オプションバー ... 61, 89, 95
- 【か行】**
- 概説 ... 22
 - 階層 ... 56, 88
 - 下位をすべて開く ... 58, 88
 - 下位をひとつたたむ ... 58, 88
 - 下位をひとつ開く ... 57, 88
 - 下位をひとつ開く / たたむ ... 57, 88
 - キャレット位置の階層をたたむ ... 60, 89
 - 指定階層までたたむ ... 59, 89
 - 指定階層まで開く ... 59, 89
 - すべてたたむ ... 58, 88
 - すべて開く ... 58, 88
 - 第 1 階層のみ表示する ... 59, 89
 - 第 2 階層まで表示する ... 59, 89
 - 第 3 階層まで表示する ... 59, 89
 - 第 4 階層まで表示する ... 59, 89
 - 第 5 階層まで表示する ... 59, 89
 - ひとつ上げる ... 56, 88
 - ひとつ下げる ... 57, 88
 - 文書を階層化する ... 60, 89
 - [階層一覧] ダイアログ ... 233
 - 階層一覧 ... 61, 89
 - 階層化ルール ... 164, 167, 225
 - [階層化ルールの設定] ダイアログ ... 225
 - 階層に関する操作方法 ... 56
 - 階層 (L) メニュー ... 88
 - 開発環境ツール ... 25
 - 外部ツールの起動 ... 72, 91
 - [外部ツールの指定] ダイアログ ... 298
 - [外部ツールの登録] ダイアログ ... 296
 - 外部ツールの登録 ... 72, 91
 - 外部ツールバー ... 61, 89, 96
 - 概要 ... 22
 - 下位をすべて開く ... 58, 88
 - 下位をひとつたたむ ... 58, 88
 - 下位をひとつ開く ... 57, 88
 - 下位をひとつ開く / たたむ ... 57, 88
 - 重ねて表示 ... 75, 92
 - カスタマイズ ... 73, 91
 - [カスタマイズ] ダイアログ ... 324
 - 環境設定 ... 72, 91
 - [環境設定] ダイアログ ... 302
 - 漢字コード ... 165, 172
 - [関数一覧] ダイアログ ... 228
 - 関数一覧 ... 61, 89
 - 関数情報ファイル ... 26
 - 関数定義行へ ... 52, 88
 - キー操作に対応するコマンド ... 74
 - キー操作の記録開始／記録終了 ... 73, 91
 - キー操作の再生 ... 73, 92
 - キー操作の保存 ... 73, 92
 - キー操作の読み込み ... 74, 92
 - [キー操作の読み込み] ダイアログ ... 337
 - [キー操作の保存] ダイアログ ... 335
 - [キーワードによるグループ化] ダイアログ ... 191
 - キーワードによるグループ化 ... 47, 87
 - 起動方法 ... 28
 - 機能 ... 23
 - キャレット位置から左側単語範囲指定 ... 46, 87
 - キャレット位置から右側単語範囲指定 ... 46, 87
 - キャレット位置の階層をたたむ ... 60, 89
 - キャレット位置の第 1 階層へ ... 51, 87
 - キャレット位置の単語範囲指定 ... 46, 87
 - 行削除 ... 46, 87
 - 行頭まで削除 ... 46, 87
 - 行頭まで範囲指定 ... 46, 87
 - 行の最後へ ... 50, 87
 - 行の先頭へ ... 50, 87
 - 行末まで削除 ... 46, 87
 - 行末まで範囲指定 ... 47, 87
 - 切り取り ... 44, 86
 - クイック・ツアー ... 30
 - クリーン ... 69, 91
 - グループ化行の色を戻す ... 47, 87
 - グローバル検索 ... 52, 88
 - [グローバル検索] ダイアログ ... 211
 - グローバル置換 ... 52, 88
 - [グローバル置換] ダイアログ ... 216
 - [グローバル置換ファイル履歴] ウインドウ ... 219
 - 形式を選択して貼り付け ... 45, 86

- 検索 ... 48, 87
 - 関数定義行へ ... 52
 - NEXT タグ・ジャンプ ... 54, 88
 - 1 行上へ ... 55, 88
 - 1 行下へ ... 55, 88
 - 1 単語左へ ... 54, 88
 - 1 単語右へ ... 54, 88
 - 1 文字左へ ... 55, 88
 - 1 文字右へ ... 55, 88
 - 上同階層へ ... 51, 88
 - 上方向 NEXT タグ・ジャンプ ... 54, 88
 - 上向きに検索 ... 48, 87
 - 関数定義行へ ... 88
 - キャレット位置の第 1 階層へ ... 51, 87
 - 行の最後へ ... 50, 87
 - 行の先頭へ ... 50, 87
 - グローバル検索 ... 52, 88
 - グローバル置換 ... 52, 88
 - 最終行へ ... 50, 87
 - 下同階層へ ... 51, 88
 - 下向きに検索 ... 49, 87
 - 指定行へ ... 49, 87
 - 指定ソース・ファイルへ ... 50, 87
 - ジャンプ前のキャレット位置へ ... 51, 88
 - 先頭行へ ... 50, 87
 - 対応括弧へ ... 52, 88
 - ダイレクト検索 ... 55, 88
 - タグ・ジャンプ ... 53, 88
 - 単語上方向検索 ... 49, 87
 - 単語下方向検索 ... 49, 87
 - バック・タグ・ジャンプ ... 53, 88
 - プロジェクト内検索 ... 52, 88
 - マーク・ジャンプ ... 50, 87
 - 見出し行へ ... 50, 87
 - 文字列の検索 ... 48, 87
 - 文字列の置換 ... 49, 87
 - 検索結果ウインドウ ... 115
 - オープン方法 ... 115
 - 各エリアの説明 ... 115
 - ドラッグ・アンド・ドロップ機能 ... 116
 - マウスのダブル・クリック動作 ... 116
 - 検索に関する操作方法 ... 48
 - 検索 (D) メニュー ... 87
 - 構造化アセンブラ ... 95
 - 個人用環境設定ファイル ... 26
 - コピー ... 44, 86
 - [コピー元のスタートアップファイルの指定] ダイアログ ... 267
 - [コピー元のリンク ディレクティブ ファイルの指定] ダイアログ ... 273
 - [コマンドの追加] ダイアログ ... 288
 - [コマンドの編集] ダイアログ ... 289
 - [コメント記号のユーザ設定] ダイアログ ... 182
 - コンパイル ... 68, 90
- ## 【さ行】
- 最終行へ ... 50, 87
 - 削除 ... 45, 86
 - 左右に並べて表示 ... 75, 92
 - サンプル・リンク・ディレクティブ・ファイル ... 383
 - 下同階層へ ... 51, 88
 - 下向きに検索 ... 49, 87
 - [指定階層までたたむ] ダイアログ ... 224
 - 指定階層までたたむ ... 59, 89
 - [指定階層まで開く] ダイアログ ... 222
 - 指定階層まで開く ... 59, 89
 - 指定行へ ... 49, 87
 - [指定行へジャンプ] ダイアログ ... 205
 - 指定ソース・ファイルへ ... 50, 87
 - [指定ソース・ファイルへジャンプ] ダイアログ ... 207
 - [指定ソース・ファイル名の変更] ダイアログ ... 178
 - 自動検証システム ... 26
 - ジャンプ ... 205, 207, 233
 - ジャンプ前のキャレット位置へ ... 51, 88
 - 終了方法 ... 29
 - 上下に並べて表示 ... 75, 92
 - ショートカット一覧 ... 77, 92
 - [ショートカット・キー一覧] ダイアログ ... 348
 - 新規オブジェクト ... 47, 87
 - 新規作成 ... 36, 85
 - [新規プロジェクトを追加] ウィザード ... 138
 - [新規プロジェクトを追加 - ステップ 1/9] ダイアログ ... 140
 - [新規プロジェクトを追加 - ステップ 2/9] ダイアログ ... 142
 - [新規プロジェクトを追加 - ステップ 3/9] ダイアログ ... 144
 - [新規プロジェクトを追加 - ステップ 4/9] ダイアログ ... 146
 - [新規プロジェクトを追加 - ステップ 5/9] ダイアログ ... 148
 - [新規プロジェクトを追加 - ステップ 6/9] ダイアログ ... 150
 - [新規プロジェクトを追加 - ステップ 7/9] ダイアログ ... 152

- [新規プロジェクトを追加 - ステップ 8/9] ダイアログ ... 154
 - [新規プロジェクトを追加 - ステップ 9/9] ダイアログ ... 156
 - [新規メモを追加] ダイアログ ... 264
 - 数量的限界値一覧 ... 399
 - [スタートアップファイルの指定] ダイアログ ... 265
 - スタート・アップ・ファイル ... 127, 146
 - スタンダードバー ... 61, 89, 93
 - ステータスバー ... 61, 89, 96
 - すべて選択 ... 47, 87
 - すべてたたむ ... 58, 88
 - すべて閉じる ... 39, 86
 - すべてのオブジェクトをアイコン化 ... 62, 89
 - すべてのオブジェクトを表示 ... 62, 89
 - すべてのソース・ファイルを保存 ... 40, 86
 - すべて破棄して閉じる ... 40, 86
 - すべて開く ... 58, 88
 - すべて保存 ... 39, 86
 - すべて保存して閉じる ... 39, 86
 - スマート・ルック・アップ機能 ... 112, 320
 - 正規表現 ... 198, 202
 - 性能解析チューニング・ツール ... 25
 - 先頭行へ ... 50, 87
 - [挿入読み込み] ダイアログ ... 166
 - 挿入読み込み ... 36, 85
 - ソース・ファイルの追加 ... 66
 - [ソース・ファイル名の変更] ダイアログ ... 176
 - ソース・ファイル名の変更 ... 40, 86
 - [ソース・ファイルをプロジェクトに追加] ダイアログ ... 250
 - [ソース・ファイル保存オプション] ダイアログ ... 174
 - [その他のファイルの追加] ダイアログ ... 254
 - その他のファイルの追加 ... 66
- 【た行】**
- 第 1 階層のみ表示する ... 59, 89
 - 第 2 階層まで表示する ... 59, 89
 - 第 3 階層まで表示する ... 59, 89
 - 第 4 階層まで表示する ... 59, 89
 - 第 5 階層まで表示する ... 59, 89
 - ダイアログ
 - CVS アップデート ... 237
 - CVS コミット ... 239
 - CVS ステータス ... 243
 - CVS ログ ... 241
 - C 言語予約語の編集 ... 333
 - PM+ のバージョン情報 ... 350
 - RTOS の選択 ... 290
 - アクティブ・プロジェクトの選択 ... 234
 - 印刷 ... 183
 - ウィンドウ一覧 ... 347
 - 階層一覧 ... 233
 - 階層化ルールの設定 ... 225
 - 外部ツールの指定 ... 298
 - 外部ツールの登録 ... 296
 - カスタマイズ ... 324
 - 環境設定 ... 302
 - 関数一覧 ... 228
 - キー操作保存 ... 335
 - キー操作の読み込み ... 337
 - キーワードによるグループ化 ... 191
 - グローバル検索 ... 211
 - グローバル置換 ... 216
 - コピー元のスタートアップファイルの指定 ... 267
 - コピー元のリンク ディレクティブ ファイルの指定 ... 273
 - コマンドの追加 ... 288
 - コマンドの編集 ... 289
 - コメント記号のユーザ設定 ... 182
 - 指定階層までたたむ ... 224
 - 指定階層まで開く ... 222
 - 指定行へジャンプ ... 205
 - 指定ソース・ファイルへジャンプ ... 207
 - 指定ソース・ファイル名の変更 ... 178
 - ショートカット・キー一覧 ... 348
 - 新規プロジェクトを追加 ステップ 1/9 ... 140
 - 新規プロジェクトを追加 ステップ 2/9 ... 142
 - 新規プロジェクトを追加 ステップ 3/9 ... 144
 - 新規プロジェクトを追加 ステップ 4/9 ... 146
 - 新規プロジェクトを追加 ステップ 5/9 ... 148
 - 新規プロジェクトを追加 ステップ 6/9 ... 150
 - 新規プロジェクトを追加 ステップ 7/9 ... 152
 - 新規プロジェクトを追加 ステップ 8/9 ... 154
 - 新規プロジェクトを追加 ステップ 9/9 ... 156
 - 新規メモを追加 ... 264
 - スタートアップファイルの指定 ... 265
 - 挿入読み込み ... 166
 - ソース・ファイル保存オプション ... 174
 - ソース・ファイル名の変更 ... 176
 - ソース・ファイルをプロジェクトに追加 ... 250
 - その他のファイルの追加 ... 254
 - ツールバージョン詳細設定 ... 261
 - ツールバージョン設定 ... 258
 - デバッグの設定 ... 293
 - 登録するスタートアップファイル名の指定 ... 269

- 登録するリンク ディレクティブ ファイル名の指定 ... 275
- 名前を付けて保存 ... 171
- バッチ・ビルドの設定 ... 278
- ビルド設定 ... 284
- ビルド・モードの設定 ... 280
- ビルド・モードの追加 ... 282
- ファイル比較 ... 300
- ファイルを開く ... 163
- フォント ... 322
- フォント (印刷) ... 186
- 複数ソース・ファイル名の変更 ... 180
- プロジェクト関連ファイルの追加 ... 252
- プロジェクト・グループ名の変更 ... 256
- プロジェクト・タイトルの変更 ... 257
- プロジェクトの設定 ... 245
- プロジェクトの設定 - ステップ 1/3 ... 158
- プロジェクトの設定 - ステップ 2/3 ... 160
- プロジェクトの設定 - ステップ 3/3 ... 162
- プロジェクトの挿入 ... 235
- プロトタイプ宣言生成方法の指定 ... 194
- プロパティ ... 263
- ヘッダ・フッタの設定 ... 188
- マーク・ジャンプ ... 209
- マクロ実行 ... 339
- マクロ登録 ... 341
- マクロ・ファイルの追加 ... 343
- マクロ・ファイルの変更 ... 345
- 文字列の検索 ... 197
- 文字列の置換 ... 201
- ユーザ設定 ... 320
- ユーザ定義キーワードの編集 ... 331
- リンク ディレクティブ ファイルの指定 ... 271
- ワークスペースの新規作成 ステップ 1/9 ... 121
- ワークスペースの新規作成 ステップ 2/9 ... 123
- ワークスペースの新規作成 ステップ 3/9 ... 125
- ワークスペースの新規作成 ステップ 4/9 ... 127
- ワークスペースの新規作成 ステップ 5/9 ... 129
- ワークスペースの新規作成 ステップ 6/9 ... 131
- ワークスペースの新規作成 ステップ 7/9 ... 133
- ワークスペースの新規作成 ステップ 8/9 ... 135
- ワークスペースの新規作成 ステップ 9/9 ... 137
- ワークスペースを開く ... 169
- dump850 ... 291
- 対応括弧へ ... 52, 88
- タイトルバー ... 85
- ダイレクト・アクティブ・プロジェクト選択 ... 66, 90
- ダイレクト印刷 ... 40, 86
- ダイレクト検索 ... 55, 88
- ダイレクト・ビルド・モード選択 ... 91, 70
- タグ・ジャンプ ... 53, 88
- 単語上方向検索 ... 49, 87
- 単語削除 ... 45, 86
- 単語下方向検索 ... 49, 87
- 単語のキャレットから右側削除 ... 45, 86
- 単語の定義 ... 110
- 追加切り取り ... 44, 86
- 追加コピー ... 44, 86
- ツール ... 71, 91
 - dump850 ... 71, 91
 - 外部ツールの起動 ... 72, 91
 - 外部ツールの登録 ... 72, 91
 - カスタマイズ ... 73, 91
 - 環境設定 ... 72, 91
 - キー操作の記録開始/記録終了 ... 73, 91
 - キー操作の再生 ... 73, 92
 - キー操作の保存 ... 73, 92
 - キー操作の読み込み ... 74, 92
 - デバッグの設定 ... 72, 91
 - デバイス・ファイル・インストーラ ... 72, 91
 - 登録マクロの実行 ... 74, 92
 - ファイル比較 ... 72, 91
 - フォント ... 73, 91
 - マクロ実行 ... 74, 92
 - マクロ登録 ... 74, 92
- ツールに関する操作方法 ... 71
- ツールバー ... 93
- [ツールバージョン詳細設定] ダイアログ ... 261
- [ツールバージョン設定] ダイアログ ... 258
- ツール(T)メニュー ... 91
- 次のウインドウ ... 76, 92
- 次の分割ウインドウ ... 75, 92
- デバッグ ... 69, 91
- [デバッグの設定] ダイアログ ... 293
- デバッグの設定 ... 72, 91
- デバイスドライバ・コンフィギュレータ ... 25
- デバイス・ファイル・インストーラ ... 72, 91
- 動作環境 ... 25
 - DLL ... 25, 26
 - 関連開発ツール ... 25
 - ホスト・マシン ... 25
- [登録するスタートアップファイル名の指定] ダイアログ ... 269
- [登録するリンク ディレクティブ ファイル名の指定] ダイアログ ... 275
- 登録マクロの実行 ... 74, 92

特徴 ... 23

閉じる ... 37, 85

【な行】

[名前を付けて保存] ダイアログ ... 171

名前を付けて保存 ... 39, 86

【は行】

バック・タグ・ジャンプ ... 53, 88

バッチ・ビルド ... 69, 90

[バッチ・ビルドの設定] ダイアログ ... 278

バッチ・ビルドの設定 ... 70, 91

バッチ・リビルド ... 69, 90

貼り付け ... 45, 86

範囲指定 ... 110

ひとつ上げる ... 56, 88

ひとつ下げる ... 57, 88

表示 ... 61, 89

 アウトプット・ウィンドウ ... 62, 89

 オブジェクト表示 ... 62, 89

 オプションバー ... 61, 89

 階層一覧 ... 61, 89

 外部ツールバー ... 61, 89

 関数一覧 ... 61, 89

 スタンダードバー ... 61, 89

 ステータスバー ... 61, 89

 すべてのオブジェクトをアイコン化 ... 62, 89

 すべてのオブジェクトを表示 ... 62, 89

 ビルドバー ... 61, 89

 プロジェクト・ウィンドウ ... 62, 89

表示に関する操作方法 ... 61

表示(V)メニュー ... 89

開く ... 36, 85

ビルド ... 67, 68, 90

 依存関係の更新 ... 69, 90

 エディット ... 69, 91

 クリーン ... 69, 91

 コンパイル ... 68, 90

 ダイレクト・ビルド・モード選択 ... 91, 70

 デバッグ ... 69, 91

 バッチ・ビルド ... 69, 90

 バッチ・ビルドの設定 ... 70, 91

 バッチ・リビルド ... 69, 90

 ビルド ... 68, 90

 ビルド設定 ... 70, 91

 ビルド→デバッグ ... 67, 90

 ビルドの中止 ... 68, 90

 ビルド・モードの設定 ... 70, 91

複数ロードモジュール・ファイルのダウンロード
... 69, 91

リビルド ... 68, 90

リビルド→デバッグ ... 67, 90

[ビルド設定] ダイアログ ... 284

ビルド設定 ... 70, 91

ビルド→デバッグ ... 67, 90

ビルドに関する操作方法 ... 67

ビルドの中止 ... 68, 90

ビルドバー ... 61, 89, 94

ビルド(B)メニュー ... 90

[ビルド・モードの設定] ダイアログ ... 280

ビルド・モードの設定 ... 70, 91

[ビルド・モードの追加] ダイアログ ... 282

ファイル ... 36, 85

 PM+ の終了 ... 41, 86

 印刷 ... 40, 86

 印刷プレビュー ... 40, 86

 上書き保存 ... 38, 85

 新規作成 ... 36, 85

 すべて閉じる ... 39, 86

 すべてのソース・ファイルを保存 ... 40, 86

 すべて破棄して閉じる ... 40, 86

 すべて保存 ... 39, 86

 すべて保存して閉じる ... 39, 86

 挿入読み込み ... 36, 85

 ソース・ファイル名の変更 ... 40, 86

 ダイレクト印刷 ... 40, 86

 閉じる ... 37, 85

 名前を付けて保存 ... 39, 86

 開く ... 36, 85

 ファイルの履歴 ... 40, 86

 ワークスペースの新規作成 ... 85

 ワークスペースの保存 ... 38, 85

 ワークスペースの履歴 ... 41, 86

 ワークスペースを閉じる ... 38, 85

 ワークスペースを開く ... 38, 85

ファイルに関する操作方法 ... 36

ファイルの履歴 ... 40, 86

[ファイル比較] ダイアログ ... 300

ファイル比較 ... 72, 91

ファイル(F)メニュー ... 85

[ファイルを開く] ダイアログ ... 163

フォント ... 73, 91

[フォント] ダイアログ (印刷) ... 186

[フォント] ダイアログ ... 322

[複数ソース・ファイル名の変更] ダイアログ ... 180

- 複数ロードモジュール・ファイルのダウンロード ... 69, 91
- プロジェクト ... 22, 63, 89
 - CVS アップデート ... 64, 90
 - CVS コミット ... 64, 90
 - CVS ステータス ... 65, 90
 - CVS 比較 ... 65, 90
 - CVS ログ ... 65, 90
 - アクティブ・プロジェクトの選択 ... 33, 64, 89
 - 新規プロジェクトを追加 ... 89
 - ソース・ファイルの追加 ... 66
 - その他のファイルの追加 ... 66
 - ダイレクト・アクティブ・プロジェクト選択 ... 66, 90
 - プロジェクト関連ファイルの追加 ... 66
 - プロジェクトの設定 ... 65, 90
 - プロジェクトの挿入 ... 64, 89
 - メイクファイルのエクスポート ... 65, 90
- プロジェクト・ウインドウ ... 62, 89, 98
 - Files タブ ... 99
 - Memo タブ ... 105
 - インクルード・ファイル・フォルダ ... 103
 - オープン方法 ... 98
 - 各エリアの説明 ... 99
 - 関数名 ... 102
 - ソース・ファイル・フォルダ ... 100
 - その他のファイル ... 104
 - ドラッグ・アンド・ドロップ機能 ... 106
 - プロジェクト関連ファイル・フォルダ ... 104
 - プロジェクト・グループ名 ... 99
 - プロジェクト・タイトル名 ... 100
- [プロジェクト関連ファイルの追加] ダイアログ ... 252
- プロジェクト関連ファイルの追加 ... 66
- プロジェクト・グループ ... 23
- [プロジェクト・タイトルの変更] ダイアログ ... 257
- プロジェクト内検索 ... 52, 88
- プロジェクトに関する操作方法 ... 63
- [プロジェクトの設定] ウィザード ... 157
- プロジェクトの設定 ... 65, 90
- [プロジェクトの設定 - ステップ 1/3] ダイアログ ... 158
- [プロジェクトの設定 - ステップ 2/3] ダイアログ ... 160
- [プロジェクトの設定 - ステップ 3/3] ダイアログ ... 162
- [プロジェクトの設定] ダイアログ ... 245
- プロジェクトの挿入 ... 64, 89
- [プロジェクトの挿入] ダイアログ ... 235
- [プロジェクト・グループ名の変更] ダイアログ ... 256
- プロジェクト・マネージャ ... 22
- プロジェクト (P) メニュー ... 89
- プロジェクト・ファイル ... 23, 26, 99, 121
- [プロトタイプ宣言生成方法の指定] ダイアログ ... 194
- プロトタイプ宣言の作成 ... 47, 87
- [プロパティ] ダイアログ ... 263
- 分割 ... 75, 92
- 文書を階層化する ... 60, 89
- [ヘッダ・フッタの設定] ダイアログ ... 188
- ヘルプ ... 77, 92
 - NEC エレクトロニクス マイコン Web ... 77, 92
 - PM+ のバージョン情報 ... 78, 93
 - PM+ のヘルプ ... 77, 92
 - ショートカット一覧 ... 77, 92
- ヘルプに関する操作方法 ... 77
- ヘルプ (H) メニュー ... 92
- 編集 ... 42, 86
 - イメージ・コピー ... 44, 86
 - キーワードによるグループ化 ... 47, 87
 - キャレット位置から左側単語指定 ... 46, 87
 - キャレット位置から右側単語指定 ... 46, 87
 - キャレット位置の単語範囲指定 ... 46, 87
 - 行削除 ... 46, 87
 - 行頭まで削除 ... 46, 87
 - 行頭まで範囲指定 ... 46, 87
 - 行末まで削除 ... 46, 87
 - 行末まで範囲指定 ... 47, 87
 - 切り取り ... 44, 86
 - グループ化行の色を戻す ... 47, 87
 - 形式を選択して貼り付け ... 45, 86
 - コピー ... 44, 86
 - 削除 ... 45, 86
 - 新規オブジェクト ... 47, 87
 - すべて選択 ... 47, 87
 - 単語削除 ... 45, 86
 - 単語のキャレットから右側削除 ... 45, 86
 - 追加切り取り ... 44, 86
 - 追加コピー ... 44, 86
 - 貼り付け ... 45, 86
 - プロトタイプ宣言の作成 ... 47, 87
 - 元に戻す ... 43, 86
 - やり直し ... 43, 86
 - リンク ... 47, 87
- 編集ウインドウ ... 109
 - オープン方法 ... 109
 - 行 (階層) の移動 ... 111
 - 行 (階層) のコピー ... 111
 - スクロール ... 112
 - スマート・ルック・アップ機能 ... 112
 - 単語の定義 ... 110

ドラッグ・アンド・ドロップ機能 ... 114
 範囲指定 ... 110
 編集ウィンドウの制限 ... 114
 マウスのダブル・クリック動作 ... 111
 マウス右ボタンでの動作 ... 111
 文字入力 ... 110
 編集に関する操作方法 ... 42
 編集(E)メニュー ... 86
 ホスト・マシン ... 25

【ま行】

[マーク・ジャンプ]ダイアログ ... 209
 マーク・ジャンプ ... 50, 87
 前のウィンドウ ... 76, 92
 [マクロ実行]ダイアログ ... 339
 マクロ実行 ... 74, 92
 マクロ登録 ... 74, 92
 [マクロ登録]ダイアログ ... 341
 [マクロ・ファイルの追加]ダイアログ ... 343
 [マクロ・ファイルの変更]ダイアログ ... 345
 見出し行へ ... 50, 87
 メイクファイル ... 26
 メイクファイルのエクスポート ... 65, 90
 メイン・ウィンドウ ... 84
 ウィンドウ表示エリア ... 96
 ステータスバー ... 96
 タイトルバー ... 85
 ツールバー ... 93
 ドラッグ・アンド・ドロップ機能 ... 97
 メニューバー ... 85
 メッセージ一覧 ... 352
 メニューバー ... 85
 文字入力 ... 110
 [文字列の検索]ダイアログ ... 197
 文字列の検索 ... 48, 87
 文字列の置換 ... 49, 87
 [文字列の置換]ダイアログ ... 201
 元に戻す ... 43, 86

【や行】

やり直し ... 43, 86
 [ユーザ設定]ダイアログ ... 320
 [ユーザ定義キーワードの編集]ダイアログ ... 331

【ら行】

リビルド ... 68, 90
 リビルド→デバッグ ... 67, 90
 リンク ... 47, 87

[リンク ディレクティブ ファイルの指定]ダイアログ ... 271
 リンク・ディレクティブ・ジェネレータ ... 25
 レジスタ・モード ... 129, 148
 ログ・ファイル ... 26

【わ行】

ワークスペース ... 22
 新規作成 ... 37
 開く ... 38
 閉じる ... 38
 保存 ... 38
 履歴 ... 41
 [ワークスペースの新規作成]ウィザード ... 119
 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 1/9]ダイアログ ... 121
 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 2/9]ダイアログ ... 123
 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 3/9]ダイアログ ... 125
 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 4/9]ダイアログ ... 127
 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 5/9]ダイアログ ... 129
 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 6/9]ダイアログ ... 131
 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 7/9]ダイアログ ... 133
 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 8/9]ダイアログ ... 135
 [ワークスペースの新規作成 - ステップ 9/9]ダイアログ ... 137
 ワークスペースの保存 ... 38, 85
 ワークスペースの履歴 ... 41, 86
 ワークスペースを閉じる ... 38, 85
 [ワークスペースを開く]ダイアログ ... 169
 ワークスペースを開く ... 38, 85
 ワークスペース・ファイル ... 26, 121

【発 行】

NECエレクトロニクス株式会社

〒211-8668 神奈川県川崎市中原区下沼部1753

電話（代表）：044(435)5111

—— お問い合わせ先 ——

【ホームページ】

NECエレクトロニクスの情報がインターネットでご覧になれます。

URL(アドレス) <http://www.necel.co.jp/>

【営業関係，技術関係お問い合わせ先】

半導体ホットライン

（電話：午前 9:00～12:00，午後 1:00～5:00）

電 話 : 044-435-9494

E-mail : info@necel.com

【資料請求先】

NECエレクトロニクスのホームページよりダウンロードいただくか，NECエレクトロニクスの販売特約店へお申し付けください。
